

平成19年度

学生による授業評価実施報告書

平成20年10月

鳴門教育大学 学校教育学部

は し が き

平成20年3月25日、中央教育審議会大学分科会は「学士課程教育の構築に向けて」（審議のまとめ）を公表した。本学はすでに学部段階においては、教員養成コア・カリキュラムを開発し、平成17年度から導入している。それを基盤にして、授業評価スタンダードや知の総合化ノートの構築と授業映像アーカイブを有機的に関連づけた取組を行い、このプログラムが、平成18年度の特徴GPへと結実した。この取組も2年目に入り着実に成果を上げており、学士課程教育の出口を保証するための一翼を担うものとなるであろう。

さて、本学は、このようなさまざまな取組によって、教育改革を行っているが、教育の受け手である学生は、どのように授業を評価しているであろうか。これまで、「学生による授業評価実施報告書」のはしがきにおいては、主として授業評価の趣旨・目的やシラバスとの関係でその意義を述べてきた。今回は、授業評価の具体を概観して、次なるPCDAサイクルへと繋げていきたい。

まず、教育実践コア科目から取り上げる。教育実践基礎演習の総合評価は、平均4.1点、教科教育実践Ⅰ4.2点、教科教育実践Ⅱ4.2点、教科教育実践Ⅲ4.3点である。いずれも4点以上であり、合格点であるといえる。また、専修専門科目（計104科目）の平均は、4.1点である。授業評価は5点満点であるから、これらの科目群は、学生からは高い評価を受けていることになる。しかし、教養基礎科目（計11科目）の平均は、3.7点、教職科目（計46科目）の平均は、3.8点であり、授業改善に向けて一層の工夫や努力が求められる。詳細は本文に譲るが、評価項目の一つひとつを眺めてみて、特に気になるのは、学生自身の授業への取組に対する主体性、自主性（平均3.6点）が、今ひとつ芳しいものではないことである。学生が、自主的、主体的に授業に取り組むように興味・関心を引き起こすにはどうしたらよいのであろうか。各教員の工夫のしどころである。

なお、本学は、本年度大学評価・学位授与機構の認証評価を受け、機構が定める大学評価基準を満たしているとの評価結果を得た。なかでも優れた点として、教員養成コア・カリキュラムの開発、FD推進事業、各種GPの採択等が挙げられている。日頃の教職員の地道な努力のたまものである。第一期中期目標・中期計画も余すところ2年となった。現在、来年度に実施される暫定評価に係る法人化後4年間の業務実績及び教育研究業績について、自己点検評価を行っている最中であるが、改めて、本学は目的の大学としての性格を明示し、その使命を着実に果たしていかなければならないと実感している次第である。

今後、本学は教員養成系大学の教員養成において、教育の理論と教育現場の経験知・実践知の往還を通して、Evidence Based Educationを目指し、学生や教育現場のニーズに充分応えうる授業を提供していきたいと考えている。

最後に、本報告書の作成にあたり、学部教務委員会ならびに学生による授業評価専門部会、FD推進事業専門部会各位、学部授業担当教員および学生諸君、関係の事務職員にご尽力・ご協力いただいたことを記し、この場を借りて厚くお礼申し上げます。

平成20年10月

学校教育学部教務委員会
委員長 田 中 雄 三

目 次

はしがき

I 学生による授業評価の意義	1
II 学生による授業評価の結果と考察	3
1. 調査の方法と種類・形態別回答数	3
2. 教養基礎科目に関する結果の概要と特徴	4
3. 教育実践コア科目に関する結果の概要と特徴	5
4. 教職（基礎・共通）科目に関する結果の概要と特徴	8
5. 専修専門科目に関する結果の概要と特徴	9
6. アンケート様式	24
III 学部授業評価の結果報告書	33

あとがき

I

学 生 に よ る
授 業 評 価 の 意 義

I 学生による授業評価の意義

学生による授業評価は、本学が平成8年度より取り組んでいるFD（Faculty Development）の一環として重要な位置を占める。FDは、学生が社会の成員として必要な資質を備えるのにどのようなカリキュラムや授業、大学内の環境がより有効なのかを教職員、学生がともに考えていこうとするものである。したがって、学生による授業評価は、卒業後、様々な分野で活躍することが期待される学生が、積極的に学ぶ意思を持って授業に臨んだときに、教員の意図する授業内容を正しく受け止められたかどうかを評価するものと考えることができる。このために、今年度よりレーダーグラフを用い、個々の授業評価について、授業に対する学生の取り組みの項目に関するアンケート結果を、教員の授業の進め方等と区別して見られるようにした。同時に、レーダーグラフの特徴より、各授業について、不十分であると感じられる項目が一見して判断できるようになった。これらの結果より、教員においては、教員の授業の進め方等について不十分であると学生が感じているようならば、授業改善を行い、授業に対する学生の取り組みが不足していると思われるようならば、より積極的に授業に取り組むように促す努力を行うとともに、学生もまた、積極的に学ぶ意思を持って授業に臨んでいたかどうかを内省し、今後の授業態度を改める機会にして欲しい。

II

学生による授業評価の 結果と考察

Ⅱ 学生による授業評価の結果と考察

1. 調査の方法と種類・形態別回答数

平成19年度の授業評価は、学生によるアンケート調査をもとに、引き続き各教員が調査結果に対するコメントをつけて公表するという形態を取った。18年度との変更点は、調査結果の表示方法のみで、レーダーグラフを用いた点である。レーダーグラフを用いることで、学生の授業に対する取り組みを、教員の授業の進め方等と区別し、同時に、授業全体で不十分である点が一見して判断できるように改善した。

調査は、①教養基礎科目、②教育実践コア科目、③教職（基礎・共通）科目、④専修専門科目、の中から、各教員が原則として前期・後期それぞれ1授業科目以上を選択して実施することとした。授業科目①③④については、各授業科目の性格にしたがって、質問紙を(1)講義用、(2)演習用、(3)実験・実習・実技用の3様式を用いた。質問項目はほとんど共通であるが、授業科目の内容や性質に合わせて、質問内容が若干異なっている部分もある。なお、平成17年度より新設された②教育実践コア科目については、「初等中等教育実践基礎演習」「初等中等教科教育実践Ⅰ」「初等中等教科教育実践Ⅱ」「初等中等教科教育実践Ⅲ」を授業評価の対象とした。授業科目②及び授業科目③のうち「ふれあい実習」のアンケート様式は、とくに授業内容に関する質問項目が他の科目のアンケート様式と異なっている。

質問紙の大枠は次の通りである。以下の大項目の下に質問項目が設けられ、授業科目や授業形態によりその数は多少異なっている。

- | | |
|-------------------------|---------------|
| 1. 授業概要について | (質問項目：2) |
| 2. 授業の内容等について | (質問項目：4－6) |
| 3. あなたの授業への取り組みについて | (質問項目：5－6) |
| 4. 教員の授業の進め方について | (質問項目：7－8) |
| 5. 授業に対する満足度 | (質問項目：1) |
| 6. あなたからの提言 | (自由記述項目：2) |
| 7. 先の1から5までの項目以外で設定する項目 | (教員が自由に追加できる) |

質問紙は、自由記述項目以外は各質問項目に「5. 非常にそうである」「4. かなりそうである」「3. どちらともいえない」「2. あまりそうでない」「1. 全くそうでない」の5件法で答える形式になっている。有効回答数は次の通りである。

学生による授業評価の種類別・形態別有効回答数

	講 義	演 習	実験・実習・実技	合 計
教 養 基 礎 科 目	98	167	23	288
教 育 実 践 コ ア 科 目	—	357 (5)	—	357 (5)
教 職 (基 礎 ・ 共 通) 科 目	2,086	238 (125)	86	2,410 (125)
専 修 専 門 科 目	1,177	214	287	1,678
合 計	3,361	976 (130)	396	4,733 (130)

() 内の数字は、P11～P23の集計結果に含まれていない数で内数。

学生による授業評価の種類別・形態別実施授業科目数

	講 義	演 習	実験・実習・実技	合 計
教 養 基 礎 科 目	4	6	1	11
教 育 実 践 コ ア 科 目	—	38 (1)	—	38 (1)
教職（基礎・共通）科目	41	10 (6)	1	52 (6)
専 修 専 門 科 目	65	20	19	104
合 計	110	74 (7)	21	205 (7)

() 内の数字は、P 11～P 23 の集計結果に含まれていない数で内数。

2. 教養基礎科目に関する結果の概要と特徴

1) 評価結果の概要

本年度に実施された教養基礎科目に対する授業評価は、講義形式の授業科目のうち4科目（科学と環境・生体メカニズムと生命倫理（以上新カリ）、自然科学の世界・脳と心の科学（以上旧カリ）、有効回答数98）、演習形式の授業科目のうち6科目（実践情報教育ⅠA・B、実践情報教育ⅡA・B、英語リーディングⅠB・ⅡB、有効回答数167）、実験・実習・実技形式の授業科目のうち1科目（健康・スポーツ科学Ⅱ、有効回答数23）であった。

授業評価の結果については、授業形式ごとに11ページ以下の図1から図3に示してある。これらの図では、各項目（全20項目）における有効回答数に占める1～5の選択肢の割合を帯グラフで、またその実数をグラフ内の数字で表している。ここではこれらの図と項目ごとの平均点をもとに調査結果の概要を述べることにする。

講義形式の授業に対する評価結果の総合平均点は3.3であった。「授業概要について（1～2）」の平均点は3.8、「授業の内容等について（3～6）」の平均点は3.6で、特に「③授業内容は、授業概要に沿っていた」は4.0の評価であった。自己評価群である「あなたの授業への取り組みについて（7～11）」の平均点は2.8で、項目「⑦授業によく出席した」（4.2）の評価は高かったが、「⑧授業内容をよく理解するために予習や復習をした」（2.3）、「⑨授業中に積極的に発言や質問をした」（1.7）、「⑪分からないことや疑問に思ったことは調べた」（2.5）の4項目に対する自己評価が低かった。「教員の授業の進め方について（12～19）」では、特に「⑫学生の理解状況を確認しながら授業を行った」（2.8）、「⑬学生が参加しやすい授業だった」（2.6）の評価が低かった。項目⑭から⑲までの評価の平均点は3.4であった。最後の「⑳授業に対する満足度」は3.2の評価結果であった。

演習形式の授業に対する評価結果は総合平均点が3.9で、20項目中10項目において4.0以上の評価をしていた。特に高い評価を示した項目は、「⑦授業によく出席した」（4.4）、「⑬学生参加型の授業だった」（4.4）である。「あなたの授業への取り組みについて」の平均点は3.7で、「⑩積極的に課題に取り組んだ」（3.9）と自己評価している。「教員の授業の進め方について」の平均点は4.1で、特に「⑫学生の理解状況を確認しながら授業を行った」（4.0）、「⑬学生参加型の授業だった」（4.4）、「⑭熱心に指導した」（4.3）、「⑰視聴覚機器及び教育用機器の利用は、適切だった」（4.2）、「⑲学生の疑問や質問に適切に答えた」（4.2）といった項目において高い評価を示した。「授業に対する満足度」は3.8の評価結果であった。

実験・実習・実技形式の授業に対する評価結果は総合平均点が3.6で、5項目において4.0以上の評価を示した。まず、「授業の内容等について」の項目のうち、「③授業の内容は、授業概要に沿っ

ていた」(4.0)、「(6)授業内容は、興味・関心を引くものだった」(4.2)に関する評価が高かった。後の3項目は「あなたの授業への取り組みについて」の自己評価群で、「(7)授業によく出席した」(4.5)、「(9)積極的に実験、実習、実技等に取り組んだ」(4.5)、「(10)教員の説明をよく聞いた」(4.0)と自己評価している。しかし、項目「(5)授業内容は、教育に対する見方や考え方を学べるものだった」(2.7)、「(11)分からないことや疑問に思ったことは調べた」(2.6)は低い評価であった。最後の「授業に対する満足度」は3.8の評価結果であった。

2) 評価結果の特徴

平成17年度からシラバスが改訂され、教員養成大学としての教育理念・方針・特色に基づいて、期待される到達目標を記述し、各授業科目の目的及び主旨、内容等全体の構成を体系化・構造化する形式に改善された。こうしたシラバスに関連する項目である「授業概要について(1～2)」の評価は概ね好評であった。なお、三つの授業形式において評価が一致する項目は、「(3)授業の内容は、授業概要に沿っていた」、「(7)授業によく出席した」で、4.0以上の評価をしていた。特に前者はシラバスに示された計画どおり授業が進められたと読み取ることができるであろう。

次は各授業形式別の特徴を述べることにする。まず、講義形式の授業評価では「授業への取り組みについて」の自己評価が著しく低かった。授業には誠実に出席しているが、予習・復習をしたり、調べ学習をしたりといった自主的な学習は乏しい(2.3)。授業はまじめに聴講しているが、授業中の発言や質問はあまりしない(1.7)。これは教員主導型講義形式の授業でよく見られる特徴といえるが、学生がより積極的に授業に参加できる工夫が必要であろう。

演習形式の授業は全般的に高い評価を示すなか、特に「授業概要」「教員の授業の進め方について」の評価が高い。特に後者については、学生参加型の授業に対する学生らの満足の表れであり、積極的に課題に取り組んだ様子が見える。

実験・実習・実技形式の授業では、「授業への取り組みについて」の自己評価が高い。学生らは授業内容に興味・関心を示し(4.2)、積極的に実習に取り組んでいる(4.5)。しかし、講義形式の授業と同じく自主的学習に対する値は低く、興味・関心を知的活動へと高めるところまでは至らなかったと推測される。

最後に、教養基礎科目は平成17年度カリキュラムの改正に伴い、「現代社会の諸問題」「身体運動・表現コミュニケーション」の二つの領域から構成された。前者は主に講義形式、後者は演習または実験・実習・実技形式の授業科目であるが、社会の中に自己を位置づけながら現代社会の諸問題を正しく認識し、その解決に向けて持てる知識・スキルを活用し、再編成していくといったプロセスにおいて二つの領域は相互関連・相互補完性が高いものとして改編された。教養基礎科目の担当者は授業形式や内容は異なっても、教養基礎科目の基本理念及び領域間の相互性について理解を図り、授業を行うことが必要ではないかと考える。その脈絡から授業評価の実施及びその結果の共有は教養基礎科目としてそれぞれの特徴を理解し、情報交換できるチャンスと捉え、今後評価実施科目数の伸びを期待したい。

3. 教育実践コア科目に関する結果の概要と特徴

1) 教育実践基礎演習 (図10)

① 評価結果の概要

平均値が4ポイント以上の高い評価を得た項目は、全22項目中15項目であった。これらのうち、平均値が4.30以上の特に高い評価を得た項目は、次の7項目である：「教職の意義や重要性

が理解できる授業内容であった」(4.35),「教職に対する興味・関心が高まる授業内容であった」(4.52),「教職への意欲が持てる課題を含んだ授業内容であった」(4.42),「授業によく出席した」(4.64),「熱心に指導した」(4.30),「教員の声は、聞き取りやすかった」(4.36),「この授業は、自分自身にとって満足できるものであった」(4.46)。

平均値が4未満の項目は、項目2, 4, 5, 10, 13, 15, 19であったが、これらのうち平均値が3.5未満ととくに評価が低かった項目は、項目2「成績評価の方法は明確に示されていた」(3.48), 項目13「分からないことや疑問に思ったことは調べた」(3.27)である。

② 評価結果の特徴

昨年度と比べると、20項目で評価が上昇しており、唯一下がった項目「授業によく出席した」でも、わずかに0.04ポイントの低下のみである。特に、以下の6項目では平均値が0.36から0.51ポイントの間で大きく上昇している。

「成績評価の方法は、明確に示されていた」、
「教職の意義や重要性が理解できる授業内容であった」、
「教職に対する興味・関心が高まる授業内容であった」、
「教職への意欲が持てる課題を含んだ授業内容であった」、
「教員の声は、聞き取りやすかった」、
「この授業は、自分自身にとって満足できるものであった」。

また、各項目の平均値全体の平均は、昨年度の3.87から4.08と0.21ポイント上昇している。これらのことから、教職の意義の理解、教職に対する興味・意欲の喚起など授業目的や授業概要を中心として、昨年度と比べ評価が全体的にかなり上昇したことが伺える。この授業については、毎年担当者が交代する場合も少なくないと思われ、単純に比較することはできないが、各コースで、昨年までの経験が生かされ改善に繋がったのかも知れない。

「分からないことや疑問に思ったことは調べた」の評点が低いですが、他の種類の授業にも見られる一般的な傾向がここにも現れたものであり、この授業の特徴を生かした改善策を探っていく必要がある。授業概要については、成績評価の方法をより明確化する必要がある。

2) 教科教育実践Ⅰ, Ⅱ, Ⅲ (図11, 12, 13)

① 評価結果の概要

「教科教育実践Ⅰ」,「教科教育実践Ⅱ」,「教科教育実践Ⅲ」とともに、全22項目中、項目2, 4, 10, 13, 14を除く17項目において、平均値が4.04以上の高い評価を受けていた。また、平均が4.30以上の特に高い評価を得ていた項目が、「教科教育実践Ⅰ」,「教科教育実践Ⅱ」,「教科教育実践Ⅲ」それぞれで、7項目, 8項目, 13項目あった。これらの内容と評点は以下のとおりである。

教科教育実践Ⅰ : 「目標・授業計画・内容は、明確に示されていた」(4.32), 「授業概要のねらいにそった授業内容であった」(4.34), 「授業実践に必要な指導力について理解できる授業内容であった」(4.37), 「授業によく出席した」(4.55), 「熱心に指導した」(4.44), 「教員の声は、聞き取りやすかった」(4.44), 「この授業は、自分自身にとって満足できるものであった」(4.45)。

教科教育実践Ⅱ : 「目標・授業計画・内容は、明確に示されていた」(4.43), 「授業概要のねら

いにそった授業内容であった」(4.34),「授業実践を観察する視点が示された授業内容であった」(4.30),「教科の目標・内容・指導方法が深く結びつき,授業実践されていることが理解できる授業内容であった」(4.31),「授業によく出席した」(4.30),「熱心に指導した」(4.39),「教員の声は,聞き取りやすかった」(4.32),「この授業は,自分自身にとって満足できるものであった」(4.38)。

教科教育実践Ⅲ:「授業概要のねらいにそった授業内容であった」(4.33),「初等中等教科教育実践Ⅰ・Ⅱで学んだことをふまえ,各教科における教科内容が理解できる授業内容であった」(4.33),「学習指導要領をふまえ,教科の特性と意義が理解できる授業内容であった」(4.31),「授業実践を観察する視点が示された授業内容であった」(4.36),「授業実践に必要な指導力について理解できる授業内容であった」(4.37),「教科の目標・内容・指導方法が深く結びつき,授業実践されていることが理解できる授業内容であった」(4.38),「授業によく出席した」(4.48),「熱心に指導した」(4.53),「授業内容を分かりやすく伝えた」(4.34),「教科書や配布資料等の教材は,内容を理解する上で適切だった」(4.35),「教員の声は,聞き取りやすかった」(4.46),「与えられた課題のレベルや分量は適切だった」(4.33),「この授業は,自分自身にとって満足できるものであった」(4.40)。

教科教育実践Ⅰ,Ⅱ,Ⅲを通して高評価を受けた項目以外の項目は,以下に示す5項目である。項目名の後に並ぶ数値は,「教科教育実践Ⅰ」,「教科教育実践Ⅱ」,「教科教育実践Ⅲ」それぞれにおける平均値を表す。

項目2 「成績評価の方法は,明確に示されていた」	: 3.88, 3.91, 3.81
項目4 (項目内容は,実践Ⅰ,Ⅱ,Ⅲごとに異なるので省略)	: 3.99, 4.18, 4.33
項目10 「授業内容について授業時間外に準備やまとめをした」	: 3.92, 4.04, 3.96
項目13 「分からないことや疑問に思ったことは調べた」	: 3.51, 3.46, 3.66
項目14 「授業に関連した内容について友人や教員と話し合った」	: 3.78, 3.79, 3.98

② 評価結果の特徴

評価結果の概要から,教科教育実践3科目すべてが,かなり高い評価を得ていると思われる。特に,教科教育実践Ⅱについては,評点が4未満の項目は3項目のみであった。これら実践3科目は,学部カリキュラムの根幹をなすコアカリキュラムの中心部分を構成するものであり,特に重視すべき科目群である。授業評価において高い評点を得ていることは,これら実践3科目が,課された大きな役割を着実に果たしていることの一つの証左を与えていると思われる。なお,「分からないことや疑問に思ったことは調べた」,「授業に関連した内容について友人や教員と話し合った」の評価が若干低い,コア授業においても当然改善策を探っていく必要がある。

昨年度も授業が行われた教科教育実践Ⅰ,Ⅱについて,昨年度の結果と比較してみると,実践Ⅰについては,14項目で評価が上昇,8項目で減少しており,全体の平均値は0.07上昇している。中でも,「授業実践に必要な指導力について理解できる授業内容であった」,「授業内容について授業時間外に準備やまとめをした」については,それぞれ0.31,0.34ポイントと大きく上昇している。これらのことから若干の改善傾向があることが読み取れる。一方,実践Ⅱについては,6項目で評価が上昇しているものの,低下している項目が15項目あり,全体の平均値も0.1ポイント低下してい

る。特に、「教育用機器や設備など教具の利用は適切だった」、「授業によく出席した」、「教員の説明をよく聞き意欲的に課題に取り組んだ」については、それぞれ 0.38, 0.29, 0.25 ポイント低下しており、全体的に低下傾向があるように見える。しかし、昨年度は評点 4 未満の項目が 2 つのみと極めて高い評価を得ており、今回若干の低下はあるとしてもその評価は十分に高い水準にあるものと考えられる。以上、授業評価を通じた考察からは、教科教育実践 3 科目については、受講生の自発的な学習を活性化する必要がある点を除けば、特に大きな問題点は見当たらないと思われる。

4. 教職（基礎・共通）科目に関する結果の概要と特徴

1) 評価結果の概要

教職（基礎・共通）科目の評価結果については、授業形態ごとに図 4, 5, 6 に示してある。

講義形式の授業で学生の評価の高い項目（4 ポイント以上）は、「目標・授業計画・内容は、明確に示されていた」（4.1）、「成績評価の方法は、明確に示されていた」（4.0）、「授業内容は、授業概要に沿っていた」（4.1）、「授業内容は、教養や専門性を高めるものだった」（4.2）、「授業内容は、教育に対する見方や考え方を学べるものだった」（4.1）、「授業によく出席した」（4.5）、「熱心に指導した」（4.1）、「教科書や配布資料等の教材は、内容を理解する上で適切だった」（4.0）、「教員の声は聞き取りやすかった」（4.1）の 9 項目であった。一方、評価の低い項目は、「授業内容をよく理解するために予習や復習をした」（3.1）、「授業中に積極的に発言や質問をした」（2.7）、「分からないことや疑問に思ったことは調べた」（3.0）の 3 項目であった。

演習形式の授業で学生の評価の高い項目は、「目標・授業計画・内容は、明確に示されていた」（4.1）、「成績評価の方法は、明確に示されていた」（4.0）、「授業内容は、授業概要に沿っていた」（4.2）、「授業内容は、教養や専門性を高めるものだった」（4.3）、「授業内容は、教育に対する見方や考え方を学べるものだった」（4.2）、「授業内容は、興味・関心を引くものだった」（4.2）、「授業によく出席した」（4.4）、「積極的に課題に取り組んだ」（4.0）、「学生参加型の授業だった」（4.3）、「熱心に指導した」（4.0）、「授業内容を分かりやすく説明した」（4.0）、「教科書や配布資料等の教材は、内容を理解する上で適切だった」（4.0）、「視聴覚機器及び教育用機器の利用は、適切だった」（4.2）、「授業の進む速さは、適切だった」（4.2）、「学生の疑問や質問に適切に答えた」（4.1）、「この授業は、自分自身にとって満足できるものであった」（4.2）の 16 項目であった。一方、評価の低い項目は、「授業内容をよく理解するために予習や復習をした」（3.1）、「授業中に積極的に発言や質問をした」（3.0）、「分からないことや疑問に思ったことは調べた」（3.2）の 3 項目であった。

ふれあい実習の評価ポイントは、実習概要 4.0～4.4、事前オリエンテーション 3.6～3.9、交流実習・観察実習 4.4～4.6、事後指導 3.5～4.2、取り組み 4.2～4.5、満足度 4.4 と、おおむね良好であった。

講義形式と演習形式の最終項目「この授業は、自分自身にとって満足できるものであった」（授業への満足度）は、演習 4.2 に対し講義 3.8 と、0.4 ポイントの開きがあった。この差は、どのようなことに起因するのだろうか？以下では、この点を探ることに重点をおいて、評価結果の特徴を分析する。

2) 評価結果の特徴

講義形式と演習形式で共通しているのは、授業概要についての項目と授業の内容等の項目では概して評価が高く、よく出席したと答えているが、授業への取り組みについての項目のうち、「授業内

容をよく理解するために予習や復習をした」、「授業中に積極的に発言や質問をした」、「分からないことや疑問に思ったことは調べた」の3項目に対する評価が低いという点である。これらの評価結果から、授業にはよく出席するが、学習への積極的な取り組みや努力には欠けるという学生像がうかがえる。

講義形式の授業では評価が低く、演習形式の授業では評価が高い項目がいくつかある。とくに顕著なのは、学生の参加しやすさを問う項目であり、演習形式4.3に対し講義形式3.7と、0.6ポイントの開きがある。そのほか、学生の理解状況を確認しながら授業を行ったかを問う項目（演習3.9、講義3.5）や、視聴覚機器及び教育用機器の利用の適切さを問う項目（演習4.2、講義3.9）でも、0.3～0.4ポイントの開きがある。これら3項目の差が、授業への満足度の差をもたらしたと考えられる。

講義形式と演習形式には、それぞれ特徴と役割があるが、互いの長所を取り入れながら、「授業には出席するが、積極的には参加していない状況」を改善していくことが求められる。

5. 専修専門科目に関する結果の概要と特徴

1) 評価結果の概要

専修専門科目の評価結果については、授業形態ごとに図7、8、9に示してある。

講義形式の授業で学生の評価の高い項目は、「授業内容は、教養や専門性を高めるものだった。」(4.4)「授業によく出席した。」(4.4)「熱心に指導した。」(4.3)であった。一方、評価の低い項目は、「授業中に積極的に発言や質問をした。」(2.9)「授業内容をよく理解するために予習や復習をした。」(3.3)「分からないことや、疑問に思ったことは調べた。」(3.3)であった。

演習形式の授業で学生の評価の高い項目は、「学生参加型の授業だった。」(4.8)「授業内容は、教養や専門性を高めるものだった。」(4.7)「授業によく出席した。」(4.6)「熱心に指導した。」(4.6)「学生の疑問や質問には適切に答えた。」(4.6)であった。一方、評価の低い項目は、「授業中に積極的に発言や質問をした。」(3.8)「授業内容をよく理解するために予習や復習をした。」(3.9)であった。

実験・実習・実技形式の授業で学生の評価の高い項目は、「授業によく出席した。」(4.6)「授業内容は、教養や専門性を高めるものだった。」(4.5)「熱心に指導した。」(4.5)「教員の声は聞き取りやすかった。」(4.5)一方、評価の低い項目は、「分からないことや、疑問に思ったことは調べた。」

(3.7)「授業内容は、教育に対する見方や考え方を学べるものだった。」(4.0)「授業内容をよく理解するために予習や復習をした。」(4.0)であった。

2) 評価結果の特徴

学生の授業評価の傾向としては、学生はよく授業に出席し、教員の授業の進め方や内容等については高く評価された。しかし講義形式のアンケートに見られたように「授業中に積極的に発言や質問をした。」(2.9)や「授業内容をよく理解するために予習や復習をした。」(3.3)「分からないことや、疑問に思ったことは調べた。」(3.3)などのように、学生の主体的な取り組みについては、相変わらず低い評価が繰り返されている。昨年度の評価結果でも指摘されたことであるが、「授業中に積極的に発言や質問をした。」については、平成16年度以降評価の平均は3以下であり、あまり改善されているとは言い難い。また予習・復習の状況を問う設問に対しても、低い評価が続いている。確かに予習・復習が行われていない、授業内容をよく理解していない状態においては、授業中に積

極的に発言することは不可能であり、これらの評価からすると受け身の姿勢で授業に出席している学生は、何を期待して受講しているのかさえ、不明確である。

この実情を多少細かく見てみると、講義形式のアンケートでは授業への参加度を問う「授業中に積極的に発言や質問をした。」という質問に対する回答は、「非常にそうである」が(11.6%)、「かなりそうである」(19.9%)、「どちらともいえない」(33.6%)、「あまりそうでない」(19.9%)、「全くそうでない」(15.0%)となった。このように「非常にそうである」「かなりそうである」の合計が31.5%なのに対し、「あまりそうでない」「全くそうでない」の合計が34.9%と、こちらの方が多割割合となっている。特に「全くそうでない」の15.0%は、手元にある専修専門科目のデータのなかでダントツの数値である。

一方、実験・実習・実技形式では同様に授業への参加度を問う「積極的に実験、実習、実技等に取り組んだ」という質問に対する回答は、「非常にそうである」が(62.7%)、「かなりそうである」(23.6%)、「どちらともいえない」(10.2%)、「あまりそうでない」(2.1%)、「全くそうでない」(1.4%)となり平均値は4.4であった。この質問に対しては比較的高い評価がされたといえるが、授業時間以外の活動を問う「分からないことや、疑問に思ったことは調べた。」では「非常にそうである」が(28.1%)、「かなりそうである」(31.6%)、「どちらともいえない」(30.2%)、「あまりそうでない」(6.0%)、「全くそうでない」(4.2%)となり平均値は3.7であった。

この二つの質問を比較すると、86.3%の学生が授業には非常に積極的に参加しているが、自ら分からないことや疑問に思ったことを調べた学生は59.7%に減少してしまう。授業時間中の教員からの働きかけに対しては活動する学生でも、我々が期待する自発的な活動は講義形式の授業と同様、決して活発に行われているわけではない。

このようにいくつかの問題点が相変わらず指摘されるなかで、授業に対する満足度を問う「この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。」という質問に対しては、講義が4.0、演習と実習がともに4.4と評価され、「あまりそうでない」「全くそうでない」と評価した学生は、講義形式で8.0%、演習形式で2.8%、実験・実習・実技形式では3.1%とわずかであった。これは何を意味しているのだろうか？上記のような、決して積極的とは言えない学生の授業への参加や、十分とは言えない自らの取り組み状況でありながらも、学生はそこそこ満足してしまっているのであろうか。今の学生は、自分で課題に積極的に取り組み、その結果授業で得られる満足感を味わったことがないのかもしれない。

積極的な授業への取り組みや活発な学生の自主的な活動など、これらを改善するためには我々教員が個々の授業の中でより一層の工夫をすることが必要であるが、教育大学という、学問的に多様なものを授業の対象としている本学のような大学では、その解決策を一概に述べることは難しいと思う。また、指示された事柄には対応するが、自ら考えて行動することがあまりできない、という最近の学生の気質を十分に踏まえ授業の方法等を考えていかなければならない。本学のような比較的小規模な大学では、他のマンモス大学のマス講義と比較すれば、一つの授業を受講する学生数も少ない。一人ひとりの受講生の顔と名前を覚えることができるということを利点として考え、このような課題に取り組んでいきたい。

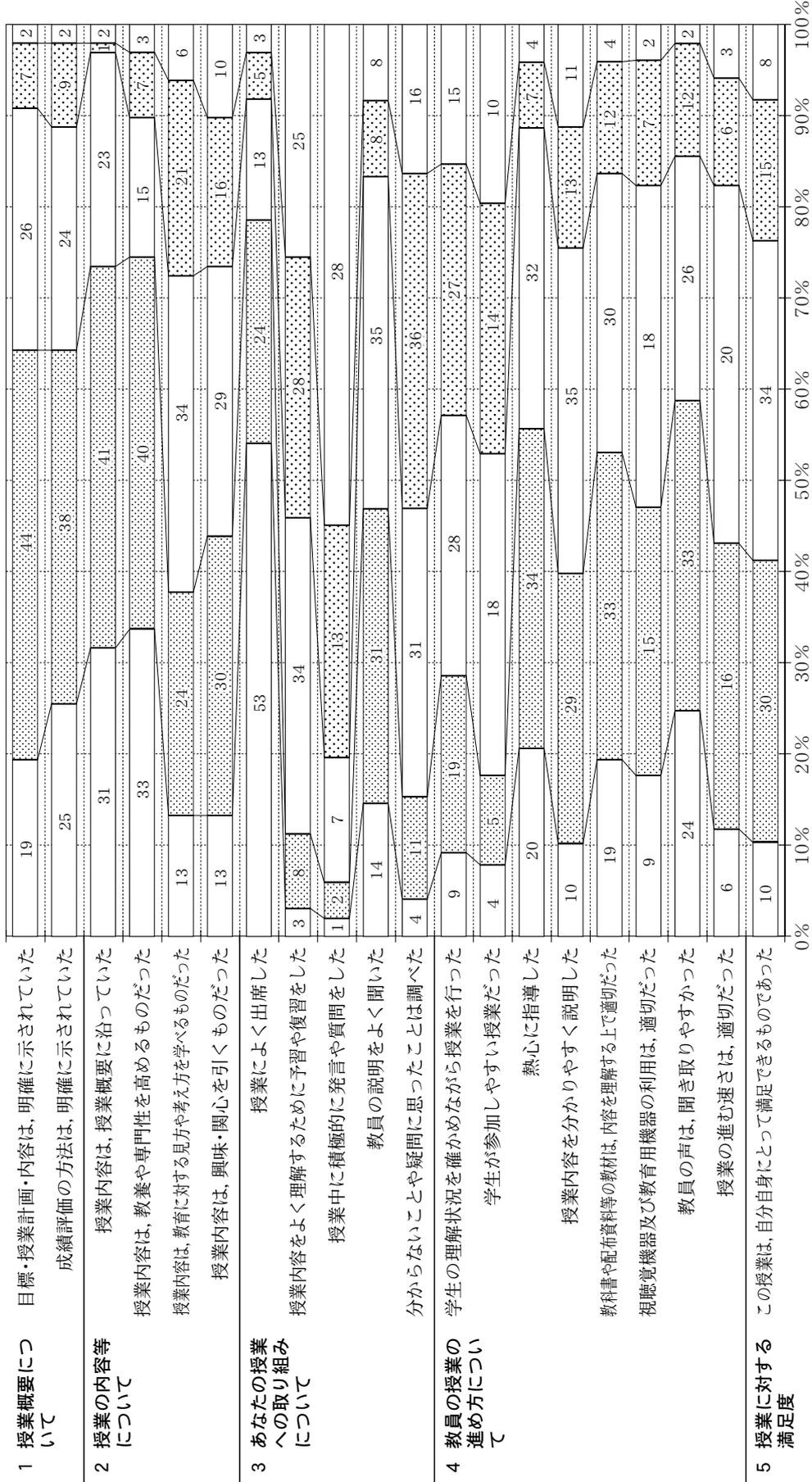
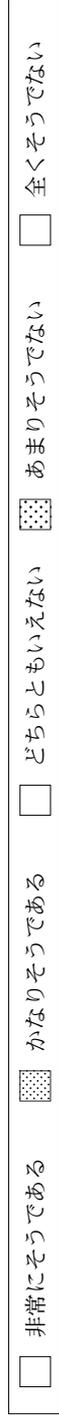


図1 教養基礎科目(講義)に対する評価結果

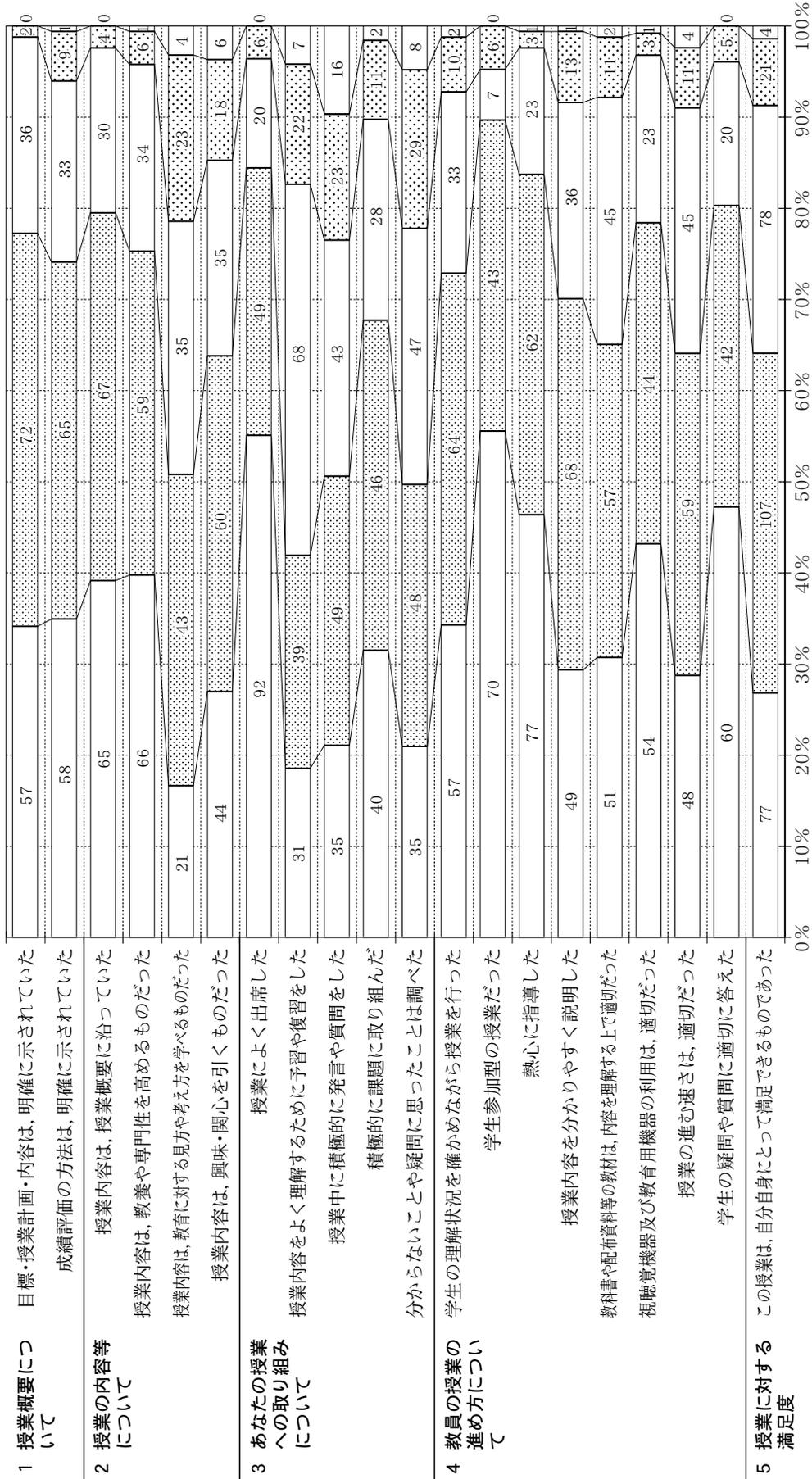
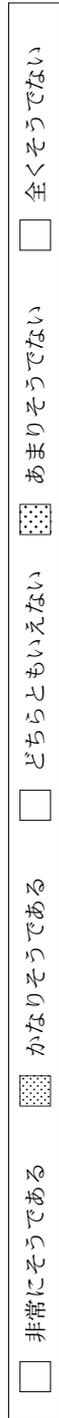


図2 教養基礎科目(演習)に対する評価結果

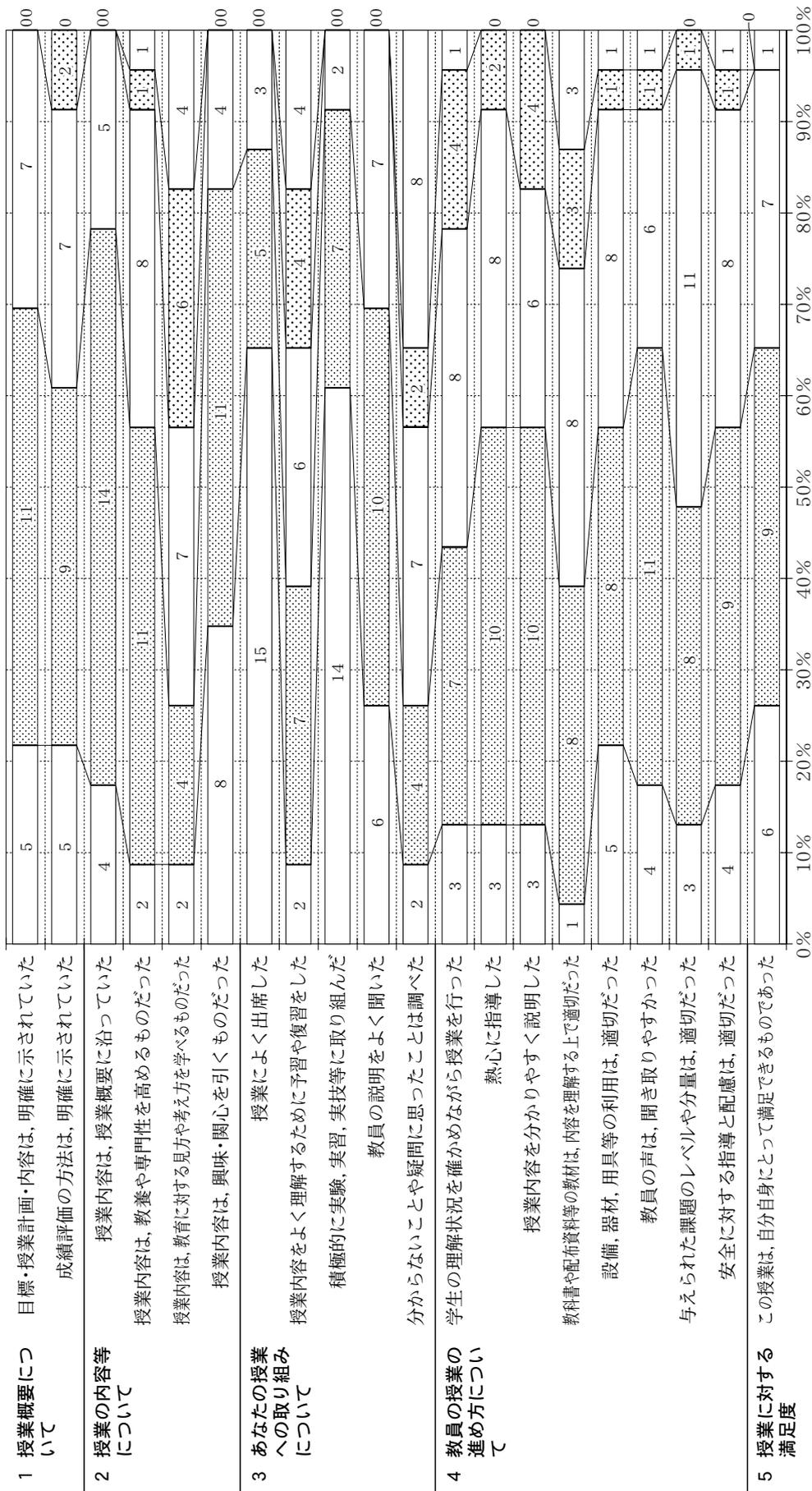
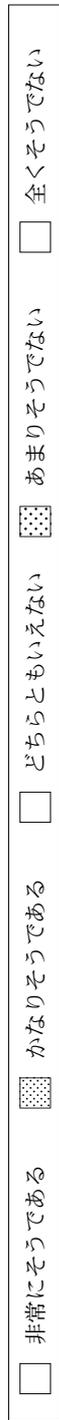


図3 教養基礎科目(実験・実習・実技)に対する評価結果

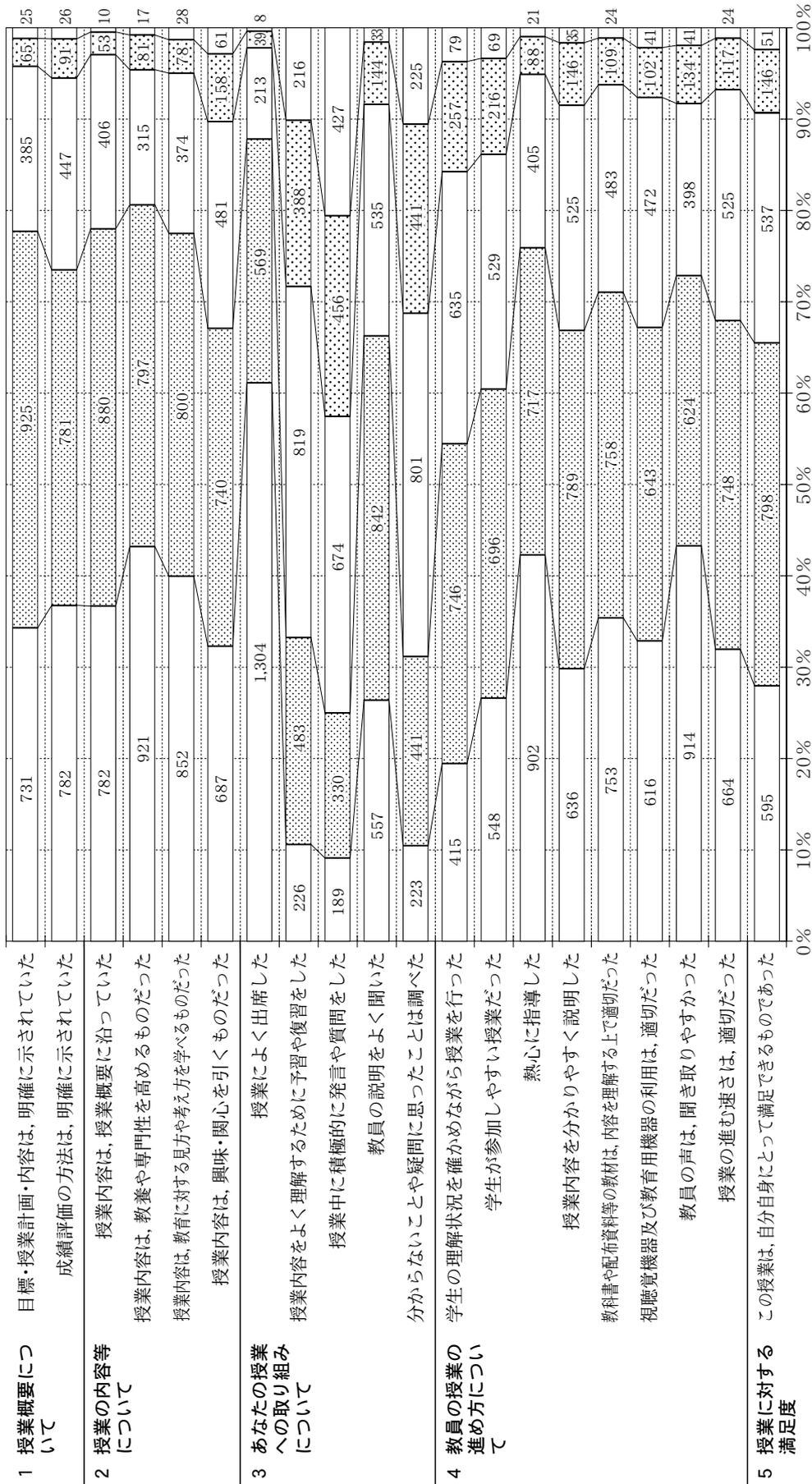
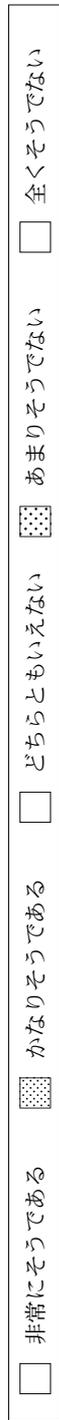


図4 教職(基礎・共通)科目(講義)に対する評価結果

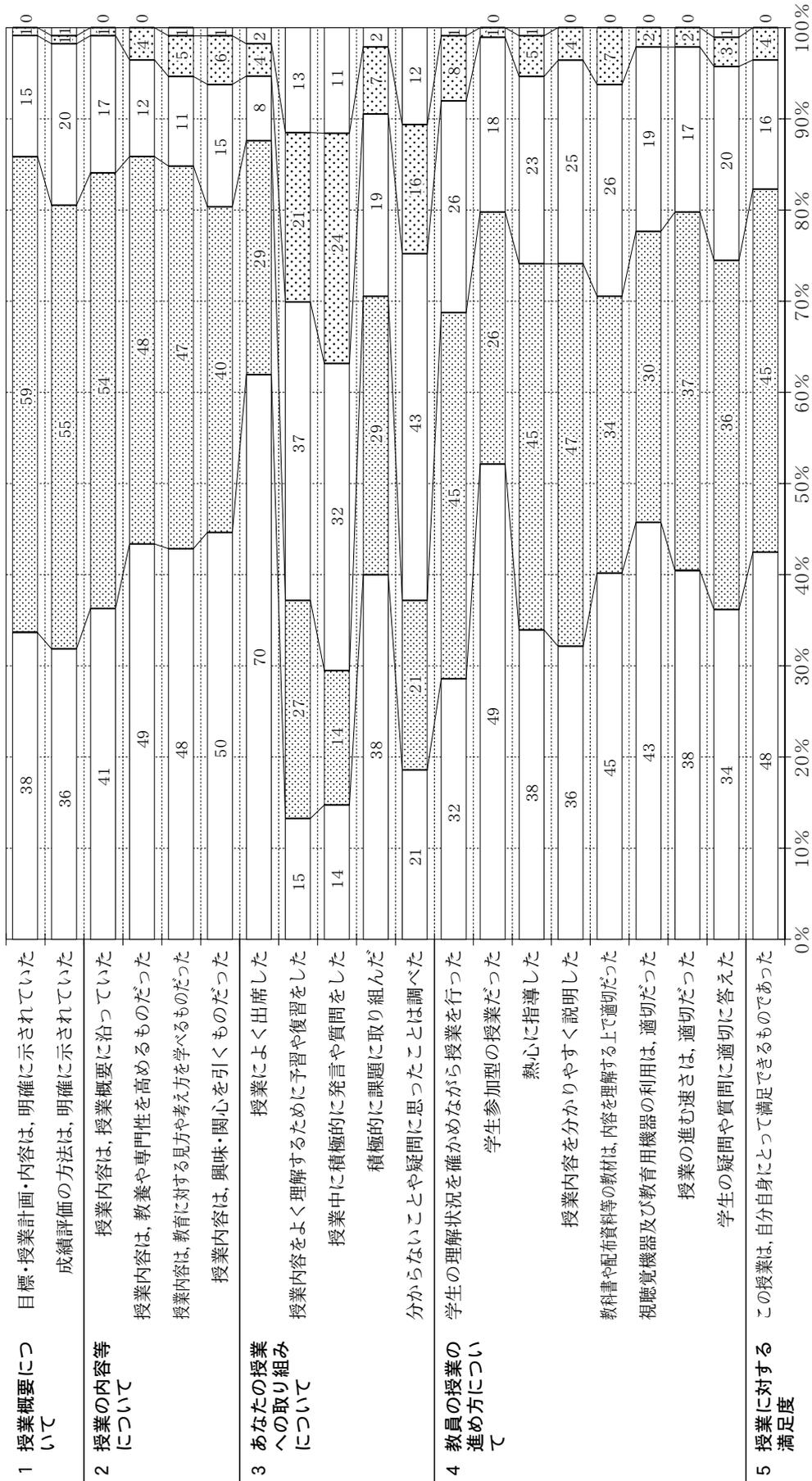
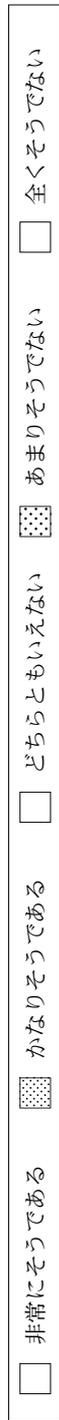


図5 教職(基礎・共通)科目(演習)に対する評価結果

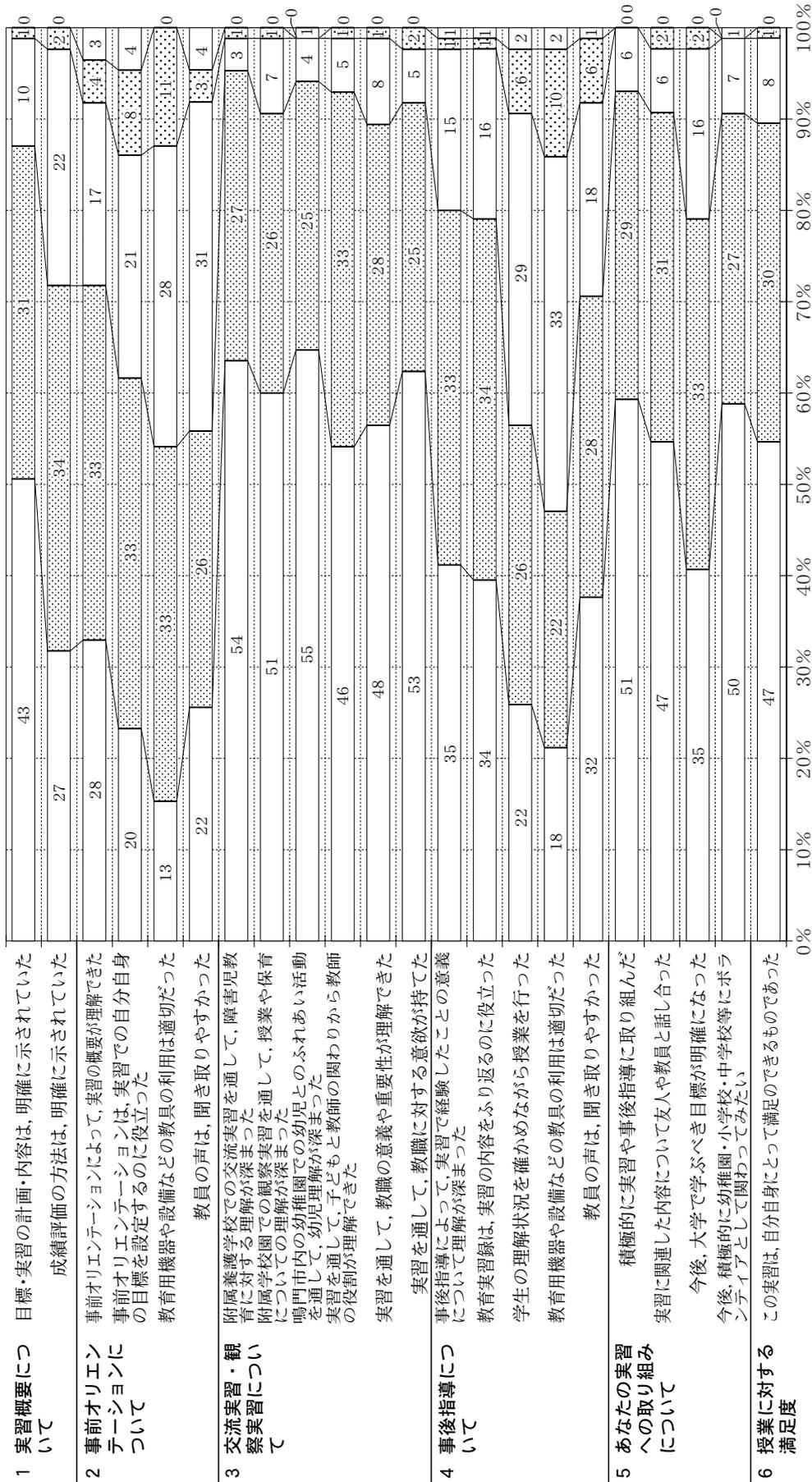
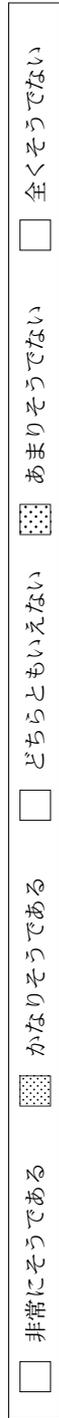


図6 教職共通科目(ふれあい実習)に対する評価結果

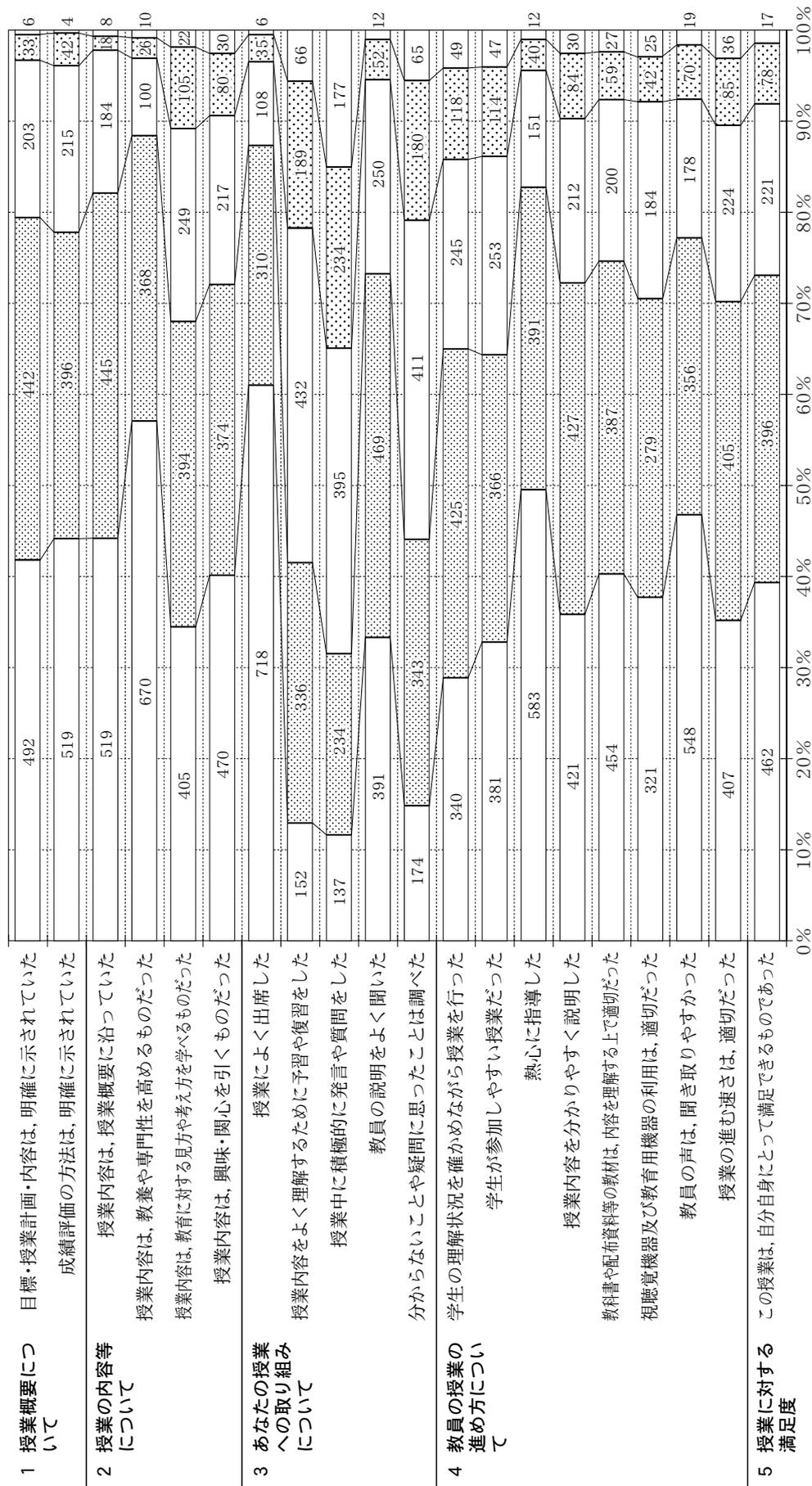
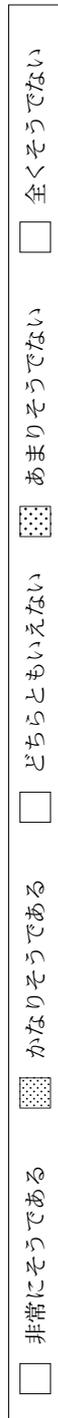


図7 専修専門科目(講義)に対する評価結果

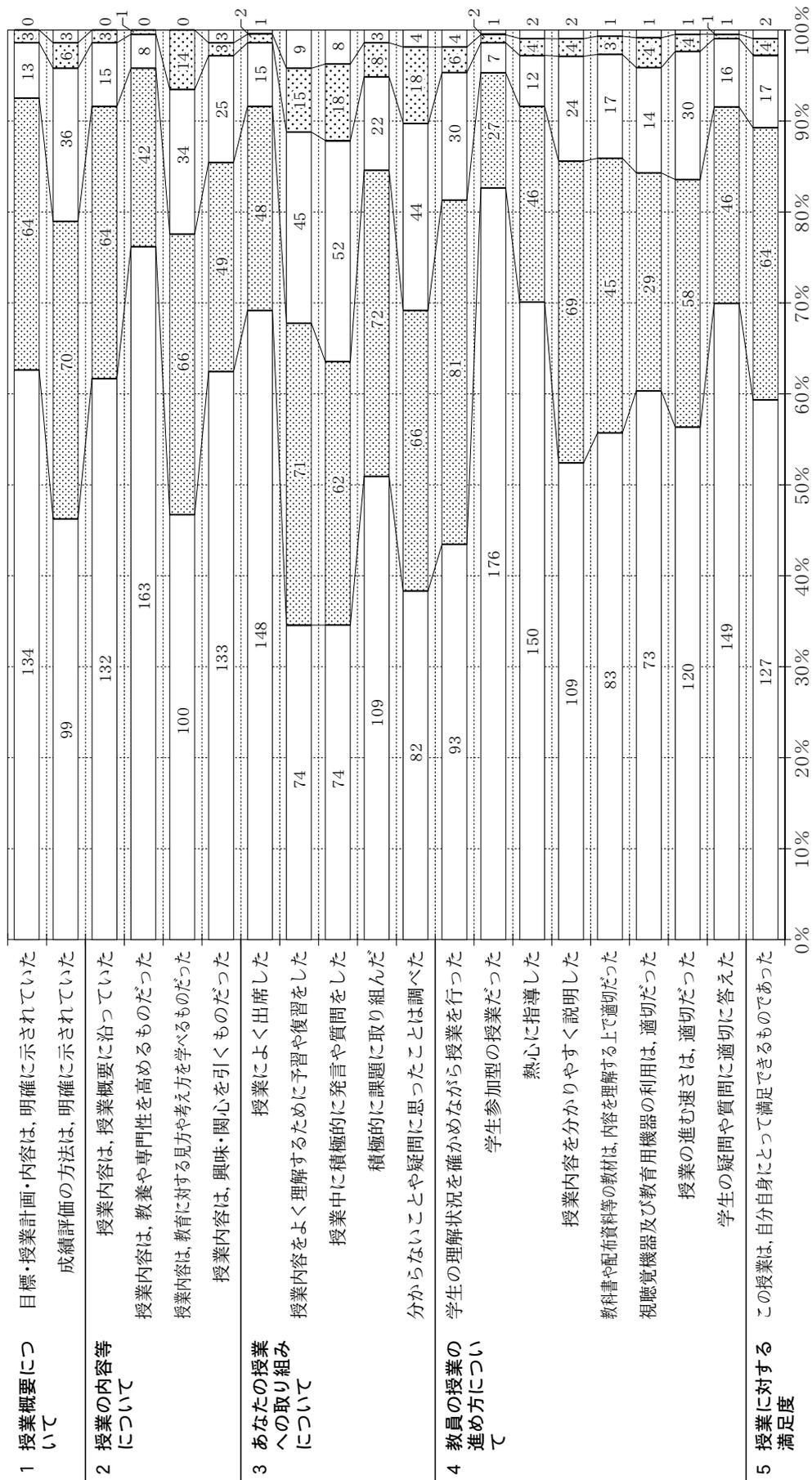
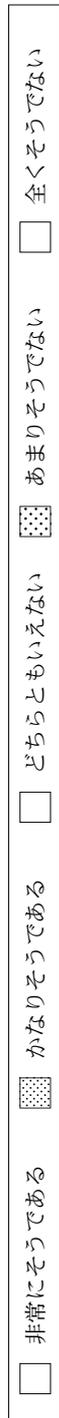


図8 専修専門科目(演習)に対する評価結果

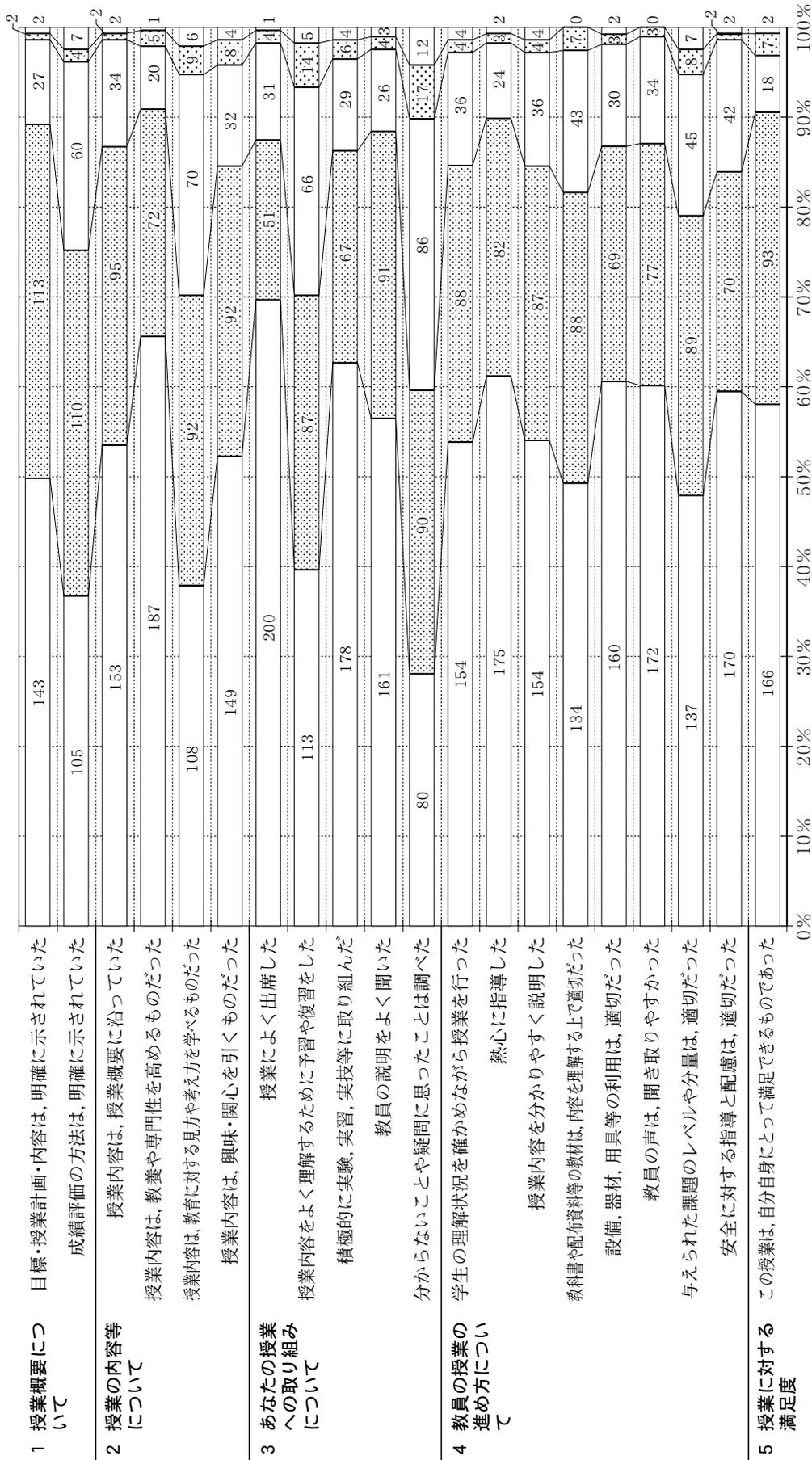
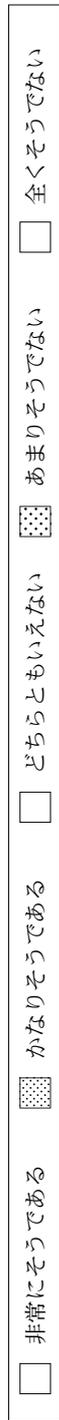


図9 専修専門科目(実験・実習・実技)に対する評価結果

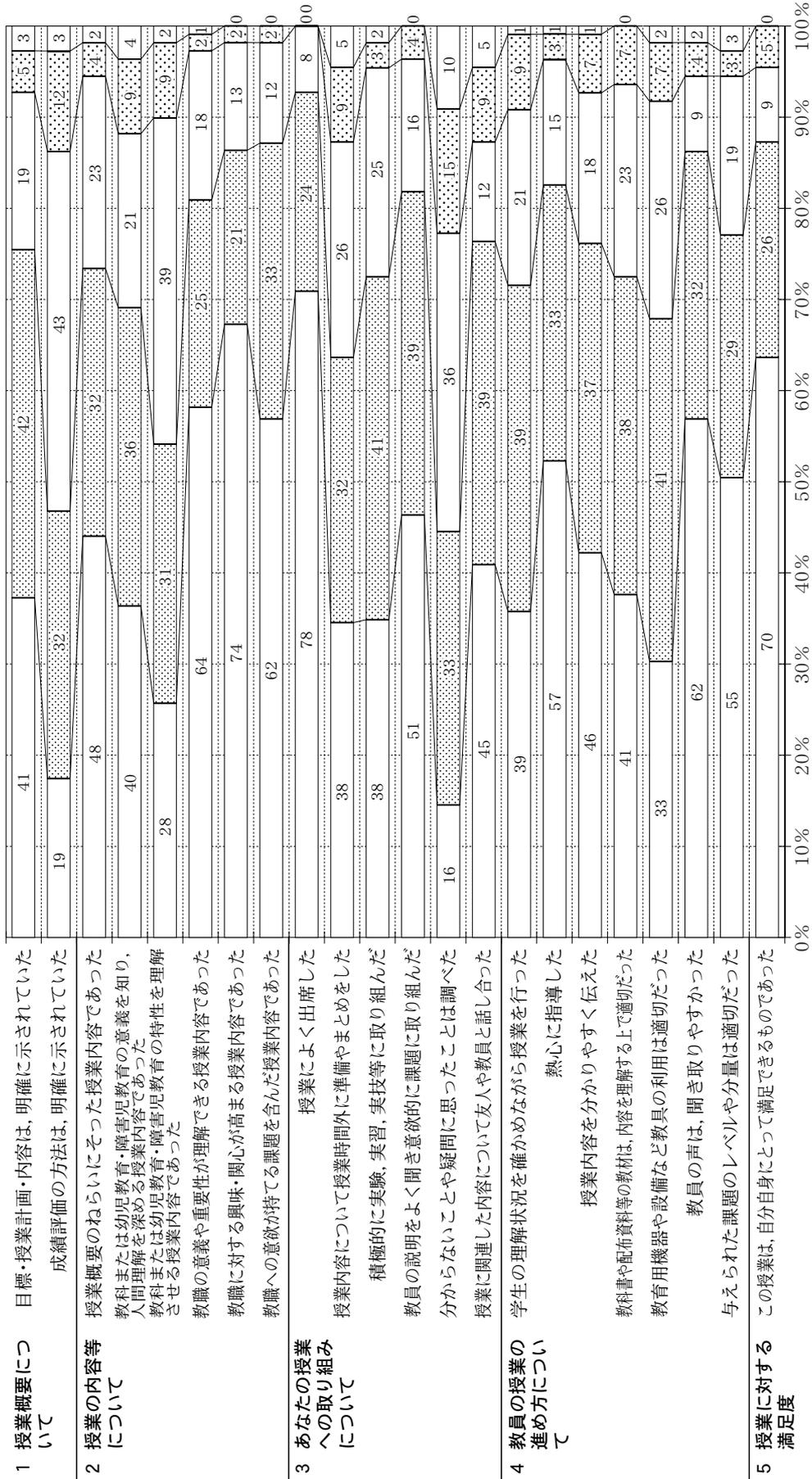
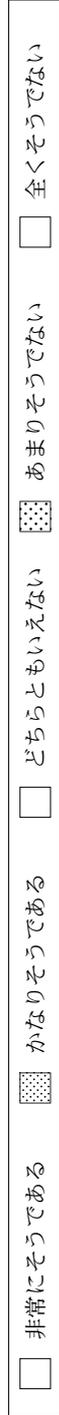


図10 教育実践コア科目(基礎演習)に対する評価結果

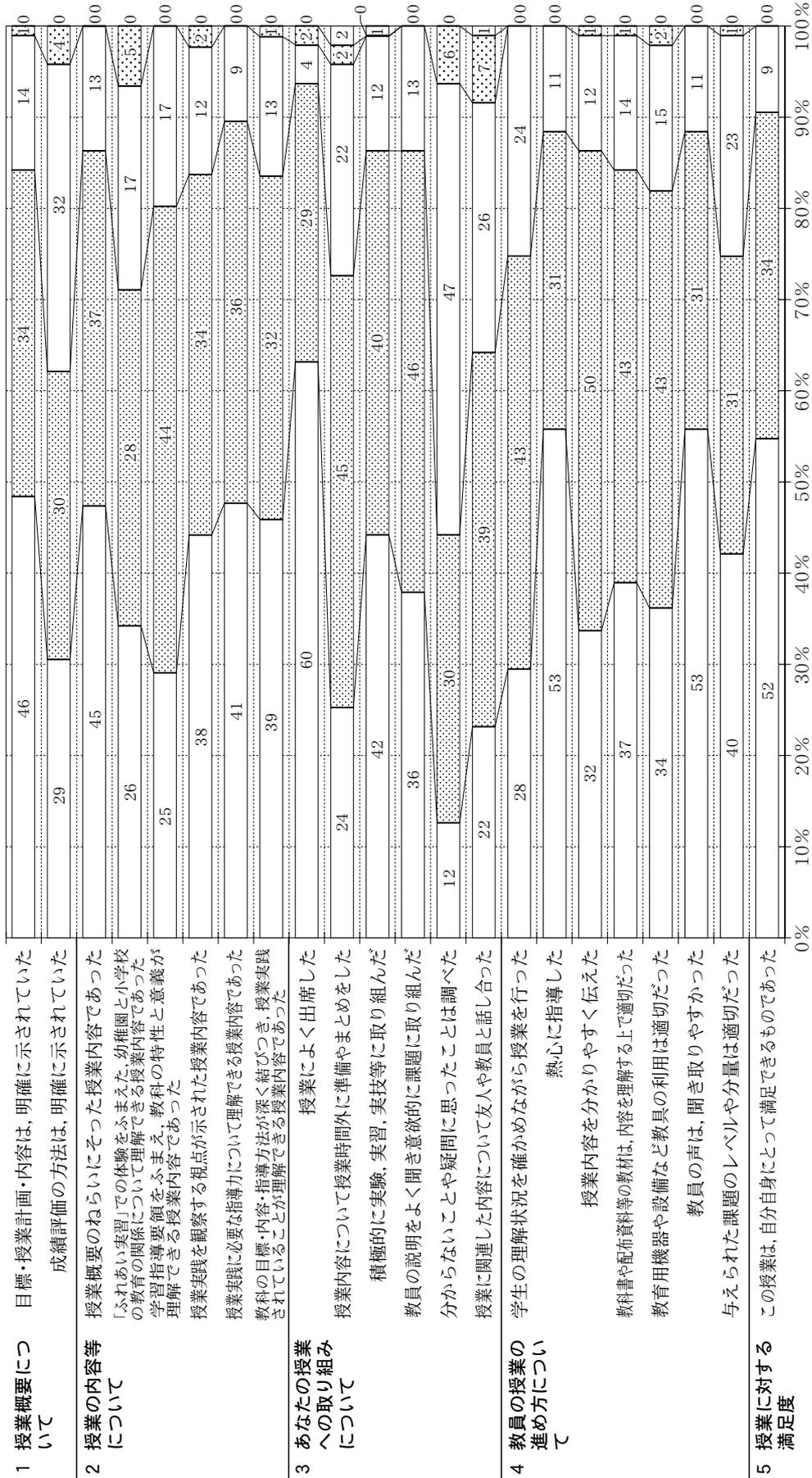
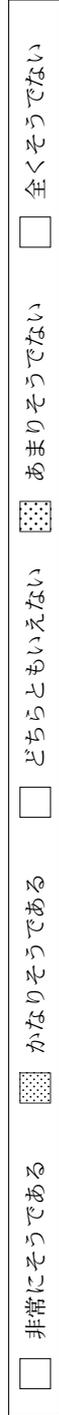


図11 教育実践コア科目(教科教育実践I)に対する評価結果

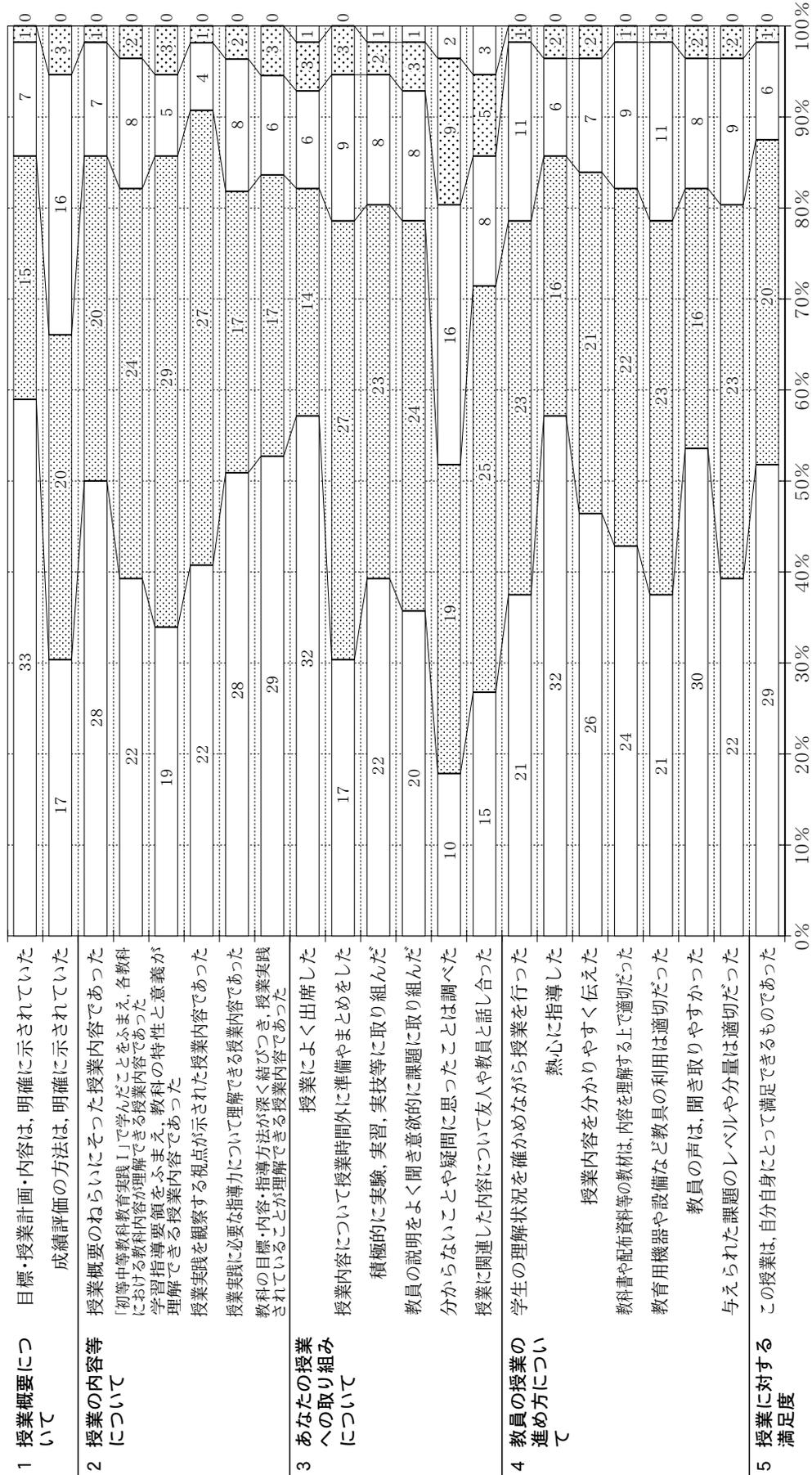
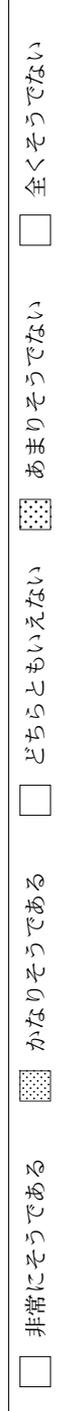


図12 教育実践コア科目(教科教育実践Ⅱ)に対する評価結果

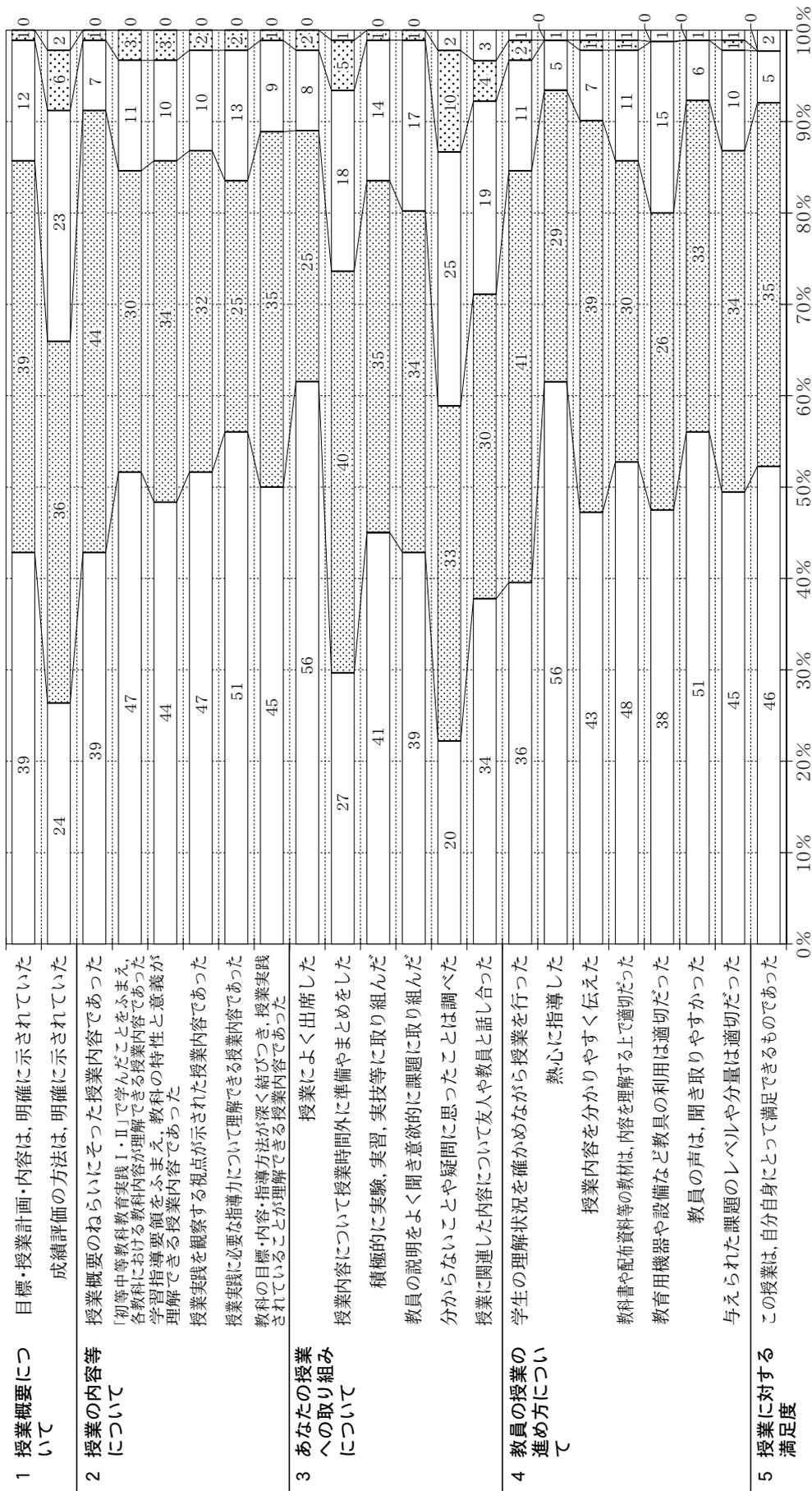
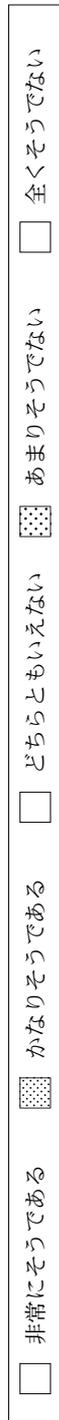


図13 教育実践コア科目(教科教育実践Ⅲ)に対する評価結果

様式1 (主として講義用)

平成19年度授業評価アンケート

評価実施日 年 月 日

授業科目名 前期・後期 曜日 時限

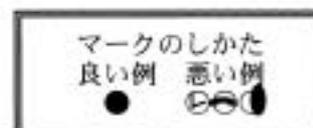
授業区分 1. 教養基礎科目 2. 教職共通科目 3. 専修専門科目

担当教員名 受講者数 名

このアンケート調査は、今後の授業の改善に役立てることを目的として行うものです。以下の各項目について、次の5段階で回答し、その該当する番号をマークしてください。アンケート回収後にコンピュータ処理を行いますので、下記の「マークのしかた(良い例)」のとおりマークしてください。

なお、このアンケートの結果が皆さんの成績などに影響することはありませんので、率直に回答してください。

5. 非常にそうである。4. かなりそうである。3. どちらともいえない。
2. あまりそうでない。1. 全くそうでない。



1 授業概要について

- (1) 目標・授業計画・内容は、明確に示されていた。 ⑤ ④ ③ ② ①
(2) 成績評価の方法は、明確に示されていた。 ⑤ ④ ③ ② ①

2 授業の内容等について

- (3) 授業内容は、授業概要に沿っていた。 ⑤ ④ ③ ② ①
(4) 授業内容は、教養や専門性を高めるものだった。 ⑤ ④ ③ ② ①
(5) 授業内容は、教育に対する見方や考え方を学べるものだった。 ⑤ ④ ③ ② ①
(6) 授業内容は、興味・関心を引くものだった。 ⑤ ④ ③ ② ①

3 あなたの授業への取り組みについて

- (7) 授業によく出席した。 ⑤ ④ ③ ② ①
(8) 授業内容をよく理解するために予習や復習をした。 ⑤ ④ ③ ② ①
(9) 授業中に積極的に発言や質問をした。 ⑤ ④ ③ ② ①
(10) 教員の説明をよく聞いた。 ⑤ ④ ③ ② ①
(11) 分からないことや疑問に思ったことは調べた。 ⑤ ④ ③ ② ①

4 教員の授業の進め方について

- (12) 学生の理解状況を確かめながら授業を行った。 ⑤ ④ ③ ② ①
(13) 学生が参加しやすい授業だった。 ⑤ ④ ③ ② ①
(14) 熱心に指導した。 ⑤ ④ ③ ② ①
(15) 授業内容を分かりやすく説明した。 ⑤ ④ ③ ② ①
(16) 教科書や配布資料等の教材は、内容を理解する上で適切だった。 ⑤ ④ ③ ② ①
(17) 視覚機器及び教育用機器の利用は、適切だった。 ⑤ ④ ③ ② ①
(18) 教員の声は、聞き取りやすかった。 ⑤ ④ ③ ② ①
(19) 授業の進む速さは、適切だった。 ⑤ ④ ③ ② ①

5 授業に対する満足度

- (20) この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。 ⑤ ④ ③ ② ①

(この面は、様式1～様式8共通)

6 あなたからの提言

(21) この授業でよかったことを書いてください。

(22) この授業で改善したほうがよいと思うことを書いてください。

7 先の(1)から(20)の項目以外で、本授業で設定する項目

- (1)
- (2)

- ⑤ ④ ③ ② ①
- ⑤ ④ ③ ② ①

【ご協力ありがとうございました。】

注 この頁は、6と7の順番を変えても、7の項目を増減しても結構です。先生方の独自の授業評価アンケートに加工することが可能な頁です。ただし、6の(21)と(22)の項目に相当する提言は必ず学生に書かせてください。

様式2 (主として演習用)

平成19年度授業評価アンケート

評価実施日 年 月 日

授業科目名 前期・後期 曜日 時限

授業区分 1. 教養基礎科目 2. 教職共通科目 3. 専修専門科目

担当教員名 受講者数 名

このアンケート調査は、今後の授業の改善に役立てることを目的として行うものです。以下の各項目について、次の5段階で回答し、その該当する番号をマークしてください。アンケート回収後にコンピュータ処理を行いますので、下記の「マークのしかた(良い例)」のとおりマークしてください。

なお、このアンケートの結果が皆さんの成績などに影響することはありませんので、率直に回答してください。

5. 非常にそうである。4. かなりそうである。3. どちらともいえない。
2. あまりそうでない。1. 全くそうでない。

マークのしかた

良い例 悪い例



1 授業概要について

- (1) 目標・授業計画・内容は、明確に示されていた。 ⑤ ④ ③ ② ①
(2) 成績評価の方法は、明確に示されていた。 ⑤ ④ ③ ② ①

2 授業の内容等について

- (3) 授業内容は、授業概要に沿っていた。 ⑤ ④ ③ ② ①
(4) 授業内容は、教養や専門性を高めるものだった。 ⑤ ④ ③ ② ①
(5) 授業内容は、教育に対する見方や考え方を学べるものだった。 ⑤ ④ ③ ② ①
(6) 授業内容は、興味・関心を引くものだった。 ⑤ ④ ③ ② ①

3 あなたの授業への取り組みについて

- (7) 授業によく出席した。 ⑤ ④ ③ ② ①
(8) 授業内容をよく理解するために予習や復習をした。 ⑤ ④ ③ ② ①
(9) 授業中に積極的に発言や質問をした。 ⑤ ④ ③ ② ①
(10) 積極的に課題に取り組んだ。 ⑤ ④ ③ ② ①
(11) 分からないことや疑問に思ったことは調べた。 ⑤ ④ ③ ② ①

4 教員の授業の進め方について

- (12) 学生の理解状況を確認しながら授業を行った。 ⑤ ④ ③ ② ①
(13) 学生参加型の授業だった。 ⑤ ④ ③ ② ①
(14) 熱心に指導した。 ⑤ ④ ③ ② ①
(15) 授業内容を分かりやすく説明した。 ⑤ ④ ③ ② ①
(16) 教科書や配布資料等の教材は、内容を理解する上で適切だった。 ⑤ ④ ③ ② ①
(17) 視聴覚機器及び教育用機器の利用は、適切だった。 ⑤ ④ ③ ② ①
(18) 授業の進む速さは、適切だった。 ⑤ ④ ③ ② ①
(19) 学生の疑問や質問に適切に答えた。 ⑤ ④ ③ ② ①

5 授業に対する満足度

- (20) この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。 ⑤ ④ ③ ② ①

平成19年度授業評価アンケート

評価実施日 _____ 年 _____ 月 _____ 日

授業科目名 _____ 前期・後期 _____ 曜日 _____ 時限 _____

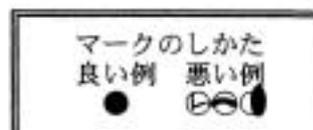
授業区分 1. 教養基礎科目 2. 教職共通科目 3. 専修専門科目

担当教員名 _____ 受講者数 _____ 名

このアンケート調査は、今後の授業の改善に役立てることを目的として行うものです。以下の各項目について、次の5段階で回答し、その該当する番号をマークしてください。アンケート回収後にコンピュータ処理を行いますので、下記の「マークのしかた(良い例)」のとおりマークしてください。

なお、このアンケートの結果が皆さんの成績などに影響することはありませんので、率直に回答してください。

5. 非常にそうである。4. かなりそうである。3. どちらともいえない。
2. あまりそうでない。1. 全くそうでない。



- | | ⑤ | ④ | ③ | ② | ① |
|------------------------------------|---|---|---|---|---|
| 1 授業概要について | | | | | |
| (1) 目標・授業計画・内容は、明確に示されていた。 | ⑤ | ④ | ③ | ② | ① |
| (2) 成績評価の方法は、明確に示されていた。 | ⑤ | ④ | ③ | ② | ① |
| 2 授業の内容等について | | | | | |
| (3) 授業内容は、授業概要に沿っていた。 | ⑤ | ④ | ③ | ② | ① |
| (4) 授業内容は、教養や専門性を高めるものだった。 | ⑤ | ④ | ③ | ② | ① |
| (5) 授業内容は、教育に対する見方や考え方を学べるものだった。 | ⑤ | ④ | ③ | ② | ① |
| (6) 授業内容は、興味・関心を引くものだった。 | ⑤ | ④ | ③ | ② | ① |
| 3 あなたの授業への取り組みについて | | | | | |
| (7) 授業によく出席した。 | ⑤ | ④ | ③ | ② | ① |
| (8) 授業内容をよく理解するために予習や復習をした。 | ⑤ | ④ | ③ | ② | ① |
| (9) 積極的に実験、実習、実技等に取り組んだ。 | ⑤ | ④ | ③ | ② | ① |
| (10) 教員の説明をよく聞いた。 | ⑤ | ④ | ③ | ② | ① |
| (11) 分からないことや疑問に思ったことは調べた。 | ⑤ | ④ | ③ | ② | ① |
| 4 教員の授業の進め方について | | | | | |
| (12) 学生の理解状況を確認しながら授業を行った。 | ⑤ | ④ | ③ | ② | ① |
| (13) 熱心に指導した。 | ⑤ | ④ | ③ | ② | ① |
| (14) 授業内容を分かりやすく説明した。 | ⑤ | ④ | ③ | ② | ① |
| (15) 教科書や配布資料等の教材は、内容を理解する上で適切だった。 | ⑤ | ④ | ③ | ② | ① |
| (16) 設備、器材、用具等の利用は、適切だった。 | ⑤ | ④ | ③ | ② | ① |
| (17) 教員の声は、聞き取りやすかった。 | ⑤ | ④ | ③ | ② | ① |
| (18) 与えられた課題のレベルや分量は、適切だった。 | ⑤ | ④ | ③ | ② | ① |
| (19) 安全に対する指導と配慮は、適切だった。 | ⑤ | ④ | ③ | ② | ① |
| 5 授業に対する満足度 | | | | | |
| (20) この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。 | ⑤ | ④ | ③ | ② | ① |

様式4 (教育実践コア科目用)

平成19年度授業評価アンケート

評価実施日 年 月 日

前期 曜日 時限

授業科目名 ・ 幼児教育実践基礎演習
 ・ 初等中等教育実践基礎演習 (コース)
 ・ 障害児教育実践基礎演習

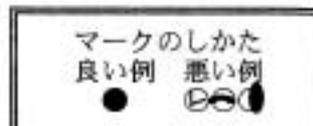
授業区分 教育実践コア科目

担当教員名 受講者数 名

このアンケート調査は、今後の授業の改善に役立てることを目的として行うものです。以下の各項目について、次の5段階で回答し、その該当する番号をマークしてください。アンケート回収後にコンピュータ処理を行いますので、下記の「マークのしかた(良い例)」のとおりマークしてください。

なお、このアンケートの結果が皆さんの成績などに影響することはありませんので、率直に回答してください。

5. 非常にそうである。4. かなりそうである。3. どちらともいえない。
 2. あまりそうでない。1. 全くそうでない。



1 授業概要について

- (1) 目標・授業計画・内容は、明確に示されていた。 ⑤ ④ ③ ② ①
 (2) 成績評価の方法は、明確に示されていた。 ⑤ ④ ③ ② ①

2 授業の内容等について

- (3) 授業概要のねらいにそった授業内容であった。 ⑤ ④ ③ ② ①
 (4) 教科または幼児教育・障害児教育の意義を知り、人間理解を深める授業内容であった。 ⑤ ④ ③ ② ①
 (5) 教科または幼児教育・障害児教育の特性を理解させる授業内容であった。 ⑤ ④ ③ ② ①
 (6) 教職の意義や重要性が理解できる授業内容であった。 ⑤ ④ ③ ② ①
 (7) 教職に対する興味・関心が高まる授業内容であった。 ⑤ ④ ③ ② ①
 (8) 教職への意欲が持てる課題を含んだ授業内容であった。 ⑤ ④ ③ ② ①

3 あなたの授業への取り組みについて

- (9) 授業によく出席した。 ⑤ ④ ③ ② ①
 (10) 授業内容について授業時間外に準備やまとめをした。 ⑤ ④ ③ ② ①
 (11) 積極的に実験、実習、実技等に取り組んだ。 ⑤ ④ ③ ② ①
 (12) 教員の説明をよく聞き意欲的に課題に取り組んだ。 ⑤ ④ ③ ② ①
 (13) 分からないことや疑問に思ったことは調べた。 ⑤ ④ ③ ② ①
 (14) 授業に関連した内容について友人や教員と話し合った。 ⑤ ④ ③ ② ①

4 教員の授業の進め方について

- (15) 学生の理解状況を確認しながら授業を行った。 ⑤ ④ ③ ② ①
 (16) 熱心に指導した。 ⑤ ④ ③ ② ①
 (17) 授業内容を分かりやすく伝えた。 ⑤ ④ ③ ② ①
 (18) 教科書や配布資料等の教材は、内容を理解する上で適切だった。 ⑤ ④ ③ ② ①
 (19) 教育用機器や設備など教具の利用は適切だった。 ⑤ ④ ③ ② ①
 (20) 教員の声は、聞き取りやすかった。 ⑤ ④ ③ ② ①
 (21) 与えられた課題のレベルや分量は適切だった。 ⑤ ④ ③ ② ①

5 授業に対する満足度について

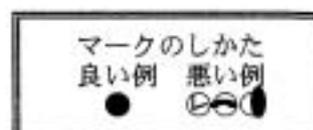
- (22) この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。 ⑤ ④ ③ ② ①

平成19年度授業評価アンケート

評価実施日 年 月 日
 授業科目名 初等中等教科教育実践Ⅰ(コース) 後期 曜日 時限
 授業区分 教育実践コア科目
 担当教員名 受講者数 名

このアンケート調査は、今後の授業の改善に役立てることを目的として行うものです。以下の各項目について、次の5段階で回答し、その該当する番号をマークしてください。アンケート回収後にコンピュータ処理を行いますので、下記の「マークのしかた(良い例)」のとおりマークしてください。
 なお、このアンケートの結果が皆さんの成績などに影響することはありませんので、率直に回答してください。

5. 非常にそうである。4. かなりそうである。3. どちらともいえない。
 2. あまりそうでない。1. 全くそうでない。



1 授業概要について

- (1) 目標・授業計画・内容は、明確に示されていた。 ⑤ ④ ③ ② ①
 (2) 成績評価の方法は、明確に示されていた。 ⑤ ④ ③ ② ①

2 授業の内容等について

- (3) 授業概要のねらいにそった授業内容であった。 ⑤ ④ ③ ② ①
 (4) 「ふれあい実習」での体験をふまえた、幼稚園と小学校の教育の関係について理解できる授業内容であった。 ⑤ ④ ③ ② ①
 (5) 学習指導要領をふまえ、教科の特性と意義が理解できる授業内容であった。 ⑤ ④ ③ ② ①
 (6) 授業実践を観察する視点が示された授業内容であった。 ⑤ ④ ③ ② ①
 (7) 授業実践に必要な指導力について理解できる授業内容であった。 ⑤ ④ ③ ② ①
 (8) 教科の目標・内容・指導方法が深く結びつき、授業実践されていることが理解できる授業内容であった。 ⑤ ④ ③ ② ①

3 あなたの授業への取り組みについて

- (9) 授業によく出席した。 ⑤ ④ ③ ② ①
 (10) 授業内容について授業時間外に準備やまとめをした。 ⑤ ④ ③ ② ①
 (11) 積極的に実験、実習、実技等に取り組んだ。 ⑤ ④ ③ ② ①
 (12) 教員の説明をよく聞き意欲的に課題に取り組んだ。 ⑤ ④ ③ ② ①
 (13) 分からないことや疑問に思ったことは調べた。 ⑤ ④ ③ ② ①
 (14) 授業に関連した内容について友人や教員と話し合った。 ⑤ ④ ③ ② ①

4 教員の授業の進め方について

- (15) 学生の理解状況を確認しながら授業を行った。 ⑤ ④ ③ ② ①
 (16) 熱心に指導した。 ⑤ ④ ③ ② ①
 (17) 授業内容を分かりやすく伝えた。 ⑤ ④ ③ ② ①
 (18) 教科書や配布資料等の教材は、内容を理解する上で適切だった。 ⑤ ④ ③ ② ①
 (19) 教育用機器や設備など教具の利用は適切だった。 ⑤ ④ ③ ② ①
 (20) 教員の声は、聞き取りやすかった。 ⑤ ④ ③ ② ①
 (21) 与えられた課題のレベルや分量は適切だった。 ⑤ ④ ③ ② ①

5 授業に対する満足度について

- (22) この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。 ⑤ ④ ③ ② ①

平成19年度授業評価アンケート

評価実施日 _____ 年 _____ 月 _____ 日

授業科目名 ふれあい実習 集中講義

授業区分 教職共通科目

担当教員名 _____ 受講者数 _____ 名

このアンケート調査は、今後の授業の改善に役立てることを目的として行うものです。以下の各項目について、次の5段階で回答し、その該当する番号をマークしてください。アンケート回収後にコンピュータ処理を行いますので、下記の「マークのしかた(良い例)」のとおりマークしてください。

なお、このアンケートの結果が皆さんの成績などに影響することはありませんので、率直に回答してください。

5. 非常にそうである。4. かなりそうである。3. どちらともいえない。
2. あまりそうでない。1. 全くそうでない。

マークのしかた

良い例 悪い例



1 実習概要について

- (1) 目標・実習の計画・内容は、明確に示されていた。 ⑤ ④ ③ ② ①
(2) 成績評価の方法は、明確に示されていた。 ⑤ ④ ③ ② ①

2 事前オリエンテーションについて

- (3) 事前オリエンテーションによって、実習の概要が理解できた。 ⑤ ④ ③ ② ①
(4) 事前オリエンテーションは、実習での自分自身の目標を設定するのに役立った。 ⑤ ④ ③ ② ①
(5) 教育用機器や設備などの教具の利用は適切だった。 ⑤ ④ ③ ② ①
(6) 教員の声は、聞き取りやすかった。 ⑤ ④ ③ ② ①

3 交流実習・観察実習について

- (7) 附属養護学校での交流実習を通して、障害児教育に対する理解が深まった。 ⑤ ④ ③ ② ①
(8) 附属学校園での観察実習を通して、授業や保育についての理解が深まった。 ⑤ ④ ③ ② ①
(9) 鳴門市内の幼稚園での幼児とのふれあい活動を通して、幼児理解が深まった。 ⑤ ④ ③ ② ①
(10) 実習を通して、子どもと教師の関わりから教師の役割が理解できた。 ⑤ ④ ③ ② ①
(11) 実習を通して、教職の意義や重要性が理解できた。 ⑤ ④ ③ ② ①
(12) 実習を通して、教職に対する意欲が持てた。 ⑤ ④ ③ ② ①

4 事後指導について

- (13) 事後指導によって、実習で経験したことの意義について理解が深まった。 ⑤ ④ ③ ② ①
(14) 教育実習録は、実習の内容をふり返るのに役立った。 ⑤ ④ ③ ② ①
(15) 学生の理解状況を確認しながら授業を行った。 ⑤ ④ ③ ② ①
(16) 教育用機器や設備などの教具の利用は適切だった。 ⑤ ④ ③ ② ①
(17) 教員の声は、聞き取りやすかった。 ⑤ ④ ③ ② ①

5 あなたの实習への取り組みについて

- (18) 積極的に実習や事後指導に取り組んだ。 ⑤ ④ ③ ② ①
(19) 実習に関連した内容について友人や教員と話し合った。 ⑤ ④ ③ ② ①
(20) 今後、大学で学ぶべき目標が明確になった。 ⑤ ④ ③ ② ①
(21) 今後、積極的に幼稚園・小学校・中学校等にボランティアとして関わってみたい。 ⑤ ④ ③ ② ①

6 授業に対する満足度

- (22) この実習は、自分自身にとって満足のできるものであった。 ⑤ ④ ③ ② ①

平成19年度授業評価アンケート

評価実施日 年 月 日

授業科目名 初等中等教科教育実践Ⅱ (コース)

後期 曜日 時限

授業区分 教育実践コア科目

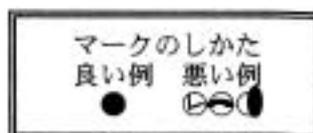
担当教員名 _____

受講者数 _____ 名

このアンケート調査は、今後の授業の改善に役立てることを目的として行うものです。以下の各項目について、次の5段階で回答し、その該当する番号をマークしてください。アンケート回収後にコンピュータ処理を行いますので、下記の「マークのしかた(良い例)」のとおりマークしてください。

なお、このアンケートの結果が皆さんの成績などに影響することはありませんので、率直に回答してください。

5. 非常にそうである。 4. かなりそうである。 3. どちらともいえない。
2. あまりそうでない。 1. 全くそうでない。



1 授業概要について

- | | | | | | |
|----------------------------|---|---|---|---|---|
| (1) 目標・授業計画・内容は、明確に示されていた。 | ⑤ | ④ | ③ | ② | ① |
| (2) 成績評価の方法は、明確に示されていた。 | ⑤ | ④ | ③ | ② | ① |

2 授業の内容等について

- | | | | | | |
|--|---|---|---|---|---|
| (3) 授業概要のねらいにそった授業内容であった。 | ⑤ | ④ | ③ | ② | ① |
| (4) 「初等中等教科教育実践Ⅰ」で学んだことをふまえ、各教科における教科内容が理解できる授業内容であった。 | ⑤ | ④ | ③ | ② | ① |
| (5) 学習指導要領をふまえ、教科の特性と意義が理解できる授業内容であった。 | ⑤ | ④ | ③ | ② | ① |
| (6) 授業実践を観察する視点が示された授業内容であった。 | ⑤ | ④ | ③ | ② | ① |
| (7) 授業実践に必要な指導力について理解できる授業内容であった。 | ⑤ | ④ | ③ | ② | ① |
| (8) 教科の目標・内容・指導方法が深く結びつき、授業実践されていることが理解できる授業内容であった。 | ⑤ | ④ | ③ | ② | ① |

3 あなたの授業への取り組みについて

- | | | | | | |
|--------------------------------|---|---|---|---|---|
| (9) 授業によく出席した。 | ⑤ | ④ | ③ | ② | ① |
| (10) 授業内容について授業時間外に準備やまとめをした。 | ⑤ | ④ | ③ | ② | ① |
| (11) 積極的に実験、実習、実技等に取り組んだ。 | ⑤ | ④ | ③ | ② | ① |
| (12) 教員の説明をよく聞き意欲的に課題に取り組んだ。 | ⑤ | ④ | ③ | ② | ① |
| (13) 分からないことや疑問に思ったことは調べた。 | ⑤ | ④ | ③ | ② | ① |
| (14) 授業に関連した内容について友人や教員と話し合った。 | ⑤ | ④ | ③ | ② | ① |

4 教員の授業の進め方について

- | | | | | | |
|------------------------------------|---|---|---|---|---|
| (15) 学生の理解状況を確認しながら授業を行った。 | ⑤ | ④ | ③ | ② | ① |
| (16) 熱心に指導した。 | ⑤ | ④ | ③ | ② | ① |
| (17) 授業内容を分かりやすく伝えた。 | ⑤ | ④ | ③ | ② | ① |
| (18) 教科書や配布資料等の教材は、内容を理解する上で適切だった。 | ⑤ | ④ | ③ | ② | ① |
| (19) 教育用機器や設備など教具の利用は適切だった。 | ⑤ | ④ | ③ | ② | ① |
| (20) 教員の声は、聞き取りやすかった。 | ⑤ | ④ | ③ | ② | ① |
| (21) 与えられた課題のレベルや分量は適切だった。 | ⑤ | ④ | ③ | ② | ① |

5 授業に対する満足度について

- | | | | | | |
|---------------------------------|---|---|---|---|---|
| (22) この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。 | ⑤ | ④ | ③ | ② | ① |
|---------------------------------|---|---|---|---|---|

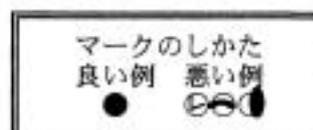
平成19年度授業評価アンケート

評価実施日 年 月 日
 授業科目名 初等中等教科教育実践Ⅲ (コース) 前期 曜日 時限
 授業区分 教育実践コア科目
 担当教員名 受講者数 名

このアンケート調査は、今後の授業の改善に役立てることを目的として行うものです。以下の各項目について、次の5段階で回答し、その該当する番号をマークしてください。アンケート回収後にコンピュータ処理を行いますので、下記の「マークのしかた(良い例)」のとおりマークしてください。

なお、このアンケートの結果が皆さんの成績などに影響することはありませんので、率直に回答してください。

5. 非常にそうである。4. かなりそうである。3. どちらともいえない。
 2. あまりそうでない。1. 全くそうでない。



1 授業概要について

- (1) 目標・授業計画・内容は、明確に示されていた。 ⑤ ④ ③ ② ①
 (2) 成績評価の方法は、明確に示されていた。 ⑤ ④ ③ ② ①

2 授業の内容等について

- (3) 授業概要のねらいにそった授業内容であった。 ⑤ ④ ③ ② ①
 (4) 「初等中等教科教育実践Ⅰ・Ⅱ」で学んだことをふまえ、各教科における教科内容が理解できる授業内容であった。 ⑤ ④ ③ ② ①
 (5) 学習指導要領をふまえ、教科の特性と意義が理解できる授業内容であった。 ⑤ ④ ③ ② ①
 (6) 授業実践を観察する視点が示された授業内容であった。 ⑤ ④ ③ ② ①
 (7) 授業実践に必要な指導力について理解できる授業内容であった。 ⑤ ④ ③ ② ①
 (8) 教科の目標・内容・指導方法が深く結びつき、授業実践されていることが理解できる授業内容であった。 ⑤ ④ ③ ② ①

3 あなたの授業への取り組みについて

- (9) 授業によく出席した。 ⑤ ④ ③ ② ①
 (10) 授業内容について授業時間外に準備やまとめをした。 ⑤ ④ ③ ② ①
 (11) 積極的に実験、実習、実技等に取り組んだ。 ⑤ ④ ③ ② ①
 (12) 教員の説明をよく聞き意欲的に課題に取り組んだ。 ⑤ ④ ③ ② ①
 (13) 分からないことや疑問に思ったことは調べた。 ⑤ ④ ③ ② ①
 (14) 授業に関連した内容について友人や教員と話し合った。 ⑤ ④ ③ ② ①

4 教員の授業の進め方について

- (15) 学生の理解状況を確認しながら授業を行った。 ⑤ ④ ③ ② ①
 (16) 熱心に指導した。 ⑤ ④ ③ ② ①
 (17) 授業内容を分かりやすく伝えた。 ⑤ ④ ③ ② ①
 (18) 教科書や配布資料等の教材は、内容を理解する上で適切だった。 ⑤ ④ ③ ② ①
 (19) 教育用機器や設備など教具の利用は適切だった。 ⑤ ④ ③ ② ①
 (20) 教員の声は、聞き取りやすかった。 ⑤ ④ ③ ② ①
 (21) 与えられた課題のレベルや分量は適切だった。 ⑤ ④ ③ ② ①

5 授業に対する満足度について

- (22) この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。 ⑤ ④ ③ ② ①

III

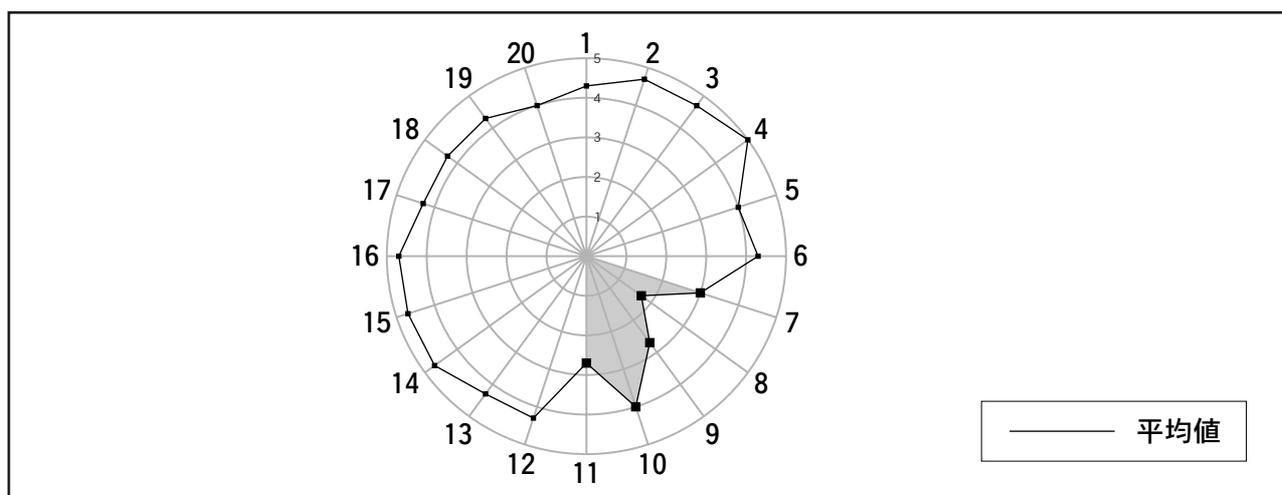
学部授業評価の 結果報告書

教 養 基 礎 科 目

授業科目名 脳と心の科学
 評価実施日 平成19年7月25日
 担当教員名 井上 和臣, 田中 淳一

回答者数 3名

質問項目	評価選択人数						平均値 (科目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
1 授業概要について	(1) 目標・授業計画・内容は、明確に示されていた。	1	2	0	0	0	4.3
	(2) 成績評価の方法は、明確に示されていた。	2	1	0	0	0	4.7
2 授業の内容等について	(3) 授業内容は、授業概要に沿っていた。	2	1	0	0	0	4.7
	(4) 授業内容は、教養や専門性を高めるものだった。	3	0	0	0	0	5.0
	(5) 授業内容は、教育に対する見方や考え方を学べるものだった。	1	1	1	0	0	4.0
	(6) 授業内容は、興味・関心を引くものだった。	1	2	0	0	0	4.3
3 あなたの授業への取り組みについて	(7) 授業によく出席した。	0	1	1	1	0	3.0
	(8) 授業内容をよく理解するために予習や復習をした。	0	0	0	2	1	1.7
	(9) 積極的に実験、実習、実技等に取り組んだ。	0	0	2	1	0	2.7
	(10) 教員の説明をよく聞いた。	1	1	1	0	0	4.0
	(11) 分からないことや疑問に思ったことは調べた。	0	0	2	1	0	2.7
4 教員の授業の進め方について	(12) 学生の理解状況を確かめながら授業を行った。	1	2	0	0	0	4.3
	(13) 熱心に指導した。	1	2	0	0	0	4.3
	(14) 授業内容を分かりやすく説明した。	2	1	0	0	0	4.7
	(15) 教科書や配布資料等の教材は、内容を理解する上で適切だった。	2	1	0	0	0	4.7
	(16) 設備、器材、用具等の利用は、適切だった。	2	1	0	0	0	4.7
	(17) 教員の声は、聞き取りやすかった。	1	2	0	0	0	4.3
	(18) 与えられた課題のレベルや分量は、適切だった。	1	2	0	0	0	4.3
	(19) 安全に対する指導と配慮は、適切だった。	1	2	0	0	0	4.3
5 授業に対する満足度	(20) この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。	1	1	1	0	0	4.0



教員のコメント

受講者数8名のうち3名からの評価であることに留意する必要がある。他の学生からの評価が得られなかったことは残念である。

平均値4.0以上を及第点とすると、授業の概要、すなわち授業の目標・計画・内容・成績評価方法の明示については良い評価であった。授業の内容等に関しては、教養を高めるものであるという高い評価(5.0)があり、「教養基礎科目」としての意義が果たせたものとする。

ただ、学生の授業への取り組みは概して低い評価であった。説明をきくという態度はみられたものの、疑問を迫る姿勢を高めるような授業ではなかったのかもしれない。

教員の授業の進め方は及第点であり、学生の理解度を把握しながら、わかりやすく適切なものであった。

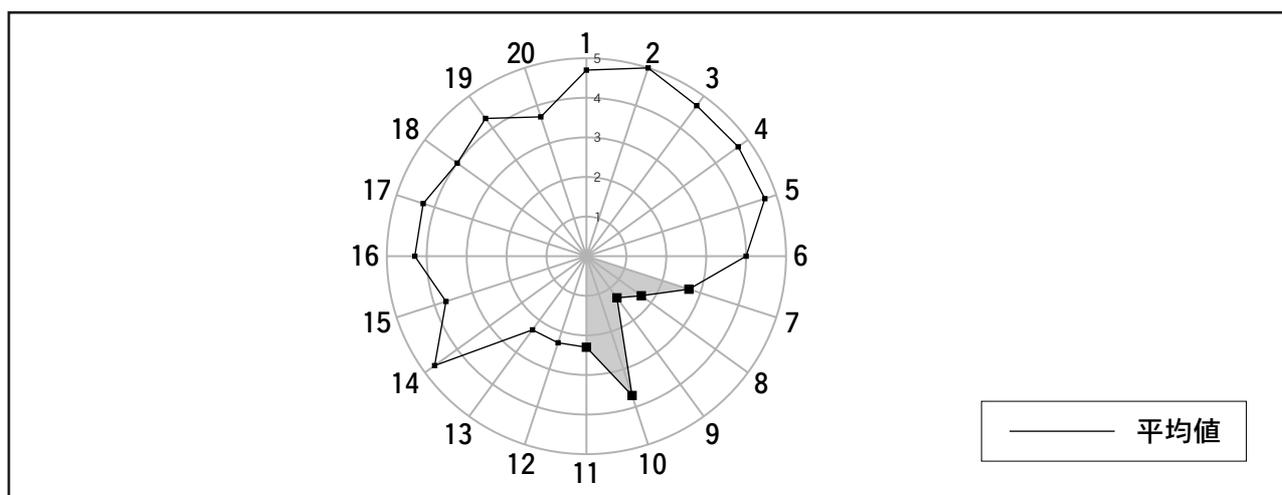
授業に対する全般的満足度は4.0であったが、内訳をみると、授業を担当する者として決して喜べるものではない。

学生の自由記述からひとつ引用しておく、この授業は教職と直接関係がなさそうであったが、人間として生きていく上で重要で役に立つものであった、という。「教養基礎科目」として意味があったと言えるのではあるまいか。

授業科目名 自然科学の世界
 評価実施日 平成19年7月30日
 担当教員名 工藤 慎一, 武田 清

回答者数 3名

質問項目		評価選択人数						平均値 (科目別)
		5	4	3	2	1	N.A	
1 授業概要について	(1) 目標・授業計画・内容は、明確に示されていた。	2	1	0	0	0	0	4.7
	(2) 成績評価の方法は、明確に示されていた。	3	0	0	0	0	0	5.0
2 授業の内容等について	(3) 授業内容は、授業概要に沿っていた。	2	1	0	0	0	0	4.7
	(4) 授業内容は、教養や専門性を高めるものだった。	2	1	0	0	0	0	4.7
	(5) 授業内容は、教育に対する見方や考え方を学べるものだった。	2	1	0	0	0	0	4.7
	(6) 授業内容は、興味・関心を引くものだった。	2	0	0	1	0	0	4.0
3 あなたの授業への取り組みについて	(7) 授業によく出席した。	0	1	0	2	0	0	2.7
	(8) 授業内容をよく理解するために予習や復習をした。	0	0	0	2	1	0	1.7
	(9) 授業中に積極的に発言や質問をした。	0	0	0	1	2	0	1.3
	(10) 教員の説明をよく聞いた。	0	2	1	0	0	0	3.7
	(11) 分からないことや疑問に思ったことは調べた。	0	1	0	1	1	0	2.3
4 教員の授業の進め方について	(12) 学生の理解状況を確かめながら授業を行った。	0	0	1	2	0	0	2.3
	(13) 学生が参加しやすい授業だった。	0	0	1	2	0	0	2.3
	(14) 熱心に指導した。	2	1	0	0	0	0	4.7
	(15) 授業内容を分かりやすく説明した。	0	2	1	0	0	0	3.7
	(16) 教科書や配布資料等の教材は、内容を理解する上で適切だった。	1	2	0	0	0	0	4.3
	(17) 視聴覚機器及び教育用機器の利用は、適切だった。	1	2	0	0	0	0	4.3
	(18) 教員の声は、聞き取りやすかった。	1	1	1	0	0	0	4.0
	(19) 授業の進む速さは、適切だった。	1	2	0	0	0	0	4.3
5 授業に対する満足度	(20) この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。	1	1	0	1	0	0	3.7



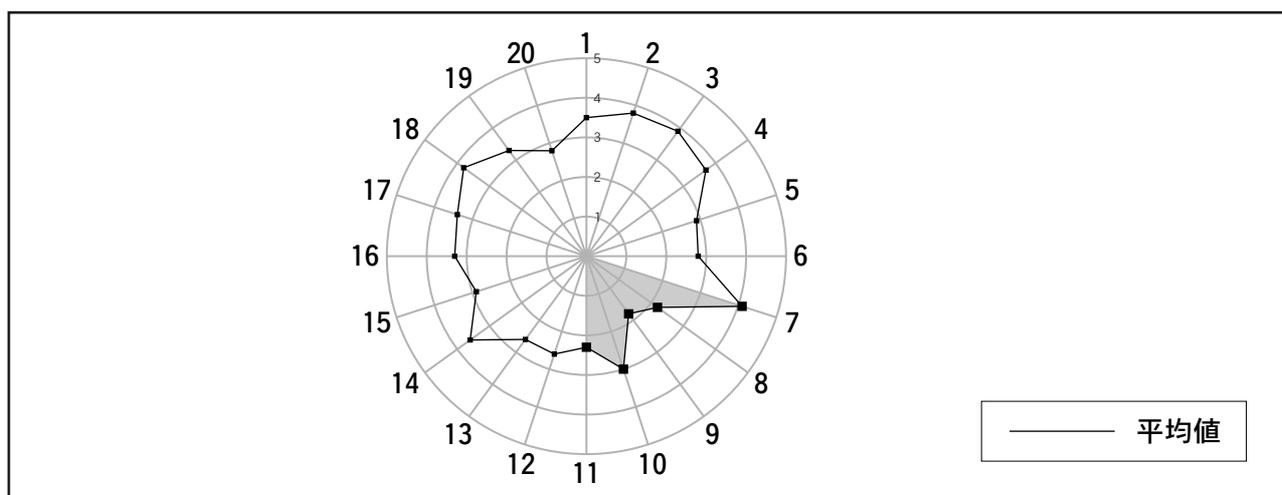
教員のコメント

わずか3名のデータであり判断は難しいが、授業内容や授業の進め方に関する大きな問題は無いと考えている。

授業科目名 科学と環境
 評価実施日 平成19年7月30日
 担当教員名 武田 清, 工藤 慎一, 近森 憲助

回答者数 48名

質問項目	評価選択人数						平均値 (科目別)	
	5	4	3	2	1	N.A		
1 授業概要について	(1) 目標・授業計画・内容は、明確に示されていた。	8	19	13	7	1	0	3.5
	(2) 成績評価の方法は、明確に示されていた。	13	19	9	5	2	0	3.8
2 授業の内容等について	(3) 授業内容は、授業概要に沿っていた。	14	18	13	1	2	0	3.9
	(4) 授業内容は、教養や専門性を高めるものだった。	15	17	7	6	3	0	3.7
	(5) 授業内容は、教育に対する見方や考え方を学べるものだった。	6	5	18	14	5	0	2.9
	(6) 授業内容は、興味・関心を引くものだった。	4	11	14	10	9	0	2.8
3 あなたの授業への取り組みについて	(7) 授業によく出席した。	21	14	10	2	1	0	4.1
	(8) 授業内容をよく理解するために予習や復習をした。	3	4	10	14	17	0	2.2
	(9) 授業中に積極的に発言や質問をした。	1	2	7	12	26	0	1.8
	(10) 教員の説明をよく聞いた。	6	11	17	7	7	0	3.0
	(11) 分からないことや疑問に思ったことは調べた。	2	2	13	20	11	0	2.3
4 教員の授業の進め方について	(12) 学生の理解状況を確認しながら授業を行った。	4	8	12	12	12	0	2.6
	(13) 学生が参加しやすい授業だった。	4	5	17	12	10	0	2.6
	(14) 熱心に指導した。	11	15	15	3	3	0	3.6
	(15) 授業内容を分かりやすく説明した。	4	12	15	8	9	0	2.9
	(16) 教科書や配布資料等の教材は、内容を理解する上で適切だった。	9	12	14	11	2	0	3.3
	(17) 視聴覚機器及び教育用機器の利用は、適切だった。	8	13	18	7	2	0	3.4
	(18) 教員の声は、聞き取りやすかった。	14	16	10	8	0	0	3.8
	(19) 授業の進む速さは、適切だった。	5	14	20	6	3	0	3.3
5 授業に対する満足度	(20) この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。	2	9	20	10	6	0	2.8



教員のコメント

本科目は教養基礎科目として開講されている講義形式の授業である。授業では、前半で「科学とは何か」という問いに対する一つの見方を与えること、後半は「科学的手法や知識に立脚した環境理解」について理解させることを目指した。特に、どのような情報・事象に対しても、常に批判的態度を持って行動すべきことを強調した。内容が抽象的で、高等学校を出てすぐの学生を含む受講者にとっては、十分に消化しきれないであろうと考え、毎週、講義担当以外の授業担当者も受講者に同席し、聞いていてわかりにくいと思われる場合は、授業者に対する補足的な質問という形で、理解の促進を目指している。

さて、評価アンケートの結果を見る。学生の授業への取り組みが低いのはすべての科目に共通しているので、ここでは取り上げない。一つだけ言えば、出席して授業を聞いていれば、大学の授業を理解できると考えるのは全くの間違いであることを、受講者には理解してほしい。その他で相対的に評価の低い(平均3.0以下)項目を挙げると、問(5)(6)(12)(13)(15)(20)である。これらについてコメントする。

問(5) 教養基礎科目は「教育に対する見方や考え方」を学ぶことを指向するものではないので、この設問は、本授業では削除すべきなのかもしれない。

問(6) 授業内容に対する興味・関心を呼び起こすことができなかつたのは残念であるが、前述のような授業の目的が理解されていないのか、それともそのような目的自体に興味を持っていないのかが不明である。

いずれにしても授業者の説明不足であろうが、受講者自身による補足的な学習が必要である。通常、大学では授業者からはその課題が提供されないことが多いが、何らかの演習的課題を与えるべきだろうか。

問(12) 授業途中で、受講者が内容に付いてきているかどうかのチェックは特に行っていないが、受講者の表情を見ながら理解度を推定している。それにより、説明のレベルを変える努力はしてきているが、実っていないかもしれない。

問(13) 生徒とともに座っている授業担当者が質問するのは、それに合わせて質問しやすい雰囲気を作り出すことをねらっている。学生が参加しにくい雰囲気を感じている理由は不明であるが、そもそも自ら参加しようという意欲をもって授業に望んでいるのかが不明である。そのような意欲無くして授業に参加することなどできるはずがない。

問(15) 抽象的な内容が多いので、できる限り例を示すことで具体的な説明を心がけているが、不十分なのであろう。わかりやすい説明が厳密性を犠牲にして成り立つことは多い。即ちわかりやすさと厳密さはしばしば相補的なものであって、授業者にとって永遠の悩みである。

問(20) 本授業の場合、内容理解が不十分であることが不満足の原因と思われる。内容理解を改善する取り組みも必要となろう。

授業で改善した方がよいと思われることについて、自由記述で回答のあったものに対するコメントを述べる。以下「 」内に回答内容を、続けてコメントを記述する。

「教師中心にしゃべるだけの単調な授業で興味が持てなかった」「講義中心すぎる」「メリハリがない」講義による授業を行う以上、通常は、教員が話すことが中心となるのは当然である。一方で、そのような講義に対して、積極的参加ができない受講者に対しては、主体的活動を促進する方策も必要と思われ、今後の課題である。

「スライド授業をもっと使った方がいいと思う」「もう少しわかりやすく、ゆっくりと説明してほしい」スライドを多用すること、ゆっくりと説明することは時間の関係で難しいこともあろうが、内容の提示方法についても改善の余地はあろう。

「先生が話をし、先生が質問をするような先生だけの授業になっていた。生徒が参加できない。」このコメントは、受講者としてのコメントというよりも、参観者からのコメントのように思える。最初にも書いたとおり、授業を担当しない教員が同席して質問などを行っている。授業内容の説明について、誤解を招きやすいと思われる部分を教員が質問することによって教師から補足的回答を引き出すことを目的としている。この授業スタイルは、むしろ受講者に発言しやすい環境を作り、授業への参加を促すことを目的として行っていることである。その意味で、これは前の項目に対する我々の一つの回答なのである。実際、授業での受講者からの発言はほとんど無いことから、そのようなねらいが達成できているとはいえない。しかしながら、人の話を聞く際に、どのような質問をしてどのような回答を引き出すかという、人と対話する際の最も基本的な技能を磨く場となればよいものと考えている。

「全く意味がわからなかった。今までで一番おもしろくない授業でした。」「結局何を学んだかわからなかった」意味がわからなければわかるように努力してその上で何かを書くべきだろう。その意味でこれらは授業で改善すべき点というよりも、受講者自身の内省を求めざるを得ないものである。自ら何かを学ぶのが大学の授業である。内容を理解した上で、学び取るものがなかったとすれば、その時点においては授業者の問題であろう。学び取るものが無いなどということは、なかったと信じているが、そうなのであれば指摘してほしい。

「難しかった」「専門的すぎて全然わかりませんでした」これも上記同様、難しいことをどのように理解し、学んでいくのが大学生として求められるものである。従って、授業改善により解決する問題ではない。また、専門的な内容であったというのは理解に苦しむ。抽象的な内容を具体例を用いて説明する部分で、やや専門的な事象を取り扱ったことはあろうが、全体として、専門的な内容を説明することにねらいがあるのではなく、その背景にある科学的な考え方や、環境理解の方法を理解させる事であった。

「遅刻者制度」これは遅刻者を出席者と同等に扱うべきだという意味だろうか。それとも違った方法で出席確認すべきだということだろうか。確かに授業の最初で出席をとり、遅刻者は遅刻として取り扱った。これのどこを改善すべきなのか理解できない。いずれにしても、抽象的な内容で、話の流れがわからない状況で授業を受けても恐らく理解は難しい。特にこの授業はそうだったのではないだろうか。これが、我々授業者が遅刻に対して厳しい取扱をした理由なのだが、それは改善すべき点なのだろうか。

「プリントの印刷が見にくかった」「テストの日程・内容を発表するのがおそい」これらは、純粋に授業者の責のあることと思われる。今後改善したい。ただ、試験日程に関して言い訳をすれば、本学の学年歴は我々大学側の人間にも理解しがたい部分がある。試験期間についての解釈が二転三転するなど、解釈が一定していなかったと思われ、改善の余地がある。

「2つの授業を一つの授業にまとめないで別個の授業にしてほしい。近森先生の話をもっと聞きたかった」確かに授業の前半と後半で内容に色分けはあるが、前半の内容が後半において重要な意味を持っていることは理解してもらえただろうか。内容的に分けてしまうことも可能だが、環境の科学的な理解のためには、常に柔軟な思考回路を持ち続けている必要があることを理解してほしい。

この授業でよかったことに対する回答は、「科学と環境」というタイトルから想像していたものと異なり、その内容が哲学的なものを含んでいたことが挙げられていた。これらの受講者には、授業の意図がある程度伝わったものと信じている。

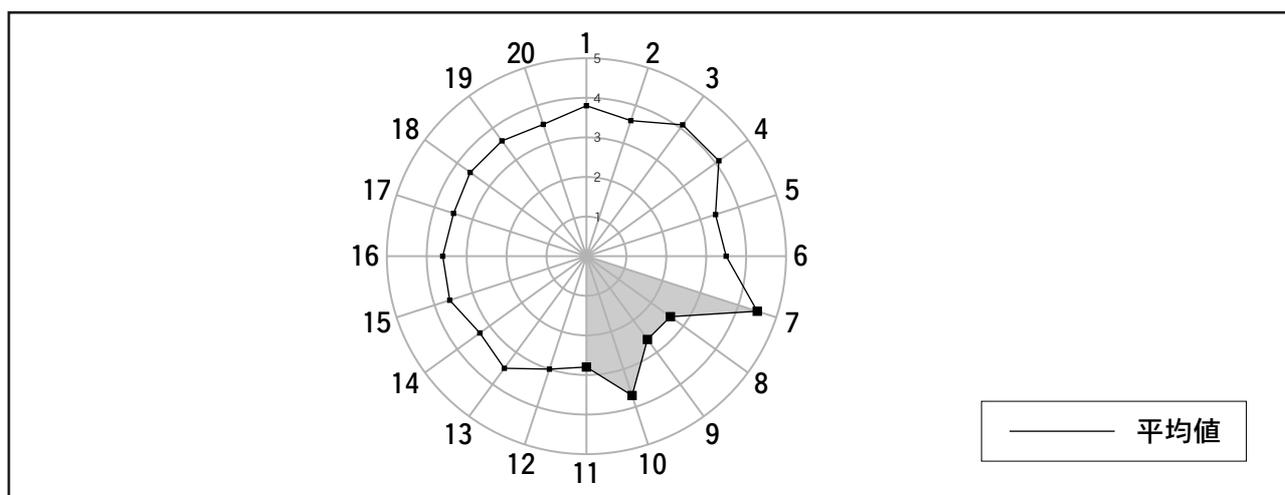
授業科目名 生体メカニズムと生命倫理

評価実施日 平成19年7月30日

担当教員名 乾 信之, 井上 和臣, 廣瀬 政雄, 田中 淳一

回答者数 44名

質問項目	評価選択人数						平均値 (科目別)	
	5	4	3	2	1	N.A		
1 授業概要について	(1) 目標・授業計画・内容は、明確に示されていた。	8	22	13	0	1	0	3.8
	(2) 成績評価の方法は、明確に示されていた。	7	18	15	4	0	0	3.6
2 授業の内容等について	(3) 授業内容は、授業概要に沿っていた。	13	21	10	0	0	0	4.1
	(4) 授業内容は、教養や専門性を高めるものだった。	13	22	8	1	0	0	4.1
	(5) 授業内容は、教育に対する見方や考え方を学べるものだった。	4	17	15	7	1	0	3.4
	(6) 授業内容は、興味・関心を引くものだった。	6	17	15	5	1	0	3.5
3 あなたの授業への取り組みについて	(7) 授業によく出席した。	32	8	2	0	2	0	4.5
	(8) 授業内容をよく理解するために予習や復習をした。	0	4	24	10	6	0	2.6
	(9) 積極的に実験、実習、実技等に取り組んだ。	1	5	20	9	8	0	2.6
	(10) 教員の説明をよく聞いた。	7	17	16	1	1	0	3.7
	(11) 分からないことや疑問に思ったことは調べた。	2	8	16	14	4	0	2.8
4 教員の授業の進め方について	(12) 学生の理解状況を確かめながら授業を行った。	4	9	15	13	3	0	3.0
	(13) 熱心に指導した。	6	16	17	4	1	0	3.5
	(14) 授業内容を分かりやすく説明した。	4	14	19	5	2	0	3.3
	(15) 教科書や配布資料等の教材は、内容を理解する上で適切だった。	7	18	16	1	2	0	3.6
	(16) 設備、器材、用具等の利用は、適切だった。	4	24	13	1	2	0	3.6
	(17) 教員の声は、聞き取りやすかった。	8	14	15	4	2	0	3.5
	(18) 与えられた課題のレベルや分量は、適切だった。	9	18	11	4	2	0	3.6
	(19) 安全に対する指導と配慮は、適切だった。	8	17	16	1	2	0	3.6
5 授業に対する満足度	(20) この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。	6	19	13	4	2	0	3.5

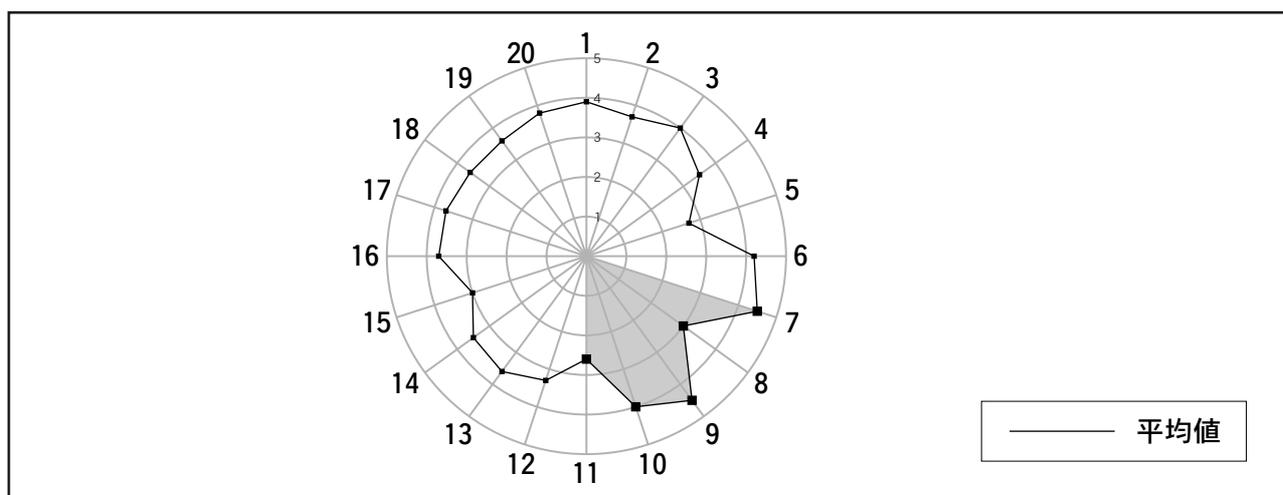


教員のコメント

授業科目名 健康・スポーツ科学Ⅱ
 評価実施日 平成19年6月26日
 担当教員名 坂本 和丈

回答者数 23名

質問項目	評価選択人数						平均値 (科目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
1 授業概要について	(1) 目標・授業計画・内容は、明確に示されていた。	5	11	7	0	0	3.9
	(2) 成績評価の方法は、明確に示されていた。	5	9	7	2	0	3.7
2 授業の内容等について	(3) 授業内容は、授業概要に沿っていた。	4	14	5	0	0	4.0
	(4) 授業内容は、教養や専門性を高めるものだった。	2	11	8	1	1	3.5
	(5) 授業内容は、教育に対する見方や考え方を学べるものだった。	2	4	7	6	4	2.7
	(6) 授業内容は、興味・関心を引くものだった。	8	11	4	0	0	4.2
3 あなたの授業への取り組みについて	(7) 授業によく出席した。	15	5	3	0	0	4.5
	(8) 授業内容をよく理解するために予習や復習をした。	2	7	6	4	4	3.0
	(9) 積極的に実験、実習、実技等に取り組んだ。	14	7	2	0	0	4.5
	(10) 教員の説明をよく聞いた。	6	10	7	0	0	4.0
	(11) 分からないことや疑問に思ったことは調べた。	2	4	7	2	8	2.6
4 教員の授業の進め方について	(12) 学生の理解状況を確認しながら授業を行った。	3	7	8	4	1	3.3
	(13) 熱心に指導した。	3	10	8	2	0	3.6
	(14) 授業内容を分かりやすく説明した。	3	10	6	4	0	3.5
	(15) 教科書や配布資料等の教材は、内容を理解する上で適切だった。	1	8	8	3	3	3.0
	(16) 設備、器材、用具等の利用は、適切だった。	5	8	8	1	1	3.7
	(17) 教員の声は、聞き取りやすかった。	4	11	6	1	1	3.7
	(18) 与えられた課題のレベルや分量は、適切だった。	3	8	11	1	0	3.6
	(19) 安全に対する指導と配慮は、適切だった。	4	9	8	1	1	3.6
5 授業に対する満足度	(20) この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。	6	9	7	0	1	3.8



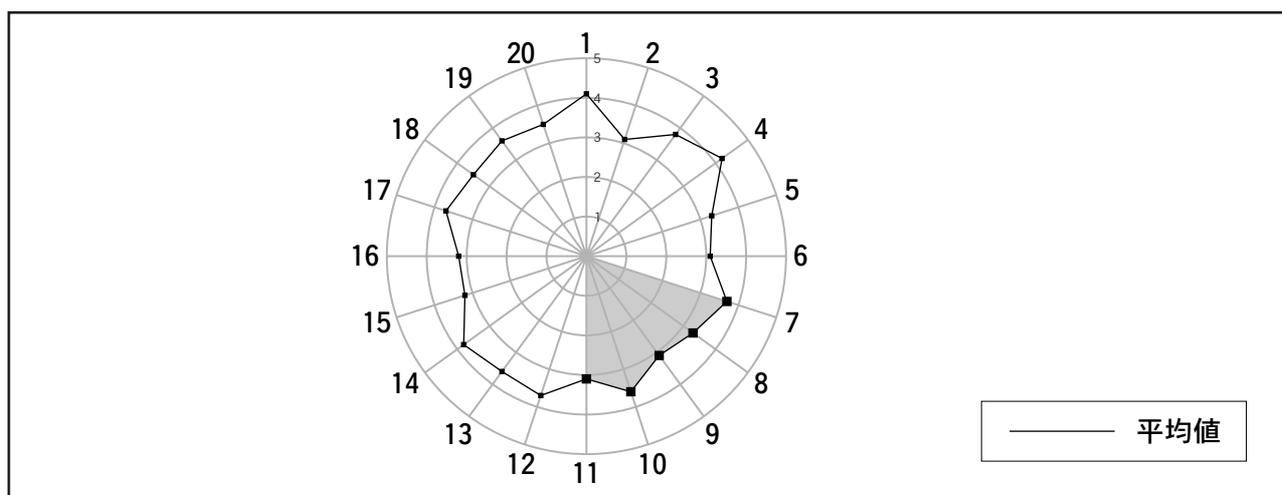
教員のコメント

各項目の平均値から見ると、平均値4.0以上の項目が5項目、3.0の項目が13項目、2.0の項目が2項目であった。これらの結果から、ゴルフの授業(実技)は学生にとって十分な理解とパフォーマンスが高まっていないことが明らかである。この原因はいくつか考えられるが、次年度はこれらの原因を分析して、学生の理解とパフォーマンスが高まるように授業内容を改善したいと考える。

授業科目名 実践情報教育 I A
 評価実施日 平成19年 7 月27日
 担当教員名 林 秀彦

回答者数 11名

質 問 項 目		評価選択人数						平均値 (科目別)
		5	4	3	2	1	N.A	
1 授業概要について	(1) 目標・授業計画・内容は、明確に示されていた。	3	6	2	0	0	0	4.1
	(2) 成績評価の方法は、明確に示されていた。	1	2	6	1	1	0	3.1
2 授業の内容等について	(3) 授業内容は、授業概要に沿っていた。	3	3	5	0	0	0	3.8
	(4) 授業内容は、教養や専門性を高めるものだった。	5	3	3	0	0	0	4.2
	(5) 授業内容は、教育に対する見方や考え方を学べるものだった。	1	4	3	3	0	0	3.3
	(6) 授業内容は、興味・関心を引くものだった。	3	2	1	3	2	0	3.1
3 あなたの授業への取り組みについて	(7) 授業によく出席した。	2	4	5	0	0	0	3.7
	(8) 授業内容をよく理解するために予習や復習をした。	1	3	5	2	0	0	3.3
	(9) 授業中に積極的に発言や質問をした。	2	1	5	2	1	0	3.1
	(10) 積極的に課題に取り組んだ。	2	5	2	2	0	0	3.6
	(11) 分からないことや疑問に思ったことは調べた。	1	4	3	1	2	0	3.1
4 教員の授業の進め方について	(12) 学生の理解状況を確認しながら授業を行った。	4	3	1	3	0	0	3.7
	(13) 学生参加型の授業だった。	3	3	3	2	0	0	3.6
	(14) 熱心に指導した。	4	1	6	0	0	0	3.8
	(15) 授業内容を分かりやすく説明した。	3	1	3	3	1	0	3.2
	(16) 教科書や配布資料等の教材は、内容を理解する上で適切だった。	2	3	2	3	1	0	3.2
	(17) 視聴覚機器及び教育用機器の利用は、適切だった。	4	3	2	1	1	0	3.7
	(18) 授業の進む速さは、適切だった。	3	3	2	2	1	0	3.5
	(19) 学生の疑問や質問に適切に答えた。	4	2	2	3	0	0	3.6
5 授業に対する満足度	(20) この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。	3	1	5	2	0	0	3.5



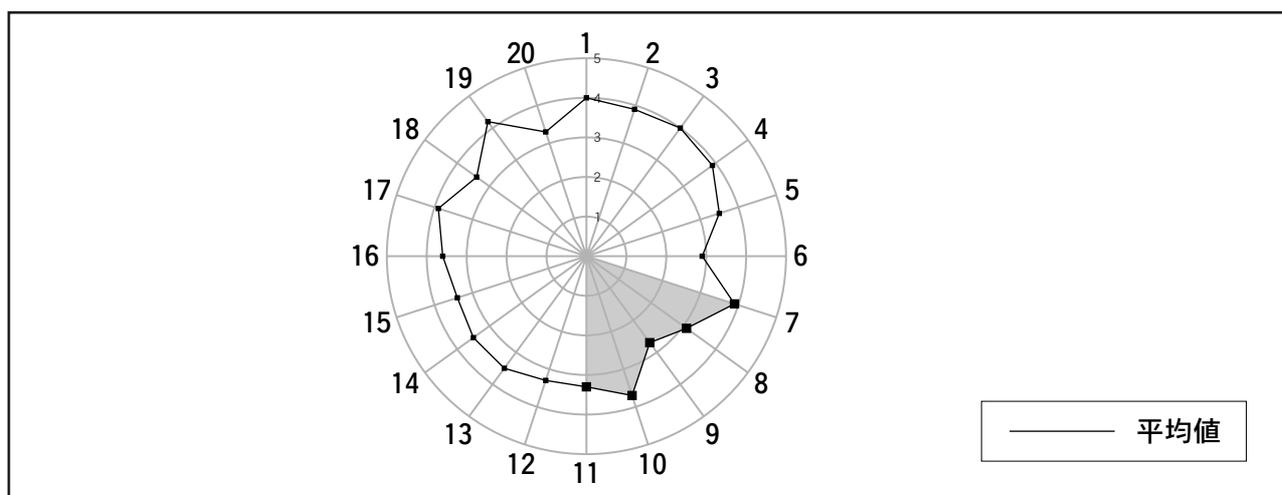
教員のコメント

実践情報教育 I Aは、情報活用の実践力を養うことを目的としており、授業内容は、主に、ワードプロセッサ、表計算ソフト、プレゼンテーションソフトを活用し、実践力を養う課題を受講者が主体的に解決していくように構成している。そのため、質問項目(10)「積極的に課題に取り組んだ。」に対する評価値は、課題遂行に関連する大きな影響を及ぼすことが予想される。結果は、高い評価値から、順番に2, 5, 2, 2, 0であった。16名の受講者において、有効回答は6割強である。そのため、授業の全体を表わす指標としては十分な数ではないが、得られた結果から考察すると、多くの学生は積極的に課題に取り組めたことがわかる。課題を解決するための、いくつかの問題も解決して進めていったことと思われる。「非常にそうである」とした2名の回答については、他の質問項目の回答も相対的に高い値であるが、その一方で、「あまりそうではない」とした2名の回答については、相対的に低い値を示している。これは、本授業の性質の1つであり、課題を解決するための積極的な取組みが授業を効果的に活用できるかどうかを左右することが予想される。解決する課題の中には、専門性の高い部分があり、理解するには時間のかかる問題も含まれているが、諦めずに課題に取り組む姿勢は高く評価できる。また、一方で、積極的に課題に取り組めなかった要因も分析し、可能な限り多くの学生が課題を積極的に取り組むことで、授業を効果的に活用できるように検討していきたい。

授業科目名 実践情報教育 I B
 評価実施日 平成19年 7 月27日
 担当教員名 林 秀彦

回答者数 11名

質問項目	評価選択人数	評価選択人数						平均値 (科目別)
		5	4	3	2	1	N.A	
1 授業概要について	(1) 目標・授業計画・内容は、明確に示されていた。	3	5	3	0	0	0	4.0
	(2) 成績評価の方法は、明確に示されていた。	3	4	4	0	0	0	3.9
2 授業の内容等について	(3) 授業内容は、授業概要に沿っていた。	2	7	2	0	0	0	4.0
	(4) 授業内容は、教養や専門性を高めるものだった。	3	4	4	0	0	0	3.9
	(5) 授業内容は、教育に対する見方や考え方を学べるものだった。	1	6	3	0	1	0	3.5
	(6) 授業内容は、興味・関心を引くものだった。	0	4	3	3	1	0	2.9
3 あなたの授業への取り組みについて	(7) 授業によく出席した。	4	4	1	2	0	0	3.9
	(8) 授業内容をよく理解するために予習や復習をした。	1	3	4	2	1	0	3.1
	(9) 授業中に積極的に発言や質問をした。	0	4	3	1	3	0	2.7
	(10) 積極的に課題に取り組んだ。	2	5	3	1	0	0	3.7
	(11) 分からないことや疑問に思ったことは調べた。	1	5	2	2	1	0	3.3
4 教員の授業の進め方について	(12) 学生の理解状況を確認しながら授業を行った。	0	4	6	1	0	0	3.3
	(13) 学生参加型の授業だった。	1	5	2	2	0	0	3.5
	(14) 熱心に指導した。	0	7	3	1	0	0	3.5
	(15) 授業内容を分かりやすく説明した。	2	3	3	3	0	0	3.4
	(16) 教科書や配布資料等の教材は、内容を理解する上で適切だった。	1	5	5	0	0	0	3.6
	(17) 視聴覚機器及び教育用機器の利用は、適切だった。	2	6	3	0	0	0	3.9
	(18) 授業の進む速さは、適切だった。	0	6	3	2	0	0	3.4
	(19) 学生の疑問や質問に適切に答えた。	4	5	2	0	0	0	4.2
5 授業に対する満足度	(20) この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。	0	6	2	3	0	0	3.3



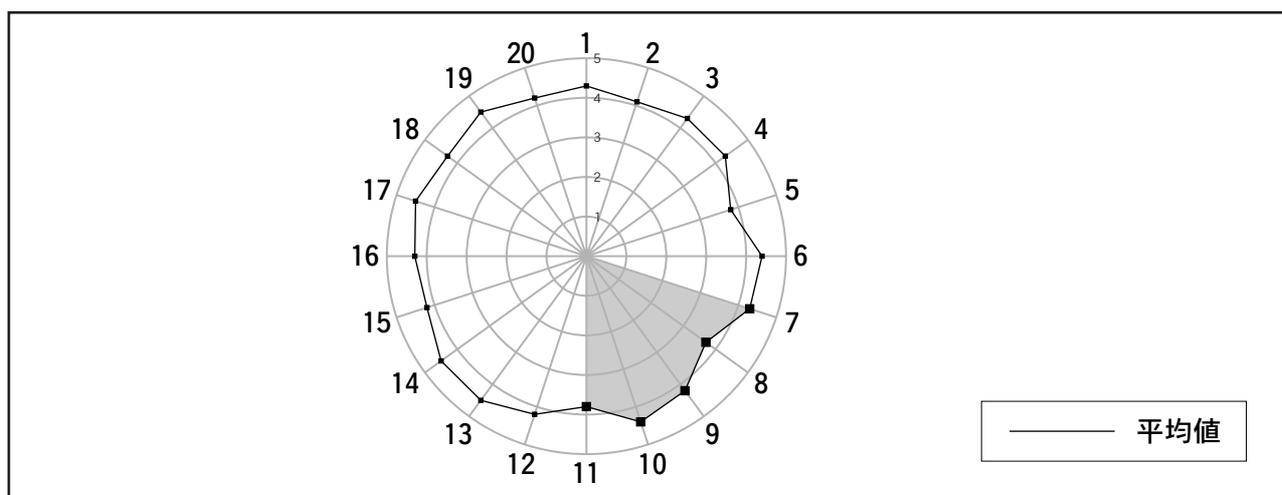
教員のコメント

実践情報教育 I Bは、実践情報教育 I Aと同様に、情報活用の実践力を養うことを目的としており、授業内容は、主に、ワードプロセッサ、表計算ソフト、プレゼンテーションソフトを活用し、実践力を養う課題を受講者が主体的に解決していくように構成している。そのため、質問項目(10)「積極的に課題に取り組んだ。」に対する評価値は、課題遂行に関連する大きな影響を及ぼすことが予想される。結果は、高い評価値から順に2, 5, 3, 1, 0であった。14名の受講者において、有効回答は7割強であった。得られた結果から考察すると、多くの学生は積極的に課題に取り組んでいるようである。そして、課題を解決するために、いくつかの問題も適切に解決して進めていったものと思われる。「非常にそうである」とした2名の回答については、他の質問項目の回答も相対的に高い値である。ただし、「授業中に積極的に発言や質問をした」については低い評点をつけており、与えられた資料を基にして主体的に課題を解決したことが予想される。一方で、「あまりそうではない」とした1名の回答については、他の評価項目も相対的に低い値を示している。ただし、「疑問や質問に適切に答える」は高い評価値を示している。これらは、本授業の性質の1つを表わしており、課題を解決するための積極的な取り組みが授業を効果的に活用できるかどうかを左右することが予想される。解決する課題の中には、専門性の高い課題も含まれており、理解するには時間のかかる部分が含まれているが、諦めずに課題に取り組む姿勢は高く評価できる。また、一方で、積極的に課題に取り組めなかった学生の要因も分析し、可能な限り多くの学生が課題を積極的に取り組むことで、授業を効果的に活用できるようにしたい。

授業科目名 実践情報教育ⅡA
 評価実施日 平成19年7月27日
 担当教員名 曾根 直人

回答者数 30名

質問項目	評価選択人数	評価選択人数						平均値 (科目別)
		5	4	3	2	1	N.A	
1 授業概要について	(1) 目標・授業計画・内容は、明確に示されていた。	14	10	6	0	0	0	4.3
	(2) 成績評価の方法は、明確に示されていた。	11	13	4	2	0	0	4.1
2 授業の内容等について	(3) 授業内容は、授業概要に沿っていた。	14	12	3	1	0	0	4.3
	(4) 授業内容は、教養や専門性を高めるものだった。	15	8	7	0	0	0	4.3
	(5) 授業内容は、教育に対する見方や考え方を学べるものだった。	7	12	9	2	0	0	3.8
	(6) 授業内容は、興味・関心を引くものだった。	15	12	3	0	0	0	4.4
3 あなたの授業への取り組みについて	(7) 授業によく出席した。	15	10	3	2	0	0	4.3
	(8) 授業内容をよく理解するために予習や復習をした。	9	7	11	3	0	0	3.7
	(9) 授業中に積極的に発言や質問をした。	11	15	4	0	0	0	4.2
	(10) 積極的に課題に取り組んだ。	16	11	3	0	0	0	4.4
	(11) 分からないことや疑問に思ったことは調べた。	7	13	6	4	0	0	3.8
4 教員の授業の進め方について	(12) 学生の理解状況を確かめながら授業を行った。	12	13	4	1	0	0	4.2
	(13) 学生参加型の授業だった。	18	10	1	1	0	0	4.5
	(14) 熱心に指導した。	19	8	2	1	0	0	4.5
	(15) 授業内容を分かりやすく説明した。	13	11	5	1	0	0	4.2
	(16) 教科書や配布資料等の教材は、内容を理解する上で適切だった。	14	12	3	1	0	0	4.3
	(17) 視聴覚機器及び教育用機器の利用は、適切だった。	18	9	3	0	0	0	4.5
	(18) 授業の進む速さは、適切だった。	14	11	5	0	0	0	4.3
	(19) 学生の疑問や質問に適切に答えた。	19	9	1	1	0	0	4.5
5 授業に対する満足度	(20) この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。	12	13	5	0	0	0	4.2



教員のコメント

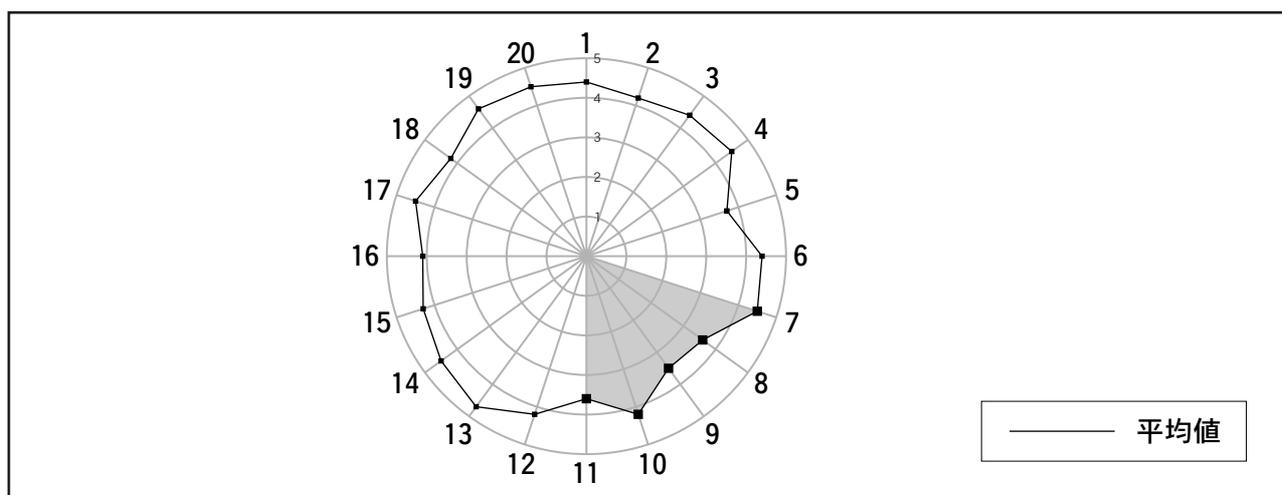
アンケート結果より、積極的に出席するものの、予習・復習や質問、疑問点の確認などはあまり積極的な取り組みが見られないことがわかる。利用したソフトはフリーソフトが主であり、自宅などでパソコンがあれば予習・復習のための環境を整備することは可能であるが、実際には学生自らがソフトをダウンロードし、環境を整えることは難しいと考えているのかもしれない。今後はフリーソフトを使った環境整備についても紹介するよう改善したい。また、パソコンによる作業が中心の授業のため、「教育に対する見方や考え方を学べるものだった。」という項目での評価が低かった。ICTの普及した今日では、授業で取り上げた作業は著作権や肖像権と密接な関係があり、教職に就いた後も考慮しなければならないことであるが、十分に関連を理解させることができていなかった面もあるとおもう。今後の授業では作業に加えて考慮しなければならない権利についても授業中に取り上げていきたい。

この授業ではフリーのLMS moodleを利用したが、概ね好評であった。インカレや介護等実習の関係で授業を休まざるを得ない学生が少なからずいるが、後日、moodleにアクセスし、休んだ講義の資料を閲覧しているようである。

授業科目名 実践情報教育ⅡB
 評価実施日 平成19年7月27日
 担当教員名 曾根 直人

回答者数 34名

質問項目		評価選択人数						平均値 (科目別)
		5	4	3	2	1	N.A	
1 授業概要について	(1) 目標・授業計画・内容は、明確に示されていた。	13	21	0	0	0	0	4.4
	(2) 成績評価の方法は、明確に示されていた。	14	14	4	2	0	0	4.2
2 授業の内容等について	(3) 授業内容は、授業概要に沿っていた。	16	16	2	0	0	0	4.4
	(4) 授業内容は、教養や専門性を高めるものだった。	20	12	2	0	0	0	4.5
	(5) 授業内容は、教育に対する見方や考え方を学べるものだった。	10	9	10	5	0	0	3.7
	(6) 授業内容は、興味・関心を引くものだった。	16	15	3	0	0	0	4.4
3 あなたの授業への取り組みについて	(7) 授業によく出席した。	22	8	4	0	0	0	4.5
	(8) 授業内容をよく理解するために予習や復習をした。	8	7	16	3	0	0	3.6
	(9) 授業中に積極的に発言や質問をした。	6	14	7	3	3	0	3.5
	(10) 積極的に課題に取り組んだ。	14	15	4	0	1	0	4.2
	(11) 分からないことや疑問に思ったことは調べた。	9	10	8	5	2	0	3.6
4 教員の授業の進め方について	(12) 学生の理解状況を確認しながら授業を行った。	14	16	3	0	1	0	4.2
	(13) 学生参加型の授業だった。	23	11	0	0	0	0	4.7
	(14) 熱心に指導した。	18	14	1	0	0	0	4.5
	(15) 授業内容を分かりやすく説明した。	14	17	2	1	0	0	4.3
	(16) 教科書や配布資料等の教材は、内容を理解する上で適切だった。	12	14	7	0	1	0	4.1
	(17) 視聴覚機器及び教育用機器の利用は、適切だった。	19	14	1	0	0	0	4.5
	(18) 授業の進む速さは、適切だった。	15	14	3	1	1	0	4.2
	(19) 学生の疑問や質問に適切に答えた。	23	8	3	0	0	0	4.6
5 授業に対する満足度	(20) この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。	17	17	0	0	0	0	4.5



教員のコメント

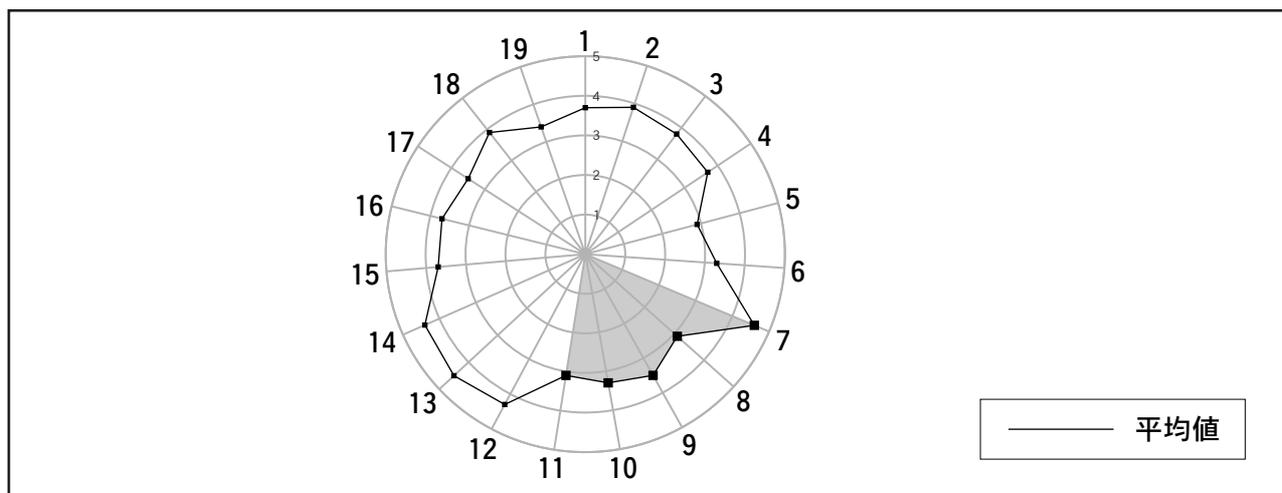
アンケート結果より、積極的に出席するものの、予習・復習や質問、疑問点の確認などはあまり積極的な取り組みが見られないことがわかる。利用したソフトはフリーソフトが主であり、自宅などでパソコンがあれば予習・復習のための環境を整備することは可能であるが、実際には学生自らがソフトをダウンロードし、環境を整えることは難しいと考えているのかもしれない。今後はフリーソフトを使った環境整備についても紹介するよう改善したい。また、パソコンによる作業が中心の授業のため、「教育に対する見方や考え方を学べるものだった。」という項目での評価が低かった。ICTの普及した今日では、授業で取り上げた作業は著作権や肖像権と密接な関係があり、教職に就いた後も考慮しなければならないことであるが、十分に関連を理解させることができていなかった面もあるとおもう。今後の授業では作業に加えて考慮しなければならない権利についても授業中に上げていきたい。

この授業ではフリーのLMS moodleを利用したが、概ね好評であった。インカレや介護等実習の関係で授業を休まざるを得ない学生が少なからずいるが、後日、moodleにアクセスし、休んだ講義の資料を閲覧しているようである。

授業科目名 英語リーディング I B
 評価実施日 平成19年7月27日
 担当教員名 薮下 克彦

回答者数 41名

質問項目		評価選択人数						平均値 (科目別)
		5	4	3	2	1	N.A	
1 授業概要について	(1) 目標・授業計画・内容は、明確に示されていた。	8	14	18	1	0	0	3.7
	(2) 成績評価の方法は、明確に示されていた。	10	19	8	4	0	0	3.9
2 授業の内容等について	(3) 授業内容は、授業概要に沿っていた。	8	18	12	3	0	0	3.8
	(4) 授業内容は、教養や専門性を高めるものだった。	9	15	11	6	0	0	3.7
	(5) 授業内容は、教育に対する見方や考え方を学べるものだった。	2	12	10	13	3	0	2.9
	(6) 授業内容は、興味・関心を引くものだった。	3	15	16	6	1	0	3.3
3 あなたの授業への取り組みについて	(7) 授業によく出席した。	27	10	4	0	0	0	4.6
	(8) 授業内容をよく理解するために予習や復習をした。	5	10	13	9	4	0	3.1
	(9) 授業中に積極的に発言や質問をした。	13	10	7	8	3	0	3.5
	(10) 積極的に課題に取り組んだ。	6	10	16	8	1	0	3.3
	(11) 分からないことや疑問に思ったことは調べた。	7	6	15	11	2	0	3.1
4 教員の授業の進め方について	(12) 学生の理解状況を確かめながら授業を行った。	22	11	5	2	0	0	4.3
	(13) 学生参加型の授業だった。	25	14	1	1	0	0	4.5
	(14) 熱心に指導した。	20	16	5	0	0	0	4.4
	(15) 授業内容を分かりやすく説明した。	8	17	13	3	0	0	3.7
	(16) 教科書や配布資料等の教材は、内容を理解する上で適切だった。	12	7	16	5	0	0	3.7
	(17) 授業の進む速さは、適切だった。	8	13	15	3	2	0	3.5
	(18) 学生の疑問や質問に適切に答えた。	10	18	12	1	0	0	3.9
	(19) この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。	6	13	14	7	1	0	3.4



教員のコメント

まず、総論として、項目2(5)以外の平均値は3以上であったので、おおむね良好な評価を得たと思っている。この授業は、教養基礎科目で、特に教育に対する見方や考え方を意識したものではないので、項目2(5)の評価が低いのは自然であると思われる。それでも、「授業の指導の仕方なども話していただいて良かった」と教育面への関連性を評価する意見もあった。

この授業は、英語資格試験の一つであるTOEIC、特に、文法の対策を授業内容の中心とし、授業の形態は、練習問題の解答を軸にして進める形を取った。その際、解答者を指名するのではなく、自発的に発表することとし、発表回数に応じポイントを与え、そのポイントを成績に反映させる方式を取った。

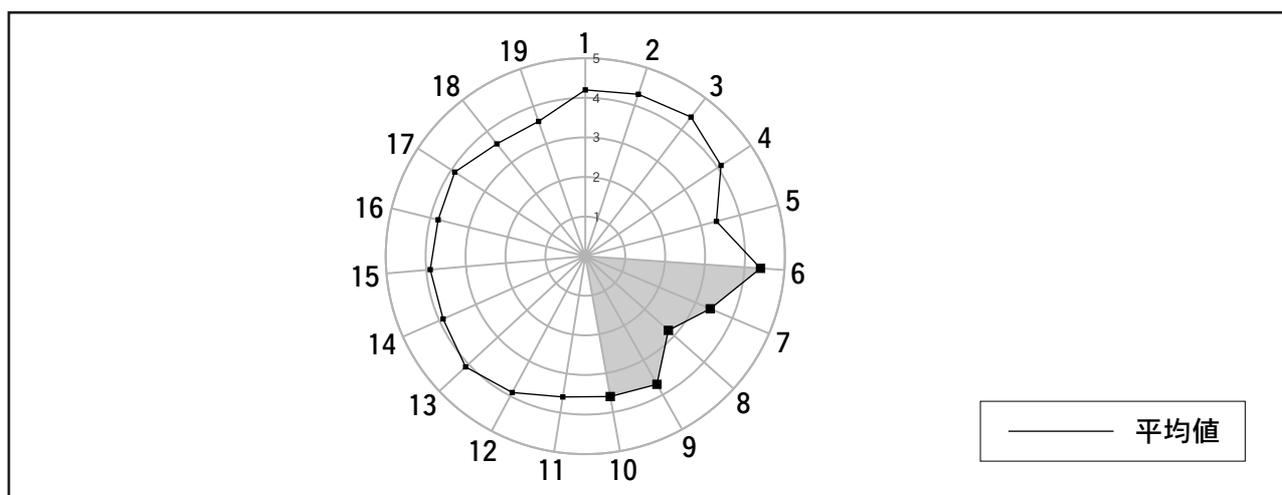
この授業の主な目的は、TOEIC、特に、その文法問題対策であるが、「高校までのあやふやな文法知識を整理することができた」の様に、英文法を「勉強し直す」ことができたというコメントが、かなり見られた。授業者は常々、現在の英語科教育では、文法指導が十分に行われておらず、学生も文法知識の必要性を認識していると思っいるが、上のようなコメントはそのことを裏打ちしている。その意味で、本授業が高校までの英文法の補償教育としての役割も果たしているということが出来る。

最後に、授業の進め方に関する受講生の意見に関して試みる。「先生の外国での体験話を聞くのが楽しかった」、「訳にこだわらず英語で通したのが良かった」などの意見から、英語を学習するための「雰囲気づくり」にある程度は成功していたということが出来る。ペースに関しては、「学生のペースで授業を進めてくれたので良かった」という意見があった反面、「もう少しペースを早くしてほしいかった」という意見もあった。また、レベルに関しては、上で述べたように、高校の復習が出来た、基礎の勉強をし直すことが出来た、と評価する声もあったが、もう少し上のレベルの内容を望む声もあった。また、上で述べたように、自発的解答・発言・発表を前提とした授業運営を歓迎する人もいれば、自発的な発言がない場合の授業進行を心配する人もいた。全ての受講生に適した授業の進め方があるかに関しては疑問であるが、能力別クラス編成も検討してみる価値があると思われる。いずれにしても、上の意見やその他の意見を参考によりよい授業作りに努めたいと思っている。

授業科目名 英語リーディングⅡB
 評価実施日 平成20年2月29日
 担当教員名 伊東 治己

回答者数 40名

質問項目		評価選択人数						平均値 (科目別)
		5	4	3	2	1	N.A	
1 授業概要について	(1) 目標・授業計画・内容は、明確に示されていた。	16	16	7	1	0	0	4.2
	(2) 成績評価の方法は、明確に示されていた。	19	13	7	0	0	1	4.3
2 授業の内容等について	(3) 授業内容は、授業概要に沿っていた。	22	11	6	0	0	1	4.4
	(4) 授業内容は、教養や専門性を高めるものだった。	14	17	7	0	1	1	4.1
	(5) 授業内容は、興味・関心を引くものだった。	7	12	9	6	2	4	3.4
3 あなたの授業への取り組みについて	(6) 授業によく出席した。	22	13	3	2	0	0	4.4
	(7) 授業内容をよく理解するために予習や復習をした。	7	9	19	3	2	0	3.4
	(8) 授業中に積極的に発言や質問をした。	3	5	17	9	6	0	2.8
	(9) 教員の説明をよく聞いた。	8	14	14	4	0	0	3.7
	(10) 分からないことや疑問に思ったことは調べた。	10	10	13	6	1	0	3.6
4 教員の授業の進め方について	(11) 学生の理解状況を確かめながら授業を行った。	5	17	14	3	1	0	3.6
	(12) 学生が参加しやすい授業だった。	10	15	14	1	0	0	3.9
	(13) 熱心に指導した。	16	16	6	1	1	0	4.1
	(14) 授業内容を分かりやすく説明した。	9	19	10	2	0	0	3.9
	(15) 教科書や配布資料等の教材は、内容を理解する上で適切だった。	10	16	12	2	0	0	3.9
	(16) 視聴覚機器及び教育用機器の利用は、適切だった。	11	12	14	2	0	1	3.8
	(17) 教員の声は、聞き取りやすかった。	14	13	10	2	1	0	3.9
	(18) 授業の進む速さは、適切だった。	8	12	17	3	0	0	3.6
5 授業に対する満足度	(19) この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。	7	15	14	2	2	0	3.6



教員のコメント

本授業は、英語能力試験として広く活用されているTOEICに対応したリーディングテキスト及び最新の英字新聞の記事を教材とし、国際化・情報化に対応できる英語リーディング能力、つまり、英語で書かれた内容を正確かつ迅速に読みこなす能力の育成を目指すものであった。授業評価の結果から判断する限り、決して高くはないが、概ね好意的な評価を得られたものと思われる。なお、受講生から寄せられた感想から判断する限り、今回の授業で行った二つの活動のうち、毎時間の授業の前半に行った英字新聞の記事を使ったリーディング活動は、比較的好意的に受け取られているようである。具体的には、「新聞記事を読むのが楽しかったです」「新聞記事の穴埋めが良かった。前後の文意を考えながら解けた」「今現在起こっている世界のニュースを英語で読めた」「新聞記事を使うことで、時事問題も分かって良かった」「新聞記事の切り抜きで、タイムリーな問題を英語で解けた」「新聞記事の読み取りは英語の読解力を高めるとともに、世界で今起きているニュースに興味を持つきっかけになった」などの好意的な意見が寄せられた。英語読解力の向上に加え、受講生の視野を世界へ広げるといった当初の目的がある程度達成されたものと思われる。授業の進め方に関しては、かなり改善の余地が残されている。今後も検討して行きたい。

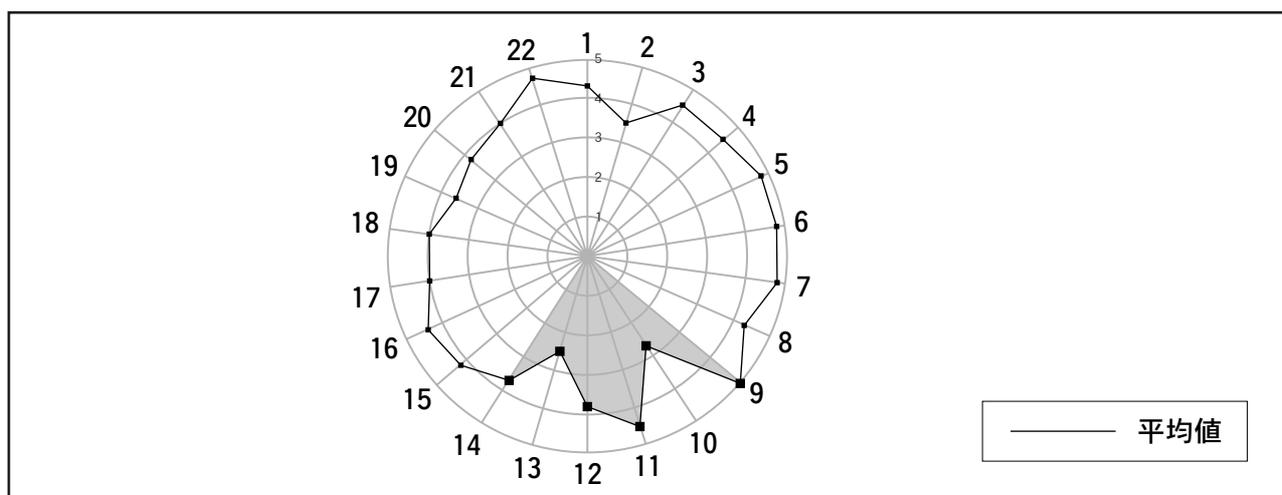
教育実践コア科目

授業科目名 幼児教育実践基礎演習

評価実施日 平成19年7月26日

担当教員名 橋川喜美代, 浜崎 隆司, 田村 隆宏, 木村 直子, 塩路 晶子 回答者数 6名

質問項目	質問内容	評価選択人数						平均値 (科目別)
		5	4	3	2	1	N.A	
1 授業概要について	(1) 目標・授業計画・内容は、明確に示されていた。	2	4	0	0	0	0	4.3
	(2) 成績評価の方法は、明確に示されていた。	0	3	3	0	0	0	3.5
2 授業の内容等について	(3) 授業概要のねらいにそった授業内容であった。	3	3	0	0	0	0	4.5
	(4) 教科または幼児教育・障害児教育の意義を知り、人間理解を深める授業内容であった。	3	3	0	0	0	0	4.5
	(5) 教科または幼児教育・障害児教育の特性を理解させる授業内容であった。	5	1	0	0	0	0	4.8
	(6) 教職の意義や重要性が理解できる授業内容であった。	5	1	0	0	0	0	4.8
	(7) 教職に対する興味・関心が高まる授業内容であった。	5	1	0	0	0	0	4.8
	(8) 教職への意欲が持てる課題を含んだ授業内容であった。	2	4	0	0	0	0	4.3
3 あなたの授業への取り組みについて	(9) 授業によく出席した。	6	0	0	0	0	0	5.0
	(10) 授業内容について授業時間外に準備やまとめをした。	0	2	1	2	1	0	2.7
	(11) 積極的に実験、実習、実技等に取り組んだ。	3	3	0	0	0	0	4.5
	(12) 教員の説明をよく聞き意欲的に課題に取り組んだ。	0	5	1	0	0	0	3.8
	(13) 分からないことや疑問に思ったことは調べた。	0	0	3	3	0	0	2.5
	(14) 授業に関連した内容について友人や教員と話し合った。	0	4	2	0	0	0	3.7
4 教員の授業の進め方について	(15) 学生の理解状況を確かめながら授業を行った。	2	2	1	0	0	0	4.2
	(16) 熱心に指導した。	3	1	1	0	0	0	4.4
	(17) 授業内容を分かりやすく伝えた。	1	3	1	0	0	0	4.0
	(18) 教科書や配布資料等の教材は、内容を理解する上で適切だった。	1	3	1	0	0	0	4.0
	(19) 教育用機器や設備など教具の利用は適切だった。	0	3	2	0	0	0	3.6
	(20) 教員の声は、聞き取りやすかった。	0	4	1	0	0	0	3.8
5 授業に対する満足度	(21) 与えられた課題のレベルや分量は適切だった。	1	3	1	0	0	0	4.0
	(22) この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。	4	2	0	0	0	0	4.7



教員のコメント

質問項目の結果は全22項目中15項目において4点台であったことから、授業概要との対応、内容面、授業の進め方、授業に対する満足度については概ね高い評価が得られた。ただし、学生の授業への取り組みに関して「授業内容について授業時間外に準備やまとめをした」と「分からないことや疑問に思ったことは調べた」の項目で2点台と評価が低かった。今後の授業では、これらの項目に関わる学生自らが学ぶ態度を促していく必要がある。自由記述の結果も、「子どもについて深く知ることができた」、「保育の大切さが理解できた」、「専門的なことが学べた」などが主たるものであり、高い評価が得られたことから、内容は引き継ぎつつ、さらに洗練させていくことを目指したい。

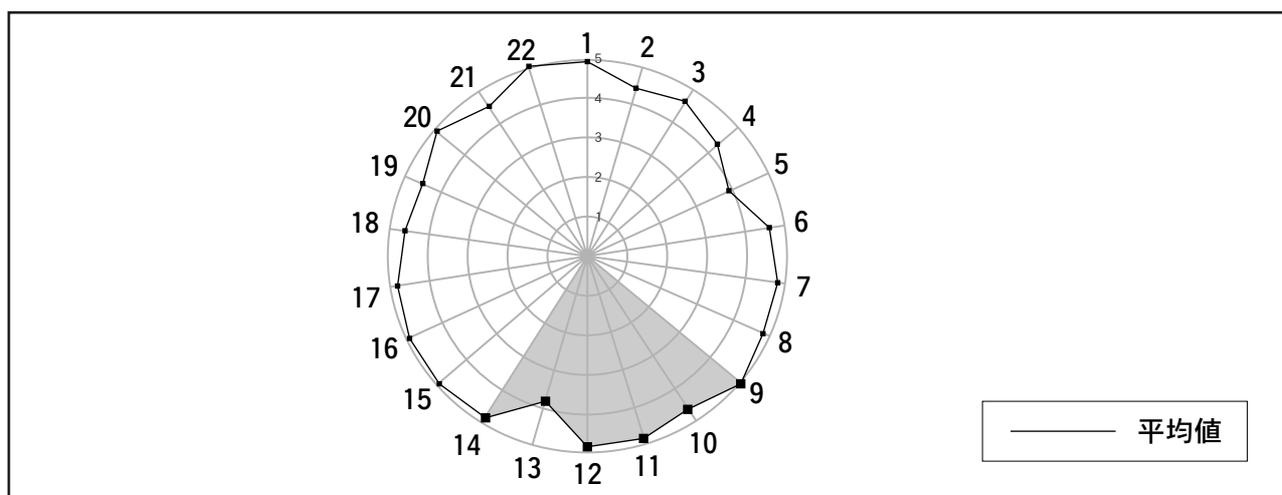
授業科目名 初等中等教育実践基礎演習（学校教育コース）

評価実施日 平成19年7月18日

担当教員名 川上 綾子, 佐古 秀一, 豊成 哲

回答者数 8名

質問項目	評価選択人数						平均値 (科目別)	
	5	4	3	2	1	N.A		
1 授業概要について	(1) 目標・授業計画・内容は、明確に示されていた。	7	1	0	0	0	0	4.9
	(2) 成績評価の方法は、明確に示されていた。	3	5	0	0	0	0	4.4
2 授業の内容等について	(3) 授業概要のねらいにそった授業内容であった。	5	3	0	0	0	0	4.6
	(4) 教科または幼児教育・障害児教育の意義を知り、人間理解を深める授業内容であった。	4	3	0	1	0	0	4.3
	(5) 教科または幼児教育・障害児教育の特性を理解させる授業内容であった。	2	3	3	0	0	0	3.9
	(6) 教職の意義や重要性が理解できる授業内容であった。	6	1	1	0	0	0	4.6
	(7) 教職に対する興味・関心が高まる授業内容であった。	7	0	1	0	0	0	4.8
	(8) 教職への意欲が持てる課題を含んだ授業内容であった。	7	0	1	0	0	0	4.8
3 あなたの授業への取り組みについて	(9) 授業によく出席した。	8	0	0	0	0	0	5.0
	(10) 授業内容について授業時間外に準備やまとめをした。	5	3	0	0	0	0	4.6
	(11) 積極的に実験、実習、実技等に取り組んだ。	6	2	0	0	0	0	4.8
	(12) 教員の説明をよく聞き意欲的に課題に取り組んだ。	6	2	0	0	0	0	4.8
	(13) 分からないことや疑問に思ったことは調べた。	1	4	3	0	0	0	3.8
	(14) 授業に関連した内容について友人や教員と話し合った。	6	2	0	0	0	0	4.8
4 教員の授業の進め方について	(15) 学生の理解状況を確かめながら授業を行った。	7	1	0	0	0	0	4.9
	(16) 熱心に指導した。	7	1	0	0	0	0	4.9
	(17) 授業内容を分かりやすく伝えた。	6	2	0	0	0	0	4.8
	(18) 教科書や配布資料等の教材は、内容を理解する上で適切だった。	6	1	1	0	0	0	4.6
	(19) 教育用機器や設備など教具の利用は適切だった。	4	4	0	0	0	0	4.5
	(20) 教員の声は、聞き取りやすかった。	7	1	0	0	0	0	4.9
5 授業に対する満足度	(21) 与えられた課題のレベルや分量は適切だった。	5	2	1	0	0	0	4.5
	(22) この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。	8	0	0	0	0	0	5.0



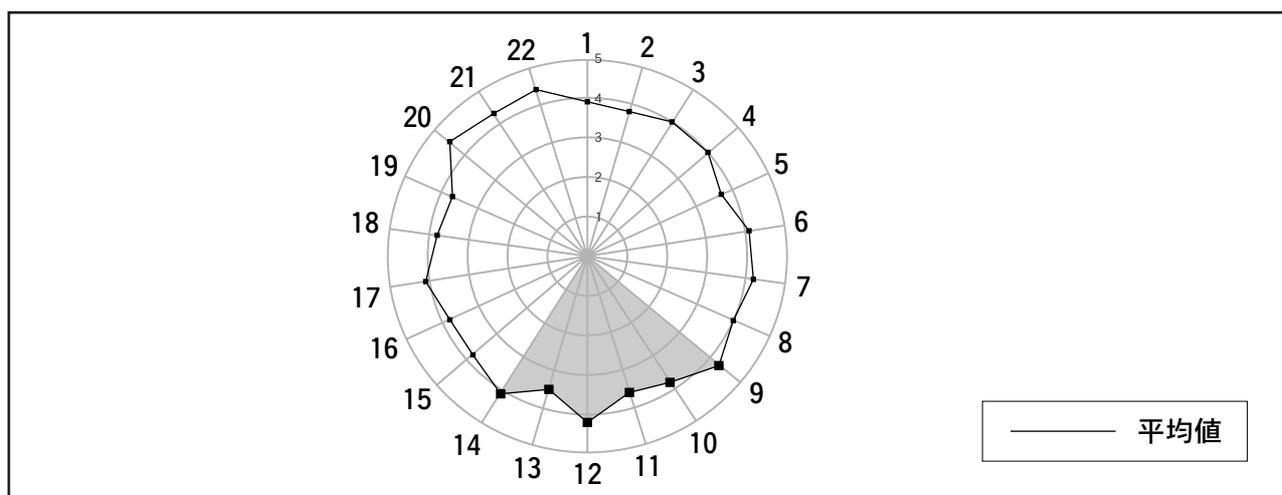
教員のコメント

概ね肯定的な評価結果であった。“一日学校訪問”という活動を中心とした授業内容は、『この授業でよかったこと』に関する自由記述欄にも「より実践的な内容ですごく満足した」「実習（記入者注：一日学校訪問のこと）など独自の取り組みができた」とあったように、学生に好意的に受けとめられたと考える。ただ、項目(6)～(8)で「3：どちらでもない」と答えている1名が同一の学生であることから、学生によっては、学校を訪問し教師の仕事の垣間見たり子どもたちと触れあったりする経験が、かえって教職への不安や迷いにつながることもあるのではないかと考えられた。しかし、この学生は上記の後者の自由記述を書いた者でもあることから学校訪問活動そのものをネガティブに捉えているわけではなく、また『改善したほうがよいと思うこと』の記述欄には「現職の先生の話をもっと聞きたかった」と記載していたので、教職への関心や意欲を高めるためには、訪問に際しての事前・事後指導も重要であり、それに関する工夫の必要性を感じた。クラス担当教員として今後も接していく学生たちであるので、長期的な見通しからの支援も含めて考えていきたい。

授業科目名 初等中等教育実践基礎演習（国語科教育コース）
 評価実施日 平成19年7月18日
 担当教員名 松原 一義, 赤松, 小野, 永田, 幾田, 茂木, 原, 豊成

回答者数 13名

質問項目		評価選択人数						平均値 (科目別)
		5	4	3	2	1	N.A	
1 授業概要について	(1) 目標・授業計画・内容は、明確に示されていた。	5	3	4	1	0	0	3.9
	(2) 成績評価の方法は、明確に示されていた。	3	5	4	1	0	0	3.8
2 授業の内容等について	(3) 授業概要のねらいにそった授業内容であった。	5	3	5	0	0	0	4.0
	(4) 教科または幼児教育・障害児教育の意義を知り、人間理解を深める授業内容であった。	4	5	4	0	0	0	4.0
	(5) 教科または幼児教育・障害児教育の特性を理解させる授業内容であった。	3	3	7	0	0	0	3.7
	(6) 教職の意義や重要性が理解できる授業内容であった。	5	4	4	0	0	0	4.1
	(7) 教職に対する興味・関心が高まる授業内容であった。	5	5	3	0	0	0	4.2
	(8) 教職への意欲が持てる課題を含んだ授業内容であった。	3	7	3	0	0	0	4.0
3 あなたの授業への取り組みについて	(9) 授業によく出席した。	8	1	4	0	0	0	4.3
	(10) 授業内容について授業時間外に準備やまとめをした。	6	3	2	0	2	0	3.8
	(11) 積極的に実験、実習、実技等に取り組んだ。	4	3	4	1	1	0	3.6
	(12) 教員の説明をよく聞き意欲的に課題に取り組んだ。	7	2	3	1	0	0	4.2
	(13) 分からないことや疑問に思ったことは調べた。	5	1	4	1	2	0	3.5
	(14) 授業に関連した内容について友人や教員と話し合った。	6	2	5	0	0	0	4.1
4 教員の授業の進め方について	(15) 学生の理解状況を確かめながら授業を行った。	2	7	3	1	0	0	3.8
	(16) 熱心に指導した。	4	5	3	0	1	0	3.8
	(17) 授業内容を分かりやすく伝えた。	4	6	3	0	0	0	4.1
	(18) 教科書や配布資料等の教材は、内容を理解する上で適切だった。	3	5	5	0	0	0	3.8
	(19) 教育用機器や設備など教具の利用は適切だった。	3	5	4	0	1	0	3.7
	(20) 教員の声は、聞き取りやすかった。	7	5	1	0	0	0	4.5
5 授業に対する満足度	(21) 与えられた課題のレベルや分量は適切だった。	7	3	3	0	0	0	4.3
	(22) この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。	8	2	3	0	0	0	4.4



教員のコメント

全体に評価が低かった事は反省させられる。(1)(2)(5)などにおいて工夫が必要である。一年生に入学したばかりの受講生にとっては、説明が重要であることがこのアンケートから理解出来る。

また学生は(13)においてわかるように調べることが自発的には十分になされていないので、それらについての手引きが大変重要であると思われる。

今後は特に入学して初めての学期を迎えることをよく配慮して、研究の基礎になるような調査などについてかなり丁寧に指導する必要があると考えるものである。

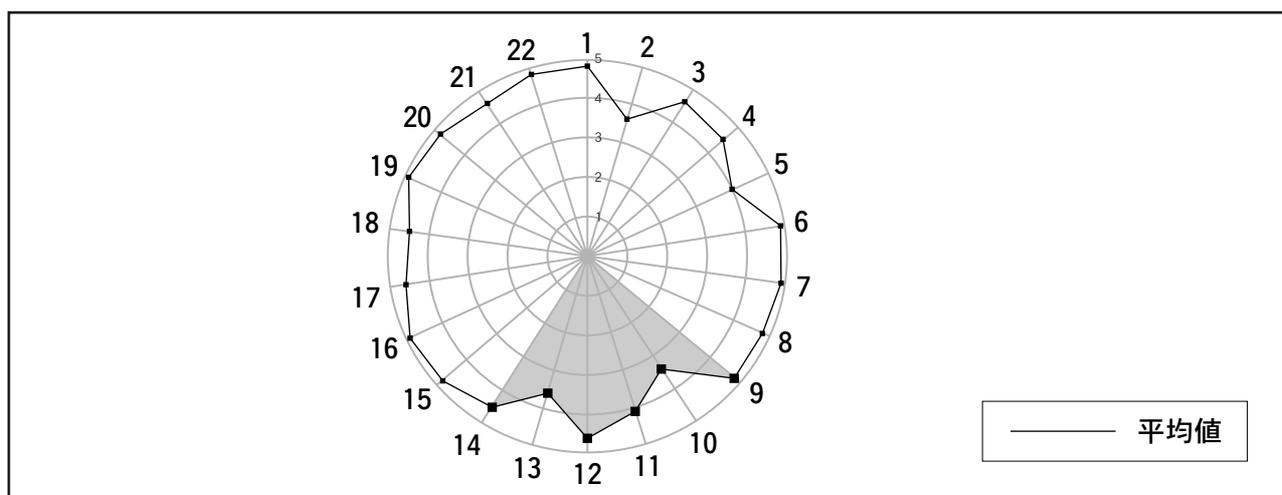
授業科目名 初等中等教育実践基礎演習（英語科教育コース）

評価実施日 平成19年7月18日

担当教員名 前田 一平, 太田垣正義, 山森 直人, 豊成 哲

回答者数 8名

質問項目	評価選択人数						平均値 (科目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
1 授業概要について	(1) 目標・授業計画・内容は、明確に示されていた。	6	2	0	0	0	4.8
	(2) 成績評価の方法は、明確に示されていた。	1	2	4	0	0	3.6
2 授業の内容等について	(3) 授業概要のねらいにそった授業内容であった。	5	3	0	0	0	4.6
	(4) 教科または幼児教育・障害児教育の意義を知り、人間理解を深める授業内容であった。	5	2	1	0	0	4.5
	(5) 教科または幼児教育・障害児教育の特性を理解させる授業内容であった。	2	4	2	0	0	4.0
	(6) 教職の意義や重要性が理解できる授業内容であった。	7	1	0	0	0	4.9
	(7) 教職に対する興味・関心が高まる授業内容であった。	7	1	0	0	0	4.9
	(8) 教職への意欲が持てる課題を含んだ授業内容であった。	6	2	0	0	0	4.8
	(9) 授業によく出席した。	6	2	0	0	0	4.8
3 あなたの授業への取り組みについて	(10) 授業内容について授業時間外に準備やまとめをした。	1	3	3	0	1	3.4
	(11) 積極的に実験、実習、実技等に取り組んだ。	2	4	1	0	0	4.1
	(12) 教員の説明をよく聞き意欲的に課題に取り組んだ。	5	3	0	0	0	4.6
	(13) 分からないことや疑問に思ったことは調べた。	1	5	1	0	1	3.6
	(14) 授業に関連した内容について友人や教員と話し合った。	7	0	0	0	1	4.5
4 教員の授業の進め方について	(15) 学生の理解状況を確かめながら授業を行った。	6	2	0	0	0	4.8
	(16) 熱心に指導した。	7	1	0	0	0	4.9
	(17) 授業内容を分かりやすく伝えた。	5	3	0	0	0	4.6
	(18) 教科書や配布資料等の教材は、内容を理解する上で適切だった。	5	2	1	0	0	4.5
	(19) 教育用機器や設備など教具の利用は適切だった。	7	1	0	0	0	4.9
	(20) 教員の声は、聞き取りやすかった。	6	2	0	0	0	4.8
	(21) 与えられた課題のレベルや分量は適切だった。	5	3	0	0	0	4.6
5 授業に対する満足度	(22) この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。	6	2	0	0	0	4.8



教員のコメント

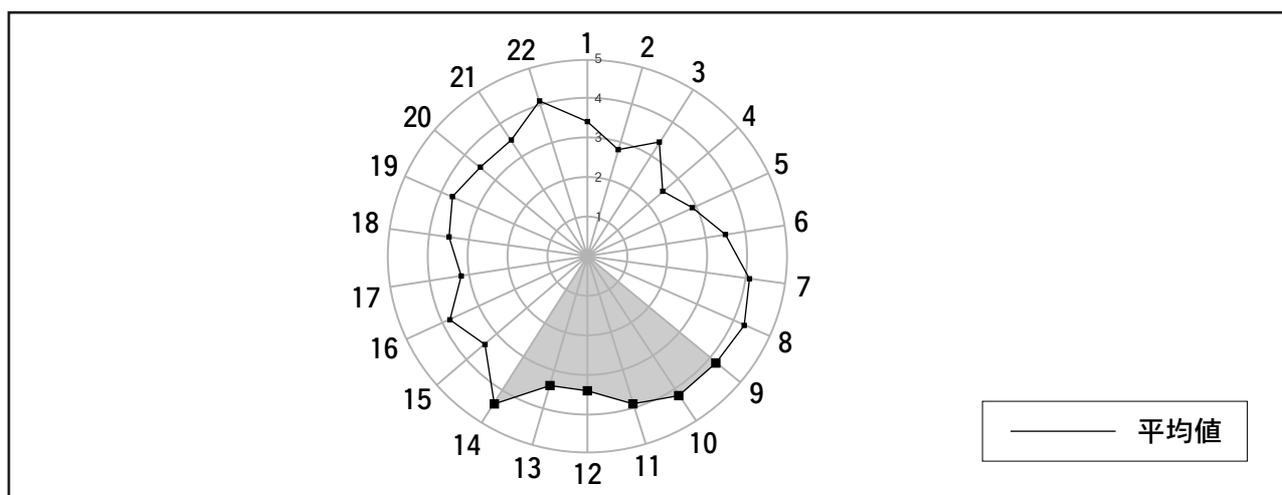
成績評価方法に関する質問(2)と学生自身の授業への取り組みに関する質問(10), (13)が3点台であった。それ以外はすべて4点台で、そのほとんどが4.5以上の評価である。授業に対する満足度を問う(22)の平均値は4.8である。提言も、肯定的な評価が多く、改善点については「脱線が多く時間が不足する先生もいた」、「複数教員担当の授業は先生によって良し悪しに差がある」という指摘があった。全体的に期待以上の高評価であった。今後のための反省材料として考慮すべきは、複数教員担当の授業にありがちな評価方法の不明確さを指摘されたことと、受講生が授業へ主体的に取り組めていないという自己判断であろう。新しい授業なので、改善を重ね、受講生が自学習に積極的に取り組むことができる環境づくりに努め、授業に受講生が参加する議論を取り入れるべく工夫し、その評価の仕方を明示することが必要であると判断する。

授業科目名 初等中等教育実践基礎演習（社会科教育コース）

評価実施日 平成19年7月18日

担当教員名 齋木 哲郎, 草原 和博, 大石 雅章, 豊成 哲, 萬玉 吉博 回答者数 11名

質問項目	評価選択人数						平均値 (科目別)	
	5	4	3	2	1	N.A		
1 授業概要について	(1) 目標・授業計画・内容は、明確に示されていた。	2	4	2	2	1	0	3.4
	(2) 成績評価の方法は、明確に示されていた。	0	2	6	2	1	0	2.8
2 授業の内容等について	(3) 授業概要のねらいにそった授業内容であった。	1	5	3	1	1	0	3.4
	(4) 教科または幼児教育・障害児教育の意義を知り、人間理解を深める授業内容であった。	1	2	1	5	2	0	2.5
	(5) 教科または幼児教育・障害児教育の特性を理解させる授業内容であった。	1	2	4	3	1	0	2.9
	(6) 教職の意義や重要性が理解できる授業内容であった。	3	3	2	2	1	0	3.5
	(7) 教職に対する興味・関心が高まる授業内容であった。	6	2	1	2	0	0	4.1
	(8) 教職への意欲が持てる課題を含んだ授業内容であった。	5	4	0	1	0	1	4.3
3 あなたの授業への取り組みについて	(9) 授業によく出席した。	3	7	1	0	0	0	4.2
	(10) 授業内容について授業時間外に準備やまとめをした。	5	3	3	0	0	0	4.2
	(11) 積極的に実験、実習、実技等に取り組んだ。	2	6	3	0	0	0	3.9
	(12) 教員の説明をよく聞き意欲的に課題に取り組んだ。	0	7	2	1	1	0	3.4
	(13) 分からないことや疑問に思ったことは調べた。	2	2	5	2	0	0	3.4
	(14) 授業に関連した内容について友人や教員と話し合った。	7	3	0	0	1	0	4.4
4 教員の授業の進め方について	(15) 学生の理解状況を確かめながら授業を行った。	1	3	6	1	0	0	3.4
	(16) 熱心に指導した。	3	4	3	1	0	0	3.8
	(17) 授業内容を分かりやすく伝えた。	1	3	4	3	0	0	3.2
	(18) 教科書や配布資料等の教材は、内容を理解する上で適切だった。	2	3	5	1	0	0	3.5
	(19) 教育用機器や設備など教具の利用は適切だった。	2	4	5	0	0	0	3.7
	(20) 教員の声は、聞き取りやすかった。	2	4	3	2	0	0	3.5
5 授業に対する満足度	(21) 与えられた課題のレベルや分量は適切だった。	2	3	5	0	1	0	3.5
	(22) この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。	5	3	2	1	0	0	4.1



教員のコメント

授業内容が「基礎演習」でありながら、質問項目が講義用である点、今回の評価数値が果たしてこの授業の評価を正確に反映しているかどうか、疑問が残らないとはいええない。とはいえ、全体的に見れば学生諸君の教育にける情熱や意欲が窺える成果となっていよう。「あなたの授業への取り組みについて」の各項目は他の領域の数値に比較して高レベルの数値を示している。また授業に対する満足度も「4.1」と比較的高い。この気持ちを忘れず、このまま自己が理想とする教員へ向けて突き進んでいただきたいものである。

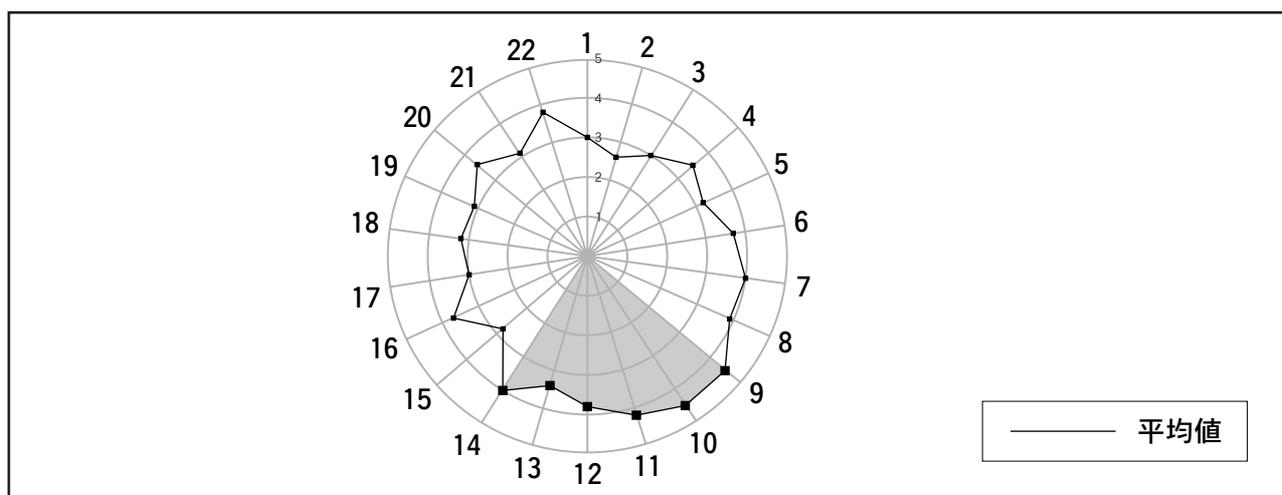
授業科目名 初等中等教育実践基礎演習（算数科・数学科教育コース）

評価実施日 平成19年7月18日

担当教員名 平野 康之，豊成 哲

回答者数 13名

質問項目	評価選択人数						平均値 (科目別)	
	5	4	3	2	1	N.A		
1 授業概要について	(1) 目標・授業計画・内容は、明確に示されていた。	1	3	6	1	2	0	3.0
	(2) 成績評価の方法は、明確に示されていた。	0	2	6	3	2	0	2.6
2 授業の内容等について	(3) 授業概要のねらいにそった授業内容であった。	1	2	7	2	1	0	3.0
	(4) 教科または幼児教育・障害児教育の意義を知り、人間理解を深める授業内容であった。	2	5	5	0	1	0	3.5
	(5) 教科または幼児教育・障害児教育の特性を理解させる授業内容であった。	1	4	6	1	1	0	3.2
	(6) 教職の意義や重要性が理解できる授業内容であった。	1	7	5	0	0	0	3.7
	(7) 教職に対する興味・関心が高まる授業内容であった。	3	7	3	0	0	0	4.0
	(8) 教職への意欲が持てる課題を含んだ授業内容であった。	4	5	3	1	0	0	3.9
3 あなたの授業への取り組みについて	(9) 授業によく出席した。	9	2	2	0	0	0	4.5
	(10) 授業内容について授業時間外に準備やまとめをした。	7	5	1	0	0	0	4.5
	(11) 積極的に実験、実習、実技等に取り組んだ。	5	6	2	0	0	0	4.2
	(12) 教員の説明をよく聞き意欲的に課題に取り組んだ。	2	7	4	0	0	0	3.8
	(13) 分からないことや疑問に思ったことは調べた。	2	4	5	1	1	0	3.4
	(14) 授業に関連した内容について友人や教員と話し合った。	2	10	0	1	0	0	4.0
4 教員の授業の進め方について	(15) 学生の理解状況を確かめながら授業を行った。	0	4	4	4	1	0	2.8
	(16) 熱心に指導した。	2	6	4	1	0	0	3.7
	(17) 授業内容を分かりやすく伝えた。	0	4	6	2	1	0	3.0
	(18) 教科書や配布資料等の教材は、内容を理解する上で適切だった。	0	5	5	3	0	0	3.2
	(19) 教育用機器や設備など教具の利用は適切だった。	1	3	5	4	0	0	3.1
	(20) 教員の声は、聞き取りやすかった。	3	5	3	1	1	0	3.6
5 授業に対する満足度	(21) 与えられた課題のレベルや分量は適切だった。	2	4	2	3	2	0	3.1
	(22) この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。	6	2	2	3	0	0	3.8



教員のコメント

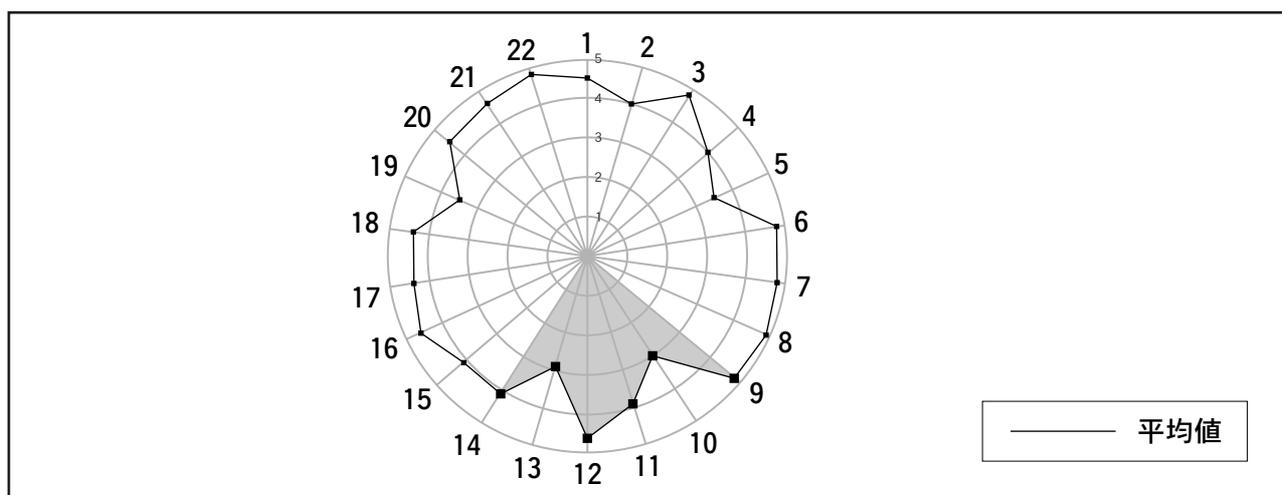
ほぼ全般的に値が3～5に集中しており、「この授業は自分自身にとって満足のいくものであった」という質問項目に対する評価では5が46%以上、3～5が76%以上を占めており、平均値3.8であったこと、熱心に指導したことに対する評価が良かったので、受講者が概ね、この授業に満足しているものと思われる。学生が授業によく出席し、教員の説明をよく聞いてくれたことに対しては感謝したい。受講生の発表、発言する場をたくさん設けたので、授業時間外に準備やまとめをし、積極的に授業に取り組んでくれた。受講生の模擬授業も成績評価に大きく影響したので、成績評価の方法が受講生にわかりにくかったことは反省すべきであると考え。「授業に関連した内容について友人や教員と話し合った」、「教職に対する興味・関心が高まる授業であった。」という質問項目に対する評価の平均値が共に4.0であったことは何よりも喜ばしい。

授業科目名 初等中等教育実践基礎演習（理科教育コース）

評価実施日 平成19年7月18日

担当教員名 村田 勝夫, 米澤 義彦, 村田 守, 松川 徳雄, 豊成 哲 回答者数 8名

質問項目	評価選択人数						平均値 (科目別)	
	5	4	3	2	1	N.A		
1 授業概要について	(1) 目標・授業計画・内容は、明確に示されていた。	4	4	0	0	0	0	4.5
	(2) 成績評価の方法は、明確に示されていた。	4	1	2	1	0	0	4.0
2 授業の内容等について	(3) 授業概要のねらいにそった授業内容であった。	6	2	0	0	0	0	4.8
	(4) 教科または幼児教育・障害児教育の意義を知り、人間理解を深める授業内容であった。	3	3	1	1	0	0	4.0
	(5) 教科または幼児教育・障害児教育の特性を理解させる授業内容であった。	2	2	2	2	0	0	3.5
	(6) 教職の意義や重要性が理解できる授業内容であった。	7	0	1	0	0	0	4.8
	(7) 教職に対する興味・関心が高まる授業内容であった。	6	2	0	0	0	0	4.8
	(8) 教職への意欲が持てる課題を含んだ授業内容であった。	7	1	0	0	0	0	4.9
3 あなたの授業への取り組みについて	(9) 授業によく出席した。	6	2	0	0	0	0	4.8
	(10) 授業内容について授業時間外に準備やまとめをした。	1	1	3	3	0	0	3.0
	(11) 積極的に実験、実習、実技等に取り組んだ。	3	2	2	1	0	0	3.9
	(12) 教員の説明をよく聞き意欲的に課題に取り組んだ。	5	3	0	0	0	0	4.6
	(13) 分からないことや疑問に思ったことは調べた。	1	0	5	1	1	0	2.9
	(14) 授業に関連した内容について友人や教員と話し合った。	4	2	1	1	0	0	4.1
4 教員の授業の進め方について	(15) 学生の理解状況を確かめながら授業を行った。	3	3	2	0	0	0	4.1
	(16) 熱心に指導した。	5	3	0	0	0	0	4.6
	(17) 授業内容を分かりやすく伝えた。	4	3	1	0	0	0	4.4
	(18) 教科書や配布資料等の教材は、内容を理解する上で適切だった。	3	5	0	0	0	0	4.4
	(19) 教育用機器や設備など教具の利用は適切だった。	2	1	4	1	0	0	3.5
	(20) 教員の声は、聞き取りやすかった。	5	2	1	0	0	0	4.5
	(21) 与えられた課題のレベルや分量は適切だった。	5	3	0	0	0	0	4.6
5 授業に対する満足度	(22) この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。	6	2	0	0	0	0	4.8



教員のコメント

授業について満足しているが、自身の授業への取り組みの評価が低く、受動的態度で受講していることが示されている。その意味で、正直なアンケート結果と言えよう。

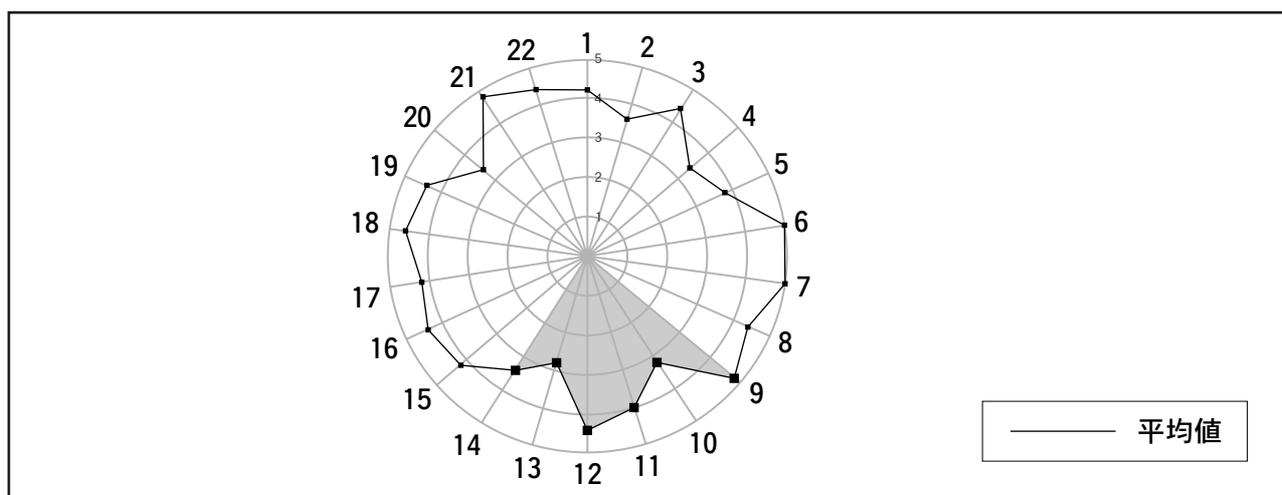
アンケート実施時が7月18日であったために、何人かは理科担当でない講義を評価しているかもしれないので、今後アンケートを取る際は、理科担当分あるいは共通2コマ分を明らかにしてアンケートを取るべきであろう。

授業科目名 初等中等教育実践基礎演習（音楽科教育コース）

評価実施日 平成19年7月18日

担当教員名 西園 芳信, 山田 啓明, 豊成 哲, 富士 都美, 檜村 誠 回答者数 5名

質問項目	評価選択人数						平均値 (科目別)	
	5	4	3	2	1	N.A		
1 授業概要について	(1) 目標・授業計画・内容は、明確に示されていた。	1	4	0	0	0	0	4.2
	(2) 成績評価の方法は、明確に示されていた。	0	3	2	0	0	0	3.6
2 授業の内容等について	(3) 授業概要のねらいにそった授業内容であった。	3	1	1	0	0	0	4.4
	(4) 教科または幼児教育・障害児教育の意義を知り、人間理解を深める授業内容であった。	1	2	1	0	1	0	3.4
	(5) 教科または幼児教育・障害児教育の特性を理解させる授業内容であった。	1	2	2	0	0	0	3.8
	(6) 教職の意義や重要性が理解できる授業内容であった。	5	0	0	0	0	0	5.0
	(7) 教職に対する興味・関心が高まる授業内容であった。	5	0	0	0	0	0	5.0
	(8) 教職への意欲が持てる課題を含んだ授業内容であった。	3	1	1	0	0	0	4.4
3 あなたの授業への取り組みについて	(9) 授業によく出席した。	4	1	0	0	0	0	4.8
	(10) 授業内容について授業時間外に準備やまとめをした。	0	2	2	1	0	0	3.2
	(11) 積極的に実験、実習、実技等に取り組んだ。	2	1	2	0	0	0	4.0
	(12) 教員の説明をよく聞き意欲的に課題に取り組んだ。	3	1	1	0	0	0	4.4
	(13) 分からないことや疑問に思ったことは調べた。	0	2	0	3	0	0	2.8
	(14) 授業に関連した内容について友人や教員と話し合った。	2	1	0	1	1	0	3.4
4 教員の授業の進め方について	(15) 学生の理解状況を確かめながら授業を行った。	2	2	1	0	0	0	4.2
	(16) 熱心に指導した。	3	1	1	0	0	0	4.4
	(17) 授業内容を分かりやすく伝えた。	2	2	1	0	0	0	4.2
	(18) 教科書や配布資料等の教材は、内容を理解する上で適切だった。	4	0	1	0	0	0	4.6
	(19) 教育用機器や設備など教具の利用は適切だった。	2	3	0	0	0	0	4.4
	(20) 教員の声は、聞き取りやすかった。	2	1	0	1	1	0	3.4
5 授業に対する満足度	(21) 与えられた課題のレベルや分量は適切だった。	4	1	0	0	0	0	4.8
	(22) この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。	2	3	0	0	0	0	4.4



教員のコメント

本授業は、教員としての実践的指導力育成のための中核になるもので、それを音楽科の教科の成立やキャリア教育の視点から展開するものである。そのため、この授業の目的は、教科の成立やキャリア教育の視点から、音楽科の教師に求められる専門的知識や技能・経験を理解することによって、初等中等の音楽科授業を展開するための実践的指導力を育成することである。

授業に関する目標等、22項目の学生評価の平均値を平均すると4.1となる。このことからこの授業は、学生に概ね理解できる内容で、授業の進め方も実践的指導力を育成するという観点から実践的な内容を多く取り入れたが、このことも概ね評価できるものと言える。従って、コア・カリキュラムのコア授業となる本授業のねらいについては、概ね達成できていると言える。

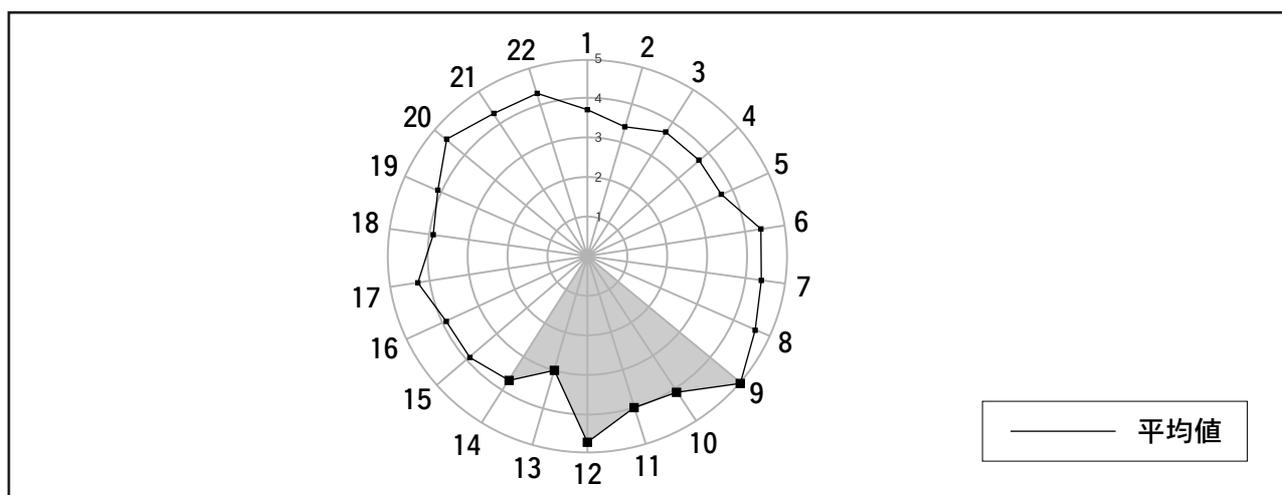
特に授業において改善すべき点は、「分からないことや疑問に思ったことを調べた。」という評価項目についての平均値が2.8となっている。このことから、学生に課題を与えるなどして授業の内容に積極的に関わるように促すことである。

授業科目名 初等中等教育実践基礎演習（図画工作科・美術科教育コース）

評価実施日 平成19年7月18日

担当教員名 長岡 強, 武市 勝, 松島正矩, 小川 勝, 橋本泰幸, 西田威汎, 豊成 哲 回答者数 7名

質問項目	評価選択人数						平均値 (科目別)	
	5	4	3	2	1	N.A		
1 授業概要について	(1) 目標・授業計画・内容は、明確に示されていた。	2	2	2	1	0	0	3.7
	(2) 成績評価の方法は、明確に示されていた。	2	2	0	3	0	0	3.4
2 授業の内容等について	(3) 授業概要のねらいにそった授業内容であった。	3	0	3	1	0	0	3.7
	(4) 教科または幼児教育・障害児教育の意義を知り、人間理解を深める授業内容であった。	2	2	2	1	0	0	3.7
	(5) 教科または幼児教育・障害児教育の特性を理解させる授業内容であった。	2	2	2	1	0	0	3.7
	(6) 教職の意義や重要性が理解できる授業内容であった。	4	2	1	0	0	0	4.4
	(7) 教職に対する興味・関心が高まる授業内容であった。	4	2	1	0	0	0	4.4
	(8) 教職への意欲が持てる課題を含んだ授業内容であった。	4	3	0	0	0	0	4.6
3 あなたの授業への取り組みについて	(9) 授業によく出席した。	7	0	0	0	0	0	5.0
	(10) 授業内容について授業時間外に準備やまとめをした。	2	4	1	0	0	0	4.1
	(11) 積極的に実験、実習、実技等に取り組んだ。	1	5	1	0	0	0	4.0
	(12) 教員の説明をよく聞き意欲的に課題に取り組んだ。	5	2	0	0	0	0	4.7
	(13) 分からないことや疑問に思ったことは調べた。	0	2	3	2	0	0	3.0
	(14) 授業に関連した内容について友人や教員と話し合った。	1	4	1	1	0	0	3.7
4 教員の授業の進め方について	(15) 学生の理解状況を確かめながら授業を行った。	2	3	1	1	0	0	3.9
	(16) 熱心に指導した。	3	1	2	1	0	0	3.9
	(17) 授業内容を分かりやすく伝えた。	3	3	1	0	0	0	4.3
	(18) 教科書や配布資料等の教材は、内容を理解する上で適切だった。	2	3	1	1	0	0	3.9
	(19) 教育用機器や設備など教具の利用は適切だった。	3	3	0	1	0	0	4.1
	(20) 教員の声は、聞き取りやすかった。	4	3	0	0	0	0	4.6
	(21) 与えられた課題のレベルや分量は適切だった。	3	3	1	0	0	0	4.3
5 授業に対する満足度	(22) この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。	4	2	0	1	0	0	4.3



教員のコメント

昨年度の反省点として、「授業概要と成績評価の方法について明確に示す」ことが上げられた。
 6名の分担者は、これらの点について改善を図りながら今年度の授業に臨んだわけだが、授業評価によると、全般的にまずまずの評価であった。
 次年度においては、教育実践コア科目として相応しい授業内容、授業方法となるよう受講生の視点に立った見直しを図っていきたい。

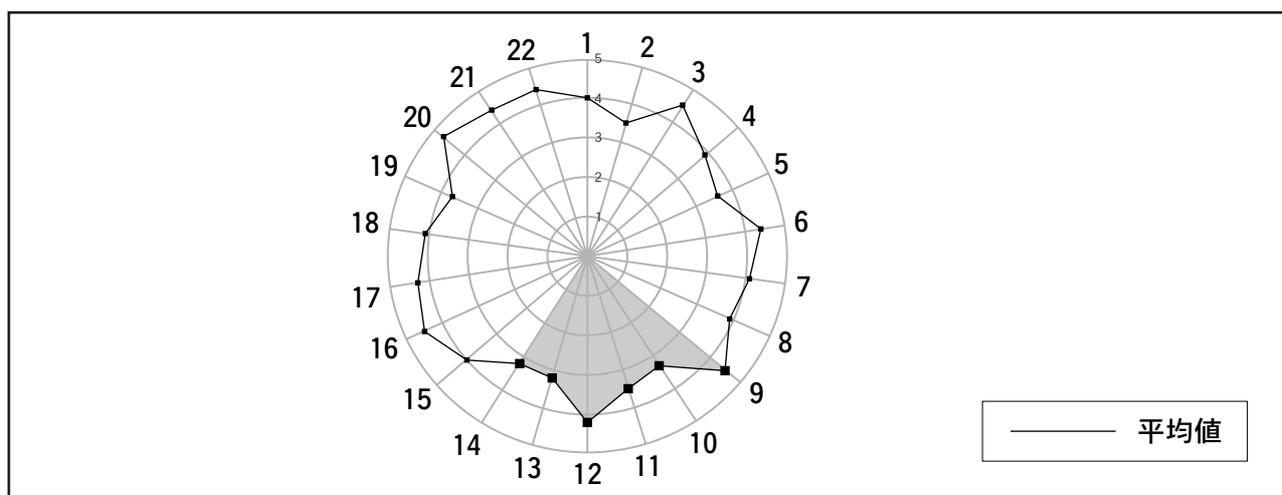
授業科目名 初等中等教育実践基礎演習（体育科・保健体育科教育コース）

評価実施日 平成19年7月18日

担当教員名 乾 信之, 豊成 哲

回答者数 10名

質問項目	質問内容	評価選択人数						平均値 (科目別)
		5	4	3	2	1	N.A	
1 授業概要について	(1) 目標・授業計画・内容は、明確に示されていた。	2	6	2	0	0	0	4.0
	(2) 成績評価の方法は、明確に示されていた。	2	1	7	0	0	0	3.5
2 授業の内容等について	(3) 授業概要のねらいにそった授業内容であった。	6	3	1	0	0	0	4.5
	(4) 教科または幼児教育・障害児教育の意義を知り、人間理解を深める授業内容であった。	3	3	4	0	0	0	3.9
	(5) 教科または幼児教育・障害児教育の特性を理解させる授業内容であった。	3	2	3	2	0	0	3.6
	(6) 教職の意義や重要性が理解できる授業内容であった。	6	2	2	0	0	0	4.4
	(7) 教職に対する興味・関心が高まる授業内容であった。	5	1	4	0	0	0	4.1
	(8) 教職への意欲が持てる課題を含んだ授業内容であった。	3	3	4	0	0	0	3.9
	(9) 授業によく出席した。	6	3	1	0	0	0	4.5
3 あなたの授業への取り組みについて	(10) 授業内容について授業時間外に準備やまとめをした。	3	1	3	2	1	0	3.3
	(11) 積極的に実験、実習、実技等に取り組んだ。	1	3	6	0	0	0	3.5
	(12) 教員の説明をよく聞き意欲的に課題に取り組んだ。	5	2	3	0	0	0	4.2
	(13) 分からないことや疑問に思ったことは調べた。	3	1	3	1	2	0	3.2
	(14) 授業に関連した内容について友人や教員と話し合った。	2	3	2	1	2	0	3.2
4 教員の授業の進め方について	(15) 学生の理解状況を確かめながら授業を行った。	4	4	0	2	0	0	4.0
	(16) 熱心に指導した。	7	1	2	0	0	0	4.5
	(17) 授業内容を分かりやすく伝えた。	5	3	2	0	0	0	4.3
	(18) 教科書や配布資料等の教材は、内容を理解する上で適切だった。	3	5	2	0	0	0	4.1
	(19) 教育用機器や設備など教具の利用は適切だった。	2	4	3	1	0	0	3.7
	(20) 教員の声は、聞き取りやすかった。	7	3	0	0	0	0	4.7
	(21) 与えられた課題のレベルや分量は適切だった。	6	2	2	0	0	0	4.4
5 授業に対する満足度	(22) この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。	5	4	1	0	0	0	4.4



教員のコメント

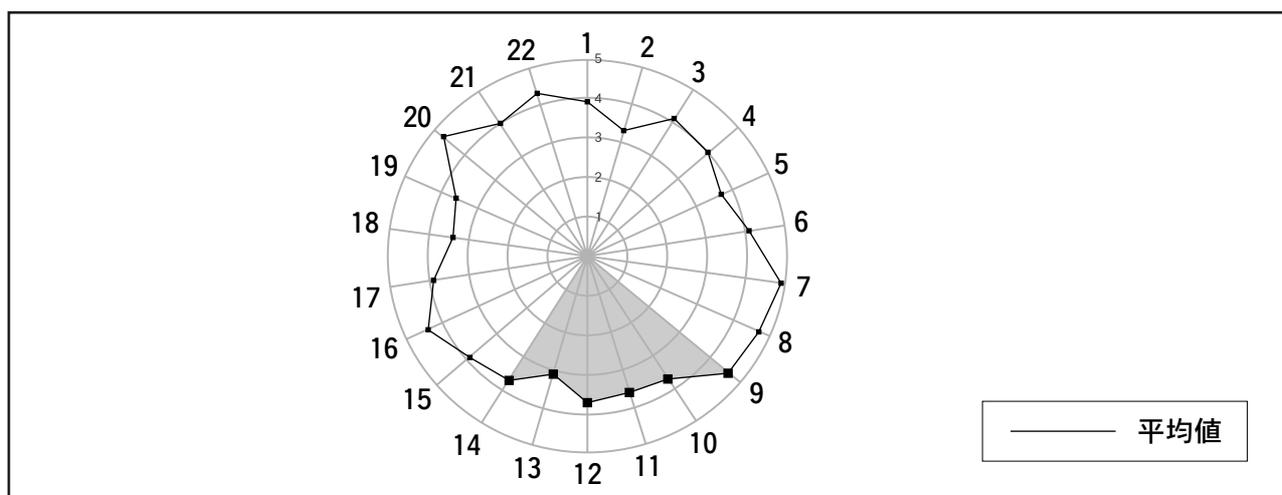
この演習ではブレイクモア、プレス「脳の学習力」（岩波書店）の抄録とその発表を課し、受講生主体の授業を展開した。教授者の熱意は伝わっているが、受講生には分担していない箇所の勉強不足がみられた。しかしながら、受講生の中には発表形式を工夫したり、発問に対する優れた応答を示す者もいた。

授業科目名 初等中等教育実践基礎演習（技術科教育コース）

評価実施日 平成19年7月18日

担当教員名 吉田 肇, 尾崎, 菊地, 木下, 宮下, 伊藤, 米延, 豊成, 若井 回答者数 7名

質問項目	評価選択人数						平均値 (科目別)	
	5	4	3	2	1	N.A		
1 授業概要について	(1) 目標・授業計画・内容は、明確に示されていた。	1	4	2	0	0	0	3.9
	(2) 成績評価の方法は、明確に示されていた。	0	3	3	1	0	0	3.3
2 授業の内容等について	(3) 授業概要のねらいにそった授業内容であった。	3	2	2	0	0	0	4.1
	(4) 教科または幼児教育・障害児教育の意義を知り、人間理解を深める授業内容であった。	3	2	1	1	0	0	4.0
	(5) 教科または幼児教育・障害児教育の特性を理解させる授業内容であった。	2	1	4	0	0	0	3.7
	(6) 教職の意義や重要性が理解できる授業内容であった。	3	2	2	0	0	0	4.1
	(7) 教職に対する興味・関心が高まる授業内容であった。	6	1	0	0	0	0	4.9
	(8) 教職への意欲が持てる課題を含んだ授業内容であった。	5	2	0	0	0	0	4.7
3 あなたの授業への取り組みについて	(9) 授業によく出席した。	4	3	0	0	0	0	4.6
	(10) 授業内容について授業時間外に準備やまとめをした。	2	2	2	1	0	0	3.7
	(11) 積極的に実験、実習、実技等に取り組んだ。	1	3	2	1	0	0	3.6
	(12) 教員の説明をよく聞き意欲的に課題に取り組んだ。	2	2	2	1	0	0	3.7
	(13) 分からないことや疑問に思ったことは調べた。	0	3	2	2	0	0	3.1
	(14) 授業に関連した内容について友人や教員と話し合った。	1	4	1	1	0	0	3.7
4 教員の授業の進め方について	(15) 学生の理解状況を確かめながら授業を行った。	2	2	3	0	0	0	3.9
	(16) 熱心に指導した。	3	4	0	0	0	0	4.4
	(17) 授業内容を分かりやすく伝えた。	3	2	0	2	0	0	3.9
	(18) 教科書や配布資料等の教材は、内容を理解する上で適切だった。	1	3	1	2	0	0	3.4
	(19) 教育用機器や設備など教具の利用は適切だった。	1	4	1	0	1	0	3.6
	(20) 教員の声は、聞き取りやすかった。	5	2	0	0	0	0	4.7
	(21) 与えられた課題のレベルや分量は適切だった。	3	1	3	0	0	0	4.0
5 授業に対する満足度	(22) この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。	3	3	1	0	0	0	4.3



教員のコメント

受講者が少人数であるため、統計的な扱いの意義を認めにくいので、22質問項目の上下位10項目程度ずつに注目しながら概括的にコメントしてみたい。

上位項目は「2 授業の内容等について」に集中し、受講者が教職の意義や重要性を理解し、教職に対する興味・関心を持ち意欲を高める内容であったと評価しており、各担当者が教職に対する動機付けを図る工夫を行って授業運営を行ったことを裏付けている。また「4 教員の授業の進め方について」では、熱心に指導し、与えられた課題のレベルや分量が適切であったと評価し、「5 授業に対する満足度」の評価も高い。相対的な評価であるが、概ね授業の目的を達成できたと考えられる一方で、受講者はよく授業に出席したと自己評価しながらも、授業概要が一部十分に伝わっていない、授業への取組が積極的ではない他が改善点としてあげられる。

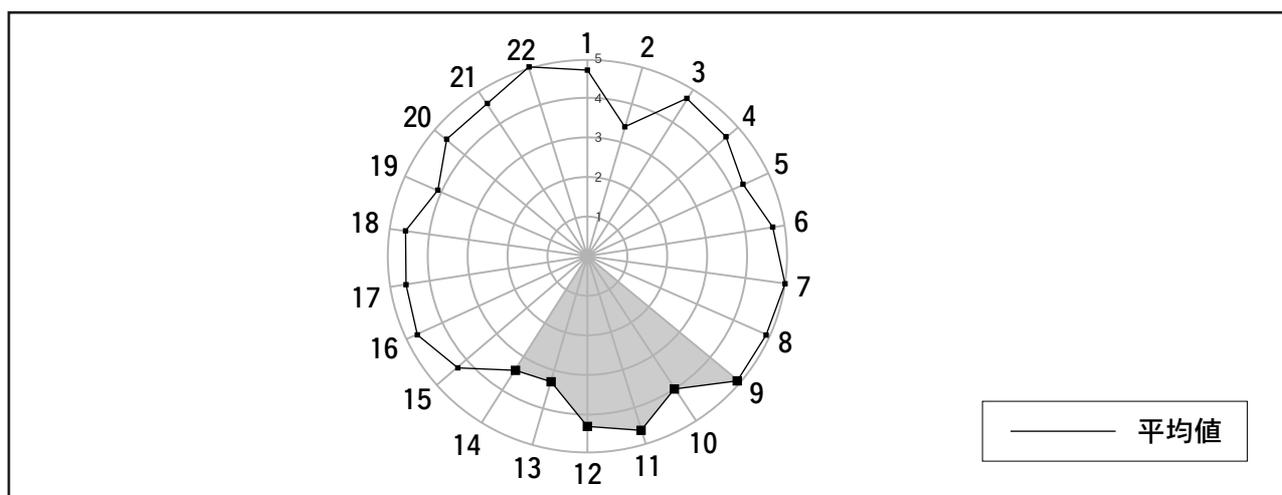
授業担当教員の側では、学生による発言や演習形式に配慮して運営し、所期の目的を達成していると思うが、入学して間もない授業で、講座全教員7名が少数コマを入れ替わり担当していること他から、教員と学生との距離感を解消できないのかもしれない。講座で検討してみたい。

授業科目名 初等中等教育実践基礎演習（家庭科教育コース）

評価実施日 平成19年7月18日

担当教員名 西川和孝, 黒川衣代, 金 貞均, 豊成 哲, 寒川かおり, 高田修作 回答者数 7名

質問項目	評価選択人数						平均値 (科目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
1 授業概要について	(1) 目標・授業計画・内容は、明確に示されていた。	5	2	0	0	0	4.7
	(2) 成績評価の方法は、明確に示されていた。	1	2	3	1	0	3.4
2 授業の内容等について	(3) 授業概要のねらいにそった授業内容であった。	5	2	0	0	0	4.7
	(4) 教科または幼児教育・障害児教育の意義を知り、人間理解を深める授業内容であった。	4	3	0	0	0	4.6
	(5) 教科または幼児教育・障害児教育の特性を理解させる授業内容であった。	3	3	1	0	0	4.3
	(6) 教職の意義や重要性が理解できる授業内容であった。	5	2	0	0	0	4.7
	(7) 教職に対する興味・関心が高まる授業内容であった。	7	0	0	0	0	5.0
	(8) 教職への意欲が持てる課題を含んだ授業内容であった。	6	1	0	0	0	4.9
3 あなたの授業への取り組みについて	(9) 授業によく出席した。	6	1	0	0	0	4.9
	(10) 授業内容について授業時間外に準備やまとめをした。	2	3	2	0	0	4.0
	(11) 積極的に実験、実習、実技等に取り組んだ。	4	3	0	0	0	4.6
	(12) 教員の説明をよく聞き意欲的に課題に取り組んだ。	3	3	1	0	0	4.3
	(13) 分からないことや疑問に思ったことは調べた。	1	2	2	2	0	3.3
	(14) 授業に関連した内容について友人や教員と話し合った。	1	3	1	2	0	3.4
4 教員の授業の進め方について	(15) 学生の理解状況を確かめながら授業を行った。	3	3	1	0	0	4.3
	(16) 熱心に指導した。	5	2	0	0	0	4.7
	(17) 授業内容を分かりやすく伝えた。	4	3	0	0	0	4.6
	(18) 教科書や配布資料等の教材は、内容を理解する上で適切だった。	4	3	0	0	0	4.6
	(19) 教育用機器や設備など教具の利用は適切だった。	1	6	0	0	0	4.1
	(20) 教員の声は、聞き取りやすかった。	5	1	1	0	0	4.6
	(21) 与えられた課題のレベルや分量は適切だった。	4	3	0	0	0	4.6
5 授業に対する満足度	(22) この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。	7	0	0	0	0	5.0



教員のコメント

本授業科目は、家庭科の教員3名と地域連携センターの豊成先生、外部講師としてお願いした小学校・中学校の教員それぞれ1名の計6名で担当している。教科の理論的な話と現場の教員としての体験をふまえた具体的な話とがうまく関連づけられ、高い評価につながったものと考えられる。受講学生全員が「教職に対する意欲・関心が高まり」（項目7）、「この授業は満足できるものであった」（項目22）と高く評価していることと、学生の自由記述から、家庭科の成立・特性や専門職としての家庭科教師の資質について理解し、具体的に家庭科教師像をイメージできるようにするという授業の目標がほぼ達成できたと判断できる。ただ、授業評価では「(2)の成績評価の方法は、明確に示されていた」の評価が他の項目に比べて低いので、評価方法の見直しと学生への明確な説明について検討し、更なる改善に取り組みたい。

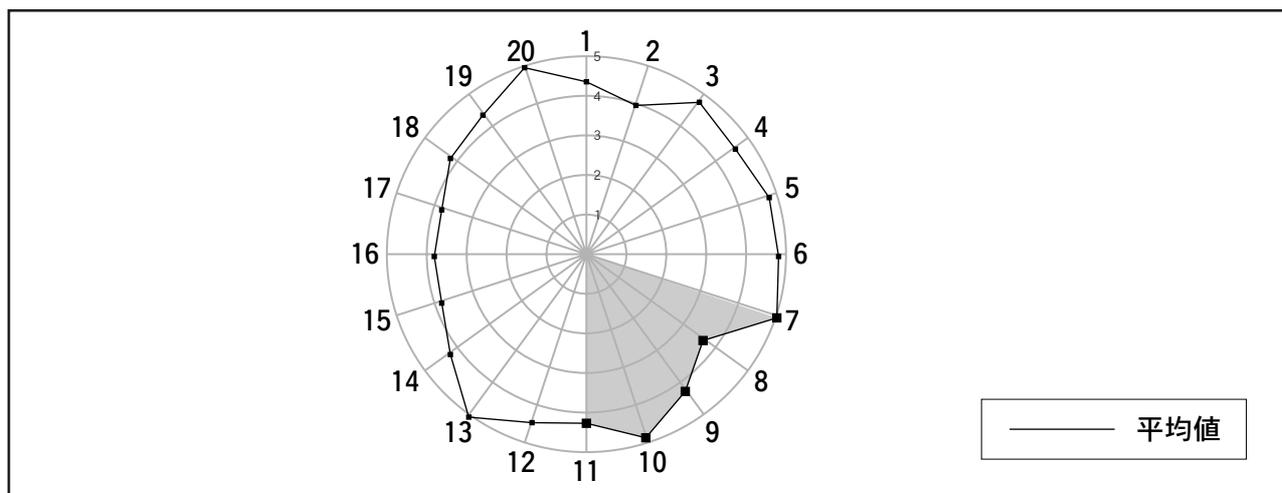
授業科目名 特別支援教育実践基礎演習

評価実施日 平成19年10月10日

担当教員名 橋本 俊顯, 八幡, 井上(と), 大谷, 島田, 津田, 高原, 豊成

回答者数 5名

質問項目	評価選択人数						平均値 (科目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
1 授業概要について	(1) 目標・授業計画・内容は、明確に示されていた。	2	3	0	0	0	4.4
	(2) 成績評価の方法は、明確に示されていた。	2	1	2	0	0	4.0
2 授業の内容等について	(3) 授業内容は、授業概要に沿っていた。	4	1	0	0	0	4.8
	(4) 授業内容は、教養や専門性を高めるものだった。	4	0	1	0	0	4.6
	(5) 授業内容は、教育に対する見方や考え方を学べるものだった。	4	1	0	0	0	4.8
	(6) 授業内容は、興味・関心を引くものだった。	4	1	0	0	0	4.8
3 あなたの授業への取り組みについて	(7) 授業によく出席した。	5	0	0	0	0	5.0
	(8) 授業内容をよく理解するために予習や復習をした。	0	3	2	0	0	3.6
	(9) 授業中に積極的に発言や質問をした。	2	2	1	0	0	4.2
	(10) 積極的に課題に取り組んだ。	4	1	0	0	0	4.8
	(11) 分からないことや疑問に思ったことは調べた。	1	4	0	0	0	4.2
4 教員の授業の進め方について	(12) 学生の理解状況を確認しながら授業を行った。	2	3	0	0	0	4.4
	(13) 学生参加型の授業だった。	5	0	0	0	0	5.0
	(14) 熱心に指導した。	2	2	1	0	0	4.2
	(15) 授業内容を分かりやすく説明した。	0	4	1	0	0	3.8
	(16) 教科書や配布資料等の教材は、内容を理解する上で適切だった。	1	2	2	0	0	3.8
	(17) 視聴覚機器及び教育用機器の利用は、適切だった。	1	2	2	0	0	3.8
	(18) 授業の進む速さは、適切だった。	2	2	1	0	0	4.2
	(19) 学生の疑問や質問に適切に答えた。	3	1	1	0	0	4.4
5 授業に対する満足度	(20) この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。	5	0	0	0	0	5.0



教員のコメント

本授業は将来障害児教育に関わる学生が特別支援学校での障害児教育の実践に触れることで、障害児教育の現状を大まかに把握できるようになることを目的として行っている。アンケートの結果からはおおむねその目的は達成されたと考える。

授業の参加については積極的であり、また分からないことを調べるなど自主学習への取り組みも引き出せており、学生の関心の高さがうかがえる。

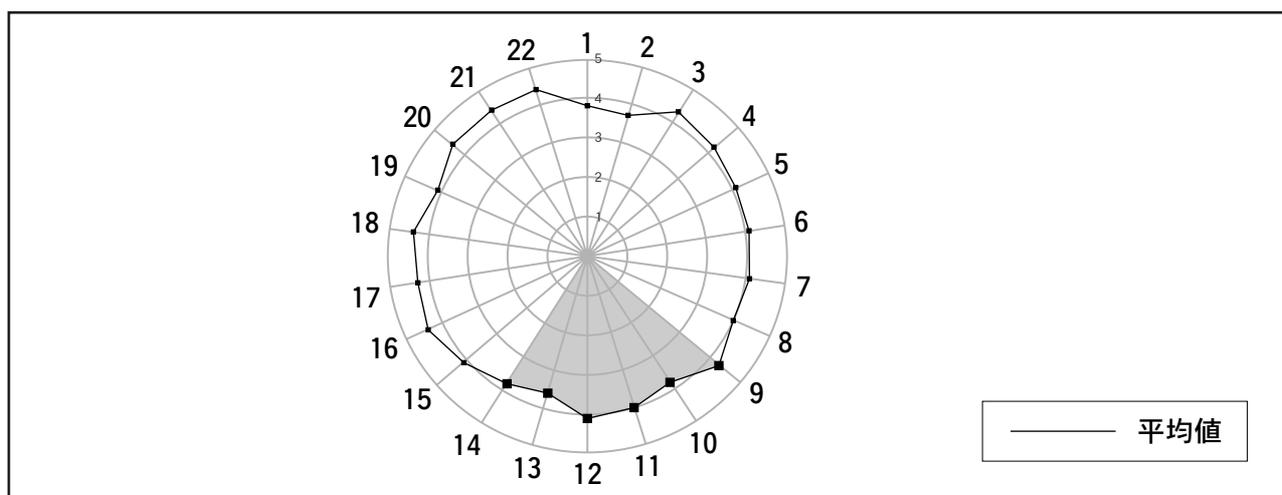
授業に対する満足度は高く、次年度以降も同様の方針で実施する予定である。

授業科目名 初等中等教科教育実践 I (国語)

評価実施日 平成20年 2月13日

担当教員名 余郷 裕次, 原 卓志, 田村 隆宏, 藤島小百合, 住友 章芳 回答者数 16名

質問項目	評価選択人数						平均値 (科目別)	
	5	4	3	2	1	N.A		
1 授業概要について	(1) 目標・授業計画・内容は、明確に示されていた。	4	6	5	1	0	0	3.8
	(2) 成績評価の方法は、明確に示されていた。	3	6	6	1	0	0	3.7
2 授業の内容等について	(3) 授業概要のねらいにそった授業内容であった。	5	10	1	0	0	0	4.3
	(4) 「ふれあい実習」での体験をふまえた、幼稚園と小学校の教育の関係について理解できる授業内容であった。	5	9	2	0	0	0	4.2
	(5) 学習指導要領をふまえ、教科の特性と意義が理解できる授業内容であった。	5	7	4	0	0	0	4.1
	(6) 授業実践を観察する視点が示された授業内容であった。	5	8	3	0	0	0	4.1
	(7) 授業実践に必要な指導力について理解できる授業内容であった。	4	10	2	0	0	0	4.1
	(8) 教科の目標・内容・指導方法が深く結びつき、授業実践されていることが理解できる授業内容であった。	5	6	5	0	0	0	4.0
3 あなたの授業への取り組みについて	(9) 授業によく出席した。	7	8	0	1	0	0	4.3
	(10) 授業内容について授業時間外に準備やまとめをした。	4	5	7	0	0	0	3.8
	(11) 積極的に実験、実習、実技等に取り組んだ。	5	6	5	0	0	0	4.0
	(12) 教員の説明をよく聞き意欲的に課題に取り組んだ。	5	7	4	0	0	0	4.1
	(13) 分からないことや疑問に思ったことは調べた。	3	5	6	2	0	0	3.6
4 教員の授業の進め方について	(14) 授業に関連した内容について友人や教員と話し合った。	4	6	5	1	0	0	3.8
	(15) 学生の理解状況を確かめながら授業を行った。	6	6	4	0	0	0	4.1
	(16) 熱心に指導した。	8	7	1	0	0	0	4.4
	(17) 授業内容を分かりやすく伝えた。	6	8	2	0	0	0	4.3
	(18) 教科書や配布資料等の教材は、内容を理解する上で適切だった。	7	8	1	0	0	0	4.4
	(19) 教育用機器や設備など教具の利用は適切だった。	5	7	3	0	0	0	4.1
	(20) 教員の声は、聞き取りやすかった。	8	7	1	0	0	0	4.4
5 授業に対する満足度	(21) 与えられた課題のレベルや分量は、適切だった。	9	5	2	0	0	0	4.4
	(22) この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。	8	6	2	0	0	0	4.4



教員のコメント

初等中等教科教育実践 I も 4 年目を迎え、軌道に乗ったと言える。しかし、こちらが慣れてきているためか、学生に対する授業計画や講義内容に対する説明が不足したと考えられる。

「(1)目標・授業計画・内容は、明確に示されていた。」が平均値 3.8 と「成績評価の方法は、明確に示されていた。」が平均値 3.7 と比較的低い数値になった。本年度の反省点であり、来年度改善したい。

また「(10)授業内容について授業時間外に準備やまとめをした。」が平均値 3.8, 「(13)分からないことや疑問に思ったことは調べた。」が平均値 3.6, 「(14)授業に関連した内容について友人や教員と話し合った。」が平均値 3.8 であり、学生自身の自学的態度や研究的態度を引き出し得ていないことも課題である。以前から講義内容に関する課題は提示しているが、その達成率が悪いということであろう。課題の達成状況のチェックを厳密にする必要がある。

全体としては、教員の熱意を好意的に評価しつつ、講義には積極的に参加したことが分かる。「(22)この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。」の平均値が 4.4 であった。この数値の維持・向上に努めたい。

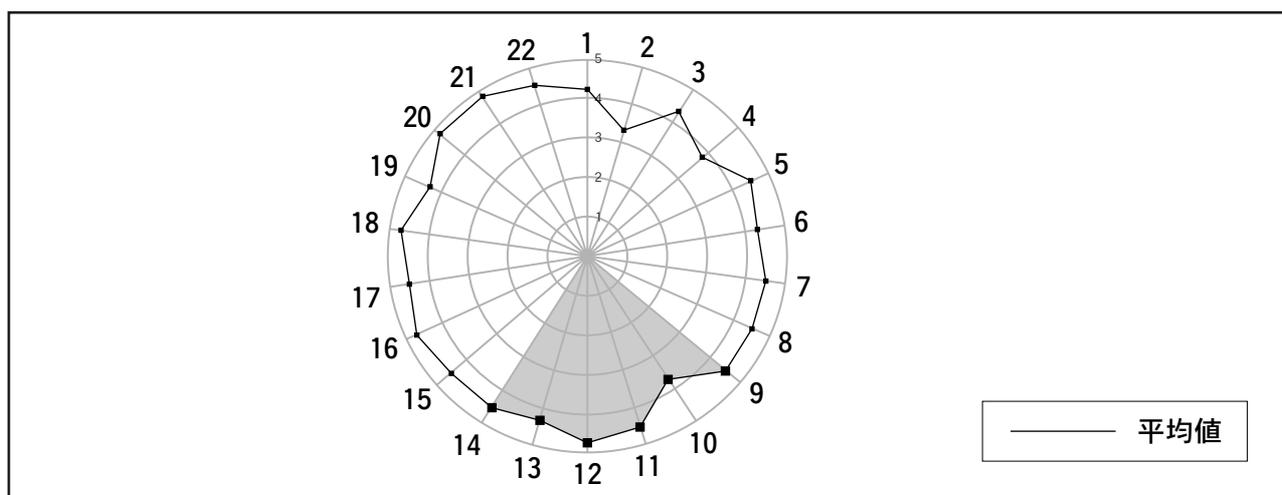
授業科目名 初等中等教科教育実践 I (英語)

評価実施日 平成20年2月6日

担当教員名 伊東 治己, 藪下 克彦, 田村 隆宏, 小川 雅功

回答者数 6名

質問項目	評価選択人数						平均値 (科目別)	
	5	4	3	2	1	N.A		
1 授業概要について	(1) 目標・授業計画・内容は、明確に示されていた。	1	5	0	0	0	0	4.2
	(2) 成績評価の方法は、明確に示されていた。	0	2	4	0	0	0	3.3
2 授業の内容等について	(3) 授業概要のねらいにそった授業内容であった。	2	4	0	0	0	0	4.3
	(4) 「ふれあい実習」での体験をふまえた、幼稚園と小学校の教育の関係について理解できる授業内容であった。	2	1	3	0	0	0	3.8
	(5) 学習指導要領をふまえ、教科の特性と意義が理解できる授業内容であった。	3	3	0	0	0	0	4.5
	(6) 授業実践を観察する視点が示された授業内容であった。	2	4	0	0	0	0	4.3
	(7) 授業実践に必要な指導力について理解できる授業内容であった。	3	3	0	0	0	0	4.5
	(8) 教科の目標・内容・指導方法が深く結びつき、授業実践されていることが理解できる授業内容であった。	4	1	1	0	0	0	4.5
3 あなたの授業への取り組みについて	(9) 授業によく出席した。	3	3	0	0	0	0	4.5
	(10) 授業内容について授業時間外に準備やまとめをした。	2	2	1	0	1	0	3.7
	(11) 積極的に実験、実習、実技等に取り組んだ。	3	3	0	0	0	0	4.5
	(12) 教員の説明をよく聞き意欲的に課題に取り組んだ。	4	2	0	0	0	0	4.7
	(13) 分からないことや疑問に思ったことは調べた。	2	4	0	0	0	0	4.3
	(14) 授業に関連した内容について友人や教員と話し合った。	3	3	0	0	0	0	4.5
4 教員の授業の進め方について	(15) 学生の理解状況を確かめながら授業を行った。	3	3	0	0	0	0	4.5
	(16) 熱心に指導した。	4	2	0	0	0	0	4.7
	(17) 授業内容を分かりやすく伝えた。	3	3	0	0	0	0	4.5
	(18) 教科書や配布資料等の教材は、内容を理解する上で適切だった。	4	2	0	0	0	0	4.7
	(19) 教育用機器や設備など教具の利用は適切だった。	2	4	0	0	0	0	4.3
	(20) 教員の声は、聞き取りやすかった。	5	1	0	0	0	0	4.8
5 授業に対する満足度	(21) 与えられた課題のレベルや分量は、適切だった。	5	1	0	0	0	0	4.8
	(22) この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。	3	3	0	0	0	0	4.5



教員のコメント

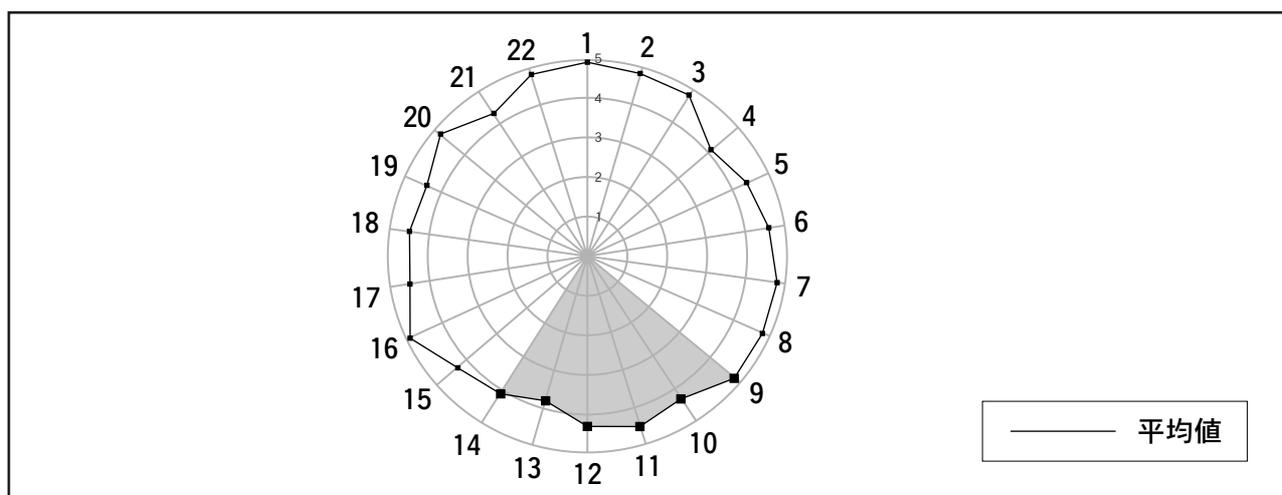
教育実践コア科目として位置づけられる本授業は、教員としての実践的指導力育成のための中核となるもので、それを教育実践学の立場から展開するものであるが、英語科教育の立場からは、学習指導要領に示された英語教育の目標やカリキュラムを多角的に検討すると同時に、最近の理論的動向と学校英語教育の問題を把握することを目的とした。到達目標は、英語教育に関する理論と指導の言説に触れることによって、実践的な英語指導力の基礎を身につけることに置かれている。授業評価では、10名の受講者から評価が寄せられたが、22項目の平均値が4.38と、受講者からはかなり好意的な評価を得ることができた。この数値から判断する限り、当初の授業目的は達成できたものと考えられる。本授業の良かった点としては、「授業を聞くだけでなく、自分の考えを持ったり、友達との意見交換をしたりできて良かった」「今までの自分の考えを見つめ直せた」「小学校へ行き、実際に現場で行われている英語教育について知ることができて良かった」「英語教育に関してや英文法の細かい仕組みなど幅広い内容を学ぶことができた」などの感想が寄せられた。

授業科目名 初等中等教科教育実践 I (社会)

評価実施日 平成20年 2月13日

担当教員名 草原 和博, 青葉 暢子, 立岡 裕士, 田村 隆宏, 稲井 智義, 坂田 大輔 回答者数 16名

質問項目	評価選択人数	評価選択人数						平均値 (科目別)
		5	4	3	2	1	N.A	
1 授業概要について	(1) 目標・授業計画・内容は、明確に示されていた。	14	2	0	0	0	0	4.9
	(2) 成績評価の方法は、明確に示されていた。	13	3	0	0	0	0	4.8
2 授業の内容等について	(3) 授業概要のねらいにそった授業内容であった。	13	3	0	0	0	0	4.8
	(4) 「ふれあい実習」での体験をふまえた、幼稚園と小学校の教育の関係について理解できる授業内容であった。	5	8	3	0	0	0	4.1
	(5) 学習指導要領をふまえ、教科の特性と意義が理解できる授業内容であった。	7	9	0	0	0	0	4.4
	(6) 授業実践を観察する視点が示された授業内容であった。	11	4	1	0	0	0	4.6
	(7) 授業実践に必要な指導力について理解できる授業内容であった。	13	2	1	0	0	0	4.8
	(8) 教科の目標・内容・指導方法が深く結びつき、授業実践されていることが理解できる授業内容であった。	12	4	0	0	0	0	4.8
3 あなたの授業への取り組みについて	(9) 授業によく出席した。	12	4	0	0	0	0	4.8
	(10) 授業内容について授業時間外に準備やまとめをした。	6	9	1	0	0	0	4.3
	(11) 積極的に実験、実習、実技等に取り組んだ。	9	6	1	0	0	0	4.5
	(12) 教員の説明をよく聞き意欲的に課題に取り組んだ。	7	6	3	0	0	0	4.3
	(13) 分からないことや疑問に思ったことは調べた。	3	6	7	0	0	0	3.8
4 教員の授業の進め方について	(14) 授業に関連した内容について友人や教員と話し合った。	6	7	2	0	1	0	4.1
	(15) 学生の理解状況を確かめながら授業を行った。	7	7	2	0	0	0	4.3
	(16) 熱心に指導した。	15	1	0	0	0	0	4.9
	(17) 授業内容を分かりやすく伝えた。	8	8	0	0	0	0	4.5
	(18) 教科書や配布資料等の教材は、内容を理解する上で適切だった。	9	6	1	0	0	0	4.5
	(19) 教育用機器や設備など教具の利用は適切だった。	8	7	1	0	0	0	4.4
	(20) 教員の声は、聞き取りやすかった。	13	3	0	0	0	0	4.8
5 授業に対する満足度	(21) 与えられた課題のレベルや分量は、適切だった。	7	7	2	0	0	0	4.3
	(22) この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。	13	3	0	0	0	0	4.8



教員のコメント

おおむね高評価が得られた。授業の満足度（項目 22）では、平均値が 4.8 あった。

コアカリの目標に照らしてとくに注目されるのは、質問項目 3～8 の評価である。シラバスに沿った授業（項目 3）、授業観察の視点(6)、授業実践の指導力(7)、授業の目標・内容・方法の構造(8)に関する理解では、評価の平均値が 4.6～4.8 あった。しかし、幼小連携の理解(4)に関する評価点は、他に比べて低かった。全 15 回の授業における冒頭 3 回の位置づけが問われている。これは全学的に検討すべき課題であろう。

本学では、学生の主体的な学習状況に係わる項目で低い評価点が出る傾向にある。しかし、本科目では、授業時間外の学習(10)、授業への積極的参加(11)、意欲的な課題解決(12)、友人・教員との話し合い(14)のいずれでも、4.1～4.5 の評価が得られた。これは、「教育実践力の基礎の育成」という本科目の理念が、授業のなかで具現されていることに起因すると解される。自由記述の回答にも、「教師になる第一段階を踏み出せた」「今後の講義や授業へつながる良い機会を得た」「現職の先生の教えや現段階での自分の力量を知ることができた」「専門的な知識から授業方法まで幅広く学ぶことができた」「模擬授業をすることでより深い理解ができた」等の好意的なコメントが寄せられた。

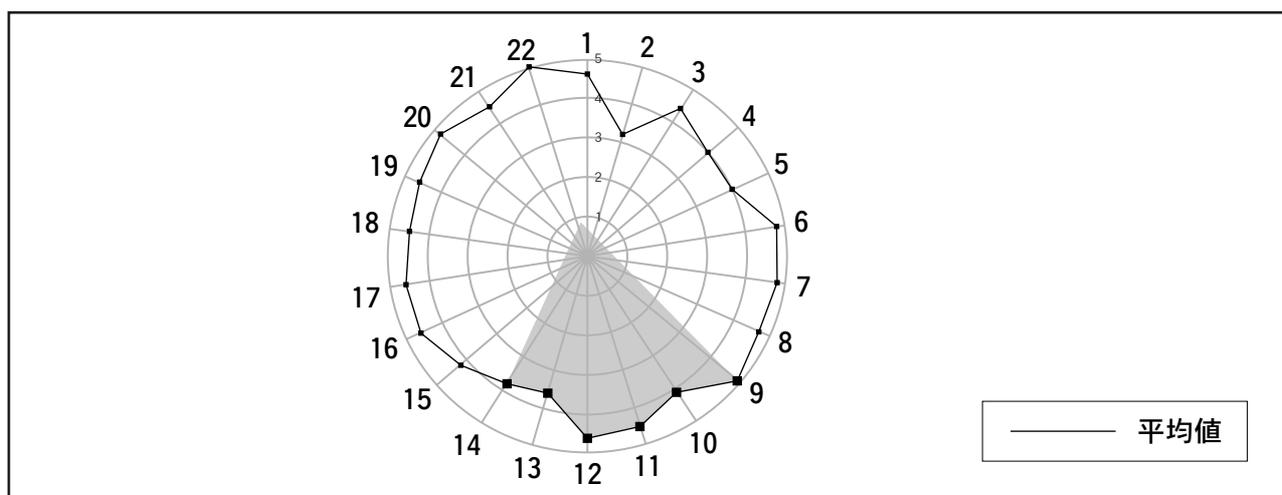
なお、唯一、評価点が 4.0 を下まわったのが、疑問の自己追究（項目 13）である。「もう少し早く課題を出して欲しかった」とのコメントもあった。これらの指摘は、適切な時期に適度な課題を与え、それに長期的に取り組ませる仕掛けづくりの必要性を示唆している。

授業科目名 初等中等教科教育実践 I (理科)

評価実施日 平成20年 2 月 6 日

担当教員名 米澤 義彦, 工藤, 佐藤(勝), 武田, 香西, 村田(守), 本田, 田村, 錦織 回答者数 10名

質問項目	評価選択人数						平均値 (科目別)	
	5	4	3	2	1	N.A		
1 授業概要について	(1) 目標・授業計画・内容は、明確に示されていた。	6	4	0	0	0	0	4.6
	(2) 成績評価の方法は、明確に示されていた。	1	1	7	1	0	0	3.2
2 授業の内容等について	(3) 授業概要のねらいにそった授業内容であった。	5	4	1	0	0	0	4.4
	(4) 「ふれあい実習」での体験をふまえた、幼稚園と小学校の教育の関係について理解できる授業内容であった。	4	3	2	1	0	0	4.0
	(5) 学習指導要領をふまえ、教科の特性と意義が理解できる授業内容であった。	2	6	2	0	0	0	4.0
	(6) 授業実践を観察する視点が示された授業内容であった。	8	2	0	0	0	0	4.8
	(7) 授業実践に必要な指導力について理解できる授業内容であった。	8	2	0	0	0	0	4.8
	(8) 教科の目標・内容・指導方法が深く結びつき、授業実践されていることが理解できる授業内容であった。	7	3	0	0	0	0	4.7
3 あなたの授業への取り組みについて	(9) 授業によく出席した。	9	1	0	0	0	0	4.9
	(10) 授業内容について授業時間外に準備やまとめをした。	3	5	2	0	0	0	4.1
	(11) 積極的に実験、実習、実技等に取り組んだ。	5	5	0	0	0	0	4.5
	(12) 教員の説明をよく聞き意欲的に課題に取り組んだ。	6	4	0	0	0	0	4.6
	(13) 分からないことや疑問に思ったことは調べた。	2	2	6	0	0	0	3.6
	(14) 授業に関連した内容について友人や教員と話し合った。	2	4	4	0	0	0	3.8
4 教員の授業の進め方について	(15) 学生の理解状況を確かめながら授業を行った。	3	6	1	0	0	0	4.2
	(16) 熱心に指導した。	7	2	1	0	0	0	4.6
	(17) 授業内容を分かりやすく伝えた。	6	4	0	0	0	0	4.6
	(18) 教科書や配布資料等の教材は、内容を理解する上で適切だった。	5	5	0	0	0	0	4.5
	(19) 教育用機器や設備など教具の利用は適切だった。	7	2	1	0	0	0	4.6
	(20) 教員の声は、聞き取りやすかった。	8	2	0	0	0	0	4.8
5 授業に対する満足度	(21) 与えられた課題のレベルや分量は、適切だった。	6	3	1	0	0	0	4.5
	(22) この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。	10	0	0	0	0	0	5.0



教員のコメント

授業に対する満足度は、非常に高く、授業実践に必要な指導力や授業実践を観察する視点など、実践的側面についても満足度が高く、授業の目的は達成できたと考える。

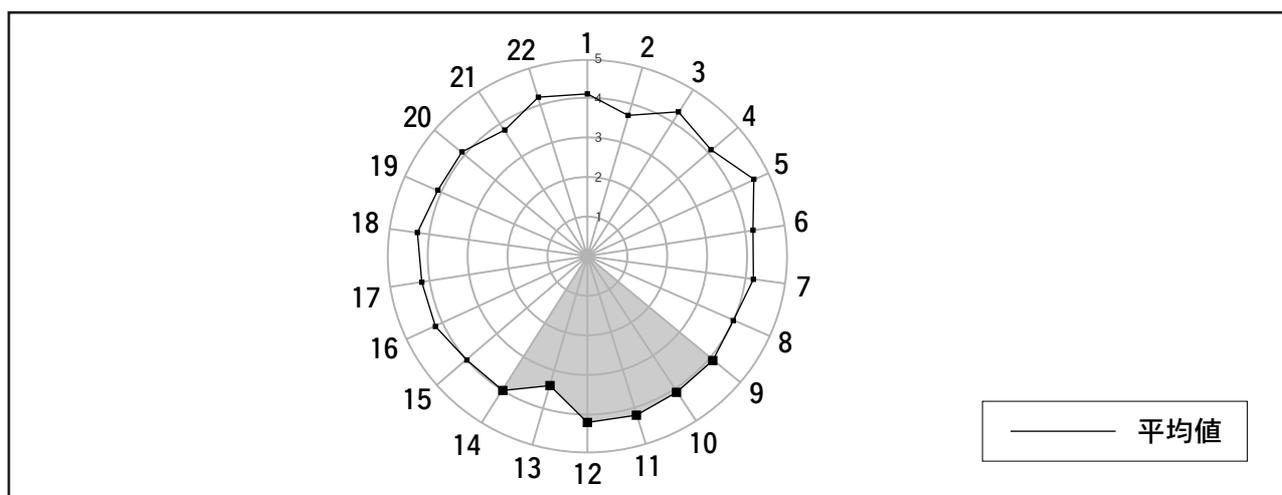
しかし、「成績の評価方法が明確に示されていた」という項目に関しては、どちらともいえないという回答が多い。本年度の授業では、評価の方法について明確に伝えておく必要がある。その他評価が低かったのは、「分からないことや疑問に思ったことを調べた」、「授業に関連した内容について友人や教員と話し合った」等の学習者自身の積極性についてである。学部1年生では授業実践に関してはまだはっきりしたイメージが持てる段階ではないので、授業から疑問に思うことや友だちや教員と話し合うための内容がはっきりと持っているとはいえない。そのような状況から判断すると、これらの項目の評価が低かったのは妥当であろうと思われる。

授業科目名 初等中等教科教育実践 I (音楽)

評価実施日 平成20年 2月27日

担当教員名 西園 芳信, 頃安 利秀, 田村 隆宏, 佐伯 順一, 清水 美穂 回答者数 9名

質問項目	評価選択人数						平均値 (科目別)	
	5	4	3	2	1	N.A		
1 授業概要について	(1) 目標・授業計画・内容は、明確に示されていた。	4	2	3	0	0	0	4.1
	(2) 成績評価の方法は、明確に示されていた。	2	3	3	1	0	0	3.7
2 授業の内容等について	(3) 授業概要のねらいにそった授業内容であった。	4	4	1	0	0	0	4.3
	(4) 教科または幼児教育・障害児教育の意義を知り、人間理解を深める授業内容であった。	2	6	1	0	0	0	4.1
	(5) 教科または幼児教育・障害児教育の特性を理解させる授業内容であった。	5	4	0	0	0	0	4.6
	(6) 教職の意義や重要性が理解できる授業内容であった。	4	3	2	0	0	0	4.2
	(7) 教職に対する興味・関心が高まる授業内容であった。	3	5	1	0	0	0	4.2
	(8) 教職への意欲が持てる課題を含んだ授業内容であった。	2	5	2	0	0	0	4.0
3 あなたの授業への取り組みについて	(9) 授業によく出席した。	4	3	1	1	0	0	4.1
	(10) 授業内容について授業時間外に準備やまとめをした。	3	4	2	0	0	0	4.1
	(11) 積極的に実験、実習、実技等に取り組んだ。	2	7	0	0	0	0	4.2
	(12) 教員の説明をよく聞き意欲的に課題に取り組んだ。	2	7	0	0	0	0	4.2
	(13) 分からないことや疑問に思ったことは調べた。	1	2	6	0	0	0	3.4
	(14) 授業に関連した内容について友人や教員と話し合った。	2	5	2	0	0	0	4.0
4 教員の授業の進め方について	(15) 学生の理解状況を確かめながら授業を行った。	1	7	1	0	0	0	4.0
	(16) 熱心に指導した。	4	3	2	0	0	0	4.2
	(17) 授業内容を分かりやすく伝えた。	3	5	1	0	0	0	4.2
	(18) 教科書や配布資料等の教材は、内容を理解する上で適切だった。	3	6	0	0	0	0	4.3
	(19) 教育用機器や設備など教具の利用は適切だった。	2	6	1	0	0	0	4.1
	(20) 教員の声は、聞き取りやすかった。	2	6	1	0	0	0	4.1
5 授業に対する満足度	(21) 与えられた課題のレベルや分量は、適切だった。	2	3	4	0	0	0	3.8
	(22) この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。	3	5	1	0	0	0	4.2



教員のコメント

この授業は、教員としての実践的指導力を育成するための中核になるもので、それを教育実践学の立場から展開するものである。そのため、この授業の目的は、教育実践を中核にし、その中で教科内容・教科教育・教育実践を関連させながら捉えられるようにすることによって、小学校音楽科の低・中学年の授業を展開するための実践的指導力を育成することである。

授業に関する目標等、22項目の学生評価平均値を平均すると4.0となる。このことからこの授業は、学生に概ね理解できる内容で、授業の進め方も実践的指導力を育成するという観点から実践的な内容を多く取り入れたが、このことも概ね評価できるものと言える。従って、コア・カリキュラムのコア授業となる本授業のねらいについては、概ね達成できていると言える。

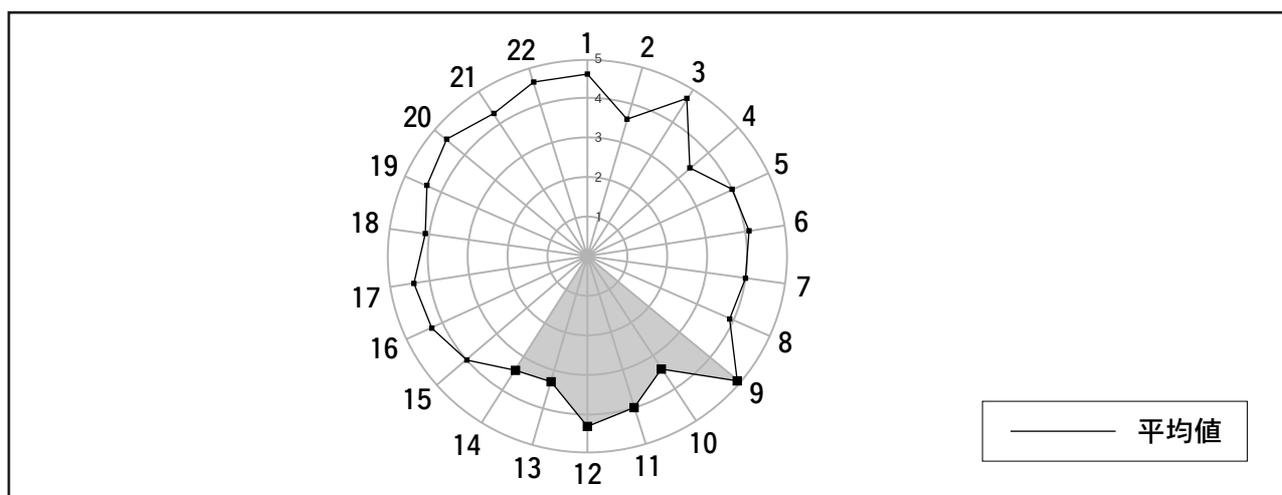
特に授業において改善すべき点は、「分からないことや疑問に思ったことを調べた。」という評価項目についての平均値が3.4となっている。このことから、学生に課題を与えるなどして授業の内容に積極的に関わるように促すことである。

授業科目名 初等中等教科教育実践 I (図画工作・美術)

評価実施日 平成20年 1月16日

担当教員名 山木 朝彦, 武市 勝, 小川 勝, 野崎 窮, 田村 隆宏, 森 裕二郎 回答者数 7名

質問項目	評価選択人数						平均値 (科目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
1 授業概要について	(1) 目標・授業計画・内容は、明確に示されていた。	4	3	0	0	0	4.6
	(2) 成績評価の方法は、明確に示されていた。	1	2	4	0	0	3.6
2 授業の内容等について	(3) 授業概要のねらいにそった授業内容であった。	5	2	0	0	0	4.7
	(4) 「ふれあい実習」での体験をふまえた、幼稚園と小学校の教育の関係について理解できる授業内容であった。	1	3	1	2	0	3.4
	(5) 学習指導要領をふまえ、教科の特性と意義が理解できる授業内容であった。	2	3	2	0	0	4.0
	(6) 授業実践を観察する視点が示された授業内容であった。	2	4	1	0	0	4.1
	(7) 授業実践に必要な指導力について理解できる授業内容であった。	1	5	1	0	0	4.0
	(8) 教科の目標・内容・指導方法が深く結びつき、授業実践されていることが理解できる授業内容であった。	1	5	0	1	0	3.9
3 あなたの授業への取り組みについて	(9) 授業によく出席した。	6	1	0	0	0	4.9
	(10) 授業内容について授業時間外に準備やまとめをした。	0	5	1	0	1	3.4
	(11) 積極的に実験、実習、実技等に取り組んだ。	3	3	0	0	1	4.0
	(12) 教員の説明をよく聞き意欲的に課題に取り組んだ。	2	5	0	0	0	4.3
	(13) 分からないことや疑問に思ったことは調べた。	0	3	3	1	0	3.3
	(14) 授業に関連した内容について友人や教員と話し合った。	1	2	3	1	0	3.4
4 教員の授業の進め方について	(15) 学生の理解状況を確かめながら授業を行った。	2	3	2	0	0	4.0
	(16) 熱心に指導した。	3	3	1	0	0	4.3
	(17) 授業内容を分かりやすく伝えた。	3	4	0	0	0	4.4
	(18) 教科書や配布資料等の教材は、内容を理解する上で適切だった。	3	2	2	0	0	4.1
	(19) 教育用機器や設備など教具の利用は適切だった。	4	2	1	0	0	4.4
	(20) 教員の声は、聞き取りやすかった。	5	1	1	0	0	4.6
5 授業に対する満足度	(21) 与えられた課題のレベルや分量は、適切だった。	3	3	1	0	0	4.3
	(22) この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。	5	1	1	0	0	4.6



教員のコメント

後期とはいえ、学部一年生は高校時代の授業と大学の講義との違いに慣れていくプロセスにある。逆に言えば、この授業に対する授業評価は大学の講義について新鮮な目で受講した学生たちの生な声が現れているといえよう。授業の枠組みは、七人という少人数の受講生に対して、六人もの授業者が多角的な内容を教える授業である。毎回、課題が出るので、比較的、ハードな学習を求められる授業である。以上のような授業の枠組みから、アンケート結果を分析する。

まず、学生自身の取り組みについては、項目 10, 13, 14 が低い。このうちの二つが、授業外での学習に関わる事柄である。授業中は熱心に受講するが授業が終わった後は、その意欲が継続していない残念な結果だ。やはり、宿題を課す必要があるのだろうか、あるいは授業前に小テストなどを課す必要があるのだろうか。この点、授業者全員で話し合いたい。

このほか、授業概要の 2 と授業内容の 4 にかかわる項目の得点が低い。それぞれ、授業評価方法の明示と幼小連携に関わる項目である。2 については、授業計画時に教員全員が授業評価の方法について、いっそう煮詰めた話し合いをするように努めたい。4 については、教科教育担当の山木と実践担当の森の授業時に、この点を特に採り上げて話すよう内容の改善に努めたい。

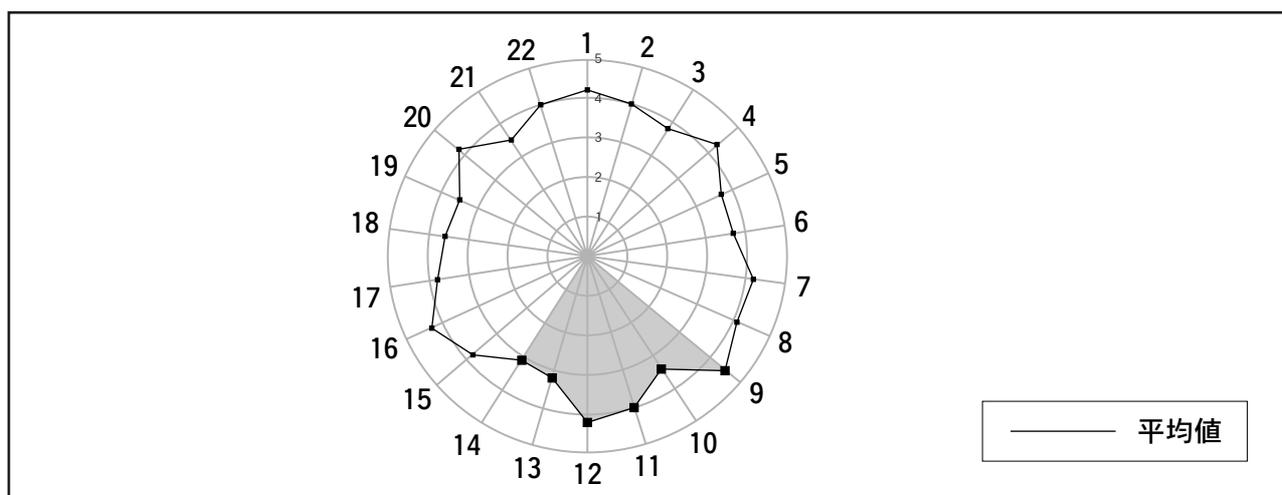
授業科目名 初等中等教科教育実践 I (体育・保健体育)

評価実施日 平成20年 2月13日

担当教員名 木原 資裕, 安藤 幸, 綿引 勝美, 田村 隆宏, 安田 哲也

回答者数 13名

質問項目	評価選択人数						平均値 (科目別)	
	5	4	3	2	1	N.A		
1 授業概要について	(1) 目標・授業計画・内容は、明確に示されていた。	5	5	3	0	0	0	4.2
	(2) 成績評価の方法は、明確に示されていた。	4	5	4	0	0	0	4.0
2 授業の内容等について	(3) 授業概要のねらいにそった授業内容であった。	2	7	4	0	0	0	3.8
	(4) 「ふれあい実習」での体験をふまえた、幼稚園と小学校の教育の関係について理解できる授業内容であった。	7	3	3	0	0	0	4.3
	(5) 学習指導要領をふまえ、教科の特性と意義が理解できる授業内容であった。	2	5	6	0	0	0	3.7
	(6) 授業実践を観察する視点が示された授業内容であった。	2	6	4	1	0	0	3.7
	(7) 授業実践に必要な指導力について理解できる授業内容であった。	4	7	2	0	0	0	4.2
	(8) 教科の目標・内容・指導方法が深く結びつき、授業実践されていることが理解できる授業内容であった。	5	3	4	0	0	1	4.1
3 あなたの授業への取り組みについて	(9) 授業によく出席した。	8	4	1	0	0	0	4.5
	(10) 授業内容について授業時間外に準備やまとめをした。	0	7	4	2	0	0	3.4
	(11) 積極的に実験、実習、実技等に取り組んだ。	3	7	3	0	0	0	4.0
	(12) 教員の説明をよく聞き意欲的に課題に取り組んだ。	4	8	1	0	0	0	4.2
	(13) 分からないことや疑問に思ったことは調べた。	0	4	8	1	0	0	3.2
	(14) 授業に関連した内容について友人や教員と話し合った。	0	5	4	4	0	0	3.1
4 教員の授業の進め方について	(15) 学生の理解状況を確かめながら授業を行った。	3	4	6	0	0	0	3.8
	(16) 熱心に指導した。	5	7	1	0	0	0	4.3
	(17) 授業内容を分かりやすく伝えた。	2	7	3	1	0	0	3.8
	(18) 教科書や配布資料等の教材は、内容を理解する上で適切だった。	1	7	4	1	0	0	3.6
	(19) 教育用機器や設備など教具の利用は適切だった。	1	6	4	2	0	0	3.5
	(20) 教員の声は、聞き取りやすかった。	5	5	3	0	0	0	4.2
5 授業に対する満足度	(21) 与えられた課題のレベルや分量は、適切だった。	3	1	9	0	0	0	3.5
	(22) この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。	3	7	3	0	0	0	4.0



教員のコメント

「この授業でよかったこと」については以下の記述があった。

- ・ 体育の授業の構成力が身についたこと
- ・ 授業内容に興味をわいた
- ・ 様々な視点から体育や教育について見る事ができた
- ・ 体育の見方が変わった
- ・ 新しい体育の指導要領について理解できてよかった 等

一方、「改善した方がよいこと」については以下の記述があった。

- ・ 授業内容にまとまりがない
- ・ 一貫性がなく、わかりにくい 等

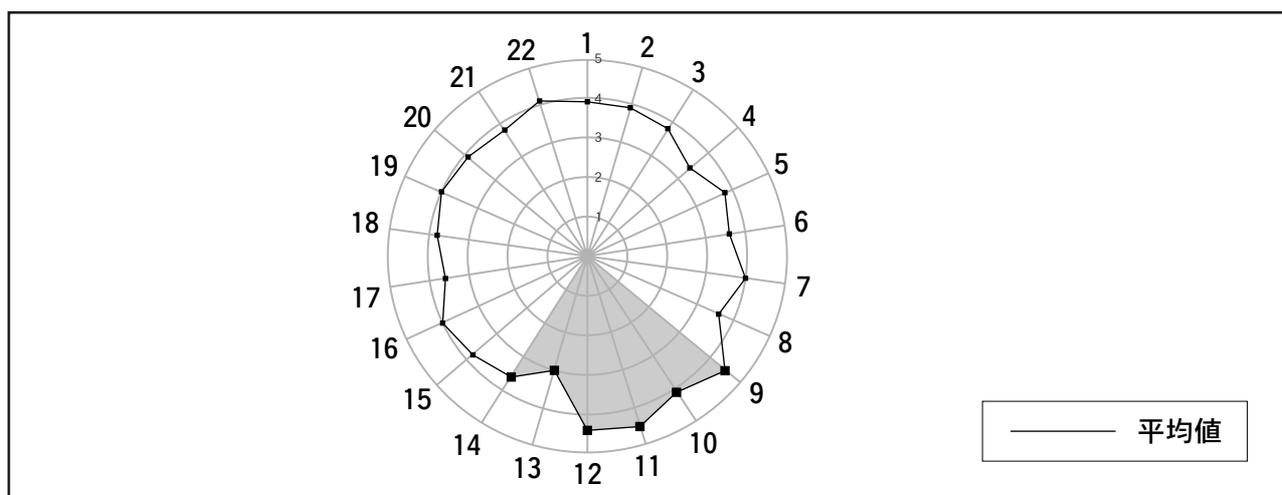
また、22の質問項目の平均値は3.87であり、きびしい見方をすれば、この授業が受講生にあまりよく評価されていないのではないと思われる。複数の教員が担当する授業であるため、「まとまりがない」「一貫性がない」との批評は致し方ない面もあるが、担当教員間の申し送り事項を徹底し、授業内容のまとまりと充実を図っていきたいと思う。

授業科目名 初等中等教科教育実践 I (技術)

評価実施日 平成20年 2月27日

担当教員名 尾崎 士郎, 吉田 肇, 米延 仁志, 田村 隆宏, 安田 哲也 回答者数 8名

質問項目	評価選択人数	評価選択人数						平均値 (科目別)
		5	4	3	2	1	N.A	
1 授業概要について	(1) 目標・授業計画・内容は、明確に示されていた。	2	3	3	0	0	0	3.9
	(2) 成績評価の方法は、明確に示されていた。	2	4	1	1	0	0	3.9
2 授業の内容等について	(3) 授業概要のねらいにそった授業内容であった。	2	2	4	0	0	0	3.8
	(4) 「ふれあい実習」での体験をふまえた、幼稚園と小学校の教育の関係について理解できる授業内容であった。	2	1	3	2	0	0	3.4
	(5) 学習指導要領をふまえ、教科の特性と意義が理解できる授業内容であった。	1	4	3	0	0	0	3.8
	(6) 授業実践を観察する視点が示された授業内容であった。	2	2	3	1	0	0	3.6
	(7) 授業実践に必要な指導力について理解できる授業内容であった。	2	4	2	0	0	0	4.0
	(8) 教科の目標・内容・指導方法が深く結びつき、授業実践されていることが理解できる授業内容であった。	0	5	3	0	0	0	3.6
3 あなたの授業への取り組みについて	(9) 授業によく出席した。	5	2	1	0	0	0	4.5
	(10) 授業内容について授業時間外に準備やまとめをした。	2	5	1	0	0	0	4.1
	(11) 積極的に実験、実習、実技等に取り組んだ。	6	0	2	0	0	0	4.5
	(12) 教員の説明をよく聞き意欲的に課題に取り組んだ。	4	3	1	0	0	0	4.4
	(13) 分からないことや疑問に思ったことは調べた。	0	2	4	2	0	0	3.0
	(14) 授業に関連した内容について友人や教員と話し合った。	2	2	3	1	0	0	3.6
4 教員の授業の進め方について	(15) 学生の理解状況を確かめながら授業を行った。	2	2	4	0	0	0	3.8
	(16) 熱心に指導した。	3	2	3	0	0	0	4.0
	(17) 授業内容を分かりやすく伝えた。	0	5	3	0	0	0	3.6
	(18) 教科書や配布資料等の教材は、内容を理解する上で適切だった。	1	4	3	0	0	0	3.8
	(19) 教育用機器や設備など教具の利用は適切だった。	2	4	2	0	0	0	4.0
	(20) 教員の声は、聞き取りやすかった。	3	1	4	0	0	0	3.9
5 授業に対する満足度	(21) 与えられた課題のレベルや分量は、適切だった。	2	3	2	1	0	0	3.8
	(22) この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。	3	3	2	0	0	0	4.1



教員のコメント

本授業評価の平均値は3.9であった。これを目安に各項目の評価を考えたい。

授業の概要は中位程度であった。授業の内容等では項目によって違いがあり、「ふれあい実習での体験をふまえた、幼稚園と小学校の教育の関係について理解できる授業内容であった」等で一部低い評価で、他は評価が中位または高かった。あなたの授業の取り組みでは、(9)－(12)の評価が高く、学生が授業に熱心に取り組んだと評価する一方で、(13)－(14)では評価が低く、授業外での学習が少ない様子が見える。授業の進め方と満足度については、評価が中位から高い側にある。

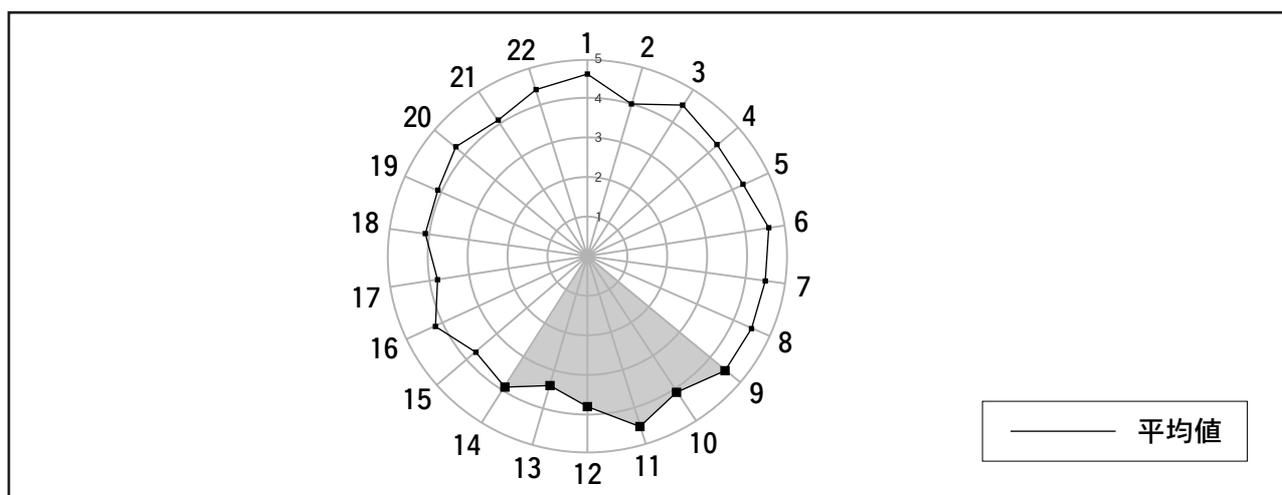
自由記述のこの授業でよかったこととして、「模擬授業ができてよかった。」とあり、1年次のこの授業で授業の体験ができたことを高く評価している。また技術的な内容等を題材にディスカッションを行なったことも、高く評価されている。

授業科目名 初等中等教科教育実践 I (家庭)

評価実施日 平成20年 2月 6日

担当教員名 渡邊 廣二, 前田(英), 黒川, 金, 鳥井, 田村, 町口, 江西, 宮本 回答者数 10名

質問項目	評価選択人数						平均値 (科目別)	
	5	4	3	2	1	N.A.		
1 授業概要について	(1) 目標・授業計画・内容は、明確に示されていた。	6	4	0	0	0	0	4.6
	(2) 成績評価の方法は、明確に示されていた。	3	4	3	0	0	0	4.0
2 授業の内容等について	(3) 授業概要のねらいにそった授業内容であった。	7	1	2	0	0	0	4.5
	(4) 「初等中等教科教育実践I・II」で学んだことをふまえ、各教科における教科内容が理解できる授業内容であった。	4	5	1	0	0	0	4.3
	(5) 学習指導要領をふまえ、教科の特性と意義が理解できる授業内容であった。	3	7	0	0	0	0	4.3
	(6) 授業実践を観察する視点が示された授業内容であった。	6	4	0	0	0	0	4.6
	(7) 授業実践に必要な指導力について理解できる授業内容であった。	6	3	1	0	0	0	4.5
	(8) 教科の目標・内容・指導方法が深く結びつき、授業実践されていることが理解できる授業内容であった。	5	5	0	0	0	0	4.5
3 あなたの授業への取り組みについて	(9) 授業によく出席した。	6	3	1	0	0	0	4.5
	(10) 授業内容について授業時間外に準備やまとめをした。	4	3	3	0	0	0	4.1
	(11) 積極的に実験、実習、実技等に取り組んだ。	6	3	1	0	0	0	4.5
	(12) 教員の説明をよく聞き意欲的に課題に取り組んだ。	2	4	4	0	0	0	3.8
	(13) 分からないことや疑問に思ったことは調べた。	1	2	7	0	0	0	3.4
4 教員の授業の進め方について	(14) 授業に関連した内容について友人や教員と話し合った。	2	5	3	0	0	0	3.9
	(15) 学生の理解状況を確かめながら授業を行った。	1	5	4	0	0	0	3.7
	(16) 熱心に指導した。	4	4	2	0	0	0	4.2
	(17) 授業内容を分かりやすく伝えた。	1	6	3	0	0	0	3.8
	(18) 教科書や配布資料等の教材は、内容を理解する上で適切だった。	4	3	3	0	0	0	4.1
	(19) 教育用機器や設備など教具の利用は適切だった。	3	5	2	0	0	0	4.1
	(20) 教員の声は、聞き取りやすかった。	4	5	1	0	0	0	4.3
	(21) 与えられた課題のレベルや分量は、適切だった。	3	5	2	0	0	0	4.1
5 授業に対する満足度	(22) この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。	4	6	0	0	0	0	4.4



教員のコメント

初等中等教科教育実践 I の授業では、家庭科の教科内容、教科教育、教育科学を関連づけた専門的知識をもつ専門職としての教員になるために必要な家庭科の教育実践力の基礎を培うことをめざした。

本授業のこうした目的に対して、学生による授業評価は全体として肯定的に受け止められている。まず、授業概要については、「目標・授業計画・内容は明確に示されていた」(4.6)、また、授業の内容については、「授業概要のねらいにそった授業内容であった」(4.5)、「授業実践を観察する視点が示された授業内容であった」(4.6)、「授業実践に必要な指導力について理解できる授業内容であった」(4.5)、「教科の目標・内容・指導方法が深く結びつき、授業実践されていることが理解できる授業内容であった」(4.5)。

こうして、本授業に対する学生の満足度をみると、「この授業は、自分自身にとって満足できるものであった」(4.4) というように、高い評価を得ることができた。

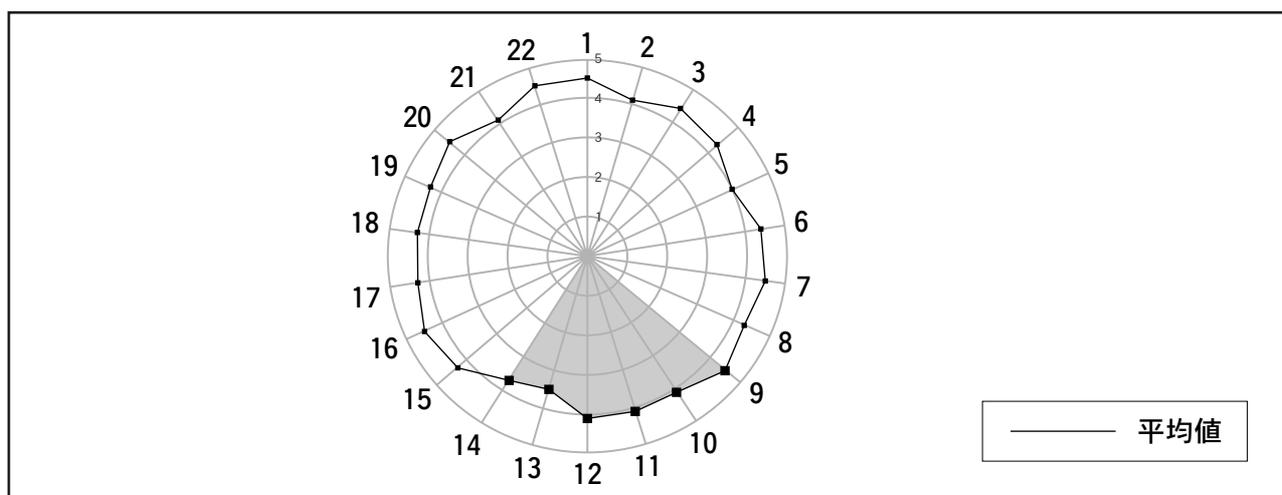
授業科目名 初等中等教科教育実践Ⅱ（社会）

評価実施日 平成20年2月28日

担当教員名 梅津 正美, 町田 哲, 井上 隆, 濱口恒一郎

回答者数 15名

質問項目	評価選択人数						平均値 (科目別)	
	5	4	3	2	1	N.A		
1 授業概要について	(1) 目標・授業計画・内容は、明確に示されていた。	10	3	2	0	0	0	4.5
	(2) 成績評価の方法は、明確に示されていた。	7	3	5	0	0	0	4.1
2 授業の内容等について	(3) 授業概要のねらいにそった授業内容であった。	7	7	1	0	0	0	4.4
	(4) 「初等中等教科教育実践Ⅰ」で学んだことをふまえ、各教科における教科内容が理解できる授業内容であった。	6	7	2	0	0	0	4.3
	(5) 学習指導要領をふまえ、教科の特性と意義が理解できる授業内容であった。	3	10	1	1	0	0	4.0
	(6) 授業実践を観察する視点が示された授業内容であった。	6	8	0	0	0	1	4.4
	(7) 授業実践に必要な指導力について理解できる授業内容であった。	9	4	2	0	0	0	4.5
	(8) 教科の目標・内容・指導方法が深く結びつき、授業実践されていることが理解できる授業内容であった。	7	6	2	0	0	0	4.3
3 あなたの授業への取り組みについて	(9) 授業によく出席した。	10	3	1	1	0	0	4.5
	(10) 授業内容について授業時間外に準備やまとめをした。	5	7	2	1	0	0	4.1
	(11) 積極的に実験、実習、実技等に取り組んだ。	5	6	4	0	0	0	4.1
	(12) 教員の説明をよく聞き意欲的に課題に取り組んだ。	6	6	2	1	0	0	4.1
	(13) 分からないことや疑問に思ったことは調べた。	3	4	5	3	0	0	3.5
4 教員の授業の進め方について	(14) 授業に関連した内容について友人や教員と話し合った。	2	8	3	2	0	0	3.7
	(15) 学生の理解状況を確かめながら授業を行った。	6	7	2	0	0	0	4.3
	(16) 熱心に指導した。	9	4	2	0	0	0	4.5
	(17) 授業内容を分かりやすく伝えた。	7	6	1	1	0	0	4.3
	(18) 教科書や配布資料等の教材は、内容を理解する上で適切だった。	6	7	2	0	0	0	4.3
	(19) 教育用機器や設備など教具の利用は適切だった。	6	7	2	0	0	0	4.3
	(20) 教員の声は、聞き取りやすかった。	10	3	2	0	0	0	4.5
	(21) 与えられた課題のレベルや分量は、適切だった。	4	8	3	0	0	0	4.1
5 授業に対する満足度	(22) この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。	9	4	2	0	0	0	4.5



教員のコメント

本授業は、社会科教育実践力の基礎を養成するために、小・中学校社会科歴史学習の授業構想・授業展開（マイクロティーチング）・授業評価（実践した授業の分析・評価・改善）の内容・活動を組み込んで展開した。授業の分析・評価・改善についての議論では、「知の総合化ノート」を活用した。

本授業に対する22項目の評価の平均値は4.3、授業全体に対する学生の満足度を示す項目(22)の平均値は4.5であり、授業全体に対して概ね良好な評価を得ることができた。授業の内容に関わる項目(3)(4)(5)(6)(7)(8)の平均値は4.3、授業の展開・態度に関わる項目(15)(16)(17)(18)(19)(20)(21)の平均値は4.3であった。これに対して、学生の授業への取組に関わる項目(9)(10)(11)(12)(13)(14)の平均値は3.3であり、この数字は前年比で-0.9ポイントである。昨年同様、大学全体で共通理解されたコア科目「初等中等教科教育実践」の趣旨・目的・内容構成の原則に即して本授業を実践した。学生は学校現場での豊かな実践の姿に触れ、それらの分析・検討を経てグループで授業を構想し、実践し、評価・改善していく活動に取り組んだ。その取組は、学生の自己評価以上に真摯で積極的なものであったと考えている。その意味で、やや厳しい自己評価になっていると思う。

コア科目については、その設置の理念・内容・方法をふまえて今後も展開していき、学生による授業評価の蓄積と分析・評価を重ねていく中で、その意義と課題を明確にしていきたい。

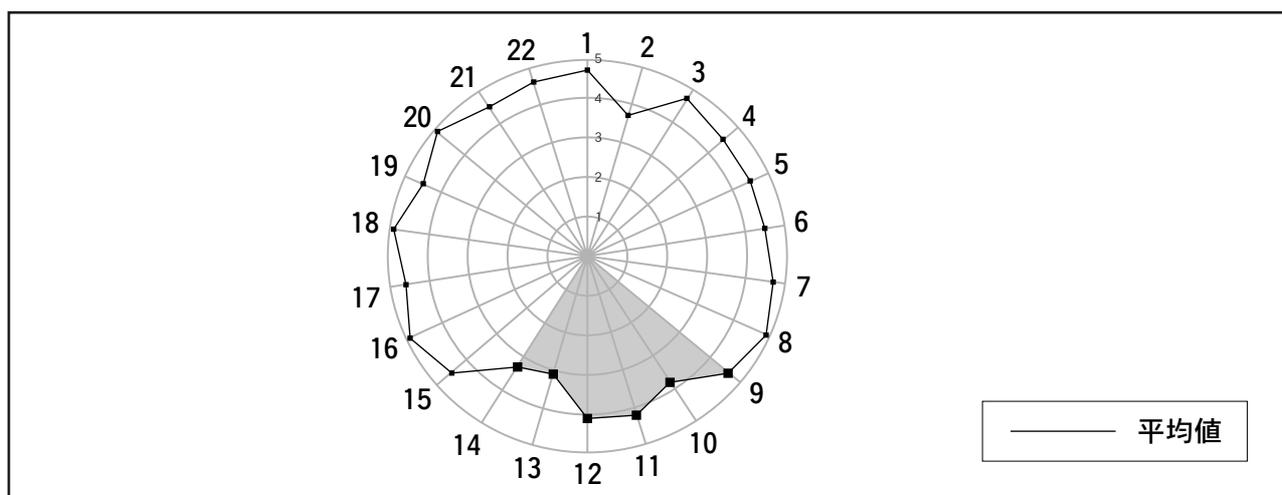
授業科目名 初等中等教科教育実践Ⅱ（音楽）

評価実施日 平成20年2月19日

担当教員名 長島 真人, 森 正

回答者数 11名

質問項目	評価選択人数	評価選択人数						平均値 (科目別)
		5	4	3	2	1	N.A	
1 授業概要について	(1) 目標・授業計画・内容は、明確に示されていた。	8	3	0	0	0	0	4.7
	(2) 成績評価の方法は、明確に示されていた。	3	3	4	1	0	0	3.7
2 授業の内容等について	(3) 授業概要のねらいにそった授業内容であった。	8	3	0	0	0	0	4.7
	(4) 「初等中等教科教育実践Ⅰ」で学んだことをふまえ、各教科における教科内容が理解できる授業内容であった。	6	4	1	0	0	0	4.5
	(5) 学習指導要領をふまえ、教科の特性と意義が理解できる授業内容であった。	5	6	0	0	0	0	4.5
	(6) 授業実践を観察する視点が示された授業内容であった。	6	5	0	0	0	0	4.5
	(7) 授業実践に必要な指導力について理解できる授業内容であった。	8	3	0	0	0	0	4.7
	(8) 教科の目標・内容・指導方法が深く結びつき、授業実践されていることが理解できる授業内容であった。	10	1	0	0	0	0	4.9
3 あなたの授業への取り組みについて	(9) 授業によく出席した。	8	2	1	0	0	0	4.6
	(10) 授業内容について授業時間外に準備やまとめをした。	2	5	4	0	0	0	3.8
	(11) 積極的に実験、実習、実技等に取り組んだ。	5	4	1	1	0	0	4.2
	(12) 教員の説明をよく聞き意欲的に課題に取り組んだ。	4	4	3	0	0	0	4.1
	(13) 分からないことや疑問に思ったことは調べた。	1	3	4	2	1	0	3.1
	(14) 授業に関連した内容について友人や教員と話し合った。	2	4	1	3	1	0	3.3
4 教員の授業の進め方について	(15) 学生の理解状況を確かめながら授業を行った。	5	6	0	0	0	0	4.5
	(16) 熱心に指導した。	10	1	0	0	0	0	4.9
	(17) 授業内容を分かりやすく伝えた。	7	4	0	0	0	0	4.6
	(18) 教科書や配布資料等の教材は、内容を理解する上で適切だった。	10	1	0	0	0	0	4.9
	(19) 教育用機器や設備など教具の利用は適切だった。	6	4	1	0	0	0	4.5
	(20) 教員の声は、聞き取りやすかった。	10	1	0	0	0	0	4.9
5 授業に対する満足度	(21) 与えられた課題のレベルや分量は、適切だった。	6	5	0	0	0	0	4.5
	(22) この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。	7	4	0	0	0	0	4.6



教員のコメント

成績評価方法に関する情報は、シラバスに明記し、最初の授業でも紹介しているが、それだけでは十分でないということだろうか、やや周知されていない状況にあることが確認された。次回の授業では、注意したい。授業内容と教員の授業の進め方については、例年通り、今年度も酷評はみられなかった。学生たちは、概ね、授業の内容と教員の指導について、満足してくれているように思える。しかし、徐々に改善されてきているように思えるのだが、学生たち自身の授業への取り組みについての評価は、やや低く評価されている。学生たちに無理のない、参加可能な作業課題をいっそう工夫していくように心がけたい。この授業で改善した方がよいと思うことに関する自由記述はなかった。この授業でよかったことに関する自由記述としては、以下のような報告があった。「実践的なことを学べてよかった」「講義だけでなく、実技の指導もあったこと」「一人ひとりの伴奏を聴き、評価してもらうところ」「伴奏法は、特に勉強になった」「現職の方たちのお話が聴けたこと」「教育実習に向けての心構えができた」「実際に授業を行う上での重要なこと、必要なことが学べた」「実際の小学校の共通教材を使うことによって、具体的な指導が行われてよかった」「今までは音楽で授業をすることに対して、漠然としかわからなかったが、授業を受けて多くのことを学べ、何をしていけば良いのか、少しずつみえてきた」以上のように、この授業の内容と基本的な指導事項は学生たちに満足を与えているように思える。学生たちが積極的に関わられるような作業課題をいっそう模索していきたい。

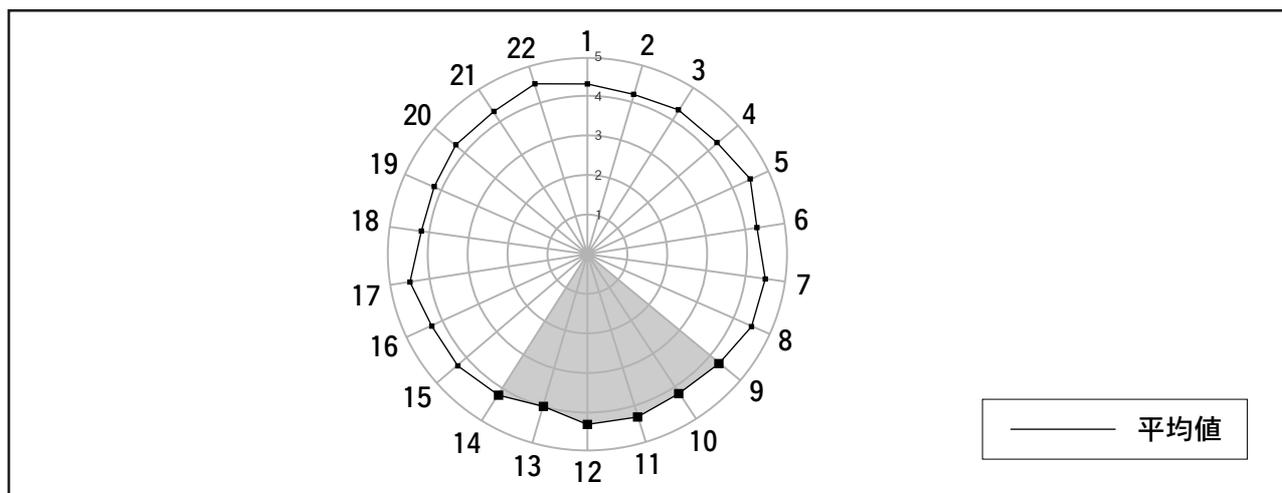
授業科目名 初等中等教科教育実践Ⅱ（図画工作・美術）

評価実施日 平成20年2月12日

担当教員名 山田 芳明, 長岡 強, 松島 正矩, 鈴木 久人

回答者数 6名

質問項目	評価選択人数						平均値 (科目別)	
	5	4	3	2	1	N.A		
1 授業概要について	(1) 目標・授業計画・内容は、明確に示されていた。	3	2	1	0	0	0	4.3
	(2) 成績評価の方法は、明確に示されていた。	2	3	1	0	0	0	4.2
2 授業の内容等について	(3) 授業概要のねらいにそった授業内容であった。	3	2	1	0	0	0	4.3
	(4) 「初等中等教科教育実践Ⅰ」で学んだことをふまえ、各教科における教科内容が理解できる授業内容であった。	3	2	1	0	0	0	4.3
	(5) 学習指導要領をふまえ、教科の特性と意義が理解できる授業内容であった。	4	1	1	0	0	0	4.5
	(6) 授業実践を観察する視点が示された授業内容であった。	3	2	1	0	0	0	4.3
	(7) 授業実践に必要な指導力について理解できる授業内容であった。	4	1	1	0	0	0	4.5
	(8) 教科の目標・内容・指導方法が深く結びつき、授業実践されていることが理解できる授業内容であった。	4	1	1	0	0	0	4.5
3 あなたの授業への取り組みについて	(9) 授業によく出席した。	3	2	1	0	0	0	4.3
	(10) 授業内容について授業時間外に準備やまとめをした。	2	3	1	0	0	0	4.2
	(11) 積極的に実験、実習、実技等に取り組んだ。	3	2	1	0	0	0	4.3
	(12) 教員の説明をよく聞き意欲的に課題に取り組んだ。	3	2	1	0	0	0	4.3
	(13) 分からないことや疑問に思ったことは調べた。	2	2	2	0	0	0	4.0
4 教員の授業の進め方について	(14) 授業に関連した内容について友人や教員と話し合った。	3	1	2	0	0	0	4.2
	(15) 学生の理解状況を確かめながら授業を行った。	4	0	2	0	0	0	4.3
	(16) 熱心に指導した。	3	2	1	0	0	0	4.3
	(17) 授業内容を分かりやすく伝えた。	4	1	1	0	0	0	4.5
	(18) 教科書や配布資料等の教材は、内容を理解する上で適切だった。	3	1	2	0	0	0	4.2
	(19) 教育用機器や設備など教具の利用は適切だった。	3	1	2	0	0	0	4.2
	(20) 教員の声は、聞き取りやすかった。	3	2	1	0	0	0	4.3
5 授業に対する満足度	(21) 与えられた課題のレベルや分量は、適切だった。	3	2	1	0	0	0	4.3
	(22) この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。	4	1	1	0	0	0	4.5



教員のコメント

学生のアンケートの回答をみると、1 授業概要、2 授業内容、3 学生の授業への取組、4 教員の授業の進め方、5 授業に対する満足度 という大項目全てに渡って、非常に高い評価を得ていることがわかる。

なかでも、項目2-(5)、2-(7)、2-(8)が、4.5ポイントと高い評価を得ているが、これらは本授業の本質的な内容に関わる項目でもあり、授業者として目指している授業が学生に理解されていると読み取ることができる。今後も同様に高い評価が得られるように、継続的に授業改善に取り組んでいきたい。

その一方で、3-(10)、3-(13)といった、学生自身の予習復習に関する項目と、1-(2)という成績評価に関する項目等は、若干評価が下がっている。

予習復習といった学生の自学自習に関する項目は、比較的低くとどまっていることが多いが、この点も学生自身が意欲的に授業内容に関心を持ち、自主的に追究していけるように授業改善を行っていきたい。

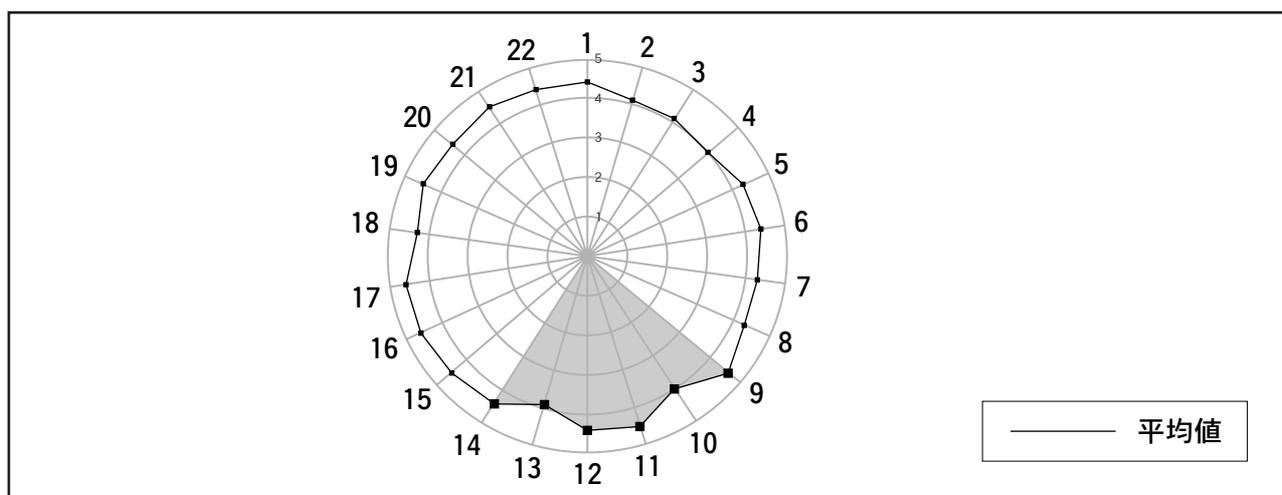
また、成績評価に関しては、次年度以降、授業の始めに明示するように改善を図りたい。

授業科目名 初等中等教科教育実践Ⅱ（体育・保健体育）

評価実施日 平成20年2月19日

担当教員名 松井 敦典, 坂本 和丈, 田中 弘之, 田中 伸幸, 福田 一敏 回答者数 8名

質問項目	評価選択人数	評価選択人数						平均値 (科目別)
		5	4	3	2	1	N.A	
1 授業概要について	(1) 目標・授業計画・内容は、明確に示されていた。	3	5	0	0	0	0	4.4
	(2) 成績評価の方法は、明確に示されていた。	1	7	0	0	0	0	4.1
2 授業の内容等について	(3) 授業概要のねらいにそった授業内容であった。	2	5	1	0	0	0	4.1
	(4) 「初等中等教科教育実践Ⅰ」で学んだことをふまえ、各教科における教科内容が理解できる授業内容であった。	2	4	2	0	0	0	4.0
	(5) 学習指導要領をふまえ、教科の特性と意義が理解できる授業内容であった。	2	6	0	0	0	0	4.3
	(6) 授業実践を観察する視点が示された授業内容であった。	3	5	0	0	0	0	4.4
	(7) 授業実践に必要な指導力について理解できる授業内容であった。	2	6	0	0	0	0	4.3
	(8) 教科の目標・内容・指導方法が深く結びつき、授業実践されていることが理解できる授業内容であった。	2	6	0	0	0	0	4.3
3 あなたの授業への取り組みについて	(9) 授業によく出席した。	5	3	0	0	0	0	4.6
	(10) 授業内容について授業時間外に準備やまとめをした。	2	5	0	1	0	0	4.0
	(11) 積極的に実験、実習、実技等に取り組んだ。	4	4	0	0	0	0	4.5
	(12) 教員の説明をよく聞き意欲的に課題に取り組んだ。	3	5	0	0	0	0	4.4
	(13) 分からないことや疑問に思ったことは調べた。	2	4	1	1	0	0	3.9
	(14) 授業に関連した内容について友人や教員と話し合った。	3	5	0	0	0	0	4.4
4 教員の授業の進め方について	(15) 学生の理解状況を確かめながら授業を行った。	4	4	0	0	0	0	4.5
	(16) 熱心に指導した。	5	3	0	0	0	0	4.6
	(17) 授業内容を分かりやすく伝えた。	5	3	0	0	0	0	4.6
	(18) 教科書や配布資料等の教材は、内容を理解する上で適切だった。	2	6	0	0	0	0	4.3
	(19) 教育用機器や設備など教具の利用は適切だった。	4	4	0	0	0	0	4.5
	(20) 教員の声は、聞き取りやすかった。	3	5	0	0	0	0	4.4
	(21) 与えられた課題のレベルや分量は、適切だった。	4	4	0	0	0	0	4.5
5 授業に対する満足度	(22) この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。	4	3	1	0	0	0	4.4



教員のコメント

本授業は、体育科・保健体育科の教育実践コア科目であり、小学校体育科および中学校保健分野の教育法と指導法、またそれらに関連する内容論として、運動生理学とバイオメカニクスを取り扱っている。本学教員3名に加え、附属小学校・中学校教諭各1名の協力により、受講生が後に受講する附属校実習で実践活用するための内容を取り扱っている。本年度で2年目を迎え、授業の方法や各担当教員の授業内容もほぼ固まりつつある。受講生自身の評価も概ね良好な評価が得られている。また、受講生自身の授業に対する取り組みに関しても、概ね良好な自己評価を下していると判断できる。

授業評価の記述回答においては、本年度は附属学校教員による授業がとてもためになった旨の記述1件に止まり、具体的な授業改善を図るための資料に乏しい。

本授業評価のみならず、授業中の受講生の態度や反応などの授業内評価、附属校実習での実践をはじめとする授業やその他教育活動における授業成果の活用などを含めて、今後の受講生らの成長を見守りたい。

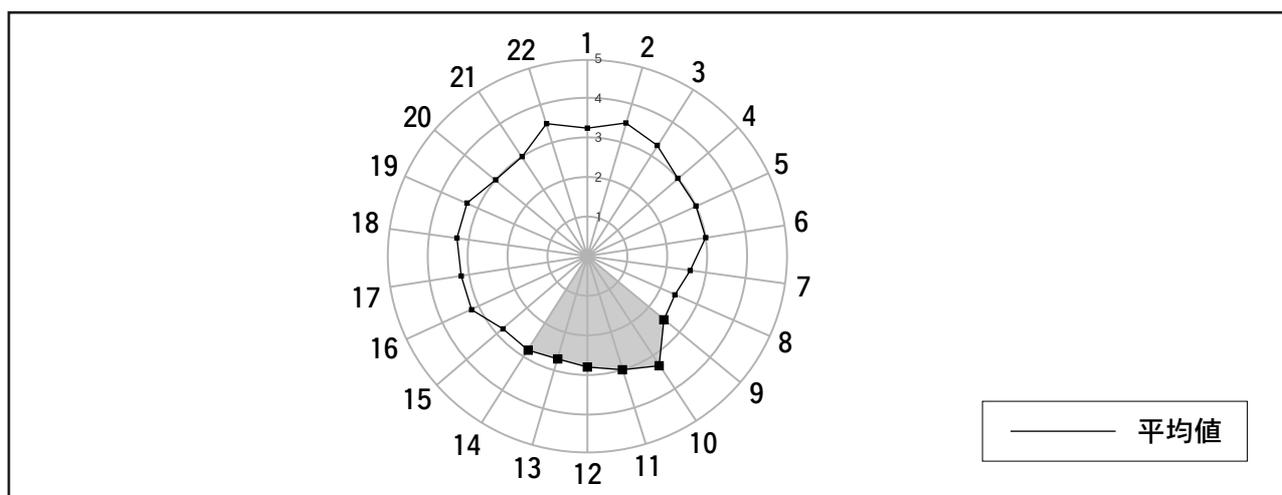
授業科目名 初等中等教科教育実践Ⅱ（技術）

評価実施日 平成20年2月21日

担当教員名 尾崎 士郎, 木下 凱文, 宮下 晃一, 大泉 計

回答者数 6名

質問項目	評価選択人数						平均値 (科目別)	
	5	4	3	2	1	N.A		
1 授業概要について	(1) 目標・授業計画・内容は、明確に示されていた。	1	1	3	1	0	0	3.3
	(2) 成績評価の方法は、明確に示されていた。	1	2	2	1	0	0	3.5
2 授業の内容等について	(3) 授業概要のねらいにそった授業内容であった。	1	1	3	1	0	0	3.3
	(4) 「初等中等教科教育実践1」で学んだことをふまえ、各教科における教科内容が理解できる授業内容であった。	0	2	2	2	0	0	3.0
	(5) 学習指導要領をふまえ、教科の特性と意義が理解できる授業内容であった。	1	0	3	2	0	0	3.0
	(6) 授業実践を観察する視点が示された授業内容であった。	0	1	3	1	0	1	3.0
	(7) 授業実践に必要な指導力について理解できる授業内容であった。	0	0	3	2	0	1	2.6
	(8) 教科の目標・内容・指導方法が深く結びつき、授業実践されていることが理解できる授業内容であった。	0	0	2	3	0	1	2.4
3 あなたの授業への取り組みについて	(9) 授業によく出席した。	0	1	2	2	1	0	2.5
	(10) 授業内容について授業時間外に準備やまとめをした。	0	3	2	1	0	0	3.3
	(11) 積極的に実験、実習、実技等に取り組んだ。	1	1	2	1	1	0	3.0
	(12) 教員の説明をよく聞き意欲的に課題に取り組んだ。	1	1	1	2	1	0	2.8
	(13) 分からないことや疑問に思ったことは調べた。	0	2	1	2	1	0	2.7
	(14) 授業に関連した内容について友人や教員と話し合った。	0	3	1	0	2	0	2.8
4 教員の授業の進め方について	(15) 学生の理解状況を確かめながら授業を行った。	0	0	5	1	0	0	2.8
	(16) 熱心に指導した。	1	1	2	2	0	0	3.2
	(17) 授業内容を分かりやすく伝えた。	0	2	3	1	0	0	3.2
	(18) 教科書や配布資料等の教材は、内容を理解する上で適切だった。	1	1	3	1	0	0	3.3
	(19) 教育用機器や設備など教具の利用は適切だった。	1	1	3	1	0	0	3.3
	(20) 教員の声は、聞き取りやすかった。	1	0	3	2	0	0	3.0
5 授業に対する満足度	(21) 与えられた課題のレベルや分量は、適切だった。	1	0	3	2	0	0	3.0
	(22) この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。	1	2	2	1	0	0	3.5



教員のコメント

質問項目(7)(8)(9)において低い評価を受けているので、これらの項目について振り返り、今後の授業改善に活かしたい。

まず、この授業では中学校技術科の授業で頻繁に実践されているロボットキットの製作を教材として扱ったにも関わらず、(7)(8)の項目で低い評価を得ていることは、受講生に授業の主旨が十分に伝わっていないなかつたものと思われる。次年度以降、中学ロボコンの現場を見学させるなど、授業の主旨を理解させるための工夫を試みたい。

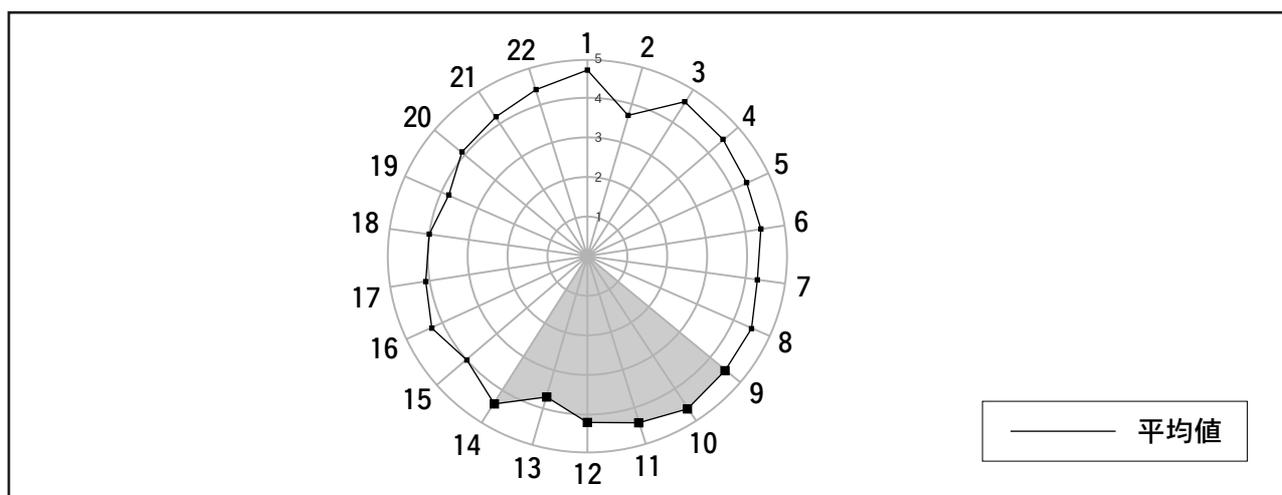
また、今年の受講生は残念ながら極めて出席状態が悪く、そのため項目(9)を含めて、受講生自身の授業への取り組みに関する評価が低調であった。

授業科目名 初等中等教科教育実践Ⅱ（家庭）

評価実施日 平成20年2月5日

担当教員名 福井 典代, 黒川 衣代, 渡邊 廣二, 鳥井 葉子, 元木 康代, 井原 和美 回答者数 10名

質問項目		評価選択人数						平均値 (科目別)
		5	4	3	2	1	N.A	
1 授業概要について	(1) 目標・授業計画・内容は、明確に示されていた。	8	1	1	0	0	0	4.7
	(2) 成績評価の方法は、明確に示されていた。	3	2	4	1	0	0	3.7
2 授業の内容等について	(3) 授業概要のねらいにそった授業内容であった。	7	2	1	0	0	0	4.6
	(4) 「初等中等教科教育実践Ⅰ・Ⅱ」で学んだことをふまえ、各教科における教科内容が理解できる授業内容であった。	5	5	0	0	0	0	4.5
	(5) 学習指導要領をふまえ、教科の特性と意義が理解できる授業内容であった。	4	6	0	0	0	0	4.4
	(6) 授業実践を観察する視点が示された授業内容であった。	4	6	0	0	0	0	4.4
	(7) 授業実践に必要な指導力について理解できる授業内容であった。	5	3	2	0	0	0	4.3
	(8) 教科の目標・内容・指導方法が深く結びつき、授業実践されていることが理解できる授業内容であった。	6	3	1	0	0	0	4.5
	(9) 授業によく出席した。	6	3	1	0	0	0	4.5
3 あなたの授業への取り組みについて	(10) 授業内容について授業時間外に準備やまとめをした。	6	4	0	0	0	0	4.6
	(11) 積極的に実験、実習、実技等に取り組んだ。	4	6	0	0	0	0	4.4
	(12) 教員の説明をよく聞き意欲的に課題に取り組んだ。	3	6	1	0	0	0	4.2
	(13) 分からないことや疑問に思ったことは調べた。	2	4	3	1	0	0	3.7
	(14) 授業に関連した内容について友人や教員と話し合った。	5	4	1	0	0	0	4.4
4 教員の授業の進め方について	(15) 学生の理解状況を確かめながら授業を行った。	2	6	2	0	0	0	4.0
	(16) 熱心に指導した。	4	5	1	0	0	0	4.3
	(17) 授業内容を分かりやすく伝えた。	3	5	2	0	0	0	4.1
	(18) 教科書や配布資料等の教材は、内容を理解する上で適切だった。	2	6	2	0	0	0	4.0
	(19) 教育用機器や設備など教具の利用は適切だった。	1	6	3	0	0	0	3.8
	(20) 教員の声は、聞き取りやすかった。	3	5	2	0	0	0	4.1
	(21) 与えられた課題のレベルや分量は適切だった。	4	4	2	0	0	0	4.2
5 授業に対する満足度	(22) この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。	4	6	0	0	0	0	4.4



教員のコメント

本授業は、家庭科の教育実践力の基礎を培うことを目的とした教育実践コア科目の一つである。各専門の大学教員4名と中学校の家庭科教諭2名が指導を行った。

授業評価の結果として、「2. 成績評価の方法は明確に示されていた」と「13. 分からないことや疑問に思ったことは調べた」の2項目の評価が3.7であり、今回の評価の中で最も低かった。2についてはシラバスに明示されているが、授業中においても繰り返し説明する必要性を感じた。13については、授業形態が演習であるにもかかわらず、調べ学習が積極的に行われていない。グループで与えられた課題については事前の学習を行っているが（「10. 授業内容について授業時間外に準備やまとめをした」＝4.6）、授業内容の復習については今後の課題としたい。

自由記述の結果を見ると、肯定的な意見として、「教育実践に役立つことを学べた」3名、「他の分野の授業についてすごく興味を持てた」1名、「中学校の先生に授業を評価してもらい、ヒントをたくさんもらったこと」1名であり、改善点として、「もっと模擬授業の機会を与えてほしい」1名、「知の総合化ノートが使いにくい」4名であった。授業時間の関係から改善しにくい内容も見られるが、教員の中で連携を図りながら、肯定的な意見を含めて授業内容のさらなる改善を図りたい。

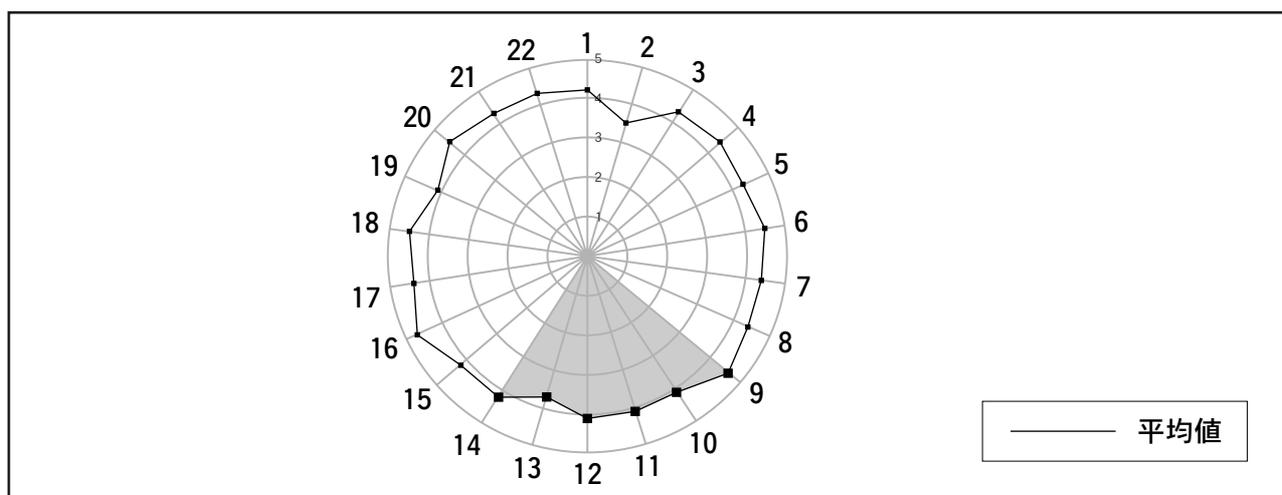
授業科目名 初等中等教科教育実践Ⅲ（国語）

評価実施日 平成19年7月26日

担当教員名 松原 一義, 幾田 伸司

回答者数 19名

質問項目	評価選択人数						平均値 (科目別)	
	5	4	3	2	1	N.A		
1 授業概要について	(1) 目標・授業計画・内容は、明確に示されていた。	8	6	5	0	0	0	4.2
	(2) 成績評価の方法は、明確に示されていた。	3	7	6	2	1	0	3.5
2 授業の内容等について	(3) 授業概要のねらいにそった授業内容であった。	6	13	0	0	0	0	4.3
	(4) 「初等中等教科教育実践Ⅰ・Ⅱ」で学んだことをふまえ、各教科における教科内容が理解できる授業内容であった。	10	6	3	0	0	0	4.4
	(5) 学習指導要領をふまえ、教科の特性と意義が理解できる授業内容であった。	6	12	1	0	0	0	4.3
	(6) 授業実践を観察する視点が示された授業内容であった。	9	10	0	0	0	0	4.5
	(7) 授業実践に必要な指導力について理解できる授業内容であった。	10	7	2	0	0	0	4.4
	(8) 教科の目標・内容・指導方法が深く結びつき、授業実践されていることが理解できる授業内容であった。	10	7	2	0	0	0	4.4
3 あなたの授業への取り組みについて	(9) 授業によく出席した。	11	8	0	0	0	0	4.6
	(10) 授業内容について授業時間外に準備やまとめをした。	6	10	2	1	0	0	4.1
	(11) 積極的に実験、実習、実技等に取り組んだ。	6	9	4	0	0	0	4.1
	(12) 教員の説明をよく聞き意欲的に課題に取り組んだ。	6	9	4	0	0	0	4.1
	(13) 分からないことや疑問に思ったことは調べた。	4	8	4	3	0	0	3.7
	(14) 授業に関連した内容について友人や教員と話し合った。	8	8	2	1	0	0	4.2
4 教員の授業の進め方について	(15) 学生の理解状況を確かめながら授業を行った。	8	7	4	0	0	0	4.2
	(16) 熱心に指導した。	14	4	1	0	0	0	4.7
	(17) 授業内容を分かりやすく伝えた。	11	5	3	0	0	0	4.4
	(18) 教科書や配布資料等の教材は、内容を理解する上で適切だった。	12	4	3	0	0	0	4.5
	(19) 教育用機器や設備など教具の利用は適切だった。	7	6	6	0	0	0	4.1
	(20) 教員の声は、聞き取りやすかった。	11	7	1	0	0	0	4.5
5 授業に対する満足度	(21) 与えられた課題のレベルや分量は適切だった。	8	8	3	0	0	0	4.3
	(22) この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。	7	10	2	0	0	0	4.3



教員のコメント

本授業では、教育実習を視野に入れ、教材分析、指導案作成、模擬授業を一つの流れとして、演習形式で授業を構成した。

項目⑳の授業に対する満足度の平均値は4.3であり、おおむね肯定的な評価を得られたと判断できる。コメントを見ると、やはり模擬授業を通して得られたことが大きかったようであった。他の項目についてもおおむね4.0以上の平均値を得ており、事前準備等もしっかりやり、授業へも真摯に取り組んだという受講者の自己評価であったといえよう。授業の中で系統立てて模擬授業実施へつなげていく授業構成は、たしかに受講者の負担も大きくなるが、受講者の目的意識にも合致し、肯定的な側面が強い。

問題点としては、国語コース以外の学生に対する配慮がもう少しほしかったというコメントがあった。これは授業者の意識していなかった点であり、次年度に向けて改善したい。また、項目②の評価方法についても、他の項目に比べて平均値が低かった。シラバスで明示してはいるが、具体性に欠けると判断されたのだろう。次年度に向けて再検討したい。

次年度に向けては、おおむね今年度の授業内容をふまえる方向で考えたい。ただし、個々の場面における指導は、私たち授業者の力量が大きく影響する。そのための力量を高めるために努力したい。

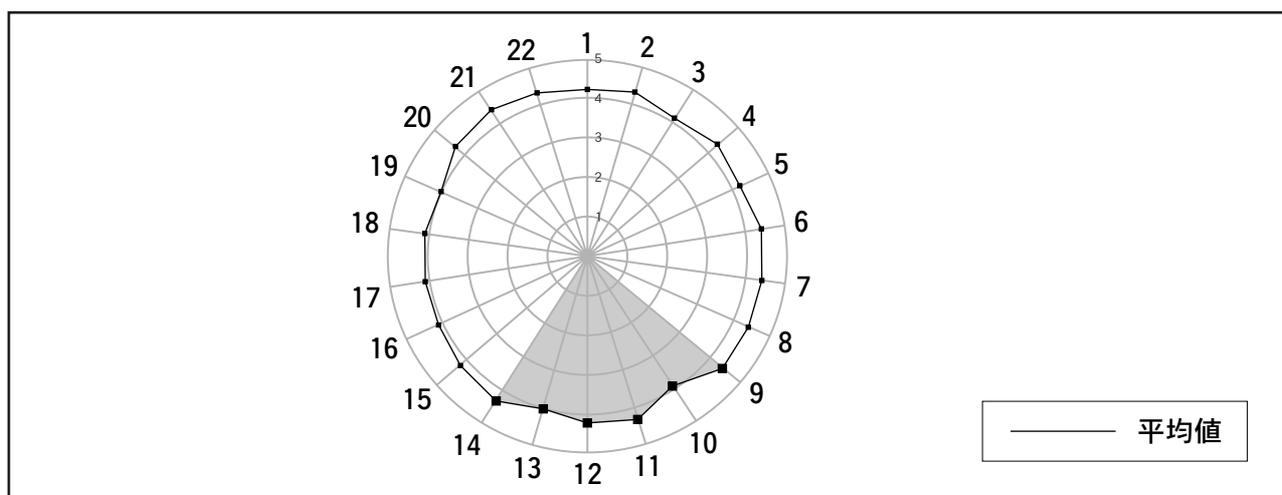
授業科目名 初等中等教科教育実践Ⅲ（英語）

評価実施日 平成19年7月26日

担当教員名 太田垣正義, 山森 直人, 小川 雅功, 大牛 英則

回答者数 9名

質問項目	評価選択人数						平均値 (科目別)	
	5	4	3	2	1	N.A		
1 授業概要について	(1) 目標・授業計画・内容は、明確に示されていた。	3	5	1	0	0	0	4.2
	(2) 成績評価の方法は、明確に示されていた。	4	4	1	0	0	0	4.3
2 授業の内容等について	(3) 授業概要のねらいにそった授業内容であった。	3	4	2	0	0	0	4.1
	(4) 「初等中等教科教育実践Ⅰ・Ⅱ」で学んだことをふまえ、各教科における教科内容が理解できる授業内容であった。	4	4	1	0	0	0	4.3
	(5) 学習指導要領をふまえ、教科の特性と意義が理解できる授業内容であった。	4	3	2	0	0	0	4.2
	(6) 授業実践を観察する視点が示された授業内容であった。	6	1	2	0	0	0	4.4
	(7) 授業実践に必要な指導力について理解できる授業内容であった。	6	1	2	0	0	0	4.4
	(8) 教科の目標・内容・指導方法が深く結びつき、授業実践されていることが理解できる授業内容であった。	4	3	1	0	0	0	4.4
3 あなたの授業への取り組みについて	(9) 授業によく出席した。	6	1	2	0	0	0	4.4
	(10) 授業内容について授業時間外に準備やまとめをした。	2	4	3	0	0	0	3.9
	(11) 積極的に実験、実習、実技等に取り組んだ。	4	4	1	0	0	0	4.3
	(12) 教員の説明をよく聞き意欲的に課題に取り組んだ。	4	3	2	0	0	0	4.2
	(13) 分からないことや疑問に思ったことは調べた。	2	4	2	0	0	0	4.0
	(14) 授業に関連した内容について友人や教員と話し合った。	5	0	3	0	0	0	4.3
4 教員の授業の進め方について	(15) 学生の理解状況を確かめながら授業を行った。	3	5	1	0	0	0	4.2
	(16) 熱心に指導した。	2	6	1	0	0	0	4.1
	(17) 授業内容を分かりやすく伝えた。	2	6	1	0	0	0	4.1
	(18) 教科書や配布資料等の教材は、内容を理解する上で適切だった。	3	4	2	0	0	0	4.1
	(19) 教育用機器や設備など教具の利用は適切だった。	2	5	2	0	0	0	4.0
	(20) 教員の声は、聞き取りやすかった。	5	2	2	0	0	0	4.3
5 授業に対する満足度	(21) 与えられた課題のレベルや分量は適切だった。	5	3	1	0	0	0	4.4
	(22) この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。	3	4	1	0	0	0	4.3



教員のコメント

「受講生の授業への取り組み」の中の1項目が平均3.9である以外はすべて4以上であり、学生による評価は概ね高かった。

具体的に授業にかかわるテーマや指導法を扱ったため、また3年生という時期であるため、受講生の態度もまじめで真剣であり、成果があがった授業であった。

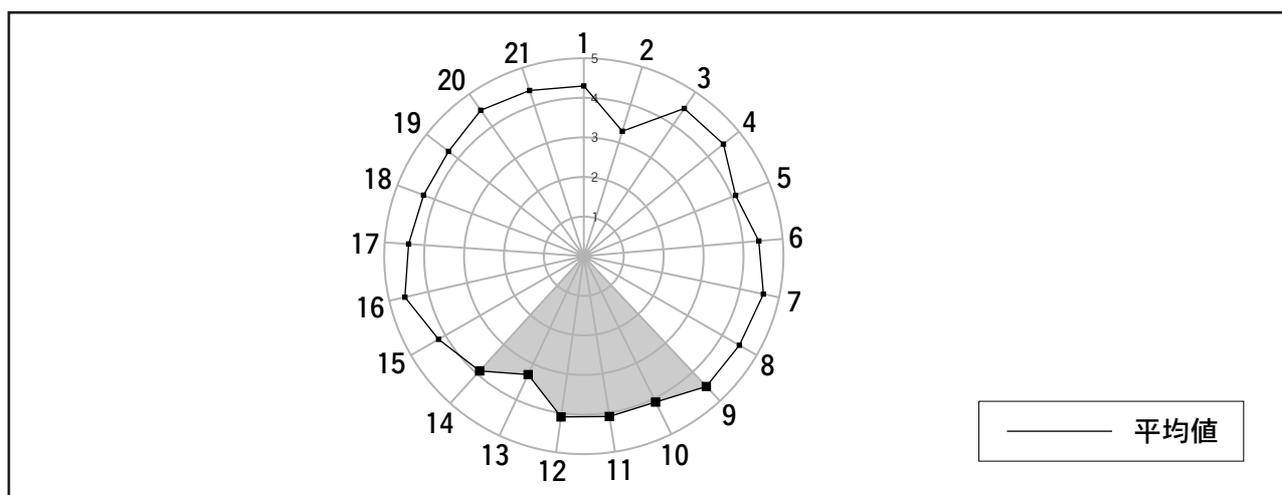
授業科目名 初等中等教科教育実践Ⅲ（社会）

評価実施日 平成19年7月26日

担当教員名 西村 公孝, 麻生 多聞

回答者数 11名

質問項目	評価選択人数						平均値 (科目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
1 授業概要について	(1) 目標・授業計画・内容は、明確に示されていた。	4	6	1	0	0	4.3
	(2) 成績評価の方法は、明確に示されていた。	0	4	6	1	0	3.3
2 授業の内容等について	(3) 授業概要のねらいにそった授業内容であった。	5	6	0	0	0	4.5
	(4) 「初等中等教科教育実践Ⅰ・Ⅱ」で学んだことをふまえ、各教科における教科内容が理解できる授業内容であった。	5	6	0	0	0	4.5
	(5) 学習指導要領をふまえ、教科の特性と意義が理解できる授業内容であった。	4	5	1	1	0	4.1
	(6) 授業実践を観察する視点が示された授業内容であった。	5	5	1	0	0	4.4
	(7) 授業実践に必要な指導力について理解できる授業内容であった。	7	4	0	0	0	4.6
	(8) 教科の目標・内容・指導方法が深く結びつき、授業実践されていることが理解できる授業内容であった。	6	4	1	0	0	4.5
	(9) 授業によく出席した。	8	1	1	1	0	4.5
3 あなたの授業への取り組みについて	(10) 授業内容について授業時間外に準備やまとめをした。	2	8	1	0	0	4.1
	(11) 積極的に実験、実習、実技等に取り組んだ。	4	4	3	0	0	4.1
	(12) 教員の説明をよく聞き意欲的に課題に取り組んだ。	3	6	2	0	0	4.1
	(13) 分からないことや疑問に思ったことは調べた。	1	4	3	3	0	3.3
	(14) 授業に関連した内容について友人や教員と話し合った。	4	4	1	2	0	3.9
4 教員の授業の進め方について	(15) 学生の理解状況を確認しながら授業を行った。	5	4	1	1	0	4.2
	(16) 熱心に指導した。	7	4	0	0	0	4.6
	(17) 授業内容を分かりやすく伝えた。	6	4	0	1	0	4.4
	(18) 教科書や配布資料等の教材は、内容を理解する上で適切だった。	4	6	1	0	0	4.3
	(19) 教員の声は、聞き取りやすかった。	4	6	1	0	0	4.3
	(20) 与えられた課題のレベルや分量は適切だった。	5	6	0	0	0	4.5
5 授業に対する満足度	(21) この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。	7	2	0	0	1	4.4



教員のコメント

この授業は学部3年生を対象としたコアカリキュラムのⅠとⅡにⅢを積み上げたものである。受講生11名の5「授業に対する満足度」も4.4と高くなっている。ほとんどの質問項目で4.0以上の評価を得ているが、「成績評価の方法は、明確に示されていた」3.3、「分からない所や疑問に思ったことは調べた」3.3、「授業に関連した内容について友人や教員と話し合った」3.9の3項目はやや低い評価であった。実践Ⅲは法学担当の麻生准教授の専門性を活かし、附属中学校の先生、外部講師2名の協力による手つなぎの授業である。

そのために、受講生の感想は外部講師の実践経験を聞いたことを高く評価する者と全体の流れやまとまりという点で満足できないコメントを書く学生も数名見られた。しかし、教科内容の専門性を活かし、教材開発による授業づくり・模擬授業については満足している受講生が多く、「もっと模擬授業の時間を増やして欲しい」などの意見も見られた。

この授業はコア科目の仕上げであり、附属学校園の教育実習に出かける前の重要な科目でもある。授業構想・授業展開・授業評価の基礎的な力量を形成しておかなければならない。複数の担当者の連携を密にして、来年度はさらに授業のねらいを達成できるように工夫したい。

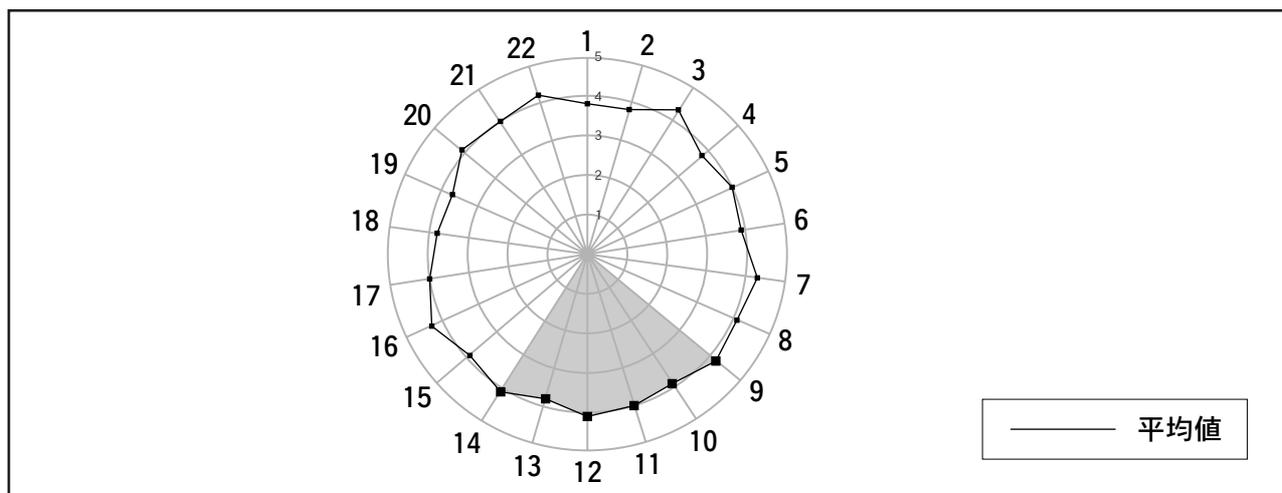
授業科目名 初等中等教科教育実践Ⅲ（算数・数学）

評価実施日 平成19年7月26日

担当教員名 齋藤 昇, 平野 康之, 石川 和幸

回答者数 12名

質問項目	評価選択人数						平均値 (科目別)	
	5	4	3	2	1	N.A		
1 授業概要について	(1) 目標・授業計画・内容は、明確に示されていた。	2	7	2	1	0	0	3.8
	(2) 成績評価の方法は、明確に示されていた。	3	4	4	1	0	0	3.8
2 授業の内容等について	(3) 授業概要のねらいにそった授業内容であった。	6	4	1	1	0	0	4.3
	(4) 「初等中等教科教育実践Ⅰ・Ⅱ」で学んだことをふまえ、各教科における教科内容が理解できる授業内容であった。	3	5	2	2	0	0	3.8
	(5) 学習指導要領をふまえ、教科の特性と意義が理解できる授業内容であった。	5	4	1	2	0	0	4.0
	(6) 授業実践を観察する視点が示された授業内容であった。	4	4	3	1	0	0	3.9
	(7) 授業実践に必要な指導力について理解できる授業内容であった。	6	4	1	1	0	0	4.3
	(8) 教科の目標・内容・指導方法が深く結びつき、授業実践されていることが理解できる授業内容であった。	4	6	1	1	0	0	4.1
3 あなたの授業への取り組みについて	(9) 授業によく出席した。	5	4	3	0	0	0	4.2
	(10) 授業内容について授業時間外に準備やまとめをした。	3	5	4	0	0	0	3.9
	(11) 積極的に実験、実習、実技等に取り組んだ。	3	6	3	0	0	0	4.0
	(12) 教員の説明をよく聞き意欲的に課題に取り組んだ。	5	3	4	0	0	0	4.1
	(13) 分からないことや疑問に思ったことは調べた。	2	6	3	1	0	0	3.8
	(14) 授業に関連した内容について友人や教員と話し合った。	5	3	4	0	0	0	4.1
4 教員の授業の進め方について	(15) 学生の理解状況を確かめながら授業を行った。	3	7	1	0	1	0	3.9
	(16) 熱心に指導した。	7	3	1	0	1	0	4.3
	(17) 授業内容を分かりやすく伝えた。	4	6	1	0	1	0	4.0
	(18) 教科書や配布資料等の教材は、内容を理解する上で適切だった。	4	3	4	0	1	0	3.8
	(19) 教育用機器や設備など教具の利用は適切だった。	3	4	4	0	1	0	3.7
	(20) 教員の声は、聞き取りやすかった。	5	5	1	0	1	0	4.1
5 授業に対する満足度	(21) 与えられた課題のレベルや分量は適切だった。	5	4	2	0	1	0	4.0
	(22) この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。	6	4	1	0	1	0	4.2



教員のコメント

本授業では、教員を目指す学生が、中学校の数学教育における指導内容、実践方法、小学校算数と中学校数学の繋がり・系統性について理解することを目的としている。教科の専門的な内容については教科担当の教員が、具体的な指導内容・方法については中学校学習指導要領・中学校数学教科書を使用して教科教育担当の教員が、教育実践方法については教育経験豊富な教育現場の教員が、理論と実践を対応づけながら講義と演習を行った。

この授業に対する受講者の評価平均値は4.0であった。受講者にとっては、中学校数学の教科書に出てくる公式や数式は読み取れるが、その公式や数式の意味や背景になっている数学的理論についての理解がやや難しかったようである。しかしながら、「授業実践に必要な指導力について理解できる内容であった」「教科の目標・内容・指導方法が深く結びつき、授業実践されていることが理解できる内容であった」「授業によく出席した」「意欲的に課題に取り組んだ」「熱心に指導した」「この授業は、自分自身にとって満足できるものであった」という項目の評価が高く、受講者の関心が高かった様子がうかがわれた。

次年度は、内容をより精選し授業を行うことを考えている。

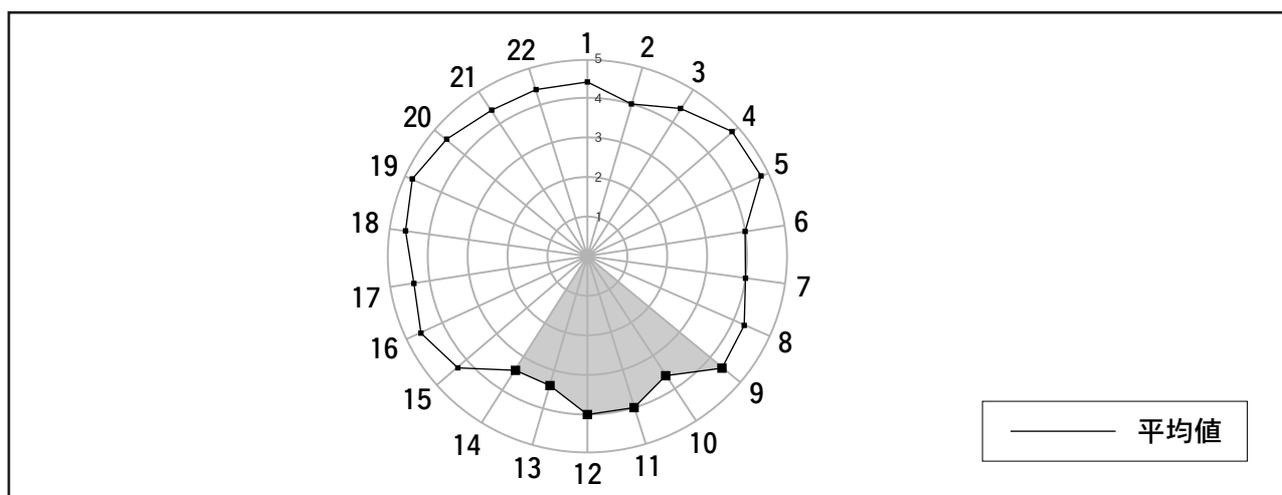
授業科目名 初等中等教科教育実践Ⅲ（音楽）

評価実施日 平成19年7月26日

担当教員名 長島 真人, 松岡貴史, 森本 祥子, 堀川 昌宏

回答者数 8名

質問項目	評価選択人数						平均値 (科目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
1 授業概要について	(1) 目標・授業計画・内容は、明確に示されていた。	3	5	0	0	0	4.4
	(2) 成績評価の方法は、明確に示されていた。	2	4	2	0	0	4.0
2 授業の内容等について	(3) 授業概要のねらいにそった授業内容であった。	4	3	1	0	0	4.4
	(4) 「初等中等教科教育実践Ⅰ・Ⅱ」で学んだことをふまえ、各教科における教科内容が理解できる授業内容であった。	7	0	1	0	0	4.8
	(5) 学習指導要領をふまえ、教科の特性と意義が理解できる授業内容であった。	6	2	0	0	0	4.8
	(6) 授業実践を観察する視点が示された授業内容であった。	3	3	1	1	0	4.0
	(7) 授業実践に必要な指導力について理解できる授業内容であった。	3	3	1	1	0	4.0
	(8) 教科の目標・内容・指導方法が深く結びつき、授業実践されていることが理解できる授業内容であった。	4	2	2	0	0	4.3
3 あなたの授業への取り組みについて	(9) 授業によく出席した。	4	3	1	0	0	4.4
	(10) 授業内容について授業時間外に準備やまとめをした。	1	4	2	1	0	3.6
	(11) 積極的に実験、実習、実技等に取り組んだ。	2	5	0	1	0	4.0
	(12) 教員の説明をよく聞き意欲的に課題に取り組んだ。	3	3	1	1	0	4.0
	(13) 分からないことや疑問に思ったことは調べた。	0	4	3	1	0	3.4
	(14) 授業に関連した内容について友人や教員と話し合った。	0	5	2	0	1	3.4
4 教員の授業の進め方について	(15) 学生の理解状況を確かめながら授業を行った。	4	2	2	0	0	4.3
	(16) 熱心に指導した。	5	3	0	0	0	4.6
	(17) 授業内容を分かりやすく伝えた。	3	5	0	0	0	4.4
	(18) 教科書や配布資料等の教材は、内容を理解する上で適切だった。	5	3	0	0	0	4.6
	(19) 教育用機器や設備など教具の利用は適切だった。	6	2	0	0	0	4.8
	(20) 教員の声は、聞き取りやすかった。	6	1	1	0	0	4.6
	(21) 与えられた課題のレベルや分量は適切だった。	5	2	0	1	0	4.4
5 授業に対する満足度	(22) この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。	4	3	1	0	0	4.4



教員のコメント

今年度は、大学側の教員二人は、基本的にTTで授業を行い、中等音楽科教育の専門的な内容を、教科教育と教科専門の立場から発言し、学生たちとともに検討できるように努力した。特に、教員二人のトークを聴くこと自体が、学生たちには興味深く感じられたようであった。授業概要や授業内容、指導方法に関しては、例年通り、特別に酷評を得ることはなく、多くの学生たちは、授業に満足していたように思われる。しかし、集計されたデータでは確認できないが、三名の学生が、やや消極的な態度で授業に臨んでいたことがアンケートからは明確に確認される。この三名の学生たちの回答では、「3 あなたの授業への取り組みについて」の欄で、評定「5」がほとんどなく、評定「4」「3」「2」を多くつけていた。また、このうちの一人は、このような消極的な取り組みのために授業内容を有意義にとらえることもできなかったようである。この三人以外の学生たちの評定は、「5」と「4」が多くみられた。このように、平均されたデータでは明らかにされないが、コア科目を中核とした教育養成プログラムに消極的な学生がいることも念頭に置く必要があるように思える。今後の改善策としては、学生たちを集団として扱う場面だけでなく、一人ひとりの学びを見守る手立てが必要になってきているようである。評価スタンダードが提案され、教員養成の枠付けが強くなる一方で、学生たち一人ひとりの将来設計に向けての個別的な指導が必要になってきているように思われる。具体的な施策を工夫しなければならない。

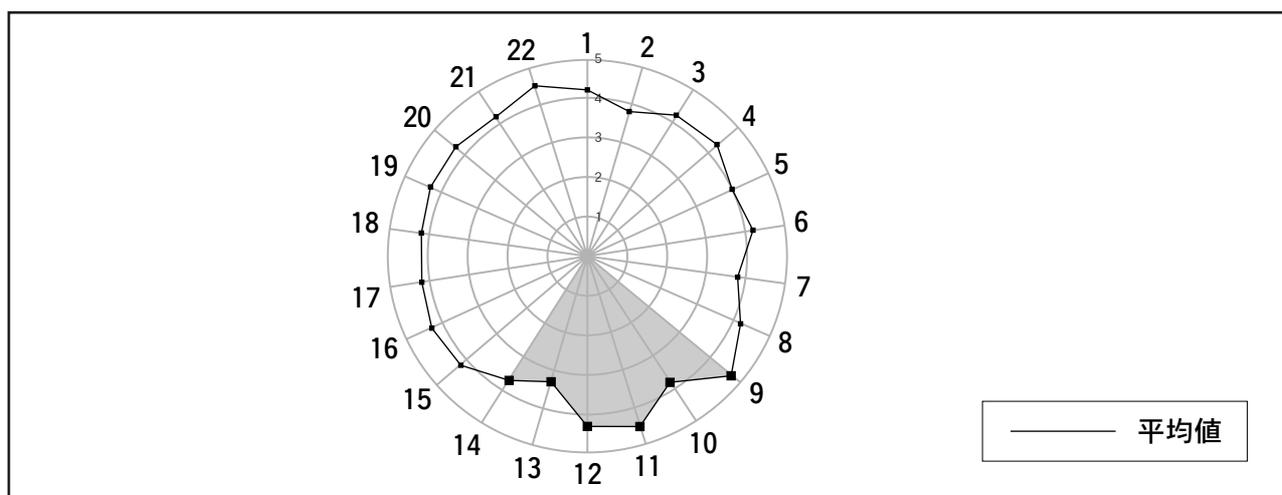
授業科目名 初等中等教科教育実践Ⅲ（図画工作・美術）

評価実施日 平成19年7月26日

担当教員名 橋本 泰幸, 内藤 隆, 西田 威汎

回答者数 6名

質問項目	評価選択人数						平均値 (科目別)	
	5	4	3	2	1	N.A		
1 授業概要について	(1) 目標・授業計画・内容は、明確に示されていた。	3	1	2	0	0	0	4.2
	(2) 成績評価の方法は、明確に示されていた。	2	2	1	1	0	0	3.8
2 授業の内容等について	(3) 授業概要のねらいにそった授業内容であった。	3	1	2	0	0	0	4.2
	(4) 「初等中等教科教育実践Ⅰ・Ⅱ」で学んだことをふまえ、各教科における教科内容が理解できる授業内容であった。	3	2	1	0	0	0	4.3
	(5) 学習指導要領をふまえ、教科の特性と意義が理解できる授業内容であった。	2	2	2	0	0	0	4.0
	(6) 授業実践を観察する視点が示された授業内容であった。	2	3	1	0	0	0	4.2
	(7) 授業実践に必要な指導力について理解できる授業内容であった。	2	1	3	0	0	0	3.8
	(8) 教科の目標・内容・指導方法が深く結びつき、授業実践されていることが理解できる授業内容であった。	2	3	1	0	0	0	4.2
3 あなたの授業への取り組みについて	(9) 授業によく出席した。	4	2	0	0	0	0	4.7
	(10) 授業内容について授業時間外に準備やまとめをした。	1	3	2	0	0	0	3.8
	(11) 積極的に実験、実習、実技等に取り組んだ。	3	3	0	0	0	0	4.5
	(12) 教員の説明をよく聞き意欲的に課題に取り組んだ。	2	4	0	0	0	0	4.3
	(13) 分からないことや疑問に思ったことは調べた。	1	2	2	0	1	0	3.3
	(14) 授業に関連した内容について友人や教員と話し合った。	1	4	0	0	1	0	3.7
4 教員の授業の進め方について	(15) 学生の理解状況を確かめながら授業を行った。	1	5	0	0	0	0	4.2
	(16) 熱心に指導した。	3	2	1	0	0	0	4.3
	(17) 授業内容を分かりやすく伝えた。	2	3	1	0	0	0	4.2
	(18) 教科書や配布資料等の教材は、内容を理解する上で適切だった。	2	3	1	0	0	0	4.2
	(19) 教育用機器や設備など教具の利用は適切だった。	2	4	0	0	0	0	4.3
	(20) 教員の声は、聞き取りやすかった。	2	4	0	0	0	0	4.3
5 授業に対する満足度	(21) 与えられた課題のレベルや分量は適切だった。	2	3	1	0	0	0	4.2
	(22) この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。	3	3	0	0	0	0	4.5



教員のコメント

授業全体の評価を設問(2)から見ると、「非常にそうである」および「そうである」の肯定的回答が全員を占めており、また全体を通して上記2項目に該当する「肯定的回答」は82%弱をしめており、初めての授業としてはまずまずの運営ができたのではないかと印象がある。

この「肯定的回答」率を、回答人数比を基に80%のラインで分けて質問項目を振り分けると、(4)(6)(8)(9)(11)(12)(14)(15)(16)(17)(18)(19)(20)(21)(22)では基準を上回っており、まず「教員の授業の進め方」についてはほぼ問題がない事、また「初等中等教科教育実践Ⅰ・Ⅱとの整合性」に問題もなく、「授業実践への観察視点」も示されたと理解されているのが判る。一方(1)(2)(3)(5)の項目ではこれを満たしておらず、「シラバスの表記内容」、「教科の特性と意義の強調」「実践的指導力の理解促進」などの項目では改善を目指すべきとも考えられる。(10)(12)などについては学生達自身の行動評価に関わる項目だが、授業形態にもよる（例えば調べる内容を含む宿題を出せば自然と埋まるとも思われる）ため、具体的な判断が難しい。

上記にも述べたように授業への学生の評価はまずまずだったものの、本授業は、コアカリキュラムという名のもと、本年度をもって新しく割り振られた新しい授業であり、そのため担当する教員側にもまだまだ戸惑いがある。また、本年の担当教員の1名が退職のため次年度には数名入れ替えるなど、まだ授業内容の安定を許さない状況がある。しかし担当一同、これらの授業評価の回答結果を活かし、今後も授業改善に努めたいと考える。

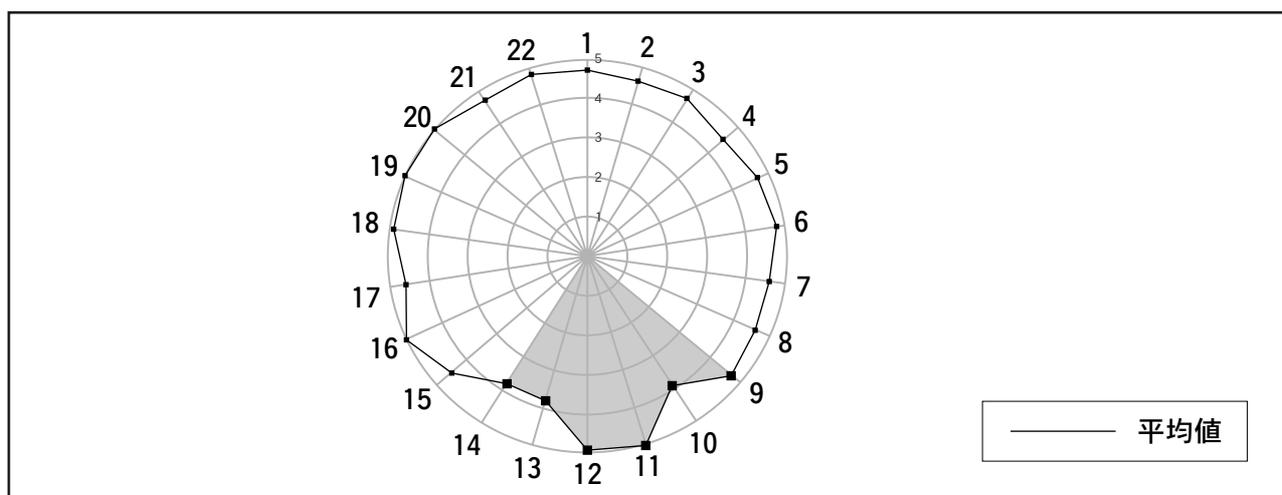
授業科目名 初等中等教科教育実践Ⅲ（体育・保健体育）

評価実施日 平成20年7月26日

担当教員名 藤田 雅文, 梅野 圭史, 南 隆尚, 福田 一敏

回答者数 10名

質問項目	評価選択人数	評価選択人数						平均値 (科目別)
		5	4	3	2	1	N.A	
1 授業概要について	(1) 目標・授業計画・内容は、明確に示されていた。	7	3	0	0	0	0	4.7
	(2) 成績評価の方法は、明確に示されていた。	6	4	0	0	0	0	4.6
2 授業の内容等について	(3) 授業概要のねらいにそった授業内容であった。	7	3	0	0	0	0	4.7
	(4) 「初等中等教科教育実践Ⅰ・Ⅱ」で学んだことをふまえ、各教科における教科内容が理解できる授業内容であった。	6	3	1	0	0	0	4.5
	(5) 学習指導要領をふまえ、教科の特性と意義が理解できる授業内容であった。	8	1	1	0	0	0	4.7
	(6) 授業実践を観察する視点が示された授業内容であった。	8	2	0	0	0	0	4.8
	(7) 授業実践に必要な指導力について理解できる授業内容であった。	7	2	1	0	0	0	4.6
	(8) 教科の目標・内容・指導方法が深く結びつき、授業実践されていることが理解できる授業内容であった。	6	4	0	0	0	0	4.6
3 あなたの授業への取り組みについて	(9) 授業によく出席した。	7	3	0	0	0	0	4.7
	(10) 授業内容について授業時間外に準備やまとめをした。	5	2	1	1	1	0	3.9
	(11) 積極的に実験、実習、実技等に取り組んだ。	10	0	0	0	0	0	5.0
	(12) 教員の説明をよく聞き意欲的に課題に取り組んだ。	9	1	0	0	0	0	4.9
	(13) 分からないことや疑問に思ったことは調べた。	4	3	1	1	1	0	3.8
4 教員の授業の進め方について	(14) 授業に関連した内容について友人や教員と話し合った。	5	1	2	1	1	0	3.8
	(15) 学生の理解状況を確かめながら授業を行った。	6	3	1	0	0	0	4.5
	(16) 熱心に指導した。	10	0	0	0	0	0	5.0
	(17) 授業内容を分かりやすく伝えた。	6	4	0	0	0	0	4.6
	(18) 教科書や配布資料等の教材は、内容を理解する上で適切だった。	9	1	0	0	0	0	4.9
	(19) 教育用機器や設備など教具の利用は適切だった。	10	0	0	0	0	0	5.0
	(20) 教員の声は、聞き取りやすかった。	10	0	0	0	0	0	5.0
	(21) 与えられた課題のレベルや分量は、適切だった。	7	3	0	0	0	0	4.7
5 授業に対する満足度	(22) この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。	8	2	0	0	0	0	4.8



教員のコメント

項目ごとの平均値は、以下の通りである。授業に対する満足度が4.8であることから、総合的には高い評価を得たと考えている。

- | | |
|---------------------------|------------------------|
| 1 授業概要について (4.65) | 4 教員の授業の進め方について (4.81) |
| 2 授業の内容等について (4.65) | 5 授業に対する満足度 (4.80) |
| 3 あなたの授業への取り組みについて (4.35) | |

「この授業でよかったこと」について、10名中4名が回答しており、その内容は以下の通りである。
 「教科の特性が理解できた。」 「体育について様々な事を知ることができた。」
 「パソコンを使った実践がよかった。」 「実践が多く含まれていてよかった。」

今後は、予習・復習を促すような小テストやレポートの課題提示などに取り組みたい。

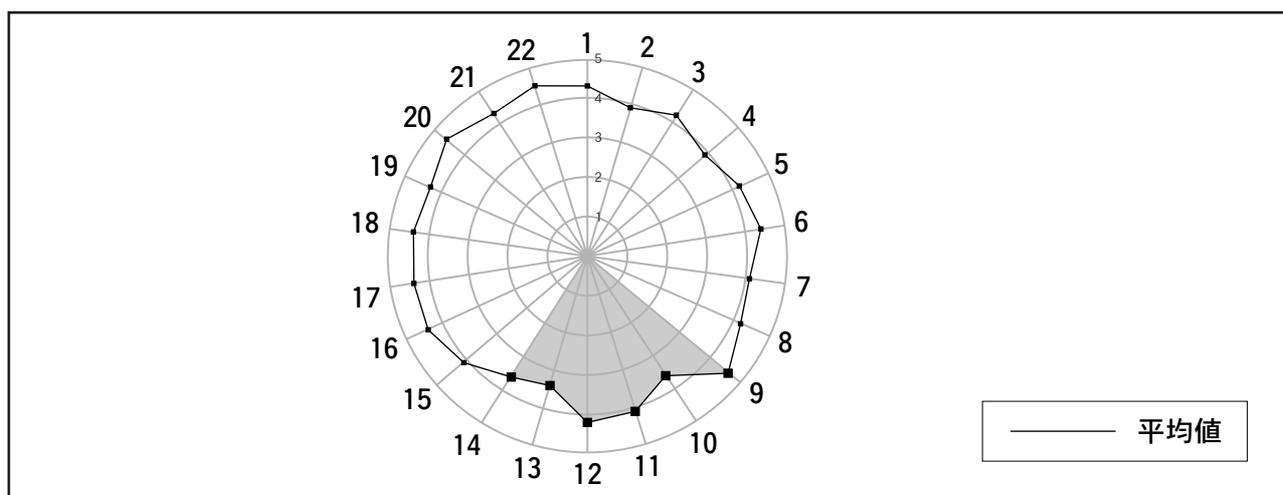
授業科目名 初等中等教科教育実践Ⅲ（技術）

評価実施日 平成19年7月19日

担当教員名 菊地 章, 尾崎 士郎, 伊藤 陽介, 大泉 計

回答者数 9名

質問項目	評価選択人数						平均値 (科目別)	
	5	4	3	2	1	N.A		
1 授業概要について	(1) 目標・授業計画・内容は、明確に示されていた。	4	4	1	0	0	0	4.3
	(2) 成績評価の方法は、明確に示されていた。	3	3	2	1	0	0	3.9
2 授業の内容等について	(3) 授業概要のねらいにそった授業内容であった。	3	5	1	0	0	0	4.2
	(4) 「初等中等教科教育実践Ⅰ・Ⅱ」で学んだことをふまえ、各教科における教科内容が理解できる授業内容であった。	3	3	2	1	0	0	3.9
	(5) 学習指導要領をふまえ、教科の特性と意義が理解できる授業内容であった。	4	3	2	0	0	0	4.2
	(6) 授業実践を観察する視点が示された授業内容であった。	5	3	1	0	0	0	4.4
	(7) 授業実践に必要な指導力について理解できる授業内容であった。	4	2	3	0	0	0	4.1
	(8) 教科の目標・内容・指導方法が深く結びつき、授業実践されていることが理解できる授業内容であった。	3	5	1	0	0	0	4.2
3 あなたの授業への取り組みについて	(9) 授業によく出席した。	7	1	0	1	0	0	4.6
	(10) 授業内容について授業時間外に準備やまとめをした。	3	1	3	2	0	0	3.6
	(11) 積極的に実験、実習、実技等に取り組んだ。	4	2	3	0	0	0	4.1
	(12) 教員の説明をよく聞き意欲的に課題に取り組んだ。	4	3	2	0	0	0	4.2
	(13) 分からないことや疑問に思ったことは調べた。	2	1	5	1	0	0	3.4
	(14) 授業に関連した内容について友人や教員と話し合った。	1	3	5	0	0	0	3.6
4 教員の授業の進め方について	(15) 学生の理解状況を確かめながら授業を行った。	3	5	0	1	0	0	4.1
	(16) 熱心に指導した。	5	3	1	0	0	0	4.4
	(17) 授業内容を分かりやすく伝えた。	5	3	1	0	0	0	4.4
	(18) 教科書や配布資料等の教材は、内容を理解する上で適切だった。	6	2	0	1	0	0	4.4
	(19) 教育用機器や設備など教具の利用は適切だった。	5	2	0	0	0	0	4.3
	(20) 教員の声は、聞き取りやすかった。	5	4	0	0	0	0	4.6
5 授業に対する満足度	(21) 与えられた課題のレベルや分量は適切だった。	5	2	2	0	0	0	4.3
	(22) この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。	4	4	0	0	0	0	4.5



教員のコメント

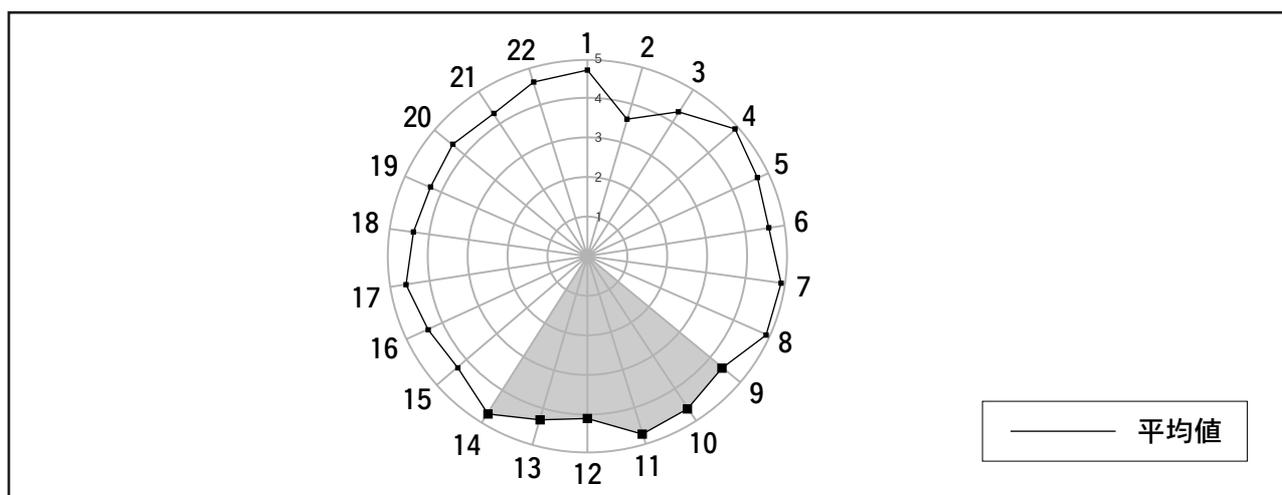
全体的に学生の評価が高く、教授者と学習者の関係がうまくいっているようである。ただ、学生自身の取り組みとしての時間外の準備や質問等については少し学生自身の評価が低いようである。教員側の授業進行については概ね評価が高く、満足のいく評価結果となっている。強いて言えば、成績評価の方法が明確に示されていない点の評価の改善であろうか。

授業科目名 初等中等教科教育実践Ⅲ（家庭）

評価実施日 平成19年7月26日

担当教員名 鳥井 葉子, 西川 和孝, 金 貞均, 元木 康代, 島田 郁子 回答者数 7名

質問項目	評価選択人数						平均値 (科目別)	
	5	4	3	2	1	N.A		
1 授業概要について	(1) 目標・授業計画・内容は、明確に示されていた。	5	2	0	0	0	0	4.7
	(2) 成績評価の方法は、明確に示されていた。	1	4	1	0	1	0	3.6
2 授業の内容等について	(3) 授業概要のねらいにそった授業内容であった。	2	5	0	0	0	0	4.3
	(4) 「初等中等教科教育実践Ⅰ・Ⅱ」で学んだことをふまえ、各教科における教科内容が理解できる授業内容であった。	6	1	0	0	0	0	4.9
	(5) 学習指導要領をふまえ、教科の特性と意義が理解できる授業内容であった。	5	2	0	0	0	0	4.7
	(6) 授業実践を観察する視点が示された授業内容であった。	5	1	1	0	0	0	4.6
	(7) 授業実践に必要な指導力について理解できる授業内容であった。	6	1	0	0	0	0	4.9
	(8) 教科の目標・内容・指導方法が深く結びつき、授業実践されていることが理解できる授業内容であった。	6	1	0	0	0	0	4.9
3 あなたの授業への取り組みについて	(9) 授業によく出席した。	4	2	1	0	0	0	4.4
	(10) 授業内容について授業時間外に準備やまとめをした。	4	3	0	0	0	0	4.6
	(11) 積極的に実験、実習、実技等に取り組んだ。	5	2	0	0	0	0	4.7
	(12) 教員の説明をよく聞き意欲的に課題に取り組んだ。	3	2	2	0	0	0	4.1
	(13) 分からないことや疑問に思ったことは調べた。	4	1	2	0	0	0	4.3
	(14) 授業に関連した内容について友人や教員と話し合った。	5	2	0	0	0	0	4.7
4 教員の授業の進め方について	(15) 学生の理解状況を確かめながら授業を行った。	3	3	1	0	0	0	4.3
	(16) 熱心に指導した。	3	4	0	0	0	0	4.4
	(17) 授業内容を分かりやすく伝えた。	4	3	0	0	0	0	4.6
	(18) 教科書や配布資料等の教材は、内容を理解する上で適切だった。	3	4	0	0	0	0	4.4
	(19) 教育用機器や設備など教具の利用は適切だった。	3	3	1	0	0	0	4.3
	(20) 教員の声は、聞き取りやすかった。	3	4	0	0	0	0	4.4
5 授業に対する満足度	(21) 与えられた課題のレベルや分量は適切だった。	3	3	1	0	0	0	4.3
	(22) この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。	4	3	0	0	0	0	4.6



教員のコメント

全22の質問項目に対する評価の平均は4.5と非常に高かった。

評価が3.6と最も低かった項目は、授業概要についての「(2)成績評価の方法は明確に示されていた」であった。授業概要に示した成績評価方法は「毎週の授業後の課題（出席状況を含む）と学期末の課題から、到達目標への達成度を総合的に評価する」であった。今後、成績評価の方法およびその表記に関する検討を行って改善したい。

授業で改善したほうがよいと思うこととして、「模擬授業を行う日と指導案の提出締切日の間に十数日の間があったことが気になった。話し合いを重ねる上で指導案の内容を変更することもあるので締切は前日ぐらいにしてほしい」という要望があげられた。学外講師の先生方にあらかじめ模擬授業の学習指導案を送付して目を通していただくために統一した提出日を設定していたが、次年度からは各授業の数日前の提出等、柔軟に対応したい。

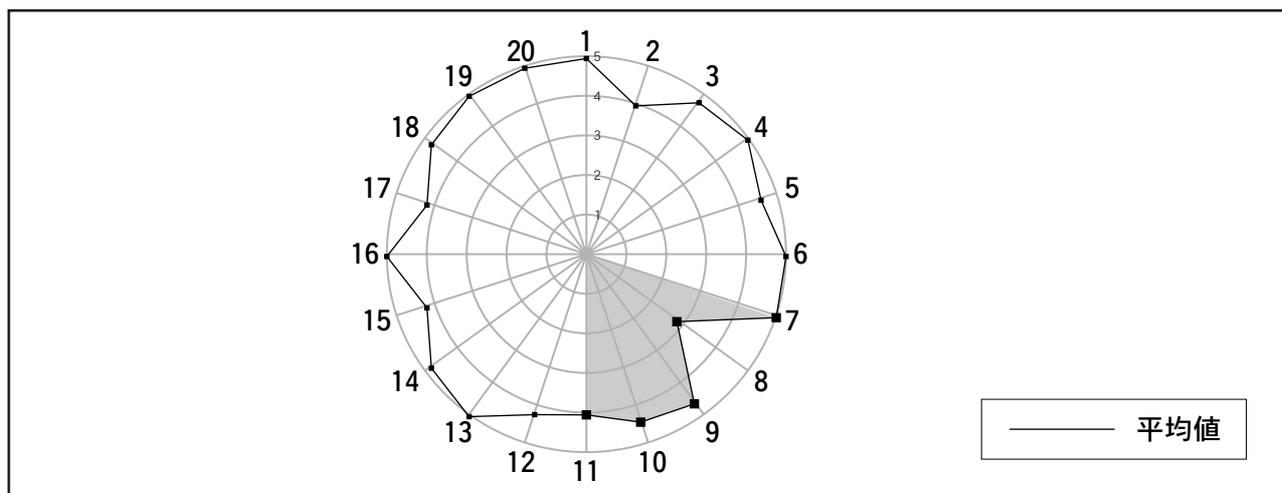
評価が4.9と非常に高かった項目は、「(4)「初等中等教科教育実践Ⅰ・Ⅱ」で学んだことをふまえ、各教科における教科内容が理解できる授業内容であった」「(7)授業実践に必要な指導力について理解できる授業内容であった」「(8)教科の目標・内容・指導方法が深く結びつき、授業実践されていることが理解できる授業内容であった」であった。また、授業でよかったことに「模擬授業や実習などをたくさんできたこと。実習のために役立つ。」と記述されており、本授業は、学生が積極的に学習を進め、また授業内容に満足していたことが伺える。

授業科目名 障害児教育実践
 評価実施日 平成19年10月11日

担当教員名 橋本 俊顯, 八幡, 井上(と), 大谷, 島田, 津田, 高原

回答者数 5名

質問項目	評価選択人数	評価選択人数						平均値 (科目別)
		5	4	3	2	1	N.A	
1 授業概要について	(1) 目標・授業計画・内容は、明確に示されていた。	5	0	0	0	0	0	5.0
	(2) 成績評価の方法は、明確に示されていた。	2	2	0	1	0	0	4.0
2 授業の内容等について	(3) 授業内容は、授業概要に沿っていた。	4	1	0	0	0	0	4.8
	(4) 授業内容は、教養や専門性を高めるものだった。	5	0	0	0	0	0	5.0
	(5) 授業内容は、教育に対する見方や考え方を学べるものだった。	4	0	1	0	0	0	4.6
	(6) 授業内容は、興味・関心を引くものだった。	5	0	0	0	0	0	5.0
3 あなたの授業への取り組みについて	(7) 授業によく出席した。	5	0	0	0	0	0	5.0
	(8) 授業内容をよく理解するために予習や復習をした。	1	0	2	1	1	0	2.8
	(9) 授業中に積極的に発言や質問をした。	3	2	0	0	0	0	4.6
	(10) 積極的に課題に取り組んだ。	3	1	1	0	0	0	4.4
	(11) 分からないことや疑問に思ったことは調べた。	3	1	0	0	1	0	4.0
4 教員の授業の進め方について	(12) 学生の理解状況を確かめながら授業を行った。	2	2	1	0	0	0	4.2
	(13) 学生参加型の授業だった。	5	0	0	0	0	0	5.0
	(14) 熱心に指導した。	4	1	0	0	0	0	4.8
	(15) 授業内容を分かりやすく説明した。	3	1	0	1	0	0	4.2
	(16) 教科書や配布資料等の教材は、内容を理解する上で適切だった。	5	0	0	0	0	0	5.0
	(17) 視聴覚機器及び教育用機器の利用は、適切だった。	3	0	2	0	0	0	4.2
	(18) 授業の進む速さは、適切だった。	4	1	0	0	0	0	4.8
	(19) 学生の疑問や質問に適切に答えた。	5	0	0	0	0	0	5.0
5 授業に対する満足度	(20) この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。	5	0	0	0	0	0	5.0



教員のコメント

本授業は将来障害児教育に関わる学生が特別支援学級での障害児教育の実践に触れることで、障害児教育の現状を大まかに把握できるようになることを目的として行っている。アンケートの結果からはおおむねその目的は達成されたと考える。

授業の参加については積極的であったが、自主学習への取り組みに関する項目においてはばらつきが見られた。検討を要する。

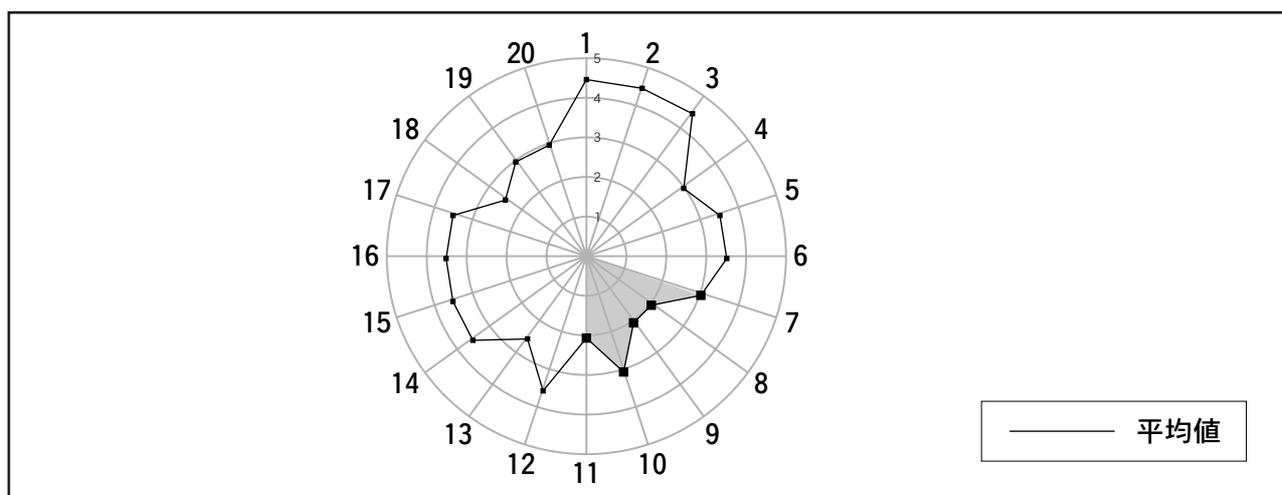
授業に対する満足度は高く、一部改善しながら次年度以降も同様の方針で実施する予定である。

教職(基礎・共通)科目

授業科目名 同和教育論
 評価実施日 平成19年7月27日
 担当教員名 清水 茂, 大石 雅章, 町田 哲

回答者数 2名

質問項目	評価選択人数						平均値 (科目別)	
	5	4	3	2	1	N.A		
1 授業概要について	(1) 目標・授業計画・内容は、明確に示されていた。	1	1	0	0	0	0	4.5
	(2) 成績評価の方法は、明確に示されていた。	1	1	0	0	0	0	4.5
2 授業の内容等について	(3) 授業内容は、授業概要に沿っていた。	1	1	0	0	0	0	4.5
	(4) 授業内容は、教養や専門性を高めるものだった。	0	0	2	0	0	0	3.0
	(5) 授業内容は、教育に対する見方や考え方を学べるものだった。	0	1	1	0	0	0	3.5
	(6) 授業内容は、興味・関心を引くものだった。	0	1	1	0	0	0	3.5
3 あなたの授業への取り組みについて	(7) 授業によく出席した。	0	1	0	1	0	0	3.0
	(8) 授業内容をよく理解するために予習や復習をした。	0	0	0	2	0	0	2.0
	(9) 授業中に積極的に発言や質問をした。	0	0	0	2	0	0	2.0
	(10) 教員の説明をよく聞いた。	0	1	0	1	0	0	3.0
	(11) 分からないことや疑問に思ったことは調べた。	0	0	0	2	0	0	2.0
4 教員の授業の進め方について	(12) 学生の理解状況を確かめながら授業を行った。	0	1	1	0	0	0	3.5
	(13) 学生が参加しやすい授業だった。	0	0	1	1	0	0	2.5
	(14) 熱心に指導した。	0	1	1	0	0	0	3.5
	(15) 授業内容を分かりやすく説明した。	0	1	1	0	0	0	3.5
	(16) 教科書や配布資料等の教材は、内容を理解する上で適切だった。	0	1	1	0	0	0	3.5
	(17) 視聴覚機器及び教育用機器の利用は、適切だった。	0	1	1	0	0	0	3.5
	(18) 教員の声は、聞き取りやすかった。	0	0	1	1	0	0	2.5
	(19) 授業の進む速さは、適切だった。	0	0	2	0	0	0	3.0
5 授業に対する満足度	(20) この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。	0	0	2	0	0	0	3.0



教員のコメント

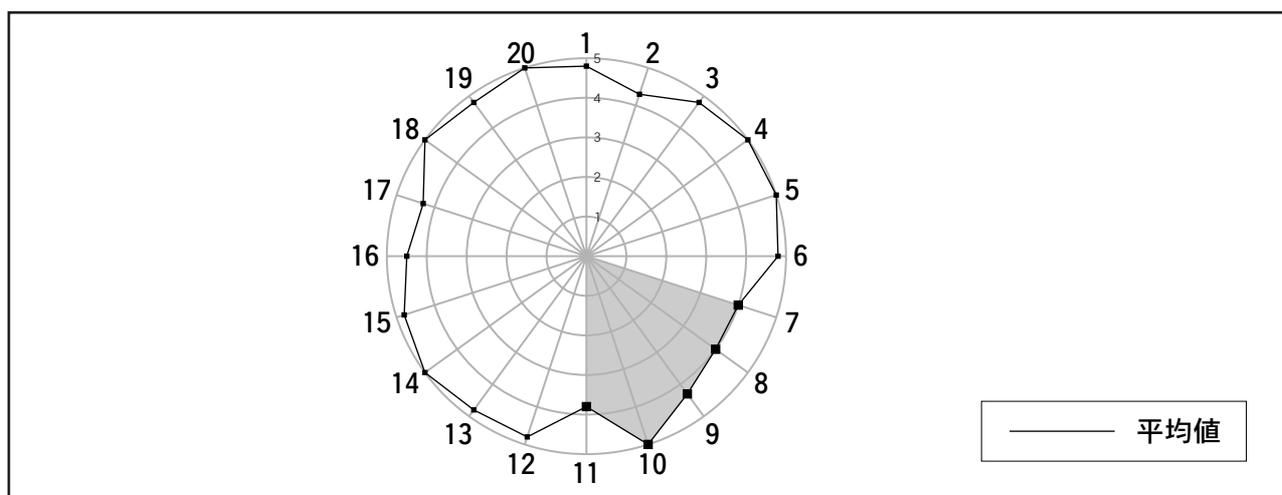
受講者20名のうち、わずか2名からの回答であったため、授業評価は控えるべきであろう。回答を寄せた2名に関して言えば以下の通りである。

授業概要、授業の内容に関する評価は高い。教員の授業の進め方についても、概ね良いと答えている。教員の声の大きさに留意してほしいという要望が寄せられている。受講生自らの授業への取り組みについての評点が低い。授業者としては、受講生に対して主体的・積極的な取り組みを求めたい。

授業科目名 図画工作科授業論
 評価実施日 平成19年7月30日
 担当教員名 山田 芳明

回答者数 4名

質問項目	評価選択人数	評価選択人数						平均値 (科目別)
		5	4	3	2	1	N.A	
1 授業概要について	(1) 目標・授業計画・内容は、明確に示されていた。	3	1	0	0	0	0	4.8
	(2) 成績評価の方法は、明確に示されていた。	2	1	1	0	0	0	4.3
2 授業の内容等について	(3) 授業内容は、授業概要に沿っていた。	3	1	0	0	0	0	4.8
	(4) 授業内容は、教養や専門性を高めるものだった。	4	0	0	0	0	0	5.0
	(5) 授業内容は、教育に対する見方や考え方を学べるものだった。	4	0	0	0	0	0	5.0
	(6) 授業内容は、興味・関心を引くものだった。	3	1	0	0	0	0	4.8
3 あなたの授業への取り組みについて	(7) 授業によく出席した。	0	4	0	0	0	0	4.0
	(8) 授業内容をよく理解するために予習や復習をした。	1	2	1	0	0	0	4.0
	(9) 授業中に積極的に発言や質問をした。	1	3	0	0	0	0	4.3
	(10) 教員の説明をよく聞いた。	4	0	0	0	0	0	5.0
	(11) 分からないことや疑問に思ったことは調べた。	0	3	1	0	0	0	3.8
4 教員の授業の進め方について	(12) 学生の理解状況を確かめながら授業を行った。	3	1	0	0	0	0	4.8
	(13) 学生が参加しやすい授業だった。	3	1	0	0	0	0	4.8
	(14) 熱心に指導した。	4	0	0	0	0	0	5.0
	(15) 授業内容を分かりやすく説明した。	3	1	0	0	0	0	4.8
	(16) 教科書や配布資料等の教材は、内容を理解する上で適切だった。	2	2	0	0	0	0	4.5
	(17) 視聴覚機器及び教育用機器の利用は、適切だった。	2	1	1	0	0	0	4.3
	(18) 教員の声は、聞き取りやすかった。	4	0	0	0	0	0	5.0
	(19) 授業の進む速さは、適切だった。	3	1	0	0	0	0	4.8
5 授業に対する満足度	(20) この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。	4	0	0	0	0	0	5.0



教員のコメント

本授業は6名という少人数の授業である。

全20項目のうち、6項目で平均が5ポイントという結果を得た。こうした少人数の授業の場合は、比較的高い評価になる傾向があるように感じるが、1-(4)、1-(5)は、それぞれ、教養や専門性、教育に対する見方や考え方といった事柄を高める内容であったかを問う項目であることから、これらに対して、全ての学生が5ポイントを付けてくれていることは、本授業の位置づけ等から考えても、授業内容が学生にとって有意義なものであったということであり、素直に嬉しく感じている。

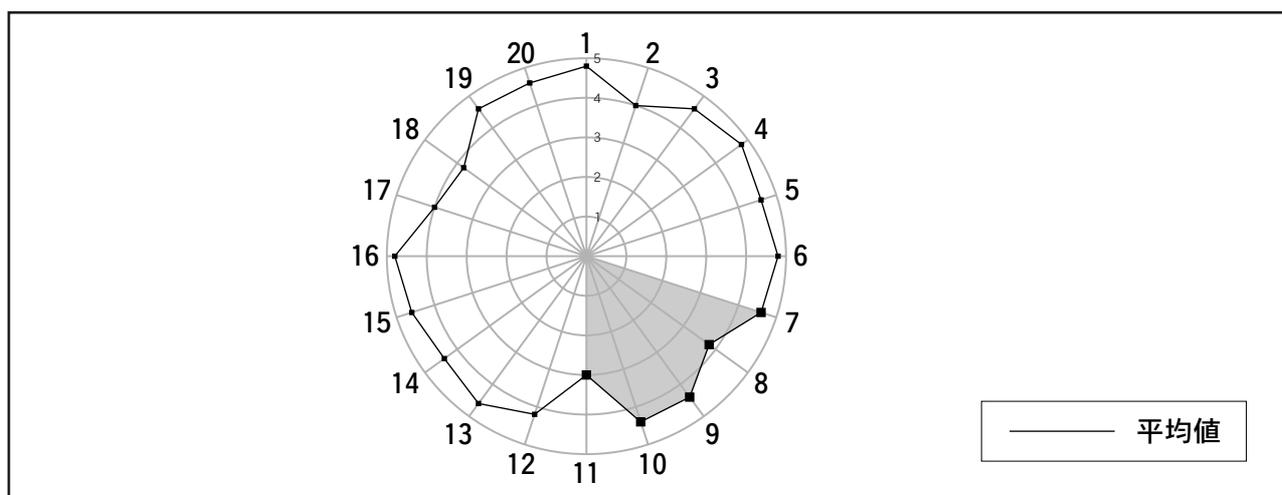
その一方、3-(7)、3-(8)、3-(9)、3-(11)といった学生自身の授業への取組を問う項目では、比較的低い評価に留まってしまっている。もちろんこれらは、学生自身の意志意欲に由来しているものであるが、そういった面にも働きかけられるような授業のあり方を追究する必要があると感じた。

本授業は、旧カリキュラムに関する授業であり、残念ながら、次年度からは開講されないため、本授業を改善することはできない。しかし、このアンケート結果を、他の授業改善に役立てたい。

授業科目名 初等家庭科授業論
 評価実施日 平成19年7月12日
 担当教員名 鳥井 葉子

回答者数 5名

質問項目	評価選択人数	評価選択人数					平均値 (科目別)	
		5	4	3	2	1		N.A
1 授業概要について	(1) 目標・授業計画・内容は、明確に示されていた。	4	1	0	0	0	0	4.8
	(2) 成績評価の方法は、明確に示されていた。	2	1	2	0	0	0	4.0
2 授業の内容等について	(3) 授業内容は、授業概要に沿っていた。	4	0	1	0	0	0	4.6
	(4) 授業内容は、教養や専門性を高めるものだった。	4	1	0	0	0	0	4.8
	(5) 授業内容は、教育に対する見方や考え方を学べるものだった。	3	2	0	0	0	0	4.6
	(6) 授業内容は、興味・関心を引くものだった。	4	1	0	0	0	0	4.8
3 あなたの授業への取り組みについて	(7) 授業によく出席した。	3	2	0	0	0	0	4.6
	(8) 授業内容をよく理解するために予習や復習をした。	1	2	2	0	0	0	3.8
	(9) 授業中に積極的に発言や質問をした。	2	3	0	0	0	0	4.4
	(10) 教員の説明をよく聞いた。	2	3	0	0	0	0	4.4
	(11) 分からないことや疑問に思ったことは調べた。	0	1	3	1	0	0	3.0
4 教員の授業の進め方について	(12) 学生の理解状況を確かめながら授業を行った。	2	2	1	0	0	0	4.2
	(13) 学生が参加しやすい授業だった。	3	2	0	0	0	0	4.6
	(14) 熱心に指導した。	3	1	1	0	0	0	4.4
	(15) 授業内容を分かりやすく説明した。	3	2	0	0	0	0	4.6
	(16) 教科書や配布資料等の教材は、内容を理解する上で適切だった。	4	1	0	0	0	0	4.8
	(17) 視聴覚機器及び教育用機器の利用は、適切だった。	2	1	2	0	0	0	4.0
	(18) 教員の声は、聞き取りやすかった。	1	2	2	0	0	0	3.8
	(19) 授業の進む速さは、適切だった。	3	2	0	0	0	0	4.6
5 授業に対する満足度	(20) この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。	3	2	0	0	0	0	4.6



教員のコメント

学生から授業で改善したほうがよいこととして「授業実践の様子をビデオなどがあれば見てみたい」があがった。家庭コースの受講生には3年次までの授業で家庭科授業実践ビデオを視聴させているが、本授業には他コースの学生も受講していたため、家庭科授業実践ビデオ視聴への希望が出たと思われる。第1回の授業で受講生の希望を尋ねるとよかったと反省している。

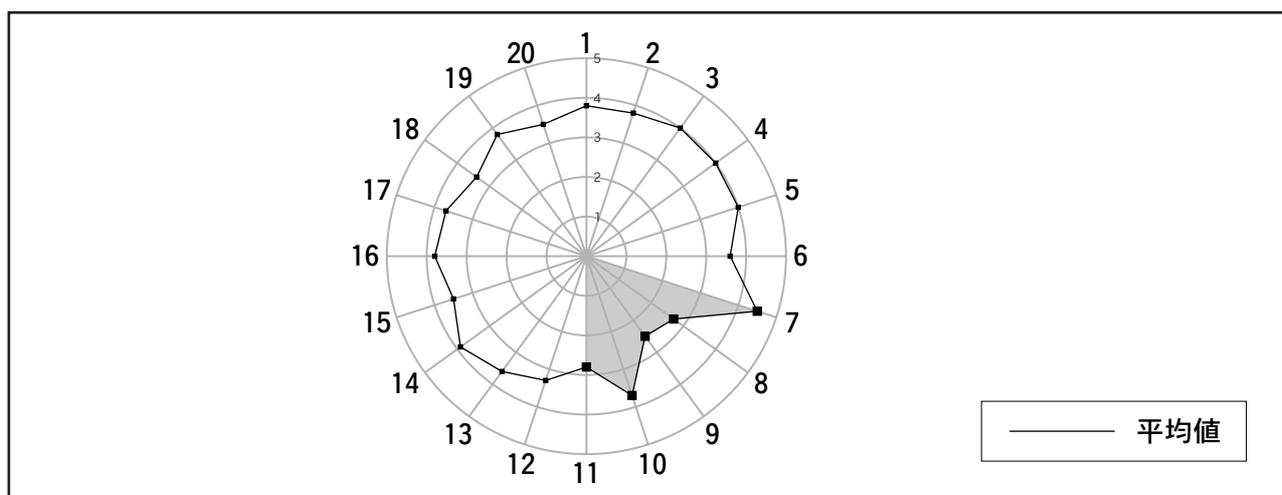
授業でよかったことには「模擬授業」「様々な家庭科の実践例を見ることができ、模擬授業にも活かすことができたこと」「教育実習において活かされるような実践的な学習ができたこと」「模擬授業があり、今までの知識や学んだ支援方法のまとめとして実践できたのでよかった」「実践的な指導計画を立てることができたこと」があげられた。

受講生が活発に議論できるようにするには？という質問を設定したところ、「人数を増やす」「丸く机を移動させ話しやすい雰囲気をつくる」「一人ひとりが発表する一人1回発表制をやめて自由に言い合えるような雰囲気にする」「事前に誰がどの単元を行うかを把握すると簡単な予習ができ授業者の意図する教育内容もとらえやすくなるし、授業者が展開に困った点などを周りの意見を基に改善策が生まれるのではないか」との意見が得られ、今後、授業方法を改善したいと考える。

授業科目名 人間形成原論
 評価実施日 平成19年8月6日
 担当教員名 木内 陽一, 梶井 一暁

回答者数 137名

質問項目	評価選択人数						平均値 (科目別)	
	5	4	3	2	1	N.A		
1 授業概要について	(1) 目標・授業計画・内容は、明確に示されていた。	30	53	46	6	2	0	3.8
	(2) 成績評価の方法は、明確に示されていた。	29	54	47	6	1	0	3.8
2 授業の内容等について	(3) 授業内容は、授業概要に沿っていた。	46	48	38	5	0	0	4.0
	(4) 授業内容は、教養や専門性を高めるものだった。	44	57	27	8	1	0	4.0
	(5) 授業内容は、教育に対する見方や考え方を学べるものだった。	48	53	25	9	2	0	4.0
	(6) 授業内容は、興味・関心を引くものだった。	28	52	32	19	4	0	3.6
3 あなたの授業への取り組みについて	(7) 授業によく出席した。	89	30	13	4	1	0	4.5
	(8) 授業内容をよく理解するために予習や復習をした。	7	17	56	36	21	0	2.7
	(9) 授業中に積極的に発言や質問をした。	5	20	43	41	28	0	2.5
	(10) 教員の説明をよく聞いた。	28	52	43	9	4	0	3.7
	(11) 分からないことや疑問に思ったことは調べた。	11	21	55	34	16	0	2.8
4 教員の授業の進め方について	(12) 学生の理解状況を確かめながら授業を行った。	18	44	45	24	6	0	3.3
	(13) 学生が参加しやすい授業だった。	26	45	55	10	1	0	3.6
	(14) 熱心に指導した。	39	54	38	5	1	0	3.9
	(15) 授業内容を分かりやすく説明した。	20	52	47	16	2	0	3.5
	(16) 教科書や配布資料等の教材は、内容を理解する上で適切だった。	34	53	39	10	1	0	3.8
	(17) 視聴覚機器及び教育用機器の利用は、適切だった。	30	49	45	9	4	0	3.7
	(18) 教員の声は、聞き取りやすかった。	26	39	46	17	9	0	3.4
	(19) 授業の進む速さは、適切だった。	30	58	39	10	0	0	3.8
5 授業に対する満足度	(20) この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。	24	46	49	14	3	0	3.5



教員のコメント

平均的な評価であるとうけとめる。改善すべき点は多い。

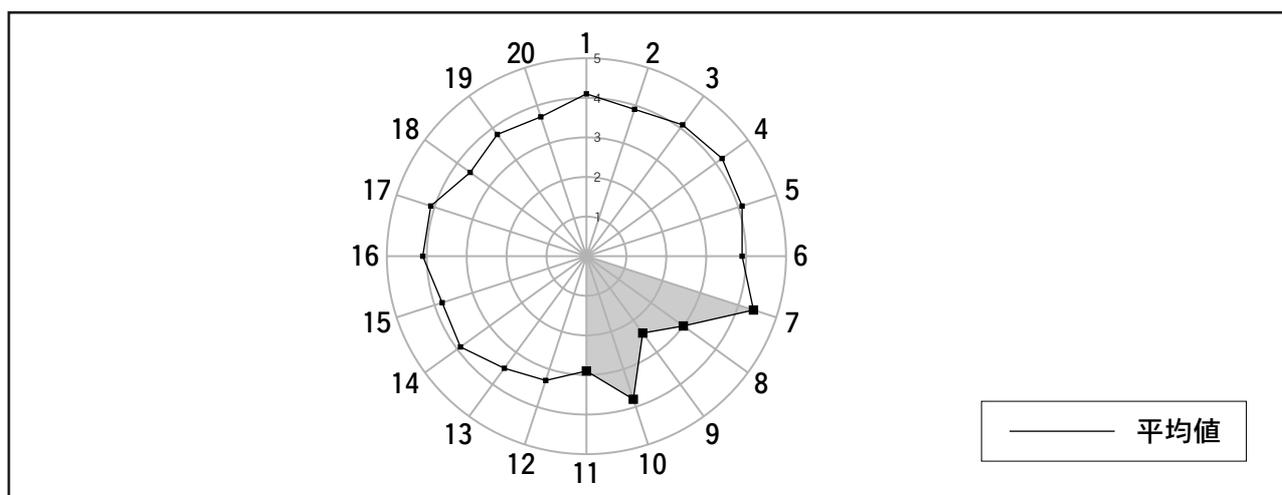
とくに改善すべきは、「3. あなたの授業への取り組みについて」にかかわる諸項目である。受講者は授業によく出席したが(7)、授業のための予習や復習(8)、授業での積極的な発言や質問(9)、自主的な学習(11)を行うにいたっていない。これまで授業担当者は、受講者の主体的な取り組みを引き出すため、関連する読みやすい本が目の前の図書館にあること、関連記事が新聞に載っており、これも図書館で読めること、関連情報がさまざまなWEBページで簡単にみつかることなどを紹介してきた。もっと工夫が必要ということであろう。考えたい。

また、大教室での授業、学部1年生と大学院生（主に長期履修生）がともに学ぶ授業であることの難しさを、あらためて実感した。これへの対応も課題である。

授業科目名 教育心理学
 評価実施日 平成19年7月30日
 担当教員名 皆川 直凡

回答者数 108名

質問項目	評価選択人数						平均値 (科目別)	
	5	4	3	2	1	N.A		
1 授業概要について	(1) 目標・授業計画・内容は、明確に示されていた。	40	40	25	3	0	0	4.1
	(2) 成績評価の方法は、明確に示されていた。	36	39	25	6	2	0	3.9
2 授業の内容等について	(3) 授業内容は、授業概要に沿っていた。	42	40	25	1	0	0	4.1
	(4) 授業内容は、教養や専門性を高めるものだった。	49	37	18	3	1	0	4.2
	(5) 授業内容は、教育に対する見方や考え方を学べるものだった。	43	40	21	3	1	0	4.1
	(6) 授業内容は、興味・関心を引くものだった。	37	36	27	7	1	0	3.9
3 あなたの授業への取り組みについて	(7) 授業によく出席した。	57	38	12	1	0	0	4.4
	(8) 授業内容をよく理解するために予習や復習をした。	10	16	48	27	7	0	3.0
	(9) 授業中に積極的に発言や質問をした。	9	11	29	28	31	0	2.4
	(10) 教員の説明をよく聞いた。	28	40	33	7	0	0	3.8
	(11) 分からないことや疑問に思ったことは調べた。	13	17	38	31	9	0	2.9
4 教員の授業の進め方について	(12) 学生の理解状況を確認しながら授業を行った。	16	32	38	17	5	0	3.3
	(13) 学生が参加しやすい授業だった。	18	42	28	18	2	0	3.5
	(14) 熱心に指導した。	31	42	27	7	1	0	3.9
	(15) 授業内容を分かりやすく説明した。	26	47	25	9	1	0	3.8
	(16) 教科書や配布資料等の教材は、内容を理解する上で適切だった。	44	33	26	4	1	0	4.1
	(17) 視聴覚機器及び教育用機器の利用は、適切だった。	43	39	20	6	0	0	4.1
	(18) 教員の声は、聞き取りやすかった。	29	29	31	14	5	0	3.6
	(19) 授業の進む速さは、適切だった。	29	34	39	4	2	0	3.8
5 授業に対する満足度	(20) この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。	22	44	32	8	1	0	3.7



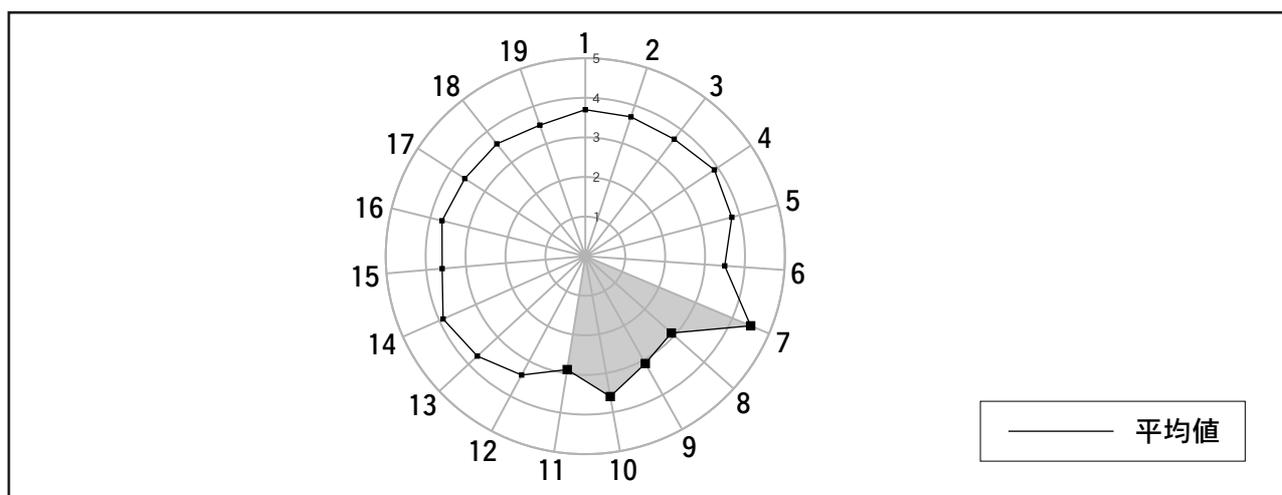
教員のコメント

授業概要ならびに授業の内容等については、おおむね高い評価を得た。学生自身の授業への取り組みを問う項目に対する評価結果からは、授業にはよく出席し教育の説明をよく聞くが、予習復習をしたり、質問をしたり、疑問に思ったことは自分で調べたりすることには、あまり積極的ではない、という受講態度がうかがえた。こうした受講態度の改善は今後の課題である。教員の授業の進め方についての項目に対する評価結果は、教育用機器と教材の適切な利用が高く評価され、教員自身の指導の熱心さが伝わっている反面、学生側の理解状況の確認や授業への参加しやすさについては、改善の余地があることを示している。授業に対する満足度は、4以上が60%強、3がおよそ30%、2以下が10%弱であり、総体的に満足度は高いといえるが、学生側の受講態度の積極化を促し、理解状況の確認をはかるという点を中心とした授業改善の工夫が求められる。

授業科目名 教育制度・経営論
 評価実施日 平成19年7月30日
 担当教員名 岩永 定, 石村 雅雄, 芝山 明義, 佐古 秀一

回答者数 82名

質問項目	評価選択人数						平均値 (科目別)	
	5	4	3	2	1	N.A		
1 授業概要について	(1) 目標・授業計画・内容は、明確に示されていた。	19	30	25	6	1	0	3.7
	(2) 成績評価の方法は、明確に示されていた。	20	27	27	6	1	0	3.7
2 授業の内容等について	(3) 授業内容は、授業概要に沿っていた。	20	28	27	7	0	0	3.7
	(4) 授業内容は、教養や専門性を高めるものだった。	23	32	21	4	1	0	3.9
	(5) 授業内容は、教育に対する見方や考え方を学べるものだった。	25	25	23	6	2	0	3.8
	(6) 授業内容は、興味・関心を引くものだった。	19	22	27	10	3	0	3.5
3 あなたの授業への取り組みについて	(7) 授業によく出席した。	50	21	10	0	1	0	4.5
	(8) 授業内容をよく理解するために予習や復習をした。	10	10	33	17	11	0	2.9
	(9) 授業中に積極的に発言や質問をした。	12	19	25	16	10	0	3.1
	(10) 教員の説明をよく聞いた。	22	23	26	8	3	0	3.6
	(11) 分からないことや疑問に思ったことは調べた。	12	13	29	14	14	0	2.9
4 教員の授業の進め方について	(12) 学生の理解状況を確認しながら授業を行った。	16	21	32	9	4	0	3.4
	(13) 学生が参加しやすい授業だった。	17	30	25	10	0	0	3.7
	(14) 熱心に指導した。	26	28	23	5	0	0	3.9
	(15) 授業内容を分かりやすく説明した。	14	26	33	8	0	0	3.6
	(16) 教科書や配布資料等の教材は、内容を理解する上で適切だった。	16	27	32	5	0	0	3.7
	(17) 教員の声は、聞き取りやすかった。	22	22	22	14	1	0	3.6
	(18) 授業の進む速さは、適切だった。	20	21	33	8	0	0	3.6
	(19) この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。	16	22	35	6	2	0	3.5



教員のコメント

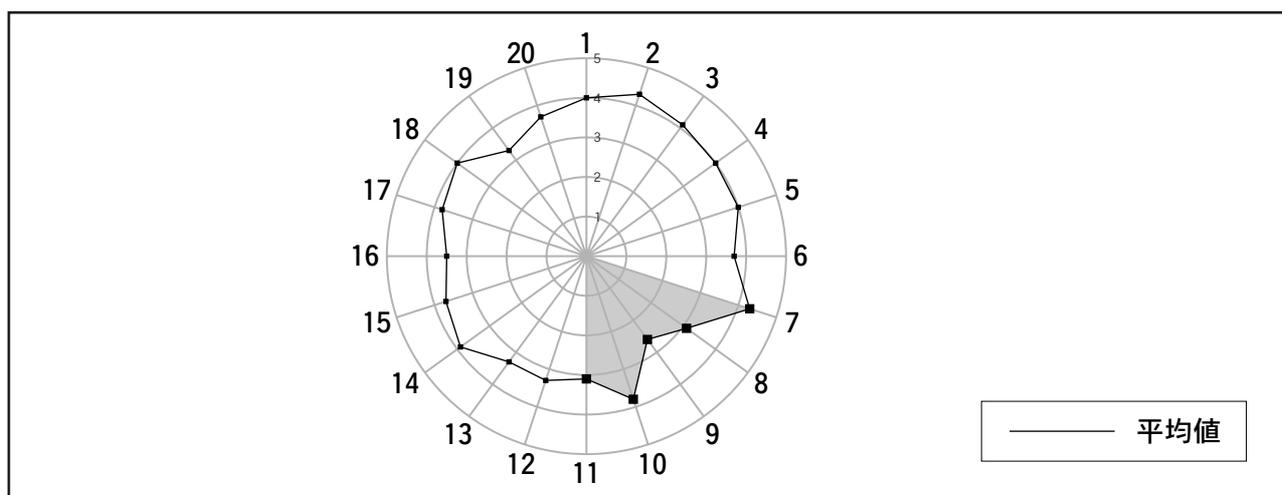
本授業は、4名の教員によるオムニバス形式による授業であるので、担当した教員により学生の評価は異なる。それが平均化されて出てきているので、各担当者の授業に対する評価を読み取ることはできない。ただ、総体としてみるならば、学生の評価は中程度ということができよう。「教養や専門性をたかめる」(3.9)、「熱心に教えた」(3.9)、「教育に対する見方・考え方を学べる」(3.8)、などが高いものの、「満足できる」(3.5)と高くない。4点を超えている項目は「よく出席した」(4.5)のみであり、後は3.5～3.9の間で分布している。

学部2年生にとっては、制度・経営という領域の耳慣れない用語が使用され、自己の経験から判断しづらい内容であった可能性がある。教員としては、それをいかに再構成して学生への内在化を図るのが問われているといえる。また、「予習や復習」(2.9)、「わからないことや疑問を調べた」(2.9)の2項目は平均を下回っており、自学を促すような授業展開ができていないこともまた課題の一つであろう。

授業科目名 教育社会学
 評価実施日 平成19年7月27日
 担当教員名 伴 恒信

回答者数 79名

質問項目	評価選択人数	評価選択人数						平均値 (科目別)
		5	4	3	2	1	N.A	
1 授業概要について	(1) 目標・授業計画・内容は、明確に示されていた。	16	46	16	1	0	0	4.0
	(2) 成績評価の方法は、明確に示されていた。	39	27	12	1	0	0	4.3
2 授業の内容等について	(3) 授業内容は、授業概要に沿っていた。	24	38	17	0	0	0	4.1
	(4) 授業内容は、教養や専門性を高めるものだった。	29	29	15	6	0	0	4.0
	(5) 授業内容は、教育に対する見方や考え方を学べるものだった。	29	28	18	4	0	0	4.0
	(6) 授業内容は、興味・関心を引くものだった。	17	26	27	8	0	0	3.7
3 あなたの授業への取り組みについて	(7) 授業によく出席した。	41	23	13	2	0	0	4.3
	(8) 授業内容をよく理解するために予習や復習をした。	5	20	37	11	6	0	3.1
	(9) 授業中に積極的に発言や質問をした。	5	12	25	21	16	0	2.6
	(10) 教員の説明をよく聞いた。	14	36	25	4	0	0	3.8
	(11) 分からないことや疑問に思ったことは調べた。	6	19	33	17	4	0	3.1
4 教員の授業の進め方について	(12) 学生の理解状況を確認しながら授業を行った。	9	24	28	16	2	0	3.3
	(13) 学生が参加しやすい授業だった。	9	25	28	13	4	0	3.3
	(14) 熱心に指導した。	27	28	17	6	1	0	3.9
	(15) 授業内容を分かりやすく説明した。	22	24	24	6	3	0	3.7
	(16) 教科書や配布資料等の教材は、内容を理解する上で適切だった。	17	25	24	8	5	0	3.5
	(17) 視聴覚機器及び教育用機器の利用は、適切だった。	26	24	17	8	4	0	3.8
	(18) 教員の声は、聞き取りやすかった。	27	28	18	6	0	0	4.0
	(19) 授業の進む速さは、適切だった。	15	23	20	14	7	0	3.3
5 授業に対する満足度	(20) この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。	16	29	28	5	1	0	3.7



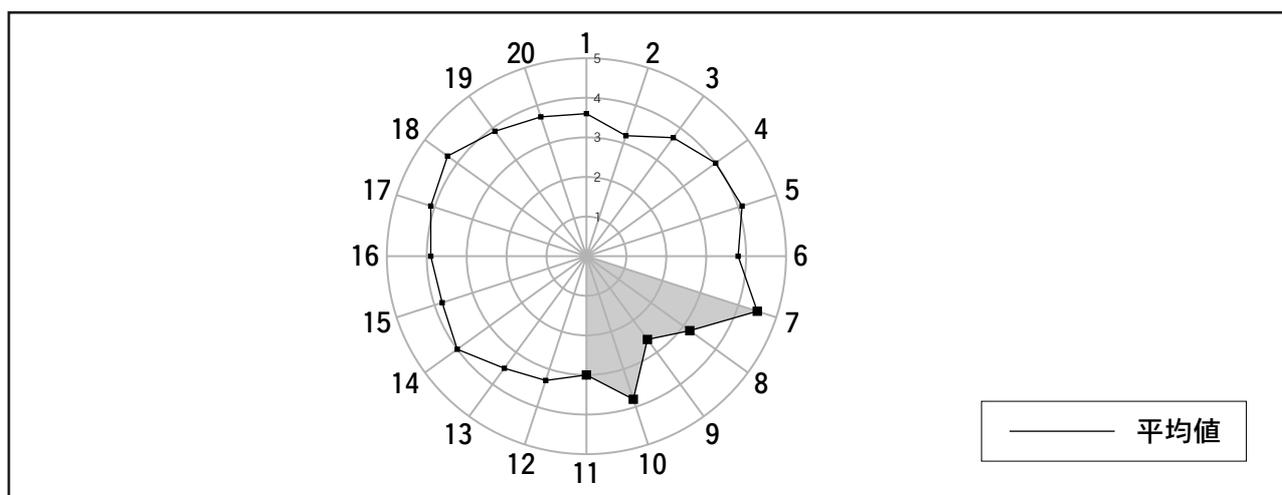
教員のコメント

平成19年度には講義の改善を目指して、これまで講義の中で部分的に用いていたパワーポイントを全ての時間に適用し、ほとんどの板書をパワーポイントの提示に切り換えた。しかし、このことがかえって講義の進度を早め、学生達がノートを取るのに追われる結果を招いたようである。学生の感想の中には、授業の良かった点として「学校の成立・変容・現在と、ビデオなどを活用してイメージし易かった。」「パワーポイントが分かり易かった」と書きながらも、同時に改善を望む点として「パワーポイントを切り換えるのを学生に確認しながらして欲しい」「早すぎてメモを取り終えることができない」などの記述が目立った。概して、学生からも授業の内容については約8割の学生が4以上の評価をしているものの、それが学生達自身の授業への参加につながっていなかった点を今後改善していきたいと思う。

授業科目名 教育課程論
 評価実施日 平成19年7月24日
 担当教員名 村川 雅弘

回答者数 107名

質問項目	評価選択人数	評価選択人数						平均値 (科目別)
		5	4	3	2	1	N.A	
1 授業概要について	(1) 目標・授業計画・内容は、明確に示されていた。	23	42	25	9	8	0	3.6
	(2) 成績評価の方法は、明確に示されていた。	16	28	31	18	13	0	3.2
2 授業の内容等について	(3) 授業内容は、授業概要に沿っていた。	23	38	36	7	3	0	3.7
	(4) 授業内容は、教養や専門性を高めるものだった。	33	49	17	6	2	0	4.0
	(5) 授業内容は、教育に対する見方や考え方を学べるものだった。	40	44	18	2	3	0	4.1
	(6) 授業内容は、興味・関心を引くものだった。	28	38	33	3	5	0	3.8
3 あなたの授業への取り組みについて	(7) 授業によく出席した。	72	22	11	2	0	0	4.5
	(8) 授業内容をよく理解するために予習や復習をした。	12	27	43	16	9	0	3.2
	(9) 授業中に積極的に発言や質問をした。	5	15	33	35	19	0	2.6
	(10) 教員の説明をよく聞いた。	29	36	32	7	2	0	3.8
	(11) 分からないことや疑問に思ったことは調べた。	11	20	45	20	11	0	3.0
4 教員の授業の進め方について	(12) 学生の理解状況を確認しながら授業を行った。	17	31	37	15	7	0	3.3
	(13) 学生が参加しやすい授業だった。	21	39	27	15	5	0	3.5
	(14) 熱心に指導した。	41	34	22	8	2	0	4.0
	(15) 授業内容を分かりやすく説明した。	31	37	25	10	4	0	3.8
	(16) 教科書や配布資料等の教材は、内容を理解する上で適切だった。	37	34	28	6	2	0	3.9
	(17) 視聴覚機器及び教育用機器の利用は、適切だった。	43	39	20	3	2	0	4.1
	(18) 教員の声は、聞き取りやすかった。	54	36	14	2	1	0	4.3
	(19) 授業の進む速さは、適切だった。	32	44	24	5	2	0	3.9
5 授業に対する満足度	(20) この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。	26	42	25	10	4	0	3.7



教員のコメント

教育課程は学部学生にとって馴染みが薄く興味のわきにくいものである。そのために、映像資料や新聞・雑誌からの資料等を活用し、中教審まとめや学力問題なども盛り込み、できるかぎり興味関心を引きつつ、具体的な実践とつなげて理解してもらえるように工夫した。項目の4や5及び14から20において評価が比較的高いことはこの点が反映していると考えられる。自由記述でも「映像資料が多く分かりやすかった」「様々な学校の事例を示してもらえてよかった」と肯定的な意見が多かった。

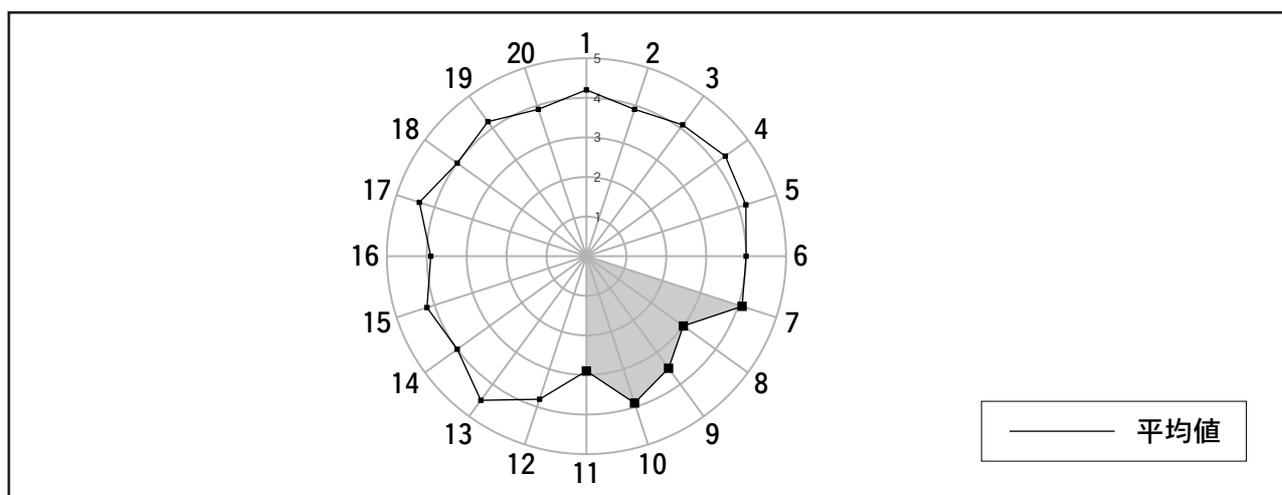
評価得点が低いのは、2及び8、9、11である。予習復習や自宅での調べ学習を奨励しなかったこと、受講人数（127名）が多いために授業中における発言の機会を保障できないことが反映した結果だと言える。次年度以降少しでも改善していきたい。

例年に比べて全体を通して若干評価が低くなっているのは項目8と関連している。毎時間のようにワークシートを用意し、その場で書き込ませ、その内容を何人かに発表させた。大人数なので受容的な態度に陥らないようにすること、主体的に自らの考えを記述することを重視しているからである。毎回のレポート提出をテストに代えるつもりであったが、教務課に確認したところ「必ず最後にテストを」という指示であった。学生には申し訳ないがテストを実施した（ただし、学生の都合に配慮し、4回の機会を提供した）。自由記述においてもテスト実施についてのネガティブな回答が少なくなかった。学生によるとテストがない授業もあったとのこと。学校全体のコンセンサスの必要性を実感した。次年度は毎回のレポートと最後にテストがあることを事前に伝えたい。

授業科目名 初等国語科教育論A
 評価実施日 平成19年7月25日
 担当教員名 村井万里子

回答者数 55名

質問項目	評価選択人数	評価選択人数						平均値 (科目別)
		5	4	3	2	1	N.A	
1 授業概要について	(1) 目標・授業計画・内容は、明確に示されていた。	25	18	10	2	0	0	4.2
	(2) 成績評価の方法は、明確に示されていた。	16	23	12	4	0	0	3.9
2 授業の内容等について	(3) 授業内容は、授業概要に沿っていた。	21	23	9	2	0	0	4.1
	(4) 授業内容は、教養や専門性を高めるものだった。	25	24	3	3	0	0	4.3
	(5) 授業内容は、教育に対する見方や考え方を学べるものだった。	21	26	6	2	0	0	4.2
	(6) 授業内容は、興味・関心を引くものだった。	20	19	12	3	1	0	4.0
3 あなたの授業への取り組みについて	(7) 授業によく出席した。	24	17	10	4	0	0	4.1
	(8) 授業内容をよく理解するために予習や復習をした。	1	14	26	11	3	0	3.0
	(9) 積極的に実験、実習、実技等に取り組んだ。	10	17	19	7	2	0	3.5
	(10) 教員の説明をよく聞いた。	16	19	18	2	0	0	3.9
	(11) 分からないことや疑問に思ったことは調べた。	3	10	23	16	3	0	2.9
4 教員の授業の進め方について	(12) 学生の理解状況を確かめながら授業を行った。	16	20	12	7	0	0	3.8
	(13) 熱心に指導した。	33	16	6	0	0	0	4.5
	(14) 授業内容を分かりやすく説明した。	21	19	9	5	0	0	4.0
	(15) 教科書や配布資料等の教材は、内容を理解する上で適切だった。	24	20	9	2	0	0	4.2
	(16) 設備、器材、用具等の利用は、適切だった。	16	21	15	1	2	0	3.9
	(17) 教員の声は、聞き取りやすかった。	29	18	7	1	0	0	4.4
	(18) 与えられた課題のレベルや分量は、適切だった。	18	24	10	2	1	0	4.0
	(19) 安全に対する指導と配慮は、適切だった。	23	22	10	0	0	0	4.2
5 授業に対する満足度	(20) この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。	15	21	15	4	0	0	3.9



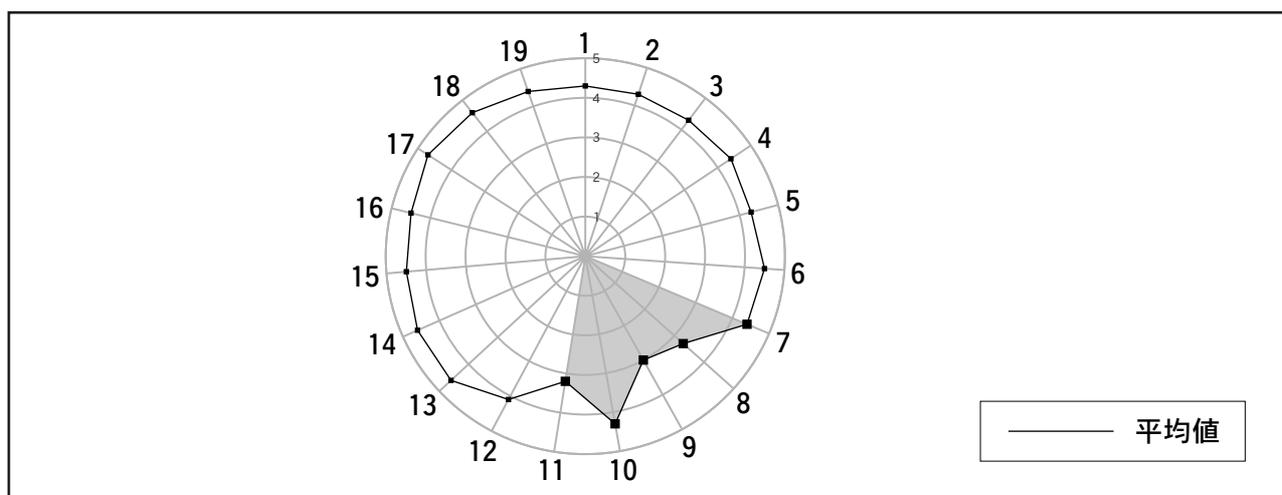
教員のコメント

- ・項目(8)(9)(11)の平均値が低いのは、学生の意欲不足というよりも、この授業の進め方に理由がある。
- ・この授業の基本形態は、授業中に問題提起をして、受講生は授業時間内にそれについてミニレポート・ミニワークを作成し、これを教員が持ち帰って分析し次週にその結果を返却するとともに、全体及び個人の結果が意味するところを講義する、というサイクルである。したがって、(10)の数値に見られるように、受講生の「聞き方」は熱心である。
- ・新たに「課題」や「参考文献」も紹介はしているが、この講義期間中にそれに積極的に取り組む余裕はないものと思われる。卒業研究のテーマ選択の際には、この講義で紹介した文献を挙げる例に時折出くわす。
- ・アンケート結果からは、学生自身が自発的に課題に取り組む必要感を生み出すには、別の手だてが必要なのが判明した。ただし、上記のような授業の性質上、どこまで切実な課題が出せるか、慎重に考えてみたい。

授業科目名 初等国語科教育論B
 評価実施日 平成19年7月25日
 担当教員名 余郷 裕次

回答者数 93名

質問項目	評価選択人数						平均値 (科目別)	
	5	4	3	2	1	N.A		
1 授業概要について	(1) 目標・授業計画・内容は、明確に示されていた。	47	32	12	0	1	0	4.3
	(2) 成績評価の方法は、明確に示されていた。	48	25	14	5	0	0	4.3
2 授業の内容等について	(3) 授業内容は、授業概要に沿っていた。	48	32	11	1	1	0	4.3
	(4) 授業内容は、教養や専門性を高めるものだった。	54	26	12	1	0	0	4.4
	(5) 授業内容は、教育に対する見方や考え方を学べるものだった。	49	28	14	1	1	0	4.3
	(6) 授業内容は、興味・関心を引くものだった。	59	23	8	2	1	0	4.5
3 あなたの授業への取り組みについて	(7) 授業によく出席した。	51	33	8	1	0	0	4.4
	(8) 授業内容をよく理解するために予習や復習をした。	8	29	40	11	5	0	3.3
	(9) 授業中に積極的に発言や質問をした。	11	22	29	19	12	0	3.0
	(10) 教員の説明をよく聞いた。	41	39	12	1	0	0	4.3
	(11) 分からないことや疑問に思ったことは調べた。	13	23	36	16	5	0	3.2
4 教員の授業の進め方について	(12) 学生の理解状況を確かめながら授業を行った。	33	37	19	3	1	0	4.1
	(13) 学生が参加しやすい授業だった。	64	23	6	0	0	0	4.6
	(14) 熱心に指導した。	65	21	7	0	0	0	4.6
	(15) 授業内容を分かりやすく説明した。	54	32	7	0	0	0	4.5
	(16) 教科書や配布資料等の教材は、内容を理解する上で適切だった。	56	28	6	1	0	0	4.5
	(17) 教員の声は、聞き取りやすかった。	72	16	5	0	0	0	4.7
	(18) 授業の進む速さは、適切だった。	59	30	4	0	0	0	4.6
5 授業に対する満足度	(19) この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。	56	25	9	3	0	0	4.4



教員のコメント

「5 授業に対する満足度」が、平均値 4.4 であるのに対して、「3 あなたの授業への取り組みについて」のうち、「(7)授業によく出席した。」「(10)教員の説明をよく聞いた」の他は、平均値が低い数値にとどまった。今後は、授業内容を理解し効率よく定着させるための予習・復習の指示を徹底する必要があると思われる。また、授業中、積極的に発言や質問をさせるための場や指示も工夫したい。

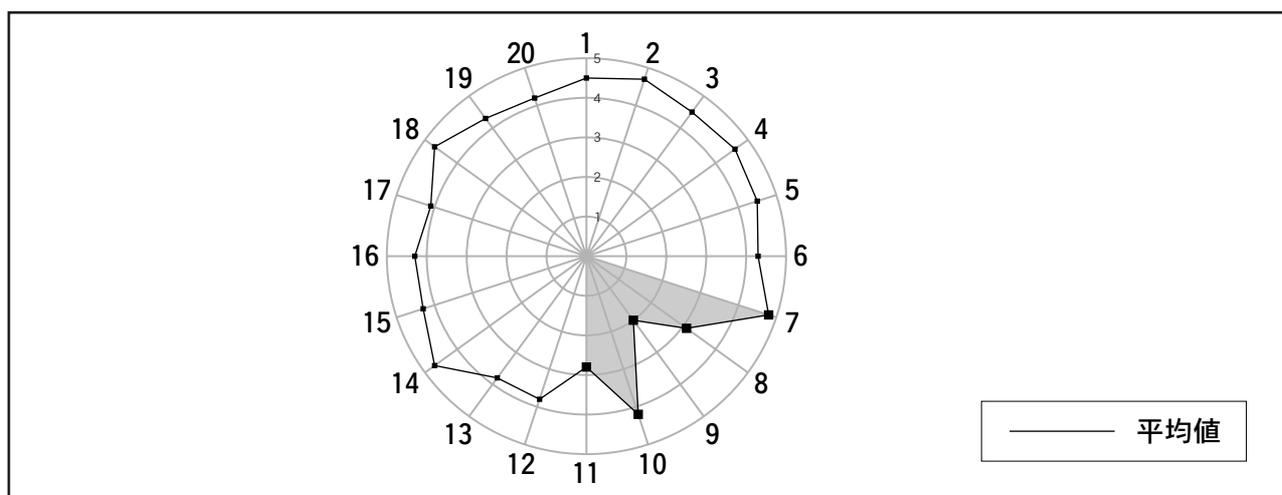
さらに、「6 あなたからの提言」には、絵本の仕掛けとその読み聞かせに関する講義へのプラス評価が多く見られたが、絵本に関する内容と国語教材に関する内容とをそれぞれ独立した講義にして欲しいとの要望もあった。重く受けとめたい。

また、106 名という受講生の数について、多過ぎるという意見もあった。来年度からは、学部学生と長期履修の大学院生とを分離することで、受講生を減らすように改善する。

授業科目名 体育科教育論
 評価実施日 平成19年6月21日
 担当教員名 梅野 圭史

回答者数 140名

質問項目	評価選択人数						平均値 (科目別)	
	5	4	3	2	1	N.A		
1 授業概要について	(1) 目標・授業計画・内容は、明確に示されていた。	78	56	4	2	0	0	4.5
	(2) 成績評価の方法は、明確に示されていた。	103	32	4	1	0	0	4.7
2 授業の内容等について	(3) 授業内容は、授業概要に沿っていた。	78	49	12	1	0	0	4.5
	(4) 授業内容は、教養や専門性を高めるものだった。	91	37	11	1	0	0	4.6
	(5) 授業内容は、教育に対する見方や考え方を学べるものだった。	88	41	9	2	0	0	4.5
	(6) 授業内容は、興味・関心を引くものだった。	73	42	20	3	2	0	4.3
3 あなたの授業への取り組みについて	(7) 授業によく出席した。	118	16	6	0	0	0	4.8
	(8) 授業内容をよく理解するために予習や復習をした。	15	31	58	24	12	0	3.1
	(9) 授業中に積極的に発言や質問をした。	8	5	31	32	64	0	2.0
	(10) 教員の説明をよく聞いた。	59	56	19	6	0	0	4.2
	(11) 分からないことや疑問に思ったことは調べた。	10	28	52	28	22	0	2.8
4 教員の授業の進め方について	(12) 学生の理解状況を確かめながら授業を行った。	30	62	34	12	1	0	3.8
	(13) 学生が参加しやすい授業だった。	41	48	35	12	4	0	3.8
	(14) 熱心に指導した。	103	29	7	0	1	0	4.7
	(15) 授業内容を分かりやすく説明した。	67	51	19	2	1	0	4.3
	(16) 教科書や配布資料等の教材は、内容を理解する上で適切だった。	69	48	21	2	0	0	4.3
	(17) 視聴覚機器及び教育用機器の利用は、適切だった。	57	57	15	7	4	0	4.1
	(18) 教員の声は、聞き取りやすかった。	106	30	2	0	2	0	4.7
	(19) 授業の進む速さは、適切だった。	68	47	18	6	1	0	4.3
5 授業に対する満足度	(20) この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。	61	56	15	5	3	0	4.2



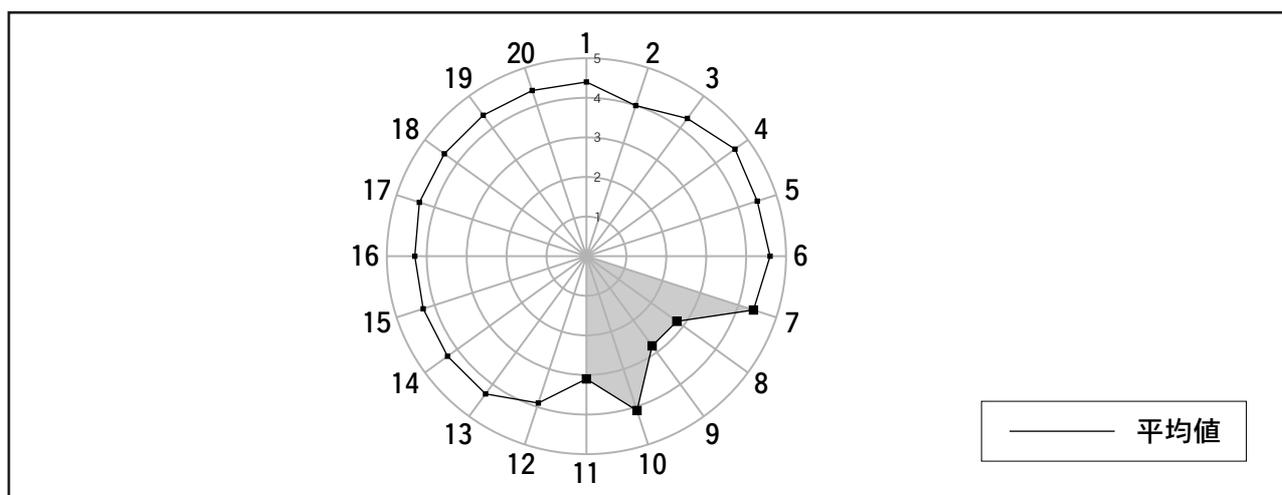
教員のコメント

この授業は、130名を超す学生に対するものです。その上で、大変よい評価を受け、うれしく思っています。ただ、学生の主体的な学習行動の評価に関しては、「2.0」台に留まる項目が2つ（第9番と第11番）ありました。前者の9番については、これだけの大人数の講義では、まず改善することは難しいものと考えます。後者の11番については、講義に余韻を残すことで改善できる可能性があると考えます。

授業科目名 幼児教育課程論
 評価実施日 平成19年7月20日
 担当教員名 橋川喜美代

回答者数 28名

質問項目		評価選択人数						平均値 (科目別)
		5	4	3	2	1	N.A	
1 授業概要について	(1) 目標・授業計画・内容は、明確に示されていた。	11	16	1	0	0	0	4.4
	(2) 成績評価の方法は、明確に示されていた。	9	13	4	2	0	0	4.0
2 授業の内容等について	(3) 授業内容は、授業概要に沿っていた。	11	14	3	0	0	0	4.3
	(4) 授業内容は、教養や専門性を高めるものだった。	17	10	1	0	0	0	4.6
	(5) 授業内容は、教育に対する見方や考え方を学べるものだった。	16	11	1	0	0	0	4.5
	(6) 授業内容は、興味・関心を引くものだった。	17	11	0	0	0	0	4.6
3 あなたの授業への取り組みについて	(7) 授業によく出席した。	13	14	0	1	0	0	4.4
	(8) 授業内容をよく理解するために予習や復習をした。	3	6	8	5	6	0	2.8
	(9) 授業中に積極的に発言や質問をした。	2	6	8	7	5	0	2.8
	(10) 教員の説明をよく聞いた。	9	15	3	1	0	0	4.1
	(11) 分からないことや疑問に思ったことは調べた。	4	5	10	8	1	0	3.1
4 教員の授業の進め方について	(12) 学生の理解状況を確認しながら授業を行った。	5	15	7	1	0	0	3.9
	(13) 学生が参加しやすい授業だった。	12	13	2	1	0	0	4.3
	(14) 熱心に指導した。	12	12	4	0	0	0	4.3
	(15) 授業内容を分かりやすく説明した。	10	16	2	0	0	0	4.3
	(16) 教科書や配布資料等の教材は、内容を理解する上で適切だった。	11	15	2	0	0	0	4.3
	(17) 視聴覚機器及び教育用機器の利用は、適切だった。	13	13	2	0	0	0	4.4
	(18) 教員の声は、聞き取りやすかった。	13	14	1	0	0	0	4.4
	(19) 授業の進む速さは、適切だった。	12	16	0	0	0	0	4.4
5 授業に対する満足度	(20) この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。	13	12	3	0	0	0	4.4



教員のコメント

項目(20)の本授業への満足度は4.4であり、この得点と同得点以上の項目が(1)(4)(5)(6)(7)(17)(18)(19)と昨年よりも全体的に評価点が落ちている。受講生は実際に幼稚園や保育園に出かけ、幼児に触れることで、楽しかった、具体的なイメージができた満足している段階で、幼児理解や自らのかわりへの省察を深める段階には達していない。この段階にまで引き上げなければ、目標である指導案の立案は難しい。

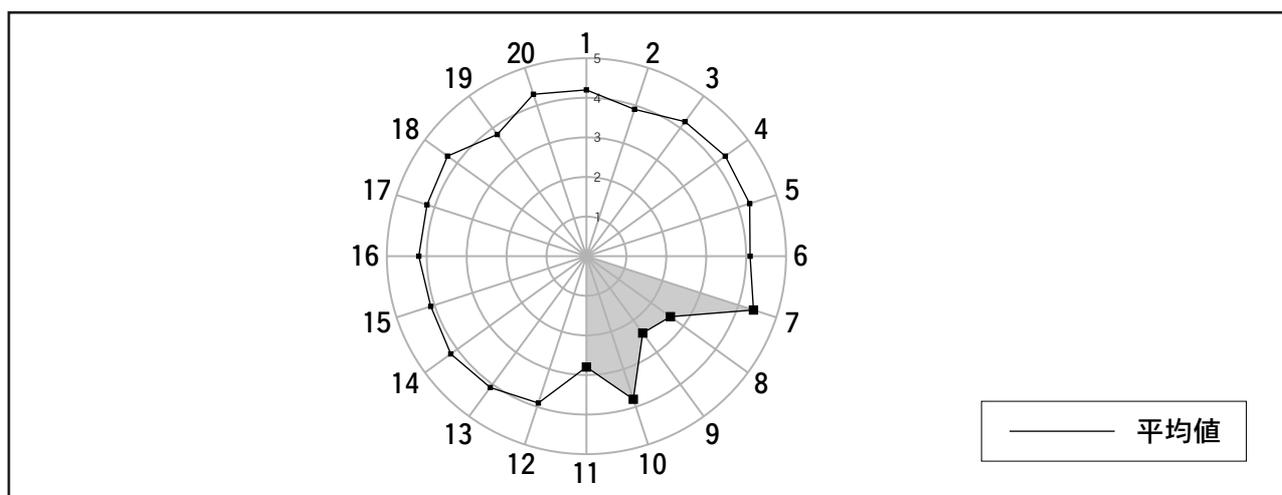
受講生の態度として気になるのは、授業にはきちんと出席し、教員の説明は聞くが、項目(8)「授業内容をよく理解するために予習や復習をした」、項目(9)「授業中に積極的に発言や質問をした」はともに2.8と低く、消極的だという点である。この結果を見れば、自主的・主体的学習は殆ど喚起できなかったに等しい。ただ、項目(11)「分からないことや疑問に思ったことは調べた」は、3.1と標準点に達していることから、自身で分からないことや疑問に思ったことを調べようとする意欲は持っているものと考えられる。授業において、調べる機会を組み入れながら、その具体的な方法を習得させていく必要がある。

今年は、一人の受講生がコメントに記しているように、「盛りだくさんな内容」であった。その意味からも、もっと受講生の理解を確かめながら授業を進めていく必要があったと反省している。

授業科目名 保育内容（環境）
 評価実施日 平成19年7月27日
 担当教員名 塩路 晶子

回答者数 45名

質問項目	評価選択人数						平均値 (科目別)	
	5	4	3	2	1	N.A		
1 授業概要について	(1) 目標・授業計画・内容は、明確に示されていた。	14	26	4	1	0	0	4.2
	(2) 成績評価の方法は、明確に示されていた。	9	24	10	1	1	0	3.9
2 授業の内容等について	(3) 授業内容は、授業概要に沿っていた。	16	22	6	1	0	0	4.2
	(4) 授業内容は、教養や専門性を高めるものだった。	19	22	3	1	0	0	4.3
	(5) 授業内容は、教育に対する見方や考え方を学べるものだった。	21	19	2	2	0	0	4.3
	(6) 授業内容は、興味・関心を引くものだった。	20	14	6	3	1	0	4.1
3 あなたの授業への取り組みについて	(7) 授業によく出席した。	27	12	4	0	2	0	4.4
	(8) 授業内容をよく理解するために予習や復習をした。	1	8	17	11	8	0	2.6
	(9) 授業中に積極的に発言や質問をした。	2	3	16	14	10	0	2.4
	(10) 積極的に課題に取り組んだ。	16	13	10	5	1	0	3.8
	(11) 分からないことや疑問に思ったことは調べた。	4	4	23	8	6	0	2.8
4 教員の授業の進め方について	(12) 学生の理解状況を確かめながら授業を行った。	10	21	10	3	0	0	3.9
	(13) 学生参加型の授業だった。	14	20	9	1	0	0	4.1
	(14) 熱心に指導した。	14	24	5	1	0	0	4.2
	(15) 授業内容を分かりやすく説明した。	14	21	9	0	0	0	4.1
	(16) 教科書や配布資料等の教材は、内容を理解する上で適切だった。	22	12	8	2	0	0	4.2
	(17) 視聴覚機器及び教育用機器の利用は、適切だった。	21	14	7	2	0	0	4.2
	(18) 授業の進む速さは、適切だった。	19	21	2	2	0	0	4.3
	(19) 学生の疑問や質問に適切に答えた。	12	16	14	1	1	0	3.8
5 授業に対する満足度	(20) この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。	19	22	3	1	0	0	4.3



教員のコメント

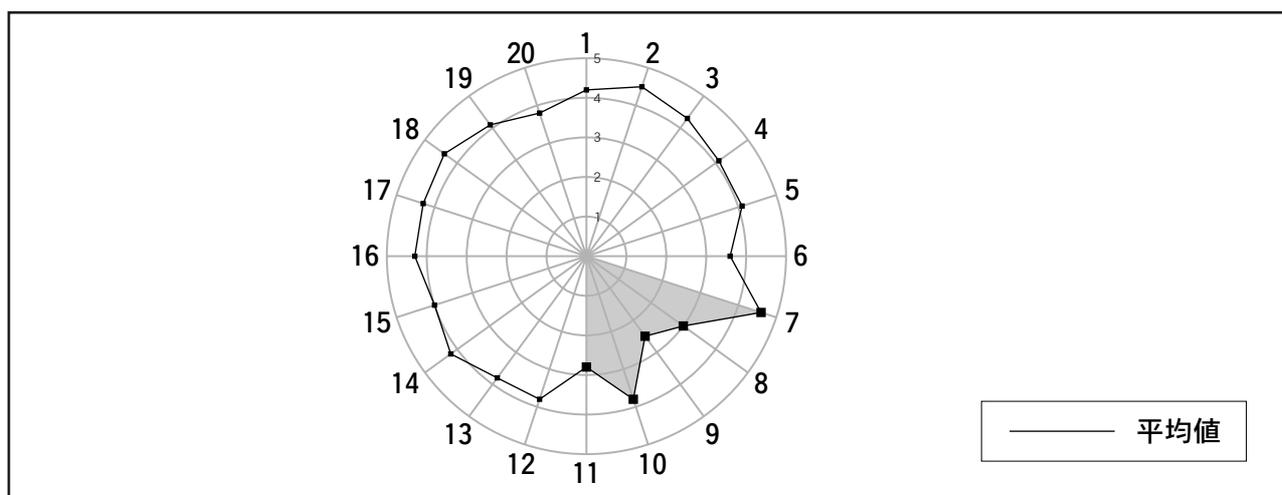
本演習は、どのような保育の「環境」が幼児の育ちに寄与するか、ということを経験的・実践的に学ぶことを目的としていた。受講生からは、保育者が自然的・社会的事象を取り込んだ「環境」を構成することの重要性についての認識を深めたとの感想が寄せられている。

また集計を見ると、「教育に対する見方や考え方を学べるものだった」「興味・関心を引く内容であった」という評価が高く、子どもを取り巻く自然や情報、身近なものを使った遊び、社会的な問題などについて、体験的活動や映像等を多く演習に取り入れたことも、受講生の理解に役立ったと思われる。受講生の授業における課題への取り組みは積極的であったと受け止めているが、一方で受講生の発言や質問を引き出すことができなかつた面もあるので、今後の改善事項としたい。

授業科目名 教育工学
 評価実施日 平成19年7月27日
 担当教員名 川上 綾子

回答者数 97名

質問項目	評価選択人数	評価選択人数						平均値 (科目別)
		5	4	3	2	1	N.A	
1 授業概要について	(1) 目標・授業計画・内容は、明確に示されていた。	35	52	8	1	1	0	4.2
	(2) 成績評価の方法は、明確に示されていた。	57	32	6	1	1	0	4.5
2 授業の内容等について	(3) 授業内容は、授業概要に沿っていた。	38	49	10	0	0	0	4.3
	(4) 授業内容は、教養や専門性を高めるものだった。	33	44	16	1	2	0	4.1
	(5) 授業内容は、教育に対する見方や考え方を学べるものだった。	33	43	16	3	2	0	4.1
	(6) 授業内容は、興味・関心を引くものだった。	21	37	23	12	4	0	3.6
3 あなたの授業への取り組みについて	(7) 授業によく出席した。	62	29	5	1	0	0	4.6
	(8) 授業内容をよく理解するために予習や復習をした。	11	23	30	21	12	0	3.0
	(9) 授業中に積極的に発言や質問をした。	10	9	29	24	25	0	2.5
	(10) 教員の説明をよく聞いた。	25	41	20	8	3	0	3.8
	(11) 分からないことや疑問に思ったことは調べた。	11	17	29	21	18	0	2.8
4 教員の授業の進め方について	(12) 学生の理解状況を確かめながら授業を行った。	24	39	24	7	3	0	3.8
	(13) 学生が参加しやすい授業だった。	29	32	26	6	4	0	3.8
	(14) 熱心に指導した。	45	33	16	2	1	0	4.2
	(15) 授業内容を分かりやすく説明した。	35	39	18	2	3	0	4.0
	(16) 教科書や配布資料等の教材は、内容を理解する上で適切だった。	44	39	12	0	2	0	4.3
	(17) 視聴覚機器及び教育用機器の利用は、適切だった。	47	39	9	1	1	0	4.3
	(18) 教員の声は、聞き取りやすかった。	49	39	8	1	0	0	4.4
	(19) 授業の進む速さは、適切だった。	36	39	16	4	2	0	4.1
5 授業に対する満足度	(20) この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。	23	44	23	4	3	0	3.8



教員のコメント

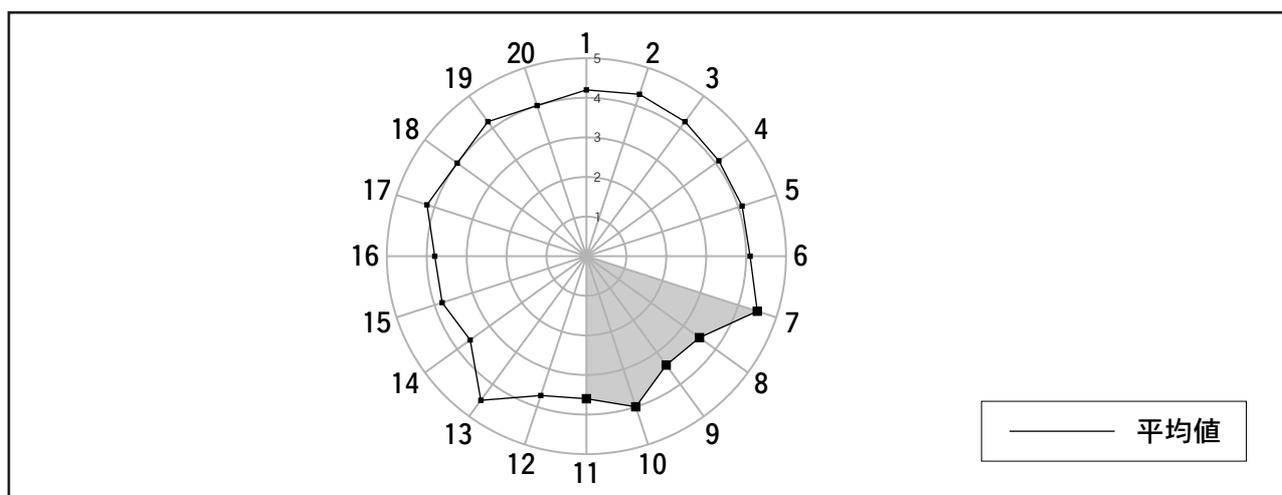
各質問項目の平均値では、項目(8)(9)(11)が3点以下となり、他の項目と比べて低い評定値となっていた。この結果は、授業に対する受講生の主体的・積極的な取り組みの程度が低いことを表している。大講義室で常時100人以上の出席者がいるという、受講生が授業中に自ら進んで発言したり質問したりするには臆する環境であったことは否めないが、項目(9)の評定が低いのは項目(6)や項目(3)の評定があまり高くないこととも関連があると考えられ、受講生の発言や質問を促すには、その前提として、受講生の興味・関心を喚起する内容構成、受講生が参加しやすい授業の進め方や雰囲気づくりなどが必要であると感じる。それらの手立ては項目(8)(11)の評定値の向上にもつながるだろう。

自由記述欄への回答では、講義が「わかりやすかった」という意見と「難しかった」という意見の両方がみられた。受講生の理解度を確認しながら授業を進めること、個々の受講生の質問を受け付ける場を設けることなど工夫していきたいと思う。また、自由記述欄には、講義内容について簡単な実践例が示されているとわかりやすかったのではないか、との意見があった。改善案の一つとして考えていきたい。

授業科目名 乳幼児心理学
 評価実施日 平成19年7月30日
 担当教員名 田村 隆宏

回答者数 44名

質問項目	評価選択人数	評価選択人数					平均値 (科目別)	
		5	4	3	2	1		N.A
1 授業概要について	(1) 目標・授業計画・内容は、明確に示されていた。	16	21	7	0	0	0	4.2
	(2) 成績評価の方法は、明確に示されていた。	20	19	5	0	0	0	4.3
2 授業の内容等について	(3) 授業内容は、授業概要に沿っていた。	15	23	6	0	0	0	4.2
	(4) 授業内容は、教養や専門性を高めるものだった。	14	21	7	2	0	0	4.1
	(5) 授業内容は、教育に対する見方や考え方を学べるものだった。	13	23	6	2	0	0	4.1
	(6) 授業内容は、興味・関心を引くものだった。	15	20	6	3	0	0	4.1
3 あなたの授業への取り組みについて	(7) 授業によく出席した。	29	11	3	1	0	0	4.5
	(8) 授業内容をよく理解するために予習や復習をした。	10	13	13	5	3	0	3.5
	(9) 授業中に積極的に発言や質問をした。	10	8	15	10	1	0	3.4
	(10) 積極的に課題に取り組んだ。	18	14	9	2	1	0	4.0
	(11) 分からないことや疑問に思ったことは調べた。	13	12	12	4	3	0	3.6
4 教員の授業の進め方について	(12) 学生の理解状況を確かめながら授業を行った。	11	16	12	4	1	0	3.7
	(13) 学生参加型の授業だった。	30	5	9	0	0	0	4.5
	(14) 熱心に指導した。	10	14	15	4	1	0	3.6
	(15) 授業内容を分かりやすく説明した。	11	17	12	4	0	0	3.8
	(16) 教科書や配布資料等の教材は、内容を理解する上で適切だった。	13	12	15	4	0	0	3.8
	(17) 視聴覚機器及び教育用機器の利用は、適切だった。	18	15	11	0	0	0	4.2
	(18) 授業の進む速さは、適切だった。	15	14	15	0	0	0	4.0
	(19) 学生の疑問や質問に適切に答えた。	18	18	6	2	0	0	4.2
5 授業に対する満足度	(20) この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。	16	15	10	3	0	0	4.0



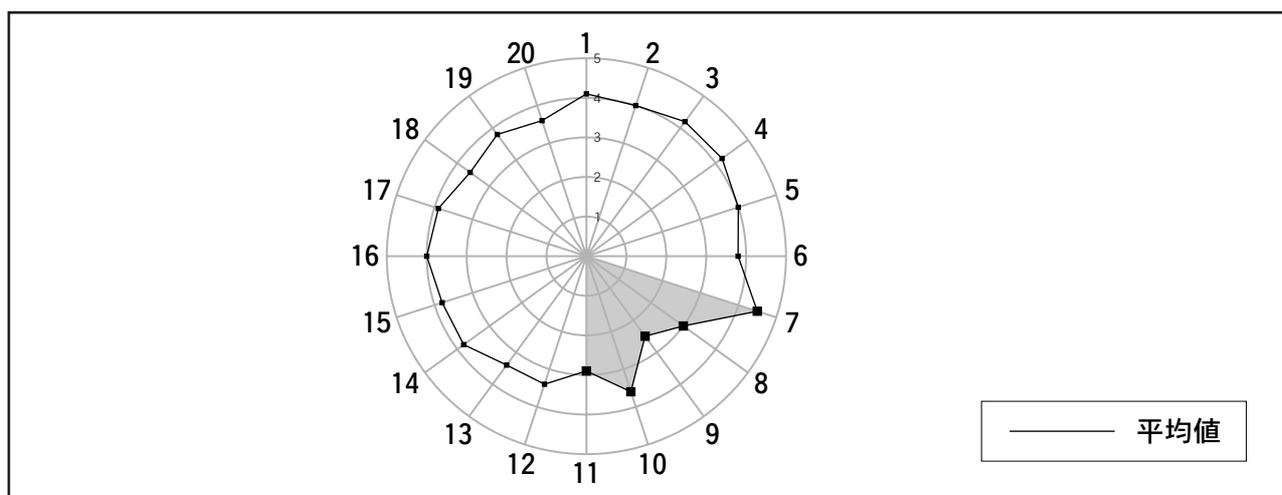
教員のコメント

質問項目の結果は全22項目中13項目において4点台であり、その他の項目についてもほとんどが3点台の後半であることから、授業概要との対応、内容面、授業の進め方、学生の授業に対する取り組みや満足度については概ね高い評価が得られた。ただし、学生の授業への取り組みに関して「授業内容をよく理解するために予習や復習をした」と「授業中に積極的に発言や質問をした」の項目で3点台半ばの評価ということで、否定的な評価ではないものの、さらに望ましい取り組み方を促す必要性が示唆される結果であった。この点については、今後の授業の中で配慮していく必要がある。自由記述の結果では、良かった点として「グループ発表で、プレゼンテーションの良い勉強になった」、「基礎的な知識が身に付いた」、「自分で調べることで学習が深まった」などが挙げられた。改善すべき点としては「教員の講義が聞きたかった」、「発表後のディスカッションに工夫が必要」、「自分の発表以外の部分についてあまり勉強できなかった」などが挙げられた。本科目は演習であることから、学生自らの学習活動を中心とするグループ発表の形式は今後も踏襲した上で、ディスカッション、及び発表を聞く際の学習課題を工夫する必要がある。

授業科目名 カウンセリング論
 評価実施日 平成19年8月3日
 担当教員名 小坂 浩嗣, 久米 禎子

回答者数 174名

質問項目	評価選択人数						平均値 (科目別)	
	5	4	3	2	1	N.A		
1 授業概要について	(1) 目標・授業計画・内容は、明確に示されていた。	47	94	27	3	1	0	4.1
	(2) 成績評価の方法は、明確に示されていた。	44	88	33	5	1	0	4.0
2 授業の内容等について	(3) 授業内容は、授業概要に沿っていた。	59	88	23	2	0	0	4.2
	(4) 授業内容は、教養や専門性を高めるものだった。	69	78	20	4	1	0	4.2
	(5) 授業内容は、教育に対する見方や考え方を学べるものだった。	60	71	28	9	4	0	4.0
	(6) 授業内容は、興味・関心を引くものだった。	44	77	35	9	6	0	3.8
3 あなたの授業への取り組みについて	(7) 授業によく出席した。	108	48	14	1	1	0	4.5
	(8) 授業内容をよく理解するために予習や復習をした。	16	48	53	35	20	0	3.0
	(9) 授業中に積極的に発言や質問をした。	12	16	62	41	41	0	2.5
	(10) 教員の説明をよく聞いた。	39	67	40	18	8	0	3.6
	(11) 分からないことや疑問に思ったことは調べた。	15	34	61	45	17	0	2.9
4 教員の授業の進め方について	(12) 学生の理解状況を確認しながら授業を行った。	24	58	58	22	10	0	3.4
	(13) 学生が参加しやすい授業だった。	27	61	53	22	9	0	3.4
	(14) 熱心に指導した。	40	73	50	6	3	0	3.8
	(15) 授業内容を分かりやすく説明した。	38	76	46	11	1	0	3.8
	(16) 教科書や配布資料等の教材は、内容を理解する上で適切だった。	51	74	37	9	1	0	4.0
	(17) 視聴覚機器及び教育用機器の利用は、適切だった。	47	71	44	7	3	0	3.9
	(18) 教員の声は、聞き取りやすかった。	44	57	45	18	8	0	3.6
	(19) 授業の進む速さは、適切だった。	42	72	46	11	1	0	3.8
5 授業に対する満足度	(20) この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。	27	76	47	15	7	0	3.6



教員のコメント

科目別の平均値の範囲は2.5～4.2、全体平均は3.7と、概ねよい評価が得られた。5つの評価内容別に平均を算出してみると、「授業概要について」は4.0、「授業の内容等について」は4.0、「あなたの授業への取り組みについて」は3.3、「教員の授業の進め方について」は3.7、「授業に対する満足度」は3.6であった。自由記述に見られた意見では、授業内容が具体的事例を提示して解説した点を高く評価する者が多かった。

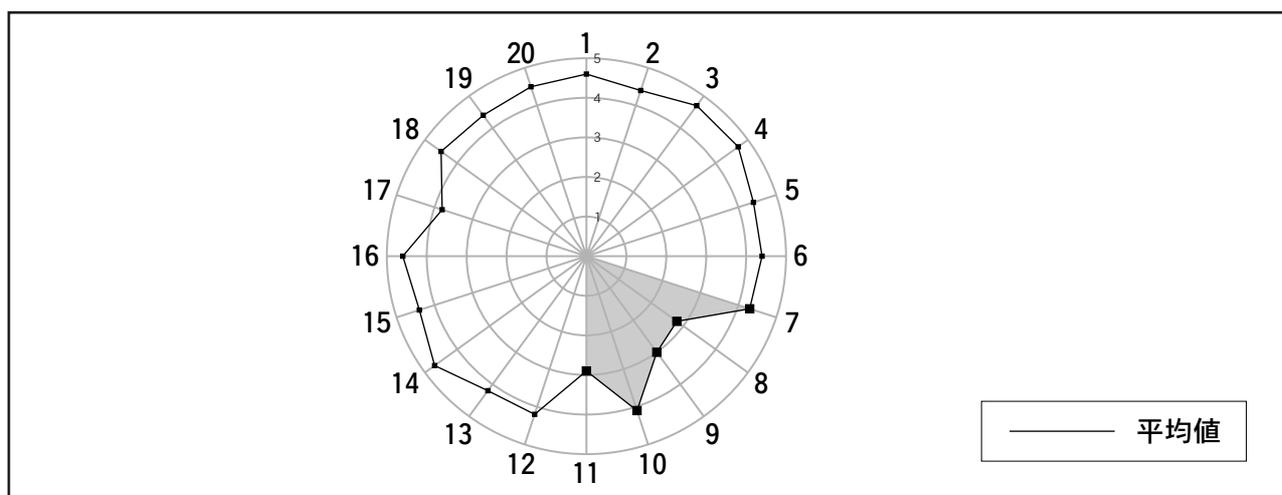
項目分析を見たとき、「あなたの授業への取り組みについて」のうち「9. 授業中に積極的に発言や質問をした。」の平均が2.5、「11. 分からないことや疑問に思ったことは調べた。」の平均が2.9と評価が相対的に低かった。その理由として自由記述に見られた意見では、①授業形態が講義形式中心であったこと、②授業展開のペースが速かったことなどが指摘された。

来年度は、授業内容に課題学習を取り入れるなど学生参加型あるいは対話型の授業場面を設定するように工夫改善したい。また、学生の自主学習の手助けとして参考資料の配布や図書などの紹介を積極的にしたい。

授業科目名 中等国語科教育論
 評価実施日 平成19年7月25日
 担当教員名 幾田 伸司

回答者数 26名

質問項目		評価選択人数						平均値 (科目別)
		5	4	3	2	1	N.A	
1 授業概要について	(1) 目標・授業計画・内容は、明確に示されていた。	16	9	1	0	0	0	4.6
	(2) 成績評価の方法は、明確に示されていた。	14	9	3	0	0	0	4.4
2 授業の内容等について	(3) 授業内容は、授業概要に沿っていた。	20	5	1	0	0	0	4.7
	(4) 授業内容は、教養や専門性を高めるものだった。	19	7	0	0	0	0	4.7
	(5) 授業内容は、教育に対する見方や考え方を学べるものだった。	15	8	2	1	0	0	4.4
	(6) 授業内容は、興味・関心を引くものだった。	14	9	2	1	0	0	4.4
3 あなたの授業への取り組みについて	(7) 授業によく出席した。	11	11	4	0	0	0	4.3
	(8) 授業内容をよく理解するために予習や復習をした。	1	3	14	6	2	0	2.8
	(9) 授業中に積極的に発言や質問をした。	1	5	15	3	2	0	3.0
	(10) 教員の説明をよく聞いた。	7	16	2	1	0	0	4.1
	(11) 分からないことや疑問に思ったことは調べた。	1	7	9	7	2	0	2.9
4 教員の授業の進め方について	(12) 学生の理解状況を確かめながら授業を行った。	11	10	5	0	0	0	4.2
	(13) 学生が参加しやすい授業だった。	11	10	4	1	0	0	4.2
	(14) 熱心に指導した。	19	7	0	0	0	0	4.7
	(15) 授業内容を分かりやすく説明した。	16	6	2	2	0	0	4.4
	(16) 教科書や配布資料等の教材は、内容を理解する上で適切だった。	17	8	1	0	0	0	4.6
	(17) 視聴覚機器及び教育用機器の利用は、適切だった。	8	4	14	0	0	0	3.8
	(18) 教員の声は、聞き取りやすかった。	15	10	1	0	0	0	4.5
	(19) 授業の進む速さは、適切だった。	13	11	2	0	0	0	4.4
5 授業に対する満足度	(20) この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。	15	9	2	0	0	0	4.5



教員のコメント

本授業では、中等教育課程での国語科の授業のあり方について概説するとともに、実践報告の紹介、教材研究、発問設計、ワークシート作成などの演習活動も取り入れた。

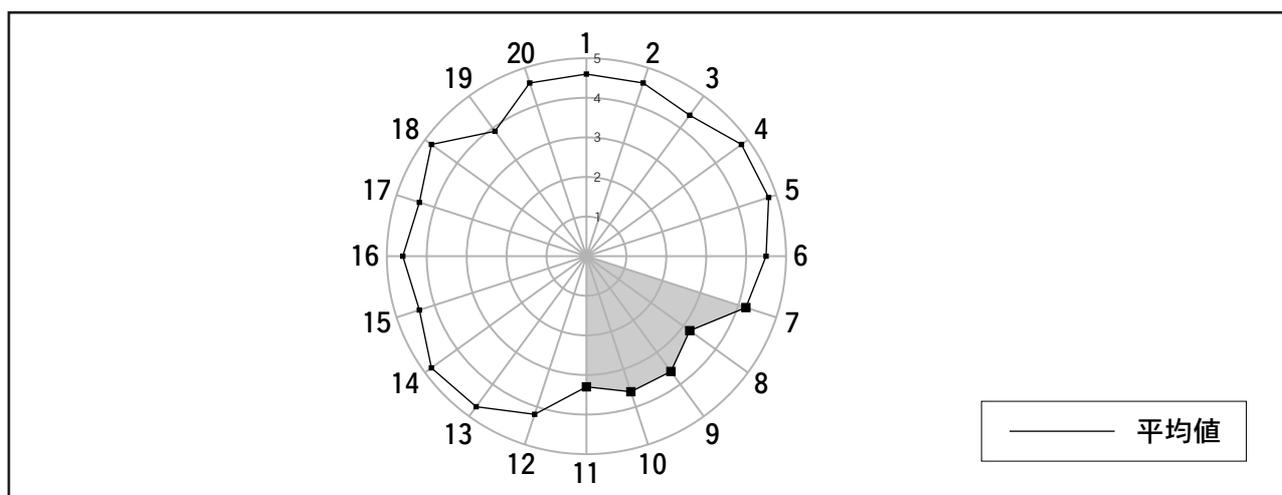
昨年度の反省を受けて今年度心がけたことは、受講者の活動を取り入れた双方向的な授業構成をできるだけ多く取り入れたことである。こなしきれなかった部分もあるが、項目(20)の授業に対する満足度の平均値は4.5であり、肯定的な評価を得られたと判断できる。項目(6)授業内容への関心についても平均値は4.4であったので、昨年度に比して、おおむね受講者の目的意識に即して取り上げる内容を構成できたようである。

次年度に向けては、原則として今年度の内容と方法を踏襲する方向で考えたい。たしかに現状では内容が多岐にわたっているため、個々の内容を深めることより、国語科の授業を行う際に生じる種々の課題にどう対処するかを考えることが主となっている面はある。個々の内容に対する理解を深める手立てとしては、受講者の課題解決過程において授業者が適切なアドバイスを行う、受講者の作った案を全体で討議し合うといった方法が有効であろう。そのための授業者の力量の向上と、場の設計を心がけたい。

授業科目名 英語科教育論 I
 評価実施日 平成19年 8 月 1 日
 担当教員名 山森 直人

回答者数 16名

質問項目	評価選択人数						平均値 (科目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
1 授業概要について	(1) 目標・授業計画・内容は、明確に示されていた。	10	5	1	0	0	4.6
	(2) 成績評価の方法は、明確に示されていた。	10	5	1	0	0	4.6
2 授業の内容等について	(3) 授業内容は、授業概要に沿っていた。	7	8	1	0	0	4.4
	(4) 授業内容は、教養や専門性を高めるものだった。	14	1	1	0	0	4.8
	(5) 授業内容は、教育に対する見方や考え方を学べるものだった。	13	3	0	0	0	4.8
	(6) 授業内容は、興味・関心を引くものだった。	10	4	2	0	0	4.5
3 あなたの授業への取り組みについて	(7) 授業によく出席した。	6	8	1	1	0	4.2
	(8) 授業内容をよく理解するために予習や復習をした。	3	1	9	2	1	3.2
	(9) 授業中に積極的に発言や質問をした。	4	4	6	2	0	3.6
	(10) 教員の説明をよく聞いた。	2	9	3	1	1	3.6
	(11) 分からないことや疑問に思ったことは調べた。	3	3	5	5	0	3.3
4 教員の授業の進め方について	(12) 学生の理解状況を確認しながら授業を行った。	5	9	2	0	0	4.2
	(13) 学生が参加しやすい授業だった。	12	3	1	0	0	4.7
	(14) 熱心に指導した。	14	1	1	0	0	4.8
	(15) 授業内容を分かりやすく説明した。	8	6	2	0	0	4.4
	(16) 教科書や配布資料等の教材は、内容を理解する上で適切だった。	10	5	1	0	0	4.6
	(17) 視聴覚機器及び教育用機器の利用は、適切だった。	9	5	2	0	0	4.4
	(18) 教員の声は、聞き取りやすかった。	13	2	1	0	0	4.8
	(19) 授業の進む速さは、適切だった。	5	6	4	1	0	3.9
	(20) この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。	11	4	1	0	0	4.6



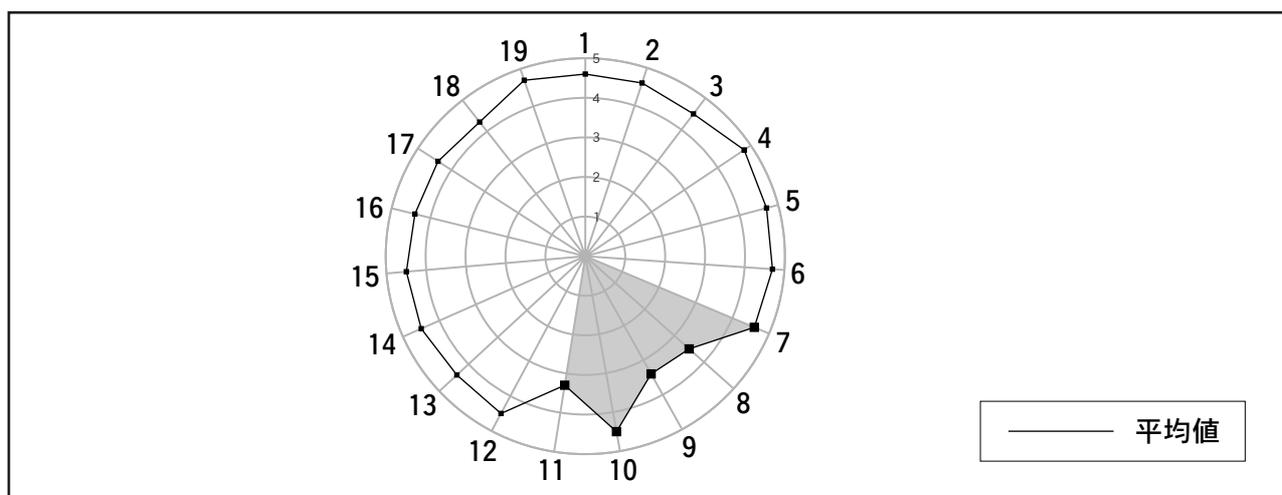
教員のコメント

「3 あなたの(受講生)の授業への取り組みについて」に関わる項目(8)(9)(10)(11), 及び「4. 教員の授業の進め方について」に関わる項目(19)の5項目が3点台で, その他の項目は4点台であり, 概して高評価を得たと思う。相対的に評価の低かった学生の授業への取り組み状況については, 数年来の継続課題である。授業中に発言・質問するなどの機会を増やしたり, 授業外での学習を促すためになんらかの策を講じる必要がある。また, 授業を進める速さについてもこれまでの継続的な課題である。授業内容の精選を意識して取り組んできたが, 結局今回も反省すべき結果となった。今後は授業中にすべきこと, 授業外でもできることを区別し, 特に後者については, 積極的に授業外の学生自身の学びにゆだねることで, 授業進行の速さを改善すると同時に, 学生の積極的かつ自律的な学びを活性化するような仕組みを検討したい。

授業科目名 英語科教育論Ⅲ
 評価実施日 平成19年7月25日
 担当教員名 伊東 治己

回答者数 11名

質問項目	評価選択人数						平均値 (科目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
1 授業概要について	(1) 目標・授業計画・内容は、明確に示されていた。	7	4	0	0	0	4.6
	(2) 成績評価の方法は、明確に示されていた。	7	4	0	0	0	4.6
2 授業の内容等について	(3) 授業内容は、授業概要に沿っていた。	6	4	1	0	0	4.5
	(4) 授業内容は、教養や専門性を高めるものだった。	9	2	0	0	0	4.8
	(5) 授業内容は、教育に対する見方や考え方を学べるものだった。	8	3	0	0	0	4.7
	(6) 授業内容は、興味・関心を引くものだった。	8	3	0	0	0	4.7
3 あなたの授業への取り組みについて	(7) 授業によく出席した。	9	0	2	0	0	4.6
	(8) 授業内容をよく理解するために予習や復習をした。	1	3	7	0	0	3.5
	(9) 授業中に積極的に発言や質問をした。	1	4	4	2	0	3.4
	(10) 教員の説明をよく聞いた。	6	5	0	0	0	4.5
	(11) 分からないことや疑問に思ったことは調べた。	2	2	4	3	0	3.3
4 教員の授業の進め方について	(12) 学生の理解状況を確認しながら授業を行った。	6	5	0	0	0	4.5
	(13) 学生が参加しやすい授業だった。	4	7	0	0	0	4.4
	(14) 熱心に指導した。	6	5	0	0	0	4.5
	(15) 授業内容を分かりやすく説明した。	7	3	1	0	0	4.5
	(16) 教科書や配布資料等の教材は、内容を理解する上で適切だった。	5	5	1	0	0	4.4
	(17) 教員の声は、聞き取りやすかった。	5	5	1	0	0	4.4
	(18) 授業の進む速さは、適切だった。	4	6	1	0	0	4.3
	(19) この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。	8	3	0	0	0	4.7
5 授業に対する満足度	(19) この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。	8	3	0	0	0	4.7



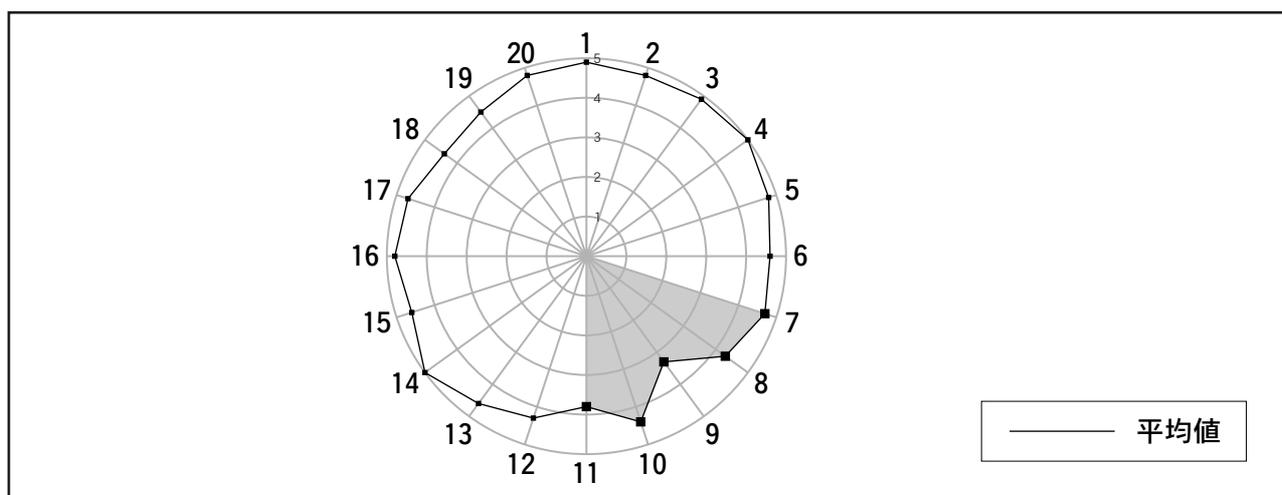
教員のコメント

本授業の目的は、附属中学校での教育実習を視野に入れて、英語の授業を構成している教授活動について理論的な考察を加えながら、英語の授業を組み立てていく具体的方法を、受講生によるマイクロティーチング（模擬授業）や実地指導講師による実践的授業を交えながら学習していくことに置かれている。授業への取り組みについての受講者自身の評価はさほど良くなかったが、授業への満足度に関してはかなり高い評価（4.7）を受講生から得ることができた。「教育実習に行く学生のニーズや目的にあった授業だった」とか「模擬授業をしたり、指導案について触れたりして教育実習の準備に最適だった」という好意的評価を多くの受講生からもらった。これらの好意的評価は授業担当者にとって大きな励みとなっているが、その一方で、本学のコア・カリとして実施されている「初等中等教科教育実践Ⅰ～Ⅲ」との整合性をどう確保するかが、課題となっている。今後、受講生の授業への取り組みをより積極的にさせる方法と合わせて、検討を続けていきたい

授業科目名 中等社会科授業論
 評価実施日 平成19年7月24日
 担当教員名 草原 和博

回答者数 20名

質問項目	評価選択人数						平均値 (科目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
1 授業概要について	(1) 目標・授業計画・内容は、明確に示されていた。	18	2	0	0	0	4.9
	(2) 成績評価の方法は、明確に示されていた。	16	3	1	0	0	4.8
2 授業の内容等について	(3) 授業内容は、授業概要に沿っていた。	19	0	1	0	0	4.9
	(4) 授業内容は、教養や専門性を高めるものだった。	19	1	0	0	0	5.0
	(5) 授業内容は、教育に対する見方や考え方を学べるものだった。	17	2	1	0	0	4.8
	(6) 授業内容は、興味・関心を引くものだった。	13	6	1	0	0	4.6
3 あなたの授業への取り組みについて	(7) 授業によく出席した。	15	3	2	0	0	4.7
	(8) 授業内容をよく理解するために予習や復習をした。	10	7	1	2	0	4.3
	(9) 授業中に積極的に発言や質問をした。	1	7	10	1	1	3.3
	(10) 積極的に課題に取り組んだ。	11	6	3	0	0	4.4
	(11) 分からないことや疑問に思ったことは調べた。	3	9	8	0	0	3.8
4 教員の授業の進め方について	(12) 学生の理解状況を確かめながら授業を行った。	10	6	3	1	0	4.3
	(13) 学生参加型の授業だった。	12	8	0	0	0	4.6
	(14) 熱心に指導した。	19	1	0	0	0	5.0
	(15) 授業内容を分かりやすく説明した。	14	4	1	1	0	4.6
	(16) 教科書や配布資料等の教材は、内容を理解する上で適切だった。	17	1	2	0	0	4.8
	(17) 視聴覚機器及び教育用機器の利用は、適切だった。	16	2	2	0	0	4.7
	(18) 授業の進む速さは、適切だった。	9	10	1	0	0	4.4
	(19) 学生の疑問や質問に適切に答えた。	13	3	4	0	0	4.5
5 授業に対する満足度	(20) この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。	17	1	2	0	0	4.8



教員のコメント

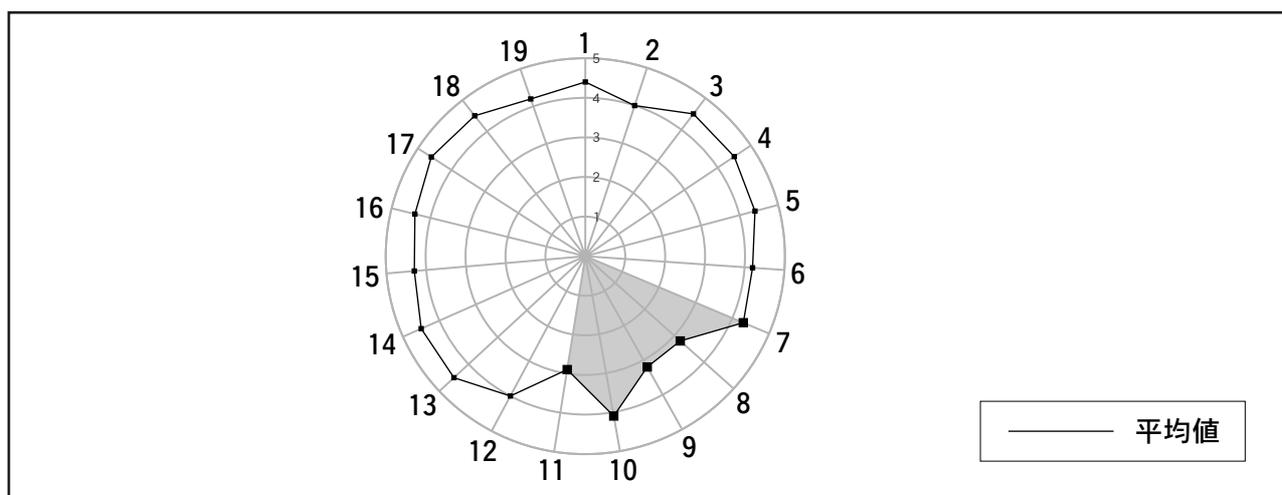
全般的に好評価を得た。平均値で満点 (5.0) を得た項目が2項目あった。また、大半の項目で4.5以上の評点を得た。ただし、学生の自己評価に関わる項目 (9 / 11) では、やや低めの3点台の評価も見受けられた。しかし、教員は、受講生の積極的な取り組みを大いに評価している。受講生は、宿題 (授業分析 & 教材研究) に相当な時間を割いて、その成果を発表していた。発表内容の質は高く、到達目標もクリアしていた。責任は教員の側にある。今後は、受講生が自ら学びの「意義」や「関与性」を実感できる講義の持ち方を検討したい。方策としては、自己学習のプロセスを確実に記録させ、それを振り返る機会を与える指導法が考えられる。

以下、記述の回答を紹介する (一部表現を略)。○良かった点…「課題が多くて大変だったが、どんな課題も「やろう」「やるのが自分のためになる」と思わせる授業だった」「授業を論理的に分析していったこの授業は、今まで使ったことのない思考の仕方ができて新鮮だった」「授業に学生が参加できた点良かった」「社会科の授業観が変わった」。○改善すべき点…「間違えたときに、不機嫌になるのはいかがかと思う」。とくに最後の点は、反省を要する。指摘を謙虚に受けとめたい。

授業科目名 公民科教育論
 評価実施日 平成19年7月24日
 担当教員名 西村 公孝

回答者数 11名

質問項目	評価選択人数						平均値 (科目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
1 授業概要について	(1) 目標・授業計画・内容は、明確に示されていた。	4	7	0	0	0	4.4
	(2) 成績評価の方法は、明確に示されていた。	2	7	2	0	0	4.0
2 授業の内容等について	(3) 授業内容は、授業概要に沿っていた。	6	5	0	0	0	4.5
	(4) 授業内容は、教養や専門性を高めるものだった。	6	4	1	0	0	4.5
	(5) 授業内容は、教育に対する見方や考え方を学べるものだった。	6	3	2	0	0	4.4
	(6) 授業内容は、興味・関心を引くものだった。	4	5	2	0	0	4.2
3 あなたの授業への取り組みについて	(7) 授業によく出席した。	5	4	2	0	0	4.3
	(8) 授業内容をよく理解するために予習や復習をした。	0	5	4	1	1	3.2
	(9) 授業中に積極的に発言や質問をした。	1	2	6	2	0	3.2
	(10) 教員の説明をよく聞いた。	3	6	2	0	0	4.1
	(11) 分からないことや疑問に思ったことは調べた。	0	2	7	1	1	2.9
4 教員の授業の進め方について	(12) 学生の理解状況を確認しながら授業を行った。	2	7	2	0	0	4.0
	(13) 学生が参加しやすい授業だった。	5	6	0	0	0	4.5
	(14) 熱心に指導した。	5	6	0	0	0	4.5
	(15) 授業内容を分かりやすく説明した。	4	6	1	0	0	4.3
	(16) 教科書や配布資料等の教材は、内容を理解する上で適切だった。	5	4	1	0	0	4.4
	(17) 教員の声は、聞き取りやすかった。	7	4	0	0	0	4.6
	(18) 授業の進む速さは、適切だった。	6	4	1	0	0	4.5
	(19) この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。	4	5	2	0	0	4.2



教員のコメント

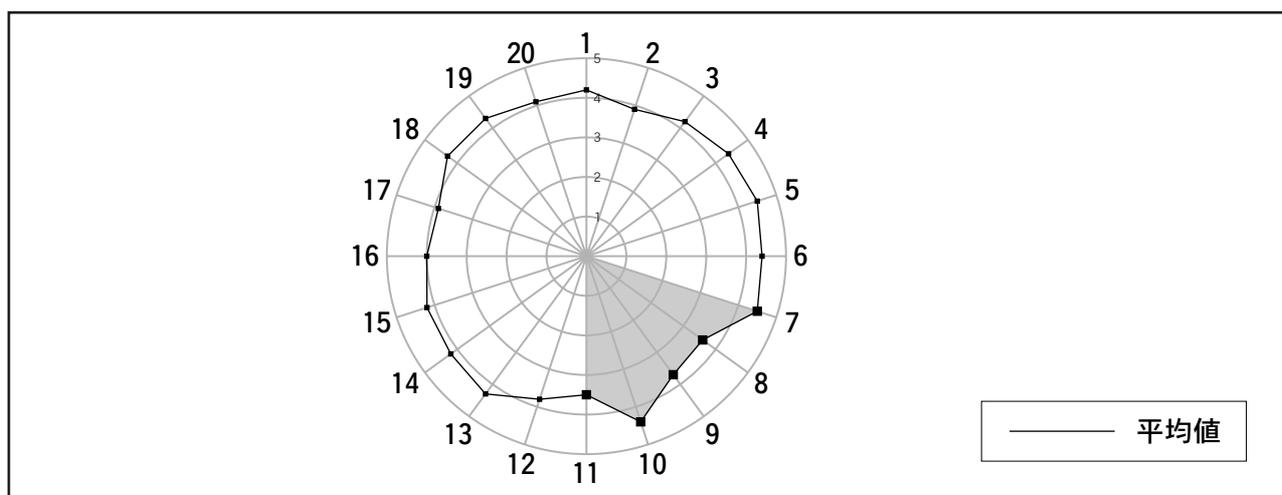
「公民科教育論」は高等学校の免許取得に必要な科目であり、例年受講生も社会系教育コースの学部生と大学院生である。本年度は13名が受講し評価の平均値では、大旨4.0以上の評価を得ている。5「授業に対する満足度」も4.2であり、それぞれの項目で学習の成果が見られる。しかし、項目3「あなたの授業への取り組みについて」の質問内容では「分からないことや疑問に思ったことを調べた」2.9、「授業内容をよく理解するために予習や復習をした」3.2、「授業中に積極的に発言や質問をした」3.2と平均値が低くなっている項目も見られる。

高い評価が得られた項目では「教員の声は聞き取りやすかった」4.6、「熱心に指導した」4.5、「授業内容は、授業概要に沿っていた」4.5、「授業内容は、教養や専門性を高めるものだった」4.5などである。総じて、本授業では目的意識の高い受講生により、公民科の指導力としての教科内容と学習方法について、課題追究学習の教材開発・授業づくりを通してねらいを達成したものと評価できる。来年度は受講生の積極的な授業参加を促す学習展開を工夫していきたい。

授業科目名 数学科教材論
 評価実施日 平成19年7月17日
 担当教員名 服部 勝憲

回答者数 22名

質問項目	評価選択人数						平均値 (科目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
1 授業概要について	(1) 目標・授業計画・内容は、明確に示されていた。	9	9	4	0	0	4.2
	(2) 成績評価の方法は、明確に示されていた。	5	11	5	1	0	3.9
2 授業の内容等について	(3) 授業内容は、授業概要に沿っていた。	9	8	5	0	0	4.2
	(4) 授業内容は、教養や専門性を高めるものだった。	10	11	1	0	0	4.4
	(5) 授業内容は、教育に対する見方や考え方を学べるものだった。	11	10	1	0	0	4.5
	(6) 授業内容は、興味・関心を引くものだった。	11	8	3	0	0	4.4
3 あなたの授業への取り組みについて	(7) 授業によく出席した。	14	6	2	0	0	4.5
	(8) 授業内容をよく理解するために予習や復習をした。	7	4	7	3	1	3.6
	(9) 授業中に積極的に発言や質問をした。	5	9	5	3	0	3.7
	(10) 教員の説明をよく聞いた。	8	14	0	0	0	4.4
	(11) 分からないことや疑問に思ったことは調べた。	2	8	11	1	0	3.5
4 教員の授業の進め方について	(12) 学生の理解状況を確かめながら授業を行った。	2	14	5	1	0	3.8
	(13) 学生が参加しやすい授業だった。	11	7	3	1	0	4.3
	(14) 熱心に指導した。	10	9	2	0	1	4.2
	(15) 授業内容を分かりやすく説明した。	9	9	3	1	0	4.2
	(16) 教科書や配布資料等の教材は、内容を理解する上で適切だった。	7	9	5	0	1	4.0
	(17) 視聴覚機器及び教育用機器の利用は、適切だった。	5	12	4	0	1	3.9
	(18) 教員の声は、聞き取りやすかった。	11	7	3	1	0	4.3
	(19) 授業の進む速さは、適切だった。	10	9	2	1	0	4.3
5 授業に対する満足度	(20) この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。	9	9	3	0	1	4.1



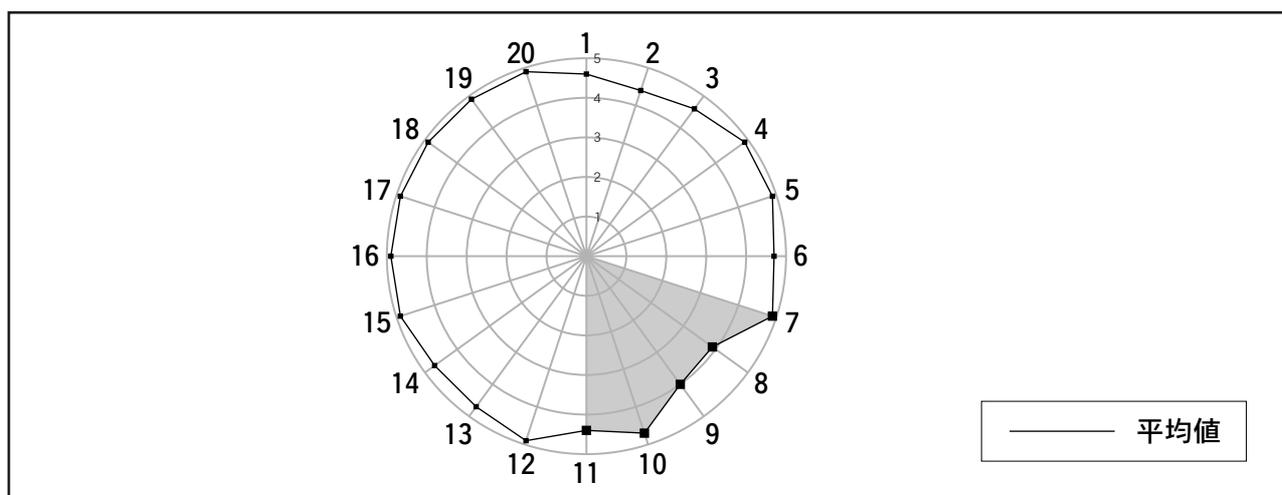
教員のコメント

20の質問項目中14項目については、その平均値が4.0以上であり、かなり高い評価を得ていると思われる。しかし「あなたの授業への取り組みについて」の評価項目中、3つの評価項目については、平均値が4.0未満の回答となっており、それらは本授業に関連した予習・復習、積極的な発言・質問、疑問についての主体的な調査等に関する項目であることがわかる。授業には講義形式に終始せず、役割分担をして、報告・提案・模擬授業形式を取り入れたが、それぞれの授業で役割分担が決まっている受講生は事前の学習・研究や準備等に積極的に取り組んだが、そうでない受講生の授業態度が受け身的になった傾向があったことは、受講生の自己評価・提言からも見られるものである。これらのことから学生がさらに主体的・積極的に授業に臨むことができるような授業展開の工夫や改善が必要と考えられる。

授業科目名 数学科授業論
 評価実施日 平成19年7月24日
 担当教員名 齋藤 昇, 秋田 美代

回答者数 7名

質問項目	評価選択人数						平均値 (科目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
1 授業概要について	(1) 目標・授業計画・内容は、明確に示されていた。	5	1	1	0	0	4.6
	(2) 成績評価の方法は、明確に示されていた。	4	2	1	0	0	4.4
2 授業の内容等について	(3) 授業内容は、授業概要に沿っていた。	4	3	0	0	0	4.6
	(4) 授業内容は、教養や専門性を高めるものだった。	6	1	0	0	0	4.9
	(5) 授業内容は、教育に対する見方や考え方を学べるものだった。	6	1	0	0	0	4.9
	(6) 授業内容は、興味・関心を引くものだった。	5	2	0	0	0	4.7
3 あなたの授業への取り組みについて	(7) 授業によく出席した。	6	1	0	0	0	4.9
	(8) 授業内容をよく理解するために予習や復習をした。	1	4	2	0	0	3.9
	(9) 授業中に積極的に発言や質問をした。	3	2	1	1	0	4.0
	(10) 教員の説明をよく聞いた。	5	2	0	0	0	4.7
	(11) 分からないことや疑問に思ったことは調べた。	3	4	0	0	0	4.4
4 教員の授業の進め方について	(12) 学生の理解状況を確かめながら授業を行った。	6	1	0	0	0	4.9
	(13) 学生が参加しやすい授業だった。	5	2	0	0	0	4.7
	(14) 熱心に指導した。	5	2	0	0	0	4.7
	(15) 授業内容を分かりやすく説明した。	6	1	0	0	0	4.9
	(16) 教科書や配布資料等の教材は、内容を理解する上で適切だった。	6	1	0	0	0	4.9
	(17) 視聴覚機器及び教育用機器の利用は、適切だった。	6	1	0	0	0	4.9
	(18) 教員の声は、聞き取りやすかった。	6	1	0	0	0	4.9
	(19) 授業の進む速さは、適切だった。	6	1	0	0	0	4.9
5 授業に対する満足度	(20) この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。	6	1	0	0	0	4.9



教員のコメント

本授業では、算数・数学学習において、児童・生徒が学習内容をしっかりと定着し創造的思考を活性化させる授業の原理と方法を概説し、その具体的な指導方法としてコンセプトマップを活用とした「山登り式学習法」を取り上げ、小・中・高等学校における実践例と対応づけながら講義を行った。

この授業に対する受講者の評価平均値は、教師の授業方法にかかわる項目の平均値が4.9、学生の学習態度に係わる項目の平均値が4.4であった。特に「授業内容は、教養や専門性を高めるものだった」「授業内容は、教育に対する見方や考え方を学べるものだった」「授業によく出席した」「授業内容を分かりやすく説明した」「教員の声は聞き取りやすかった」「この授業は、自分自身にとって満足できるものであった」という項目の評価が高かった。

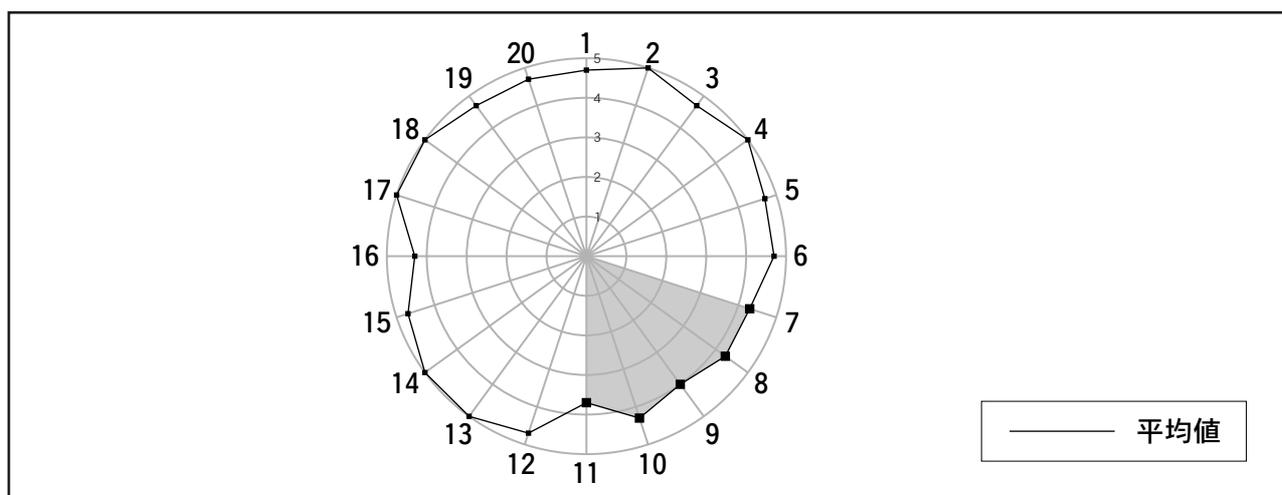
これらの回答から、受講者は、児童・生徒の創造的思考を活性化させる算数・数学の授業法の原理や方法に興味・関心を抱き理解を深めた様子がうかがわれた。

以上のことから、授業の目標は達成できたと思われる。次年度も理論と実践を融合した授業を行うことを考えている。

授業科目名 数学科教育学特論
 評価実施日 平成19年7月27日
 担当教員名 秋田 美代, 齋藤 昇

回答者数 3名

質問項目	評価選択人数						平均値 (科目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
1 授業概要について	(1) 目標・授業計画・内容は、明確に示されていた。	2	1	0	0	0	4.7
	(2) 成績評価の方法は、明確に示されていた。	3	0	0	0	0	5.0
2 授業の内容等について	(3) 授業内容は、授業概要に沿っていた。	2	1	0	0	0	4.7
	(4) 授業内容は、教養や専門性を高めるものだった。	3	0	0	0	0	5.0
	(5) 授業内容は、教育に対する見方や考え方を学べるものだった。	2	1	0	0	0	4.7
	(6) 授業内容は、興味・関心を引くものだった。	2	1	0	0	0	4.7
3 あなたの授業への取り組みについて	(7) 授業によく出席した。	2	0	1	0	0	4.3
	(8) 授業内容をよく理解するために予習や復習をした。	1	2	0	0	0	4.3
	(9) 授業中に積極的に発言や質問をした。	1	1	1	0	0	4.0
	(10) 教員の説明をよく聞いた。	1	2	0	0	0	4.3
	(11) 分からないことや疑問に思ったことは調べた。	0	2	1	0	0	3.7
4 教員の授業の進め方について	(12) 学生の理解状況を確認しながら授業を行った。	2	1	0	0	0	4.7
	(13) 学生が参加しやすい授業だった。	3	0	0	0	0	5.0
	(14) 熱心に指導した。	3	0	0	0	0	5.0
	(15) 授業内容を分かりやすく説明した。	2	1	0	0	0	4.7
	(16) 教科書や配布資料等の教材は、内容を理解する上で適切だった。	1	2	0	0	0	4.3
	(17) 視聴覚機器及び教育用機器の利用は、適切だった。	3	0	0	0	0	5.0
	(18) 教員の声は、聞き取りやすかった。	3	0	0	0	0	5.0
	(19) 授業の進む速さは、適切だった。	2	1	0	0	0	4.7
5 授業に対する満足度	(20) この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。	2	1	0	0	0	4.7



教員のコメント

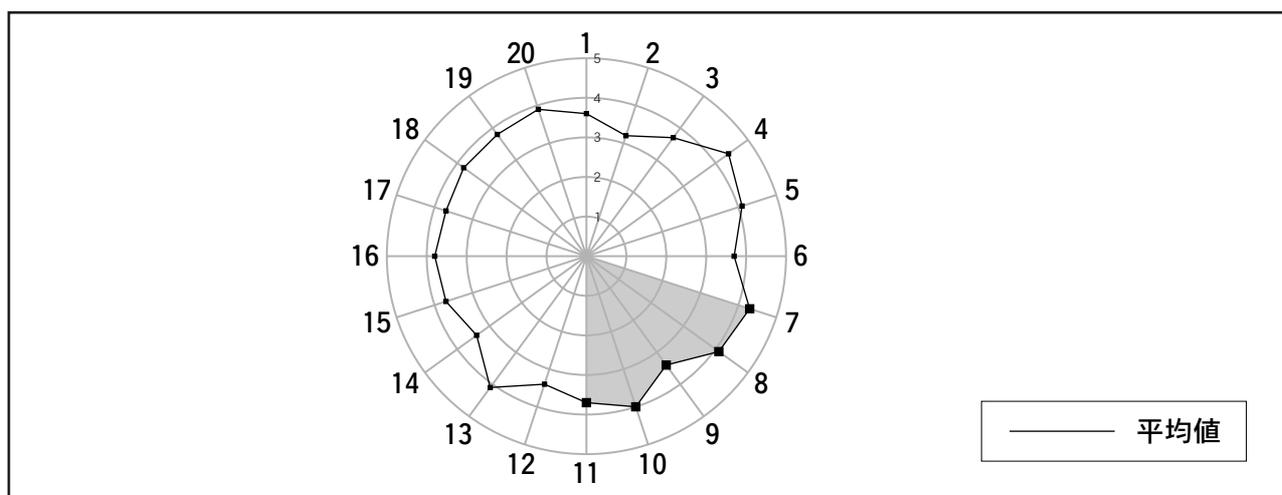
本授業では、教員を目指す学生が、数学科教育の現状・課題を知り、数学科教育の課題を解決するための指導方法・評価方法等に関する理解を深めて、数学科を担当する教員として必要な授業実践力・改善力を高めることを目的とした。授業では、まず、数学科教育の現状と課題を明確にし、数学科教育の課題に対応した内容と指導方法、評価等を論説した。その後、受講者が、数学科教育の現状と課題を基にして、課題を解決するための授業設計、指導案作成、模擬授業、及び「課題学習」「選択数学」「総合的な学習の時間」等で使える題材について教材研究を行った。

受講生が少なかったので、教材作成や発表・討論に十分な時間を取ることができた。この授業に対する評価は、ほとんどの項目で「4または5」であった。回答から、授業が受講者にとって教養や専門性を高めることに役立ったこと、参加しやすい授業であったこと等がうかがわれた。受講者は、授業実践方法、評価法等について強い関心を示し、意欲的に授業に取り組んだ。数学科の授業展開等における実践的な指導力の向上につながる資質や能力が養えたものとする。

授業科目名 中等音楽科授業論
 評価実施日 平成19年8月1日
 担当教員名 西園 芳信

回答者数 9名

質問項目	評価選択人数						平均値 (科目別)	
	5	4	3	2	1	N.A		
1 授業概要について	(1) 目標・授業計画・内容は、明確に示されていた。	0	5	4	0	0	0	3.6
	(2) 成績評価の方法は、明確に示されていた。	1	1	6	1	0	0	3.2
2 授業の内容等について	(3) 授業内容は、授業概要に沿っていた。	0	6	3	0	0	0	3.7
	(4) 授業内容は、教養や専門性を高めるものだった。	4	5	0	0	0	0	4.4
	(5) 授業内容は、教育に対する見方や考え方を学べるものだった。	3	4	2	0	0	0	4.1
	(6) 授業内容は、興味・関心を引くものだった。	0	6	3	0	0	0	3.7
3 あなたの授業への取り組みについて	(7) 授業によく出席した。	4	4	1	0	0	0	4.3
	(8) 授業内容をよく理解するために予習や復習をした。	3	4	2	0	0	0	4.1
	(9) 授業中に積極的に発言や質問をした。	1	3	4	1	0	0	3.4
	(10) 教員の説明をよく聞いた。	2	5	2	0	0	0	4.0
	(11) 分からないことや疑問に思ったことは調べた。	2	3	3	1	0	0	3.7
4 教員の授業の進め方について	(12) 学生の理解状況を確認しながら授業を行った。	0	4	5	0	0	0	3.4
	(13) 学生が参加しやすい授業だった。	4	2	3	0	0	0	4.1
	(14) 熱心に指導した。	0	6	2	0	1	0	3.4
	(15) 授業内容を分かりやすく説明した。	0	7	1	1	0	0	3.7
	(16) 教科書や配布資料等の教材は、内容を理解する上で適切だった。	2	4	2	1	0	0	3.8
	(17) 視聴覚機器及び教育用機器の利用は、適切だった。	2	3	3	1	0	0	3.7
	(18) 教員の声は、聞き取りやすかった。	3	2	3	1	0	0	3.8
	(19) 授業の進む速さは、適切だった。	2	4	2	1	0	0	3.8
5 授業に対する満足度	(20) この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。	0	8	1	0	0	0	3.9



教員のコメント

この授業は、教員として教科の実践的指導力を育成するための基盤になるもので、それを音楽科教育の理論と実践から展開するものである。そのため、この授業の目的は、中学校における音楽科の教育を実践的に展開するために必要な理論と展開方法を学ぶことである。

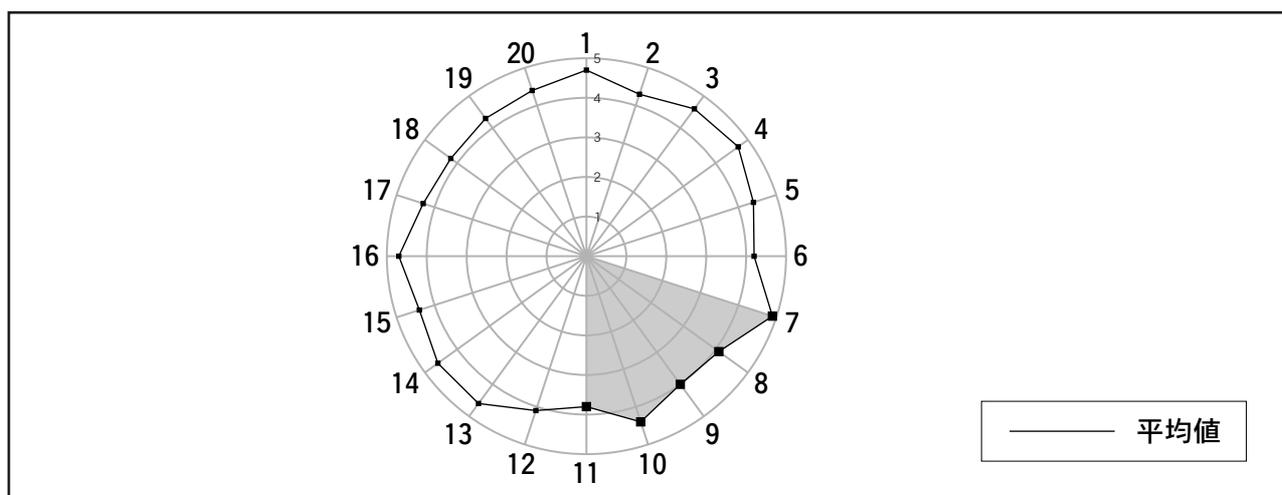
授業に関する目標等、20項目の学生評価の平均値の平均は、3.8となる。このことからこの授業は、学生に概ね理解できる内容で、授業の進め方も実践的指導力を育成するという観点から実践的な内容を多く取り入れたが、このことも概ね評価できるものと言える。

授業において改善すべき点は、授業の中で学生に積極的に発言を促すことや、分からないことや疑問に思ったことを調べることなど、もっと授業に積極的に参加するように促すことである。

授業科目名 中等家庭科教育論
 評価実施日 平成19年8月2日
 担当教員名 鳥井 葉子

回答者数 9名

質問項目		評価選択人数						平均値 (科目別)
		5	4	3	2	1	N.A	
1 授業概要について	(1) 目標・授業計画・内容は、明確に示されていた。	7	1	1	0	0	0	4.7
	(2) 成績評価の方法は、明確に示されていた。	4	4	1	0	0	0	4.3
2 授業の内容等について	(3) 授業内容は、授業概要に沿っていた。	6	2	1	0	0	0	4.6
	(4) 授業内容は、教養や専門性を高めるものだった。	6	3	0	0	0	0	4.7
	(5) 授業内容は、教育に対する見方や考え方を学べるものだった。	6	1	2	0	0	0	4.4
	(6) 授業内容は、興味・関心を引くものだった。	6	0	2	1	0	0	4.2
3 あなたの授業への取り組みについて	(7) 授業によく出席した。	8	1	0	0	0	0	4.9
	(8) 授業内容をよく理解するために予習や復習をした。	3	5	0	1	0	0	4.1
	(9) 授業中に積極的に発言や質問をした。	3	4	1	1	0	0	4.0
	(10) 教員の説明をよく聞いた。	5	3	1	0	0	0	4.4
	(11) 分からないことや疑問に思ったことは調べた。	3	3	1	2	0	0	3.8
4 教員の授業の進め方について	(12) 学生の理解状況を確認しながら授業を行った。	5	1	2	1	0	0	4.1
	(13) 学生が参加しやすい授業だった。	6	2	1	0	0	0	4.6
	(14) 熱心に指導した。	6	2	1	0	0	0	4.6
	(15) 授業内容を分かりやすく説明した。	6	1	2	0	0	0	4.4
	(16) 教科書や配布資料等の教材は、内容を理解する上で適切だった。	7	1	1	0	0	0	4.7
	(17) 視聴覚機器及び教育用機器の利用は、適切だった。	6	0	3	0	0	0	4.3
	(18) 教員の声は、聞き取りやすかった。	5	1	3	0	0	0	4.2
	(19) 授業の進む速さは、適切だった。	5	2	2	0	0	0	4.3
5 授業に対する満足度	(20) この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。	6	1	2	0	0	0	4.4



教員のコメント

評価の低かった項目は「分からないことや疑問に思ったことは調べた」であった。本授業では学習指導案の作成・改善を中心に据えているが、次年度は、その前段階で教材研究に関する段階的な課題を設定して改善したい。

授業で改善したほうがよいこととして「教科書を読むだけの授業は必要ないと思う」があげられていた。前半の週では、基本的知識について、テキストをもとに説明を加えて進めていたが、体験的な学習活動を毎回取り入れることが必要であったと反省している。

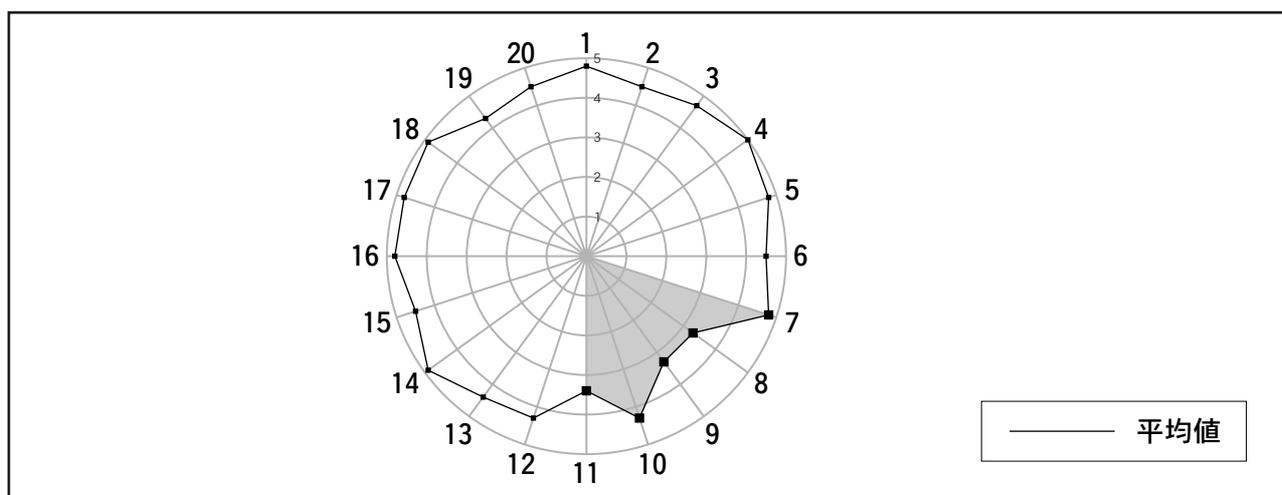
授業でよかったことには「より深い専門的知識を得られた」「実際に現場で活躍されている方の話はとてもためになった」「指導案の書き方について理解できた」「いろいろな授業のやり方を学べた」「家庭科について詳しく教えてくれた」「身に付いた」があげられた。

受講生が活発に議論できるようにするには？という質問を設定したところ、「最後にしていた指導案の議論をするみたいに各自で読んで（発表して）議論していけば良いと思う」「教師が主ではなく学生が中心になる議論の機会を作るともっと意見が出やすいと思う」「どんなことを発表したらいいのか具体的な意見を例に出してみる」との意見が得られ、今後、授業方法の改善に活かしたい。

授業科目名 社会科・地理歴史科指導論／教材論
 評価実施日 平成20年2月18日
 担当教員名 梅津 正美, 草原 和博

回答者数 19名

質問項目	評価選択人数						平均値 (科目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
1 授業概要について	(1) 目標・授業計画・内容は、明確に示されていた。	15	4	0	0	0	4.8
	(2) 成績評価の方法は、明確に示されていた。	12	5	2	0	0	4.5
2 授業の内容等について	(3) 授業内容は、授業概要に沿っていた。	14	5	0	0	0	4.7
	(4) 授業内容は、教養や専門性を高めるものだった。	19	0	0	0	0	5.0
	(5) 授業内容は、教育に対する見方や考え方を学べるものだった。	16	3	0	0	0	4.8
	(6) 授業内容は、興味・関心を引くものだった。	10	8	1	0	0	4.5
3 あなたの授業への取り組みについて	(7) 授業によく出席した。	15	4	0	0	0	4.8
	(8) 授業内容をよく理解するために予習や復習をした。	4	6	3	4	2	3.3
	(9) 授業中に積極的に発言や質問をした。	3	5	7	3	1	3.3
	(10) 教員の説明をよく聞いた。	10	6	2	1	0	4.3
	(11) 分からないことや疑問に思ったことは調べた。	4	3	8	4	0	3.4
4 教員の授業の進め方について	(12) 学生の理解状況を確認しながら授業を行った。	8	8	3	0	0	4.3
	(13) 学生が参加しやすい授業だった。	10	6	3	0	0	4.4
	(14) 熱心に指導した。	18	1	0	0	0	4.9
	(15) 授業内容を分かりやすく説明した。	11	6	2	0	0	4.5
	(16) 教科書や配布資料等の教材は、内容を理解する上で適切だった。	15	4	0	0	0	4.8
	(17) 視聴覚機器及び教育用機器の利用は、適切だった。	15	4	0	0	0	4.8
	(18) 教員の声は、聞き取りやすかった。	17	2	0	0	0	4.9
	(19) 授業の進む速さは、適切だった。	8	9	2	0	0	4.3
5 授業に対する満足度	(20) この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。	11	7	1	0	0	4.5



教員のコメント

本授業では、中等社会系教科教育で用いる様々な論文・文献・図版・データ等を「教師の視点」から読み解き、その成果を教育的に加工できる（教材として構成できる）知識と能力を培うことをめざして展開した。受講生は、教育実習を経験し、間もなく教職に就こうという3・4年次生が中心であったので、講義担当者は模擬授業を組み込むなどして、授業の実際にもとづく実践的な教材構成論を説明し理解してもらうことに努めた。

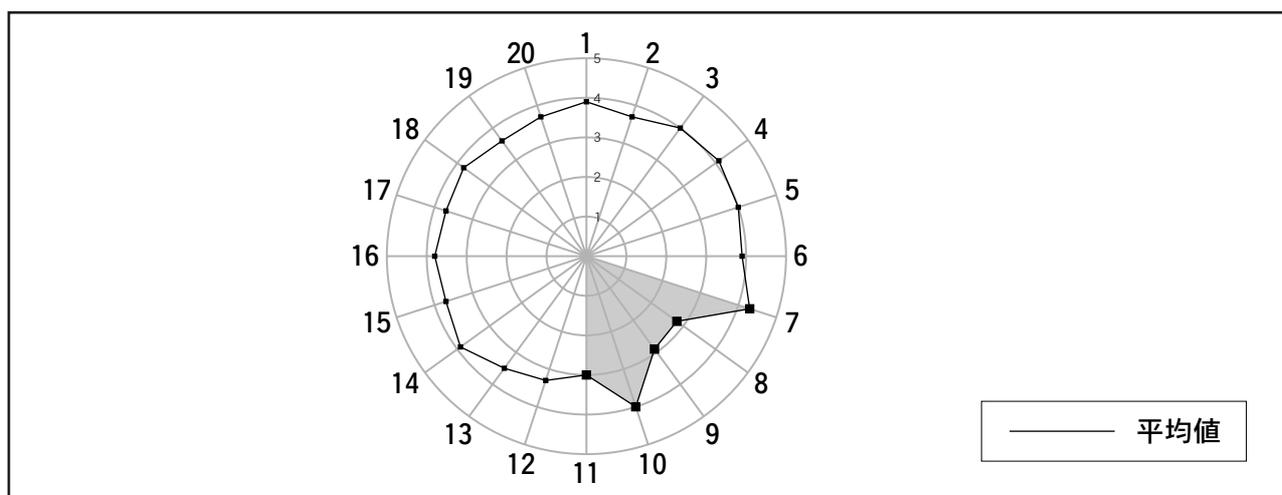
本授業に対する20項目の評価の平均値は4.4、授業全体に対する学生の満足度を示す項目(20)の平均値は4.5であり、授業全体に対して概ね良好な評価を得ることができた。授業の内容に関わる項目(3)(4)(5)(6)の平均値は4.8、授業の展開・態度に関わる項目(12)(13)(14)(15)(16)(17)(18)(19)の平均値は4.6であった。これに対して、学生の授業への取組に関わる項目(7)(8)(9)(10)(11)の平均値は3.8であり、相対的に低くなった。学生たちの、よく授業に出席しながら、予習・復習が十分できていない、あるいは発言や質問が十分できていないという学習の姿は、本学学生の一般的な傾向とも言えるが、4年次生後期の授業は、教育実習や卒論研究との兼ね合いで過度の演習課題を出すことが難しい。模擬授業に対する合評会において学生達は、自らの実践経験をふまえて、理論と実践を結びつけた発言ができていた。学習に対する学生の自己評価は厳しいものとなっているが、彼らの教育実践力と教職に対する意欲は着実に高まっていると感じられた。

授業科目名 発達心理学

評価実施日 平成20年2月14日

担当教員名 山崎 勝之, 皆川 直凡, 浜崎 隆司, 田村 隆宏, 島田 恭仁, 久米 禎子 回答者数 52名

質問項目		評価選択人数						平均値 (科目別)
		5	4	3	2	1	N.A	
1 授業概要について	(1) 目標・授業計画・内容は、明確に示されていた。	10	30	10	1	1	0	3.9
	(2) 成績評価の方法は、明確に示されていた。	11	18	17	5	0	0	3.7
2 授業の内容等について	(3) 授業内容は、授業概要に沿っていた。	15	23	12	2	0	0	4.0
	(4) 授業内容は、教養や専門性を高めるものだった。	20	21	9	2	0	0	4.1
	(5) 授業内容は、教育に対する見方や考え方を学べるものだった。	13	26	13	0	0	0	4.0
	(6) 授業内容は、興味・関心を引くものだった。	18	19	10	4	1	0	3.9
3 あなたの授業への取り組みについて	(7) 授業によく出席した。	23	20	8	1	0	0	4.3
	(8) 授業内容をよく理解するために予習や復習をした。	3	7	21	16	5	0	2.8
	(9) 授業中に積極的に発言や質問をした。	5	8	20	13	6	0	2.9
	(10) 教員の説明をよく聞いた。	10	32	8	2	0	0	4.0
	(11) 分からないことや疑問に思ったことは調べた。	5	10	23	9	5	0	3.0
4 教員の授業の進め方について	(12) 学生の理解状況を確かめながら授業を行った。	3	17	23	8	1	0	3.3
	(13) 学生が参加しやすい授業だった。	4	26	16	5	1	0	3.5
	(14) 熱心に指導した。	13	22	14	3	0	0	3.9
	(15) 授業内容を分かりやすく説明した。	10	19	18	5	0	0	3.7
	(16) 教科書や配布資料等の教材は、内容を理解する上で適切だった。	12	20	15	5	0	0	3.8
	(17) 視聴覚機器及び教育用機器の利用は、適切だった。	11	22	12	6	1	0	3.7
	(18) 教員の声は、聞き取りやすかった。	12	23	14	3	0	0	3.8
	(19) 授業の進む速さは、適切だった。	6	23	19	3	1	0	3.6
5 授業に対する満足度	(20) この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。	9	24	13	5	1	0	3.7



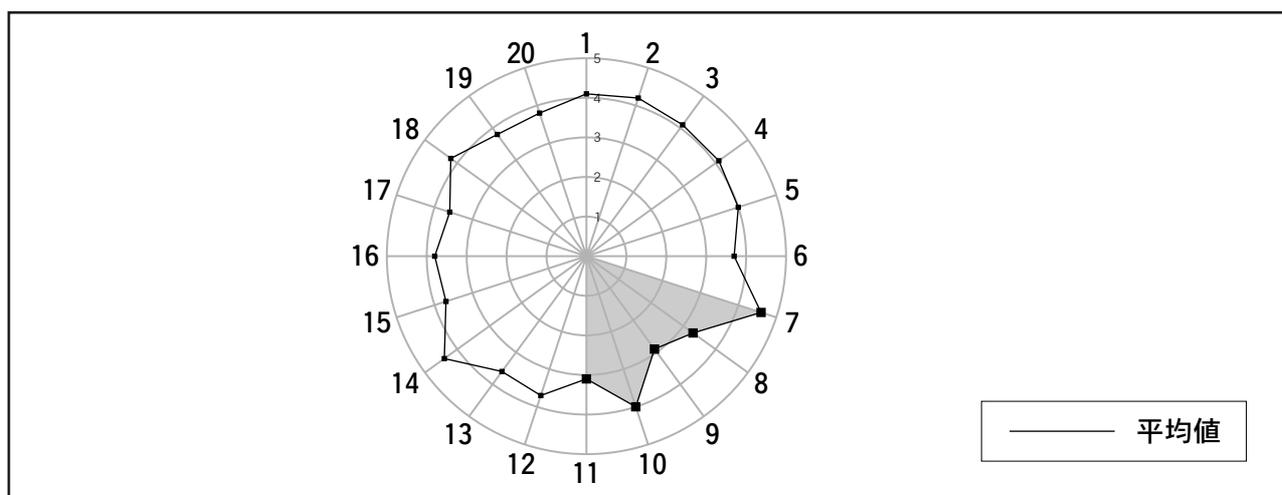
教員のコメント

質問項目の結果は全20項目中16項目において3点台後半から4点台であり、授業概要との対応、内容面、授業の進め方、学生の授業に対する取り組みや満足度については概ね肯定的な評価が得られた。ただし、学生の授業への取り組みに関して「授業内容をよく理解するために予習や復習をした」、「授業中に積極的に発言や質問をした」、「わからないことや疑問に思ったことは調べた」の項目については3点以下の評価ということで、やや否定的な評価と捉えられるものであり、受講生に対してさらに望ましい取り組み方を促す必要性が示唆された。これらの点については、今後の授業の中で十分に配慮していく必要がある。自由記述の結果では、よかった点として「多くの先生の色々な内容を聞いて良かった」、「ディベートなどがあり、学生が参加しやすい授業だった」、「子どもの様々な発達段階が理解できた」などが挙げられた。改善すべき点としては「複数の先生の話なので統一性に欠けていた」、「1人1人の先生の授業が短すぎる」、「進むのが早すぎた」などが挙げられた。改善点は複数の教員で担当することから生じる弊害についての指摘が多かったため、これらの弊害ができるだけ少なくなるような授業のあり方について今後十分に検討する必要がある。

授業科目名 算数科教育論A
 評価実施日 平成20年2月18日
 担当教員名 廣瀬 隆司

回答者数 45名

質問項目	評価選択人数						平均値 (科目別)	
	5	4	3	2	1	N.A		
1 授業概要について	(1) 目標・授業計画・内容は、明確に示されていた。	18	15	11	1	0	0	4.1
	(2) 成績評価の方法は、明確に示されていた。	20	16	9	0	0	0	4.2
2 授業の内容等について	(3) 授業内容は、授業概要に沿っていた。	16	16	13	0	0	0	4.1
	(4) 授業内容は、教養や専門性を高めるものだった。	20	14	7	4	0	0	4.1
	(5) 授業内容は、教育に対する見方や考え方を学べるものだった。	16	15	11	3	0	0	4.0
	(6) 授業内容は、興味・関心を引くものだった。	13	15	9	7	1	0	3.7
3 あなたの授業への取り組みについて	(7) 授業によく出席した。	30	11	3	1	0	0	4.6
	(8) 授業内容をよく理解するために予習や復習をした。	8	12	15	6	4	0	3.3
	(9) 授業中に積極的に発言や質問をした。	2	9	23	5	6	0	2.9
	(10) 教員の説明をよく聞いた。	13	21	9	2	0	0	4.0
	(11) 分からないことや疑問に思ったことは調べた。	3	13	20	5	4	0	3.1
4 教員の授業の進め方について	(12) 学生の理解状況を確かめながら授業を行った。	11	18	9	4	3	0	3.7
	(13) 学生が参加しやすい授業だった。	14	11	11	8	1	0	3.6
	(14) 熱心に指導した。	26	13	6	0	0	0	4.4
	(15) 授業内容を分かりやすく説明した。	12	15	12	6	0	0	3.7
	(16) 教科書や配布資料等の教材は、内容を理解する上で適切だった。	13	14	15	3	0	0	3.8
	(17) 視聴覚機器及び教育用機器の利用は、適切だった。	10	10	23	1	1	0	3.6
	(18) 教員の声は、聞き取りやすかった。	23	9	12	1	0	0	4.2
	(19) 授業の進む速さは、適切だった。	15	12	14	4	0	0	3.8
5 授業に対する満足度	(20) この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。	13	15	14	3	0	0	3.8



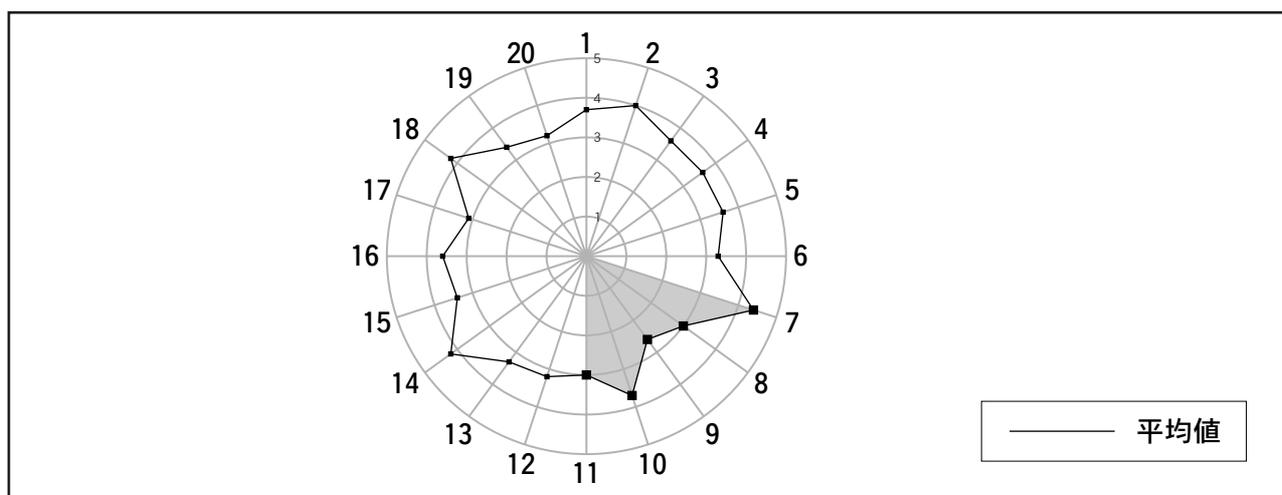
教員のコメント

授業当初1・2・3回に亘り、評価の観点等を記入したプリントを配布しているにもかかわらず、評価の観点がわからないとする学生がそこそこいるのには驚いた。授業中の態度やレポートの提出状況はすこぶる良かった。授業については、実践的な面から、指導を行った。授業内容の復習が不十分なためか、小テストや後期テストに的はずれた解答も多々あった。算数科教育論Bの学生に比べ、やや覇気に欠けるところがあったように思われる。復習に力を入れることを望む。

授業科目名 算数科教育論B
 評価実施日 平成20年2月8日
 担当教員名 廣瀬 隆司

回答者数 113名

質問項目		評価選択人数						平均値 (科目別)
		5	4	3	2	1	N.A	
1 授業概要について	(1) 目標・授業計画・内容は、明確に示されていた。	28	42	27	9	7	0	3.7
	(2) 成績評価の方法は、明確に示されていた。	47	37	17	6	5	1	4.0
2 授業の内容等について	(3) 授業内容は、授業概要に沿っていた。	23	39	36	10	4	1	3.6
	(4) 授業内容は、教養や専門性を高めるものだった。	26	42	23	17	5	0	3.6
	(5) 授業内容は、教育に対する見方や考え方を学べるものだった。	24	42	31	11	5	0	3.6
	(6) 授業内容は、興味・関心を引くものだった。	21	33	30	13	15	1	3.3
3 あなたの授業への取り組みについて	(7) 授業によく出席した。	74	20	15	3	1	0	4.4
	(8) 授業内容をよく理解するために予習や復習をした。	15	21	41	19	17	0	3.0
	(9) 授業中に積極的に発言や質問をした。	13	8	42	23	27	0	2.6
	(10) 教員の説明をよく聞いた。	26	41	30	16	0	0	3.7
	(11) 分からないことや疑問に思ったことは調べた。	13	23	41	20	16	0	3.0
4 教員の授業の進め方について	(12) 学生の理解状況を確かめながら授業を行った。	18	29	32	24	10	0	3.2
	(13) 学生が参加しやすい授業だった。	20	34	30	18	11	0	3.3
	(14) 熱心に指導した。	57	31	18	6	1	0	4.2
	(15) 授業内容を分かりやすく説明した。	21	36	33	13	10	0	3.4
	(16) 教科書や配布資料等の教材は、内容を理解する上で適切だった。	28	34	31	15	5	0	3.6
	(17) 視聴覚機器及び教育用機器の利用は、適切だった。	16	24	37	23	11	2	3.1
	(18) 教員の声は、聞き取りやすかった。	58	27	16	10	1	1	4.2
	(19) 授業の進む速さは、適切だった。	21	34	34	20	4	0	3.4
5 授業に対する満足度	(20) この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。	19	33	26	24	11	0	3.2



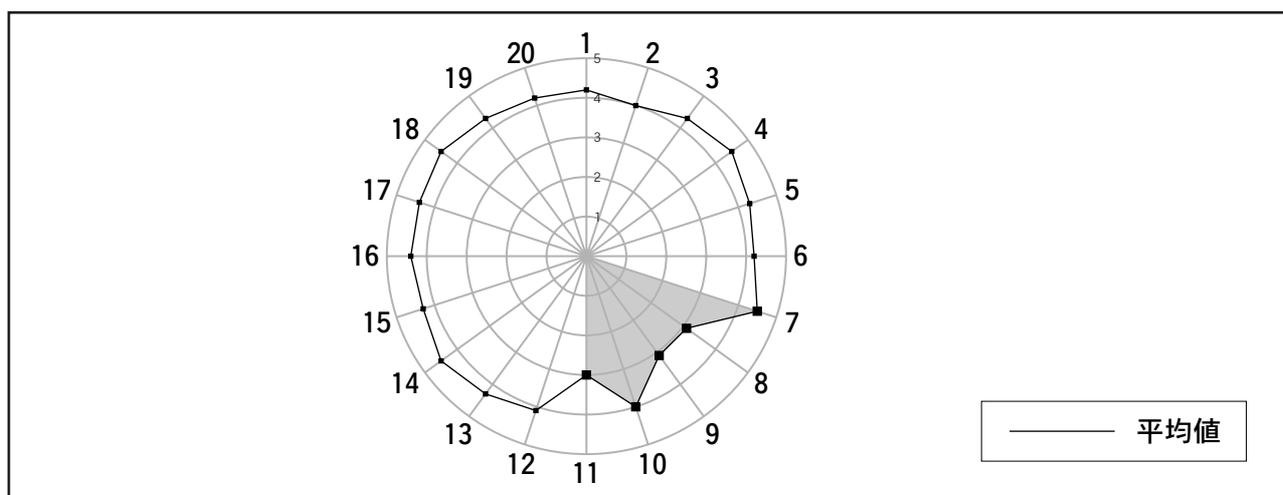
教員のコメント

授業当初1・2・3回に亘り、評価の観点等を記入したプリントを配布しているにもかかわらず、評価の観点がわからないとする学生がそこそこいるのには驚いた。出席状況、授業態度、レポートの提出状況は、良好であった。授業については、実践的な面から、指導を行った。しかし、授業内容の復習が不十分なためか、小テストや後期テストに的はずれた解答も多々あった。復習に力を入れることを望む。

授業科目名 図画工作科教育論A
 評価実施日 平成20年2月12日
 担当教員名 山田 芳明

回答者数 85名

質問項目		評価選択人数						平均値 (科目別)
		5	4	3	2	1	N.A	
1 授業概要について	(1) 目標・授業計画・内容は、明確に示されていた。	32	37	15	1	0	0	4.2
	(2) 成績評価の方法は、明確に示されていた。	33	26	22	4	0	0	4.0
2 授業の内容等について	(3) 授業内容は、授業概要に沿っていた。	38	35	11	0	0	1	4.3
	(4) 授業内容は、教養や専門性を高めるものだった。	51	25	7	2	0	0	4.5
	(5) 授業内容は、教育に対する見方や考え方を学べるものだった。	42	32	9	1	1	0	4.3
	(6) 授業内容は、興味・関心を引くものだった。	39	26	18	2	0	0	4.2
3 あなたの授業への取り組みについて	(7) 授業によく出席した。	51	24	9	1	0	0	4.5
	(8) 授業内容をよく理解するために予習や復習をした。	9	17	40	9	10	0	3.1
	(9) 授業中に積極的に発言や質問をした。	11	19	33	13	9	0	3.1
	(10) 教員の説明をよく聞いた。	26	37	19	3	0	0	4.0
	(11) 分からないことや疑問に思ったことは調べた。	11	15	34	14	10	1	3.0
4 教員の授業の進め方について	(12) 学生の理解状況を確認しながら授業を行った。	29	37	18	0	1	0	4.1
	(13) 学生が参加しやすい授業だった。	44	29	10	1	1	0	4.3
	(14) 熱心に指導した。	52	27	5	1	0	0	4.5
	(15) 授業内容を分かりやすく説明した。	41	31	12	1	0	0	4.3
	(16) 教科書や配布資料等の教材は、内容を理解する上で適切だった。	44	28	13	0	0	0	4.4
	(17) 視聴覚機器及び教育用機器の利用は、適切だった。	43	30	11	1	0	0	4.4
	(18) 教員の声は、聞き取りやすかった。	56	19	9	1	0	0	4.5
	(19) 授業の進む速さは、適切だった。	45	24	16	0	0	0	4.3
5 授業に対する満足度	(20) この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。	36	34	13	2	0	0	4.2



教員のコメント

本授業は85名という比較的多人数の授業である。

全般的に見ると、項目3-(8)、3-(9)、3-(11)が、平均で3ポイント台である以外は、4ポイント台であり、おおむね高い評価を得ていると読み取れた。

講義室がほぼいっぱいになるような多人数の授業で、4ポイントを超える評価を受けたことは、学生にとって有意義な授業だという評価だと受け止め、今後もさらに改善に努めたい。

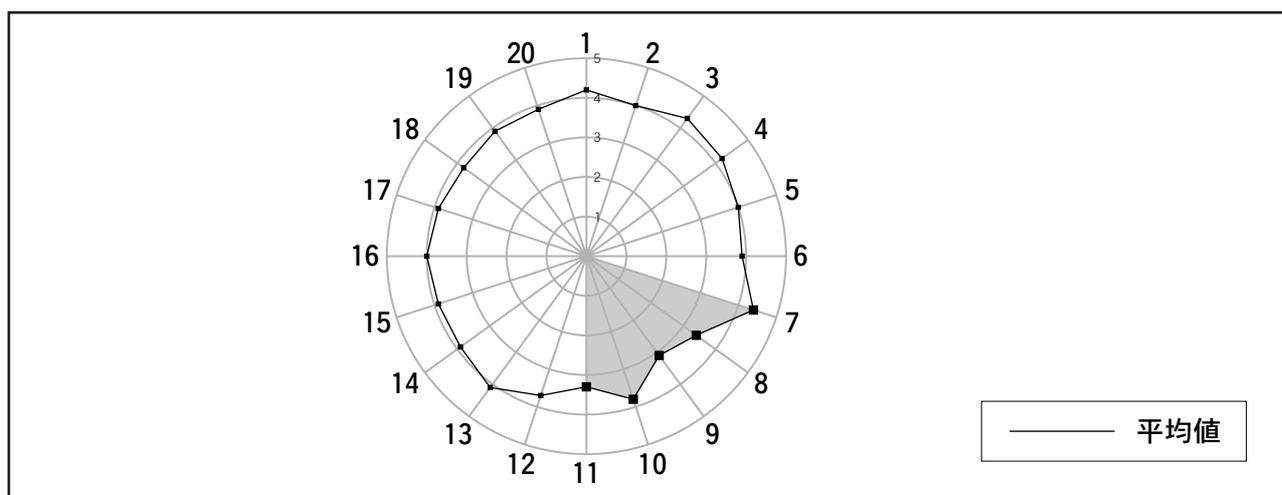
一方3ポイント台である3項目は、いずれも学生自身の授業への取組に関する設問である。それぞれの項目で「全くない」と答えている学生も10人前後おり、学生が授業内容に関して、「予習や復習を行っていない」「授業中に積極的に発言していない」「わからないことを調べていない」といった傾向があることがわかった。

学生自身の意志意欲に関わる項目ではあるが、より積極的に主体的に学習が進められるように、学習課題を示したり、発展学習の方向を示したりするなど、授業改善に努めたい。

授業科目名 初等家庭科教育論
 評価実施日 平成20年2月21日
 担当教員名 福井 典代, 鳥井 葉子

回答者数 147名

質問項目	評価選択人数	評価選択人数						平均値 (科目別)
		5	4	3	2	1	N.A	
1 授業概要について	(1) 目標・授業計画・内容は、明確に示されていた。	57	70	19	1	0	0	4.2
	(2) 成績評価の方法は、明確に示されていた。	42	69	35	0	1	0	4.0
2 授業の内容等について	(3) 授業内容は、授業概要に沿っていた。	60	69	17	1	0	0	4.3
	(4) 授業内容は、教養や専門性を高めるものだった。	61	59	25	2	0	0	4.2
	(5) 授業内容は、教育に対する見方や考え方を学べるものだった。	42	73	28	3	1	0	4.0
	(6) 授業内容は、興味・関心を引くものだった。	39	64	36	6	2	0	3.9
3 あなたの授業への取り組みについて	(7) 授業によく出席した。	83	45	14	4	1	0	4.4
	(8) 授業内容をよく理解するために予習や復習をした。	22	48	51	19	7	0	3.4
	(9) 授業中に積極的に発言や質問をした。	19	38	53	17	19	1	3.1
	(10) 教員の説明をよく聞いた。	36	60	42	8	1	0	3.8
	(11) 分からないことや疑問に思ったことは調べた。	21	44	52	19	11	0	3.3
4 教員の授業の進め方について	(12) 学生の理解状況を確認しながら授業を行った。	33	59	41	12	2	0	3.7
	(13) 学生が参加しやすい授業だった。	52	60	29	5	1	0	4.1
	(14) 熱心に指導した。	46	55	37	7	2	0	3.9
	(15) 授業内容を分かりやすく説明した。	39	61	38	9	0	0	3.9
	(16) 教科書や配布資料等の教材は、内容を理解する上で適切だった。	44	58	39	6	0	0	4.0
	(17) 視聴覚機器及び教育用機器の利用は、適切だった。	41	52	48	6	0	0	3.9
	(18) 教員の声は、聞き取りやすかった。	53	35	39	16	4	0	3.8
	(19) 授業の進む速さは、適切だった。	41	58	43	5	0	0	3.9
5 授業に対する満足度	(20) この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。	34	67	36	5	3	2	3.9



教員のコメント

一昨年度の学生による授業評価の結果から、「学習指導案作成の詳細な指導」、「グループ編成と模擬授業時間の設定」、「学習指導案を作成する試験の意図の明確化」の3点の改善点を配慮して昨年度の授業を実施した。

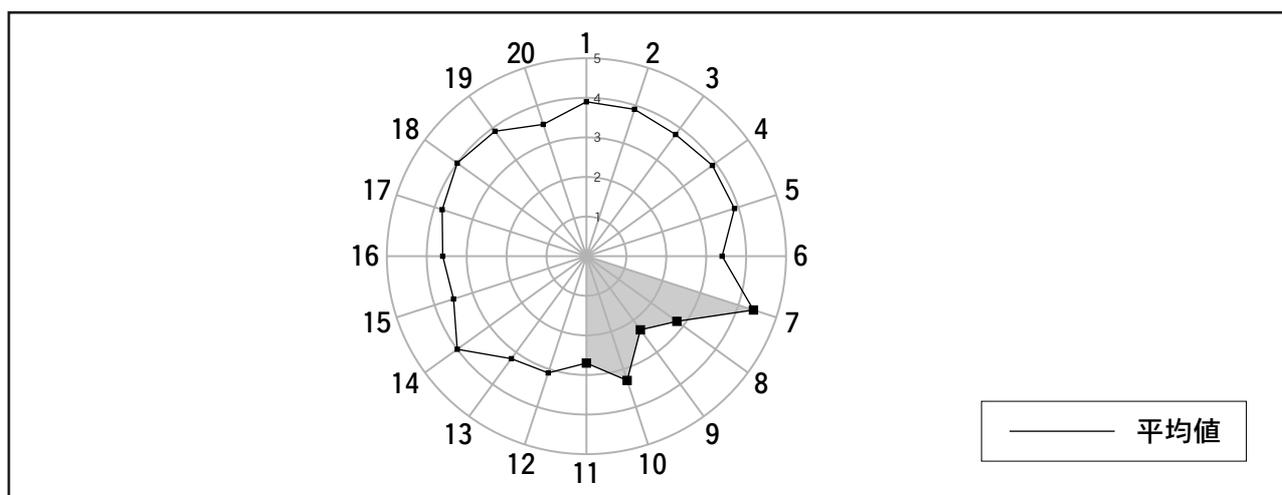
その結果、自由記述による肯定的な意見として、「家庭科に対する苦手意識がなくなった」2名、「身近なことが題材となっている」4名、「模擬授業ができたこと」26名、「実践的な内容」3名、「グループ活動により他講座の学生と交流を持てたこと」2名、「家庭科が生活に密着したものであること」3名、「先生が授業のお手本をしたこと」2名、「様々な実験をすることができた」4名、「教科書に沿って授業を行ったこと」1名、「指導案の作り方」9名、「学生が主体となって動く授業」1名、「ミニ指導案がよかった」1名、「家庭科の知識を理解できたこと」2名であった。

授業の改善点として、「模擬授業の時間を長くして欲しい」1名、「班の中にほとんど何もしていない人がいること」1名、「模擬授業に対する評価を多くして欲しい」2名、「多くの実験を取り入れて欲しい」1名、「授業時間をオーバーしないで欲しい」2名、「テストで学習指導案を書かせる意義」2名、「学生の理解度を見ながら授業をして欲しい」1名、「グループ分けの方法」1名、「席の間隔が狭い」3名、「出席の取り方」1名、「人数が多すぎる」1名であった。

授業科目名 道徳教育指導論A
 評価実施日 平成20年2月12日
 担当教員名 兼松 儀郎

回答者数 107名

質問項目	評価選択人数	評価選択人数						平均値 (科目別)
		5	4	3	2	1	N.A	
1 授業概要について	(1) 目標・授業計画・内容は、明確に示されていた。	22	56	25	3	1	0	3.9
	(2) 成績評価の方法は、明確に示されていた。	26	47	29	5	0	0	3.9
2 授業の内容等について	(3) 授業内容は、授業概要に沿っていた。	22	50	31	2	2	0	3.8
	(4) 授業内容は、教養や専門性を高めるものだった。	33	42	25	7	0	0	3.9
	(5) 授業内容は、教育に対する見方や考え方を学べるものだった。	33	42	25	5	2	0	3.9
	(6) 授業内容は、興味・関心を引くものだった。	12	36	39	18	2	0	3.4
3 あなたの授業への取り組みについて	(7) 授業によく出席した。	65	26	13	2	1	0	4.4
	(8) 授業内容をよく理解するために予習や復習をした。	3	23	46	22	13	0	2.8
	(9) 授業中に積極的に発言や質問をした。	2	7	36	33	28	1	2.3
	(10) 教員の説明をよく聞いた。	7	41	44	11	4	0	3.3
	(11) 分からないことや疑問に思ったことは調べた。	6	12	50	22	17	0	2.7
4 教員の授業の進め方について	(12) 学生の理解状況を確認しながら授業を行った。	3	34	45	21	4	0	3.1
	(13) 学生が参加しやすい授業だった。	8	37	38	18	6	0	3.2
	(14) 熱心に指導した。	34	45	22	5	1	0	4.0
	(15) 授業内容を分かりやすく説明した。	14	38	45	9	1	0	3.5
	(16) 教科書や配布資料等の教材は、内容を理解する上で適切だった。	23	35	34	15	0	0	3.6
	(17) 視聴覚機器及び教育用機器の利用は、適切だった。	30	36	36	4	1	0	3.8
	(18) 教員の声は、聞き取りやすかった。	33	43	26	3	2	0	4.0
	(19) 授業の進む速さは、適切だった。	33	31	38	4	1	0	3.9
5 授業に対する満足度	(20) この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。	12	45	39	9	2	0	3.5



教員のコメント

履修者数の増加にともない、平成19年度は、学部1年次生と大学院生との2クラスに分けて授業を行った。授業評価は、学部1年次生のクラスについて行った。

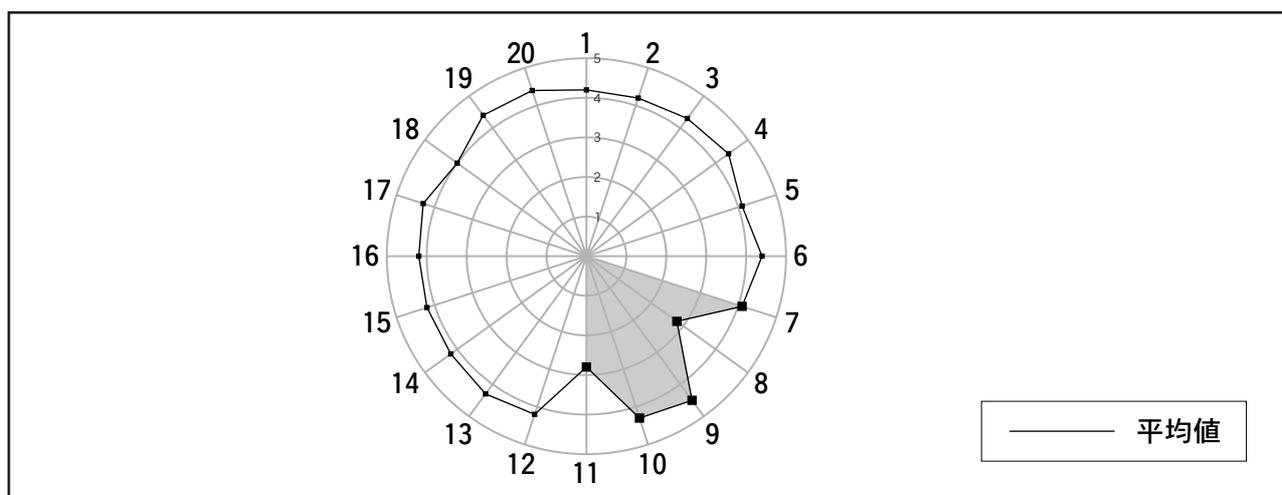
平均値からみて評価の高い項目は、「授業によく出席した。」「熱心に指導した。」「教員の声は、聞き取りやすかった。」であった。評価の低い項目は、「授業中に積極的に発言や質問をした。」「分からないことや疑問に思ったことは調べた。」「授業内容をよく理解するために予習や復習をした。」であった。概して、授業への出席状況はよく、また、ふだんの課題の提出状況もよいのであるが、学生自身の問題意識を喚起し、主体的な探究へと促すような授業内容・授業方法が課題となった。

自由記述では、道徳教育についての考え方を理解できたこと、実際に学習指導案を作成したことなどについてはよかったという意見が多かった。また、筆記試験について、試験の準備をすることによって、授業内容の全体を整理し、道徳教育に関する基礎的知識を身に付ける機会となったという感想があった。

授業科目名 保育内容（表現Ⅱ）
 評価実施日 平成20年2月8日
 担当教員名 山木 朝彦

回答者数 18名

質問項目	評価選択人数	評価選択人数						平均値 (科目別)
		5	4	3	2	1	N.A	
1 授業概要について	(1) 目標・授業計画・内容は、明確に示されていた。	7	8	3	0	0	0	4.2
	(2) 成績評価の方法は、明確に示されていた。	6	9	3	0	0	0	4.2
2 授業の内容等について	(3) 授業内容は、授業概要に沿っていた。	8	7	3	0	0	0	4.3
	(4) 授業内容は、教養や専門性を高めるものだった。	12	3	2	1	0	0	4.4
	(5) 授業内容は、教育に対する見方や考え方を学べるものだった。	9	4	3	1	1	0	4.1
	(6) 授業内容は、興味・関心を引くものだった。	11	4	3	0	0	0	4.4
3 あなたの授業への取り組みについて	(7) 授業によく出席した。	8	6	1	3	0	0	4.1
	(8) 授業内容をよく理解するために予習や復習をした。	1	4	6	5	2	0	2.8
	(9) 積極的に実験、実習、実技等に取り組んだ。	11	5	2	0	0	0	4.5
	(10) 教員の説明をよく聞いた。	8	8	2	0	0	0	4.3
	(11) 分からないことや疑問に思ったことは調べた。	2	2	8	3	3	0	2.8
4 教員の授業の進め方について	(12) 学生の理解状況を確認しながら授業を行った。	9	4	4	1	0	0	4.2
	(13) 熱心に指導した。	9	6	3	0	0	0	4.3
	(14) 授業内容を分かりやすく説明した。	8	6	4	0	0	0	4.2
	(15) 教科書や配布資料等の教材は、内容を理解する上で適切だった。	8	6	3	1	0	0	4.2
	(16) 設備、器材、用具等の利用は、適切だった。	7	8	3	0	0	0	4.2
	(17) 教員の声は、聞き取りやすかった。	11	4	2	0	1	0	4.3
	(18) 与えられた課題のレベルや分量は、適切だった。	5	9	3	1	0	0	4.0
	(19) 安全に対する指導と配慮は、適切だった。	11	4	3	0	0	0	4.4
5 授業に対する満足度	(20) この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。	9	7	2	0	0	0	4.4



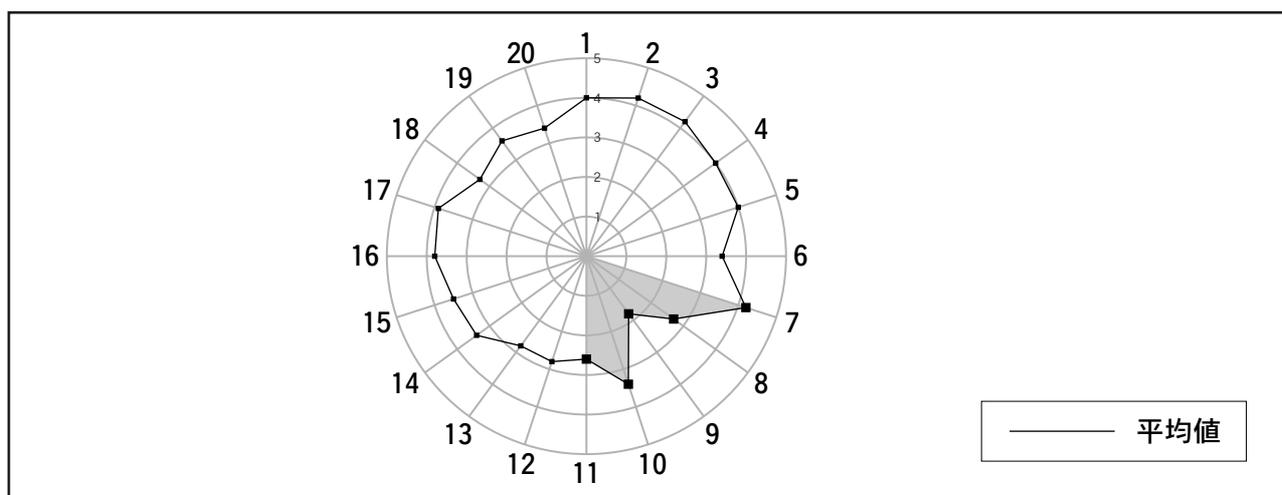
教員のコメント

ほとんどの項目が4.0以上の評価なので、授業の内容・方法面において偏り無く展開できていると思う。ただし、得点が際立って低い項目が二つあることが、レーダー型グラフから明らかである。それは、受講者自身の取り組みについて尋ねたパートの、「授業内容をよく理解するために予習や復習をした」と「分からないことや疑問に思ったことは調べた」という項目である。いずれも、本学の学部教育上、何年もの間、課題となっている項目であり、それがそのまま生の形で、私の授業評価に姿を表してしまったことについては、反省せざるを得ない。対応策としては、授業開始時に小テストを行うという案と、宿題を課す案が考えられる。前者は実技をふんだんに取り入れる趣旨のこの授業にとって、時間を圧迫するという問題があり、後者について言えば、ただでさえ弱い主体的な学びの姿勢をさらに弱めてしまうのではないかとこの危惧がある。しかし、本来、学びは授業の中だけで完結するものではなく、教室外での学習環境のなかで授業内容を復習し発展させる学習こそが肝要である。このことを重視し、小テストや宿題を課す方向で次年度の授業を構想したいと思う。

授業科目名 授業研究論
 評価実施日 平成20年3月3日
 担当教員名 小野瀬雅人

回答者数 69名

質 問 項 目		評価選択人数						平均値 (科目別)
		5	4	3	2	1	N.A	
1 授業概要について	(1) 目標・授業計画・内容は、明確に示されていた。	18	37	11	3	0	0	4.0
	(2) 成績評価の方法は、明確に示されていた。	27	30	10	1	1	0	4.2
2 授業の内容等について	(3) 授業内容は、授業概要に沿っていた。	27	33	8	1	0	0	4.2
	(4) 授業内容は、教養や専門性を高めるものだった。	18	35	13	2	1	0	4.0
	(5) 授業内容は、教育に対する見方や考え方を学べるものだった。	23	27	16	1	2	0	4.0
	(6) 授業内容は、興味・関心を引くものだった。	13	17	27	9	3	0	3.4
3 あなたの授業への取り組みについて	(7) 授業によく出席した。	31	28	6	3	1	0	4.2
	(8) 授業内容をよく理解するために予習や復習をした。	5	11	25	14	14	0	2.7
	(9) 授業中に積極的に発言や質問をした。	2	4	12	13	38	0	1.8
	(10) 教員の説明をよく聞いた。	8	28	22	9	2	0	3.4
	(11) 分からないことや疑問に思ったことは調べた。	3	9	28	16	13	0	2.6
4 教員の授業の進め方について	(12) 学生の理解状況を確認しながら授業を行った。	5	13	21	22	8	0	2.8
	(13) 学生が参加しやすい授業だった。	6	12	22	19	10	0	2.8
	(14) 熱心に指導した。	10	22	27	8	2	0	3.4
	(15) 授業内容を分かりやすく説明した。	11	23	24	9	2	0	3.5
	(16) 教科書や配布資料等の教材は、内容を理解する上で適切だった。	17	30	16	3	2	1	3.8
	(17) 視聴覚機器及び教育用機器の利用は、適切だった。	21	28	16	3	1	0	3.9
	(18) 教員の声は、聞き取りやすかった。	7	26	20	14	2	0	3.3
	(19) 授業の進む速さは、適切だった。	9	30	25	4	1	0	3.6
5 授業に対する満足度	(20) この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。	9	24	23	10	3	0	3.4



教員のコメント

本科目は学部3・4年生が主対象であるが、受講生数は99名と多い。その理由は、長期履修の大学院生、現職教師の大学院生が半数近くを占めるからである。したがって、学習履歴や経験の多様さが、本科目の授業を進めるにあたって大きな課題となっている。

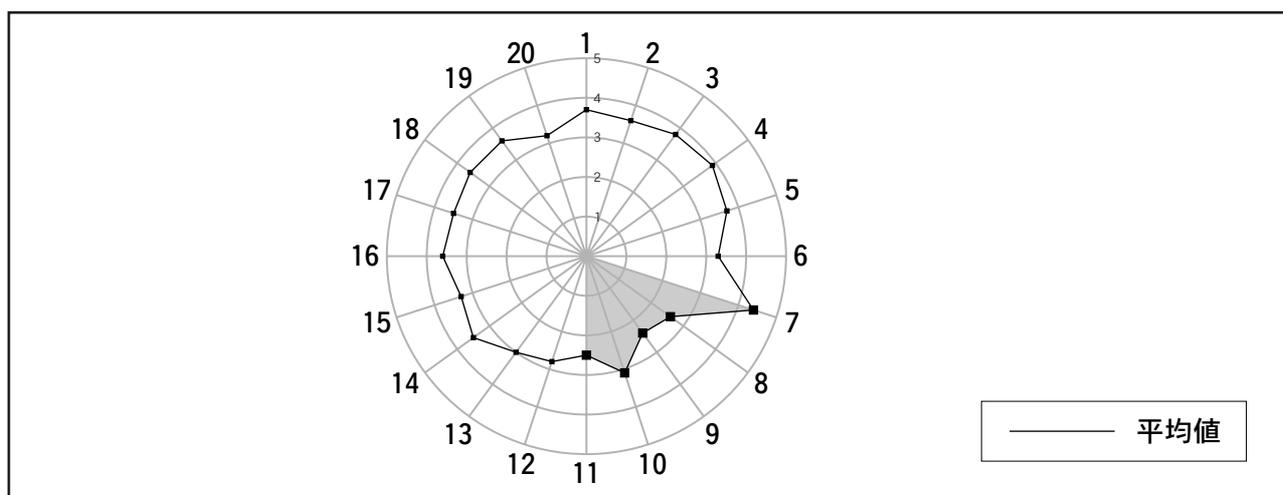
授業評価の平均値をみると授業概要、授業内容については比較的高い評価を得ている。しかし、授業内容の興味・関心や教員の授業の進め方についての平均値はやや低い。このあたりに受講生の多様性の影響が見て取れる。学部生、大学院生、現職に区分した集計結果があれば、望ましい改善策もみえてくるのではないと思われる。

自由記述の評価内容を見ると、学生自身の授業への取り組み方と関連がみられた。とくに授業への取り組み方の評価値が低い学生では、講義の聴き方のスキルが身についていないせいか、教員の話し方のリズムを変えて欲しい、学生参加の活動を入れて欲しい、具体例をもっと示して欲しい、といった記述がみられた。講義や演習等、大学における授業スタイルの理解とそれに応じた授業の受け方、すなわち、「スタディ・スキル」を大学入学後初期の段階で学生に修得させる必要がある。

授業科目名 生徒指導論（進路指導を含む。）A
 評価実施日 平成20年1月22日
 担当教員名 山下 一夫，葛上 秀文

回答者数 92名

質問項目	評価選択人数						平均値 (科目別)	
	5	4	3	2	1	N.A		
1 授業概要について	(1) 目標・授業計画・内容は、明確に示されていた。	16	39	29	6	2	0	3.7
	(2) 成績評価の方法は、明確に示されていた。	16	31	38	7	0	0	3.6
2 授業の内容等について	(3) 授業内容は、授業概要に沿っていた。	15	48	26	3	0	0	3.8
	(4) 授業内容は、教養や専門性を高めるものだった。	21	45	19	6	1	0	3.9
	(5) 授業内容は、教育に対する見方や考え方を学べるものだった。	18	40	27	5	2	0	3.7
	(6) 授業内容は、興味・関心を引くものだった。	8	35	28	15	6	0	3.3
3 あなたの授業への取り組みについて	(7) 授業によく出席した。	54	23	14	1	0	0	4.4
	(8) 授業内容をよく理解するために予習や復習をした。	4	14	33	26	15	0	2.6
	(9) 授業中に積極的に発言や質問をした。	5	9	28	24	26	0	2.4
	(10) 教員の説明をよく聞いた。	5	25	43	15	4	0	3.1
	(11) 分からないことや疑問に思ったことは調べた。	5	14	24	32	17	0	2.5
4 教員の授業の進め方について	(12) 学生の理解状況を確かめながら授業を行った。	4	14	46	20	8	0	2.8
	(13) 学生が参加しやすい授業だった。	8	17	39	21	7	0	3.0
	(14) 熱心に指導した。	14	33	30	12	3	0	3.5
	(15) 授業内容を分かりやすく説明した。	11	31	34	11	5	0	3.3
	(16) 教科書や配布資料等の教材は、内容を理解する上で適切だった。	12	39	33	5	3	0	3.6
	(17) 視聴覚機器及び教育用機器の利用は、適切だった。	14	29	42	4	3	0	3.5
	(18) 教員の声は、聞き取りやすかった。	19	32	32	4	5	0	3.6
	(19) 授業の進む速さは、適切だった。	14	34	38	4	2	0	3.6
5 授業に対する満足度	(20) この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。	8	25	44	9	5	1	3.2



教員のコメント

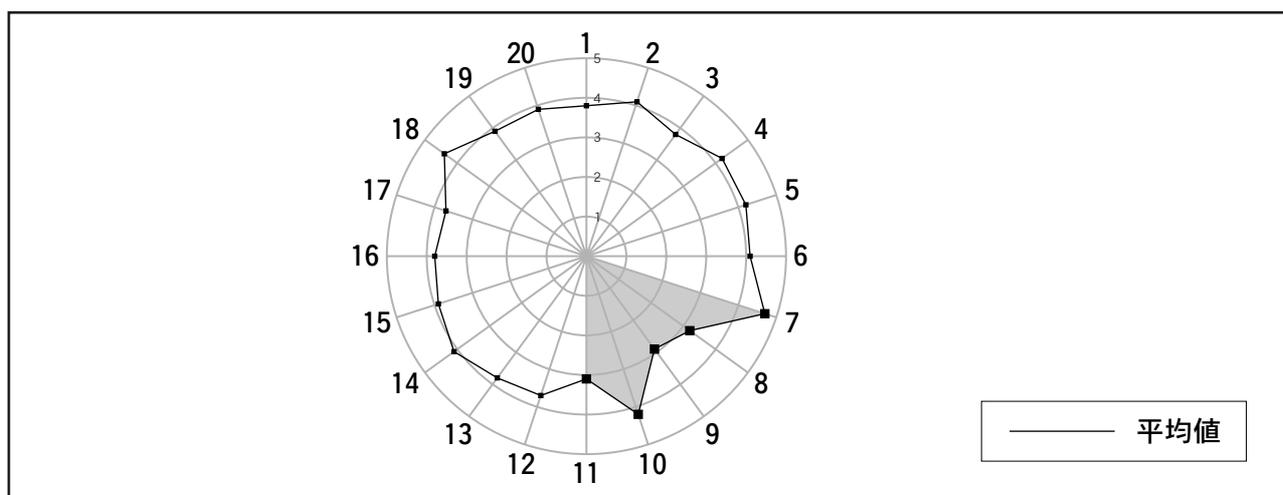
必修の授業で2名の教員が担当している。学生の授業の満足度（問20）は、この数年で大きな変化が見られた。平成16年度は4.0点（115人）と非常に高得点であった。しかし、大学院の長期履修生が受講するようになった17年度は3.6点（156人）、18年度は3.3点（147人）と急速に低下した。これは交流のない2つの集団が多数で受講しているからではないかと考え、今年度（19年）は学部2年生と長期履修生（学部3年生以上を含む）とに分け、「生徒指導論A」「生徒指導論B」を開講した。その結果、基本的に同じ授業内容や方法であったが、学部2年生の満足度は3.2点（92人）、長期履修生は3.9点（51人）と大きな差が見られた。

今年度、一部の学部2年生は最初の授業の時から受講態度が悪く、注意すると、ただ座っているだけのように思える者もいた。全体としても勉強に対する覇気があまり感じられなかった。学生を批判するだけでなく、大学教員も叱り方を含めまさに生徒（学生）指導の技量を常に磨き、教員同士が連携し対策を講じる必要があると反省させられた。

授業科目名 生徒指導論（進路指導を含む。）B
 評価実施日 平成20年1月22日
 担当教員名 山下 一夫，葛上 秀文

回答者数 51名

質問項目	評価選択人数	評価選択人数						平均値 (科目別)
		5	4	3	2	1	N.A	
1 授業概要について	(1) 目標・授業計画・内容は、明確に示されていた。	8	28	14	1	0	0	3.8
	(2) 成績評価の方法は、明確に示されていた。	16	24	10	1	0	0	4.1
2 授業の内容等について	(3) 授業内容は、授業概要に沿っていた。	9	24	15	3	0	0	3.8
	(4) 授業内容は、教養や専門性を高めるものだった。	19	24	6	1	1	0	4.2
	(5) 授業内容は、教育に対する見方や考え方を学べるものだった。	20	23	7	1	0	0	4.2
	(6) 授業内容は、興味・関心を引くものだった。	21	18	10	1	1	0	4.1
3 あなたの授業への取り組みについて	(7) 授業によく出席した。	40	7	3	1	0	0	4.7
	(8) 授業内容をよく理解するために予習や復習をした。	9	10	18	10	4	0	3.2
	(9) 授業中に積極的に発言や質問をした。	9	5	18	11	8	0	2.9
	(10) 教員の説明をよく聞いた。	23	17	10	0	1	0	4.2
	(11) 分からないことや疑問に思ったことは調べた。	8	9	20	9	5	0	3.1
4 教員の授業の進め方について	(12) 学生の理解状況を確かめながら授業を行った。	10	23	14	3	1	0	3.7
	(13) 学生が参加しやすい授業だった。	13	20	13	4	1	0	3.8
	(14) 熱心に指導した。	19	19	12	1	0	0	4.1
	(15) 授業内容を分かりやすく説明した。	13	22	13	2	1	0	3.9
	(16) 教科書や配布資料等の教材は、内容を理解する上で適切だった。	10	24	13	4	0	0	3.8
	(17) 視聴覚機器及び教育用機器の利用は、適切だった。	12	18	17	4	0	0	3.7
	(18) 教員の声は、聞き取りやすかった。	25	20	6	0	0	0	4.4
	(19) 授業の進む速さは、適切だった。	17	16	15	3	0	0	3.9
5 授業に対する満足度	(20) この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。	14	22	13	2	0	0	3.9



教員のコメント

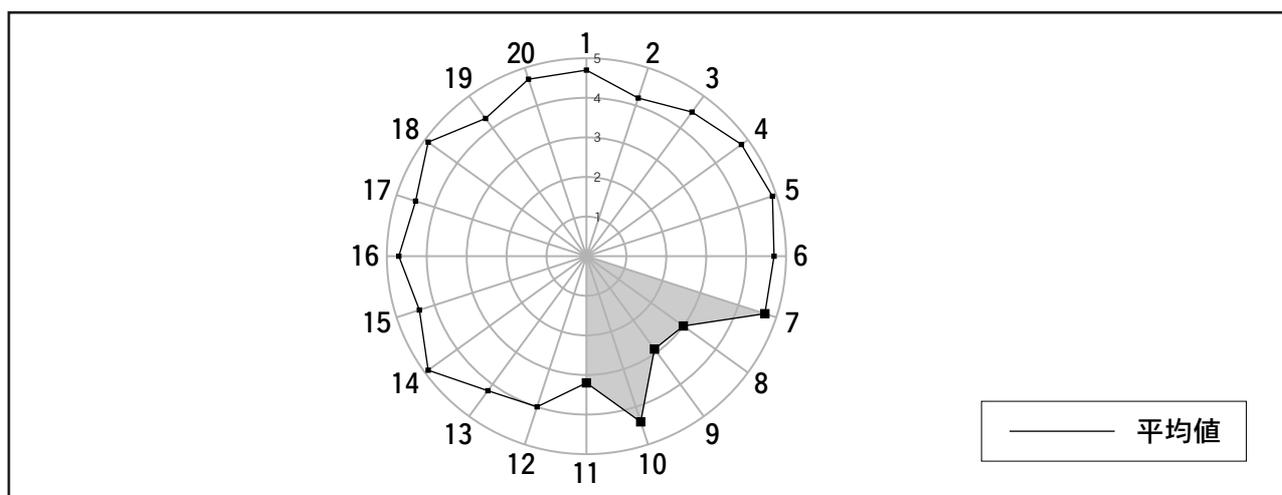
必修の授業で2名の教員が担当している。学生の授業の満足度（問20）は、この数年で大きな変化が見られた。平成16年度は4.0点（115人）と非常に高得点であった。しかし、大学院の長期履修生が受講するようになった17年度は3.6点（156人）、18年度は3.3点（147人）と急速に低下した。これは交流のない2つの集団が多数で受講しているからではないかと考え、今年度（19年）は学部2年生と長期履修生（学部3年生以上を含む）とに分け、「生徒指導論A」「生徒指導論B」を開講した。その結果、基本的に同じ授業内容や方法であったが、学部2年生の満足度は3.2点（92人）、長期履修生は3.9点（51人）と大きな差が見られた。

今年度、長期履修生は徐々に授業に積極的に関与しようとする姿勢が見られた。例えば、「問10. 教員の説明をよく聞いた」は4.2点と非常に高い値である。ちなみに、学部2年生は3.1点である。

授業科目名 中等社会科教育論
 評価実施日 平成20年2月28日
 担当教員名 梅津 正美

回答者数 29名

質問項目	評価選択人数						平均値 (科目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
1 授業概要について	(1) 目標・授業計画・内容は、明確に示されていた。	20	9	0	0	0	4.7
	(2) 成績評価の方法は、明確に示されていた。	12	11	5	1	0	4.2
2 授業の内容等について	(3) 授業内容は、授業概要に沿っていた。	17	10	2	0	0	4.5
	(4) 授業内容は、教養や専門性を高めるものだった。	24	4	1	0	0	4.8
	(5) 授業内容は、教育に対する見方や考え方を学べるものだった。	27	1	1	0	0	4.9
	(6) 授業内容は、興味・関心を引くものだった。	20	8	1	0	0	4.7
3 あなたの授業への取り組みについて	(7) 授業によく出席した。	21	6	2	0	0	4.7
	(8) 授業内容をよく理解するために予習や復習をした。	2	5	15	4	3	3.0
	(9) 授業中に積極的に発言や質問をした。	1	6	13	7	2	2.9
	(10) 教員の説明をよく聞いた。	14	12	3	0	0	4.4
	(11) 分からないことや疑問に思ったことは調べた。	5	5	12	5	2	3.2
4 教員の授業の進め方について	(12) 学生の理解状況を確認しながら授業を行った。	9	14	4	2	0	4.0
	(13) 学生が参加しやすい授業だった。	10	15	4	0	0	4.2
	(14) 熱心に指導した。	25	4	0	0	0	4.9
	(15) 授業内容を分かりやすく説明した。	15	10	4	0	0	4.4
	(16) 教科書や配布資料等の教材は、内容を理解する上で適切だった。	22	5	2	0	0	4.7
	(17) 視聴覚機器及び教育用機器の利用は、適切だった(模擬授業含む)。	17	8	2	1	0	4.5
	(18) 教員の声は、聞き取りやすかった。	27	1	1	0	0	4.9
	(19) 授業の進む速さは、適切だった。	12	13	4	0	0	4.3
5 授業に対する満足度	(20) この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。	21	7	1	0	0	4.7



教員のコメント

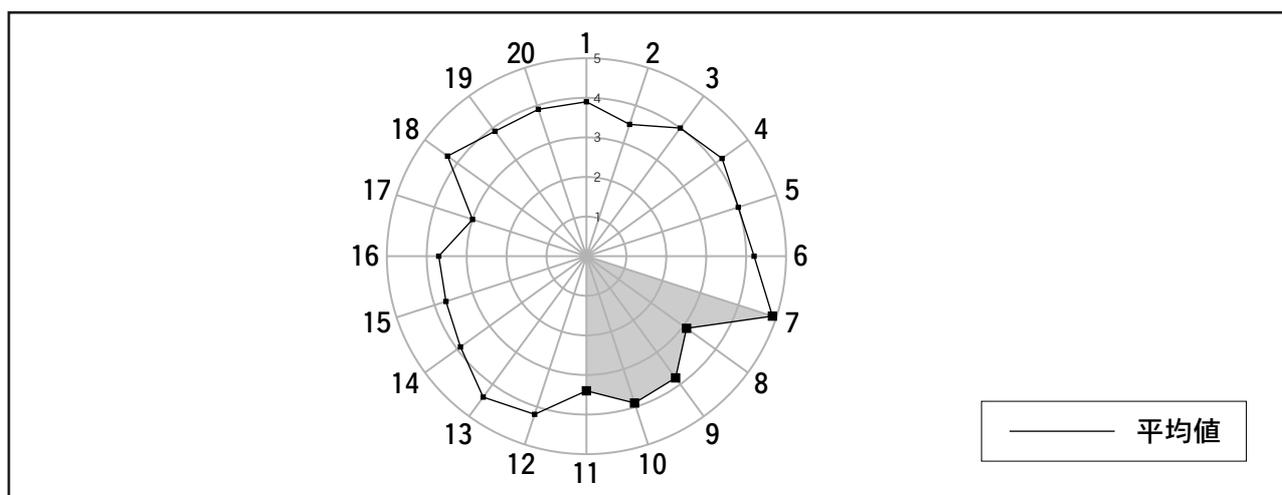
本授業では、中学校社会科の実践（教科内容編成・授業・テスト問題等）から事例を引きながら、市民性育成を観点に、社会科教育の内容・方法・評価について講じた。受講生は、1年次生と長期プログラム院生とが中心ということもあり、講義担当者は模擬授業を組み込むなどして、実践をもとに理論を説明し理解を促すことに努めた。

本授業に対する20項目の評価の平均値は4.4、授業全体に対する学生の満足度を示す項目(20)の平均値は4.7であり、授業全体に対して概ね良好な評価を得ることができた。授業の内容に関わる項目(3)(4)(5)(6)の平均値は4.7、授業の展開・態度に関わる項目(12)(13)(14)(15)(16)(17)(18)(19)の平均値は4.5であった。これに対して、学生の授業への取組に関わる項目(7)(8)(9)(10)(11)の平均値は3.6であり、相対的に低くなった。学生たちが、よく授業に出席しながら、予習・復習が十分できていない、あるいは発言や質問が十分できていないという学生の学習の姿が浮き彫りになった。授業担当者の側で、模擬授業に対する合評会を組み込んだり、自己の社会科授業観を発表させ学生同士の議論を促す学習を展開したりして、学生の主体的な学習を促すよう努めたが、「授業への取組」に対する学生の自己評価は芳しくなかった。次年度以降も学生の主体的・積極的な学習を促す授業展開を工夫したい。

授業科目名 社会科・公民科教材論
 評価実施日 平成20年2月5日
 担当教員名 西村 公孝

回答者数 11名

質問項目	評価選択人数						平均値 (科目別)	
	5	4	3	2	1	N.A		
1 授業概要について	(1) 目標・授業計画・内容は、明確に示されていた。	2	7	1	1	0	0	3.9
	(2) 成績評価の方法は、明確に示されていた。	2	4	2	3	0	0	3.5
2 授業の内容等について	(3) 授業内容は、授業概要に沿っていた。	3	5	3	0	0	0	4.0
	(4) 授業内容は、教養や専門性を高めるものだった。	4	5	2	0	0	0	4.2
	(5) 授業内容は、教育に対する見方や考え方を学べるものだった。	4	4	2	1	0	0	4.0
	(6) 授業内容は、興味・関心を引くものだった。	4	5	2	0	0	0	4.2
3 あなたの授業への取り組みについて	(7) 授業によく出席した。	10	1	0	0	0	0	4.9
	(8) 授業内容をよく理解するために予習や復習をした。	2	2	4	1	2	0	3.1
	(9) 授業中に積極的に発言や質問をした。	3	4	3	1	0	0	3.8
	(10) 教員の説明をよく聞いた。	3	5	2	1	0	0	3.9
	(11) 分からないことや疑問に思ったことは調べた。	1	4	4	2	0	0	3.4
4 教員の授業の進め方について	(12) 学生の理解状況を確認しながら授業を行った。	2	9	0	0	0	0	4.2
	(13) 学生が参加しやすい授業だった。	4	7	0	0	0	0	4.4
	(14) 熱心に指導した。	3	6	0	2	0	0	3.9
	(15) 授業内容を分かりやすく説明した。	2	4	5	0	0	0	3.7
	(16) 教科書や配布資料等の教材は、内容を理解する上で適切だった。	1	6	4	0	0	0	3.7
	(17) 視聴覚機器及び教育用機器の利用は、適切だった。	0	2	6	0	1	2	3.0
	(18) 教員の声は、聞き取りやすかった。	4	6	1	0	0	0	4.3
	(19) 授業の進む速さは、適切だった。	4	3	3	1	0	0	3.9
5 授業に対する満足度	(20) この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。	2	6	3	0	0	0	3.9



教員のコメント

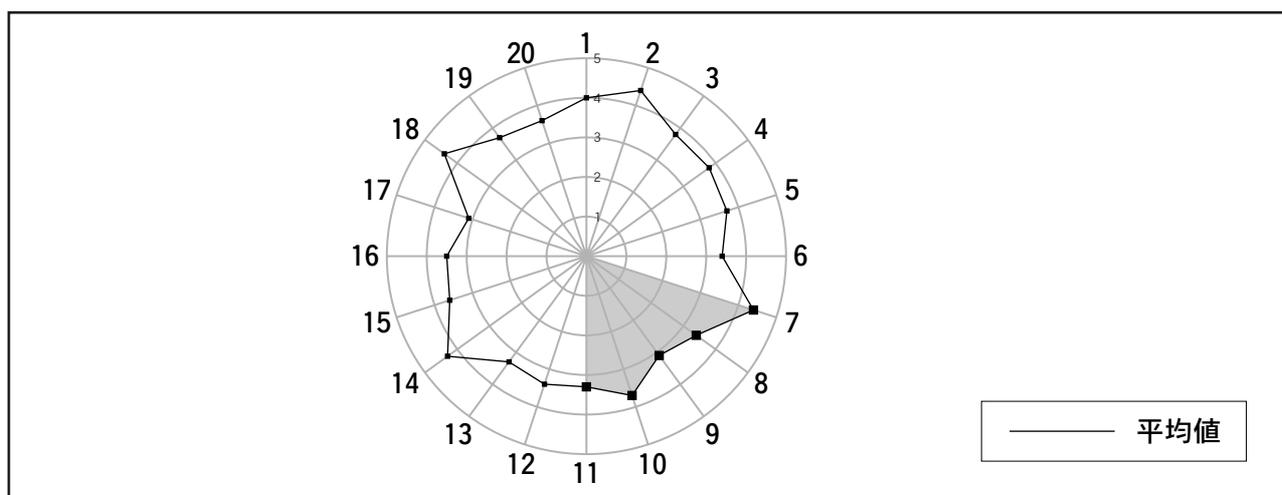
社会科・公民科教材論は、公民科教育論の講義の成果を活用して中学校社会科公民的分野及び高等学校公民科の教材を開発できる力量を育成する授業である。しかし、4年生の後期での授業展開ではさまざまな問題が生じるために、本年度の学生から開講年次を3年生後期にした。

授業に対する満足度は3.9であり半数以上の評価項目で4.0以上の数値を示している。おおむね授業の目的は達成されたと思われる。評価の低い項目に「授業内容をよく理解するために予習や復習をした。」3.1、「分からないことや疑問に思ったことは調べた。」3.4など受講生が積極的に取り組んでいない現状がある。身近な生活から話材を開発し授業展開に活用する課題に取り組んだ成果としては反省の残るところである。来年度の授業改善の参考としたい。

授業科目名 数学科教育論
 評価実施日 平成20年2月12日
 担当教員名 廣瀬 隆司

回答者数 25名

質問項目	評価選択人数						平均値 (科目別)	
	5	4	3	2	1	N.A		
1 授業概要について	(1) 目標・授業計画・内容は、明確に示されていた。	10	8	4	3	0	0	4.0
	(2) 成績評価の方法は、明確に示されていた。	14	8	2	1	0	0	4.4
2 授業の内容等について	(3) 授業内容は、授業概要に沿っていた。	5	12	5	3	0	0	3.8
	(4) 授業内容は、教養や専門性を高めるものだった。	7	10	6	1	1	0	3.8
	(5) 授業内容は、教育に対する見方や考え方を学べるものだった。	7	8	6	4	0	0	3.7
	(6) 授業内容は、興味・関心を引くものだった。	5	10	4	3	3	0	3.4
3 あなたの授業への取り組みについて	(7) 授業によく出席した。	14	8	1	2	0	0	4.4
	(8) 授業内容をよく理解するために予習や復習をした。	3	8	10	4	0	0	3.4
	(9) 授業中に積極的に発言や質問をした。	3	6	8	6	2	0	3.1
	(10) 教員の説明をよく聞いた。	6	7	11	1	0	0	3.7
	(11) 分からないことや疑問に思ったことは調べた。	3	8	8	6	0	0	3.3
4 教員の授業の進め方について	(12) 学生の理解状況を確かめながら授業を行った。	4	6	12	2	1	0	3.4
	(13) 学生が参加しやすい授業だった。	4	5	11	4	1	0	3.3
	(14) 熱心に指導した。	12	9	3	1	0	0	4.3
	(15) 授業内容を分かりやすく説明した。	5	9	9	1	1	0	3.6
	(16) 教科書や配布資料等の教材は、内容を理解する上で適切だった。	5	9	6	4	1	0	3.5
	(17) 視聴覚機器及び教育用機器の利用は、適切だった。	3	6	7	5	2	2	3.1
	(18) 教員の声は、聞き取りやすかった。	15	6	3	1	0	0	4.4
	(19) 授業の進む速さは、適切だった。	7	6	10	2	0	0	3.7
5 授業に対する満足度	(20) この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。	5	9	8	2	1	0	3.6



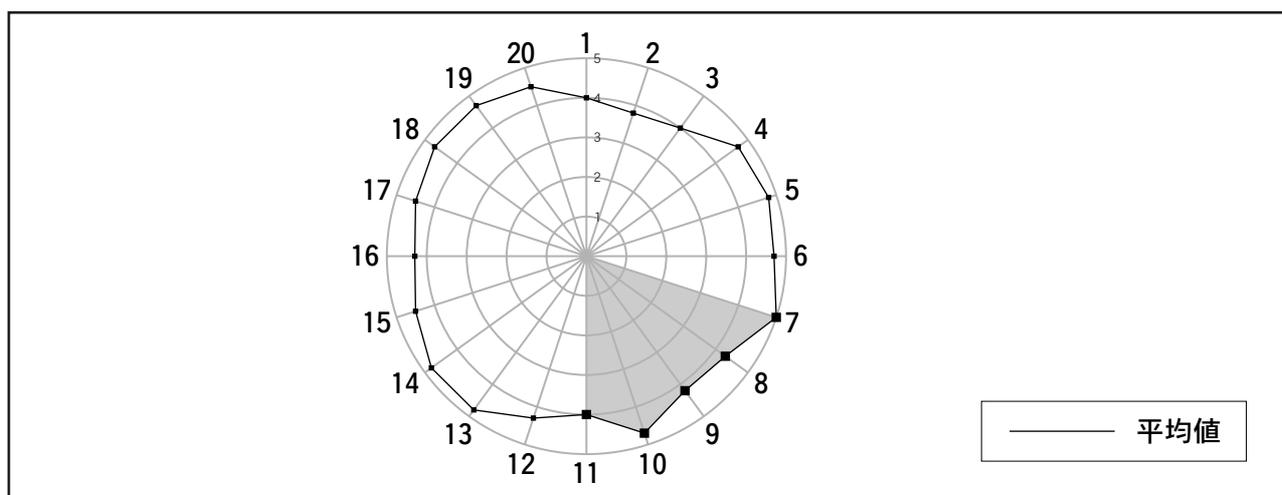
教員のコメント

出席率は良かった。また、授業中の態度も良かった。しかし、復習をしていないせいか、学習内容の定着が、少し悪かった。実践的な内容については、興味を持って取り組んでいた。もう少し、覇気がほしかったと思われる。

授業科目名 美術科授業論
 評価実施日 平成20年1月31日
 担当教員名 山木 朝彦

回答者数 6名

質問項目	評価選択人数						平均値 (科目別)	
	5	4	3	2	1	N.A		
1 授業概要について	(1) 目標・授業計画・内容は、明確に示されていた。	1	4	1	0	0	0	4.0
	(2) 成績評価の方法は、明確に示されていた。	1	3	2	0	0	0	3.8
2 授業の内容等について	(3) 授業内容は、授業概要に沿っていた。	2	2	2	0	0	0	4.0
	(4) 授業内容は、教養や専門性を高めるものだった。	4	2	0	0	0	0	4.7
	(5) 授業内容は、教育に対する見方や考え方を学べるものだった。	5	1	0	0	0	0	4.8
	(6) 授業内容は、興味・関心を引くものだった。	4	2	0	0	0	0	4.7
3 あなたの授業への取り組みについて	(7) 授業によく出席した。	6	0	0	0	0	0	5.0
	(8) 授業内容をよく理解するために予習や復習をした。	3	2	1	0	0	0	4.3
	(9) 授業中に積極的に発言や質問をした。	2	3	1	0	0	0	4.2
	(10) 積極的に課題に取り組んだ。	4	2	0	0	0	0	4.7
4 教員の授業の進め方について	(11) 分からないことや疑問に思ったことは調べた。	2	3	0	1	0	0	4.0
	(12) 学生の理解状況を確かめながら授業を行った。	2	4	0	0	0	0	4.3
	(13) 学生参加型の授業だった。	5	1	0	0	0	0	4.8
	(14) 熱心に指導した。	5	1	0	0	0	0	4.8
	(15) 授業内容を分かりやすく説明した。	3	3	0	0	0	0	4.5
	(16) 教科書や配布資料等の教材は、内容を理解する上で適切だった。	2	4	0	0	0	0	4.3
	(17) 視聴覚機器及び教育用機器の利用は、適切だった。	4	1	1	0	0	0	4.5
	(18) 授業の進む速さは、適切だった。	4	2	0	0	0	0	4.7
	(19) 学生の疑問や質問に適切に答えた。	4	2	0	0	0	0	4.7
5 授業に対する満足度	(20) この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。	4	1	1	0	0	0	4.5



教員のコメント

質問項目のうち、最も高い評価を得たのは「授業によく出席した」であり、全員が5.0をマークしている。受講生から高い評価を得た項目は、それぞれ「授業内容は、教育に対する見方や考え方を学べるものだった」「学生参加型の授業だった」「熱心に指導した」であり、ポイントは4.8であった。次に4.7ポイントが5項目あった。具体的には「授業内容は、教養や専門性を高めるものだった」「授業内容は興味・関心を引くものだった」「積極的に課題に取り組んだ」「授業の進む速さは、適切だった」「学生の疑問や質問に適切に答えた」の項目である。

いずれも、授業内容と方法の魅力を高めたいと常々願い、授業改善に努めてきたことの成果である。

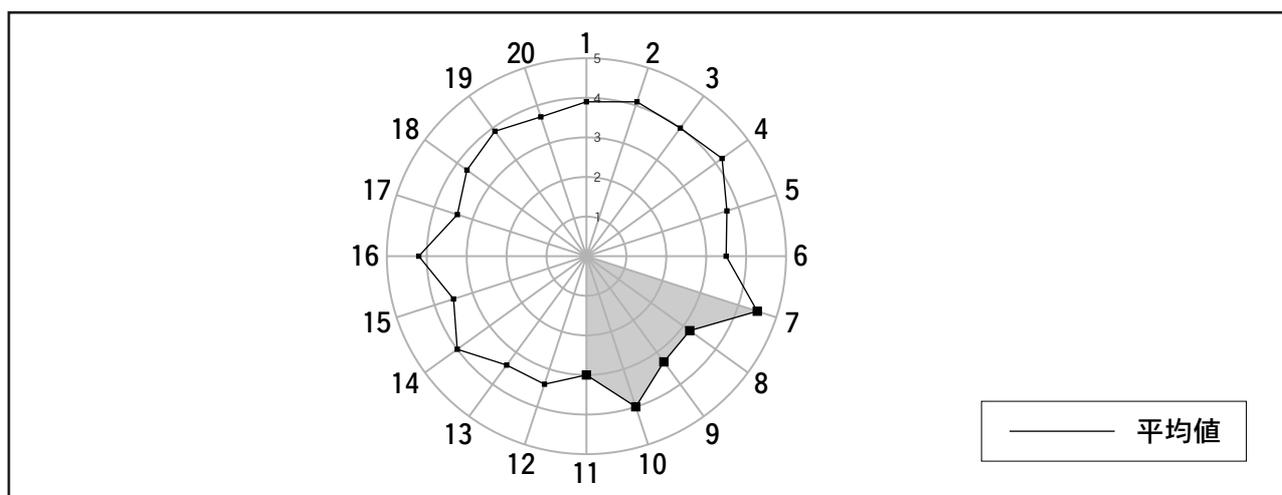
反対に最も低い項目が「成績評価の方法は、明確に示されていた」の3.8と、「授業内容は、授業概要に沿っていた」の4.0および「分からないことや疑問に思ったことは調べた」の4.0であった。いずれも際立って低い評価というわけではなく、相対的にみて低いということなのだが、この点に改善の余地があることを物語っている結果として受け止めたい。

成績評価については、授業第一回目の時だけでなく、数回に一回の割合で、繰り返し述べ、確認させ、誤解が生じないように徹底したいと思う。

授業科目名 保健体育科教育論Ⅲ
 評価実施日 平成20年2月14日
 担当教員名 吉本佐雅子

回答者数 10名

質問項目	評価選択人数	評価選択人数						平均値 (科目別)
		5	4	3	2	1	N.A	
1 授業概要について	(1) 目標・授業計画・内容は、明確に示されていた。	3	4	2	1	0	0	3.9
	(2) 成績評価の方法は、明確に示されていた。	3	5	2	0	0	0	4.1
2 授業の内容等について	(3) 授業内容は、授業概要に沿っていた。	3	5	1	1	0	0	4.0
	(4) 授業内容は、教養や専門性を高めるものだった。	5	2	3	0	0	0	4.2
	(5) 授業内容は、教育に対する見方や考え方を学べるものだった。	2	4	3	1	0	0	3.7
	(6) 授業内容は、興味・関心を引くものだった。	2	3	3	2	0	0	3.5
3 あなたの授業への取り組みについて	(7) 授業によく出席した。	7	1	2	0	0	0	4.5
	(8) 授業内容をよく理解するために予習や復習をした。	2	2	4	0	2	0	3.2
	(9) 授業中に積極的に発言や質問をした。	2	3	2	2	1	0	3.3
	(10) 教員の説明をよく聞いた。	3	4	3	0	0	0	4.0
	(11) 分からないことや疑問に思ったことは調べた。	1	1	6	1	1	0	3.0
4 教員の授業の進め方について	(12) 学生の理解状況を確認しながら授業を行った。	2	3	3	1	1	0	3.4
	(13) 学生が参加しやすい授業だった。	2	2	4	2	0	0	3.4
	(14) 熱心に指導した。	4	3	2	1	0	0	4.0
	(15) 授業内容を分かりやすく説明した。	2	3	3	2	0	0	3.5
	(16) 教科書や配布資料等の教材は、内容を理解する上で適切だった。	5	2	3	0	0	0	4.2
	(17) 視聴覚機器及び教育用機器の利用は、適切だった。	3	2	2	2	1	0	3.4
	(18) 教員の声は、聞き取りやすかった。	2	5	1	2	0	0	3.7
	(19) 授業の進む速さは、適切だった。	3	4	2	1	0	0	3.9
5 授業に対する満足度	(20) この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。	2	4	3	1	0	0	3.7



教員のコメント

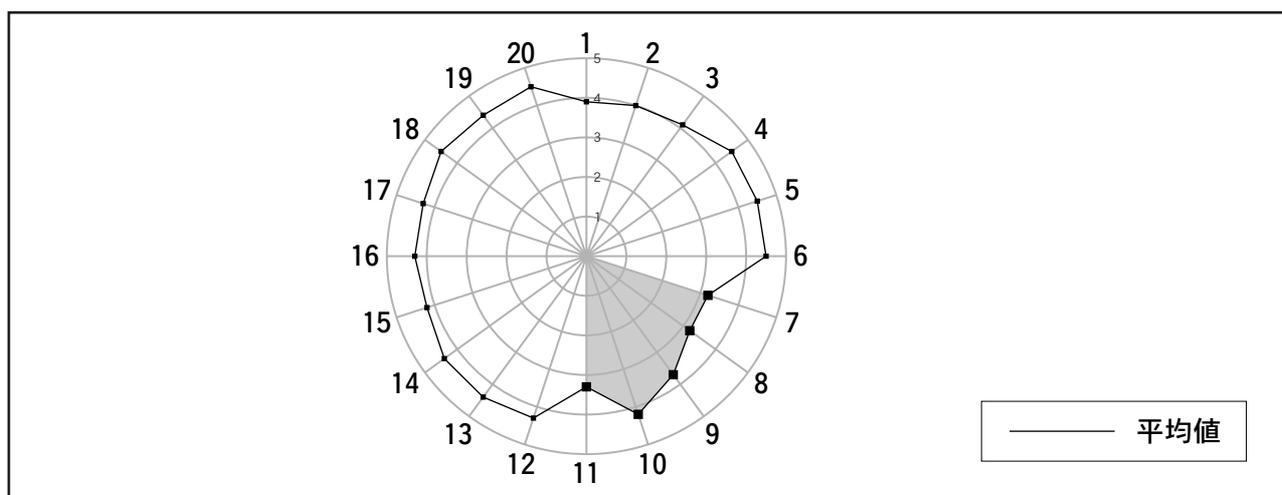
本授業の昨年度の評価と比べ、全体的に低くなっており、残念である。昨年度の反省点に留意し、健康教育の理論とともに、今年度は実践部分を充実させたつもりであるが、かえって散漫な内容に受け取られたのかもしれない。

また、本授業の内容への興味・関心については比較的低い評価であり、これは学生の理解状況の確認が不足していたためと考えられる。来年度は、学生とのコミュニケーションを計りながら、授業の流れを十分理解させることを課題にしたい。

授業科目名 技術科教育論 I
 評価実施日 平成20年 2月21日
 担当教員名 尾崎 士郎

回答者数 10名

質問項目	評価選択人数						平均値 (科目別)	
	5	4	3	2	1	N.A		
1 授業概要について	(1) 目標・授業計画・内容は、明確に示されていた。	4	2	3	1	0	0	3.9
	(2) 成績評価の方法は、明確に示されていた。	4	2	4	0	0	0	4.0
2 授業の内容等について	(3) 授業内容は、授業概要に沿っていた。	3	6	0	1	0	0	4.1
	(4) 授業内容は、教養や専門性を高めるものだった。	6	3	1	0	0	0	4.5
	(5) 授業内容は、教育に対する見方や考え方を学べるものだった。	6	3	1	0	0	0	4.5
	(6) 授業内容は、興味・関心を引くものだった。	6	3	1	0	0	0	4.5
3 あなたの授業への取り組みについて	(7) 授業によく出席した。	1	3	4	1	1	0	3.2
	(8) 授業内容をよく理解するために予習や復習をした。	0	4	5	0	1	0	3.2
	(9) 授業中に積極的に発言や質問をした。	1	6	2	1	0	0	3.7
	(10) 教員の説明をよく聞いた。	3	6	1	0	0	0	4.2
	(11) 分からないことや疑問に思ったことは調べた。	1	5	1	2	1	0	3.3
4 教員の授業の進め方について	(12) 学生の理解状況を確認しながら授業を行った。	5	3	2	0	0	0	4.3
	(13) 学生が参加しやすい授業だった。	5	4	1	0	0	0	4.4
	(14) 熱心に指導した。	5	4	1	0	0	0	4.4
	(15) 授業内容を分かりやすく説明した。	4	5	0	1	0	0	4.2
	(16) 教科書や配布資料等の教材は、内容を理解する上で適切だった。	6	2	1	1	0	0	4.3
	(17) 視聴覚機器及び教育用機器の利用は、適切だった。	5	3	2	0	0	0	4.3
	(18) 教員の声は、聞き取りやすかった。	8	0	1	1	0	0	4.5
	(19) 授業の進む速さは、適切だった。	7	1	1	1	0	0	4.4
5 授業に対する満足度	(20) この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。	6	3	1	0	0	0	4.5



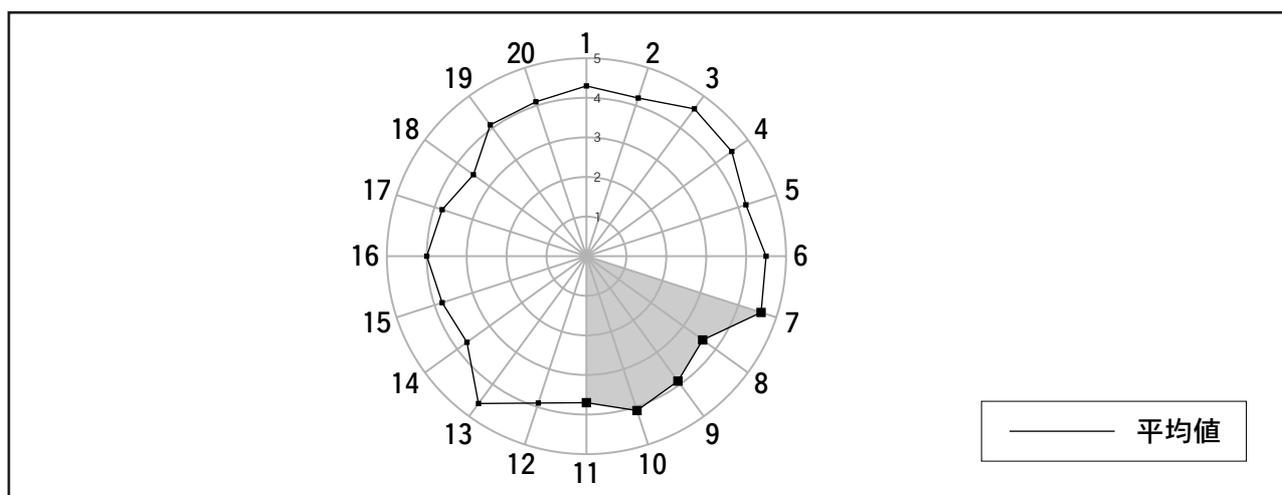
教員のコメント

本授業科目における評価の平均値は4.1であった。授業の概要から授業の進め方と満足度に至る中で、唯一評価が低いのは授業への取り組みであり、項目としては「授業によく出席した。」、「授業内容をよく理解するために予習や復習をした。」、「授業中に積極的に発言や質問をした。」、「分からないことや疑問に思ったことは調べた。」であった。他の評価は概ね高い。一部に能動的に学習に取り組めていない場合が認められ、講義中に授業者の方から質問をし理解を図る努力を行っているが、さらに工夫が必要である。

授業科目名 中等家庭科授業論
 評価実施日 平成20年2月21日
 担当教員名 鳥井 葉子

回答者数 11名

質問項目	評価選択人数	評価選択人数						平均値 (科目別)
		5	4	3	2	1	N.A	
1 授業概要について	(1) 目標・授業計画・内容は、明確に示されていた。	5	4	2	0	0	0	4.3
	(2) 成績評価の方法は、明確に示されていた。	4	5	2	0	0	0	4.2
2 授業の内容等について	(3) 授業内容は、授業概要に沿っていた。	8	2	1	0	0	0	4.6
	(4) 授業内容は、教養や専門性を高めるものだった。	7	2	2	0	0	0	4.5
	(5) 授業内容は、教育に対する見方や考え方を学べるものだった。	5	3	3	0	0	0	4.2
	(6) 授業内容は、興味・関心を引くものだった。	6	4	1	0	0	0	4.5
3 あなたの授業への取り組みについて	(7) 授業によく出席した。	8	2	1	0	0	0	4.6
	(8) 授業内容をよく理解するために予習や復習をした。	2	4	4	1	0	0	3.6
	(9) 授業中に積極的に発言や質問をした。	3	4	4	0	0	0	3.9
	(10) 教員の説明をよく聞いた。	5	3	2	1	0	0	4.1
	(11) 分からないことや疑問に思ったことは調べた。	3	3	4	1	0	0	3.7
4 教員の授業の進め方について	(12) 学生の理解状況を確認しながら授業を行った。	3	5	2	1	0	0	3.9
	(13) 学生が参加しやすい授業だった。	7	4	0	0	0	0	4.6
	(14) 熱心に指導した。	2	5	3	1	0	0	3.7
	(15) 授業内容を分かりやすく説明した。	4	3	2	2	0	0	3.8
	(16) 教科書や配布資料等の教材は、内容を理解する上で適切だった。	5	1	5	0	0	0	4.0
	(17) 視聴覚機器及び教育用機器の利用は、適切だった。	4	1	6	0	0	0	3.8
	(18) 教員の声は、聞き取りやすかった。	4	2	2	2	1	0	3.5
	(19) 授業の進む速さは、適切だった。	5	2	4	0	0	0	4.1
5 授業に対する満足度	(20) この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。	3	6	2	0	0	0	4.1



教員のコメント

評価の低かった項目は「教員の声は聞き取りやすかった」「授業内容をよく理解するために予習や復習をした」「分からないことや疑問に思ったことは調べた」「熱心に指導した」であった。本授業では模擬授業の実践とその後の討議が中心であったが、模擬授業の配置のままに討議をしたため、教室の後にいた教員の声が聞き取りにくかったと反省している。討議しやすいように環境を整える必要があった。また、担当する模擬授業の準備以外にも自主的な学習を促すような指導を検討すべきことが明らかになった。さらに、模擬授業への助言だけでは指導不足であったことを反省している。次年度は模擬授業実施前に個別の打ち合わせを必修化し、模擬授業前に全員に助言ができるように改善したい。

授業で改善したほうがよいこととして「部屋が寒い、実験などがしにくい」があげられていた。実験・実習を含む模擬授業を希望する場合は特別教室の空気を確認して借用することになっているが、打ち合わせ不足であったことを反省している。前述した個別の打ち合わせを必修化することで模擬授業教室についても余裕をもって検討し準備したい。

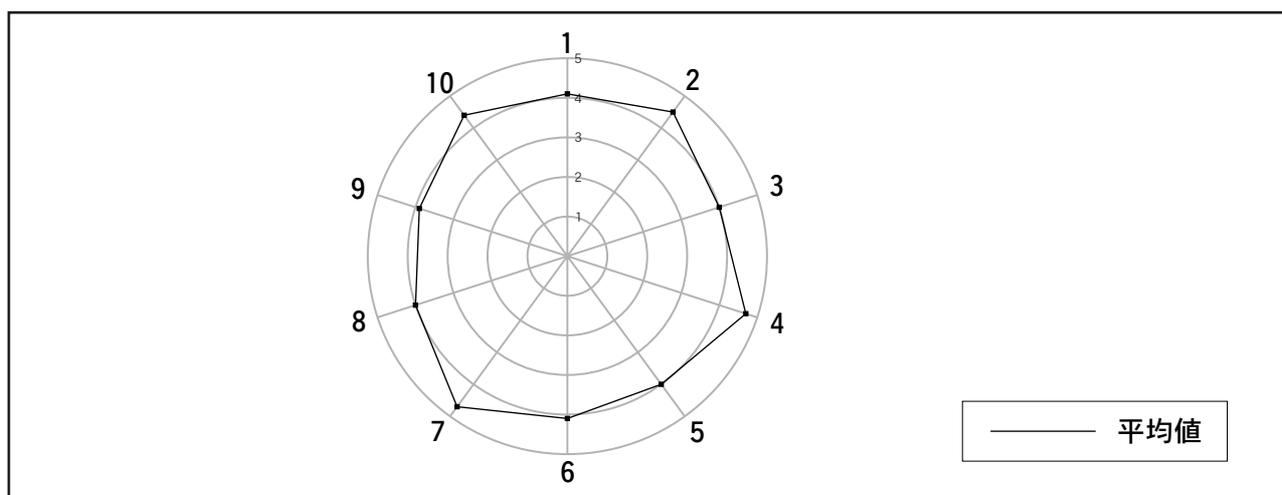
授業でよかったことには「模擬授業後の意見交換がとてもためになった」「模擬授業で質問を通して指導力がつくと思ったから」「模擬授業をみんなに評価してもらえたこと」があげられた。

受講生が活発に議論できるようにするには？という質問項目を設定したところ、「模擬授業に対する意見・気づきを一人ずつ言うだけでなく、みんなで話し合ったらいいかと思います」との意見が得られた。限られた時間内で深く討議できるような方策について検討することが課題である。

授業科目名 総合演習
 評価実施日 平成20年2月29日
 担当教員名 太田 直也

回答者数 24名

質問項目	評価選択人数						平均値 (科目別)	
	5	4	3	2	1	NA		
1 授業概要	(1) 授業概要に書かれた授業計画や内容は、授業を把握する上で適切であった。	7	12	5	0	0	0	4.1
	(2) 授業概要に書かれた授業内容は、興味のあるものだった。	14	9	1	0	0	0	4.5
	(3) 授業概要に書かれた授業の成績評価の方法は妥当であった。	7	11	5	0	1	0	4.0
2 オリエンテーション	(4) オリエンテーションは各グループの趣旨や活動内容を理解する上で役立った。	16	8	0	0	0	0	4.7
	(5) グループ決定までの時間が十分だった。	8	9	5	2	0	0	4.0
	(6) グループ配属の結果に満足している。	11	8	3	1	1	0	4.1
3 全体発表会	(7) 他のグループの取り組みの様子が理解できた。	16	8	0	0	0	0	4.7
	(8) 発表の準備を十分に行うことができた。	5	15	3	0	1	0	4.0
	(9) 発表をうまく行うことができた。	4	13	7	0	0	0	3.9
4 全体に対する満足度	(10) 「総合演習」は自分自身にとって満足できるものであった。	10	13	1	0	0	0	4.4



教員のコメント

「総合演習」太田グループでは、「自分力を高めよう」というタイトルで、人間関係構築において非常に重要と思われるマナーについて考察した。テーマ設定の理由は以下の通りである。

- 1) 昨今の教育現場では人間関係の構築が困難な児童・生徒もおり、教師側からの働きかけが不可欠である。
- 2) 保護者、地域の人々との人間関係構築が必要である。
- 3) 職場における人間関係は重要である。
- 4) 良好な人間関係を築くにあたってマナーは必要である。

授業は基本的には学生の自主性を重視し、小テーマ設定等はすべて学生が議論を重ねて決定した。学生のほぼ全員が好意的なコメントを寄せているが、議論を整理するために、もう少し担当者が指示をあたえても良かったかもしれない。

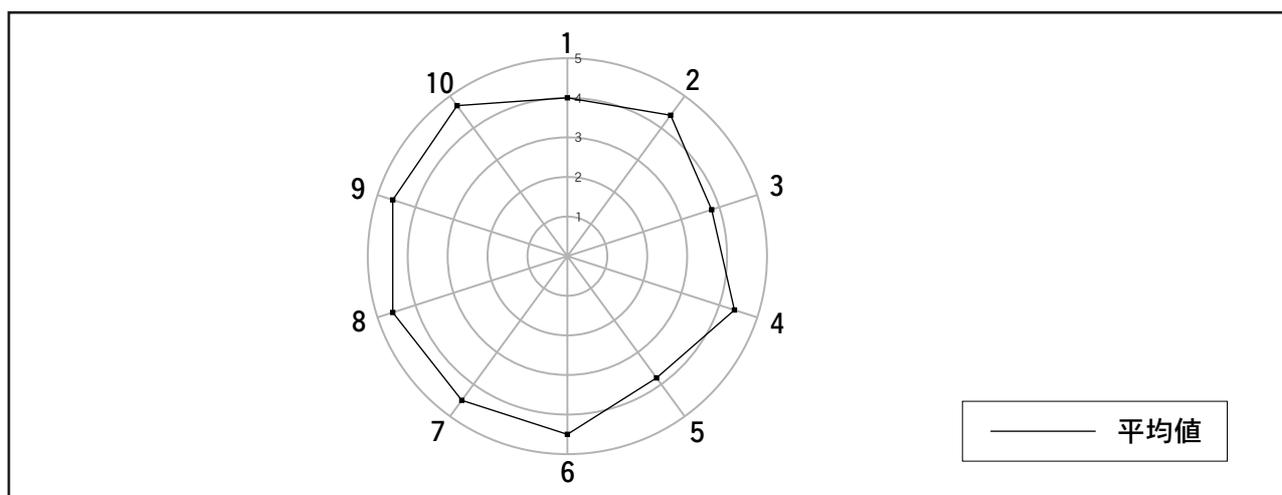
JALアカデミーから特別講演者を招いてマナー講座を開催したが、これは特に好評であった。挨拶もろくに出来なかった数名の学生がそれを機に挨拶をするようになったことからすると、予想外の教育的効果があったと言えるであろう。

反省点もある。学生からのコメントにも記されていたが、30名近い学生の中には作業に積極的に参加しない者が数名いた。当然の如く、彼らに他の学生たちとまったく同じ評価は与えなかったが、彼らをグループにうまく溶け込ませることができなかったのは、担当者の責任である。次年度の課題としたい。

授業科目名 総合演習
 評価実施日 平成20年2月29日
 担当教員名 近森 憲助

回答者数 11名

質 問 項 目		評価選択人数						平均値 (科目別)
		5	4	3	2	1	N.A	
1 授業概要	(1) 授業概要に書かれた授業計画や内容は、授業を把握する上で適切であった。	3	5	3	0	0	0	4.0
	(2) 授業概要に書かれた授業内容は、興味のあるものだった。	5	5	1	0	0	0	4.4
	(3) 授業概要に書かれた授業の成績評価の方法は妥当であった。	3	4	3	1	0	0	3.8
2 オリエンテーション	(4) オリエンテーションは各グループの趣旨や活動内容を理解する上で役立った。	5	5	1	0	0	0	4.4
	(5) グループ決定までの時間が十分だった。	6	1	2	0	2	0	3.8
	(6) グループ配属の結果に満足している。	8	1	2	0	0	0	4.5
3 全体発表会	(7) 他のグループの取り組みの様子が理解できた。	6	4	1	0	0	0	4.5
	(8) 発表の準備を十分に行うことができた。	7	4	0	0	0	0	4.6
	(9) 発表をうまく行うことができた。	7	4	0	0	0	0	4.6
4 全体に対する満足度	(10) 「総合演習」は自分自身にとって満足できるものであった。	8	3	0	0	0	0	4.7



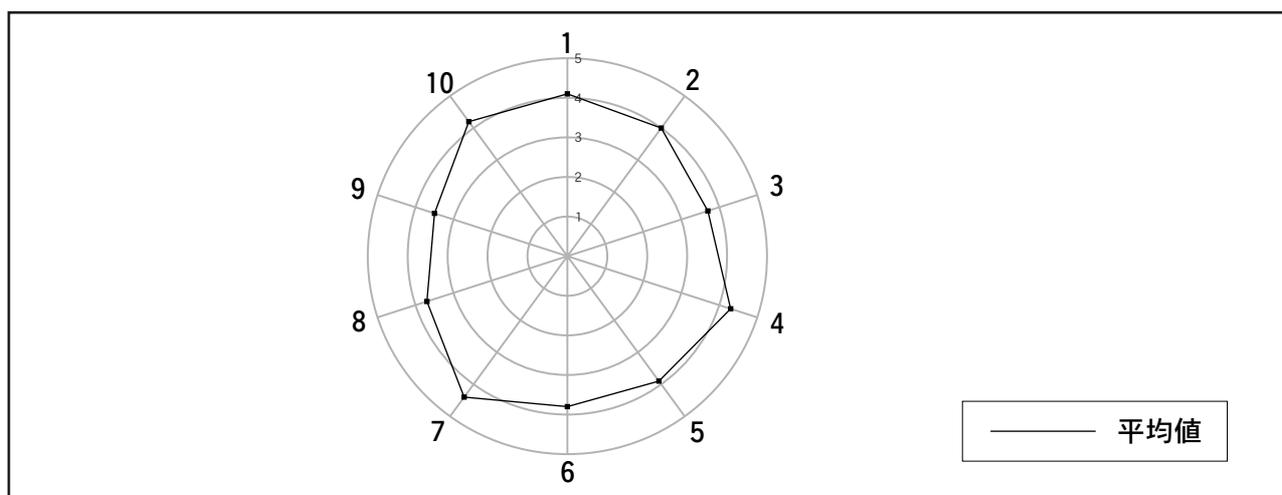
教員のコメント

- ・ 全般的に授業に対する学生の評価は高い。私が担当したグループでは、環境教育あるいは環境保全活動の実践者に講義あるいは指導を依頼したことが、最大の理由と考えられる。
- ・ 顕微鏡実習及びグループ分けなどに納得できない学生が少数ではあるが認められる。顕微鏡実習については「何の役に立つかわからない」というコメントが見られた。役に立つか立たないかですべてを判断してしまう学生がいることは実に悲しく情けないことである。グループ分けについては、すべての学生の希望を満足する事は、多くの学生が受講する授業をわずか6名の教員で担当する限り、どんな工夫をしても不可能なことである。

授業科目名 総合演習
 評価実施日 平成20年2月29日
 担当教員名 谷村 千絵

回答者数 19名

質 問 項 目		評価選択人数						平均値 (科目別)
		5	4	3	2	1	N.A	
1 授業概要	(1) 授業概要に書かれた授業計画や内容は、授業を把握する上で適切であった。	6	9	4	0	0	0	4.1
	(2) 授業概要に書かれた授業内容は、興味のあるものだった。	6	9	2	2	0	0	4.0
	(3) 授業概要に書かれた授業の成績評価の方法は妥当であった。	5	5	8	1	0	0	3.7
2 オリエンテーション	(4) オリエンテーションは各グループの趣旨や活動内容を理解する上で役立った。	9	6	4	0	0	0	4.3
	(5) グループ決定までの時間が十分だった。	6	8	2	3	0	0	3.9
	(6) グループ配属の結果に満足している。	6	6	5	2	0	0	3.8
3 全体発表会	(7) 他のグループの取り組みの様子が理解できた。	10	7	2	0	0	0	4.4
	(8) 発表の準備を十分に行うことができた。	3	10	4	2	0	0	3.7
	(9) 発表をうまく行うことができた。	2	8	6	3	0	0	3.5
4 全体に対する満足度	(10) 「総合演習」は自分自身にとって満足できるものであった。	6	10	3	0	0	0	4.2



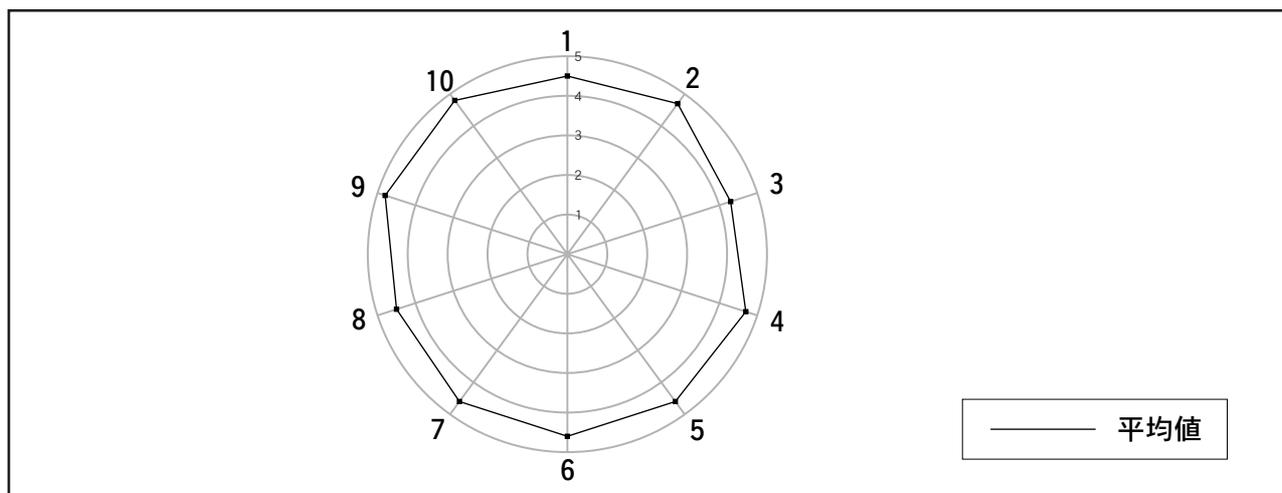
教員のコメント

自由記述欄では、この授業全体について、各グループの取り組みや顕微鏡実習を肯定的に評価する意見が多かった。グループ活動では、他者との意見交換ができたこと、自分の考えをもてるようになったことを肯定的に評価する声がある一方で、グループ全員の発言がなされないことについて手だてを考えた方がよいという意見、時間配分、目的、スケジュールをもっと明確にした方がよいという改善案がいくつかあった。グループ活動時には、こうした意見を活かすべく、話し合いの時間を設け、教員が意図的に介入することもあったが、不十分であったことが分かった。自分の意見を述べる体験や、自分たちで目標設定して計画を立てる体験に慣れない者が多かったこと、そうした者にとって今回の教員の指導は十分でなかったと考えられる。学生の特性を把握して適切な指導ができるように、改善していきたい。

授業科目名 総合演習
 評価実施日 平成20年2月29日
 担当教員名 小西 正雄

回答者数 19名

質 問 項 目		評価選択人数						平均値 (科目別)
		5	4	3	2	1	N.A	
1 授業概要	(1) 授業概要に書かれた授業計画や内容は、授業を把握する上で適切であった。	10	8	1	0	0	0	4.5
	(2) 授業概要に書かれた授業内容は、興味のあるものだった。	14	5	0	0	0	0	4.7
	(3) 授業概要に書かれた授業の成績評価の方法は妥当であった。	10	5	3	1	0	0	4.3
2 オリエンテーション	(4) オリエンテーションは各グループの趣旨や活動内容を理解する上で役立った。	14	5	0	0	0	0	4.7
	(5) グループ決定までの時間が十分だった。	11	8	0	0	0	0	4.6
	(6) グループ配属の結果に満足している。	13	5	0	1	0	0	4.6
3 全体発表会	(7) 他のグループの取り組みの様子が理解できた。	11	8	0	0	0	0	4.6
	(8) 発表の準備を十分に行うことができた。	10	8	1	0	0	0	4.5
	(9) 発表をうまく行うことができた。	17	1	1	0	0	0	4.8
4 全体に対する満足度	(10) 「総合演習」は自分自身にとって満足できるものであった。	17	1	1	0	0	0	4.8



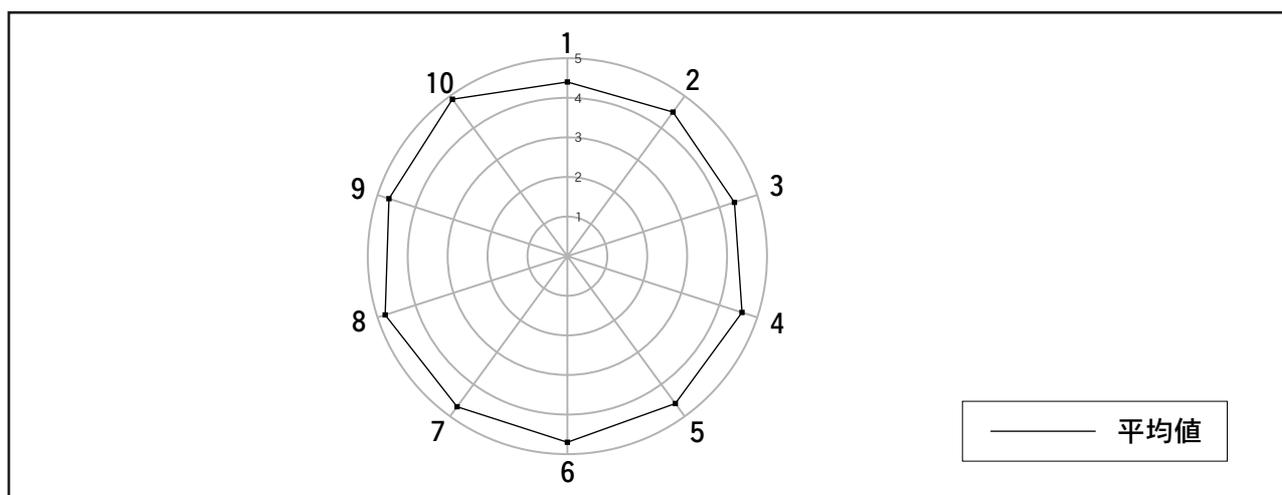
教員のコメント

今年度の小西グループの研修は、「八重山の自然と歴史に学ぶ」シリーズの最終回ということで、これまでの経験を最大限生かしたルーティングならびに内容構成としたため、受講生の非常な賛同を得ることができた。やはりテーマを絞り込んでシンプルな計画としたのがよかった。今後の存続を望む声もあるが、指導者の体力的な面もあり、その声に応えることができないのが残念である。

授業科目名 総合演習
 評価実施日 平成20年2月29日
 担当教員名 村川 雅弘

回答者数 10名

質問項目	評価選択人数						平均値 (科目別)	
	5	4	3	2	1	N.A		
1 授業概要	(1) 授業概要に書かれた授業計画や内容は、授業を把握する上で適切であった。	4	6	0	0	0	0	4.4
	(2) 授業概要に書かれた授業内容は、興味のあるものだった。	5	5	0	0	0	0	4.5
	(3) 授業概要に書かれた授業の成績評価の方法は妥当であった。	4	6	0	0	0	0	4.4
2 オリエンテーション	(4) オリエンテーションは各グループの趣旨や活動内容を理解する上で役立った。	6	4	0	0	0	0	4.6
	(5) グループ決定までの時間が十分だった。	6	4	0	0	0	0	4.6
	(6) グループ配属の結果に満足している。	6	3	0	0	0	1	4.7
3 全体発表会	(7) 他のグループの取り組みの様子が理解できた。	7	3	0	0	0	0	4.7
	(8) 発表の準備を十分に行うことができた。	8	2	0	0	0	0	4.8
	(9) 発表をうまく行うことができた。	8	1	1	0	0	0	4.7
4 全体に対する満足度	(10) 「総合演習」は自分自身にとって満足できるものであった。	8	1	0	0	0	1	4.9



教員のコメント

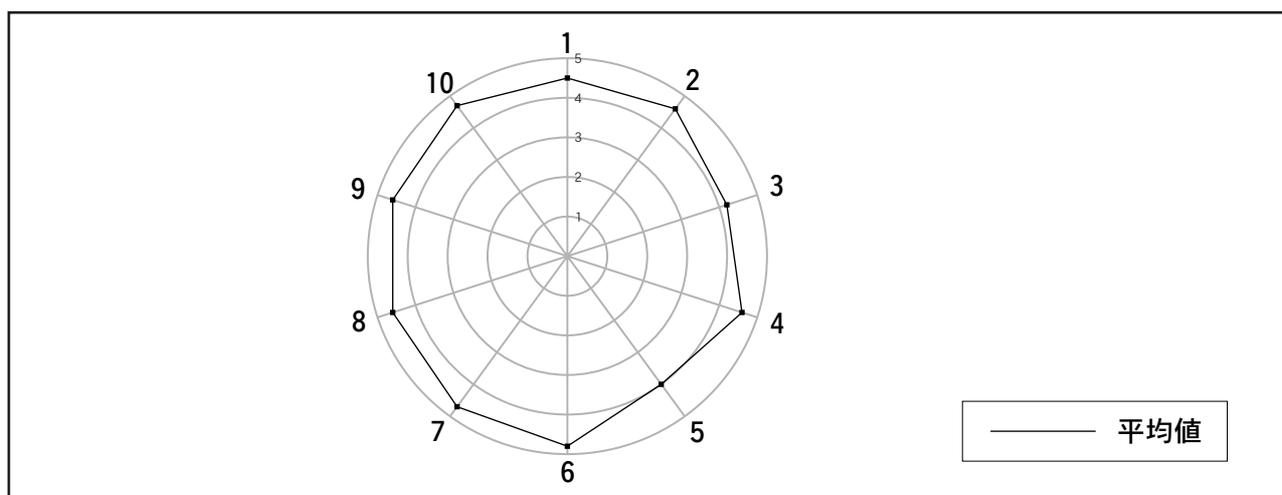
回答者は10名と少ないながらも、どの項目も4.4以上の高い評価を得ている。総合表現の事例研究や地域調査、総合表現を作り上げる合宿、劇の完成に向けての練習など大変負荷の大きい演習で当初受講希望者も少なかったが、結果的には全体に対する満足度が4.9と受講生にとり満足な演習に終わった。有志による本学講堂での「子ども鳴門環境サミット」の小学生の前での発表や子どもたちとのかかわりも大きな財産となったようである。

記述による評価では「児童の立場になって総合表現を肌で体感できた」「子ども鳴門環境サミットで子どもたちの前で発表するという貴重な機会を得られた」「仲間と一緒に一つのものを作り出した喜びが続いている」など本演習の目標である総合表現指導の理解を体験的に習得しただけでなく、「人生についての勉強になった」「常に新しい自分との出会いだっただ」「心の成長を感じる事ができた」「自分が成長していく驚き、メンバーの成長に喜びを感じた」「この体験をこれからの人生に活かしていきたい」「自己を見つめ直し、大学生になって久しぶりに人間としての成長を感じる事ができた」「一体感のある学習は人をどんどん突き進むようにする」「成功したときは達成感で一杯だった。何でもやれば出来るという自信がついた」「一生忘れられない」など広い意味で自己の成長を述べている。改善点については殆ど指摘がなかった。私自身が受講生の成長に感動を覚えた授業であった。

授業科目名 総合演習
 評価実施日 平成20年2月29日
 担当教員名 藤村 裕一

回答者数 42名

質問項目	評価選択人数						平均値 (科目別)	
	5	4	3	2	1	N.A		
1 授業概要	(1) 授業概要に書かれた授業計画や内容は、授業を把握する上で適切であった。	28	9	5	0	0	0	4.5
	(2) 授業概要に書かれた授業内容は、興味のあるものだった。	29	11	2	0	0	0	4.6
	(3) 授業概要に書かれた授業の成績評価の方法は妥当であった。	16	19	7	0	0	0	4.2
2 オリエンテーション	(4) オリエンテーションは各グループの趣旨や活動内容を理解する上で役立った。	29	10	3	0	0	0	4.6
	(5) グループ決定までの時間が十分だった。	17	12	7	6	0	0	4.0
	(6) グループ配属の結果に満足している。	34	4	3	0	0	1	4.8
3 全体発表会	(7) 他のグループの取り組みの様子が理解できた。	33	7	1	0	1	0	4.7
	(8) 発表の準備を十分に行うことができた。	31	6	5	0	0	0	4.6
	(9) 発表をうまく行うことができた。	31	7	4	0	0	0	4.6
4 全体に対する満足度	(10) 「総合演習」は自分自身にとって満足できるものであった。	30	9	1	1	0	1	4.7



教員のコメント

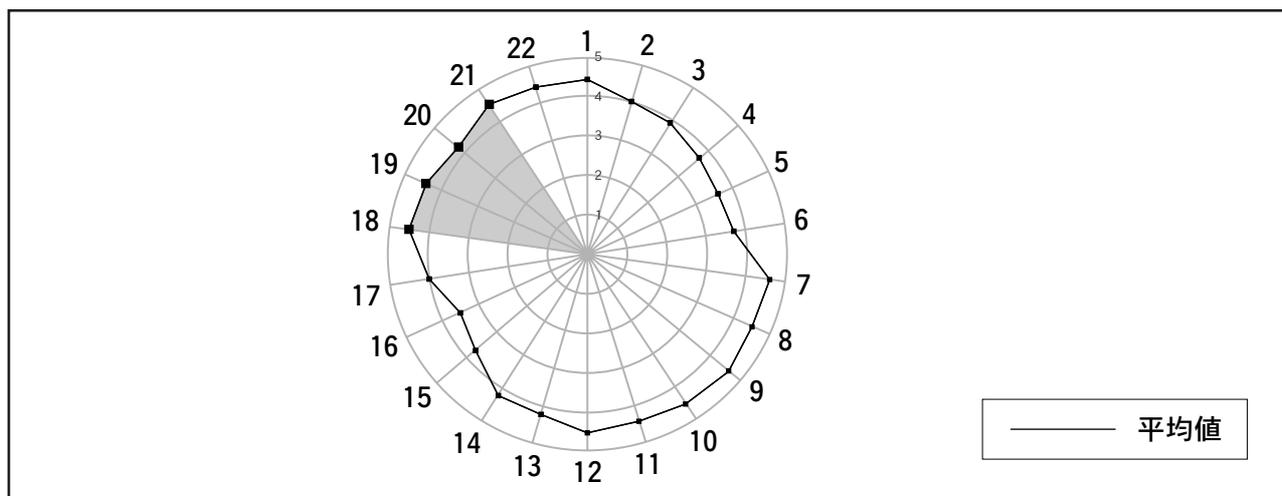
すべての項目の平均値が4.5と概ね好評な授業であった。藤村グループでは、「子どもたちがふるさと・鳴門・徳島を誇りに思い、地域文化を創造していこうとする教材を開発する」というテーマで活動した。自主性・主体性を尊重しつつ、教師になってから役立つことを指導したことが大変好評であった。自由記述では、以下のような記述が多数あった。

- ・大学外へ自分たちでアポを取って訪問することで、社会人としてのマナーも学べた。
 - ・普段接することができない院生の方などと協力して取り組むことで、人とのつながりができた。その中で、多様な考え方も身に付いた。
 - ・私にとって、いいことづくしのグループで、このグループに所属してよかったと心から思っている。私自身、鳴門・徳島に誇りをもつことができたことが一番よかった。
 - ・最初は、「大変そうだ」というイメージが先行していたが、参加するたびに自らの意欲で取り組んでいることに気がついた。それほど魅力ある授業だったのだと思う。後輩にも「あの授業はよかった」と勧めておきたいと思う。充実感と達成感でいっぱいだ。
 - ・大学の授業の中で一番心に残るものだった。その分、大変でしんどかったが、達成感や感動を味わえたことはこれから自分の財産となっていくように思う。
- ただ、人数が他グループの倍だったため、発表時間が相対的に短く、配慮する必要がある。

授業科目名 ふれあい実習
 評価実施日 平成19年9月11日
 担当教員名 藤原 伸彦, 清水 茂

回答者数 86名

質問項目	評価選択人数						平均値 (科目別)	
	5	4	3	2	1	N.A		
1 実習概要について	(1) 目標・実習の計画・内容は、明確に示されていた。	43	31	10	1	0	0	4.4
	(2) 成績評価の方法は、明確に示されていた。	27	34	22	2	0	0	4.0
2 事前オリエンテーションについて	(3) 事前オリエンテーションによって、実習の概要が理解できた。	28	33	17	4	3	0	3.9
	(4) 事前オリエンテーションは、実習での自分自身の目標を設定するのに役立った。	20	33	21	8	4	0	3.7
	(5) 教育用機器や設備などの教具の利用は適切だった。	13	33	28	11	0	0	3.6
	(6) 教員の声は、聞き取りやすかった。	22	26	31	3	4	0	3.7
3 交流実習・観察実習について	(7) 附属養護学校での交流実習を通して、障害児教育に対する理解が深まった。	54	27	3	1	0	0	4.6
	(8) 附属学校園での観察実習を通して、授業や保育についての理解が深まった。	51	26	7	1	0	0	4.5
	(9) 鳴門市内の幼稚園での幼児とのふれあい活動を通して、幼児理解が深まった。	55	25	4	0	1	0	4.6
	(10) 実習を通して、子どもと教師の関わりから教師の役割が理解できた。	46	33	5	1	0	0	4.5
	(11) 実習を通して、教職の意義や重要性が理解できた。	48	28	8	1	0	0	4.4
	(12) 実習を通して、教職に対する意欲が持てた。	53	25	5	2	0	0	4.5
4 事後指導について	(13) 事後指導によって、実習で経験したことの意味について理解が深まった。	35	33	15	1	1	0	4.2
	(14) 教育実習録は、実習の内容をふり返るのに役立った。	34	34	16	1	1	0	4.2
	(15) 学生の理解状況を確認めながら授業を行った。	22	26	29	6	2	0	3.7
	(16) 教育用機器や設備などの教具の利用は適切だった。	18	22	33	10	2	0	3.5
5 あなたの实習への取り組みについて	(17) 教員の声は、聞き取りやすかった。	32	28	18	6	1	0	4.0
	(18) 積極的に実習や事後指導に取り組んだ。	51	29	6	0	0	0	4.5
	(19) 実習に関連した内容について友人や教員と話し合った。	47	31	6	2	0	0	4.4
	(20) 今後、大学で学ぶべき目標が明確になった。	35	33	16	2	0	0	4.2
	(21) 今後、積極的に幼稚園・小学校・中学校等にボランティアとして関わってみたい。	50	27	7	0	1	0	4.5
6 授業に対する満足度	(22) この実習は、自分自身にとって満足のできるものであった。	47	30	8	1	0	0	4.4



教員のコメント

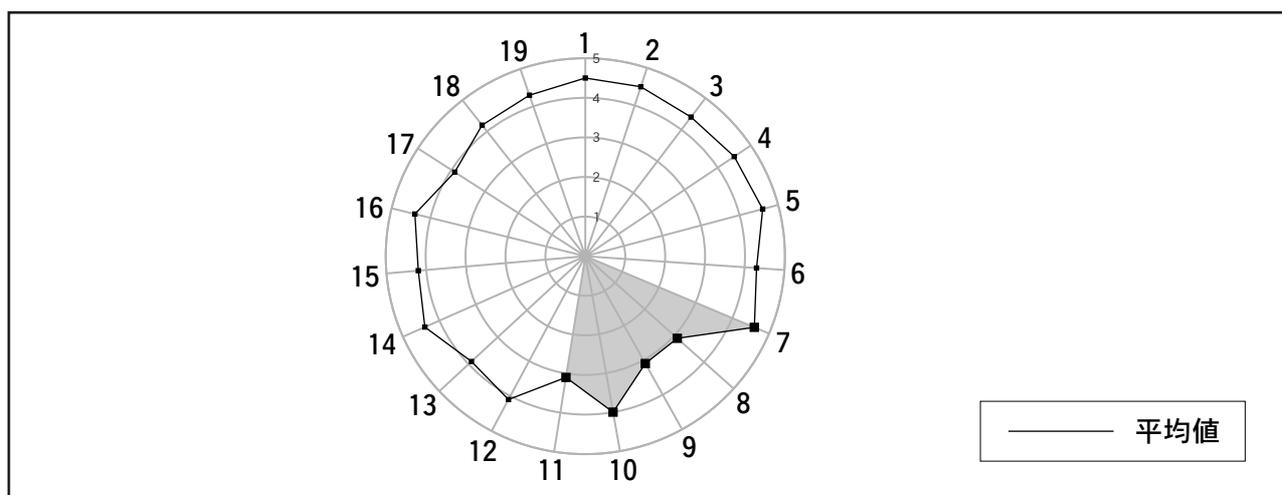
マークシート式のアンケート集計結果では、
 1. 実習概要について 3. 交流実習・観察実習について 4. 事後指導について
 5. あなたの実習への取り組みについて 6. 授業に対する満足度
 の各項目はほぼ4点台であり、ふれあい実習が充実したものであることが伺われる。具体的には、自由記述項目で多く見られた。
 ・子どもたちと触れ合うことができてよかった（特に特別支援学校）。
 ・実際の教育現場を体験することができた（自分の専修以外の校種も体験できた）。
 ・今後の目標や自身の課題が明確になった。
 ・教職に対する意欲が高まった。
 等が、マークシート式アンケートの得点の高さとして現れていると考えられる。ふれあい実習は大学に入学して最初の実習科目であり、園児・児童・生徒の実態や学校園の実態を知り、教育現場を体験的に知ることを目的としている。この目的を十分に達成しているといえよう。
 一方、
 2. 事前オリエンテーションについて
 に関するマークシート式のアンケート集計結果は、得点が3点台であった。それは、悪いというわけではないが、自由記述項目の中に「オリエンテーションでの説明が分かりづらい」「長すぎる」といったものが数件みられた。
 ・事前オリエンテーションは、実習での自分自身の目標を設定するのに役立った。
 ・教員の声は、聞き取りやすかった。
 などの得点が3点台であることも関わっているだろう。これらの指摘については真摯に受け止め、是非改善したい。また、「改善したほうがよいと思うことは」という自由記述の中に、
 ・幼稚園以外の実習でも現場の先生方と話す機会が欲しい
 ・もう少し実習の期間を長くしてほしい
 といった非常に前向きなものが数件みられた。ふれあい実習の枠内では解決できない（あるいは部分的にしか解決できない）ものではあるが、本学では4年間のカリキュラムを通して学生が教育現場に参加できる機会が設けられているので、それによって学生のニーズに応えられるのではないと思われる。

專 修 專 門 科 目

授業科目名 学校の組織と集団
 評価実施日 平成19年7月27日
 担当教員名 佐古 秀一, 久我 直人, 芝山 明義

回答者数 29名

質問項目	評価選択人数						平均値 (科目別)	
	5	4	3	2	1	N.A		
1 授業概要について	(1) 目標・授業計画・内容は、明確に示されていた。	17	8	3	0	0	0	4.5
	(2) 成績評価の方法は、明確に示されていた。	16	9	3	0	0	0	4.5
2 授業の内容等について	(3) 授業内容は、授業概要に沿っていた。	15	9	3	1	0	0	4.4
	(4) 授業内容は、教養や専門性を高めるものだった。	18	8	1	1	0	0	4.5
	(5) 授業内容は、教育に対する見方や考え方を学べるものだった。	20	5	3	0	0	0	4.6
	(6) 授業内容は、興味・関心を引くものだった。	14	9	4	1	0	0	4.3
3 あなたの授業への取り組みについて	(7) 授業によく出席した。	20	5	3	0	0	0	4.6
	(8) 授業内容をよく理解するために予習や復習をした。	3	6	12	5	2	0	3.1
	(9) 授業中に積極的に発言や質問をした。	4	6	9	6	3	0	3.1
	(10) 教員の説明をよく聞いた。	8	12	7	1	0	0	4.0
	(11) 分からないことや疑問に思ったことは調べた。	5	5	9	7	2	0	3.1
4 教員の授業の進め方について	(12) 学生の理解状況を確かめながら授業を行った。	11	11	5	1	0	0	4.1
	(13) 学生が参加しやすい授業だった。	9	10	6	3	0	0	3.9
	(14) 熱心に指導した。	16	8	2	2	0	0	4.4
	(15) 授業内容を分かりやすく説明した。	11	12	4	1	0	0	4.2
	(16) 教科書や配布資料等の教材は、内容を理解する上で適切だった。	16	9	2	1	0	0	4.4
	(17) 教員の声は、聞き取りやすかった。	10	10	3	4	1	0	3.9
	(18) 授業の進む速さは、適切だった。	12	11	3	2	0	0	4.2
	(19) この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。	12	11	5	0	0	0	4.3



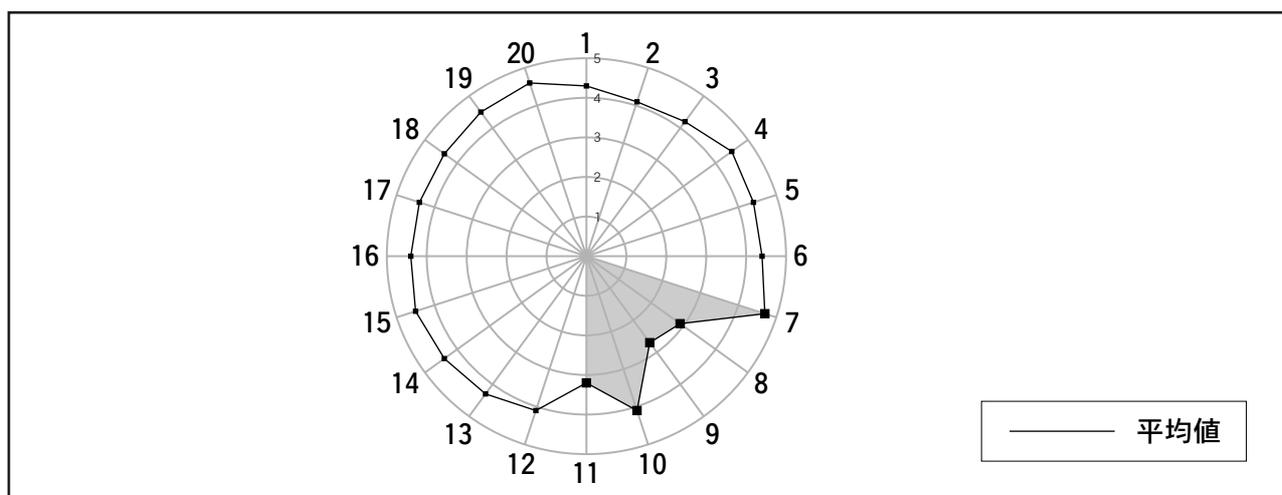
教員のコメント

「授業概要について」、「授業内容について」は平均値が4.5と高い評価が得られた。
 逆に、相対的に評価が低かったのは、自身の学習に対する自己評価の項目で、「予習復習」(3.1)「積極的な発言」(3.1)「自主的な調べ学習」(3.1)という結果であった。
 また、教員が準備した「資料のわかりやすさ」(4.4)、「内容のわかりやすさ」(4.2)、「熱心な指導」(4.4)について評価が高かった。その結果、「授業満足度」(4.3)も高い評価が得られた。
 さらに自由記述を見ると、実践的な内容(実践事例等)を取り上げたことに対して「参考になった」「実際に生かせる内容」という評価が得られた。また、授業の中に多く取り入れた「グループ討議」に対して「討論で多くのことを学んだ」という意見が寄せられた。これは、授業ごとに実施した感想(自由記述)にも多くの賛同意見があった。
 これらのことを総合して分析・解釈すると、概ね次のような授業改善の方向が見出せる。
 <1>本授業の目的に適合させて、「基礎的な理論」をベースに、実践的な事例を用いた授業展開をすることにより、理論と実践を往復できるような授業が実現し、受講者の内実性の高い授業とすることができる
 <2>課題を通じた受講者同士の討論の時間を確保することにより、課題に対する見方が複眼的になり、実践的な解釈力が増す授業とすることができる
 <3>受講者自身の事例を授業の中に取り入れる等、受講者の当事者意識を高める工夫をすることにより、授業時間の枠を越えた受講者の自主的な学びを具現できる可能性がある
 特に<3>の受講者自身の自己評価の向上を今後の課題として、授業改善に望みたい。

授業科目名 臨床心理学
 評価実施日 平成19年7月27日
 担当教員名 佐藤 亨, 粟飯原良造

回答者数 46名

質問項目	評価選択人数						平均値 (科目別)	
	5	4	3	2	1	N.A		
1 授業概要について	(1) 目標・授業計画・内容は、明確に示されていた。	21	17	8	0	0	0	4.3
	(2) 成績評価の方法は、明確に示されていた。	16	20	8	2	0	0	4.1
2 授業の内容等について	(3) 授業内容は、授業概要に沿っていた。	16	23	7	0	0	0	4.2
	(4) 授業内容は、教養や専門性を高めるものだった。	25	19	1	1	0	0	4.5
	(5) 授業内容は、教育に対する見方や考え方を学べるものだった。	25	15	4	2	0	0	4.4
	(6) 授業内容は、興味・関心を引くものだった。	26	14	4	2	0	0	4.4
3 あなたの授業への取り組みについて	(7) 授業によく出席した。	34	11	0	1	0	0	4.7
	(8) 授業内容をよく理解するために予習や復習をした。	5	7	19	10	5	0	2.9
	(9) 授業中に積極的に発言や質問をした。	4	6	15	13	8	0	2.7
	(10) 教員の説明をよく聞いた。	18	16	10	2	0	0	4.1
	(11) 分からないことや疑問に思ったことは調べた。	5	12	17	10	2	0	3.2
4 教員の授業の進め方について	(12) 学生の理解状況を確かめながら授業を行った。	15	22	6	3	0	0	4.1
	(13) 学生が参加しやすい授業だった。	22	17	6	0	1	0	4.3
	(14) 熱心に指導した。	24	20	1	0	1	0	4.4
	(15) 授業内容を分かりやすく説明した。	25	17	4	0	0	0	4.5
	(16) 教科書や配布資料等の教材は、内容を理解する上で適切だった。	23	20	3	0	0	0	4.4
	(17) 視聴覚機器及び教育用機器の利用は、適切だった。	22	20	4	0	0	0	4.4
	(18) 教員の声は、聞き取りやすかった。	25	16	4	1	0	0	4.4
	(19) 授業の進む速さは、適切だった。	27	15	4	0	0	0	4.5
5 授業に対する満足度	(20) この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。	30	12	4	0	0	0	4.6



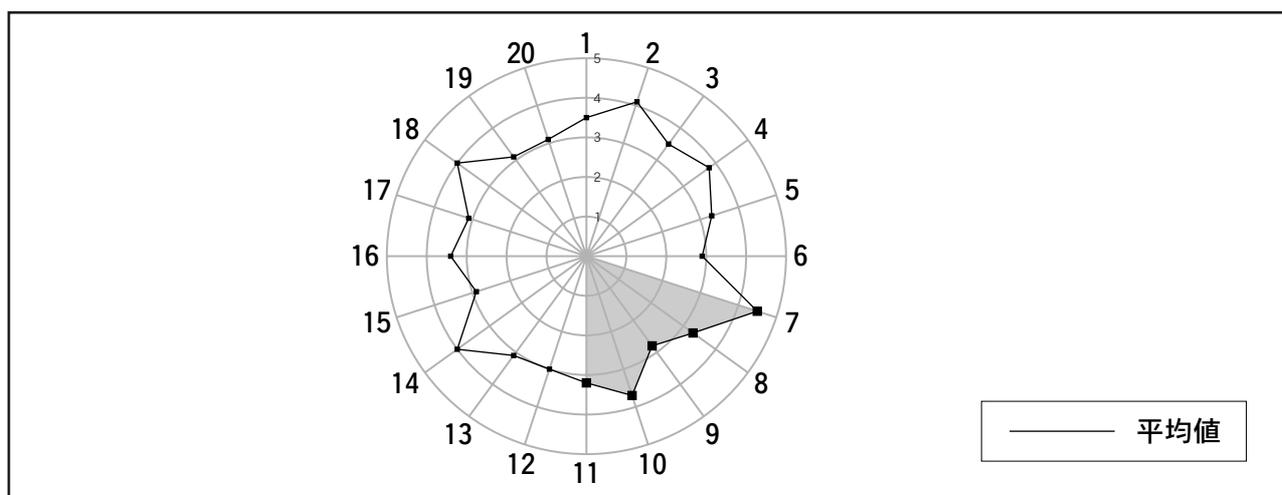
教員のコメント

ほとんどの項目で平均値4以上の評価を得ており、おおむね高い評価を得られた。特に授業に対する満足度では平均4.6という高い評価を得ることができた。ただしその中でも、受講者の授業への取り組みに関しては全体にやや低い評価となった。これは、比較的大人数での講義形式の授業であるためやむを得ない面もあるが、今後はもう少し受講生が授業に積極的に参加できる形での授業のあり方を工夫する必要があるだろう。

授業科目名 算数A・B
 評価実施日 平成19年7月17日
 担当教員名 廣瀬 隆司

回答者数 94名

質問項目	評価選択人数						平均値 (科目別)	
	5	4	3	2	1	N.A		
1 授業概要について	(1) 目標・授業計画・内容は、明確に示されていた。	19	31	29	10	5	0	3.5
	(2) 成績評価の方法は、明確に示されていた。	41	27	18	6	2	0	4.1
2 授業の内容等について	(3) 授業内容は、授業概要に沿っていた。	14	39	31	4	6	0	3.5
	(4) 授業内容は、教養や専門性を高めるものだった。	28	39	16	6	5	0	3.8
	(5) 授業内容は、教育に対する見方や考え方を学べるものだった。	14	31	26	15	8	0	3.3
	(6) 授業内容は、興味・関心を引くものだった。	9	23	31	15	16	0	2.9
3 あなたの授業への取り組みについて	(7) 授業によく出席した。	60	21	10	2	1	0	4.5
	(8) 授業内容をよく理解するために予習や復習をした。	13	27	33	13	7	0	3.3
	(9) 授業中に積極的に発言や質問をした。	5	20	31	28	10	0	2.8
	(10) 教員の説明をよく聞いた。	21	34	31	3	5	0	3.7
	(11) 分からないことや疑問に思ったことは調べた。	13	27	27	21	6	0	3.2
4 教員の授業の進め方について	(12) 学生の理解状況を確かめながら授業を行った。	10	25	24	21	14	0	3.0
	(13) 学生が参加しやすい授業だった。	11	28	27	17	11	0	3.1
	(14) 熱心に指導した。	40	24	20	8	2	0	4.0
	(15) 授業内容を分かりやすく説明した。	9	23	28	21	13	0	2.9
	(16) 教科書や配布資料等の教材は、内容を理解する上で適切だった。	16	29	29	12	8	0	3.4
	(17) 視聴覚機器及び教育用機器の利用は、適切だった。	10	18	42	11	9	0	3.1
	(18) 教員の声は、聞き取りやすかった。	41	23	17	10	2	0	4.0
	(19) 授業の進む速さは、適切だった。	15	20	31	16	12	0	3.1
5 授業に対する満足度	(20) この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。	9	31	25	22	7	0	3.1



教員のコメント

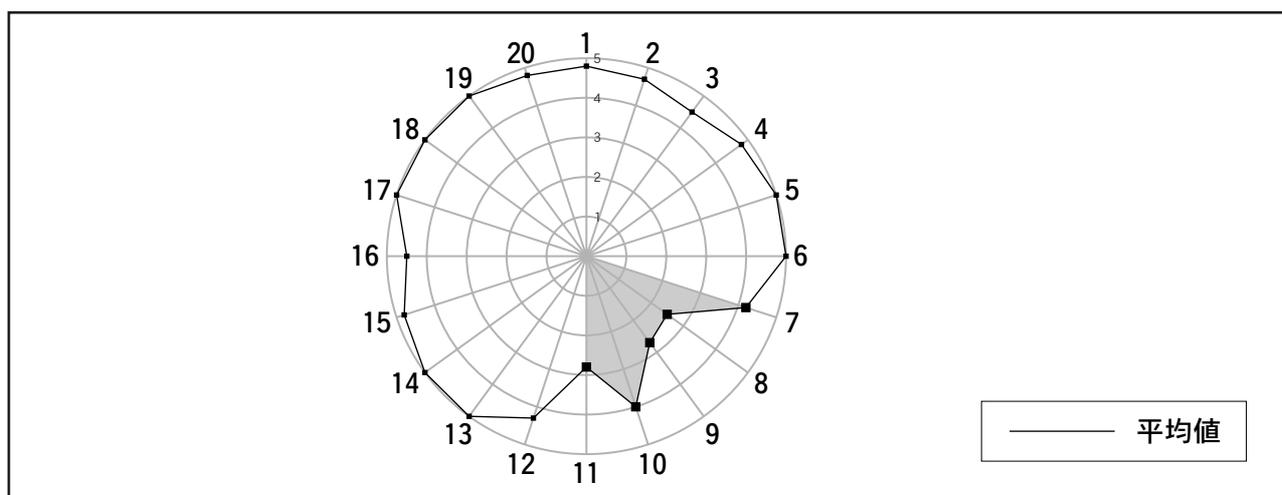
いくつかの学生の提言により、反省すべき点は反省し、平成20年度の授業にあたるのが教官のつとめと考えています。ただ、二、三のコメントを述べるなら、

- (1) 復習に力を入れてもらいたい。(難しいという前に)
- (2) 算数の背景には数学があるのは言うまでもありません。「算数ということから登録したが数学の授業が行われた」という意見が気にかかった。(シラバスを読んでいないのかな?)

授業科目名 初等体育Ⅱ
 評価実施日 平成19年7月25日
 担当教員名 賀川 昌明

回答者数 6名

質問項目	評価選択人数						平均値 (科目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
1 授業概要について	(1) 目標・授業計画・内容は、明確に示されていた。	5	1	0	0	0	4.8
	(2) 成績評価の方法は、明確に示されていた。	4	2	0	0	0	4.7
2 授業の内容等について	(3) 授業内容は、授業概要に沿っていた。	3	3	0	0	0	4.5
	(4) 授業内容は、教養や専門性を高めるものだった。	5	1	0	0	0	4.8
	(5) 授業内容は、教育に対する見方や考え方を学べるものだった。	6	0	0	0	0	5.0
	(6) 授業内容は、興味・関心を引くものだった。	6	0	0	0	0	5.0
3 あなたの授業への取り組みについて	(7) 授業によく出席した。	4	0	1	1	0	4.2
	(8) 授業内容をよく理解するために予習や復習をした。	2	0	0	1	3	2.5
	(9) 授業中に積極的に発言や質問をした。	2	0	1	0	3	2.7
	(10) 積極的に課題に取り組んだ。	3	1	1	1	0	4.0
	(11) 分からないことや疑問に思ったことは調べた。	2	0	0	3	1	2.8
4 教員の授業の進め方について	(12) 学生の理解状況を確かめながら授業を行った。	3	2	1	0	0	4.3
	(13) 学生参加型の授業だった。	6	0	0	0	0	5.0
	(14) 熱心に指導した。	6	0	0	0	0	5.0
	(15) 授業内容を分かりやすく説明した。	5	1	0	0	0	4.8
	(16) 教科書や配布資料等の教材は、内容を理解する上で適切だった。	4	1	1	0	0	4.5
	(17) 視聴覚機器及び教育用機器の利用は、適切だった。	6	0	0	0	0	5.0
	(18) 授業の進む速さは、適切だった。	6	0	0	0	0	5.0
	(19) 学生の疑問や質問に適切に答えた。	6	0	0	0	0	5.0
5 授業に対する満足度	(20) この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。	5	1	0	0	0	4.8



教員のコメント

本授業は、フレンドシップ事業の一環として行った附属幼稚園児への運動遊び「冒険ランド」指導に向けての企画・準備を中心に実施した。したがって、その内容は実習（演習）がほとんどであり、講義はオリエンテーションと報告書作成方法の説明時だけ実施した。

受講生の評価は、こういった授業方式の特徴を反映し、非常に高いものであった。特に質問項目(5)(6)(13)(14)(17)(18)(19)においては、受講生全員が5の評価をしている。また、その他の項目においても平均評価点4.0以上を示すものが多く、受講生にとって満足のできる内容であったと考える。

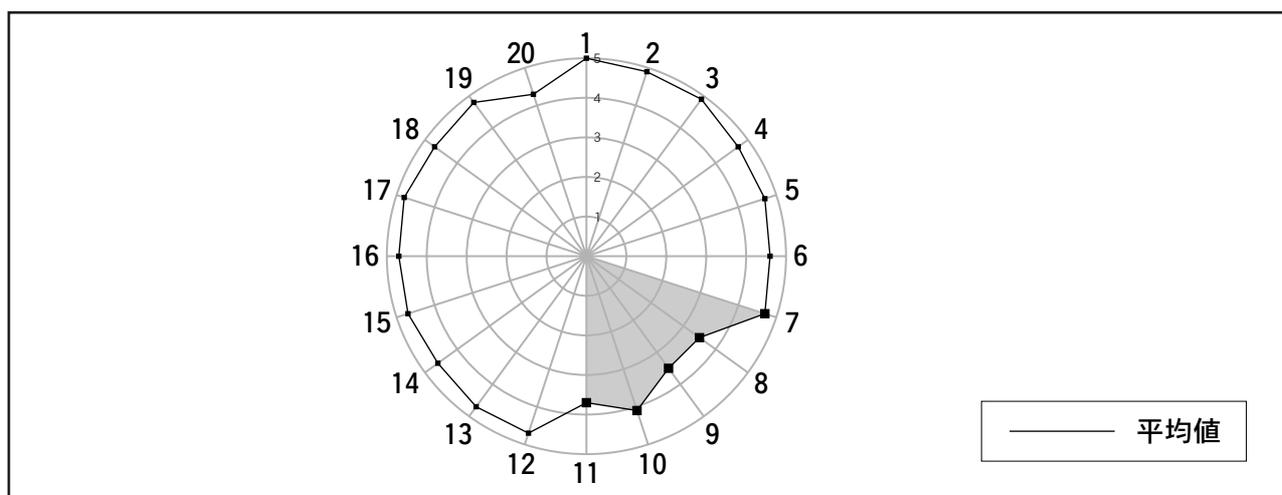
一方、受講生の授業に対する取り組み姿勢を示す項目のうち、授業時間外における学習への取り組みや時間内での発言・質問に関する項目(8)(9)(11)では、相対的に低い評価点となった。これは、この授業が前述のように実習（演習）を中心としたものであったことによるとと思われる。すなわち、授業者が事前の準備をきちんとし、それに対する資料提示や説明を丁寧にすることにより、受講生の時間外での学習や授業時間内での質問等が減ったものと考えられる。

学生によると、近年、どの授業も時間外での課題が多く、非常に忙しい毎日になっているとか。中には、その時間内だけで処理できる授業があってもいいように思われる。

授業科目名 児童福祉論
 評価実施日 平成19年7月31日
 担当教員名 木村 直子

回答者数 10名

質問項目	評価選択人数						平均値 (科目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
1 授業概要について	(1) 目標・授業計画・内容は、明確に示されていた。	10	0	0	0	0	5.0
	(2) 成績評価の方法は、明確に示されていた。	9	1	0	0	0	4.9
2 授業の内容等について	(3) 授業内容は、授業概要に沿っていた。	9	1	0	0	0	4.9
	(4) 授業内容は、教養や専門性を高めるものだった。	8	1	1	0	0	4.7
	(5) 授業内容は、教育に対する見方や考え方を学べるものだった。	8	1	1	0	0	4.7
	(6) 授業内容は、興味・関心を引くものだった。	7	2	1	0	0	4.6
3 あなたの授業への取り組みについて	(7) 授業によく出席した。	7	3	0	0	0	4.7
	(8) 授業内容をよく理解するために予習や復習をした。	1	5	2	2	0	3.5
	(9) 授業中に積極的に発言や質問をした。	1	5	3	0	1	3.5
	(10) 教員の説明をよく聞いた。	3	5	2	0	0	4.1
	(11) 分からないことや疑問に思ったことは調べた。	2	5	1	2	0	3.7
4 教員の授業の進め方について	(12) 学生の理解状況を確認しながら授業を行った。	7	3	0	0	0	4.7
	(13) 学生が参加しやすい授業だった。	7	3	0	0	0	4.7
	(14) 熱心に指導した。	7	2	1	0	0	4.6
	(15) 授業内容を分かりやすく説明した。	7	3	0	0	0	4.7
	(16) 教科書や配布資料等の教材は、内容を理解する上で適切だった。	7	3	0	0	0	4.7
	(17) 視聴覚機器及び教育用機器の利用は、適切だった。	8	2	0	0	0	4.8
	(18) 教員の声は、聞き取りやすかった。	7	3	0	0	0	4.7
	(19) 授業の進む速さは、適切だった。	8	2	0	0	0	4.8
5 授業に対する満足度	(20) この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。	6	1	3	0	0	4.3



教員のコメント

「1 授業概要について」「2 授業の内容等について」「4 教員の授業の進め方について」と比較して、「3 あなたの授業への取り組みについて」の5項目の評価得点が低い結果となっていた。このことは、学生の知的好奇心を刺激し、さらなる探究心を育むような授業でなかったことを如実に現している。特に、幼児教育専修において、「児童福祉」は専門職（幼稚園教諭・保育士）の根幹を成す部分であるにもかかわらず、積極的な授業への参加（発言・自発的予習・復習）を促すことができなかったことは、残念なことである。今後は、「児童福祉」を学ぶことの意義や意味について、学生と共有しながら授業を進めることで、学生の探究心を育めるよう努めたい。

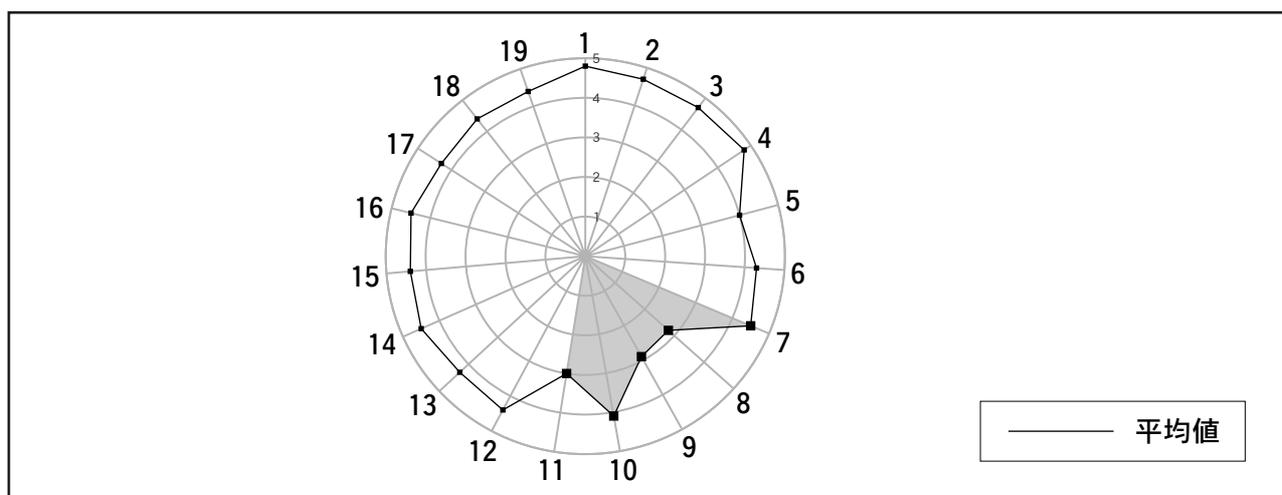
授業科目名 国語学概論（音声言語・文章表現を含む。）

評価実施日 平成19年7月26日

担当教員名 茂木 俊伸

回答者数 32名

質問項目	評価選択人数						平均値 (科目別)	
	5	4	3	2	1	N.A		
1 授業概要について	(1) 目標・授業計画・内容は、明確に示されていた。	24	7	0	0	0	0	4.8
	(2) 成績評価の方法は、明確に示されていた。	26	3	3	0	0	0	4.7
2 授業の内容等について	(3) 授業内容は、授業概要に沿っていた。	24	7	1	0	0	0	4.7
	(4) 授業内容は、教養や専門性を高めるものだった。	25	7	0	0	0	0	4.8
	(5) 授業内容は、教育に対する見方や考え方を学べるものだった。	16	5	8	2	1	0	4.0
	(6) 授業内容は、興味・関心を引くものだった。	17	9	5	1	0	0	4.3
3 あなたの授業への取り組みについて	(7) 授業によく出席した。	17	13	2	0	0	0	4.5
	(8) 授業内容をよく理解するために予習や復習をした。	2	4	15	7	4	0	2.8
	(9) 授業中に積極的に発言や質問をした。	2	5	15	7	3	0	2.9
	(10) 教員の説明をよく聞いた。	13	10	6	2	0	0	4.1
	(11) 分からないことや疑問に思ったことは調べた。	3	8	10	8	3	0	3.0
4 教員の授業の進め方について	(12) 学生の理解状況を確認しながら授業を行った。	16	12	4	0	0	0	4.4
	(13) 学生が参加しやすい授業だった。	17	10	3	2	0	0	4.3
	(14) 熱心に指導した。	21	7	4	0	0	0	4.5
	(15) 授業内容を分かりやすく説明した。	16	13	3	0	0	0	4.4
	(16) 教科書や配布資料等の教材は、内容を理解する上で適切だった。	19	11	2	0	0	0	4.5
	(17) 教員の声は、聞き取りやすかった。	18	7	5	2	0	0	4.3
	(18) 授業の進む速さは、適切だった。	18	9	5	0	0	0	4.4
	(19) この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。	18	10	3	1	0	0	4.4



教員のコメント

評価の平均が4.2であったこと、7項目（質問項目1～4・7・14・16）で高い評価（4.5以上）が得られたことから、概ね好意的な評価がなされたと思われる。

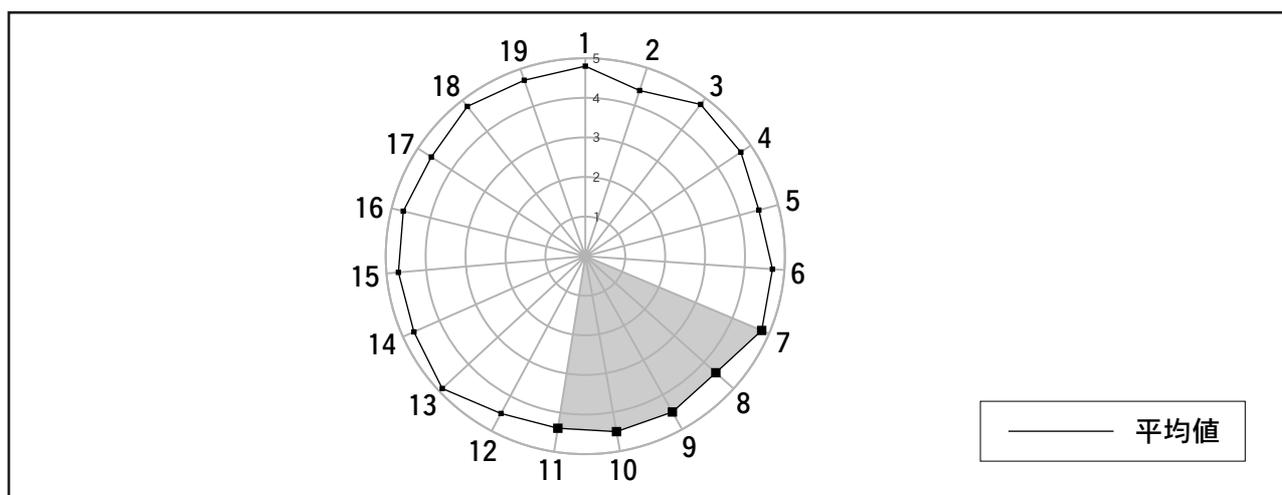
一方、質問項目8・9・11は評価が低い（3.0以下）。毎回の授業で提出を受け翌週回答する質問メモや、関連図書の紹介など、これまでも改善に向けた努力はしているが、授業外の主体的な学習に十分につながっていないのが現状である。

自由記述項目に関しては、この授業で「よかったこと」は21人、「改善したほうがよいと思うこと」は9人の記述があった。前者は、「日本語をいろいろな面から考えることができ、『ことばのアンテナ』を広げることができた」など、授業のねらいに沿ったコメントが得られた。後者で複数見られた「国語科以外の生徒も当ててほしかったです。少し疎外感がありました」という意見は、受講者の受講態度（着席位置など）の問題もあると考えるが、今後は注意したい。

授業科目名 国語学Ⅱ
 評価実施日 平成19年7月31日
 担当教員名 原 卓志

回答者数 20名

質問項目	評価選択人数						平均値 (科目別)	
	5	4	3	2	1	N.A		
1 授業概要について	(1) 目標・授業計画・内容は、明確に示されていた。	17	2	1	0	0	0	4.8
	(2) 成績評価の方法は、明確に示されていた。	12	4	4	0	0	0	4.4
2 授業の内容等について	(3) 授業内容は、授業概要に沿っていた。	16	4	0	0	0	0	4.8
	(4) 授業内容は、教養や専門性を高めるものだった。	14	5	1	0	0	0	4.7
	(5) 授業内容は、教育に対する見方や考え方を学べるものだった。	12	6	1	1	0	0	4.5
	(6) 授業内容は、興味・関心を引くものだった。	14	5	1	0	0	0	4.7
3 あなたの授業への取り組みについて	(7) 授業によく出席した。	17	2	1	0	0	0	4.8
	(8) 授業内容をよく理解するために予習や復習をした。	11	6	3	0	0	0	4.4
	(9) 授業中に積極的に発言や質問をした。	12	5	3	0	0	0	4.5
	(10) 積極的に課題に取り組んだ。	11	8	1	0	0	0	4.5
	(11) 分からないことや疑問に思ったことは調べた。	11	7	1	1	0	0	4.4
4 教員の授業の進め方について	(12) 学生の理解状況を確かめながら授業を行った。	10	9	1	0	0	0	4.5
	(13) 学生参加型の授業だった。	19	0	1	0	0	0	4.9
	(14) 熱心に指導した。	13	7	0	0	0	0	4.7
	(15) 授業内容を分かりやすく説明した。	14	5	1	0	0	0	4.7
	(16) 教科書や配布資料等の教材は、内容を理解する上で適切だった。	14	5	1	0	0	0	4.7
	(17) 授業の進む速さは、適切だった。	11	8	0	0	0	0	4.6
	(18) 学生の疑問や質問に適切に答えた。	16	3	0	0	0	0	4.8
5 授業に対する満足度	(19) この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。	15	4	1	0	0	0	4.7



教員のコメント

授業中の受講生の反応に確かな手応えを感じた授業であった。平均4.63という高い評価が得られたことから、受講生にとっても得ることの大きかった授業ではなかったかと考えている。

本授業では、受講生に対して2回(グループ)の模擬授業を課した。この模擬授業形式の授業について、「授業の作り方について学ぶことができた」「実際に模擬授業をしてみて改善点などを検討したりして、これからの実習に向けて役立つものになったと思います」「自分たちで模擬授業を作ることによって、授業に対する見方が変わった。とても良い経験となりました」「準備は本当にしんどかったけれど、将来に直結する授業だと思った」など、好意的な意見が集中している。また、毎時間の模擬授業に関する評価表作成を課したが、これについては、「2回も授業することができた。評価表を書くことで、授業をよく見ることができた」という意見があった。

改善すべき点についての記述は、一人もなかったが、授業担当者としては、模擬授業前半の体系的文法指導に関して、単に文法書を引き写しただけの模擬授業が多かったのが気がかった。教材分析を行う場合、自らが具体的な用例を様々な文献から抜き出して、それらの文法的機能を調査・研究するようしむけることの必要性を感じた。

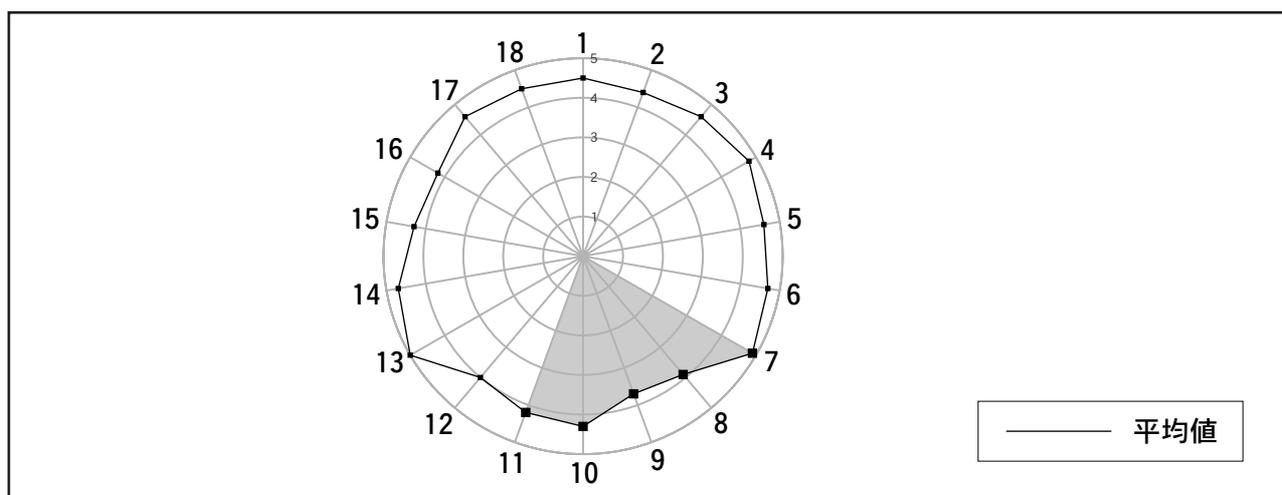
授業科目名 語学・文学総合演習Ⅰ（国語学）

評価実施日 平成19年7月31日

担当教員名 原 卓志, 茂木 俊伸

回答者数 24名

質問項目	評価選択人数						平均値 (科目別)	
	5	4	3	2	1	N.A		
1 授業概要について	(1) 目標・授業計画・内容は、明確に示されていた。	14	9	1	0	0	0	4.5
	(2) 成績評価の方法は、明確に示されていた。	10	13	1	0	0	0	4.4
2 授業の内容等について	(3) 授業内容は、授業概要に沿っていた。	14	10	0	0	0	0	4.6
	(4) 授業内容は、教養や専門性を高めるものだった。	19	5	0	0	0	0	4.8
	(5) 授業内容は、教育に対する見方や考え方を学べるものだった。	17	5	2	0	0	0	4.6
	(6) 授業内容は、興味・関心を引くものだった。	17	6	1	0	0	0	4.7
3 あなたの授業への取り組みについて	(7) 授業によく出席した。	21	3	0	0	0	0	4.9
	(8) 授業内容をよく理解するために予習や復習をした。	6	11	6	1	0	0	3.9
	(9) 授業中に積極的に発言や質問をした。	8	6	6	2	2	0	3.7
	(10) 積極的に課題に取り組んだ。	13	8	2	0	1	0	4.3
	(11) 分からないことや疑問に思ったことは調べた。	9	10	5	0	0	0	4.2
4 教員の授業の進め方について	(12) 学生の理解状況を確認しながら授業を行った。	8	9	6	1	0	0	4.0
	(13) 学生参加型の授業だった。	23	1	0	0	0	0	5.0
	(14) 熱心に指導した。	16	8	0	0	0	0	4.7
	(15) 授業内容を分かりやすく説明した。	10	9	3	0	0	0	4.3
	(16) 授業の進む速さは、適切だった。	11	7	5	1	0	0	4.2
	(17) 学生の疑問や質問に適切に答えた。	16	7	1	0	0	0	4.6
5 授業に対する満足度	(18) この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。	11	13	0	0	0	0	4.5



教員のコメント

平均評価4.44は、予想以上の高い評価であった。

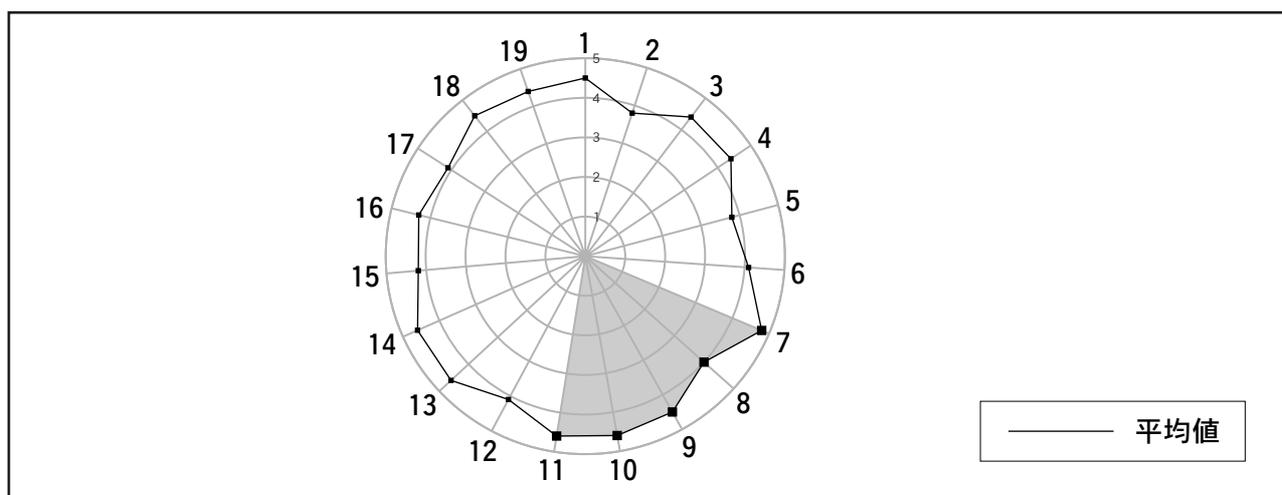
本授業は、実地教育をひかえた3年次生を対象として、1・2年次で学習してきた国語学的な知見が、小・中学校の教育現場での授業実践にどのようにつながるのかを考え、児童・生徒の発達段階に応じた授業実践のあり方について模擬授業を通して身に付けさせることを目的としている。受講生からは「実際に授業を作ったり、見たりして、いろんな失敗をしたり、いろいろな事に気づき、実習前のよい準備ができた」「実際に、実習前に模擬授業をできて、とても勉強になると思う」「模擬授業ということで、授業を行うことの難しさを実感できたのと同時に、考えることが多く、教育実習・教員採用試験にとっても参考になった」「模擬授業をするために時間をかけて教材研究した。良い経験になった」「国語科における授業作成・教材研究のあり方が理解できた」「子どもを指導する時の表現などの難しさが分かって良かった」などの意見があり、教育実習を目前にひかえた学生にとって有意義な授業であったことがうかがえる。

改善点としては、「時間オーバーです」「時間延長は避けてほしいと思う」など、時間延長に対する不満が多かった。このたびの時間延長は、2回の模擬授業を体験するという方針と、受講生数とを考えて実施することを説明し、受講生との合意の上での措置であった。にもかかわらず、不満として述べられた。授業担当者としても、決して好きで延長しているわけではないのであるが…。

授業科目名 国文学Ⅱ
 評価実施日 平成19年7月26日
 担当教員名 赤松 万里

回答者数 14名

質問項目	評価選択人数						平均値 (科目別)	
	5	4	3	2	1	N.A		
1 授業概要について	(1) 目標・授業計画・内容は、明確に示されていた。	9	4	0	1	0	0	4.5
	(2) 成績評価の方法は、明確に示されていた。	4	5	3	2	0	0	3.8
2 授業の内容等について	(3) 授業内容は、授業概要に沿っていた。	8	5	0	1	0	0	4.4
	(4) 授業内容は、教養や専門性を高めるものだった。	8	4	1	1	0	0	4.4
	(5) 授業内容は、教育に対する見方や考え方を学べるものだった。	5	3	4	2	0	0	3.8
	(6) 授業内容は、興味・関心を引くものだった。	7	4	2	0	1	0	4.1
3 あなたの授業への取り組みについて	(7) 授業によく出席した。	11	3	0	0	0	0	4.8
	(8) 授業内容をよく理解するために予習や復習をした。	6	4	3	0	1	0	4.0
	(9) 授業中に積極的に発言や質問をした。	9	3	2	0	0	0	4.5
	(10) 積極的に課題に取り組んだ。	10	3	1	0	0	0	4.6
	(11) 分からないことや疑問に思ったことは調べた。	10	3	1	0	0	0	4.6
4 教員の授業の進め方について	(12) 学生の理解状況を確かめながら授業を行った。	6	6	1	0	1	0	4.1
	(13) 学生参加型の授業だった。	12	1	0	0	1	0	4.6
	(14) 熱心に指導した。	11	2	0	0	1	0	4.6
	(15) 授業内容を分かりやすく説明した。	7	5	1	0	1	0	4.2
	(16) 教科書や配布資料等の教材は、内容を理解する上で適切だった。	8	4	1	0	1	0	4.3
	(17) 授業の進む速さは、適切だった。	7	4	2	0	1	0	4.1
	(18) 学生の疑問や質問に適切に答えた。	11	1	1	0	1	0	4.5
	(19) この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。	9	3	1	0	1	0	4.4



教員のコメント

授業は講義に変体仮名の読解を加えた。受講生は変体仮名の読解に熱心に取り組んだと思う。その点が興味を惹いたところだと思われる。

進度について遅いという意見もあったほか、受講生の理解度を見ながら、進度の個人差を解決出来るような授業の工夫が必要である。

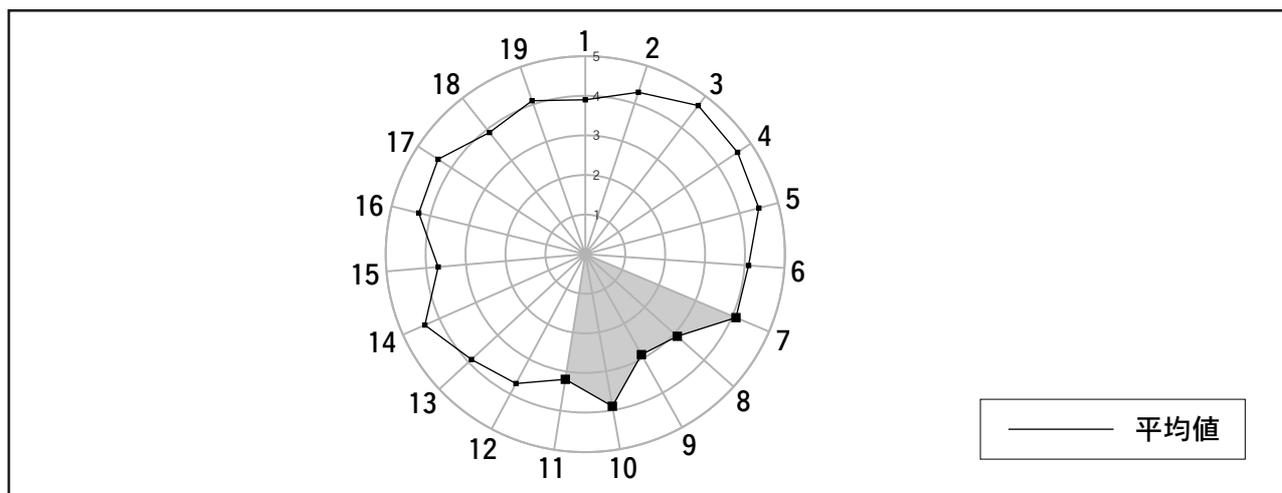
また受講学生の予習復習の項目8の評価が4.0であるので、もっと予習に力を入れ、復習についても確実なものに出来るように今後工夫が必要である。

「成績評価の方法」「授業内容は、教育に対する見方や考え方を学べるものだった」については3.8であったので、今後工夫が必要である。これ以外の項目については4以上であるので、改善の余地はあるものの、現状を踏まえて新たな工夫を付け加えてゆくことを考えたい。

授業科目名 学習英文法
 評価実施日 平成19年7月26日
 担当教員名 太田垣正義

回答者数 10名

質問項目	評価選択人数						平均値 (科目別)	
	5	4	3	2	1	N.A		
1 授業概要について	(1) 目標・授業計画・内容は、明確に示されていた。	0	9	1	0	0	0	3.9
	(2) 成績評価の方法は、明確に示されていた。	3	7	0	0	0	0	4.3
2 授業の内容等について	(3) 授業内容は、授業概要に沿っていた。	7	3	0	0	0	0	4.7
	(4) 授業内容は、教養や専門性を高めるものだった。	7	2	1	0	0	0	4.6
	(5) 授業内容は、教育に対する見方や考え方を学べるものだった。	5	5	0	0	0	0	4.5
	(6) 授業内容は、興味・関心を引くものだった。	3	5	2	0	0	0	4.1
3 あなたの授業への取り組みについて	(7) 授業によく出席した。	3	6	0	1	0	0	4.1
	(8) 授業内容をよく理解するために予習や復習をした。	0	2	7	1	0	0	3.1
	(9) 授業中に積極的に発言や質問をした。	1	1	6	0	2	0	2.9
	(10) 教員の説明をよく聞いた。	1	7	2	0	0	0	3.9
	(11) 分からないことや疑問に思ったことは調べた。	0	4	4	2	0	0	3.2
4 教員の授業の進め方について	(12) 学生の理解状況を確かめながら授業を行った。	2	4	3	1	0	0	3.7
	(13) 学生が参加しやすい授業だった。	2	5	3	0	0	0	3.9
	(14) 熱心に指導した。	5	4	1	0	0	0	4.4
	(15) 授業内容を分かりやすく説明した。	1	5	4	0	0	0	3.7
	(16) 教科書や配布資料等の教材は、内容を理解する上で適切だった。	3	6	0	0	0	0	4.3
	(17) 教員の声は、聞き取りやすかった。	5	4	1	0	0	0	4.4
	(18) 授業の進む速さは、適切だった。	2	5	3	0	0	0	3.9
	(19) この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。	3	5	2	0	0	0	4.1



教員のコメント

受講生が「授業中に積極的に発言や質問をした」が平均 2.9 という低い数値であったのは、意外であった。なぜなら、あるまとまりを扱った後必ず数人に指名し、質問や意見や提案を促す時間をとるようにしていたからである。

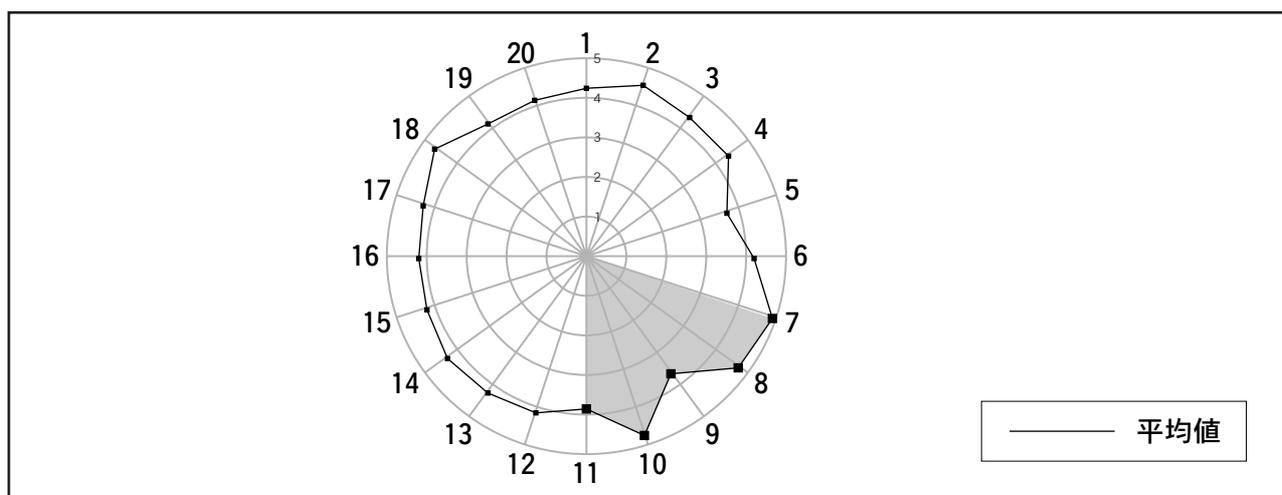
コミュニケーション型な指導法が提唱される中で、文法（指導）を考えるのは、多くの2年生の学生にとっては興味が薄く感じられたかもしれない。

実際に教壇に立ってからであれば、このテーマの重要性を認識できるものと思われる。

授業科目名 英文講読
 評価実施日 平成19年7月26日
 担当教員名 夫 明美

回答者数 19名

質 問 項 目		評価選択人数						平均値 (科目別)
		5	4	3	2	1	N.A	
1 授業概要について	(1) 目標・授業計画・内容は、明確に示されていた。	9	8	1	1	0	0	4.3
	(2) 成績評価の方法は、明確に示されていた。	14	3	1	1	0	0	4.6
2 授業の内容等について	(3) 授業内容は、授業概要に沿っていた。	10	6	3	0	0	0	4.4
	(4) 授業内容は、教養や専門性を高めるものだった。	13	3	2	0	1	0	4.4
	(5) 授業内容は、教育に対する見方や考え方を学べるものだった。	4	9	4	1	1	0	3.7
	(6) 授業内容は、興味・関心を引くものだった。	8	8	2	0	1	0	4.2
3 あなたの授業への取り組みについて	(7) 授業によく出席した。	17	2	0	0	0	0	4.9
	(8) 授業内容をよく理解するために予習や復習をした。	13	6	0	0	0	0	4.7
	(9) 授業中に積極的に発言や質問をした。	1	11	5	2	0	0	3.6
	(10) 教員の説明をよく聞いた。	13	6	0	0	0	0	4.7
	(11) 分からないことや疑問に思ったことは調べた。	3	10	5	1	0	0	3.8
4 教員の授業の進め方について	(12) 学生の理解状況を確認しながら授業を行った。	6	10	1	2	0	0	4.1
	(13) 学生が参加しやすい授業だった。	10	6	1	1	1	0	4.2
	(14) 熱心に指導した。	9	8	1	0	1	0	4.3
	(15) 授業内容を分かりやすく説明した。	9	7	1	1	1	0	4.2
	(16) 教科書や配布資料等の教材は、内容を理解する上で適切だった。	10	6	1	1	1	0	4.2
	(17) 視聴覚機器及び教育用機器の利用は、適切だった。	10	7	1	0	1	0	4.3
	(18) 教員の声は、聞き取りやすかった。	13	6	0	0	0	0	4.7
	(19) 授業の進む速さは、適切だった。	8	7	3	1	0	0	4.2
5 授業に対する満足度	(20) この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。	10	4	3	0	1	0	4.2



教員のコメント

全体的な評価としては概ねよいと思われる。本授業では英語が現在の形になってきた歴史的な推移についてのテキストを使用し、言語と社会・文化との相互作用について理解を深めることを主目的とした。

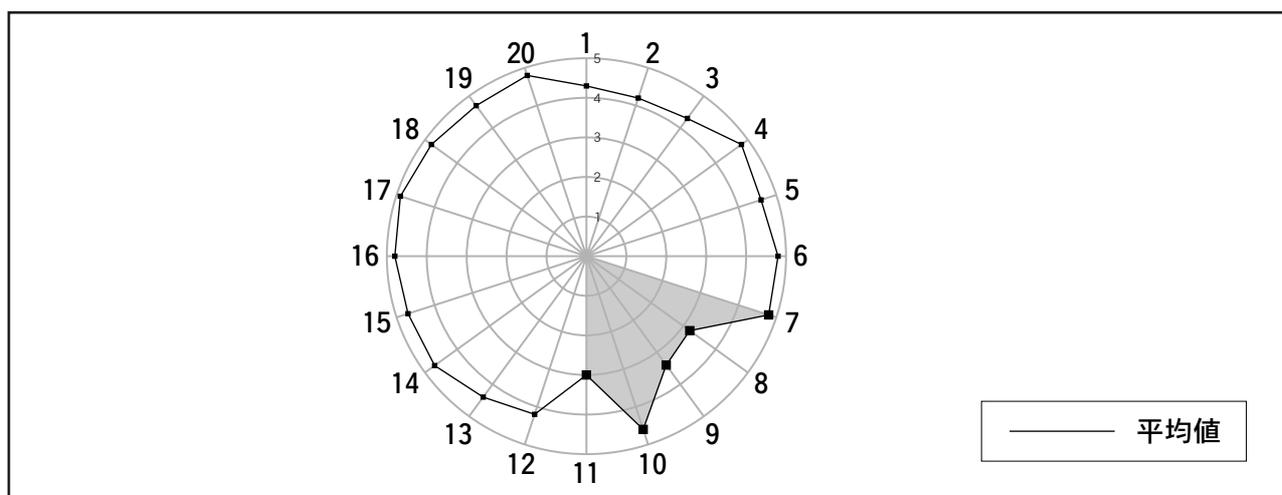
昨年度は初めて担当するということもあり一方通行な講義をしていた反省点を踏まえて、当該年度からは受講者同士のグループディスカッションやそれに基づく全体への発表活動を取り入れた。その結果、教員と学生、学生間でインタラクティブな授業が展開できた。

また学生の理解度を深め、授業担当者が彼（女）らの理解度を確認するためにワークシートを定期的に配布した。「テキスト以外の資料も調べて」授業に何か新しい知見を持ちあうことは、学生の知的好奇心を大いに刺激したようで、毎回有益なディスカッションや発表につながった。このことは、自由記述欄のコメントからもわかる。（「ワークシートや中間レポートなどで不明な点などを文献で調べるようにし、できる限りインターネットの情報ではない信頼できる情報を得るようにつとめた」・「ワークシートをグループで話し合う時は自分の意見を積極的に言った。他の人の意見も聞くことができてよかった」・「ワークシートをすることで、課題をしっかりと理解することができました」など）今後担当する授業でもこのような活動を取り入れて、よりよい授業運営を心がけたい。

授業科目名 米文学史
 評価実施日 平成19年7月27日
 担当教員名 前田 一平

回答者数 9名

質問項目	評価選択人数	評価選択人数						平均値 (科目別)
		5	4	3	2	1	N.A	
1 授業概要について	(1) 目標・授業計画・内容は、明確に示されていた。	3	6	0	0	0	0	4.3
	(2) 成績評価の方法は、明確に示されていた。	3	5	1	0	0	0	4.2
2 授業の内容等について	(3) 授業内容は、授業概要に沿っていた。	3	6	0	0	0	0	4.3
	(4) 授業内容は、教養や専門性を高めるものだった。	7	2	0	0	0	0	4.8
	(5) 授業内容は、教育に対する見方や考え方を学べるものだった。	6	2	1	0	0	0	4.6
	(6) 授業内容は、興味・関心を引くものだった。	7	2	0	0	0	0	4.8
3 あなたの授業への取り組みについて	(7) 授業によく出席した。	7	2	0	0	0	0	4.8
	(8) 授業内容をよく理解するために予習や復習をした。	0	2	7	0	0	0	3.2
	(9) 授業中に積極的に発言や質問をした。	2	1	5	1	0	0	3.4
	(10) 教員の説明をよく聞いた。	5	4	0	0	0	0	4.6
	(11) 分からないことや疑問に思ったことは調べた。	0	3	4	1	1	0	3.0
4 教員の授業の進め方について	(12) 学生の理解状況を確かめながら授業を行った。	4	3	2	0	0	0	4.2
	(13) 学生が参加しやすい授業だった。	4	5	0	0	0	0	4.4
	(14) 熱心に指導した。	6	3	0	0	0	0	4.7
	(15) 授業内容を分かりやすく説明した。	6	3	0	0	0	0	4.7
	(16) 教科書や配布資料等の教材は、内容を理解する上で適切だった。	7	2	0	0	0	0	4.8
	(17) 視聴覚機器及び教育用機器の利用は、適切だった。	8	1	0	0	0	0	4.9
	(18) 教員の声は、聞き取りやすかった。	7	2	0	0	0	0	4.8
	(19) 授業の進む速さは、適切だった。	7	1	1	0	0	0	4.7
5 授業に対する満足度	(20) この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。	7	2	0	0	0	0	4.8



教員のコメント

学生自身の授業への取り組みに関する質問(7)~(11)の中に平均値が3点台のものが3つあるが、それ以外はすべて4点台で、そのほとんどが4.5以上の評価である。授業に対する満足度を問う(20)の平均値は4.8である。提言も、すべてが肯定的な評価内容であり、改善点はあげられていない。全体的に期待以上の高評価なので、今後のための反省材料として考慮すべきは、学生の授業への取り組みを促す工夫であろう。特に質問(8)の予復習、(9)の発言・質問、(11)の調べることについては「3」と自己評価した受講生が多いので、受講生が自学習に積極的に取り組むことができる環境づくりに努め、授業に受講生が参加する議論を取り入れるべく工夫することが必要であると判断する。

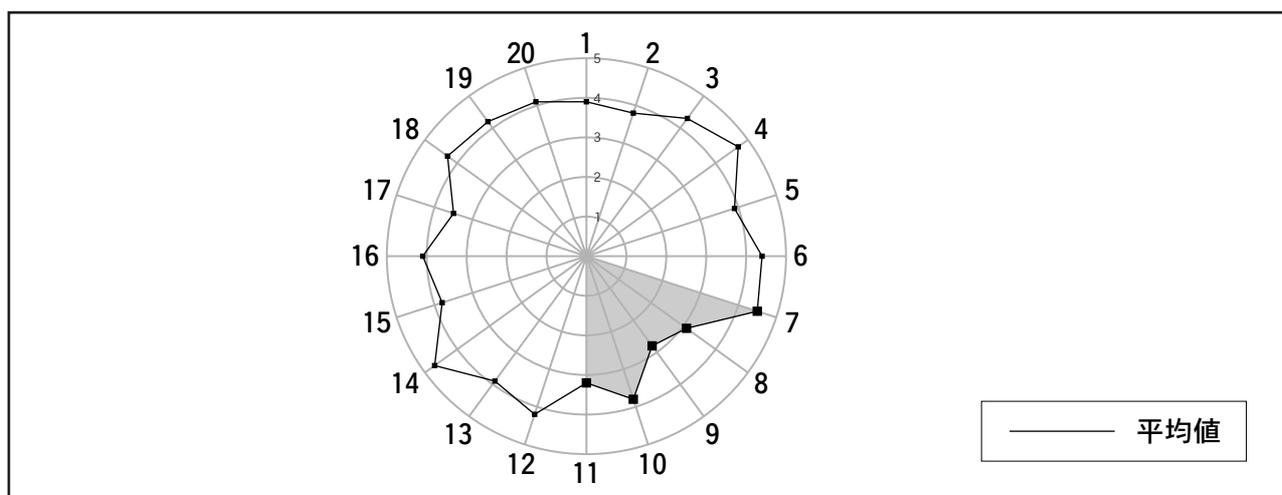
授業科目名 日本史学特論 I (古代・中世)

評価実施日 平成19年 7月19日

担当教員名 大石 雅章

回答者数 17名

質問項目	評価選択人数						平均値 (科目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
1 授業概要について	(1) 目標・授業計画・内容は、明確に示されていた。	2	12	3	0	0	3.9
	(2) 成績評価の方法は、明確に示されていた。	3	8	5	1	0	3.8
2 授業の内容等について	(3) 授業内容は、授業概要に沿っていた。	7	8	2	0	0	4.3
	(4) 授業内容は、教養や専門性を高めるものだった。	13	3	1	0	0	4.7
	(5) 授業内容は、教育に対する見方や考え方を学べるものだった。	4	8	4	1	0	3.9
	(6) 授業内容は、興味・関心を引くものだった。	8	7	2	0	0	4.4
3 あなたの授業への取り組みについて	(7) 授業によく出席した。	11	3	3	0	0	4.5
	(8) 授業内容をよく理解するために予習や復習をした。	2	3	7	5	0	3.1
	(9) 授業中に積極的に発言や質問をした。	1	3	5	7	1	2.8
	(10) 教員の説明をよく聞いた。	3	9	4	1	0	3.8
	(11) 分からないことや疑問に思ったことは調べた。	3	2	8	4	0	3.2
4 教員の授業の進め方について	(12) 学生の理解状況を確かめながら授業を行った。	6	9	2	0	0	4.2
	(13) 学生が参加しやすい授業だった。	5	7	4	1	0	3.9
	(14) 熱心に指導した。	12	5	0	0	0	4.7
	(15) 授業内容を分かりやすく説明した。	4	8	3	2	0	3.8
	(16) 教科書や配布資料等の教材は、内容を理解する上で適切だった。	7	6	3	1	0	4.1
	(17) 視聴覚機器及び教育用機器の利用は、適切だった。	2	6	8	1	0	3.5
	(18) 教員の声は、聞き取りやすかった。	9	4	4	0	0	4.3
	(19) 授業の進む速さは、適切だった。	7	7	3	0	0	4.2
5 授業に対する満足度	(20) この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。	5	9	3	0	0	4.1



教員のコメント

3の「あなたの授業への取り組みについて」の項目の評価が低いものとなっている。(8)の予習・復習に関しては、学生の授業時間以外に日本史の学習時間を要求することは、学生のカリキュラムの過密度からあえて要求しなかった。(9)の積極的に発言・質問したという点では、授業中に発言を促す方法を今後改善する必要がある。

あなたの提言の自由記述においては、荘園制など専門的な能力を高めることができたという内容のものが多く、受講生の教員としての能力を高める上で役立つものであったとみてよいと思う。

高等学校での日本史の修学の有無で、学生間の基礎的能力に差があり、できるだけそのような点を問題としないわかりやすい授業を努めた。「少し難しかった」という意見が1名みられた。その点は今後さらに努力する必要がある。

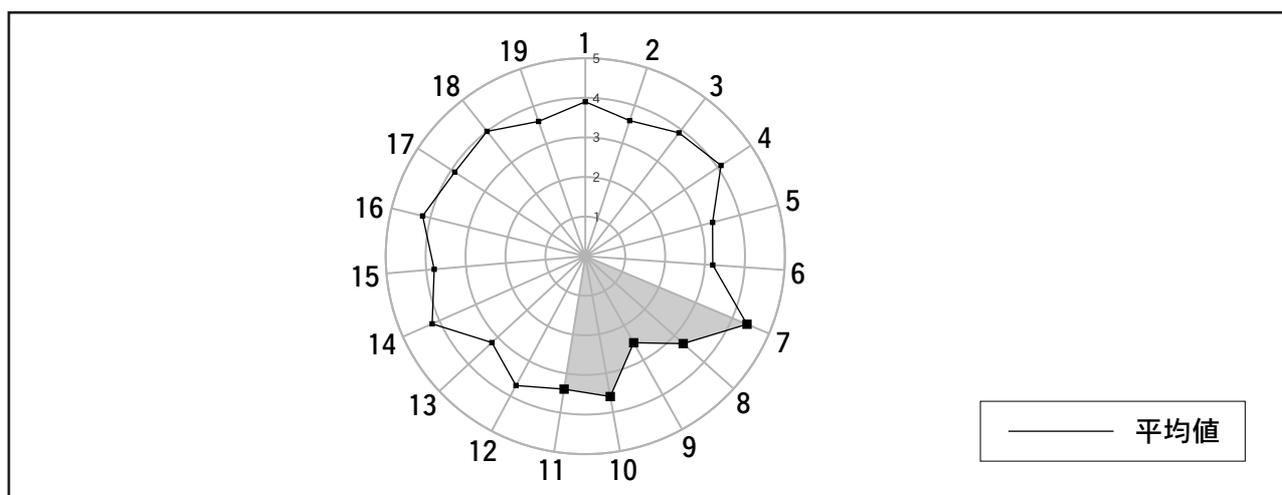
授業科目名 日本史学特論Ⅱ（近世・近代）

評価実施日 平成19年7月25日

担当教員名 町田 哲

回答者数 18名

質 問 項 目		評価選択人数						平均値 (科目別)
		5	4	3	2	1	N.A	
1 授業概要について	(1) 目標・授業計画・内容は、明確に示されていた。	5	6	7	0	0	0	3.9
	(2) 成績評価の方法は、明確に示されていた。	4	6	5	3	0	0	3.6
2 授業の内容等について	(3) 授業内容は、授業概要に沿っていた。	4	10	3	1	0	0	3.9
	(4) 授業内容は、教養や専門性を高めるものだった。	9	3	4	2	0	0	4.1
	(5) 授業内容は、教育に対する見方や考え方を学べるものだった。	3	4	6	5	0	0	3.3
	(6) 授業内容は、興味・関心を引くものだった。	3	5	3	7	0	0	3.2
3 あなたの授業への取り組みについて	(7) 授業によく出席した。	11	4	3	0	0	0	4.4
	(8) 授業内容をよく理解するために予習や復習をした。	1	5	10	2	0	0	3.3
	(9) 授業中に積極的に発言や質問をした。	0	1	9	6	2	0	2.5
	(10) 教員の説明をよく聞いた。	2	7	8	1	0	0	3.6
	(11) 分からないことや疑問に思ったことは調べた。	2	5	8	2	0	0	3.4
4 教員の授業の進め方について	(12) 学生の理解状況を確かめながら授業を行った。	4	7	4	3	0	0	3.7
	(13) 学生が参加しやすい授業だった。	0	6	9	3	0	0	3.2
	(14) 熱心に指導した。	6	10	2	0	0	0	4.2
	(15) 授業内容を分かりやすく説明した。	3	8	7	0	0	0	3.8
	(16) 教科書や配布資料等の教材は、内容を理解する上で適切だった。	7	7	3	0	0	0	4.2
	(17) 教員の声は、聞き取りやすかった。	5	7	6	0	0	0	3.9
	(18) 授業の進む速さは、適切だった。	6	6	6	0	0	0	4.0
	(19) この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。	3	6	7	2	0	0	3.6



教員のコメント

この授業では、日本の近世社会の成立と構造について、基本的理解を深めること、あわせて文献を読み込み理解する力量をつけることを到達目標としている。具体的には、山口啓二『鎖国と開国』（岩波現代文庫）をテキストに読み進め、必要に応じて授業者が解説や補足素材を提示しながら、進めている。

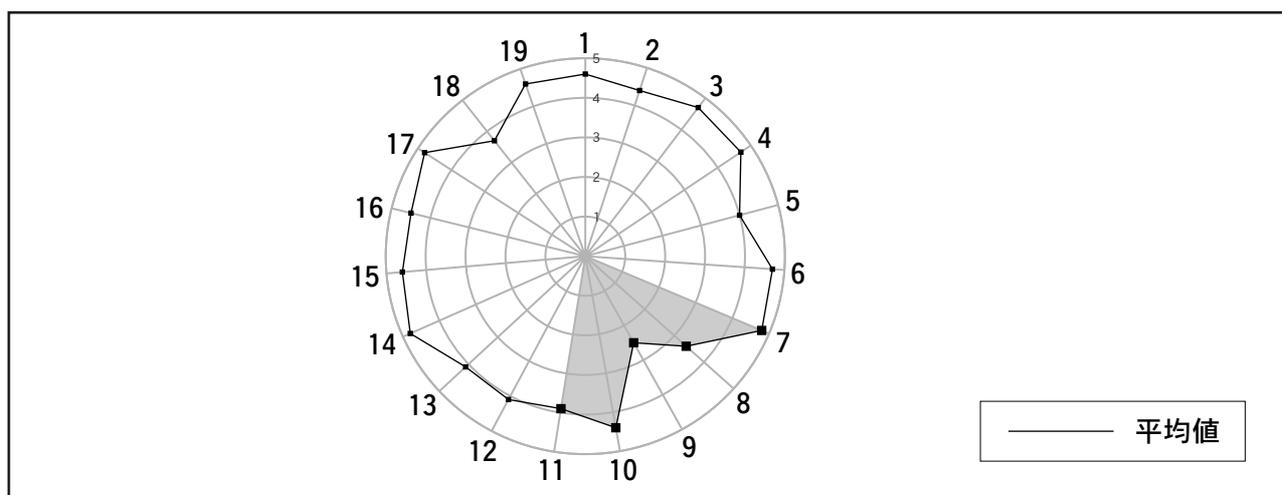
本年も授業概要・計画（1～2）や、授業の進め方（14～18）については概ね評価を得ることができた。授業内容については、「近世社会の構造や教科書に載っていない内在的な歴史がわかった」「今まで近世について持っていたイメージが変わった。民衆の視点から社会をみることができ興味深かった」とその専門性や興味関心を抱く学生がおり、その点で授業の目標はある程度達成したといえる。また「(テキストを)読んで要約することで筆者の考えを理解する(力量をつける)ことができた」との感想もあった。

しかし一方で、「本の内容が専門的で理解しにくかった」など、授業内容を十分理解できなかった学生も生じた結果となった。テキストを事前に読み込んでくることができない学生も少なからずいたようである。テキスト内容は一般向けでかつ内容の濃いものであるが、もう少し授業者の方で、わかりやすい解説を具体的に展開することが必要である。この点を改善したい。また、授業中の発言・質問についても促すように努力したい。

授業科目名 外国史概論
 評価実施日 平成19年6月6日
 担当教員名 原田 昌博

回答者数 28名

質問項目	評価選択人数						平均値 (科目別)	
	5	4	3	2	1	N.A		
1 授業概要について	(1) 目標・授業計画・内容は、明確に示されていた。	17	10	1	0	0	0	4.6
	(2) 成績評価の方法は、明確に示されていた。	14	12	2	0	0	0	4.4
2 授業の内容等について	(3) 授業内容は、授業概要に沿っていた。	21	6	1	0	0	0	4.7
	(4) 授業内容は、教養や専門性を高めるものだった。	21	6	1	0	0	0	4.7
	(5) 授業内容は、教育に対する見方や考え方を学べるものだった。	11	6	10	1	0	0	4.0
	(6) 授業内容は、興味・関心を引くものだった。	22	4	2	0	0	0	4.7
3 あなたの授業への取り組みについて	(7) 授業によく出席した。	22	6	0	0	0	0	4.8
	(8) 授業内容をよく理解するために予習や復習をした。	7	5	9	6	1	0	3.4
	(9) 授業中に積極的に発言や質問をした。	4	3	5	7	9	0	2.5
	(10) 教員の説明をよく聞いた。	15	9	4	0	0	0	4.4
	(11) 分からないことや疑問に思ったことは調べた。	10	6	10	2	0	0	3.9
4 教員の授業の進め方について	(12) 学生の理解状況を確認しながら授業を行った。	10	10	8	0	0	0	4.1
	(13) 学生が参加しやすい授業だった。	12	8	7	1	0	0	4.1
	(14) 熱心に指導した。	22	6	0	0	0	0	4.8
	(15) 授業内容を分かりやすく説明した。	18	8	2	0	0	0	4.6
	(16) 教科書や配布資料等の教材は、内容を理解する上で適切だった。	19	5	4	0	0	0	4.5
	(17) 教員の声は、聞き取りやすかった。	23	4	1	0	0	0	4.8
	(18) 授業の進む速さは、適切だった。	7	9	9	2	1	0	3.7
	(19) この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。	18	10	0	0	0	0	4.6



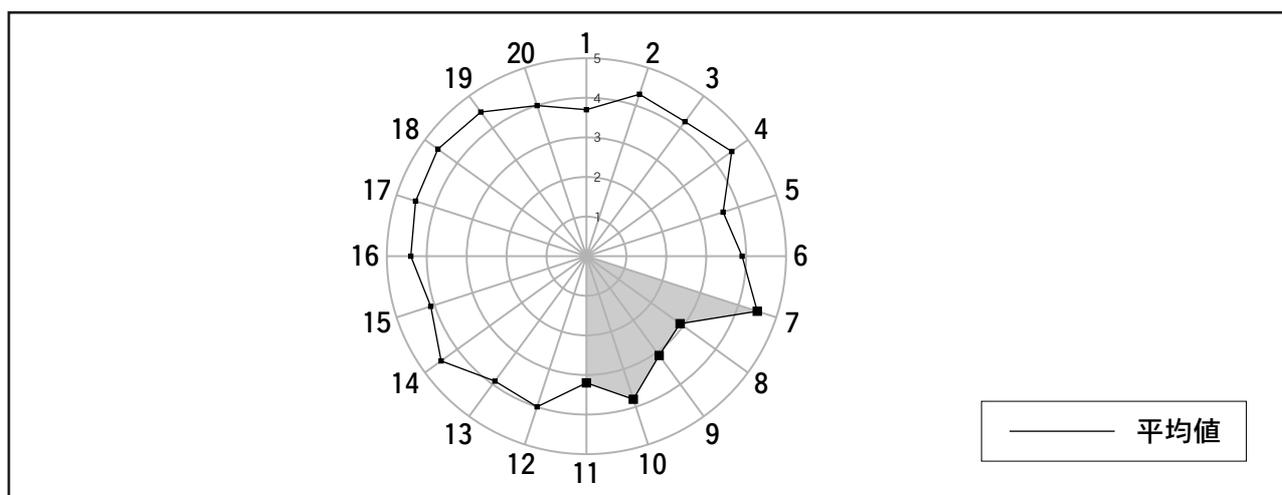
教員のコメント

本授業科目は主として1年次生を対象とした専門科目であり、「日本史学概論」とあわせて半期で開講されている。「概論」という性格上、外国史に関する一通りの説明を盛り込む必要があるが、講義回数との関係でフランス革命から冷戦期までの近現代史を講義内容とした。この講義の内容および進め方については各項目に渡りほとんどの学生が「4」以上と評価しており、とりわけ「授業内容の専門性」、「出席」、「興味・関心」、「教員の熱心さ」、「声の聞き取りやすさ」などの項目での評価が高い。この結果、講義の「満足度」を問う最後の質問では、全員が「5」もしくは「4」の評価を下している。講義では内容レジュメをB4サイズで5枚、資料レジュメを9枚配布したが、「レジュメが分かりやすかった」という複数の感想からも学生の内容理解に役立ったと考えられる。限られた時間数の中で講義内容を急いで消化せざるを得ず、このため一部の学生には講義の進行（特に講義後半の20世紀の部分）が「速く」感じられたようである。半期（7回）の講義のために止むを得ない面があるとはいえ、この点はできる限り改善する必要があると考えられる。

授業科目名 人文地理学特論
 評価実施日 平成19年8月2日
 担当教員名 木原 克司

回答者数 17名

質問項目	評価選択人数						平均値 (科目別)	
	5	4	3	2	1	N.A		
1 授業概要について	(1) 目標・授業計画・内容は、明確に示されていた。	2	8	7	0	0	0	3.7
	(2) 成績評価の方法は、明確に示されていた。	7	8	2	0	0	0	4.3
2 授業の内容等について	(3) 授業内容は、授業概要に沿っていた。	7	6	4	0	0	0	4.2
	(4) 授業内容は、教養や専門性を高めるものだった。	9	7	1	0	0	0	4.5
	(5) 授業内容は、教育に対する見方や考え方を学べるものだった。	3	5	8	1	0	0	3.6
	(6) 授業内容は、興味・関心を引くものだった。	4	8	5	0	0	0	3.9
3 あなたの授業への取り組みについて	(7) 授業によく出席した。	9	8	0	0	0	0	4.5
	(8) 授業内容をよく理解するために予習や復習をした。	0	5	7	4	1	0	2.9
	(9) 授業中に積極的に発言や質問をした。	0	6	7	3	1	0	3.1
	(10) 教員の説明をよく聞いた。	4	6	6	1	0	0	3.8
	(11) 分からないことや疑問に思ったことは調べた。	0	8	5	3	1	0	3.2
4 教員の授業の進め方について	(12) 学生の理解状況を確かめながら授業を行った。	5	7	5	0	0	0	4.0
	(13) 学生が参加しやすい授業だった。	5	7	3	2	0	0	3.9
	(14) 熱心に指導した。	8	9	0	0	0	0	4.5
	(15) 授業内容を分かりやすく説明した。	4	10	3	0	0	0	4.1
	(16) 教科書や配布資料等の教材は、内容を理解する上で適切だった。	8	7	2	0	0	0	4.4
	(17) 視聴覚機器及び教育用機器の利用は、適切だった。	10	6	1	0	0	0	4.5
	(18) 教員の声は、聞き取りやすかった。	11	5	1	0	0	0	4.6
	(19) 授業の進む速さは、適切だった。	9	7	1	0	0	0	4.5
5 授業に対する満足度	(20) この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。	4	9	4	0	0	0	4.0



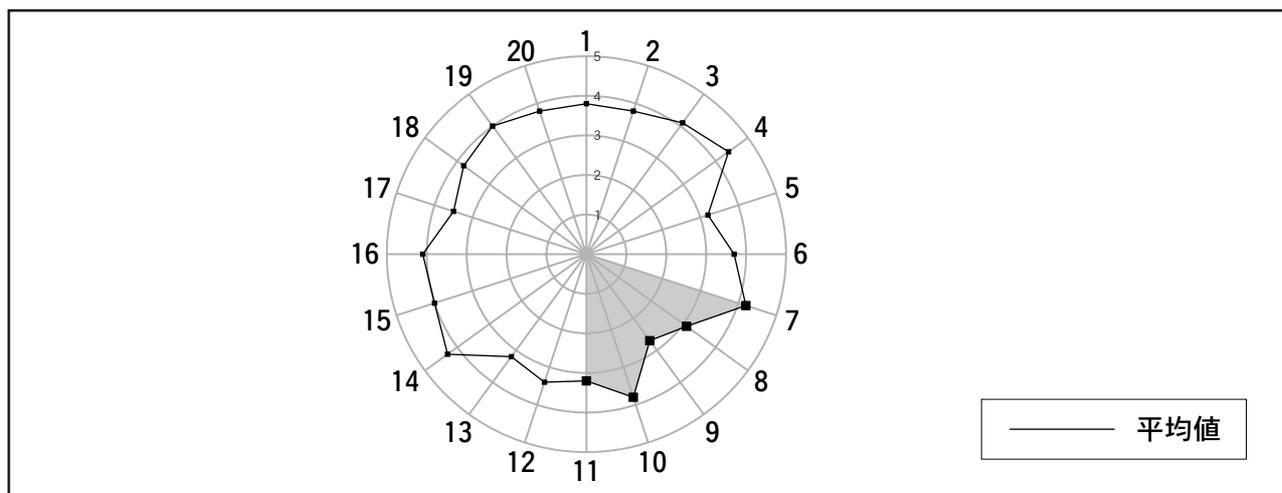
教員のコメント

20項目全体の評価平均値は4.0であり、アンケートの中の大項目のうち1. 授業概要、2. 授業の内容、4. 授業の進め方、5. 授業に対する満足度に関しては、それぞれ4.0、4.05、4.31、4.0と平均もしくはそれを上回る評価が提示されており、教員サイドの授業構成・内容・進め方については受講生の大部分が満足していると判断できる。しかし、学生サイドの授業への取り組みに関しては、例年通り全体で3.5と低い評価となっており、授業への出席は良好であるが、予習・復習はせず質問もあまりしないという本学学生の特徴が明瞭に現れている。今年度は授業の中で、グループによる空中写真の判読など受講者全員が積極的に授業に参加できるよう実習的な授業を取り入れてみたが、効果はあまりなかったようである。学生の授業への取り組みに対するこうした課題解決のためには、教員サイドから積極的に宿題を出すなどの対策が必要であるように思う。

授業科目名 哲学・倫理学概論
 評価実施日 平成19年7月31日
 担当教員名 齋木 哲郎

回答者数 25名

質問項目	評価選択人数						平均値 (科目別)	
	5	4	3	2	1	N.A		
1 授業概要について	(1) 目標・授業計画・内容は、明確に示されていた。	7	8	9	1	0	0	3.8
	(2) 成績評価の方法は、明確に示されていた。	7	6	11	1	0	0	3.8
2 授業の内容等について	(3) 授業内容は、授業概要に沿っていた。	8	12	5	0	0	0	4.1
	(4) 授業内容は、教養や専門性を高めるものだった。	12	12	0	1	0	0	4.4
	(5) 授業内容は、教育に対する見方や考え方を学べるものだった。	3	7	8	6	1	0	3.2
	(6) 授業内容は、興味・関心を引くものだった。	5	12	4	4	0	0	3.7
3 あなたの授業への取り組みについて	(7) 授業によく出席した。	11	9	5	0	0	0	4.2
	(8) 授業内容をよく理解するために予習や復習をした。	2	5	12	5	1	0	3.1
	(9) 授業中に積極的に発言や質問をした。	1	4	9	8	3	0	2.7
	(10) 教員の説明をよく聞いた。	4	14	5	2	0	0	3.8
	(11) 分からないことや疑問に思ったことは調べた。	2	7	9	7	0	0	3.2
4 教員の授業の進め方について	(12) 学生の理解状況を確かめながら授業を行った。	3	11	5	5	1	0	3.4
	(13) 学生が参加しやすい授業だった。	2	9	7	5	2	0	3.2
	(14) 熱心に指導した。	11	11	2	1	0	0	4.3
	(15) 授業内容を分かりやすく説明した。	7	12	4	2	0	0	4.0
	(16) 教科書や配布資料等の教材は、内容を理解する上で適切だった。	8	10	6	0	0	0	4.1
	(17) 視聴覚機器及び教育用機器の利用は、適切だった。	5	5	12	2	0	0	3.5
	(18) 教員の声は、聞き取りやすかった。	9	5	8	2	1	0	3.8
	(19) 授業の進む速さは、適切だった。	8	12	2	2	1	0	4.0
5 授業に対する満足度	(20) この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。	5	12	5	3	0	0	3.8



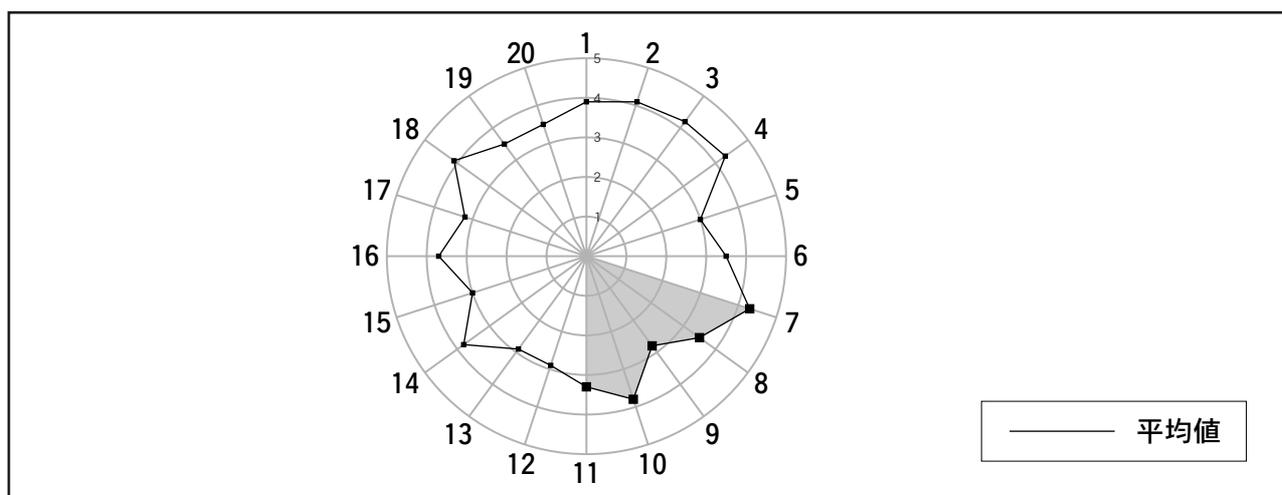
教員のコメント

哲学・倫理学と言えば、分かりにくい、何のことか分からない、それがどういう意味を持つのか、挙げ句には、何を言いたいのか分からない、といった評価が相場である。翻って私の授業であるが、受講生にはよく理解できたというのが総評のようである。ひとまず、これまでの授業形態にさほどの問題点はなかったということになる。ただし、受講生の取り組みとなると、すこし事情が異なってくる。予習や復習をした、ないし発言や質問をした、という点では、平均値が下がる。哲学や倫理学、あるいはフィールドに設定している東洋にさほどの関心を持ってないということであろうが、この点はステレオ・タイプの誕生を防ぐ意味でも何らかの工夫が求められるところであろう。

授業科目名 代数学Ⅱ
 評価実施日 平成19年7月17日
 担当教員名 平野 康之

回答者数 14名

質問項目	評価選択人数	評価選択人数						平均値 (科目別)
		5	4	3	2	1	N.A	
1 授業概要について	(1) 目標・授業計画・内容は、明確に示されていた。	4	5	4	1	0	0	3.9
	(2) 成績評価の方法は、明確に示されていた。	6	4	3	1	0	0	4.1
2 授業の内容等について	(3) 授業内容は、授業概要に沿っていた。	5	5	3	0	0	0	4.2
	(4) 授業内容は、教養や専門性を高めるものだった。	6	5	2	0	0	0	4.3
	(5) 授業内容は、教育に対する見方や考え方を学べるものだった。	2	2	4	4	1	0	3.0
	(6) 授業内容は、興味・関心を引くものだった。	2	4	5	2	0	0	3.5
3 あなたの授業への取り組みについて	(7) 授業によく出席した。	7	4	3	0	0	0	4.3
	(8) 授業内容をよく理解するために予習や復習をした。	1	6	6	1	0	0	3.5
	(9) 授業中に積極的に発言や質問をした。	1	4	2	5	2	0	2.8
	(10) 教員の説明をよく聞いた。	4	4	5	1	0	0	3.8
	(11) 分からないことや疑問に思ったことは調べた。	2	4	4	4	0	0	3.3
4 教員の授業の進め方について	(12) 学生の理解状況を確認しながら授業を行った。	1	4	4	3	2	0	2.9
	(13) 学生が参加しやすい授業だった。	1	3	5	4	1	0	2.9
	(14) 熱心に指導した。	4	5	4	0	1	0	3.8
	(15) 授業内容を分かりやすく説明した。	2	2	5	4	1	0	3.0
	(16) 教科書や配布資料等の教材は、内容を理解する上で適切だった。	2	7	4	1	0	0	3.7
	(17) 視聴覚機器及び教育用機器の利用は、適切だった。	1	2	9	0	1	0	3.2
	(18) 教員の声は、聞き取りやすかった。	7	3	2	2	0	0	4.1
	(19) 授業の進む速さは、適切だった。	2	5	5	2	0	0	3.5
5 授業に対する満足度	(20) この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。	3	4	5	1	1	0	3.5



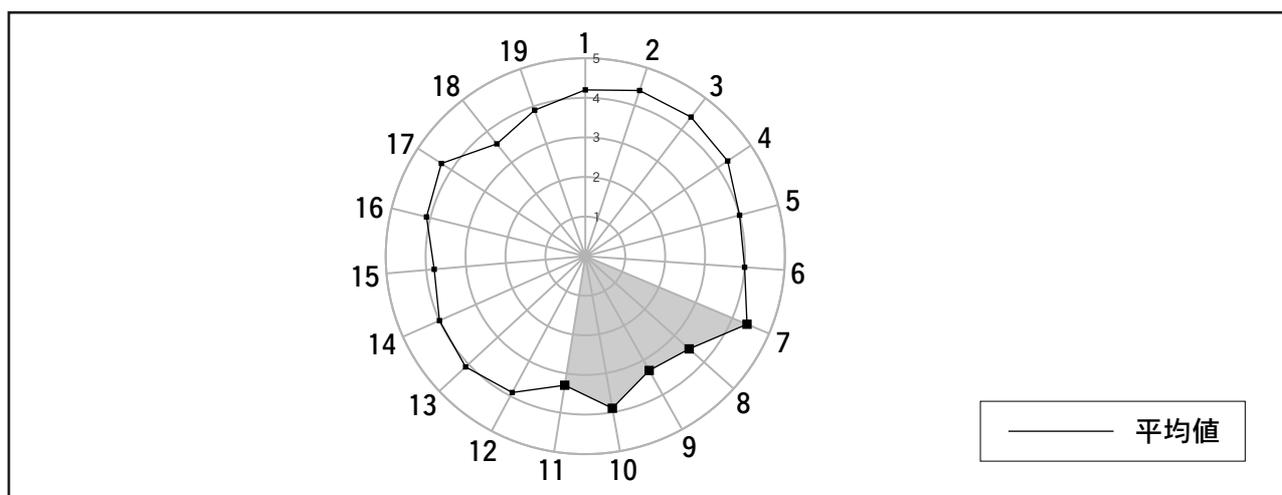
教員のコメント

全般的に値が3～5に集中しており、「この授業は自分自身にとって満足のいくものであったか」という質問項目に対する項目分析20では3～5が85%以上を占めていたこと、熱心に指導したことに対する評価の平均値が3.8と良かったこと、授業内容を分かりやすく説明したことに対する評価の平均値が3.0であったので、受講者が概ね、この授業に満足しているものと思われる。学生が授業によく出席し、適度に予習、復習をし、教員の説明をよく聞いてくれたことに対しては感謝したい。視聴覚機器や教育用機器もほぼ適切であったようである。「学生が参加しやすい授業であった」という質問の評価の平均値は2.9であったが、受講生の発表、発言する場をあまり与えなかったことは反省すべきかも知れない。数学は講義を聴くだけでなく、受講生が自ら問題を解くことが理解する上で大切であるので、小テストを度々行なった。このことを通して、学生の理解を確認しながら授業したつもりであるが、このことについても受講生の評価はそこそこであった。授業内容が明確にされ、授業概要に沿っていたこと、成績評価の方法が明確にされていたことに対する評価がよかったので、今後もこのような説明を続けて行きたい。

授業科目名 幾何学 I
 評価実施日 平成19年 7 月26日
 担当教員名 松岡 隆

回答者数 29名

質問項目	評価選択人数						平均値 (科目別)	
	5	4	3	2	1	N.A		
1 授業概要について	(1) 目標・授業計画・内容は、明確に示されていた。	13	11	3	2	0	0	4.2
	(2) 成績評価の方法は、明確に示されていた。	19	5	4	1	0	0	4.4
2 授業の内容等について	(3) 授業内容は、授業概要に沿っていた。	15	8	5	0	0	0	4.4
	(4) 授業内容は、教養や専門性を高めるものだった。	15	9	3	2	0	0	4.3
	(5) 授業内容は、教育に対する見方や考え方を学べるものだった。	9	13	5	2	0	0	4.0
	(6) 授業内容は、興味・関心を引くものだった。	13	5	9	2	0	0	4.0
3 あなたの授業への取り組みについて	(7) 授業によく出席した。	20	3	5	1	0	0	4.4
	(8) 授業内容をよく理解するために予習や復習をした。	5	9	11	2	1	0	3.5
	(9) 授業中に積極的に発言や質問をした。	6	4	13	5	1	0	3.3
	(10) 教員の説明をよく聞いた。	11	4	13	1	0	0	3.9
	(11) 分からないことや疑問に思ったことは調べた。	5	6	14	2	2	0	3.3
4 教員の授業の進め方について	(12) 学生の理解状況を確認しながら授業を行った。	8	11	9	1	0	0	3.9
	(13) 学生が参加しやすい授業だった。	15	5	5	4	0	0	4.1
	(14) 熱心に指導した。	10	10	7	2	0	0	4.0
	(15) 授業内容を分かりやすく説明した。	9	10	7	2	1	0	3.8
	(16) 教科書や配布資料等の教材は、内容を理解する上で適切だった。	11	10	7	1	0	0	4.1
	(17) 教員の声は、聞き取りやすかった。	14	11	3	0	1	0	4.3
	(18) 授業の進む速さは、適切だった。	8	8	7	6	0	0	3.6
	(19) この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。	9	11	6	2	1	0	3.9



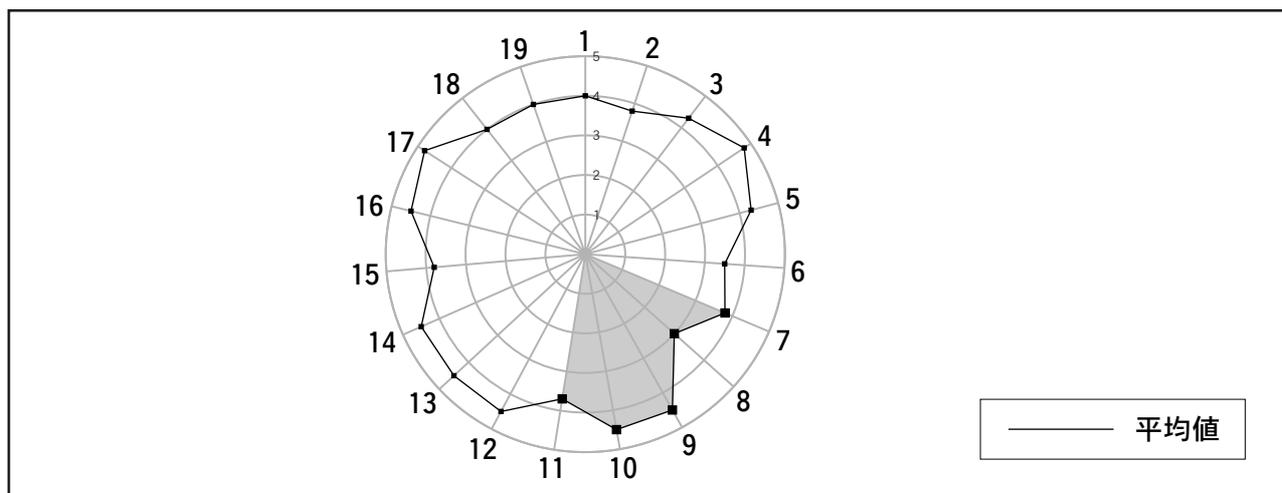
教員のコメント

今年度授業内容を大幅に変更したため、効果を予測しにくい部分もあったが、まずまずの評価であったように思われる。評価平均値が4未満の項目は8～11, 12, 15, 18, 19であった。項目8～11は受講生側の授業への取り組みが若干低いことを示している。小テストを毎回行うなどの工夫をしているが、さらに効果的な方法を模索したい。項目12, 15, 18は、理解状況の確認、説明の分かりやすさ、授業進度について、少し不満足な面があることを示している。これらの点に関し自由記述の「改善点」欄に以下の記述があった：「もっと基礎をゆっくりと」、「時間がなくなると焦って説明が雑になりがちだった」などの内容4件、「生徒の答えをもう一度説明してほしい」、「証明を黒板に書いたほうがいい」。重要な部分はより丁寧に説明し、また、受講生の発表を整理して改めて説明し直すようにしたい。「よかったこと」欄には以下の記述があった。「自分で作ったりする作業があって分かりやすかった」等6件、「楽しかった」等6件、「新しい発見があった」等2件、「実践的」2件、「先生がずっと説明するのではなく生徒がよく説明していた」、「当然と思っていた公式や定理の証明を知れた」、「様々な教材の提示があり非常に興味深い内容だった」、「考え方や数学的な見方をきたえることができた」、「高校の範囲からしっかり進めてくれた」。なお「改善点」欄には、「出席を成績に入れた方がいい」（2件）、「私語がうるさく退室をうながすべき」、「求める問題を増やしてほしい」との記述もあった。

授業科目名 解析学特論Ⅱ
 評価実施日 平成19年7月27日
 担当教員名 成川 公昭

回答者数 4名

質問項目	評価選択人数						平均値 (科目別)	
	5	4	3	2	1	N.A		
1 授業概要について	(1) 目標・授業計画・内容は、明確に示されていた。	2	0	2	0	0	0	4.0
	(2) 成績評価の方法は、明確に示されていた。	1	1	2	0	0	0	3.8
2 授業の内容等について	(3) 授業内容は、授業概要に沿っていた。	2	1	1	0	0	0	4.3
	(4) 授業内容は、教養や専門性を高めるものだった。	3	1	0	0	0	0	4.8
	(5) 授業内容は、教育に対する見方や考え方を学べるものだった。	2	1	1	0	0	0	4.3
	(6) 授業内容は、興味・関心を引くものだった。	0	2	2	0	0	0	3.5
3 あなたの授業への取り組みについて	(7) 授業によく出席した。	1	1	2	0	0	0	3.8
	(8) 授業内容をよく理解するために予習や復習をした。	0	1	2	1	0	0	3.0
	(9) 授業中に積極的に発言や質問をした。	2	2	0	0	0	0	4.5
	(10) 教員の説明をよく聞いた。	2	2	0	0	0	0	4.5
	(11) 分からないことや疑問に思ったことは調べた。	0	2	1	0	0	0	3.7
4 教員の授業の進め方について	(12) 学生の理解状況を確認しながら授業を行った。	2	2	0	0	0	0	4.5
	(13) 学生が参加しやすい授業だった。	2	2	0	0	0	0	4.5
	(14) 熱心に指導した。	2	2	0	0	0	0	4.5
	(15) 授業内容を分かりやすく説明した。	0	3	1	0	0	0	3.8
	(16) 教科書や配布資料等の教材は、内容を理解する上で適切だった。	2	2	0	0	0	0	4.5
	(17) 教員の声は、聞き取りやすかった。	3	1	0	0	0	0	4.8
	(18) 授業の進む速さは、適切だった。	0	3	0	0	0	0	4.0
	(19) この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。	1	2	1	0	0	0	4.0



教員のコメント

平均値はおおむね4以上、3点台の項目でもほとんどが4点に近い点数であった。しかし、そのなかで項目(8)が3.0であるのが問題点と思われる。授業への出席は良好であるが、授業内容をよく理解するための予習や復習が十分に行われていない。このことは本授業に対してのみいえることではなく、最近の学生の傾向であると思われる。授業に出ているだけでは十分に理解することは不可能であり、自宅学習により授業の補足を行うことが期待される。このことを考え、宿題や自ら調査研究する課題の設定を行わなければいけないと感じた。強制的にではなく、学生の自発的な勉学意欲を期待していたが、今の学生に対しては無理矢理にでも勉強せざるを得ないような環境にしなければいけないのかも知れない。

6. のあなたからの提言の欄には、次の3点が記されていた。

(21)・忘れていた微積の基本事項などを思い出すことが出来たのが良かったのと詳しく理解することが出来たように思います。

・学生の進度に沿って内容を進めていった。

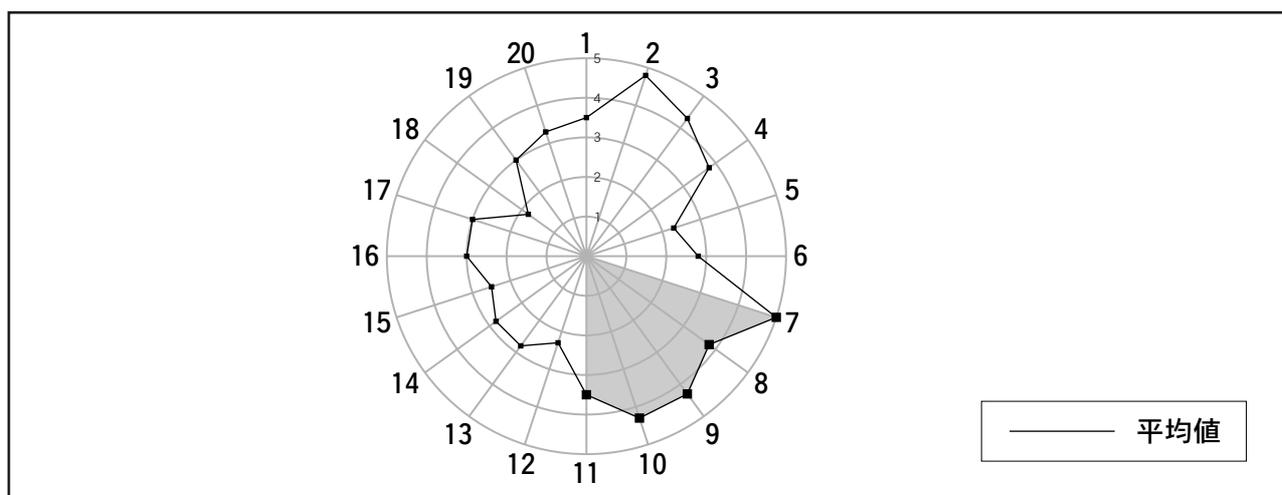
(22)・I'm agree with teacher.

これらのことから、学生がある程度授業に対して満足していたと推測される。

授業科目名 物理学の基礎
 評価実施日 平成19年7月30日
 担当教員名 松川 徳雄

回答者数 4名

質問項目	評価選択人数						平均値 (科目別)	
	5	4	3	2	1	N.A		
1 授業概要について	(1) 目標・授業計画・内容は、明確に示されていた。	1	0	3	0	0	0	3.5
	(2) 成績評価の方法は、明確に示されていた。	3	1	0	0	0	0	4.8
2 授業の内容等について	(3) 授業内容は、授業概要に沿っていた。	1	3	0	0	0	0	4.3
	(4) 授業内容は、教養や専門性を高めるものだった。	1	1	2	0	0	0	3.8
	(5) 授業内容は、教育に対する見方や考え方を学べるものだった。	0	0	2	1	1	0	2.3
	(6) 授業内容は、興味・関心を引くものだった。	1	0	1	1	1	0	2.8
3 あなたの授業への取り組みについて	(7) 授業によく出席した。	4	0	0	0	0	0	5.0
	(8) 授業内容をよく理解するために予習や復習をした。	1	1	2	0	0	0	3.8
	(9) 授業中に積極的に発言や質問をした。	2	1	1	0	0	0	4.3
	(10) 教員の説明をよく聞いた。	2	1	1	0	0	0	4.3
	(11) 分からないことや疑問に思ったことは調べた。	2	0	0	2	0	0	3.5
4 教員の授業の進め方について	(12) 学生の理解状況を確かめながら授業を行った。	0	1	0	2	1	0	2.3
	(13) 学生が参加しやすい授業だった。	0	1	1	2	0	0	2.8
	(14) 熱心に指導した。	0	0	3	1	0	0	2.8
	(15) 授業内容を分かりやすく説明した。	0	1	0	3	0	0	2.5
	(16) 教科書や配布資料等の教材は、内容を理解する上で適切だった。	1	0	1	2	0	0	3.0
	(17) 視聴覚機器及び教育用機器の利用は、適切だった。	1	0	1	2	0	0	3.0
	(18) 教員の声は、聞き取りやすかった。	0	0	0	3	1	0	1.8
	(19) 授業の進む速さは、適切だった。	1	1	0	1	1	0	3.0
5 授業に対する満足度	(20) この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。	1	0	2	1	0	0	3.3



教員のコメント

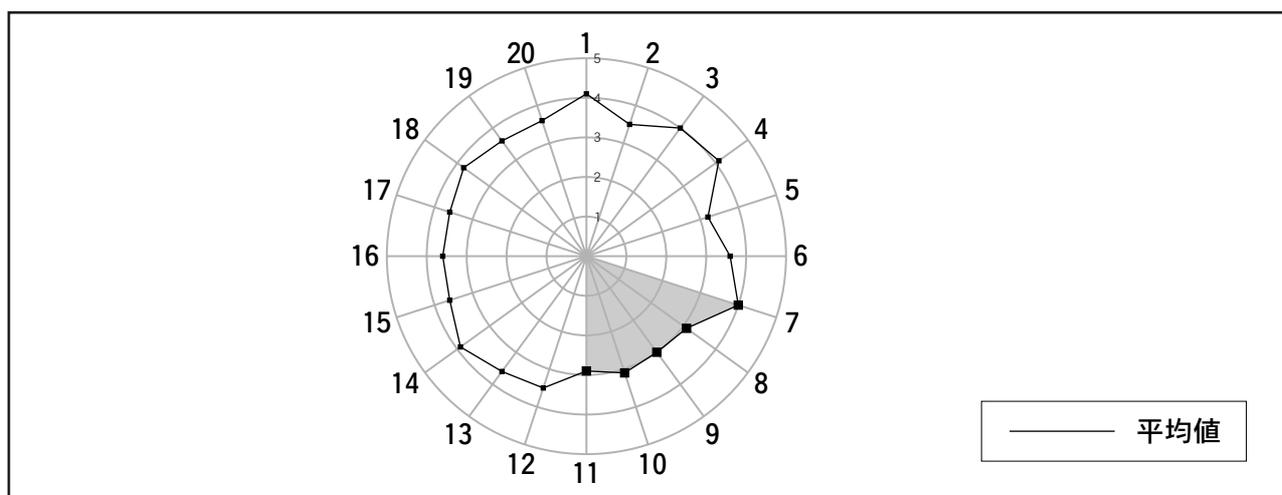
高校で履修する範囲がきわめて限られており、中級以上の履修経験者も限られている科目であるので、本学での関連授業を学ぶための基礎素養を付けさせることを目的とした。

指導方針は、自分たちで実際に得たデータ（「実践基礎演習」）を使って、いくつかの物理学的手法で実際に処理してみることを経験させて、自然現象がどのように表されるか体験させることを重点とした。そのために授業に出席して実際に分析作業を行うことを重視した。授業への取り組みは良かった反面、数学的手法に慣れさせようとした点で、内容を学ぶのに抵抗を感じなくなるまでにはいたらなかったようである。物理の内容に至る話の展開にもう少しの工夫が必要であると思われる。

授業科目名 物理学 I
 評価実施日 平成19年 7 月30日
 担当教員名 栗田 高明

回答者数 10名

質問項目	評価選択人数	評価選択人数						平均値 (科目別)
		5	4	3	2	1	N.A	
1 授業概要について	(1) 目標・授業計画・内容は、明確に示されていた。	2	7	1	0	0	0	4.1
	(2) 成績評価の方法は、明確に示されていた。	0	7	1	2	0	0	3.5
2 授業の内容等について	(3) 授業内容は、授業概要に沿っていた。	1	8	1	0	0	0	4.0
	(4) 授業内容は、教養や専門性を高めるものだった。	5	2	2	1	0	0	4.1
	(5) 授業内容は、教育に対する見方や考え方を学べるものだった。	0	4	4	2	0	0	3.2
	(6) 授業内容は、興味・関心を引くものだった。	0	7	2	1	0	0	3.6
3 あなたの授業への取り組みについて	(7) 授業によく出席した。	3	5	1	1	0	0	4.0
	(8) 授業内容をよく理解するために予習や復習をした。	0	4	3	3	0	0	3.1
	(9) 授業中に積極的に発言や質問をした。	0	3	4	3	0	0	3.0
	(10) 教員の説明をよく聞いた。	0	4	3	3	0	0	3.1
	(11) 分からないことや疑問に思ったことは調べた。	0	3	3	4	0	0	2.9
4 教員の授業の進め方について	(12) 学生の理解状況を確認しながら授業を行った。	1	4	4	1	0	0	3.5
	(13) 学生が参加しやすい授業だった。	1	5	3	1	0	0	3.6
	(14) 熱心に指導した。	2	5	3	0	0	0	3.9
	(15) 授業内容を分かりやすく説明した。	0	7	2	1	0	0	3.6
	(16) 教科書や配布資料等の教材は、内容を理解する上で適切だった。	0	6	4	0	0	0	3.6
	(17) 視聴覚機器及び教育用機器の利用は、適切だった。	1	5	3	1	0	0	3.6
	(18) 教員の声は、聞き取りやすかった。	2	4	4	0	0	0	3.8
	(19) 授業の進む速さは、適切だった。	1	7	0	1	1	0	3.6
5 授業に対する満足度	(20) この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。	0	7	2	1	0	0	3.6



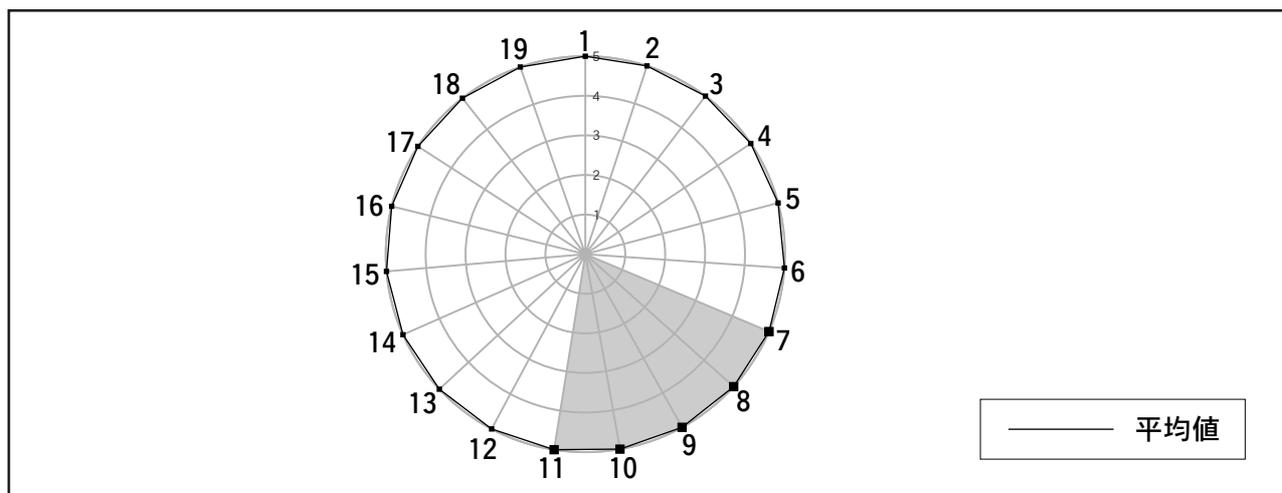
教員のコメント

本授業は、物理学の基礎となる力学の内容を講義するものである。高等学校で数学Ⅲや物理学を選択履修していない学生が、力学の諸概念をできるだけ理解しやすいように、最初の5回程度は、ベクトルや微積分等の数学的基礎知識を主に講義し、その後内容に入った。学生からのコメントとして、「難しい内容になるにつれて、時間も迫り、説明も少なくなった。」「前回の復習に時間をつかいていた。」といった、講義時間の配分に対する不満があった。これは基礎的な説明を丁寧にしすぎたために起きたことだと考えられる。次年度以降、気をつけたい。「また演習の時間を取った方が、内容が身につく。」といったコメントもあり、時間があれば行いたい。アンケート結果から、授業内容については概ね、満足しているようである。

授業科目名 物理学Ⅲ
 評価実施日 平成19年7月25日
 担当教員名 本田 亮

回答者数 1名

質問項目	評価選択人数						平均値 (科目別)	
	5	4	3	2	1	N.A		
1 授業概要について	(1) 目標・授業計画・内容は、明確に示されていた。	1	0	0	0	0	0	5.0
	(2) 成績評価の方法は、明確に示されていた。	1	0	0	0	0	0	5.0
2 授業の内容等について	(3) 授業内容は、授業概要に沿っていた。	1	0	0	0	0	0	5.0
	(4) 授業内容は、教養や専門性を高めるものだった。	1	0	0	0	0	0	5.0
	(5) 授業内容は、教育に対する見方や考え方を学べるものだった。	1	0	0	0	0	0	5.0
	(6) 授業内容は、興味・関心を引くものだった。	1	0	0	0	0	0	5.0
3 あなたの授業への取り組みについて	(7) 授業によく出席した。	1	0	0	0	0	0	5.0
	(8) 授業内容をよく理解するために予習や復習をした。	1	0	0	0	0	0	5.0
	(9) 授業中に積極的に発言や質問をした。	1	0	0	0	0	0	5.0
	(10) 教員の説明をよく聞いた。	1	0	0	0	0	0	5.0
	(11) 分からないことや疑問に思ったことは調べた。	1	0	0	0	0	0	5.0
4 教員の授業の進め方について	(12) 学生の理解状況を確認しながら授業を行った。	1	0	0	0	0	0	5.0
	(13) 学生が参加しやすい授業だった。	1	0	0	0	0	0	5.0
	(14) 熱心に指導した。	1	0	0	0	0	0	5.0
	(15) 授業内容を分かりやすく説明した。	1	0	0	0	0	0	5.0
	(16) 教科書や配布資料等の教材は、内容を理解する上で適切だった。	1	0	0	0	0	0	5.0
	(17) 教員の声は、聞き取りやすかった。	1	0	0	0	0	0	5.0
	(18) 授業の進む速さは、適切だった。	1	0	0	0	0	0	5.0
5 授業に対する満足度	(19) この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。	1	0	0	0	0	0	5.0



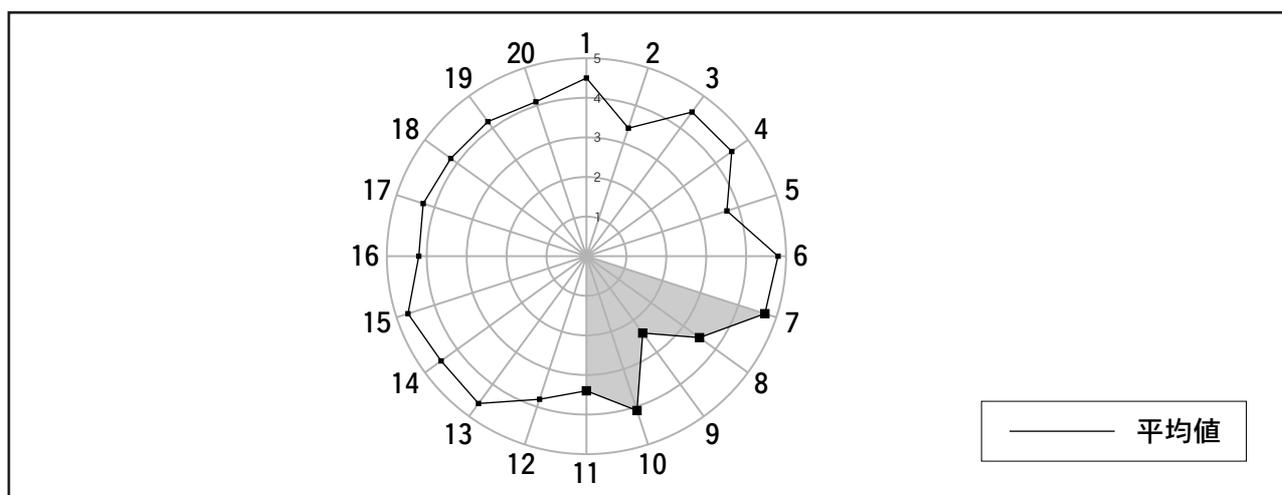
教員のコメント

受講生が一人であったため、分析に値するアンケート結果とはなっていないのが現状である。受講生数1の利点として、受講生の理解度、ペースの把握が容易であった。受講生にとっても、授業担当者の意図していることを理解できるまで深く考える機会が多々あったようだ。授業はセミナー形式で行われ、受講生が予習してきた内容を担当教員に対して説明するのが授業の流れである。残念なことに、受講生はテキストに書かれてある文言をそのまま話すだけにとどまり、科学的思考の道筋を明らかにするには至らなかった。この点に関しては担当者による確認がその都度行われたので、受講生にとってはこの授業が論理的思考の良い訓練の場になったと信じている。

授業科目名 化学の基礎
 評価実施日 平成19年 5月28日
 担当教員名 今倉 康宏

回答者数 11名

質問項目	評価選択人数	評価選択人数					平均値 (科目別)	
		5	4	3	2	1		N.A
1 授業概要について	(1) 目標・授業計画・内容は、明確に示されていた。	6	4	1	0	0	0	4.5
	(2) 成績評価の方法は、明確に示されていた。	1	2	8	0	0	0	3.4
2 授業の内容等について	(3) 授業内容は、授業概要に沿っていた。	6	4	1	0	0	0	4.5
	(4) 授業内容は、教養や専門性を高めるものだった。	6	4	1	0	0	0	4.5
	(5) 授業内容は、教育に対する見方や考え方を学べるものだった。	3	2	4	1	0	0	3.7
	(6) 授業内容は、興味・関心を引くものだった。	8	2	0	0	0	0	4.8
3 あなたの授業への取り組みについて	(7) 授業によく出席した。	10	0	0	1	0	0	4.7
	(8) 授業内容をよく理解するために予習や復習をした。	1	5	4	1	0	0	3.5
	(9) 授業中に積極的に発言や質問をした。	0	1	4	4	2	0	2.4
	(10) 教員の説明をよく聞いた。	2	8	1	0	0	0	4.1
	(11) 分からないことや疑問に思ったことは調べた。	1	4	4	2	0	0	3.4
4 教員の授業の進め方について	(12) 学生の理解状況を確認しながら授業を行った。	1	7	3	0	0	0	3.8
	(13) 学生が参加しやすい授業だった。	7	4	0	0	0	0	4.6
	(14) 熱心に指導した。	6	5	0	0	0	0	4.5
	(15) 授業内容を分かりやすく説明した。	8	3	0	0	0	0	4.7
	(16) 教科書や配布資料等の教材は、内容を理解する上で適切だった。	3	7	1	0	0	0	4.2
	(17) 視聴覚機器及び教育用機器の利用は、適切だった。	4	6	1	0	0	0	4.3
	(18) 教員の声は、聞き取りやすかった。	4	5	2	0	0	0	4.2
	(19) 授業の進む速さは、適切だった。	6	1	4	0	0	0	4.2
5 授業に対する満足度	(20) この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。	3	6	2	0	0	0	4.1



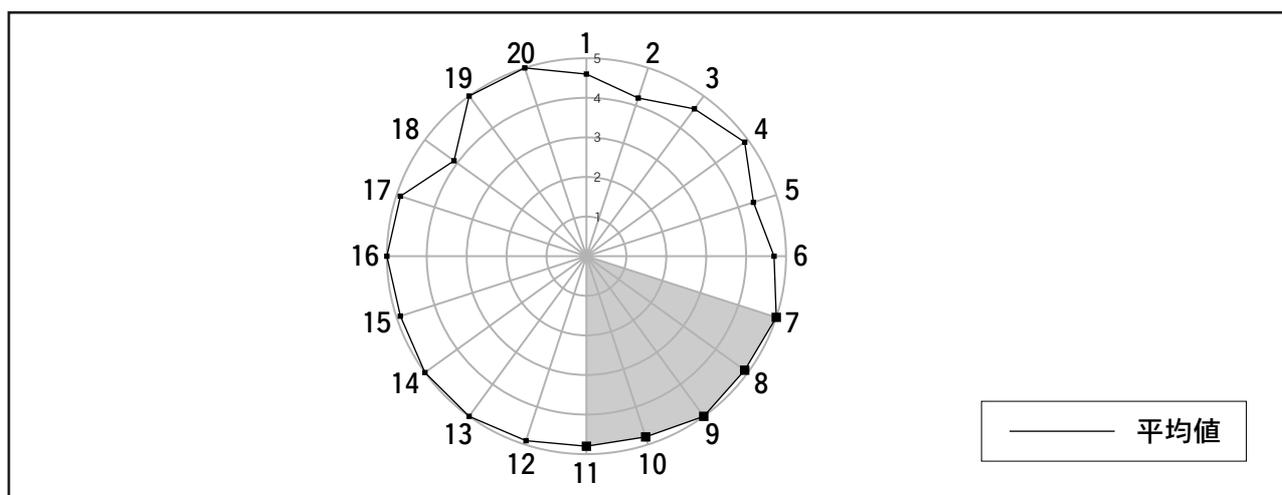
教員のコメント

1. 授業概要について
 次年度は成績評価の方法を明確にする必要がある。
2. 授業の内容について
 平均約4.4の評価をしていることより、学生はほぼ満足していると思われる。しかしながら、教育に対する見方や考え方を学べたと評価した学生は50%にとどまっている。
 次年度は、本教科の目的である教員として知っているべき化学の基礎知識の理解を図ると共に教育現場への実践例を更に多く取り入れた授業を展開する予定である。
3. 学生の授業の取り組みについて
 受動的な課題に対する評価は高い(約4.4)が、能動的な課題は、平均3と低い評価である。これは、学生が自分で勉強するという気持ちが低いことを示している。学生の勉強するという姿勢を高める工夫が必要であるが、大変難しい課題である。
4. 教員の授業の進め方について
 非常に高い評価を得た。(昨年度の目標4以上の評価80%を達成)
 次年度は更なる学生が理解しやすく興味を持たせる授業を推進したいと思っている。
5. 授業に対する満足度
 昨年度目標とした80%以上の4評価は達成された。
 次年度は、この評価を維持し、更に高めるように工夫したいと思っている。

授業科目名 化学実験Ⅱ
 評価実施日 平成19年7月26日
 担当教員名 今倉 康宏

回答者数 11名

質問項目	評価選択人数	評価選択人数						平均値 (科目別)
		5	4	3	2	1	N.A	
1 授業概要について	(1) 目標・授業計画・内容は、明確に示されていた。	8	2	1	0	0	0	4.6
	(2) 成績評価の方法は、明確に示されていた。	4	5	2	0	0	0	4.2
2 授業の内容等について	(3) 授業内容は、授業概要に沿っていた。	7	4	0	0	0	0	4.6
	(4) 授業内容は、教養や専門性を高めるものだった。	10	1	0	0	0	0	4.9
	(5) 授業内容は、教育に対する見方や考え方を学べるものだった。	5	5	1	0	0	0	4.4
	(6) 授業内容は、興味・関心を引くものだった。	9	1	1	0	0	0	4.7
3 あなたの授業への取り組みについて	(7) 授業によく出席した。	11	0	0	0	0	0	5.0
	(8) 授業内容をよく理解するために予習や復習をした。	10	1	0	0	0	0	4.9
	(9) 積極的に実験、実習、実技等に取り組んだ。	11	0	0	0	0	0	5.0
	(10) 教員の説明をよく聞いた。	9	2	0	0	0	0	4.8
	(11) 分からないことや疑問に思ったことは調べた。	9	2	0	0	0	0	4.8
4 教員の授業の進め方について	(12) 学生の理解状況を確認しながら授業を行った。	10	1	0	0	0	0	4.9
	(13) 熱心に指導した。	11	0	0	0	0	0	5.0
	(14) 授業内容を分かりやすく説明した。	11	0	0	0	0	0	5.0
	(15) 教科書や配布資料等の教材は、内容を理解する上で適切だった。	10	1	0	0	0	0	4.9
	(16) 設備、器材、用具等の利用は、適切だった。	11	0	0	0	0	0	5.0
	(17) 教員の声は、聞き取りやすかった。	10	1	0	0	0	0	4.9
	(18) 与えられた課題のレベルや分量は、適切だった。	5	3	2	1	0	0	4.1
	(19) 安全に対する指導と配慮は、適切だった。	11	0	0	0	0	0	5.0
5 授業に対する満足度	(20) この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。	11	0	0	0	0	0	5.0



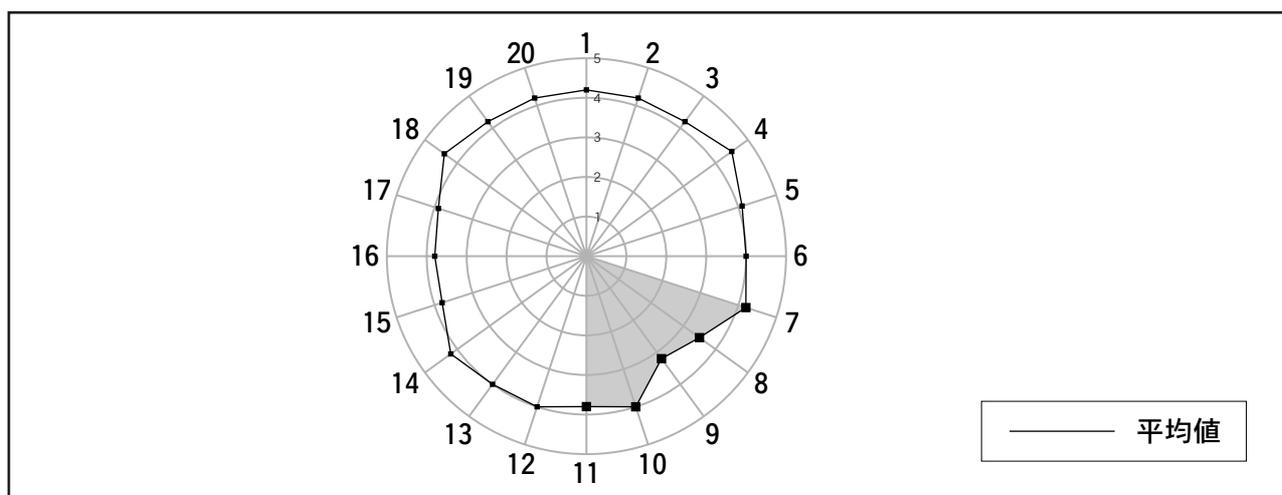
教員のコメント

1. 授業概要について
4.4 の高い評価を得ている。
2. 授業の内容について
平均約 4.7 の高い評価をしていることより、学生はほぼ満足していると思われる。
次年度もこの水準を保持するように努力する。
3. 学生の授業の取組みについて
平均約 4.9 の高い評価をしていることより、学生は、本実験授業に真面目に取り組む、達成感と満足度が非常に高いことを示している。次年度もこの水準を保持するように努力する。
4. 教員の授業の進め方について
平均 4.9 の高い評価を得た。学生は、本実験授業に真面目に取り組む、達成感と満足度は非常に高いことを示している。次年度もこの水準を保持するように努力する。
5. 授業に対する満足度
全員の学生から 5 の評価を得た。
次年度もこの評価を維持できるように実験実習を充実させたいと思っている。

授業科目名 生物学 I
 評価実施日 平成19年 7 月26日
 担当教員名 米澤 義彦

回答者数 10名

質問項目	評価選択人数						平均値 (科目別)	
	5	4	3	2	1	N.A		
1 授業概要について	(1) 目標・授業計画・内容は、明確に示されていた。	3	6	1	0	0	0	4.2
	(2) 成績評価の方法は、明確に示されていた。	3	6	1	0	0	0	4.2
2 授業の内容等について	(3) 授業内容は、授業概要に沿っていた。	3	6	1	0	0	0	4.2
	(4) 授業内容は、教養や専門性を高めるものだった。	5	5	0	0	0	0	4.5
	(5) 授業内容は、教育に対する見方や考え方を学べるものだった。	3	6	0	1	0	0	4.1
	(6) 授業内容は、興味・関心を引くものだった。	2	7	0	1	0	0	4.0
3 あなたの授業への取り組みについて	(7) 授業によく出席した。	4	4	2	0	0	0	4.2
	(8) 授業内容をよく理解するために予習や復習をした。	0	6	3	1	0	0	3.5
	(9) 授業中に積極的に発言や質問をした。	0	5	3	1	1	0	3.2
	(10) 教員の説明をよく聞いた。	2	6	2	0	0	0	4.0
	(11) 分からないことや疑問に思ったことは調べた。	1	6	3	0	0	0	3.8
4 教員の授業の進め方について	(12) 学生の理解状況を確認しながら授業を行った。	2	6	2	0	0	0	4.0
	(13) 学生が参加しやすい授業だった。	1	8	1	0	0	0	4.0
	(14) 熱心に指導した。	3	6	1	0	0	0	4.2
	(15) 授業内容を分かりやすく説明した。	0	8	2	0	0	0	3.8
	(16) 教科書や配布資料等の教材は、内容を理解する上で適切だった。	1	6	3	0	0	0	3.8
	(17) 視聴覚機器及び教育用機器の利用は、適切だった。	2	5	3	0	0	0	3.9
	(18) 教員の声は、聞き取りやすかった。	5	4	1	0	0	0	4.4
	(19) 授業の進む速さは、適切だった。	3	6	1	0	0	0	4.2
5 授業に対する満足度	(20) この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。	3	6	1	0	0	0	4.2



教員のコメント

教員に対する評価は、多くの評価項目において4以上の評価が得られており、おおむね好意的に受け止められているものと判断される。ただ、学生自身の本授業を受講する態度に対する設問（項目番号7～11）に対して、評価点2を与えた学生が数名おり、学生の授業に対する意欲が低いことが指摘された。このことは、授業者にも責任の一端はあるが、大学が「自ら学ぶ場」である以上、何らかのガイダンスが必要である。本授業の目的はシラバスに明記してあるが、受講者に十分理解されていないと思われる。次年度以降、オリエンテーションでの十分な説明が必要である。

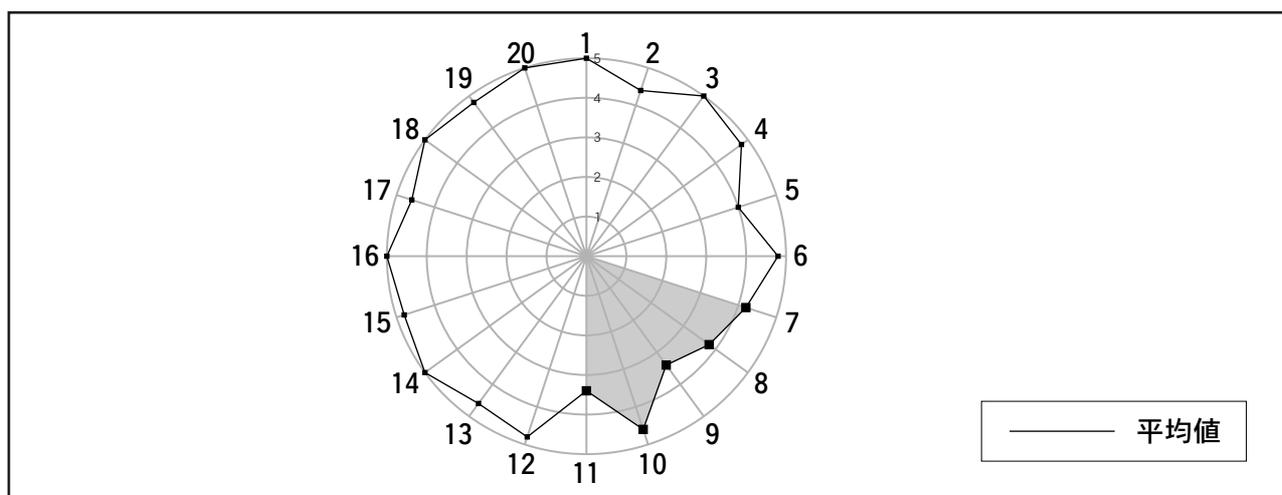
授業科目名 地学Ⅲ

評価実施日 平成19年7月26日

担当教員名 西村 宏, 村田 守, 香西 武

回答者数 5名

質問項目	評価選択人数	評価選択人数					平均値 (科目別)	
		5	4	3	2	1		N.A
1 授業概要について	(1) 目標・授業計画・内容は、明確に示されていた。	5	0	0	0	0	0	5.0
	(2) 成績評価の方法は、明確に示されていた。	2	3	0	0	0	0	4.4
2 授業の内容等について	(3) 授業内容は、授業概要に沿っていた。	5	0	0	0	0	0	5.0
	(4) 授業内容は、教養や専門性を高めるものだった。	4	1	0	0	0	0	4.8
	(5) 授業内容は、教育に対する見方や考え方を学べるものだった。	2	1	2	0	0	0	4.0
	(6) 授業内容は、興味・関心を引くものだった。	4	1	0	0	0	0	4.8
3 あなたの授業への取り組みについて	(7) 授業によく出席した。	2	2	1	0	0	0	4.2
	(8) 授業内容をよく理解するために予習や復習をした。	1	2	2	0	0	0	3.8
	(9) 授業中に積極的に発言や質問をした。	0	2	3	0	0	0	3.4
	(10) 教員の説明をよく聞いた。	4	0	1	0	0	0	4.6
	(11) 分からないことや疑問に思ったことは調べた。	0	2	3	0	0	0	3.4
4 教員の授業の進め方について	(12) 学生の理解状況を確認しながら授業を行った。	4	1	0	0	0	0	4.8
	(13) 学生が参加しやすい授業だった。	3	2	0	0	0	0	4.6
	(14) 熱心に指導した。	5	0	0	0	0	0	5.0
	(15) 授業内容を分かりやすく説明した。	4	1	0	0	0	0	4.8
	(16) 教科書や配布資料等の教材は、内容を理解する上で適切だった。	5	0	0	0	0	0	5.0
	(17) 視聴覚機器及び教育用機器の利用は、適切だった。	3	2	0	0	0	0	4.6
	(18) 教員の声は、聞き取りやすかった。	5	0	0	0	0	0	5.0
	(19) 授業の進む速さは、適切だった。	4	1	0	0	0	0	4.8
5 授業に対する満足度	(20) この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。	5	0	0	0	0	0	5.0



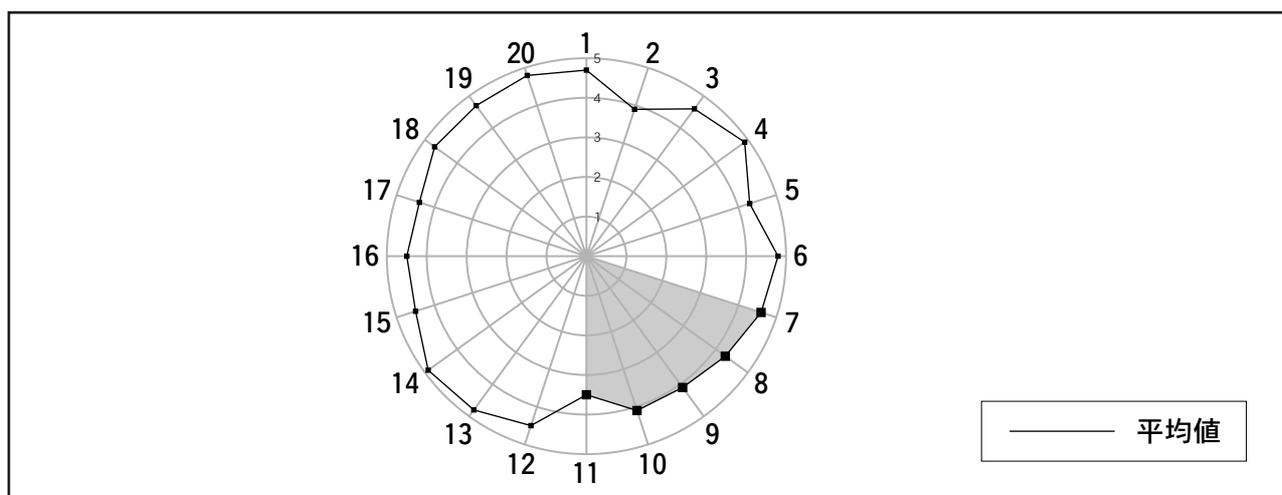
教員のコメント

この講義は主としてパワーポイントを用いたノート講義で行うこととしている。準備にはかなり時間を要するが、授業内容の都合で図表や式を多用する必要があるため、黒板への手書きではその正確さを損なう恐れがあり、各図表や式について資料配付を先に行くと、説明時に注意して聞く意欲を損なってしまう恐れもあるのでこの措置としたものである。ただし、パワーポイントの瞬時提示のみでは理解の促進にはつながらないため、1章分の授業終了時にその章の授業内容をまとめて資料としてプリントして配付し、後日の復習に供することができるようにした。このことを踏まえて、上記の学生による評価を見ると、4年次開講の授業であることも手伝って、受講生が非常に少ないながら、すべて高い評価を下している。さらに、授業内容のシラバスとの対応、教員の説明への傾注度、教員の声の程度に関しては、特に高い評価が得られており、内容が本筋から逸脱していないことや教員としての受講生への説明が十分であったことがわかる。一方、授業への出席や予習の点では、必ずしも受講生自身がよく対応できたとは自己評価していないことがわかる。この原因のひとつには、4年次1学期末に教員採用試験を控え、これに対する勉強の時間を必要とするために予習どころではないことがうかがえる内容であった。しかし、少なくとも授業への満足度は十分であったものと思われ、所期の目的を達することができたと考えている。

授業科目名 声楽基礎Ⅱ
 評価実施日 平成19年7月24日
 担当教員名 草下 實, 頃安 利秀

回答者数 11名

質問項目	評価選択人数	評価選択人数						平均値 (科目別)
		5	4	3	2	1	N.A	
1 授業概要について	(1) 目標・授業計画・内容は、明確に示されていた。	8	3	0	0	0	0	4.7
	(2) 成績評価の方法は、明確に示されていた。	3	4	4	0	0	0	3.9
2 授業の内容等について	(3) 授業内容は、授業概要に沿っていた。	7	4	0	0	0	0	4.6
	(4) 授業内容は、教養や専門性を高めるものだった。	10	1	0	0	0	0	4.9
	(5) 授業内容は、教育に対する見方や考え方を学べるものだった。	5	4	2	0	0	0	4.3
	(6) 授業内容は、興味・関心を引くものだった。	9	2	0	0	0	0	4.8
3 あなたの授業への取り組みについて	(7) 授業によく出席した。	8	2	1	0	0	0	4.6
	(8) 授業内容をよく理解するために予習や復習をした。	4	6	1	0	0	0	4.3
	(9) 授業中に積極的に発言や質問をした。	4	5	1	1	0	0	4.1
	(10) 積極的に課題に取り組んだ。	4	5	1	1	0	0	4.1
	(11) 分からないことや疑問に思ったことは調べた。	3	3	3	1	1	0	3.5
4 教員の授業の進め方について	(12) 学生の理解状況を確認しながら授業を行った。	5	6	0	0	0	0	4.5
	(13) 学生参加型の授業だった。	9	2	0	0	0	0	4.8
	(14) 熱心に指導した。	10	1	0	0	0	0	4.9
	(15) 授業内容を分かりやすく説明した。	7	3	1	0	0	0	4.5
	(16) 教科書や配布資料等の教材は、内容を理解する上で適切だった。	5	6	0	0	0	0	4.5
	(17) 視聴覚機器及び教育用機器の利用は、適切だった。	7	3	0	0	1	0	4.4
	(18) 授業の進む速さは、適切だった。	8	3	0	0	0	0	4.7
	(19) 学生の疑問や質問に適切に答えた。	8	3	0	0	0	0	4.7
5 授業に対する満足度	(20) この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。	9	2	0	0	0	0	4.8



教員のコメント

当該授業へのアンケート調査結果をみると、設問20項目の評価は平均4.5であり、学生の評価は高いことがわかる。その中でも改善すべき点は(2)成績評価の方法に関する設問の評価3.9であることから、シラバスにおける成績評価に関する観点等をより明確に表記する必要がある。また、設問(11)分からないことや疑問に思ったことは調べたが3.5と成っており、学生の授業への取り組みに対する授業担当者の自学自習に関する指導を徹底する必要があることが挙げられる。授業の趣旨、目標、方法、内容等については問題はないものと考えられる。

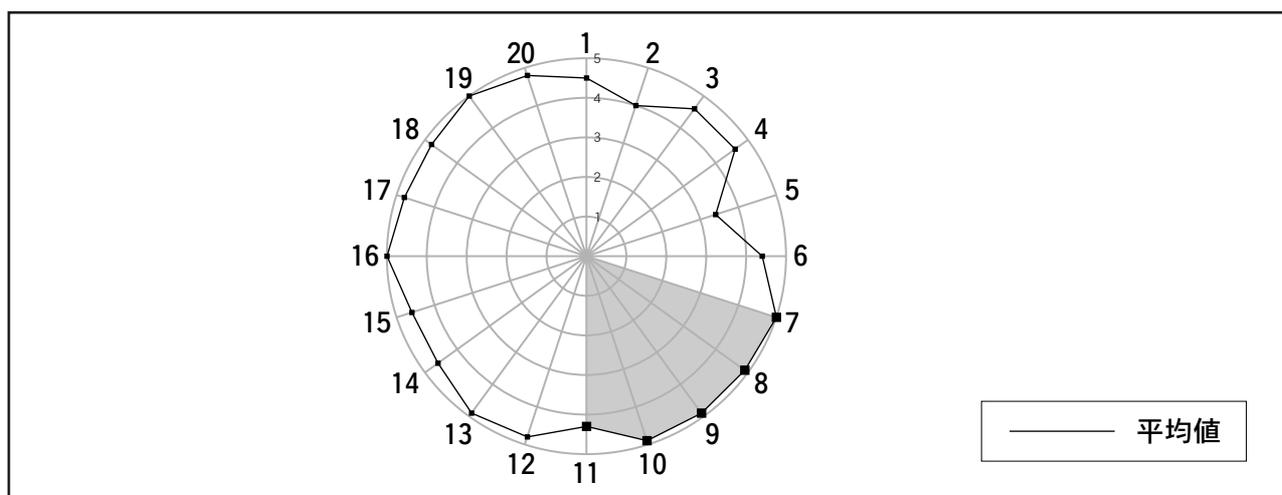
授業科目名 器楽（合奏及び伴奏を含む。）

評価実施日 平成19年7月30日

担当教員名 村澤由利子, 山根 秀憲, 森 正

回答者数 8名

質問項目	評価選択人数						平均値 (科目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
1 授業概要について	(1) 目標・授業計画・内容は、明確に示されていた。	5	2	1	0	0	4.5
	(2) 成績評価の方法は、明確に示されていた。	2	4	2	0	0	4.0
2 授業の内容等について	(3) 授業内容は、授業概要に沿っていた。	5	3	0	0	0	4.6
	(4) 授業内容は、教養や専門性を高めるものだった。	6	1	1	0	0	4.6
	(5) 授業内容は、教育に対する見方や考え方を学べるものだった。	2	2	2	1	1	3.4
	(6) 授業内容は、興味・関心を引くものだった。	5	2	0	1	0	4.4
3 あなたの授業への取り組みについて	(7) 授業によく出席した。	8	0	0	0	0	5.0
	(8) 授業内容をよく理解するために予習や復習をした。	7	1	0	0	0	4.9
	(9) 積極的に実験、実習、実技等に取り組んだ。	7	1	0	0	0	4.9
	(10) 教員の説明をよく聞いた。	7	1	0	0	0	4.9
	(11) 分からないことや疑問に思ったことは調べた。	5	2	0	0	1	4.3
4 教員の授業の進め方について	(12) 学生の理解状況を確認しながら授業を行った。	6	2	0	0	0	4.8
	(13) 熱心に指導した。	7	1	0	0	0	4.9
	(14) 授業内容を分かりやすく説明した。	6	1	1	0	0	4.6
	(15) 教科書や配布資料等の教材は、内容を理解する上で適切だった。	5	3	0	0	0	4.6
	(16) 設備、器材、用具等の利用は、適切だった。	8	0	0	0	0	5.0
	(17) 教員の声は、聞き取りやすかった。	7	0	1	0	0	4.8
	(18) 与えられた課題のレベルや分量は、適切だった。	6	2	0	0	0	4.8
	(19) 安全に対する指導と配慮は、適切だった。	8	0	0	0	0	5.0
5 授業に対する満足度	(20) この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。	6	2	0	0	0	4.8



教員のコメント

学部の1年生を対象とした授業で、大学生活に多少不慣れな中で行われた。本学の教育上の目的、理念等を1年生がどの程度理解しているかが授業の開始時には多少気になったが、それらを十分に踏まえた受講生からこの授業は好意的に評価された。

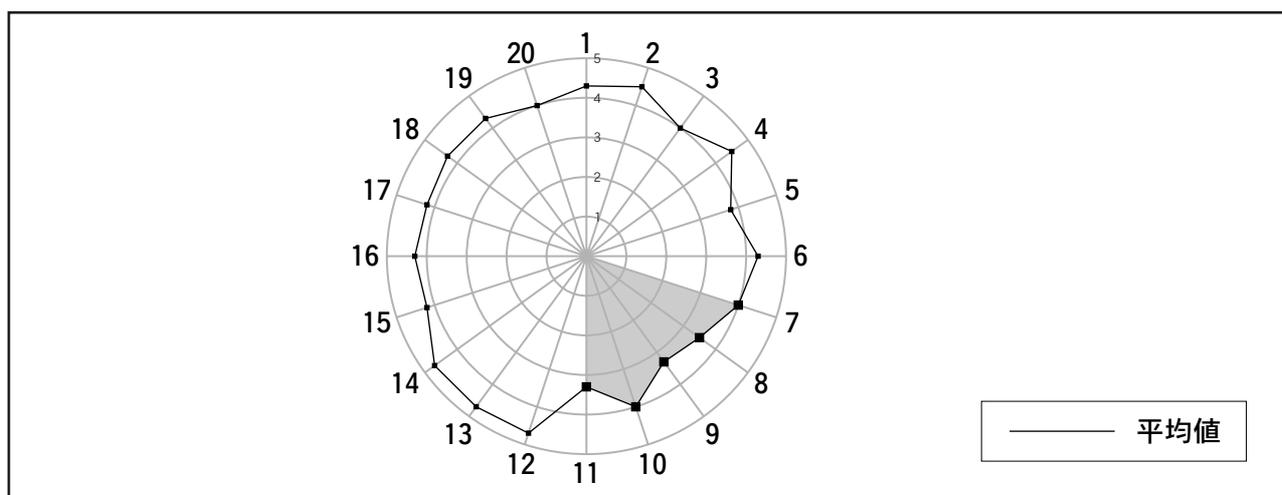
多様な楽器に接した経験は、今後の教育現場で強く要求されるものであるが、この授業で今までに触れることのなかった楽器に接することができたことは、ほとんどの学生達から高い評価を得ていた。また、実際に授業を行う際には必要不可欠であるピアノの実技についても、これまでに経験したことのない新しい指導に関心をもち、積極的に取り組んでいたようである。設問5に関して、1及び2と評価した学生もいたが、今後はこの授業で習得したピアノの演奏方法や様々な楽器の奏法等が、教育現場でどのように生かされてくるのかを、授業のなかでさらに機会をみつけて説明していく必要を感じた。

また限られた授業時間等の点において、より一層充実した授業を望む学生もおり、これらの希望に応えられるよう教員もさらに工夫を重ねることが必要であると感じた。

授業科目名 指揮 I
 評価実施日 平成19年 7 月31日
 担当教員名 山田 啓明

回答者数 6 名

質問項目	評価選択人数						平均値 (科目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
1 授業概要について	(1) 目標・授業計画・内容は、明確に示されていた。	2	4	0	0	0	4.3
	(2) 成績評価の方法は、明確に示されていた。	3	3	0	0	0	4.5
2 授業の内容等について	(3) 授業内容は、授業概要に沿っていた。	2	2	2	0	0	4.0
	(4) 授業内容は、教養や専門性を高めるものだった。	4	1	1	0	0	4.5
	(5) 授業内容は、教育に対する見方や考え方を学べるものだった。	1	3	2	0	0	3.8
	(6) 授業内容は、興味・関心を引くものだった。	4	0	2	0	0	4.3
3 あなたの授業への取り組みについて	(7) 授業によく出席した。	1	4	1	0	0	4.0
	(8) 授業内容をよく理解するために予習や復習をした。	1	1	4	0	0	3.5
	(9) 授業中に積極的に発言や質問をした。	1	1	3	1	0	3.3
	(10) 積極的に課題に取り組んだ。	1	4	1	0	0	4.0
	(11) 分からないことや疑問に思ったことは調べた。	1	1	3	1	0	3.3
4 教員の授業の進め方について	(12) 学生の理解状況を確かめながら授業を行った。	4	2	0	0	0	4.7
	(13) 学生参加型の授業だった。	5	0	1	0	0	4.7
	(14) 熱心に指導した。	4	2	0	0	0	4.7
	(15) 授業内容を分かりやすく説明した。	2	3	1	0	0	4.2
	(16) 教科書や配布資料等の教材は、内容を理解する上で適切だった。	4	0	2	0	0	4.3
	(17) 視聴覚機器及び教育用機器の利用は、適切だった。	3	1	2	0	0	4.2
	(18) 授業の進む速さは、適切だった。	4	0	2	0	0	4.3
	(19) 学生の疑問や質問に適切に答えた。	4	0	2	0	0	4.3
5 授業に対する満足度	(20) この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。	2	2	2	0	0	4.0



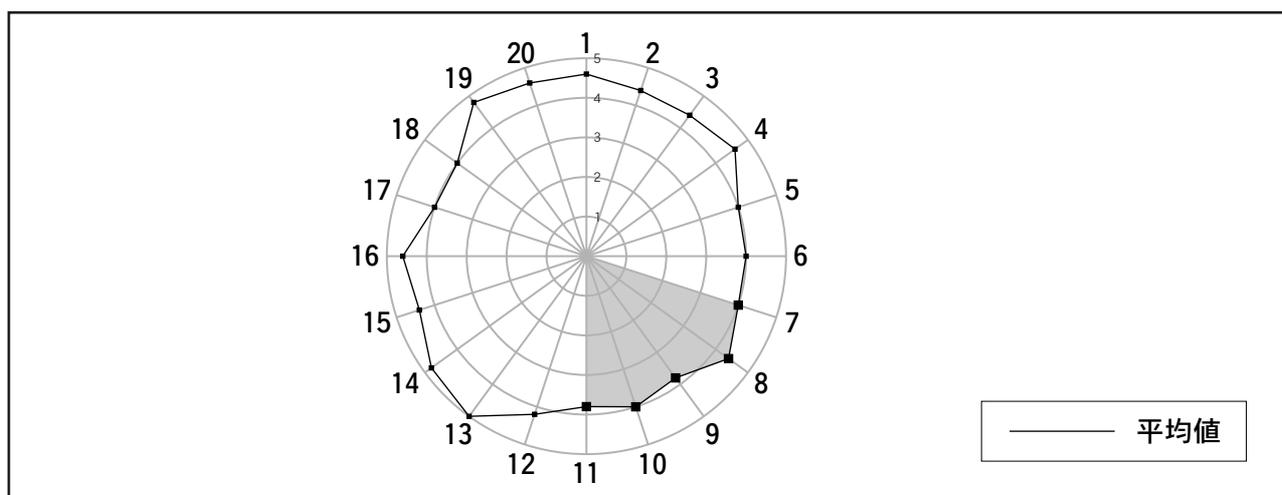
教員のコメント

本授業は免許科目である「指揮法」に続くものであり、選択科目である。指揮の場合、必要な技能は多岐にわたるが、特に吹奏楽の指導で必要となるスコア・リーディングは習得に非常に苦勞を強いられる。おそらく、小学校教育専修の学生は、この技能にあまり必要性を感じられないので、その点が評価の点数に現れているものとする。

授業科目名 作曲法 I
 評価実施日 平成19年 8 月 2 日
 担当教員名 松岡 貴史

回答者数 5 名

質問項目	評価選択人数						平均値 (科目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
1 授業概要について	(1) 目標・授業計画・内容は、明確に示されていた。	3	2	0	0	0	4.6
	(2) 成績評価の方法は、明確に示されていた。	2	3	0	0	0	4.4
2 授業の内容等について	(3) 授業内容は、授業概要に沿っていた。	2	3	0	0	0	4.4
	(4) 授業内容は、教養や専門性を高めるものだった。	3	2	0	0	0	4.6
	(5) 授業内容は、教育に対する見方や考え方を学べるものだった。	2	1	2	0	0	4.0
	(6) 授業内容は、興味・関心を引くものだった。	2	1	2	0	0	4.0
3 あなたの授業への取り組みについて	(7) 授業によく出席した。	2	1	2	0	0	4.0
	(8) 授業内容をよく理解するために予習や復習をした。	2	3	0	0	0	4.4
	(9) 授業中に積極的に発言や質問をした。	1	2	2	0	0	3.8
	(10) 積極的に課題に取り組んだ。	0	5	0	0	0	4.0
4 教員の授業の進め方について	(11) 分からないことや疑問に思ったことは調べた。	0	4	1	0	0	3.8
	(12) 学生の理解状況を確かめながら授業を行った。	2	2	1	0	0	4.2
	(13) 学生参加型の授業だった。	5	0	0	0	0	5.0
	(14) 熱心に指導した。	4	1	0	0	0	4.8
	(15) 授業内容を分かりやすく説明した。	2	3	0	0	0	4.4
	(16) 教科書や配布資料等の教材は、内容を理解する上で適切だった。	3	2	0	0	0	4.6
	(17) 視聴覚機器及び教育用機器の利用は、適切だった。	2	1	2	0	0	4.0
	(18) 授業の進む速さは、適切だった。	1	3	1	0	0	4.0
	(19) 学生の疑問や質問に適切に答えた。	4	1	0	0	0	4.8
5 授業に対する満足度	(20) この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。	3	2	0	0	0	4.6



教員のコメント

作曲に関する幅広い基礎力をつけ、作って表現することの楽しさに気付かせ、今後さまざまな音楽活動を展開していくための音楽力を養成することが、この授業の主旨であった。授業内容は、キーボードハーモニーを含めた和声学の理論と実習、楽曲分析や作曲をとおした音楽の形式の学習及び作曲作品制作演習等であった。

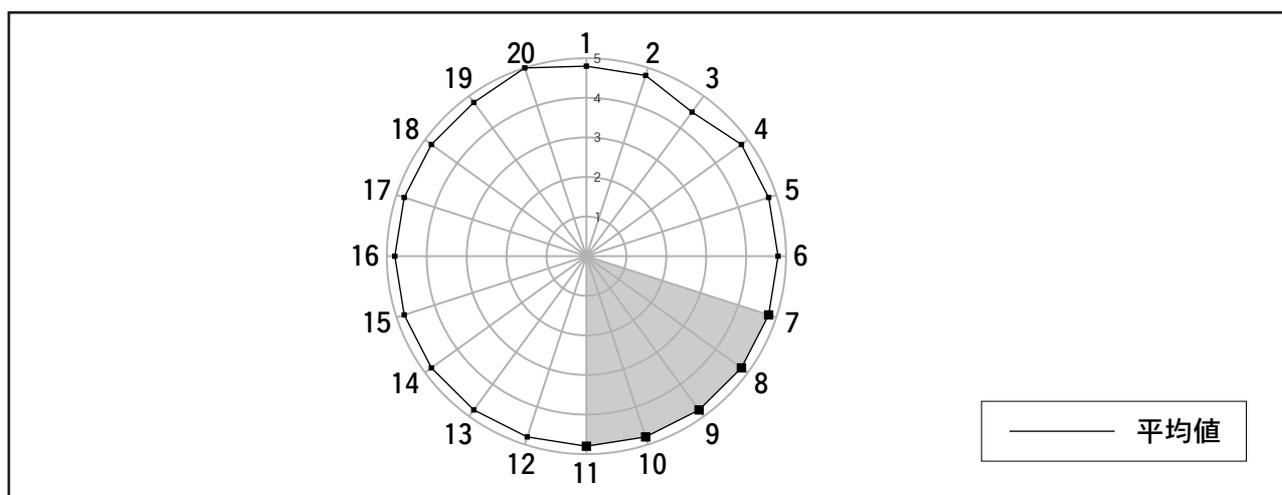
授業の進め方に関しては、一応の評価と受け取っていただろう。ただ、学生の理解をもっと確かめながら進めるべきという面も見逃せない。それに対し、学生の授業への取り組みについては、あまり十分とは評価できない。

自由作曲などのように、自分の感覚を大事にし、自己実現していく喜びを味わうことのできる内容については、取り組みの度合いも良く、また個性的な作品を残すこともできたが、理論的な面も多く含む和声学の実習では、予復習が十分ではない。こうした内容に関しても学生がもっと主体的に取り組むよう、授業を工夫するとともに、学生の意識を高めたい。また、成績評価においては、もっと厳しくしていきたいと思っている。

授業科目名 絵画特別演習Ⅱ
 評価実施日 平成19年8月3日
 担当教員名 武市 勝

回答者数 4名

質問項目	評価選択人数						平均値 (科目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
1 授業概要について	(1) 目標・授業計画・内容は、明確に示されていた。	3	1	0	0	0	4.8
	(2) 成績評価の方法は、明確に示されていた。	3	1	0	0	0	4.8
2 授業の内容等について	(3) 授業内容は、授業概要に沿っていた。	2	2	0	0	0	4.5
	(4) 授業内容は、教養や専門性を高めるものだった。	3	1	0	0	0	4.8
	(5) 授業内容は、教育に対する見方や考え方を学べるものだった。	3	1	0	0	0	4.8
	(6) 授業内容は、興味・関心を引くものだった。	3	1	0	0	0	4.8
3 あなたの授業への取り組みについて	(7) 授業によく出席した。	3	1	0	0	0	4.8
	(8) 授業内容をよく理解するために予習や復習をした。	3	1	0	0	0	4.8
	(9) 授業中に積極的に発言や質問をした。	3	1	0	0	0	4.8
	(10) 積極的に課題に取り組んだ。	3	1	0	0	0	4.8
	(11) 分からないことや疑問に思ったことは調べた。	3	1	0	0	0	4.8
4 教員の授業の進め方について	(12) 学生の理解状況を確かめながら授業を行った。	3	1	0	0	0	4.8
	(13) 学生参加型の授業だった。	3	1	0	0	0	4.8
	(14) 熱心に指導した。	3	1	0	0	0	4.8
	(15) 授業内容を分かりやすく説明した。	3	1	0	0	0	4.8
	(16) 教科書や配布資料等の教材は、内容を理解する上で適切だった。	3	1	0	0	0	4.8
	(17) 視聴覚機器及び教育用機器の利用は、適切だった。	3	1	0	0	0	4.8
	(18) 授業の進む速さは、適切だった。	3	1	0	0	0	4.8
	(19) 学生の疑問や質問に適切に答えた。	3	1	0	0	0	4.8
5 授業に対する満足度	(20) この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。	4	0	0	0	0	5.0



教員のコメント

良評価なので学生にとってはおおむね満足だったと考えていいだろうが、今年度シラバスでは内容を変更、水性多色木版画をやめてシルクスクリーンを行うことにした。

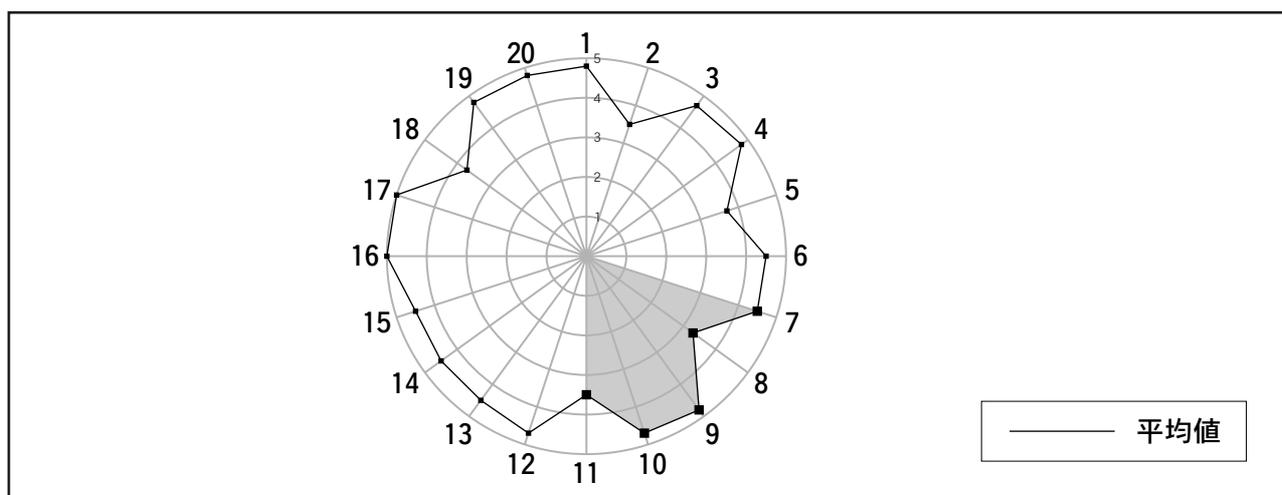
理由としては、①未経験の版画に対して学生のモチベーションが高い②シルクスクリーンの自由さに対して関心を持つ学生が意外と多い③大学での木版は学校現場での指導と必ずしも直結しない、等からである。

2年間ほど取りあげ、アンケート評価が低下するとともに教員自身もよくないと結論すれば戻すことも考えたい。ただ、選択必修ということもあるためか、比較的この授業は小学校教育志望の学生の受講は少なく、中学校教育及び大学院生の受講が主体なので、あまり木版にこだわる必要はないのではと感じている。版画らしくない版画であるが、これを契機に受講生が版画に惹きつけられればありがたいと思っている。

授業科目名 彫刻Ⅱ
 評価実施日 平成19年7月19日
 担当教員名 野崎 窮

回答者数 6名

質問項目	評価選択人数						平均値 (科目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
1 授業概要について	(1) 目標・授業計画・内容は、明確に示されていた。	5	1	0	0	0	4.8
	(2) 成績評価の方法は、明確に示されていた。	1	3	1	0	1	3.5
2 授業の内容等について	(3) 授業内容は、授業概要に沿っていた。	5	0	1	0	0	4.7
	(4) 授業内容は、教養や専門性を高めるものだった。	5	1	0	0	0	4.8
	(5) 授業内容は、教育に対する見方や考え方を学べるものだった。	0	4	2	0	0	3.7
	(6) 授業内容は、興味・関心を引くものだった。	3	3	0	0	0	4.5
3 あなたの授業への取り組みについて	(7) 授業によく出席した。	3	3	0	0	0	4.5
	(8) 授業内容をよく理解するために予習や復習をした。	1	0	5	0	0	3.3
	(9) 積極的に実験、実習、実技等に取り組んだ。	5	1	0	0	0	4.8
	(10) 教員の説明をよく聞いた。	4	2	0	0	0	4.7
	(11) 分からないことや疑問に思ったことは調べた。	1	1	4	0	0	3.5
4 教員の授業の進め方について	(12) 学生の理解状況を確かめながら授業を行った。	5	0	1	0	0	4.7
	(13) 熱心に指導した。	3	3	0	0	0	4.5
	(14) 授業内容を分かりやすく説明した。	3	3	0	0	0	4.5
	(15) 教科書や配布資料等の教材は、内容を理解する上で適切だった。	3	3	0	0	0	4.5
	(16) 設備、器材、用具等の利用は、適切だった。	6	0	0	0	0	5.0
	(17) 教員の声は、聞き取りやすかった。	6	0	0	0	0	5.0
	(18) 与えられた課題のレベルや分量は、適切だった。	2	2	1	0	1	3.7
	(19) 安全に対する指導と配慮は、適切だった。	5	1	0	0	0	4.8
5 授業に対する満足度	(20) この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。	5	1	0	0	0	4.8



教員のコメント

学生の提言として石彫・木彫が経験できてよかったというコメントが多く、授業を行っている者として勇気づけられた。総合的な評価として質問項目5の(20)の数字をみるかぎり、大局的には、このままの授業内容で良いと考える。

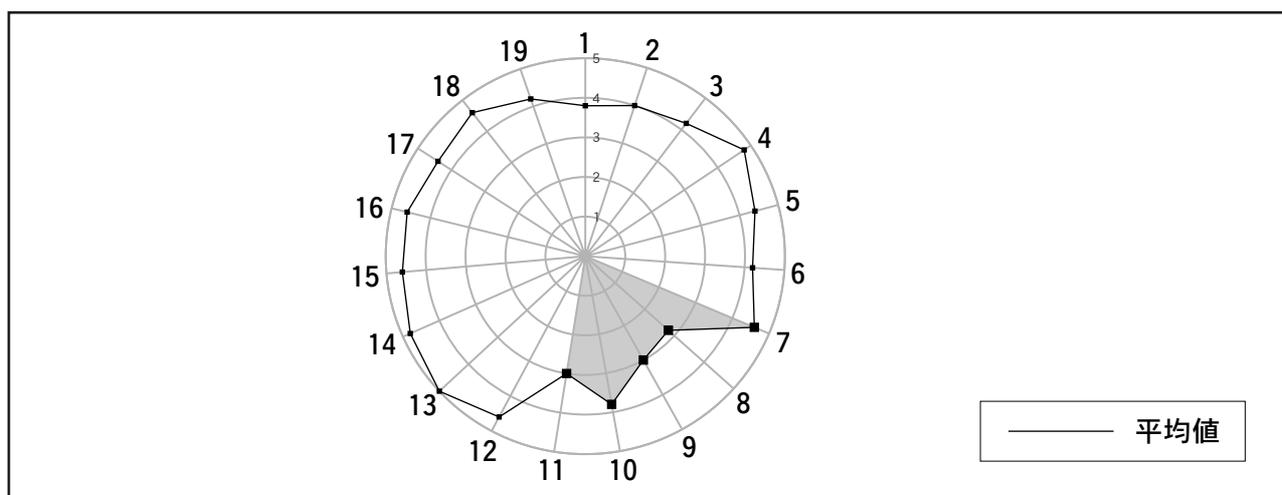
学生の授業への取り組みとして、石彫作品・木彫作品ともに教員の望むレベルには残念ながら至っていないのが正直なところである。特に仕上げの段階で、授業以外にも制作するよう、参考資料を見せるなどしてアドバイスをを行い、レベルアップを図りたい。

それから、意外であったことは質問項目1の(2)である。成績評価の方法は授業の初期段階で説明したはずであるが、徹底されていなかったようなので、今後、授業の最後の段階でも説明しようと考えている。

授業科目名 彫刻材料研究
 評価実施日 平成19年7月18日
 担当教員名 野崎 窮

回答者数 5名

質問項目	評価選択人数						平均値 (科目別)	
	5	4	3	2	1	N.A		
1 授業概要について	(1) 目標・授業計画・内容は、明確に示されていた。	1	2	2	0	0	0	3.8
	(2) 成績評価の方法は、明確に示されていた。	2	1	2	0	0	0	4.0
2 授業の内容等について	(3) 授業内容は、授業概要に沿っていた。	3	0	2	0	0	0	4.2
	(4) 授業内容は、教養や専門性を高めるものだった。	4	1	0	0	0	0	4.8
	(5) 授業内容は、教育に対する見方や考え方を学べるものだった。	2	3	0	0	0	0	4.4
	(6) 授業内容は、興味・関心を引くものだった。	3	0	2	0	0	0	4.2
3 あなたの授業への取り組みについて	(7) 授業によく出席した。	3	2	0	0	0	0	4.6
	(8) 授業内容をよく理解するために予習や復習をした。	0	1	2	2	0	0	2.8
	(9) 授業中に積極的に発言や質問をした。	0	2	1	2	0	0	3.0
	(10) 積極的に課題に取り組んだ。	2	1	1	1	0	0	3.8
	(11) 分からないことや疑問に思ったことは調べた。	0	2	1	2	0	0	3.0
4 教員の授業の進め方について	(12) 学生の理解状況を確かめながら授業を行った。	3	2	0	0	0	0	4.6
	(13) 学生参加型の授業だった。	5	0	0	0	0	0	5.0
	(14) 熱心に指導した。	4	1	0	0	0	0	4.8
	(15) 授業内容を分かりやすく説明した。	3	2	0	0	0	0	4.6
	(16) 視聴覚機器及び教育用機器の利用は、適切だった。	3	2	0	0	0	0	4.6
	(17) 授業の進む速さは、適切だった。	3	1	1	0	0	0	4.4
	(18) 学生の疑問や質問に適切に答えた。	4	0	1	0	0	0	4.6
	(19) この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。	3	0	2	0	0	0	4.2



教員のコメント

この授業は現代美術を取り上げている。理解できるあるいは面白いと思う柔軟な脳が要求され、教授する側も日々勉強と思って授業に臨んでいる。

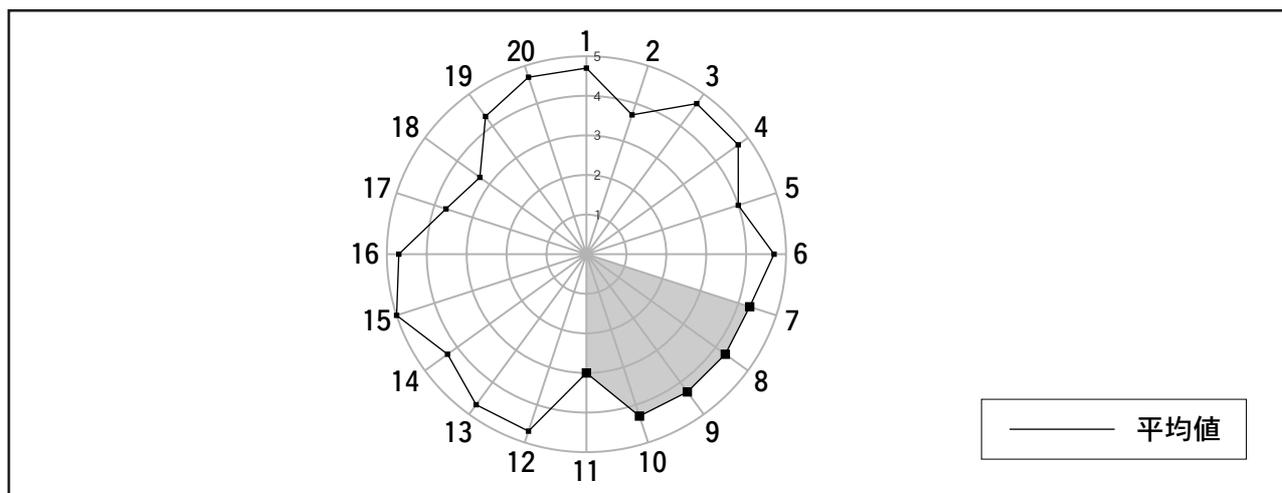
学生の提言としては、空間や場を意識した今までに経験したことがない制作ができてよかったというコメントがあった。質問項目、5の(19)の結果から、全体として満足のゆく授業であったことがわかる。

今後の課題として、学生の授業への取り組みがもっと主体的になるように、授業中の問いかけや現代美術における資料の紹介に努めたい。また、教育現場との関わりをより多く説明することで授業に積極的に関わるよう指導していきたい。

授業科目名 彫刻特別演習
 評価実施日 平成19年7月30日
 担当教員名 長岡 強

回答者数 3名

質問項目	評価選択人数						平均値 (科目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
1 授業概要について	(1) 目標・授業計画・内容は、明確に示されていた。	2	1	0	0	0	4.7
	(2) 成績評価の方法は、明確に示されていた。	1	0	2	0	0	3.7
2 授業の内容等について	(3) 授業内容は、授業概要に沿っていた。	2	1	0	0	0	4.7
	(4) 授業内容は、教養や専門性を高めるものだった。	2	1	0	0	0	4.7
	(5) 授業内容は、教育に対する見方や考え方を学べるものだった。	1	1	1	0	0	4.0
	(6) 授業内容は、興味・関心を引くものだった。	2	1	0	0	0	4.7
3 あなたの授業への取り組みについて	(7) 授業によく出席した。	2	0	1	0	0	4.3
	(8) 授業内容をよく理解するために予習や復習をした。	2	0	1	0	0	4.3
	(9) 積極的に実験、実習、実技等に取り組んだ。	2	0	1	0	0	4.3
	(10) 教員の説明をよく聞いた。	2	0	1	0	0	4.3
	(11) 分からないことや疑問に思ったことは調べた。	0	0	3	0	0	3.0
4 教員の授業の進め方について	(12) 学生の理解状況を確かめながら授業を行った。	2	1	0	0	0	4.7
	(13) 熱心に指導した。	2	1	0	0	0	4.7
	(14) 授業内容を分かりやすく説明した。	2	0	1	0	0	4.3
	(15) 教科書や配布資料等の教材は、内容を理解する上で適切だった。	3	0	0	0	0	5.0
	(16) 設備、器材、用具等の利用は、適切だった。	2	1	0	0	0	4.7
	(17) 教員の声は、聞き取りやすかった。	1	0	2	0	0	3.7
	(18) 与えられた課題のレベルや分量は、適切だった。	1	1	0	0	1	3.3
	(19) 安全に対する指導と配慮は、適切だった。	2	0	1	0	0	4.3
5 授業に対する満足度	(20) この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。	2	1	0	0	0	4.7



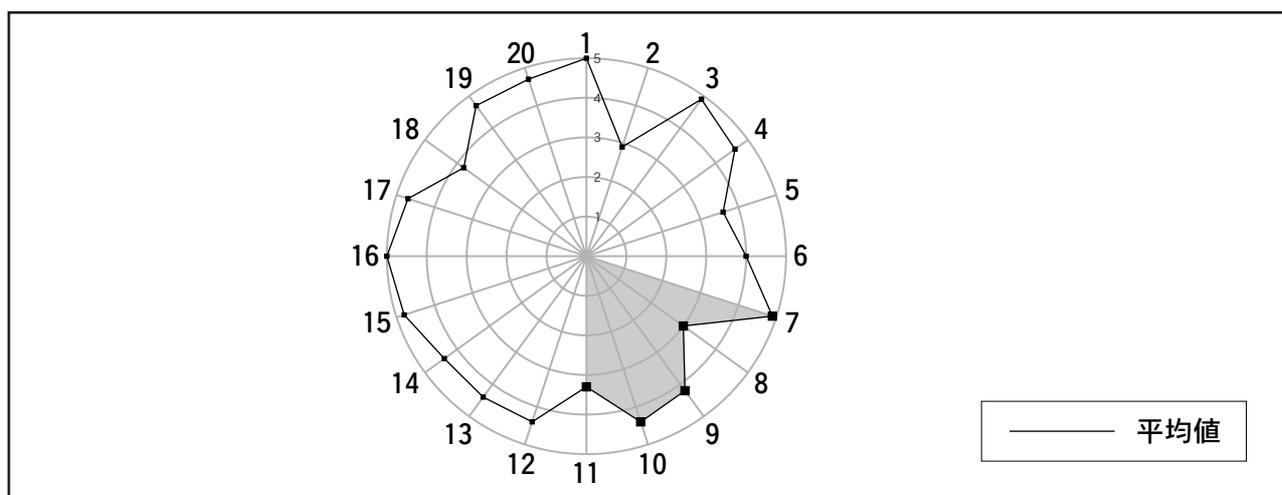
教員のコメント

わずか3名の受講生のため個別指導が徹底し、概ね肯定的な評価を得た。
 調査項目(17)(18)において普通の評価を得ただけで、他の項目では、ほとんどが4, 5の評価を得、受講生にとって十分満足のいく授業であったようだ。
 週1時間の授業に立像制作の課題を実施することは、受講生に過重な負担を強いることになるのは十分承知の上で立像制作の授業を位置づけている。
 自由記述欄の回答によると、「モデル制作の体験のこの授業をもう一度やってみたい。」「いろんな材料の使い方を知った。」等、肯定的な感想が多く、今後もこの内容でもって、改善を図りながら進めていきたいと考えている。

授業科目名 構成・デザイン I
 評価実施日 平成19年 7月26日
 担当教員名 内藤 隆

回答者数 9名

質問項目	評価選択人数	評価選択人数						平均値 (科目別)
		5	4	3	2	1	N.A	
1 授業概要について	(1) 目標・授業計画・内容は、明確に示されていた。	9	0	0	0	0	0	5.0
	(2) 成績評価の方法は、明確に示されていた。	1	1	5	0	2	0	2.9
2 授業の内容等について	(3) 授業内容は、授業概要に沿っていた。	7	1	0	0	0	0	4.9
	(4) 授業内容は、教養や専門性を高めるものだった。	5	4	0	0	0	0	4.6
	(5) 授業内容は、教育に対する見方や考え方を学べるものだった。	1	4	3	1	0	0	3.6
	(6) 授業内容は、興味・関心を引くものだった。	3	4	1	1	0	0	4.0
3 あなたの授業への取り組みについて	(7) 授業によく出席した。	8	1	0	0	0	0	4.9
	(8) 授業内容をよく理解するために予習や復習をした。	1	0	7	0	1	0	3.0
	(9) 積極的に実験、実習、実技等に取り組んだ。	5	2	1	1	0	0	4.2
	(10) 教員の説明をよく聞いた。	5	3	1	0	0	0	4.4
	(11) 分からないことや疑問に思ったことは調べた。	2	2	3	1	1	0	3.3
4 教員の授業の進め方について	(12) 学生の理解状況を確認しながら授業を行った。	5	3	1	0	0	0	4.4
	(13) 熱心に指導した。	6	1	2	0	0	0	4.4
	(14) 授業内容を分かりやすく説明した。	6	1	2	0	0	0	4.4
	(15) 教科書や配布資料等の教材は、内容を理解する上で適切だった。	7	2	0	0	0	0	4.8
	(16) 設備、器材、用具等の利用は、適切だった。	9	0	0	0	0	0	5.0
	(17) 教員の声は、聞き取りやすかった。	7	1	1	0	0	0	4.7
	(18) 与えられた課題のレベルや分量は、適切だった。	3	2	3	1	0	0	3.8
	(19) 安全に対する指導と配慮は、適切だった。	6	3	0	0	0	0	4.7
5 授業に対する満足度	(20) この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。	6	3	0	0	0	0	4.7



教員のコメント

この授業では手作業で行える学習であることを基本概念に、美術分野での予備教育の無い者に対して限られた時間で出来る限りデザイン力の育成を図ることを目的に行っている。内容としてタイポグラフィ、シンボルマーク、写真の構造理解及び暗室・スタジオ操作、映像メディアとしてフォトタッチソフト操作の初歩、図法の簡単な解説とその演習、簡易な木工による遊具考案とその造形、といった内容を順番に消化していく。美術・図工において少しでもデザイン的な内容にふれた教育をするにあたって必要な、最低限の内容と考えている。

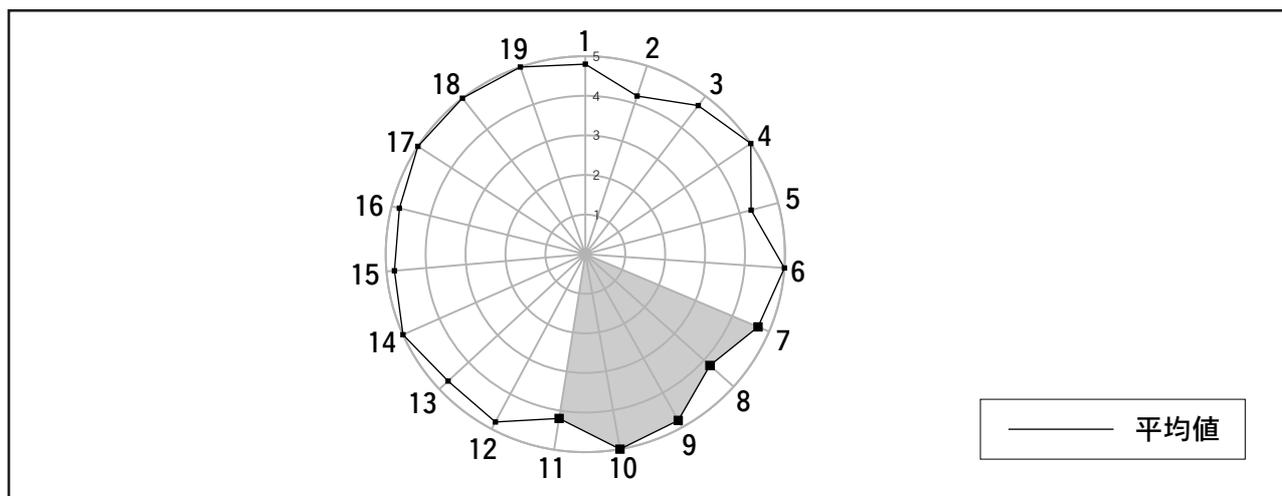
評価の値は概ね例年通りと考えられる。概要における「評価方法」の記述に対する点が低いため、次年度は標記を若干改めたい。他、全体平均が4を切る部分は(5)の教育に対する見方、(18)の課題の分量の2点。これについては例年通りの反応だが、これらについてはここ数年同じコメントを繰り返しているの、18年度及びそれ以前の数年の授業評価報告書を参考にされたい。

自由記述から(必要なのは「痛い意見」だけなので)改善希望点の記述のみ以下に列記する。「課題が多くて大変だった」「時間が少し足りなかった」「課題が多いので少し少なくなればよい」「部屋の冷暖房設備」の4件。課題の量については、より効果的で短期で済む内容が見つければ、減らす。一方、「部屋の冷暖房」については、こちらからも大学側に望みたい内容である。夏は暑さ、冬は暖房設備の水漏れの危機(毎年、天井から突然降って来る)に毎年曝されている。

授業科目名 構成・デザイン材料研究
 評価実施日 平成19年7月26日
 担当教員名 松島 正矩

回答者数 6名

質問項目	評価選択人数						平均値 (科目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
1 授業概要について	(1) 目標・授業計画・内容は、明確に示されていた。	5	1	0	0	0	4.8
	(2) 成績評価の方法は、明確に示されていた。	2	3	1	0	0	4.2
2 授業の内容等について	(3) 授業内容は、授業概要に沿っていた。	5	0	1	0	0	4.7
	(4) 授業内容は、教養や専門性を高めるものだった。	6	0	0	0	0	5.0
	(5) 授業内容は、教育に対する見方や考え方を学べるものだった。	3	2	1	0	0	4.3
	(6) 授業内容は、興味・関心を引くものだった。	6	0	0	0	0	5.0
3 あなたの授業への取り組みについて	(7) 授業によく出席した。	4	2	0	0	0	4.7
	(8) 授業内容をよく理解するために予習や復習をした。	2	3	1	0	0	4.2
	(9) 積極的に実験、実習、実技等に取り組んだ。	5	1	0	0	0	4.8
	(10) 教員の説明をよく聞いた。	6	0	0	0	0	5.0
	(11) 分からないことや疑問に思ったことは調べた。	2	3	1	0	0	4.2
4 教員の授業の進め方について	(12) 学生の理解状況を確かめながら授業を行った。	5	1	0	0	0	4.8
	(13) 熱心に指導した。	4	2	0	0	0	4.7
	(14) 授業内容を分かりやすく説明した。	5	0	0	0	0	5.0
	(15) 設備、器材、用具等の利用は、適切だった。	5	1	0	0	0	4.8
	(16) 教員の声は、聞き取りやすかった。	5	1	0	0	0	4.8
	(17) 与えられた課題のレベルや分量は、適切だった。	6	0	0	0	0	5.0
	(18) 安全に対する指導と配慮は、適切だった。	6	0	0	0	0	5.0
	(19) この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。	6	0	0	0	0	5.0



教員のコメント

この授業は4年次の開講であるが、美術の学生全員が受講してくれている。評価の平均値がすべて4以上となっていることから、この授業は全体的により評価を受けたようであるし、学生も努力してくれたと感じている。そして、全員が満足してくれたことがわかり大変うれしく感じている。提言の欄にも全員が、授業者に自信を与えてくれるような言葉を記入してくれており、感謝している。

毎年、15回目の授業が終わってから、作品とともに全員そろって記念撮影を行っているのであるが、今年は全員がそれまで見せたこともないような素晴らしい笑顔で写っていて、思い出に残る1枚となった。

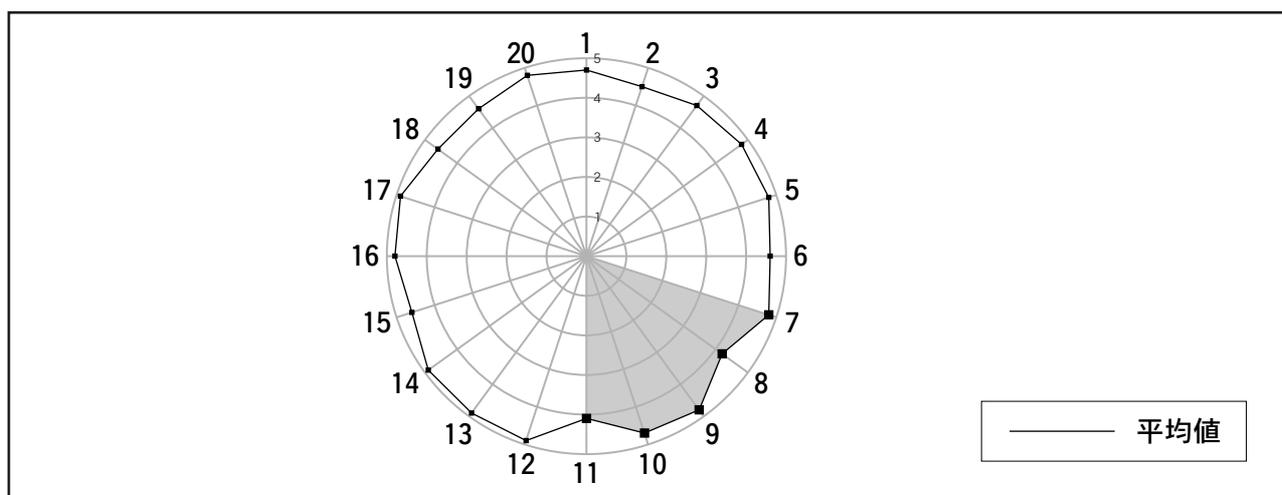
学生のコメント3例を以下に付記する。

- ・分からないことがあるとすぐに質問できて、すぐに教えてもらったのでよかった。
- ・教師になったとき、実際に授業として行うことができる内容が含まれていた。
- ・楽しみながら、コンピュータでの画像処理の知識と技術を身につけることができた。

授業科目名 運動方法実習Ⅳ
 評価実施日 平成19年8月10日
 担当教員名 松井 敦典, 南 隆尚

回答者数 25名

質問項目	評価選択人数						平均値 (科目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
1 授業概要について	(1) 目標・授業計画・内容は、明確に示されていた。	18	7	0	0	0	4.7
	(2) 成績評価の方法は、明確に示されていた。	14	9	2	0	0	4.5
2 授業の内容等について	(3) 授業内容は、授業概要に沿っていた。	21	1	3	0	0	4.7
	(4) 授業内容は、教養や専門性を高めるものだった。	20	4	1	0	0	4.8
	(5) 授業内容は、教育に対する見方や考え方を学べるものだった。	20	4	1	0	0	4.8
	(6) 授業内容は、興味・関心を引くものだった。	17	6	1	1	0	4.6
3 あなたの授業への取り組みについて	(7) 授業によく出席した。	21	3	1	0	0	4.8
	(8) 授業内容をよく理解するために予習や復習をした。	15	5	2	2	1	4.2
	(9) 積極的に実験、実習、実技等に取り組んだ。	21	2	2	0	0	4.8
	(10) 教員の説明をよく聞いた。	19	5	1	0	0	4.7
	(11) 分からないことや疑問に思ったことは調べた。	13	5	5	0	2	4.1
4 教員の授業の進め方について	(12) 学生の理解状況を確認しながら授業を行った。	22	3	0	0	0	4.9
	(13) 熱心に指導した。	22	3	0	0	0	4.9
	(14) 授業内容を分かりやすく説明した。	22	3	0	0	0	4.9
	(15) 教科書や配布資料等の教材は、内容を理解する上で適切だった。	17	5	3	0	0	4.6
	(16) 設備、器材、用具等の利用は、適切だった。	21	2	2	0	0	4.8
	(17) 教員の声は、聞き取りやすかった。	23	2	0	0	0	4.9
	(18) 与えられた課題のレベルや分量は、適切だった。	19	3	3	0	0	4.6
	(19) 安全に対する指導と配慮は、適切だった。	18	5	2	0	0	4.6
5 授業に対する満足度	(20) この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。	20	4	1	0	0	4.8



教員のコメント

本授業は広範囲な「水泳」を取り扱い、体育を担当する教員やスポーツ指導者として必要な知識・実技能力・実践指導力・安全管理能力を養成することを目的としている。受講生の評価によると、授業の目的と内容をよく理解し、実践し、概ねよい評価を下していると判断できる。また、前回の評価で最も得点の低かった項目、受講生自身の「予習・復習」に関する得点が3.7から4.2に向上した。これは、TAの授業中あるいは授業外における指導補助の効果が大きく貢献し、加えて授業実施期間中、例年に比較して好天に恵まれたことなども好影響を与えたと考えられる。

尚、本学学生は卒業要件として小学校教員免許を取得することが必須であり、加えて体育科・保健体育科コースの学生は保健体育科教員免許を取得することが必須である。しかし、本学入学前、高校卒業までの教育課程において、その進路に必要な水泳教育の機会が与えられていない受講生も少なからず存在し、その知識・技能に大きな格差があることも実感させられた。このような個人差のある受講生に対して、全員が水泳教育を担当しうる教員としての資質と能力を持てるよう、今後も工夫して育てていきたい。

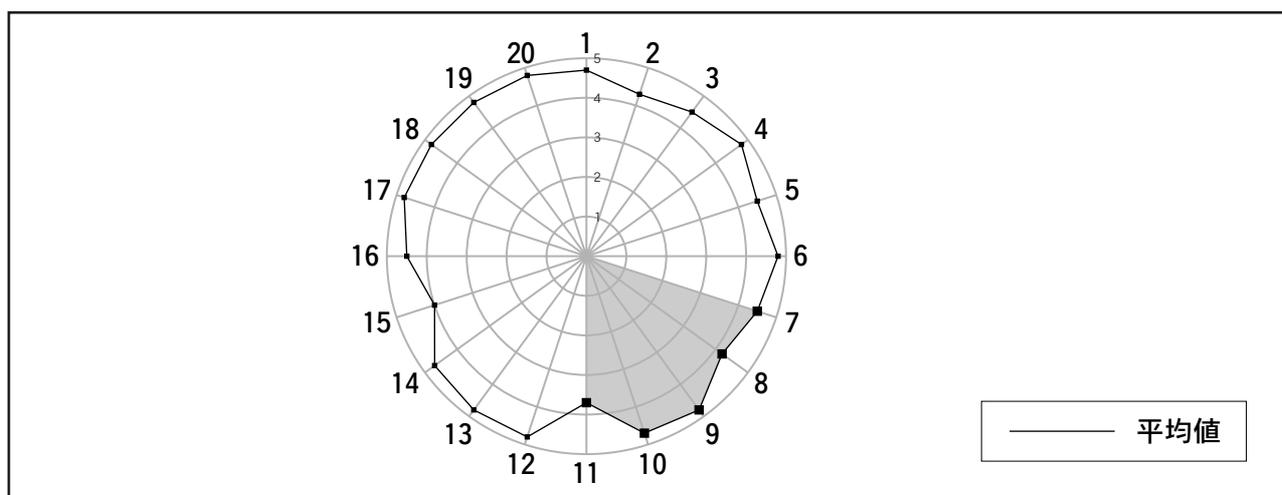
授業科目名 運動方法実習Ⅱ（柔道）

評価実施日 平成19年6月14日

担当教員名 南 隆尚

回答者数 6名

質問項目	評価選択人数						平均値 (科目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
1 授業概要について	(1) 目標・授業計画・内容は、明確に示されていた。	4	2	0	0	0	4.7
	(2) 成績評価の方法は、明確に示されていた。	3	2	1	0	0	4.3
2 授業の内容等について	(3) 授業内容は、授業概要に沿っていた。	3	3	0	0	0	4.5
	(4) 授業内容は、教養や専門性を高めるものだった。	5	1	0	0	0	4.8
	(5) 授業内容は、教育に対する見方や考え方を学べるものだった。	3	3	0	0	0	4.5
	(6) 授業内容は、興味・関心を引くものだった。	5	1	0	0	0	4.8
3 あなたの授業への取り組みについて	(7) 授業によく出席した。	3	3	0	0	0	4.5
	(8) 授業内容をよく理解するために予習や復習をした。	2	3	1	0	0	4.2
	(9) 積極的に実験、実習、実技等に取り組んだ。	5	1	0	0	0	4.8
	(10) 教員の説明をよく聞いた。	4	2	0	0	0	4.7
	(11) 分からないことや疑問に思ったことは調べた。	1	2	3	0	0	3.7
4 教員の授業の進め方について	(12) 学生の理解状況を確認しながら授業を行った。	5	1	0	0	0	4.8
	(13) 熱心に指導した。	5	1	0	0	0	4.8
	(14) 授業内容を分かりやすく説明した。	4	2	0	0	0	4.7
	(15) 教科書や配布資料等の教材は、内容を理解する上で適切だった。	1	4	1	0	0	4.0
	(16) 設備、器材、用具等の利用は、適切だった。	3	3	0	0	0	4.5
	(17) 教員の声は、聞き取りやすかった。	5	1	0	0	0	4.8
	(18) 与えられた課題のレベルや分量は、適切だった。	5	1	0	0	0	4.8
	(19) 安全に対する指導と配慮は、適切だった。	5	1	0	0	0	4.8
5 授業に対する満足度	(20) この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。	5	1	0	0	0	4.8



教員のコメント

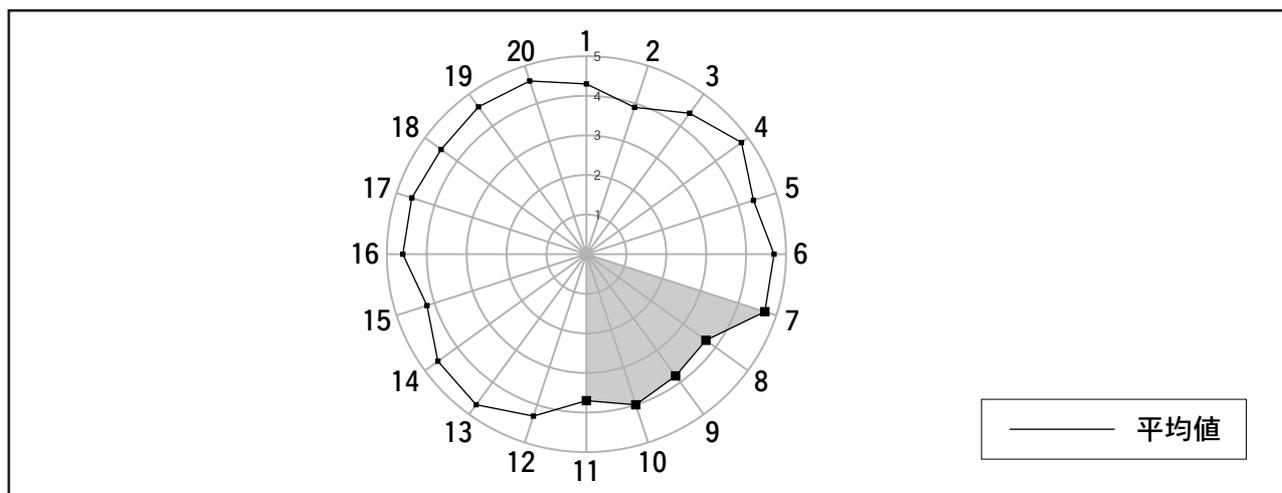
- 授業の内容等について：授業の進め方は適切であったと考えられる。特に毎回、受講記録を各学生に配布、各自に質問や感想等を聞いた受講記録表がコミュニケーションのツールとして役立つものと考ええる。
- 授業の感想として、模擬授業が有用であったことを挙げており、実技指導の中で重視していきたいと考える。
- あなたの授業への取り組みについて：自ら課題を持って積極的に取り組み、解決する問題提示がされていなかったことが反省される。実技授業ではあるが、自分で調べられる環境づくりが必要である。
- 問題点として、試合数が少なかったことを挙げたものがあり、内容を厳選し、実践的な割合を増やしていく必要がある。

柔道は、現在検討されている学習指導要領において、武道として選択必修授業となる。学生の要望も高く、より充実した内容を検討する必要がある。道徳的な礼儀・作法や歴史的背景を授業に盛り込み、基本知識の習得を促す必要がある。

授業科目名 体育哲学Ⅰ・Ⅱ
 評価実施日 平成19年7月26日
 担当教員名 綿引 勝美

回答者数 12名

質問項目	評価選択人数	評価選択人数						平均値 (科目別)
		5	4	3	2	1	N.A	
1 授業概要について	(1) 目標・授業計画・内容は、明確に示されていた。	5	5	2	0	0	0	4.3
	(2) 成績評価の方法は、明確に示されていた。	3	5	4	0	0	0	3.9
2 授業の内容等について	(3) 授業内容は、授業概要に沿っていた。	6	5	1	0	0	0	4.4
	(4) 授業内容は、教養や専門性を高めるものだった。	10	2	0	0	0	0	4.8
	(5) 授業内容は、教育に対する見方や考え方を学べるものだった。	5	7	0	0	0	0	4.4
	(6) 授業内容は、興味・関心を引くものだった。	8	4	0	0	0	0	4.7
3 あなたの授業への取り組みについて	(7) 授業によく出席した。	9	2	1	0	0	0	4.7
	(8) 授業内容をよく理解するために予習や復習をした。	1	6	5	0	0	0	3.7
	(9) 授業中に積極的に発言や質問をした。	3	4	5	0	0	0	3.8
	(10) 教員の説明をよく聞いた。	2	8	2	0	0	0	4.0
	(11) 分からないことや疑問に思ったことは調べた。	2	5	4	1	0	0	3.7
4 教員の授業の進め方について	(12) 学生の理解状況を確認しながら授業を行った。	4	8	0	0	0	0	4.3
	(13) 学生が参加しやすい授業だった。	8	4	0	0	0	0	4.7
	(14) 熱心に指導した。	8	3	1	0	0	0	4.6
	(15) 授業内容を分かりやすく説明した。	3	8	1	0	0	0	4.2
	(16) 教科書や配布資料等の教材は、内容を理解する上で適切だった。	7	5	0	0	0	0	4.6
	(17) 視聴覚機器及び教育用機器の利用は、適切だった。	7	4	0	0	0	0	4.6
	(18) 教員の声は、聞き取りやすかった。	6	6	0	0	0	0	4.5
	(19) 授業の進む速さは、適切だった。	7	5	0	0	0	0	4.6
5 授業に対する満足度	(20) この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。	7	5	0	0	0	0	4.6



教員のコメント

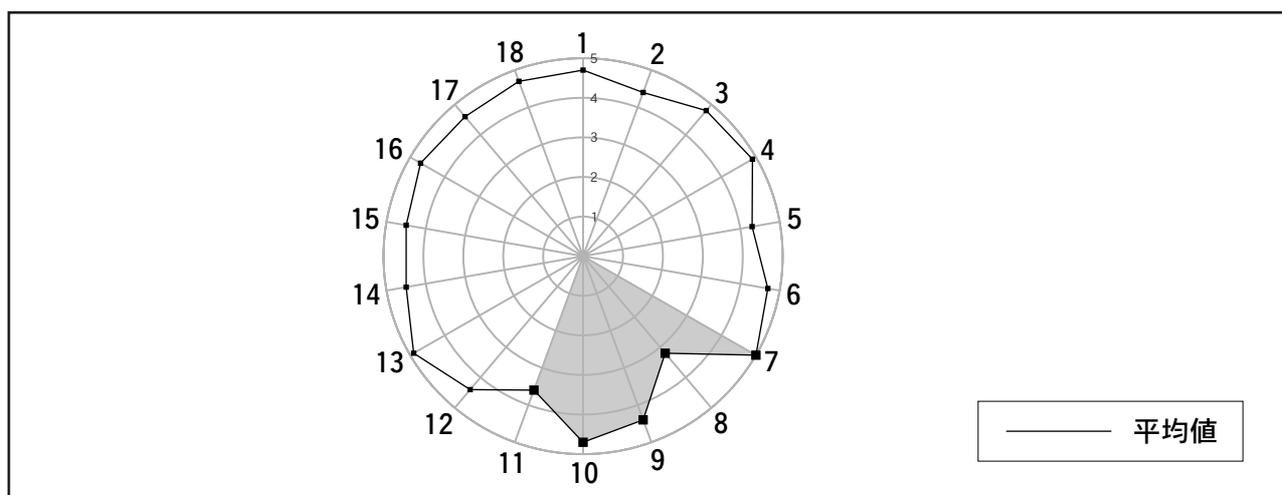
本年度も、身体の商品化や加工の問題を主にあつかいながら、学生の論理的な説明能力やプレゼンテーションの能力の育成を狙いとした。生命倫理問題は、多くの矛盾をはらむところがあり、価値判断も分かれるところである。その点を踏まえて、学生がこの問題がはらんでいる論理矛盾に気づき、その現実的な解決の様子についての多角的で粘り強い批判的思惟の展開力を身につけるべく、概念配置や論理展開の構造を解明するレポートを課し、その記述的なプレゼンテーションと意見提出を求めた。

こうした授業の進め方については、おおむね好意的な評価をえたようであるが、評価の難しさも指摘しておかなくてはならない。学生同士の相互評価など、次年度の課題として残されることになった。

授業科目名 体育心理学Ⅱ
 評価実施日 平成19年7月26日
 担当教員名 賀川 昌明

回答者数 14名

質問項目	評価選択人数						平均値 (科目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
1 授業概要について	(1) 目標・授業計画・内容は、明確に示されていた。	10	4	0	0	0	4.7
	(2) 成績評価の方法は、明確に示されていた。	7	5	2	0	0	4.4
2 授業の内容等について	(3) 授業内容は、授業概要に沿っていた。	11	3	0	0	0	4.8
	(4) 授業内容は、教養や専門性を高めるものだった。	13	1	0	0	0	4.9
	(5) 授業内容は、教育に対する見方や考え方を学べるものだった。	6	6	2	0	0	4.3
	(6) 授業内容は、興味・関心を引くものだった。	11	2	1	0	0	4.7
3 あなたの授業への取り組みについて	(7) 授業によく出席した。	14	0	0	0	0	5.0
	(8) 授業内容をよく理解するために予習や復習をした。	1	5	5	2	1	3.2
	(9) 授業中に積極的に発言や質問をした。	9	3	1	1	0	4.4
	(10) 積極的に課題に取り組んだ。	10	4	0	0	0	4.7
	(11) 分からないことや疑問に思ったことは調べた。	2	6	4	2	0	3.6
4 教員の授業の進め方について	(12) 学生の理解状況を確認しながら授業を行った。	7	6	1	0	0	4.4
	(13) 学生参加型の授業だった。	13	1	0	0	0	4.9
	(14) 熱心に指導した。	9	3	2	0	0	4.5
	(15) 授業内容を分かりやすく説明した。	8	4	1	0	0	4.5
	(16) 授業の進む速さは、適切だった。	12	0	2	0	0	4.7
	(17) 学生の疑問や質問に適切に答えた。	9	5	0	0	0	4.6
5 授業に対する満足度	(18) この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。	11	2	1	0	0	4.7



教員のコメント

本授業では、前半に実施した体育心理学Ⅰの講義内容に関連する課題を受講生が設定し、それらに関して調べた内容を当番制で発表した後に全員で討議した。その際、授業者は発表・討議の進行役に徹し、できる限り受講生からの意見を引き出すように努めた。

その結果、受講生からの評価は高く、ほとんどの項目で平均4.0以上の評価点を得た。特に「教員の授業の進め方について」は、すべての項目で平均4.5以上の評価点となっている。また、「授業に対する満足度」も4.7の平均点となっており、受講生がこの授業から高い満足感を得たことが窺える。

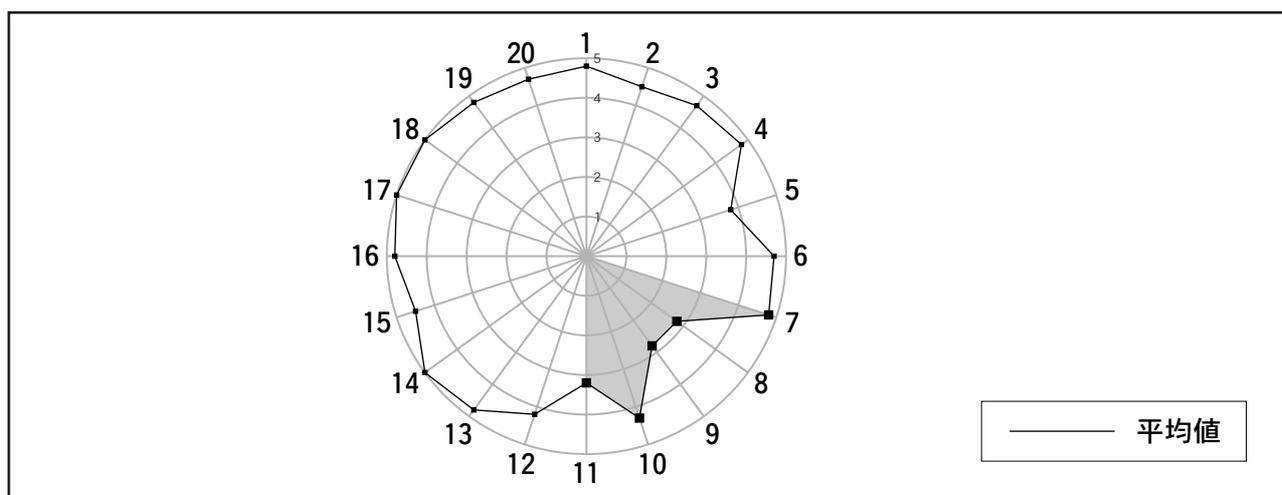
一方、受講生の授業への取り組み方に関する項目のうち、予習・復習に関する項目(8)(11)においては、相対的に低い平均評価点を示した。そして、授業への出席や課題への取り組み、授業中の質問に関する項目(7)(9)(10)に高い平均評価点を示したことからすると、自分のことについては一生懸命に取り組んだものの、他人の発表に関してはそれほど突っ込んで取り組まなかったという受講生の実態が見えてくる。

自由記述にも示されているが、学生参加型の授業に対して受講生は高い評価を示し、非常に積極的である。しかしながら、それを契機とした相互啓発はそれほど活発ではない。今後、そのあたりに焦点を当てた授業運営を考える必要がある。

授業科目名 体育社会学Ⅱ
 評価実施日 平成19年7月25日
 担当教員名 木原 資裕

回答者数 6名

質問項目	評価選択人数	評価選択人数						平均値 (科目別)
		5	4	3	2	1	N.A	
1 授業概要について	(1) 目標・授業計画・内容は、明確に示されていた。	5	1	0	0	0	0	4.8
	(2) 成績評価の方法は、明確に示されていた。	4	1	1	0	0	0	4.5
2 授業の内容等について	(3) 授業内容は、授業概要に沿っていた。	5	0	1	0	0	0	4.7
	(4) 授業内容は、教養や専門性を高めるものだった。	5	1	0	0	0	0	4.8
	(5) 授業内容は、教育に対する見方や考え方を学べるものだった。	3	1	0	2	0	0	3.8
	(6) 授業内容は、興味・関心を引くものだった。	4	2	0	0	0	0	4.7
3 あなたの授業への取り組みについて	(7) 授業によく出席した。	5	1	0	0	0	0	4.8
	(8) 授業内容をよく理解するために予習や復習をした。	1	1	2	0	2	0	2.8
	(9) 授業中に積極的に発言や質問をした。	1	1	2	0	2	0	2.8
	(10) 教員の説明をよく聞いた。	2	4	0	0	0	0	4.3
	(11) 分からないことや疑問に思ったことは調べた。	1	1	3	0	1	0	3.2
4 教員の授業の進め方について	(12) 学生の理解状況を確かめながら授業を行った。	3	1	2	0	0	0	4.2
	(13) 学生が参加しやすい授業だった。	5	1	0	0	0	0	4.8
	(14) 熱心に指導した。	6	0	0	0	0	0	5.0
	(15) 授業内容を分かりやすく説明した。	4	1	1	0	0	0	4.5
	(16) 教科書や配布資料等の教材は、内容を理解する上で適切だった。	5	1	0	0	0	0	4.8
	(17) 視聴覚機器及び教育用機器の利用は、適切だった。	6	0	0	0	0	0	5.0
	(18) 教員の声は、聞き取りやすかった。	6	0	0	0	0	0	5.0
	(19) 授業の進む速さは、適切だった。	5	1	0	0	0	0	4.8
5 授業に対する満足度	(20) この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。	4	2	0	0	0	0	4.7



教員のコメント

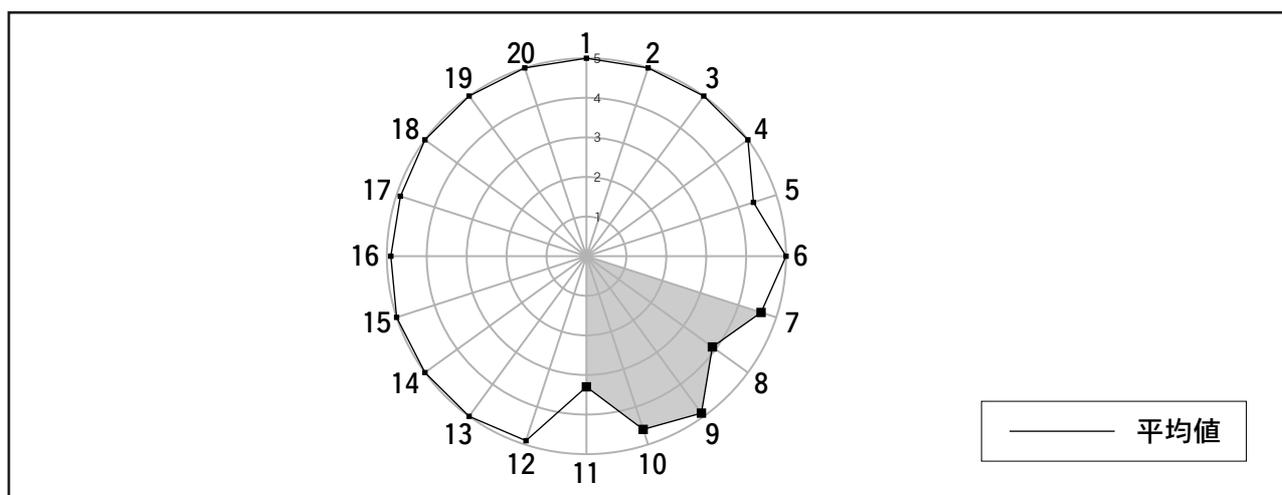
「20. この授業は自分自身にとって満足できるものであった。」の項目に対して、平均値 4.7 であり、受講生の満足度としては、まずまずであったと思う。全項目中、平均値 5.0 と最も高い値を示したものは「14. 熱心に指導した。」「17. 視聴覚機器及び教育機器の利用が適切だった。」「18. 教員の声は聞き取りやすかった。」であった。私自身が授業実施上、留意している分かりやすく話をし、視聴覚教材をできるだけ多く使用することを受講生が評価してくれているように思える。

一方、全項目中、最も低い平均値を示した項目は、「8. 授業内容をよく理解するために予習や復習をした」「9. 授業中に積極的に発言や質問をした。」(平均値 2.8) であった。次いで「11. 分からないことや疑問に思ったことは調べた」(平均値 3.6) であり、授業にはよく出席するが、授業以外では、授業に関する勉強はしない実態が読みとることができる。このことは、私自身が受講生に予習復習をあえて要求することもなく、授業時間の中で理解し得る程度の内容と授業展開に起因することであると思われる。課題レポート等を通して、それらを改善していくことを今後の課題としたい。

授業科目名 スポーツトレーニング論
 評価実施日 平成19年7月24日
 担当教員名 南 隆尚

回答者数 8名

質問項目	評価選択人数						平均値 (科目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
1 授業概要について	(1) 目標・授業計画・内容は、明確に示されていた。	8	0	0	0	0	5.0
	(2) 成績評価の方法は、明確に示されていた。	8	0	0	0	0	5.0
2 授業の内容等について	(3) 授業内容は、授業概要に沿っていた。	8	0	0	0	0	5.0
	(4) 授業内容は、教養や専門性を高めるものだった。	8	0	0	0	0	5.0
	(5) 授業内容は、教育に対する見方や考え方を学べるものだった。	5	1	2	0	0	4.4
	(6) 授業内容は、興味・関心を引くものだった。	8	0	0	0	0	5.0
3 あなたの授業への取り組みについて	(7) 授業によく出席した。	5	3	0	0	0	4.6
	(8) 授業内容をよく理解するために予習や復習をした。	3	2	2	1	0	3.9
	(9) 積極的に実験、実習、実技等に取り組んだ。	7	1	0	0	0	4.9
	(10) 教員の説明をよく聞いた。	5	3	0	0	0	4.6
	(11) 分からないことや疑問に思ったことは調べた。	2	1	3	1	1	3.3
4 教員の授業の進め方について	(12) 学生の理解状況を確認しながら授業を行った。	7	1	0	0	0	4.9
	(13) 熱心に指導した。	8	0	0	0	0	5.0
	(14) 授業内容を分かりやすく説明した。	8	0	0	0	0	5.0
	(15) 教科書や配布資料等の教材は、内容を理解する上で適切だった。	8	0	0	0	0	5.0
	(16) 設備、器材、用具等の利用は、適切だった。	7	1	0	0	0	4.9
	(17) 教員の声は、聞き取りやすかった。	7	1	0	0	0	4.9
	(18) 与えられた課題のレベルや分量は、適切だった。	8	0	0	0	0	5.0
	(19) 安全に対する指導と配慮は、適切だった。	8	0	0	0	0	5.0
5 授業に対する満足度	(20) この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。	8	0	0	0	0	5.0



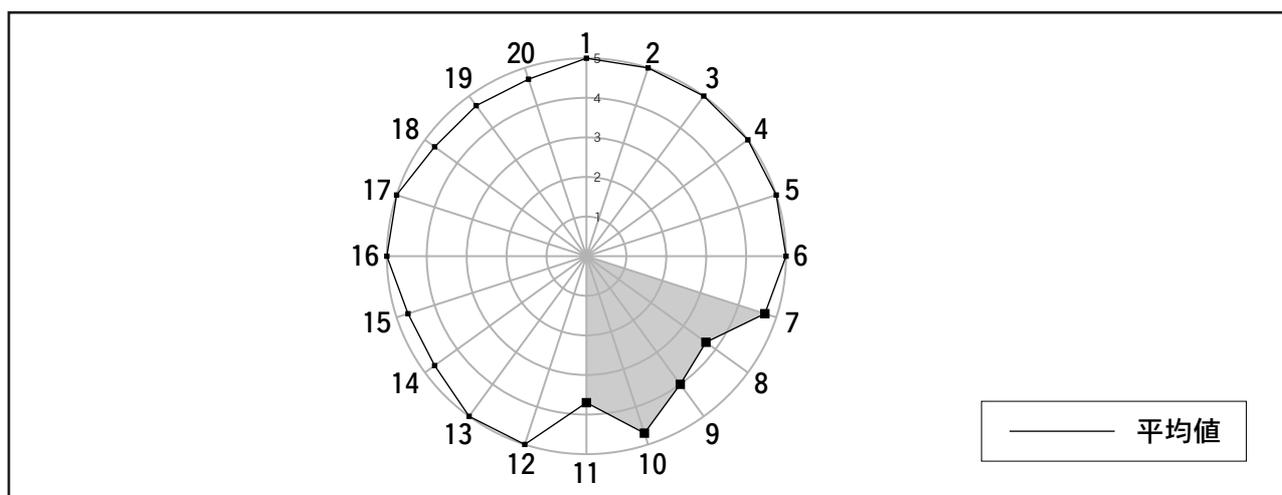
教員のコメント

- 授業の内容等について：授業の進め方からも授業進度が速かったと考えられる。また一斉授業の形式、毎時間小テストを実施したことにより、知識を覚えることに終始してしまったことが考えられる。
 - あなたの授業への取り組みについて：自ら課題を持って積極的に取り組み、解決する問題提示がされていなかったことが反省される。授業概要を詳細にすることや、補助教材を充実させ、学習を援助することが考えられる。
 - 教員の授業の進め方について：授業の中心がプレゼンテーションソフトを使用し、メモや図表を板書し、計画的な板書ができていなかったと考えられる。またプレゼンテーションの技術の向上も必要である。
- 本授業は、スポーツトレーニング論という題目であり、学生からはトレーニングの方法論を期待する向きがある。しかし内容的には生理学・心理学・スポーツ医学諸学とのつながりを鑑みながら、理論的背景を授業の中心におくことに学生との格差がある。学生への基本知識の習得を促す動機付けが必要である。

授業科目名 学校体育経営論
 評価実施日 平成19年7月26日
 担当教員名 藤田 雅文

回答者数 3名

質問項目	評価選択人数						平均値 (科目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
1 授業概要について	(1) 目標・授業計画・内容は、明確に示されていた。	3	0	0	0	0	5.0
	(2) 成績評価の方法は、明確に示されていた。	3	0	0	0	0	5.0
2 授業の内容等について	(3) 授業内容は、授業概要に沿っていた。	3	0	0	0	0	5.0
	(4) 授業内容は、教養や専門性を高めるものだった。	3	0	0	0	0	5.0
	(5) 授業内容は、教育に対する見方や考え方を学べるものだった。	3	0	0	0	0	5.0
	(6) 授業内容は、興味・関心を引くものだった。	3	0	0	0	0	5.0
3 あなたの授業への取り組みについて	(7) 授業によく出席した。	2	1	0	0	0	4.7
	(8) 授業内容をよく理解するために予習や復習をした。	1	0	2	0	0	3.7
	(9) 授業中に積極的に発言や質問をした。	1	1	1	0	0	4.0
	(10) 教員の説明をよく聞いた。	2	1	0	0	0	4.7
	(11) 分からないことや疑問に思ったことは調べた。	1	0	2	0	0	3.7
4 教員の授業の進め方について	(12) 学生の理解状況を確認しながら授業を行った。	3	0	0	0	0	5.0
	(13) 学生が参加しやすい授業だった。	3	0	0	0	0	5.0
	(14) 熱心に指導した。	2	1	0	0	0	4.7
	(15) 授業内容を分かりやすく説明した。	2	1	0	0	0	4.7
	(16) 教科書や配布資料等の教材は、内容を理解する上で適切だった。	3	0	0	0	0	5.0
	(17) 視聴覚機器及び教育用機器の利用は、適切だった。	2	0	0	0	0	5.0
	(18) 教員の声は、聞き取りやすかった。	2	1	0	0	0	4.7
	(19) 授業の進む速さは、適切だった。	2	1	0	0	0	4.7
5 授業に対する満足度	(20) この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。	2	1	0	0	0	4.7



教員のコメント

項目ごとの平均値は、以下の通りである。授業に対する満足度が4.67であることから、総合的には高い評価を得たと考えている。

- | | |
|---------------------------|------------------------|
| 1 授業概要について (5.00) | 4 教員の授業の進め方について (4.63) |
| 2 授業の内容等について (5.00) | 5 授業に対する満足度 (4.67) |
| 3 あなたの授業への取り組みについて (4.13) | |

「この授業でよかったこと」について、3名中2名が回答しており、その内容は以下の通りである。
 「教員採用試験の問題に授業の内容が多く出ていて役立ちました。」
 「教育現場で生かせる内容だった。」

今後は、予習・復習を促すような小テストやレポートの課題提示などに取り組みたい。

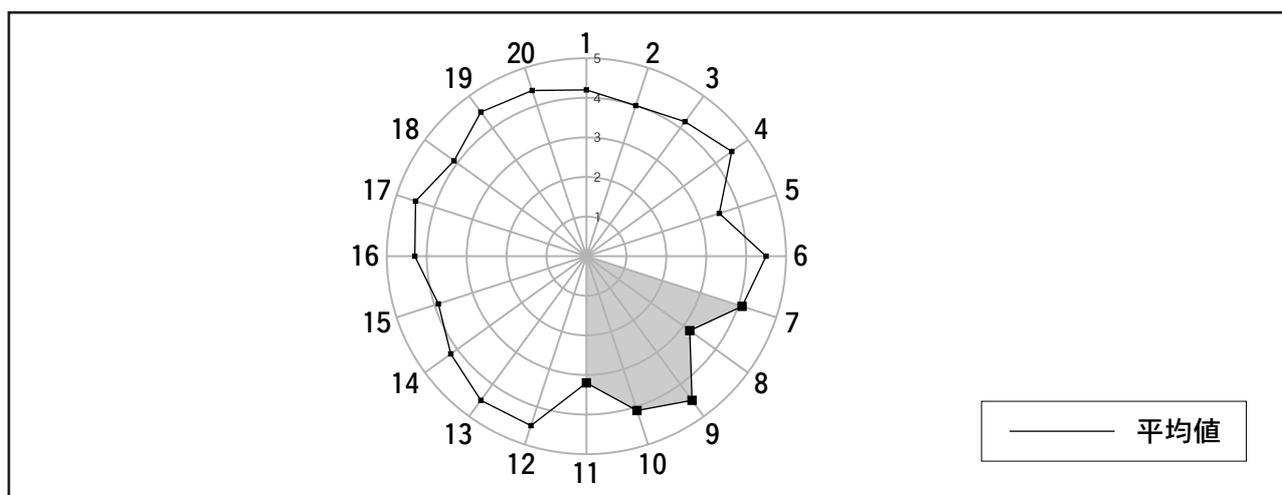
授業科目名 材料加工学 I (木材加工, 製図及び実習を含む。)

評価実施日 平成19年 7月26日

担当教員名 米延 仁志, 尾崎 士郎

回答者数 13名

質問項目	評価選択人数	評価選択人数					平均値 (科目別)	
		5	4	3	2	1		N.A
1 授業概要について	(1) 目標・授業計画・内容は、明確に示されていた。	3	9	1	0	0	0	4.2
	(2) 成績評価の方法は、明確に示されていた。	2	9	2	0	0	0	4.0
2 授業の内容等について	(3) 授業内容は、授業概要に沿っていた。	4	7	2	0	0	0	4.2
	(4) 授業内容は、教養や専門性を高めるものだった。	9	2	2	0	0	0	4.5
	(5) 授業内容は、教育に対する見方や考え方を学べるものだった。	1	6	5	1	0	0	3.5
	(6) 授業内容は、興味・関心を引くものだった。	8	3	2	0	0	0	4.5
3 あなたの授業への取り組みについて	(7) 授業によく出席した。	5	4	4	0	0	0	4.1
	(8) 授業内容をよく理解するために予習や復習をした。	0	4	7	2	0	0	3.2
	(9) 積極的に実験、実習、実技等に取り組んだ。	8	4	0	1	0	0	4.5
	(10) 教員の説明をよく聞いた。	5	4	4	0	0	0	4.1
	(11) 分からないことや疑問に思ったことは調べた。	0	6	5	1	1	0	3.2
4 教員の授業の進め方について	(12) 学生の理解状況を確認しながら授業を行った。	8	4	1	0	0	0	4.5
	(13) 熱心に指導した。	9	2	1	1	0	0	4.5
	(14) 授業内容を分かりやすく説明した。	4	7	2	0	0	0	4.2
	(15) 教科書や配布資料等の教材は、内容を理解する上で適切だった。	3	6	4	0	0	0	3.9
	(16) 設備、器材、用具等の利用は、適切だった。	6	5	2	0	0	0	4.3
	(17) 教員の声は、聞き取りやすかった。	7	5	1	0	0	0	4.5
	(18) 与えられた課題のレベルや分量は、適切だった。	4	6	3	0	0	0	4.1
	(19) 安全に対する指導と配慮は、適切だった。	8	3	2	0	0	0	4.5
5 授業に対する満足度	(20) この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。	7	4	2	0	0	0	4.4



教員のコメント

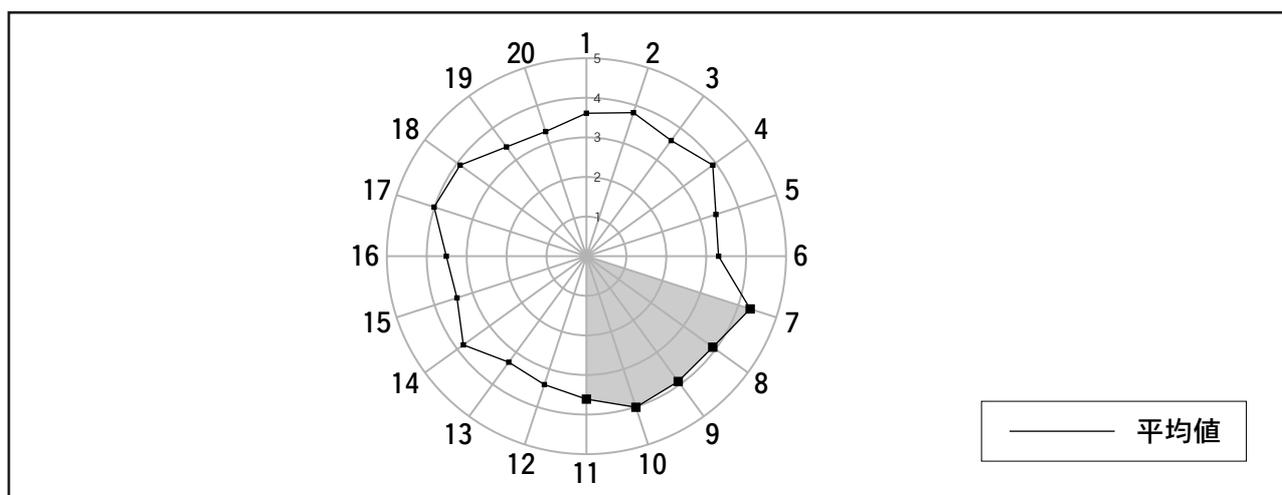
「授業に対する満足度」(評価5=7人, 評価4=4人, 評価2以下=0人;受講者数13) および「授業でよかったこと」に関する記述からおおむね高い評価を得たと考えている。質問項目5でやや評価が低かった。本講義は木材加工技術を養うことを目標(シラバス参照)であり主に安全教育に絞らざるを得ないが,改善点として実習中に受講者個々に対して学校教育への関連性を強調した話題を提供すべきであると考えている。

授業の改善点に関する自由記述では, 実習室が暑い(2名), 教員の手が回らない(1名)との指摘を受けた。前者については木工室に冷房設備がないためであり, 実習環境の改善が必要である。後方で, 受講者数(13人)が標準的な実習室の収容人数8人を大きく超えていたため, 受講者個々に対する指導に苦慮した。しかしながら教員免許取得に関連してニーズがある現状を考えると, 受講者数を厳格に制限することはできない。チームティーチングの方法について担当教員で検討したい。

授業科目名 材料力学
 評価実施日 平成19年7月26日
 担当教員名 宮下 晃一

回答者数 7名

質問項目	評価選択人数						平均値 (科目別)	
	5	4	3	2	1	N.A		
1 授業概要について	(1) 目標・授業計画・内容は、明確に示されていた。	2	1	5	0	0	0	3.6
	(2) 成績評価の方法は、明確に示されていた。	2	2	4	0	0	0	3.8
2 授業の内容等について	(3) 授業内容は、授業概要に沿っていた。	2	2	3	1	0	0	3.6
	(4) 授業内容は、教養や専門性を高めるものだった。	2	3	3	0	0	0	3.9
	(5) 授業内容は、教育に対する見方や考え方を学べるものだった。	2	1	4	0	1	0	3.4
	(6) 授業内容は、興味・関心を引くものだった。	2	1	3	1	1	0	3.3
3 あなたの授業への取り組みについて	(7) 授業によく出席した。	5	1	1	1	0	0	4.3
	(8) 授業内容をよく理解するために予習や復習をした。	2	3	3	0	0	0	3.9
	(9) 授業中に積極的に発言や質問をした。	3	2	2	1	0	0	3.9
	(10) 教員の説明をよく聞いた。	3	2	3	0	0	0	4.0
	(11) 分からないことや疑問に思ったことは調べた。	2	2	3	1	0	0	3.6
4 教員の授業の進め方について	(12) 学生の理解状況を確認しながら授業を行った。	2	2	2	1	1	0	3.4
	(13) 学生が参加しやすい授業だった。	1	2	3	2	0	0	3.3
	(14) 熱心に指導した。	3	1	3	1	0	0	3.8
	(15) 授業内容を分かりやすく説明した。	2	1	3	2	0	0	3.4
	(16) 教科書や配布資料等の教材は、内容を理解する上で適切だった。	2	1	4	1	0	0	3.5
	(17) 視聴覚機器及び教育用機器の利用は、適切だった。	3	2	3	0	0	0	4.0
	(18) 教員の声は、聞き取りやすかった。	3	1	4	0	0	0	3.9
	(19) 授業の進む速さは、適切だった。	2	1	4	0	1	0	3.4
5 授業に対する満足度	(20) この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。	2	1	3	1	1	0	3.3



教員のコメント

平均値を見ると概ね良好な評価を得ていると思う。しかし質問項目(5)(6)(12)(19)(20)において、①の評価をした学生がいるので、特にこの点についてコメントする。

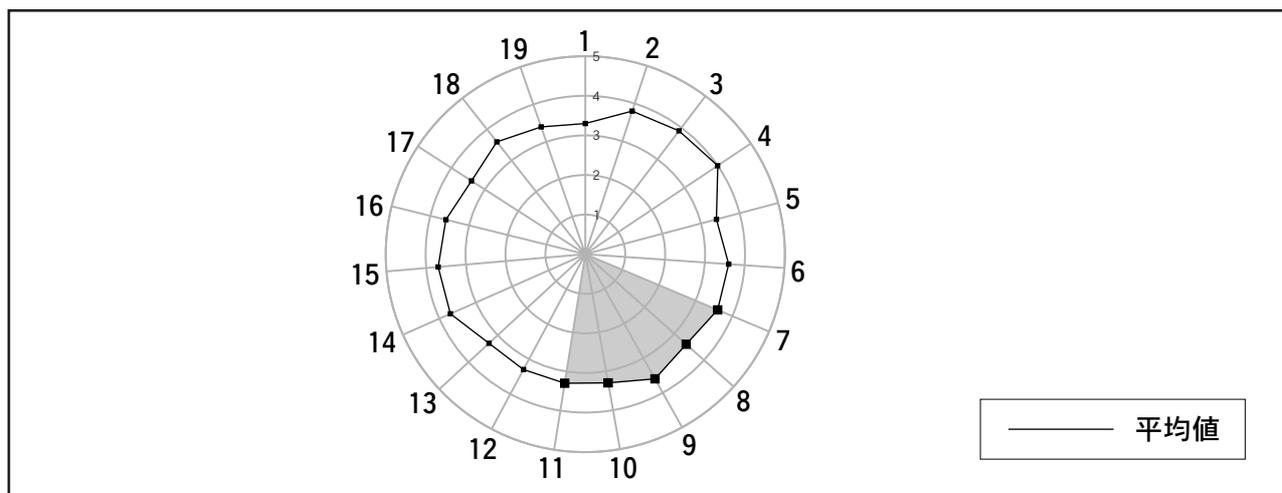
まず質問項目(5)(6)については、授業内容が工学系の専門性の高い内容であることから教育学部の学生、とりわけ文系出身者には取り組みにくかったものと思われる。授業を進める上でどうしても初歩的な積分を使う必要があり、できるだけ全受講生が理解できるよう配慮してはいるのだが、不十分に感じた学生がいた結果、(12)の評価になったものと思う。以上の理由によって、全体としての評価である(19)(20)においても低い評価が下されたのであろう。

工学系の内容を教育学部の学生に教えることは難しい面があるが、高校レベルの物理や数学の復習を盛り込みながら授業を進めることで、できるだけ多くの学生が理解できる授業展開に努めたい。

授業科目名 エネルギー変換工学
 評価実施日 平成19年8月2日
 担当教員名 木下 凱文

回答者数 9名

質問項目	評価選択人数						平均値 (科目別)	
	5	4	3	2	1	N.A		
1 授業概要について	(1) 目標・授業計画・内容は、明確に示されていた。	2	1	4	2	0	0	3.3
	(2) 成績評価の方法は、明確に示されていた。	2	3	4	0	0	0	3.8
2 授業の内容等について	(3) 授業内容は、授業概要に沿っていた。	2	4	3	0	0	0	3.9
	(4) 授業内容は、教養や専門性を高めるものだった。	4	2	2	1	0	0	4.0
	(5) 授業内容は、教育に対する見方や考え方を学べるものだった。	2	1	5	1	0	0	3.4
	(6) 授業内容は、興味・関心を引くものだった。	2	3	2	2	0	0	3.6
3 あなたの授業への取り組みについて	(7) 授業によく出席した。	4	0	2	3	0	0	3.6
	(8) 授業内容をよく理解するために予習や復習をした。	1	3	4	1	0	0	3.4
	(9) 授業中に積極的に発言や質問をした。	2	2	4	1	0	0	3.6
	(10) 教員の説明をよく聞いた。	1	2	5	1	0	0	3.3
	(11) 分からないことや疑問に思ったことは調べた。	2	2	2	3	0	0	3.3
4 教員の授業の進め方について	(12) 学生の理解状況を確認しながら授業を行った。	3	0	3	3	0	0	3.3
	(13) 学生が参加しやすい授業だった。	1	2	5	1	0	0	3.3
	(14) 熱心に指導した。	2	3	3	1	0	0	3.7
	(15) 授業内容を分かりやすく説明した。	2	2	5	0	0	0	3.7
	(16) 教科書や配布資料等の教材は、内容を理解する上で適切だった。	2	1	6	0	0	0	3.6
	(17) 教員の声は、聞き取りやすかった。	1	2	6	0	0	0	3.4
	(18) 授業の進む速さは、適切だった。	3	1	4	0	1	0	3.6
	(19) この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。	2	1	5	1	0	0	3.4
5 授業に対する満足度	(19) この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。	2	1	5	1	0	0	3.4



教員のコメント

評価平均値は約3.6あった。内容が高等学校で物理や化学を受講してなかった者が大多数を占めていた中では満足できる数字かも知れない。受講生の中には「今までエネルギーがどのように変化して私たちの生活に役立っているかを知りませんでした。この授業を受けて快適な生活の仕組みを垣間見ることができました。ありがとうございます。」や「熱力学の基本概念を丁寧に教えていただきためになった。」等のコメントがあり、エネルギーやエネルギー変換の本質を理解して貰えたことにより、この講義を行った意義があったと考えられる。今後ともさらに講義を充実させていくことに努力したい。

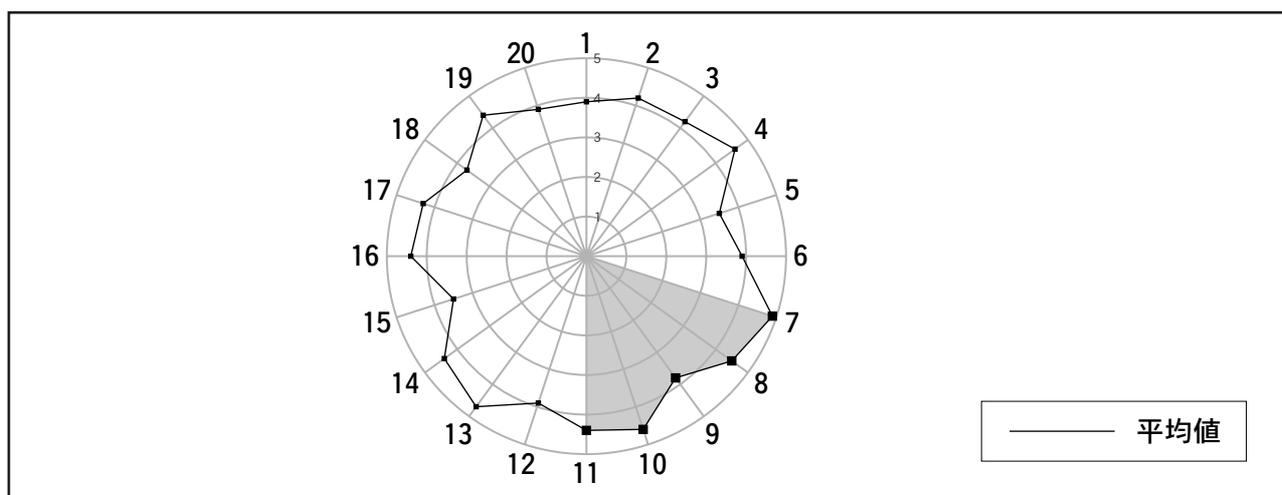
授業科目名 情報技術基礎（実習を含む。）

評価実施日 平成19年7月30日

担当教員名 伊藤 陽介, 菊地 章

回答者数 10名

質問項目	評価選択人数						平均値 (科目別)	
	5	4	3	2	1	N.A		
1 授業概要について	(1) 目標・授業計画・内容は、明確に示されていた。	4	3	1	2	0	0	3.9
	(2) 成績評価の方法は、明確に示されていた。	3	6	1	0	0	0	4.2
2 授業の内容等について	(3) 授業内容は、授業概要に沿っていた。	4	5	0	1	0	0	4.2
	(4) 授業内容は、教養や専門性を高めるものだった。	7	2	1	0	0	0	4.6
	(5) 授業内容は、教育に対する見方や考え方を学べるものだった。	2	2	5	1	0	0	3.5
	(6) 授業内容は、興味・関心を引くものだった。	4	2	3	1	0	0	3.9
3 あなたの授業への取り組みについて	(7) 授業によく出席した。	9	1	0	0	0	0	4.9
	(8) 授業内容をよく理解するために予習や復習をした。	7	2	0	1	0	0	4.5
	(9) 授業中に積極的に発言や質問をした。	3	4	2	0	1	0	3.8
	(10) 積極的に課題に取り組んだ。	7	2	1	0	0	0	4.6
	(11) 分からないことや疑問に思ったことは調べた。	7	2	0	0	1	0	4.4
4 教員の授業の進め方について	(12) 学生の理解状況を確かめながら授業を行った。	4	2	3	1	0	0	3.9
	(13) 学生参加型の授業だった。	8	1	1	0	0	0	4.7
	(14) 熱心に指導した。	7	2	0	0	1	0	4.4
	(15) 授業内容を分かりやすく説明した。	2	2	5	1	0	0	3.5
	(16) 教科書や配布資料等の教材は、内容を理解する上で適切だった。	5	4	1	0	0	0	4.4
	(17) 視聴覚機器及び教育用機器の利用は、適切だった。	5	3	2	0	0	0	4.3
	(18) 授業の進む速さは、適切だった。	3	2	4	1	0	0	3.7
	(19) 学生の疑問や質問に適切に答えた。	5	4	1	0	0	0	4.4
5 授業に対する満足度	(20) この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。	3	4	2	1	0	0	3.9



教員のコメント

授業内容については、目標と計画を明示したこと、並びに、授業概要に沿って講義と実習を連携しつつ実施したため、全体的にはほぼ満足できる評価結果となっている。特に、専門性を高めるという点での評価が高く、構成部品からコンピュータを組み立てながら基礎的な情報技術を修得できている。受講生による毎回の授業内容のレポート作成・提出と、授業者によるレポートの評価と質問に対する回答を繰り返し実施した。その結果、本授業の予習や復習に関する評価平均値は4.5となり受講生の自主的な勉学への道筋をつけることができたと思われる。

情報技術に関する内容は多岐にわたり専門性も高いため、授業の進度を速く感じる受講生が多かったようである。今後、説明用配布資料を改善するとともに、授業で取り扱う事項を精選する予定である。

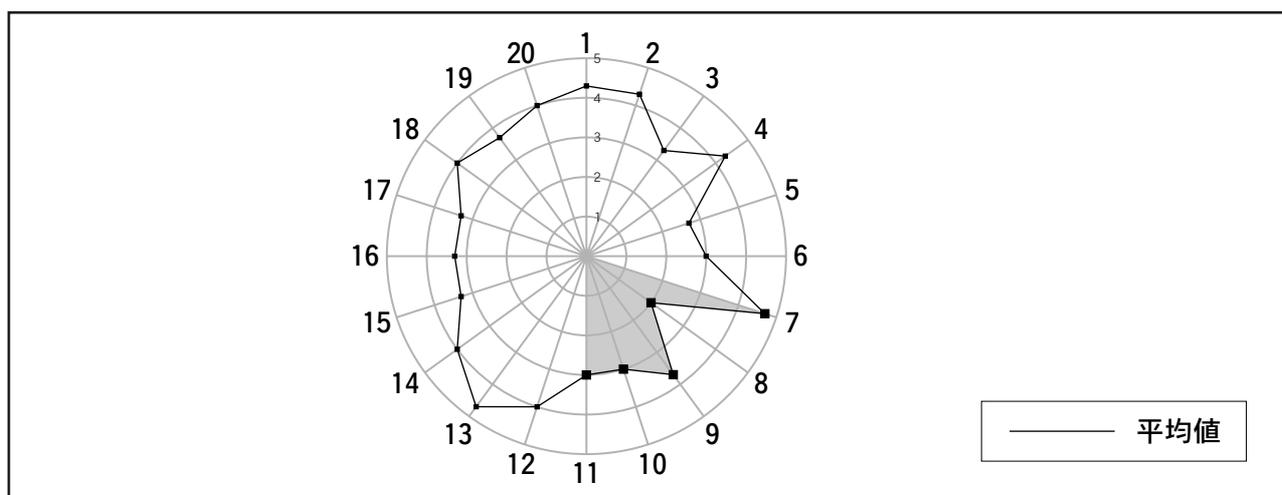
授業科目名 情報回路（実習を含む。）

評価実施日 平成19年7月27日

担当教員名 菊地 章

回答者数 3名

質問項目	評価選択人数						平均値 (科目別)	
	5	4	3	2	1	N.A		
1 授業概要について	(1) 目標・授業計画・内容は、明確に示されていた。	2	0	1	0	0	0	4.3
	(2) 成績評価の方法は、明確に示されていた。	2	0	1	0	0	0	4.3
2 授業の内容等について	(3) 授業内容は、授業概要に沿っていた。	0	1	2	0	0	0	3.3
	(4) 授業内容は、教養や専門性を高めるものだった。	1	2	0	0	0	0	4.3
	(5) 授業内容は、教育に対する見方や考え方を学べるものだった。	0	1	0	2	0	0	2.7
	(6) 授業内容は、興味・関心を引くものだった。	0	1	1	1	0	0	3.0
3 あなたの授業への取り組みについて	(7) 授業によく出席した。	2	1	0	0	0	0	4.7
	(8) 授業内容をよく理解するために予習や復習をした。	0	0	1	1	1	0	2.0
	(9) 授業中に積極的に発言や質問をした。	0	2	1	0	0	0	3.7
	(10) 積極的に課題に取り組んだ。	0	1	1	1	0	0	3.0
	(11) 分からないことや疑問に思ったことは調べた。	0	0	3	0	0	0	3.0
4 教員の授業の進め方について	(12) 学生の理解状況を確かめながら授業を行った。	1	1	1	0	0	0	4.0
	(13) 学生参加型の授業だった。	2	1	0	0	0	0	4.7
	(14) 熱心に指導した。	1	1	1	0	0	0	4.0
	(15) 授業内容を分かりやすく説明した。	0	2	0	1	0	0	3.3
	(16) 教科書や配布資料等の教材は、内容を理解する上で適切だった。	0	1	2	0	0	0	3.3
	(17) 視聴覚機器及び教育用機器の利用は、適切だった。	0	1	2	0	0	0	3.3
	(18) 授業の進む速さは、適切だった。	1	1	1	0	0	0	4.0
	(19) 学生の疑問や質問に適切に答えた。	0	2	1	0	0	0	3.7
5 授業に対する満足度	(20) この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。	1	1	1	0	0	0	4.0



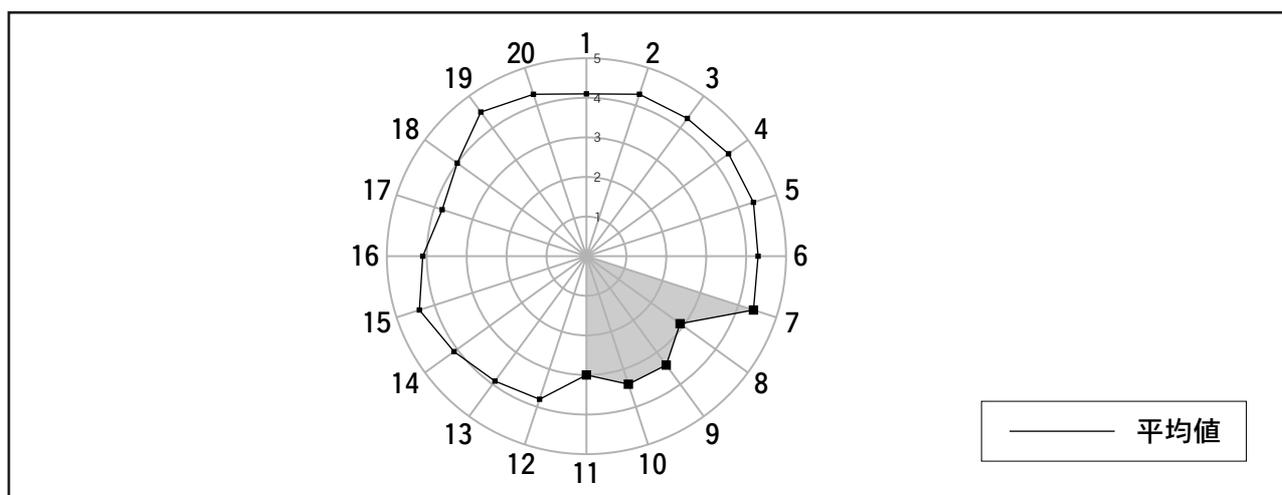
教員のコメント

受講者が3名のため統計的な評価はできないが、学生参加型の授業については特に評価されたようである。学生自身の取り組みについては、本学学生の傾向として他の科目と同様に予習や復習をあまりしていないようである。「授業内容を分かりやすく指導した」の項目については、自由記述で3名中2名が「詳しく説明した」や「分かりやすく説明した」と特記している割には評価が厳しいようである。

授業科目名 家族論
 評価実施日 平成19年7月27日
 担当教員名 黒川 衣代

回答者数 8名

質問項目	評価選択人数						平均値 (科目別)	
	5	4	3	2	1	N.A		
1 授業概要について	(1) 目標・授業計画・内容は、明確に示されていた。	3	3	2	0	0	0	4.1
	(2) 成績評価の方法は、明確に示されていた。	3	4	1	0	0	0	4.3
2 授業の内容等について	(3) 授業内容は、授業概要に沿っていた。	3	4	1	0	0	0	4.3
	(4) 授業内容は、教養や専門性を高めるものだった。	5	1	2	0	0	0	4.4
	(5) 授業内容は、教育に対する見方や考え方を学べるものだった。	5	1	2	0	0	0	4.4
	(6) 授業内容は、興味・関心を引くものだった。	4	2	2	0	0	0	4.3
3 あなたの授業への取り組みについて	(7) 授業によく出席した。	5	2	0	1	0	0	4.4
	(8) 授業内容をよく理解するために予習や復習をした。	0	3	3	0	2	0	2.9
	(9) 授業中に積極的に発言や質問をした。	2	2	2	1	1	0	3.4
	(10) 教員の説明をよく聞いた。	2	2	2	1	1	0	3.4
	(11) 分からないことや疑問に思ったことは調べた。	1	1	4	1	1	0	3.0
4 教員の授業の進め方について	(12) 学生の理解状況を確かめながら授業を行った。	3	2	1	2	0	0	3.8
	(13) 学生が参加しやすい授業だった。	2	4	1	1	0	0	3.9
	(14) 熱心に指導した。	4	1	3	0	0	0	4.1
	(15) 授業内容を分かりやすく説明した。	4	3	1	0	0	0	4.4
	(16) 教科書や配布資料等の教材は、内容を理解する上で適切だった。	4	1	3	0	0	0	4.1
	(17) 視聴覚機器及び教育用機器の利用は、適切だった。	2	2	4	0	0	0	3.8
	(18) 教員の声は、聞き取りやすかった。	4	1	2	1	0	0	4.0
	(19) 授業の進む速さは、適切だった。	5	2	1	0	0	0	4.5
5 授業に対する満足度	(20) この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。	5	1	1	1	0	0	4.3



教員のコメント

「授業概要」「授業の内容等について」「教員の授業の進め方について」「授業に対する満足度」の項目に比べて、「あなたの授業への取り組みについて」の評価が低い。積極的に授業に参加するよう促すとともに、熱意を持って授業や課題に取り組めるよう工夫を凝らしたい。項目によっては評価が5と3に山があるのは、本授業科目が家庭科教員免許取得のための選択科目であると同時に、保育士免許のための必修科目に位置づけられている講義科目であるため、専攻により受け止め方に差があるためではないかと推察する。本来ならば、それぞれに当てる焦点が異なるため、講義内容の精選に苦慮している。学生の評価を参考に、更なる改善に取り組みたい。

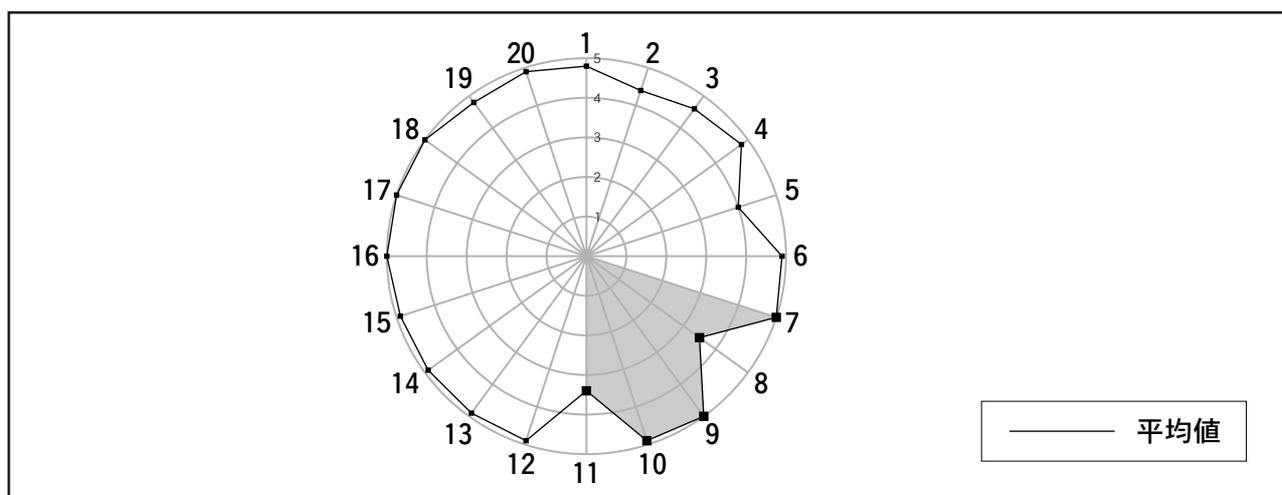
授業科目名 被服学概論（被服製作実習を含む。）

評価実施日 平成19年7月30日

担当教員名 福井 典代

回答者数 8名

質問項目	評価選択人数						平均値 (科目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
1 授業概要について	(1) 目標・授業計画・内容は、明確に示されていた。	6	2	0	0	0	4.8
	(2) 成績評価の方法は、明確に示されていた。	4	3	1	0	0	4.4
2 授業の内容等について	(3) 授業内容は、授業概要に沿っていた。	5	3	0	0	0	4.6
	(4) 授業内容は、教養や専門性を高めるものだった。	6	2	0	0	0	4.8
	(5) 授業内容は、教育に対する見方や考え方を学べるものだった。	2	4	2	0	0	4.0
	(6) 授業内容は、興味・関心を引くものだった。	7	1	0	0	0	4.9
3 あなたの授業への取り組みについて	(7) 授業によく出席した。	8	0	0	0	0	5.0
	(8) 授業内容をよく理解するために予習や復習をした。	1	2	5	0	0	3.5
	(9) 積極的に実験、実習、実技等に取り組んだ。	8	0	0	0	0	5.0
	(10) 教員の説明をよく聞いた。	7	1	0	0	0	4.9
	(11) 分からないことや疑問に思ったことは調べた。	1	2	4	1	0	3.4
4 教員の授業の進め方について	(12) 学生の理解状況を確かめながら授業を行った。	7	1	0	0	0	4.9
	(13) 熱心に指導した。	7	1	0	0	0	4.9
	(14) 授業内容を分かりやすく説明した。	7	1	0	0	0	4.9
	(15) 教科書や配布資料等の教材は、内容を理解する上で適切だった。	7	1	0	0	0	4.9
	(16) 設備、器材、用具等の利用は、適切だった。	8	0	0	0	0	5.0
	(17) 教員の声は、聞き取りやすかった。	8	0	0	0	0	5.0
	(18) 与えられた課題のレベルや分量は、適切だった。	8	0	0	0	0	5.0
	(19) 安全に対する指導と配慮は、適切だった。	7	0	1	0	0	4.8
5 授業に対する満足度	(20) この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。	7	1	0	0	0	4.9



教員のコメント

「授業概要」、「授業の内容等」については、すべての項目において評定平均値が4以上であり、学生が興味・関心を持って授業に取り組んだことが伺える。しかし、「あなたの授業への取り組み」について、昨年と同様に「予習や復習」と「分からないことや疑問に思ったことを調べた」の2項目において評定平均値が3.5、3.4と低かった。また、「教員の授業の進め方」について8項目すべての評定平均値が4.8以上であり、学生の進度に合わせた授業が実施できた。「授業に対する満足度」では4.9の評定平均値が得られた。

「この授業でよかったこと」の自由記述では「実習を通して基礎的な技能を学習できた」という内容を8名中6名の学生が記述している。講義形式の授業であるが、ショートパンツの製作を進めながら、基礎的な手縫いの方法やミシンの扱い方を丁寧に指導した点が評価された。

この授業形式を始めてから、学生の授業に対する取り組みが意欲的であり、授業内容も理解できている。しかし、予習や復習ができていないことを考慮すると、授業時間外の課題を与える必要性を感じた。本年度においても手縫いやミシンの扱い方など、基礎的な技能を習得させるための丁寧な指導を行う予定である。

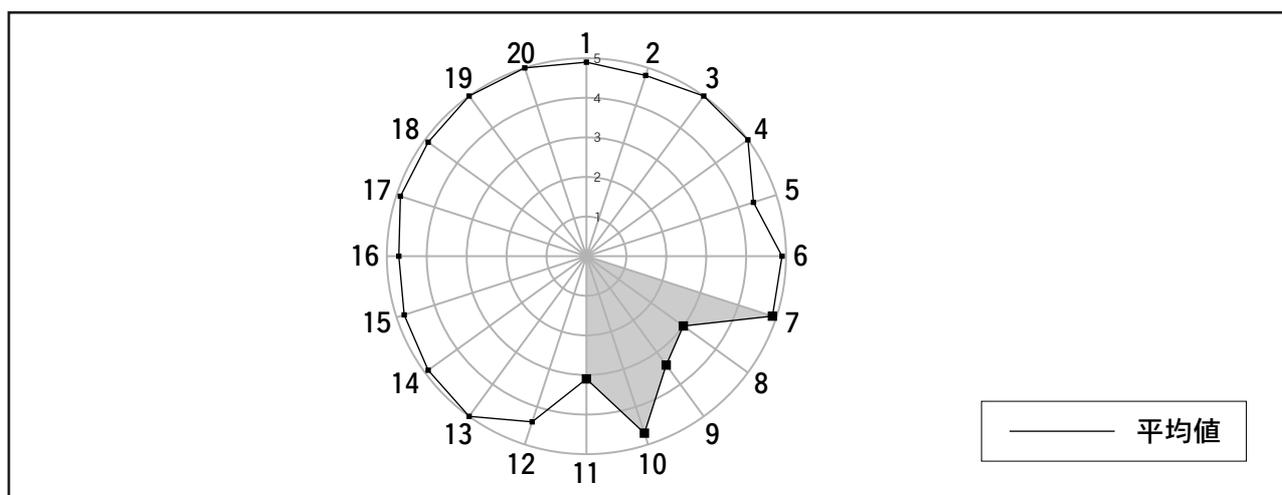
授業科目名 食物学概論（栄養学，食品学及び調理実習を含む。）

評価実施日 平成19年 7月26日

担当教員名 前田 英雄，西川 和孝

回答者数 9名

質問項目		評価選択人数						平均値 (科目別)
		5	4	3	2	1	N.A	
1 授業概要について	(1) 目標・授業計画・内容は，明確に示されていた。	8	1	0	0	0	0	4.9
	(2) 成績評価の方法は，明確に示されていた。	7	2	0	0	0	0	4.8
2 授業の内容等について	(3) 授業内容は，授業概要に沿っていた。	9	0	0	0	0	0	5.0
	(4) 授業内容は，教養や専門性を高めるものだった。	9	0	0	0	0	0	5.0
	(5) 授業内容は，教育に対する見方や考え方を学べるものだった。	5	3	1	0	0	0	4.4
	(6) 授業内容は，興味・関心を引くものだった。	8	1	0	0	0	0	4.9
3 あなたの授業への取り組みについて	(7) 授業によく出席した。	8	1	0	0	0	0	4.9
	(8) 授業内容をよく理解するために予習や復習をした。	0	2	5	2	0	0	3.0
	(9) 授業中に積極的に発言や質問をした。	1	3	4	1	0	0	3.4
	(10) 教員の説明をよく聞いた。	6	3	0	0	0	0	4.7
	(11) 分からないことや疑問に思ったことは調べた。	0	2	6	1	0	0	3.1
4 教員の授業の進め方について	(12) 学生の理解状況を確かめながら授業を行った。	4	5	0	0	0	0	4.4
	(13) 学生が参加しやすい授業だった。	9	0	0	0	0	0	5.0
	(14) 熱心に指導した。	8	1	0	0	0	0	4.9
	(15) 授業内容を分かりやすく説明した。	7	2	0	0	0	0	4.8
	(16) 教科書や配布資料等の教材は，内容を理解する上で適切だった。	6	3	0	0	0	0	4.7
	(17) 視聴覚機器及び教育用機器の利用は，適切だった。	8	1	0	0	0	0	4.9
	(18) 教員の声は，聞き取りやすかった。	8	1	0	0	0	0	4.9
	(19) 授業の進む速さは，適切だった。	9	0	0	0	0	0	5.0
5 授業に対する満足度	(20) この授業は，自分自身にとって満足できるものであった。	9	0	0	0	0	0	5.0



教員のコメント

本授業科目は家庭科の1年生が対象であり，9名が受講した。この授業内容は食物学に関わる関連の分野である栄養学，食品学及び調理実習を含むため，基本的に各内容を3等分して授業を展開しているが，調理実習を多めに実施している。その理由は，家庭科の教員としては実践的及び体験的な授業を実践し，技術技能を高める必要があるからである。

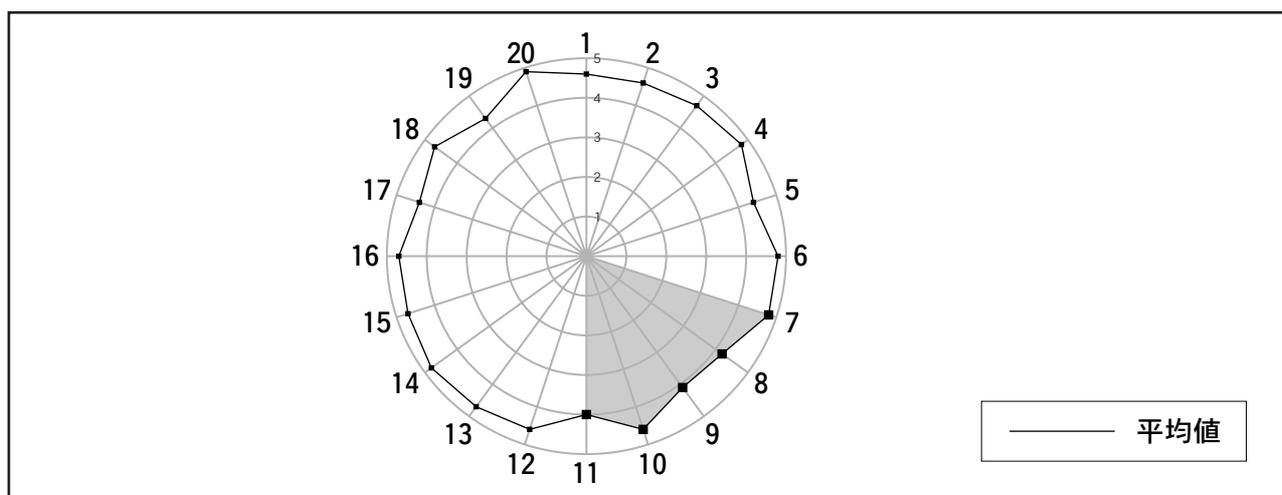
授業評価アンケートを分析すると円グラフからも明らかなように受講生から教員側の授業内容に関する項目(1. 2. 3. 4. 6. 7. 10. 13. 14. 15. 16. 17. 18. 19. 20)については概ね高い評価を得られた。質問20項目の単純平均は4.59であった。これはアンケート用紙に学生から「この授業でよかったことを書いてください」というところで，「講義に実習がつながっている，授業実践に役立つ知識技能が身に付いた，視覚・嗅覚・味覚を使ったこと，食べものに関して疑問に思っていることや興味をひくような内容と関連させた授業を行っていたので楽しみながら参加できた」等の意見に反映されるように，実習を取り入れて授業を展開することがその評価の対象になったものと思われる。

一方，質問項目の8. 9. 11などが改善する点としてあげられる。これは受講生の授業に対する取り組みについてであり，自主的に学習させる工夫，予習や復習をさせるための課題提供をすることの授業改善が来年度の検討課題として残った。

授業科目名 食品学
 評価実施日 平成19年7月30日
 担当教員名 前田 英雄

回答者数 9名

質問項目	評価選択人数	評価選択人数					平均値 (科目別)	
		5	4	3	2	1		N.A
1 授業概要について	(1) 目標・授業計画・内容は、明確に示されていた。	6	2	1	0	0	0	4.6
	(2) 成績評価の方法は、明確に示されていた。	6	2	1	0	0	0	4.6
2 授業の内容等について	(3) 授業内容は、授業概要に沿っていた。	7	1	1	0	0	0	4.7
	(4) 授業内容は、教養や専門性を高めるものだった。	7	2	0	0	0	0	4.8
	(5) 授業内容は、教育に対する見方や考え方を学べるものだった。	5	3	1	0	0	0	4.4
	(6) 授業内容は、興味・関心を引くものだった。	7	2	0	0	0	0	4.8
3 あなたの授業への取り組みについて	(7) 授業によく出席した。	8	0	1	0	0	0	4.8
	(8) 授業内容をよく理解するために予習や復習をした。	3	5	1	0	0	0	4.2
	(9) 授業中に積極的に発言や質問をした。	3	4	2	0	0	0	4.1
	(10) 教員の説明をよく聞いた。	7	1	0	1	0	0	4.6
	(11) 分からないことや疑問に思ったことは調べた。	3	3	3	0	0	0	4.0
4 教員の授業の進め方について	(12) 学生の理解状況を確かめながら授業を行った。	6	2	1	0	0	0	4.6
	(13) 学生が参加しやすい授業だった。	7	1	1	0	0	0	4.7
	(14) 熱心に指導した。	8	0	1	0	0	0	4.8
	(15) 授業内容を分かりやすく説明した。	7	1	1	0	0	0	4.7
	(16) 教科書や配布資料等の教材は、内容を理解する上で適切だった。	6	3	0	0	0	0	4.7
	(17) 視聴覚機器及び教育用機器の利用は、適切だった。	5	3	1	0	0	0	4.4
	(18) 教員の声は、聞き取りやすかった。	7	1	1	0	0	0	4.7
	(19) 授業の進む速さは、適切だった。	4	4	1	0	0	0	4.3
5 授業に対する満足度	(20) この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。	8	1	0	0	0	0	4.9



教員のコメント

本授業科目は家庭科の2年生が対象であり、11名が受講した。数年前から受講生には授業前にその日の内容のプリントを配布している。その理由は学生がノートをとる時間よりも、講義内容を理解させることを重視しているからである。しかし、ノートができたと思い、授業中に眠る学生もいる。また、本授業科目は講義科目であるが別の家庭科の授業科目の関係上、2コマ連続の授業である。そのため毎回、1コマは講義、1コマはその日の講義内容に関する実験・実習を取り入れて授業を進めている。

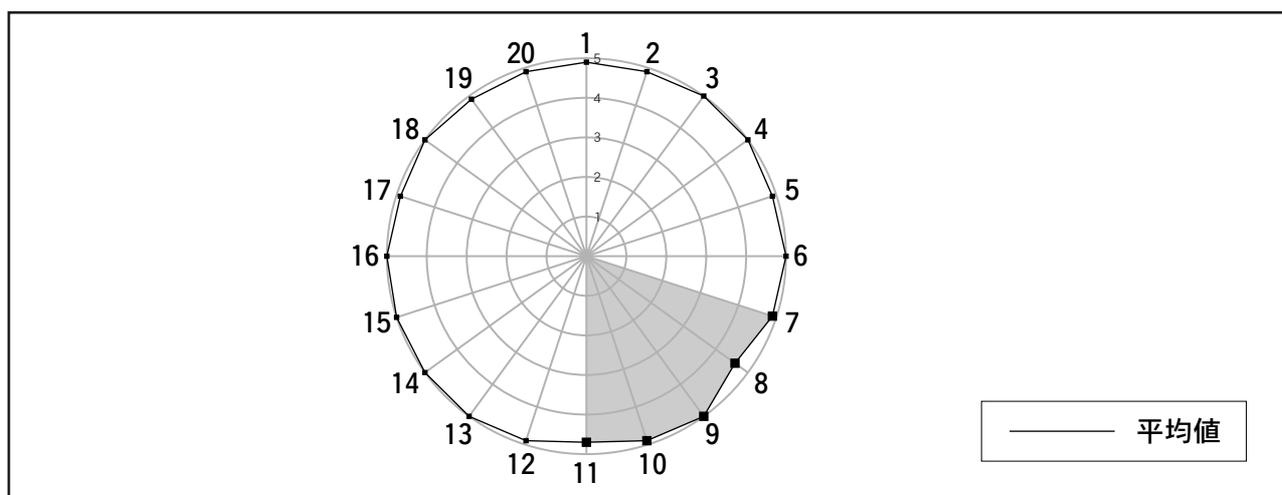
授業評価アンケートを分析すると円グラフからも明らかなように受講生から教員側の授業内容に関する項目(1. 2. 3. 4. 6. 7. 10. 13. 14. 15. 16. 18. 20)については概ね高い評価を得られた。質問の20項目の単純平均は4.57であった。これはアンケート用紙に学生から「この授業でよかったことを書いてください」というところで、「講義だけでなく実験、実習があった、食品の実験がおもしろかった、実験が時々あったので言葉だけよりも印象に残る」等の意見に反映されるように、実験実習を取り入れて授業を展開することがその評価の対象になったものと思われる。

一方、質問項目の8. 9. 11などが改善する点としてあげられる。これは自主的に学習させる工夫、予習や復習をさせるための課題提供をすることなどの授業改善が来年度の検討課題として残った。

授業科目名 調理実習
 評価実施日 平成19年6月4日
 担当教員名 西川 和孝

回答者数 12名

質問項目	評価選択人数						平均値 (科目別)	
	5	4	3	2	1	N.A		
1 授業概要について	(1) 目標・授業計画・内容は、明確に示されていた。	11	1	0	0	0	0	4.9
	(2) 成績評価の方法は、明確に示されていた。	10	1	0	0	0	0	4.9
2 授業の内容等について	(3) 授業内容は、授業概要に沿っていた。	12	0	0	0	0	0	5.0
	(4) 授業内容は、教養や専門性を高めるものだった。	11	0	0	0	0	0	5.0
	(5) 授業内容は、教育に対する見方や考え方を学べるものだった。	10	1	0	0	0	0	4.9
	(6) 授業内容は、興味・関心を引くものだった。	11	0	0	0	0	0	5.0
3 あなたの授業への取り組みについて	(7) 授業によく出席した。	11	1	0	0	0	0	4.9
	(8) 授業内容をよく理解するために予習や復習をした。	8	2	1	0	0	0	4.6
	(9) 積極的に実験、実習、実技等に取り組んだ。	11	0	0	0	0	0	5.0
	(10) 教員の説明をよく聞いた。	10	1	0	0	0	0	4.9
	(11) 分からないことや疑問に思ったことは調べた。	9	1	1	0	0	0	4.7
4 教員の授業の進め方について	(12) 学生の理解状況を確認しながら授業を行った。	11	1	0	0	0	0	4.9
	(13) 熱心に指導した。	12	0	0	0	0	0	5.0
	(14) 授業内容を分かりやすく説明した。	12	0	0	0	0	0	5.0
	(15) 教科書や配布資料等の教材は、内容を理解する上で適切だった。	12	0	0	0	0	0	5.0
	(16) 設備、器材、用具等の利用は、適切だった。	12	0	0	0	0	0	5.0
	(17) 教員の声は、聞き取りやすかった。	11	1	0	0	0	0	4.9
	(18) 与えられた課題のレベルや分量は、適切だった。	12	0	0	0	0	0	5.0
	(19) 安全に対する指導と配慮は、適切だった。	11	1	0	0	0	0	4.9
5 授業に対する満足度	(20) この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。	11	1	0	0	0	0	4.9



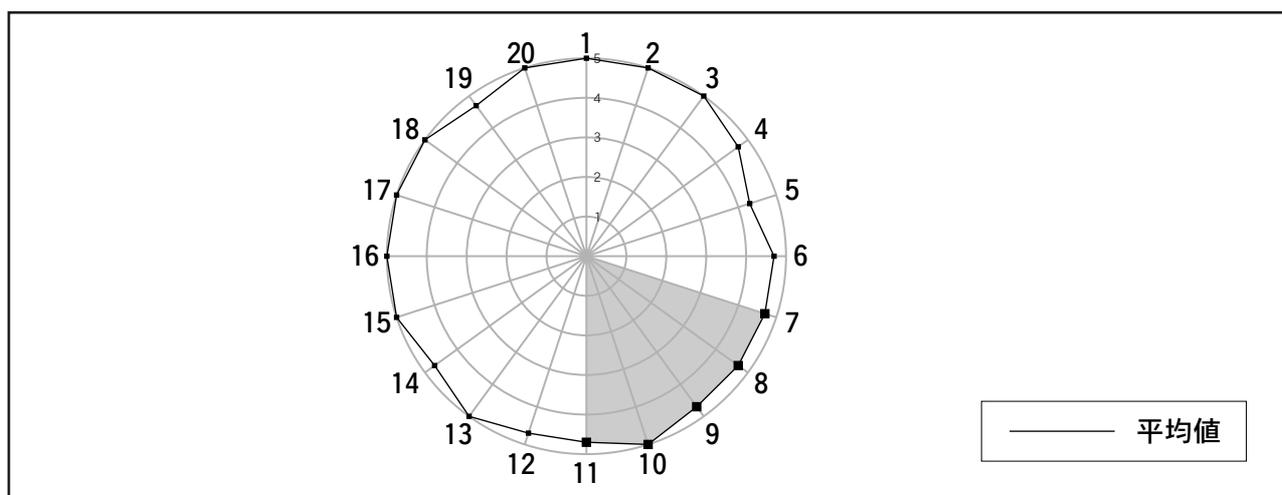
教員のコメント

本実習は、主に2年生を対象としている（本年度の受講者数は13名であった）。例年通り、学生の要望がある自由献立を1回取り入れた。また、毎回、プリントや資料を配布し、それに従って実習を行った。授業評価では、一部（質問項目(8)、(11)）を除き、5、4の高い評価であった。特に、質問項目(3)、(4)、(6)、(9)、(13)、(14)、(15)、(16)、(18)はすべて5の評価であったが、本実習は安全指導が最も重要であるので、今後も注意していきたい。さらに、今回課題となったところは、改善していきたいと考えている。

授業科目名 住生活学
 評価実施日 平成19年7月23日
 担当教員名 金 貞均

回答者数 3名

質問項目	評価選択人数						平均値 (科目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
1 授業概要について	(1) 目標・授業計画・内容は、明確に示されていた。	3	0	0	0	0	5.0
	(2) 成績評価の方法は、明確に示されていた。	3	0	0	0	0	5.0
2 授業の内容等について	(3) 授業内容は、授業概要に沿っていた。	3	0	0	0	0	5.0
	(4) 授業内容は、教養や専門性を高めるものだった。	2	1	0	0	0	4.7
	(5) 授業内容は、教育に対する見方や考え方を学べるものだった。	1	2	0	0	0	4.3
	(6) 授業内容は、興味・関心を引くものだった。	2	1	0	0	0	4.7
3 あなたの授業への取り組みについて	(7) 授業によく出席した。	2	1	0	0	0	4.7
	(8) 授業内容をよく理解するために予習や復習をした。	2	1	0	0	0	4.7
	(9) 授業中に積極的に発言や質問をした。	2	1	0	0	0	4.7
	(10) 教員の説明をよく聞いた。	3	0	0	0	0	5.0
	(11) 分からないことや疑問に思ったことは調べた。	2	1	0	0	0	4.7
4 教員の授業の進め方について	(12) 学生の理解状況を確認しながら授業を行った。	2	1	0	0	0	4.7
	(13) 学生が参加しやすい授業だった。	3	0	0	0	0	5.0
	(14) 熱心に指導した。	2	1	0	0	0	4.7
	(15) 授業内容を分かりやすく説明した。	3	0	0	0	0	5.0
	(16) 教科書や配布資料等の教材は、内容を理解する上で適切だった。	3	0	0	0	0	5.0
	(17) 視聴覚機器及び教育用機器の利用は、適切だった。	3	0	0	0	0	5.0
	(18) 教員の声は、聞き取りやすかった。	3	0	0	0	0	5.0
	(19) 授業の進む速さは、適切だった。	2	1	0	0	0	4.7
5 授業に対する満足度	(20) この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。	3	0	0	0	0	5.0



教員のコメント

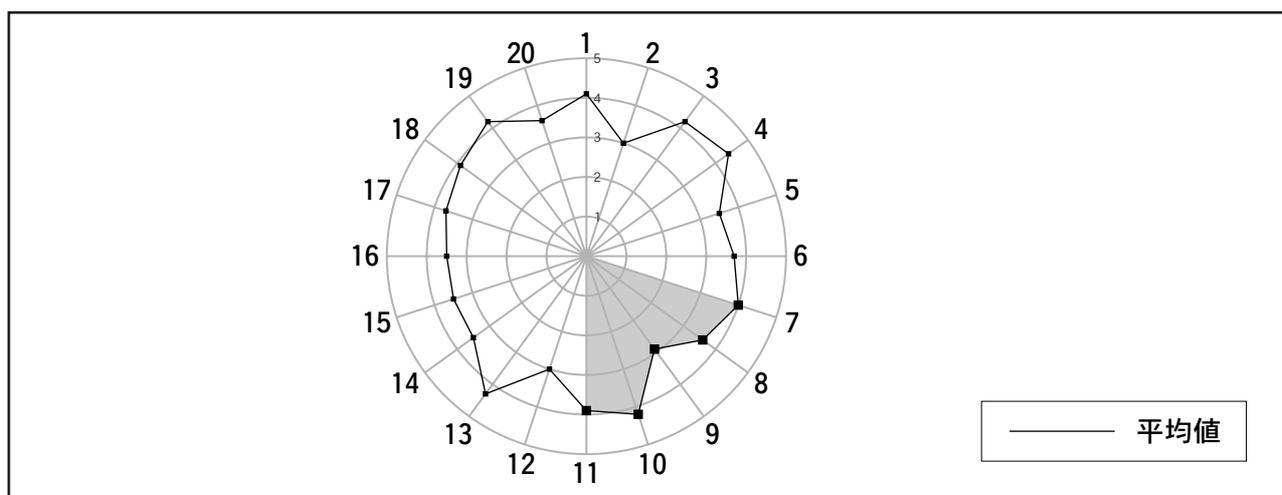
本授業に対する受講生らの評価は全般的に高く、特に「あなたの授業への取り組みについて(問7～11)」,つまり学生自身の自己評価が高いのは、大変鼓舞的結果といえる。課題学習で進められる本授業は関連資料の調査からまとめ、プレゼンテーションまで学生の主体的学習活動によるところが大きい。したがって課題に対する学生さんの取り組み姿勢によって個々人の学習成果は大きく左右される。高い自己評価が最後の「授業に対する満足度(問20)」の高い結果につながったと思われる。

「この授業でよかったこと(問21)」に対する自由記述では、「自分が調べ学習をしたことにより、内容の深まりがもてたことがよかった。」「少人数だったので分からないことをすぐに先生に聞けたし、自由に発言できたのでよかった。自分が調べることも多かったので、知識につながった。金先生の優しさがにじみでていた。」といった意見が述べられ、課題探究や問題解決能力の向上をめざす本授業の成果として捉えたい。改善点として提案された意見はなかった。ただ、課題と関連して文献や資料等の偏りや議論の仕方などの面で少し問題も見えてきたので今後の課題としたい。

授業科目名 肢体不自由者の心理・生理・病理
 評価実施日 平成19年7月27日
 担当教員名 橋本 俊顕, 津田 芳見

回答者数 22名

質問項目	評価選択人数						平均値 (科目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
1 授業概要について	(1) 目標・授業計画・内容は、明確に示されていた。	7	10	5	0	0	4.1
	(2) 成績評価の方法は、明確に示されていた。	3	3	10	3	3	3.0
2 授業の内容等について	(3) 授業内容は、授業概要に沿っていた。	11	5	5	1	0	4.2
	(4) 授業内容は、教養や専門性を高めるものだった。	12	7	3	0	0	4.4
	(5) 授業内容は、教育に対する見方や考え方を学べるものだった。	3	9	6	4	0	3.5
	(6) 授業内容は、興味・関心を引くものだった。	6	7	7	1	1	3.7
3 あなたの授業への取り組みについて	(7) 授業によく出席した。	10	6	4	1	1	4.0
	(8) 授業内容をよく理解するために予習や復習をした。	4	9	7	0	2	3.6
	(9) 授業中に積極的に発言や質問をした。	0	4	12	5	1	2.9
	(10) 積極的に課題に取り組んだ。	9	10	2	0	1	4.2
4 教員の授業の進め方について	(11) 分からないことや疑問に思ったことは調べた。	7	8	5	2	0	3.9
	(12) 学生の理解状況を確かめながら授業を行った。	1	7	7	4	3	3.0
	(13) 学生参加型の授業だった。	11	7	1	2	0	4.3
	(14) 熱心に指導した。	3	8	7	4	0	3.5
	(15) 授業内容を分かりやすく説明した。	3	8	8	2	1	3.5
	(16) 教科書や配布資料等の教材は、内容を理解する上で適切だった。	3	8	7	3	0	3.5
	(17) 視聴覚機器及び教育用機器の利用は、適切だった。	5	9	4	4	0	3.7
	(18) 授業の進む速さは、適切だった。	5	10	6	1	0	3.9
	(19) 学生の疑問や質問に適切に答えた。	11	5	5	1	0	4.2
5 授業に対する満足度	(20) この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。	3	10	6	3	0	3.6



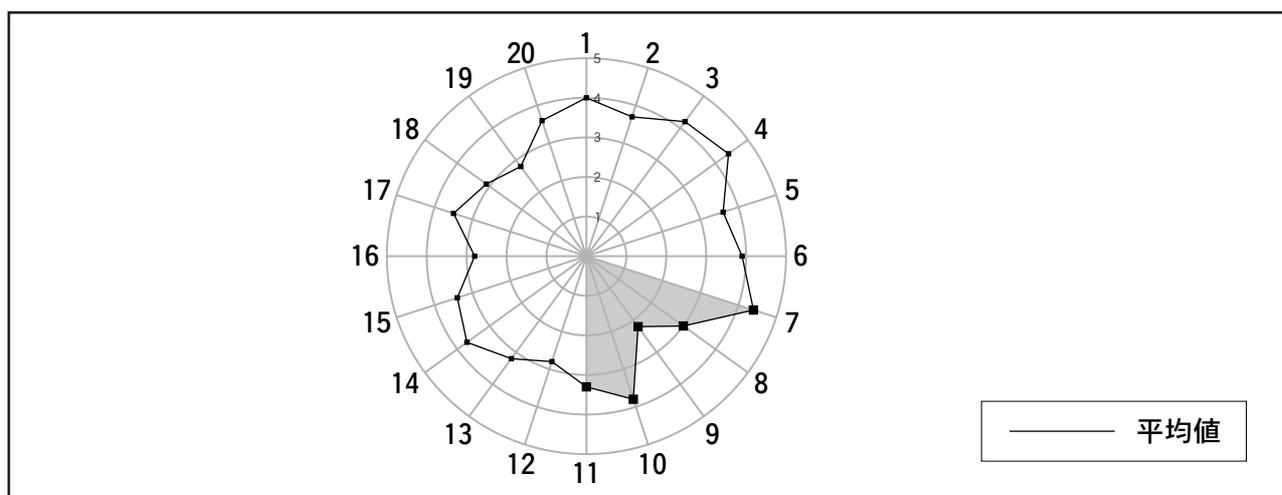
教員のコメント

授業概要については、目的・授業計画は明確に示されていたという評価であったが、成績評価の方法がやや評価が低かった。授業の内容については、専門性を高めるでは評価が高いが、教育に関する見方ということでは、やや低い評価であった。授業への取り組みは出席率などはよいものの、質問などについては、改善の余地がある。授業の進め方においては、学生参加を重視していたので、それについては、評価が高かった。この授業は、本来、基礎的なことを学んだ上で、受けるべきものであるが、入学して間もない学生も受けるため、学生側の理解度、参加の積極性についてはバラツキが多いと考えられる。しかし参加型のプレゼンテーション能力を重視した進め方は教育には有効と考えている。

授業科目名 病弱者の心理・生理・病理
 評価実施日 平成19年7月27日
 担当教員名 津田 芳見

回答者数 32名

質問項目	評価選択人数	評価選択人数						平均値 (科目別)
		5	4	3	2	1	N.A	
1 授業概要について	(1) 目標・授業計画・内容は、明確に示されていた。	11	10	10	1	0	0	4.0
	(2) 成績評価の方法は、明確に示されていた。	6	13	8	4	0	0	3.7
2 授業の内容等について	(3) 授業内容は、授業概要に沿っていた。	12	13	7	0	0	0	4.2
	(4) 授業内容は、教養や専門性を高めるものだった。	19	10	2	0	1	0	4.4
	(5) 授業内容は、教育に対する見方や考え方を学べるものだった。	7	12	8	4	1	0	3.6
	(6) 授業内容は、興味・関心を引くものだった。	12	10	4	3	2	0	3.9
3 あなたの授業への取り組みについて	(7) 授業によく出席した。	19	8	5	0	0	0	4.4
	(8) 授業内容をよく理解するために予習や復習をした。	2	7	12	10	1	0	3.0
	(9) 授業中に積極的に発言や質問をした。	1	1	8	15	7	0	2.2
	(10) 教員の説明をよく聞いた。	8	14	7	2	1	0	3.8
	(11) 分からないことや疑問に思ったことは調べた。	3	7	18	3	1	0	3.3
4 教員の授業の進め方について	(12) 学生の理解状況を確かめながら授業を行った。	3	5	11	8	5	0	2.8
	(13) 学生が参加しやすい授業だった。	4	8	11	7	2	0	3.2
	(14) 熱心に指導した。	9	10	9	3	1	0	3.7
	(15) 授業内容を分かりやすく説明した。	4	13	8	5	2	0	3.4
	(16) 教科書や配布資料等の教材は、内容を理解する上で適切だった。	3	6	9	7	6	0	2.8
	(17) 視聴覚機器及び教育用機器の利用は、適切だった。	5	14	8	1	4	0	3.5
	(18) 教員の声は、聞き取りやすかった。	4	9	8	9	2	0	3.1
	(19) 授業の進む速さは、適切だった。	3	8	4	12	5	0	2.8
5 授業に対する満足度	(20) この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。	7	11	9	2	2	0	3.6



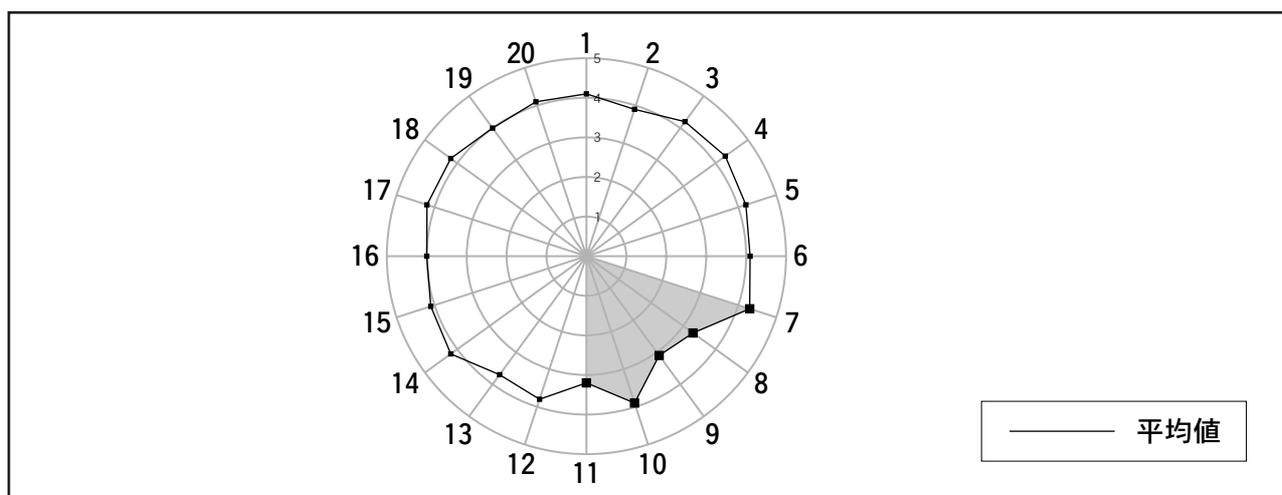
教員のコメント

授業概要については、目的・授業計画や成績評価は明確に示されていたという評価であった。授業の内容については、専門性を高めるでは評価が高いが、教育に関する見方ということでは、やや低い評価であった。授業への取り組みは出席率などはよいものの、質問などについては、改善の余地がある。とりわけ、授業中の発言や質問については低く、もっと学生の授業参加を図る必要がある。この授業は、本来、基礎的なことであるので、入学して間もない学生がうけるため、学生側の理解度、参加の積極性についてはバラツキが多いと考えられる。やや講義が一方的になりやすい傾向があり、参加型のプレゼンテーションを考慮する必要を感じている。

授業科目名 総合学習論
 評価実施日 平成20年3月3日
 担当教員名 村川 雅弘

回答者数 65名

質問項目	評価選択人数	評価選択人数						平均値 (科目別)
		5	4	3	2	1	N.A	
1 授業概要について	(1) 目標・授業計画・内容は、明確に示されていた。	24	28	10	2	1	0	4.1
	(2) 成績評価の方法は、明確に示されていた。	18	27	15	4	1	0	3.9
2 授業の内容等について	(3) 授業内容は、授業概要に沿っていた。	29	19	16	0	1	0	4.2
	(4) 授業内容は、教養や専門性を高めるものだった。	33	21	9	1	1	0	4.3
	(5) 授業内容は、教育に対する見方や考え方を学べるものだった。	31	20	12	1	1	0	4.2
	(6) 授業内容は、興味・関心を引くものだった。	25	25	11	1	2	1	4.1
3 あなたの授業への取り組みについて	(7) 授業によく出席した。	31	21	12	1	0	0	4.3
	(8) 授業内容をよく理解するために予習や復習をした。	6	24	22	9	4	0	3.3
	(9) 授業中に積極的に発言や質問をした。	6	13	30	11	5	0	3.1
	(10) 教員の説明をよく聞いた。	14	33	16	2	0	0	3.9
	(11) 分からないことや疑問に思ったことは調べた。	5	19	29	8	4	0	3.2
4 教員の授業の進め方について	(12) 学生の理解状況を確認しながら授業を行った。	10	38	12	4	1	0	3.8
	(13) 学生が参加しやすい授業だった。	14	25	20	4	2	0	3.7
	(14) 熱心に指導した。	28	26	9	1	1	0	4.2
	(15) 授業内容を分かりやすく説明した。	24	27	13	0	1	0	4.1
	(16) 教科書や配布資料等の教材は、内容を理解する上で適切だった。	20	31	11	2	1	0	4.0
	(17) 視聴覚機器及び教育用機器の利用は、適切だった。	26	29	9	0	1	0	4.2
	(18) 教員の声は、聞き取りやすかった。	29	23	11	1	1	0	4.2
	(19) 授業の進む速さは、適切だった。	19	28	14	2	1	1	4.0
5 授業に対する満足度	(20) この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。	21	32	11	0	1	0	4.1



教員のコメント

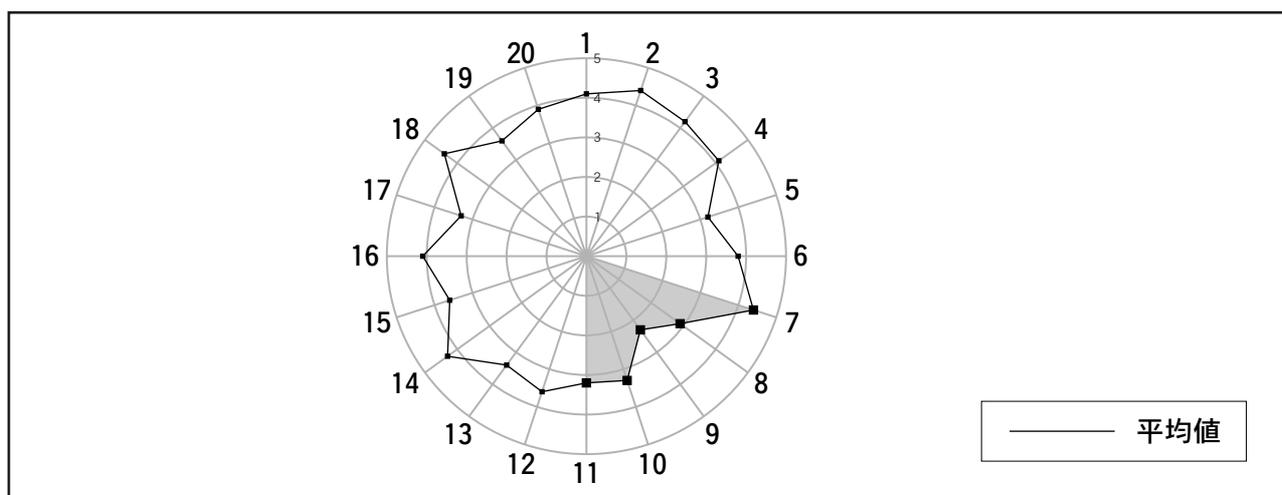
全体的には比較的高い評価を得ているが、項目(8)(9)(11)の「学生自身の授業への取り組み」に問題が残る。(8)(11)については、自由記述にも「毎回レポートで復習をし、自分の意見を考えるきっかけを作った」「毎回の意見提出で深く考えることができた」とあるように、本授業では毎回ワークシートを配布し、各自の考えを書かせた上で解説する方法をとっている。そのために学生に予習・復習や確認を求めていることが評価結果に反映している。(9)については「生徒の意見を幅広く求めている」という指摘もあるが、原則的には一つの課題について数人の意見を求めるにとどまっていた。次年度は学生同士のちょっとした話し合いの場や質問の機会を意図的に増やしていきたい。

子どもの頃に大半の学生は総合的な学習を体験していない。そのために映像等で具体的な事例を紹介したり、指導に長けた現職教員を招いたりした。そのことにより、「総合学習が子どもに感動を与えることに気付いた」「見解が変わった」「イメージが大きく変わった」「現場に即していた」「多くの実践を紹介してもらった」「専門性が高まった」など肯定的な指摘を数多く受けることができた。一方、「教室が広すぎる」や「失敗事例や批判的な面も出して欲しい」、「中学校の実践も欲しい」などの指摘も受けた。次年度の授業においてはこの点についての改善を図りたい。

授業科目名 中等理科（物理学分野）
 評価実施日 平成19年11月26日
 担当教員名 栗田 高明

回答者数 14名

質問項目	評価選択人数	評価選択人数						平均値 (科目別)
		5	4	3	2	1	N.A	
1 授業概要について	(1) 目標・授業計画・内容は、明確に示されていた。	5	6	3	0	0	0	4.1
	(2) 成績評価の方法は、明確に示されていた。	8	4	2	0	0	0	4.4
2 授業の内容等について	(3) 授業内容は、授業概要に沿っていた。	5	7	2	0	0	0	4.2
	(4) 授業内容は、教養や専門性を高めるものだった。	4	8	2	0	0	0	4.1
	(5) 授業内容は、教育に対する見方や考え方を学べるものだった。	1	5	4	4	0	0	3.2
	(6) 授業内容は、興味・関心を引くものだった。	2	7	5	0	0	0	3.8
3 あなたの授業への取り組みについて	(7) 授業によく出席した。	7	6	1	0	0	0	4.4
	(8) 授業内容をよく理解するために予習や復習をした。	0	5	3	6	0	0	2.9
	(9) 授業中に積極的に発言や質問をした。	0	2	2	8	2	0	2.3
	(10) 教員の説明をよく聞いた。	1	4	7	2	0	0	3.3
	(11) 分からないことや疑問に思ったことは調べた。	0	5	5	3	0	1	3.2
4 教員の授業の進め方について	(12) 学生の理解状況を確認しながら授業を行った。	3	6	2	3	0	0	3.6
	(13) 学生が参加しやすい授業だった。	1	6	5	1	1	0	3.4
	(14) 熱心に指導した。	6	6	2	0	0	0	4.3
	(15) 授業内容を分かりやすく説明した。	1	8	4	1	0	0	3.6
	(16) 教科書や配布資料等の教材は、内容を理解する上で適切だった。	4	7	3	0	0	0	4.1
	(17) 視聴覚機器及び教育用機器の利用は、適切だった。	1	4	7	2	0	0	3.3
	(18) 教員の声は、聞き取りやすかった。	8	4	2	0	0	0	4.4
	(19) 授業の進む速さは、適切だった。	3	4	6	1	0	0	3.6
5 授業に対する満足度	(20) この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。	4	4	6	0	0	0	3.9



教員のコメント

アンケート結果から3つの事柄が判明した。

1つは、受講者が、予習および復習を行わずに授業にのぞんでいることである。これは私が担当している他の授業科目でもいえることであるが、他の受講しなければならぬ授業時間数が多いため、予習復習をする時間が極端に少ないことが原因していると考えられる。前回の授業内容の確認等は、問題演習や小テストを行うことにより、できるだけ授業中に完結するようにしたい。2つめは、授業中の学生の積極的な発言が少ないということである。このアンケート項目で、数値が大きい方が、授業評価がよいのかどうか、私自身分からない。少なくとも良い授業は必ずある。また授業者自身が発問を多くする必要もないと思う。それはそれぞれの授業者が決めればよい。ただ質問をしようとする傾向は少ないと思う。3つめは、記述式で複数あげられていた点で、少ない時間でたくさんの授業内容を詰め込んだために、説明が不十分な点や、まとまりがないときがあったという、指摘である。確かに中等物理の内容は範囲が広く、浅く広く手を広げすぎた感がある。後の専門専修科目に引き継ぐことができるように内容の精選をしたい。この指摘に対しては真摯に受け止め、次年度以降の授業に反映したいと思う。

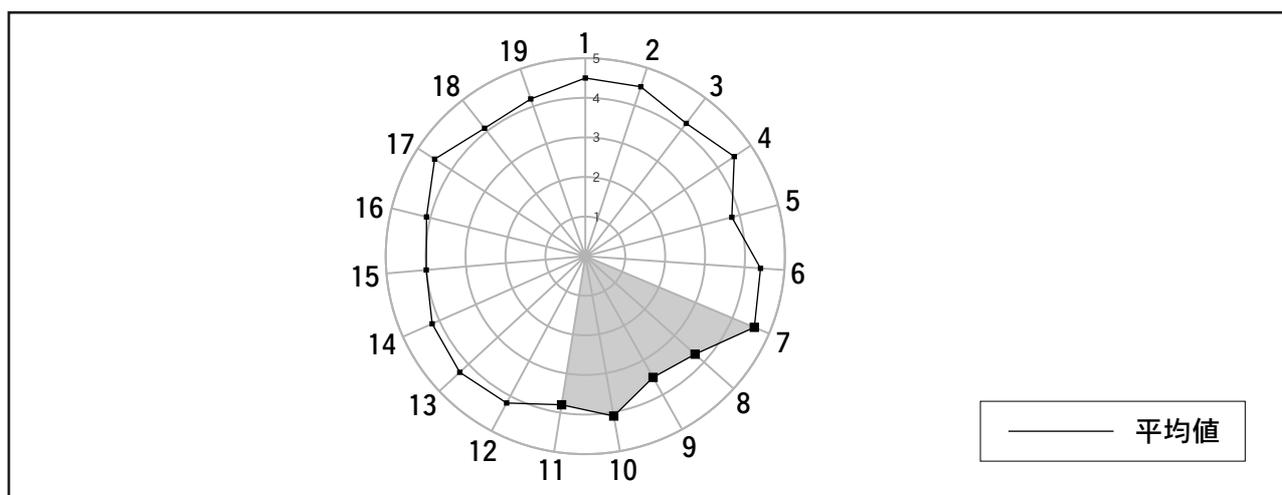
授業科目名 中等理科（化学分野）

評価実施日 平成20年2月18日

担当教員名 武田 清

回答者数 13名

質問項目	評価選択人数						平均値 (科目別)	
	5	4	3	2	1	N.A		
1 授業概要について	(1) 目標・授業計画・内容は、明確に示されていた。	6	7	0	0	0	0	4.5
	(2) 成績評価の方法は、明確に示されていた。	6	7	0	0	0	0	4.5
2 授業の内容等について	(3) 授業内容は、授業概要に沿っていた。	4	8	1	0	0	0	4.2
	(4) 授業内容は、教養や専門性を高めるものだった。	6	7	0	0	0	0	4.5
	(5) 授業内容は、教育に対する見方や考え方を学べるものだった。	2	7	3	1	0	0	3.8
	(6) 授業内容は、興味・関心を引くものだった。	7	4	2	0	0	0	4.4
3 あなたの授業への取り組みについて	(7) 授業によく出席した。	10	2	0	1	0	0	4.6
	(8) 授業内容をよく理解するために予習や復習をした。	4	3	4	2	0	0	3.7
	(9) 授業中に積極的に発言や質問をした。	2	2	9	0	0	0	3.5
	(10) 教員の説明をよく聞いた。	4	7	1	1	0	0	4.1
	(11) 分からないことや疑問に思ったことは調べた。	3	5	5	0	0	0	3.8
4 教員の授業の進め方について	(12) 学生の理解状況を確認しながら授業を行った。	5	6	1	1	0	0	4.2
	(13) 学生が参加しやすい授業だった。	7	4	1	1	0	0	4.3
	(14) 熱心に指導した。	5	6	2	0	0	0	4.2
	(15) 授業内容を分かりやすく説明した。	4	7	0	2	0	0	4.0
	(16) 教科書や配布資料等の教材は、内容を理解する上で適切だった。	4	7	1	1	0	0	4.1
	(17) 教員の声は、聞き取りやすかった。	7	5	1	0	0	0	4.5
	(18) 授業の進む速さは、適切だった。	4	7	1	1	0	0	4.1
	(19) この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。	5	5	3	0	0	0	4.2



教員のコメント

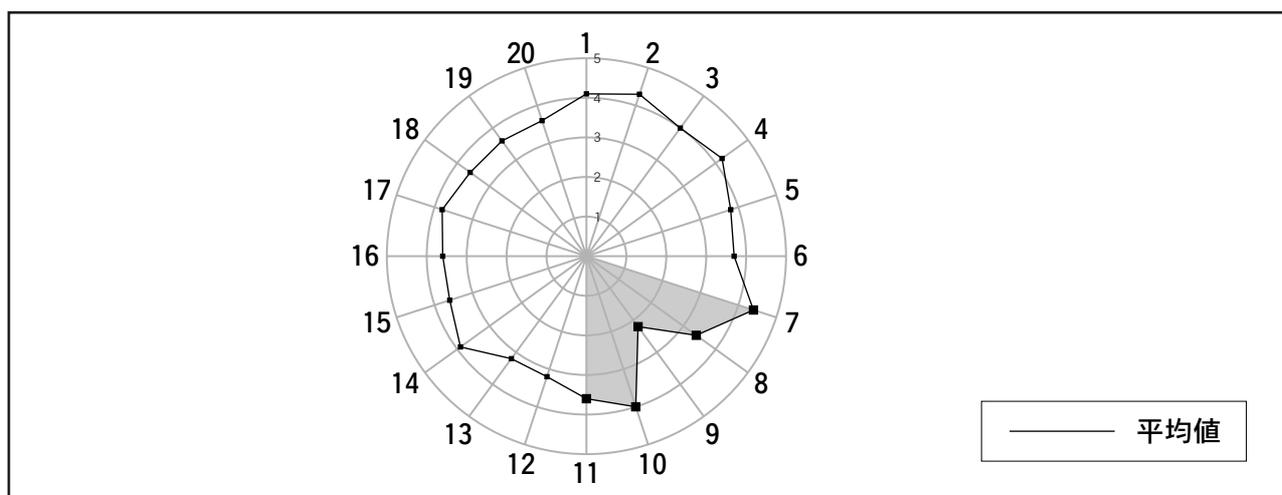
今年度は、従来よりもやや高度な内容に変更した。高等学校では学ばない、溶解度積や、純物質の状態図、ルイスの酸・塩基の定義などを含めたため、(おそらく高校で化学を学ばなかった)一部の学生にはやや高度であったかもしれない。にもかかわらず、担当者としては、概ね肯定的な評価を受けたものと理解している。また、すべての授業で演示実験を行い、それに基づいて授業を組み立てるようにしたことから、演示実験をしたことに対して、肯定的なコメントが多かった。

一方、説明なしに進んだところがあったとのコメントを書いている回答があった。説明が不十分なところは、質問を受け付ける用意があるので、いつでも発言してほしい。授業中に質問しにくければ、授業の終了後にいつでも質問を受け付けているので、質問にきてほしいところである。

授業科目名 初等理科
 評価実施日 平成20年2月4日
 担当教員名 本田 亮, 米澤 義彦, 今倉 康宏, 村田 守

回答者数 89名

質問項目		評価選択人数						平均値 (科目別)
		5	4	3	2	1	N.A	
1 授業概要について	(1) 目標・授業計画・内容は、明確に示されていた。	31	36	20	2	0	0	4.1
	(2) 成績評価の方法は、明確に示されていた。	44	28	15	2	0	0	4.3
2 授業の内容等について	(3) 授業内容は、授業概要に沿っていた。	26	45	15	2	1	0	4.0
	(4) 授業内容は、教養や専門性を高めるものだった。	42	30	13	3	1	0	4.2
	(5) 授業内容は、教育に対する見方や考え方を学べるものだった。	24	37	17	8	3	0	3.8
	(6) 授業内容は、興味・関心を引くものだった。	20	36	24	8	1	0	3.7
3 あなたの授業への取り組みについて	(7) 授業によく出席した。	52	23	11	2	1	0	4.4
	(8) 授業内容をよく理解するために予習や復習をした。	16	25	29	16	3	0	3.4
	(9) 授業中に積極的に発言や質問をした。	4	9	21	18	37	0	2.2
	(10) 教員の説明をよく聞いた。	23	42	22	1	1	0	4.0
	(11) 分からないことや疑問に思ったことは調べた。	17	30	29	11	2	0	3.6
4 教員の授業の進め方について	(12) 学生の理解状況を確認しながら授業を行った。	10	28	25	18	8	0	3.2
	(13) 学生が参加しやすい授業だった。	14	22	29	15	9	0	3.2
	(14) 熱心に指導した。	20	46	17	4	2	0	3.9
	(15) 授業内容を分かりやすく説明した。	15	39	24	7	4	0	3.6
	(16) 教科書や配布資料等の教材は、内容を理解する上で適切だった。	18	34	25	11	1	0	3.6
	(17) 視聴覚機器及び教育用機器の利用は、適切だった。	22	38	21	7	1	0	3.8
	(18) 教員の声は、聞き取りやすかった。	17	35	23	12	2	0	3.6
	(19) 授業の進む速さは、適切だった。	12	37	30	6	3	1	3.6
5 授業に対する満足度	(20) この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。	20	28	26	13	2	0	3.6



教員のコメント

物理・化学・生物・地学の4分野を4人の教員で分担講義をするために、アンケートは学生の授業への取り組み(よく出席したが、授業には真面目に取り組まなかった)以外は、参考にならない。そこで、各分野への自由記述の意見を原文ママ列挙する。

○物理
 初等理科でやるべき内容ではないと思う。
 学習内容は初等理科の内容にそぐわないと思う。
 説明が難しく理解までいたらなかった。
 もっとわかりやすい授業にして下さい。
 難しく理解しづらかった。小学校・中学校で学ぶような内容がいまいち分からなかった。

○化学
 小学校で理科を教える場合の留意点、目標などを言ってくれたのはよかった。
 テストに出す内容は、もっときちんと説明して欲しい。テストに出すことが大切なことなら、その大切なことを覚えなければいけないのだから。
 説明が難しく理解までいたらなかった。
 初等課程に沿った学習内容を学べ、指導内容を学べたこと(がよかった)。

○生物
 初等課程に沿った学習内容を学べ、指導内容を学べたこと(がよかった)。

○地学
 役に立つ講義だった。
 教育や実生活と関連させた内容だったので、わかりやすく、興味・関心を引くものだった。
 地学の授業数をもっと増やしてほしい。
 地震について学べた(のがよかった)。
 防災教育(が学べてよかった)。
 授業内容(がよかった)。
 地震に対する知識を増やすことができた。
 初等課程に沿った学習内容を学べ、指導内容を学べたこと(がよかった)。

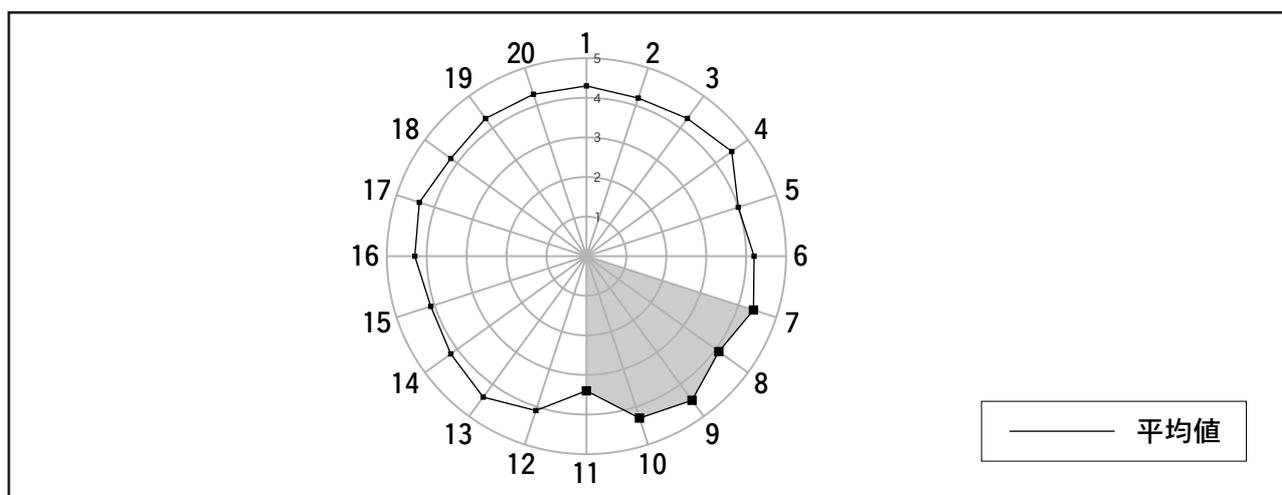
授業科目名 初等音楽 I

評価実施日 平成20年 2月15日

担当教員名 木村 正邦, 村澤, 山根, 森, 松岡, 草下, 頃安, 山田 (啓)

回答者数 114名

質問項目	評価選択人数	評価選択人数						平均値 (科目別)
		5	4	3	2	1	N.A	
1 授業概要について	(1) 目標・授業計画・内容は、明確に示されていた。	45	55	13	0	1	0	4.3
	(2) 成績評価の方法は、明確に示されていた。	47	44	21	1	1	0	4.2
2 授業の内容等について	(3) 授業内容は、授業概要に沿っていた。	47	51	16	0	0	0	4.3
	(4) 授業内容は、教養や専門性を高めるものだった。	65	36	11	1	0	1	4.5
	(5) 授業内容は、教育に対する見方や考え方を学べるものだった。	39	38	33	2	1	1	4.0
	(6) 授業内容は、興味・関心を引くものだった。	48	49	13	0	3	1	4.2
3 あなたの授業への取り組みについて	(7) 授業によく出席した。	67	24	20	3	0	0	4.4
	(8) 授業内容をよく理解するために予習や復習をした。	43	42	21	7	0	1	4.1
	(9) 積極的に実験、実習、実技等に取り組んだ。	66	34	11	1	0	2	4.5
	(10) 教員の説明をよく聞いた。	53	46	13	1	0	1	4.3
	(11) 分からないことや疑問に思ったことは調べた。	14	38	46	11	4	1	3.4
4 教員の授業の進め方について	(12) 学生の理解状況を確かめながら授業を行った。	44	46	20	1	2	1	4.1
	(13) 熱心に指導した。	60	41	11	1	0	1	4.4
	(14) 授業内容を分かりやすく説明した。	49	43	20	1	0	1	4.2
	(15) 教科書や配布資料等の教材は、内容を理解する上で適切だった。	45	38	27	3	0	1	4.1
	(16) 設備、器材、用具等の利用は、適切だった。	52	39	21	1	0	1	4.3
	(17) 教員の声は、聞き取りやすかった。	53	47	13	0	0	1	4.4
	(18) 与えられた課題のレベルや分量は、適切だった。	45	45	21	1	1	1	4.2
	(19) 安全に対する指導と配慮は、適切だった。	54	34	25	0	0	1	4.3
5 授業に対する満足度	(20) この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。	54	48	7	3	1	1	4.3



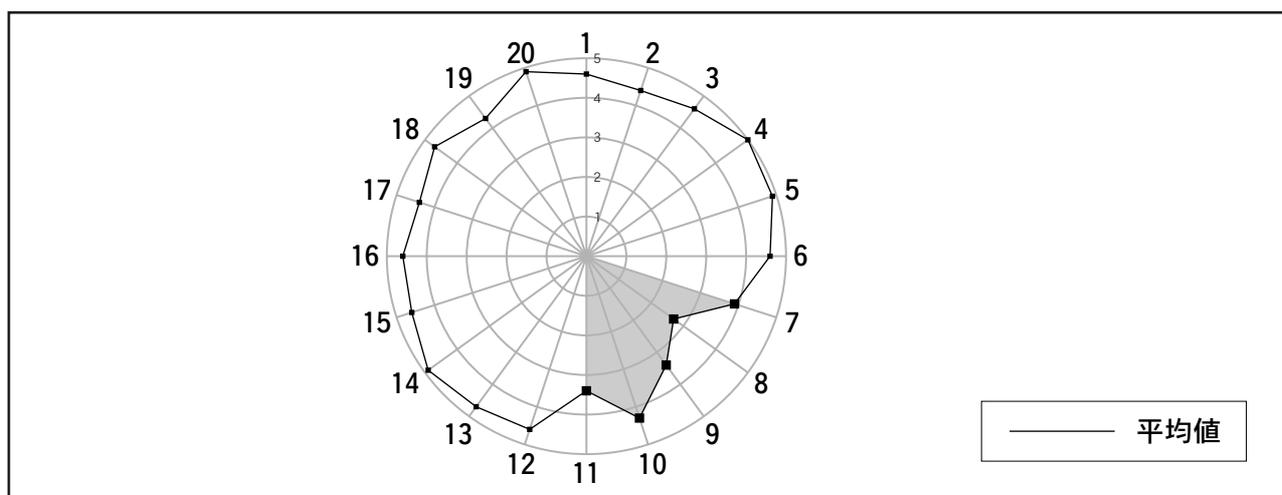
教員のコメント

質問項目(20)を見る限り、大方の学生が当授業を受講し、満足であることが読み取れる。20項目の内19項目が4を超えている。これは各教員が目指す授業が実施され、授業内容等の目的がほぼ達成されたことを示している。しかし、学生の授業への取り組みについての項：(11)分からないことや疑問に思ったことは調べた。この項のみ平均値3.4と大きく下回っていることが気になる。実技面ではグレードテストの受験し準備した上で授業に臨むなどの工夫が必要である。受動的な姿勢、疑問を放置せず、教員に質問し、問題の解決を図って欲しい。

授業科目名 保育原論
 評価実施日 平成20年2月7日
 担当教員名 橋川喜美代

回答者数 7名

質 問 項 目		評価選択人数						平均値 (科目別)
		5	4	3	2	1	N.A	
1 授業概要について	(1) 目標・授業計画・内容は、明確に示されていた。	4	3	0	0	0	0	4.6
	(2) 成績評価の方法は、明確に示されていた。	3	4	0	0	0	0	4.4
2 授業の内容等について	(3) 授業内容は、授業概要に沿っていた。	4	3	0	0	0	0	4.6
	(4) 授業内容は、教養や専門性を高めるものだった。	7	0	0	0	0	0	5.0
	(5) 授業内容は、教育に対する見方や考え方を学べるものだった。	6	1	0	0	0	0	4.9
	(6) 授業内容は、興味・関心を引くものだった。	4	3	0	0	0	0	4.6
3 あなたの授業への取り組みについて	(7) 授業によく出席した。	2	2	3	0	0	0	3.9
	(8) 授業内容をよく理解するために予習や復習をした。	0	2	1	4	0	0	2.7
	(9) 授業中に積極的に発言や質問をした。	0	4	2	1	0	0	3.4
	(10) 教員の説明をよく聞いた。	3	3	1	0	0	0	4.3
	(11) 分からないことや疑問に思ったことは調べた。	1	2	3	1	0	0	3.4
4 教員の授業の進め方について	(12) 学生の理解状況を確認しながら授業を行った。	5	1	1	0	0	0	4.6
	(13) 学生が参加しやすい授業だった。	5	2	0	0	0	0	4.7
	(14) 熱心に指導した。	6	1	0	0	0	0	4.9
	(15) 授業内容を分かりやすく説明した。	4	3	0	0	0	0	4.6
	(16) 教科書や配布資料等の教材は、内容を理解する上で適切だった。	5	1	1	0	0	0	4.6
	(17) 視聴覚機器及び教育用機器の利用は、適切だった。	4	2	1	0	0	0	4.4
	(18) 教員の声は、聞き取りやすかった。	5	2	0	0	0	0	4.7
	(19) 授業の進む速さは、適切だった。	3	3	1	0	0	0	4.3
5 授業に対する満足度	(20) この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。	6	1	0	0	0	0	4.9



教員のコメント

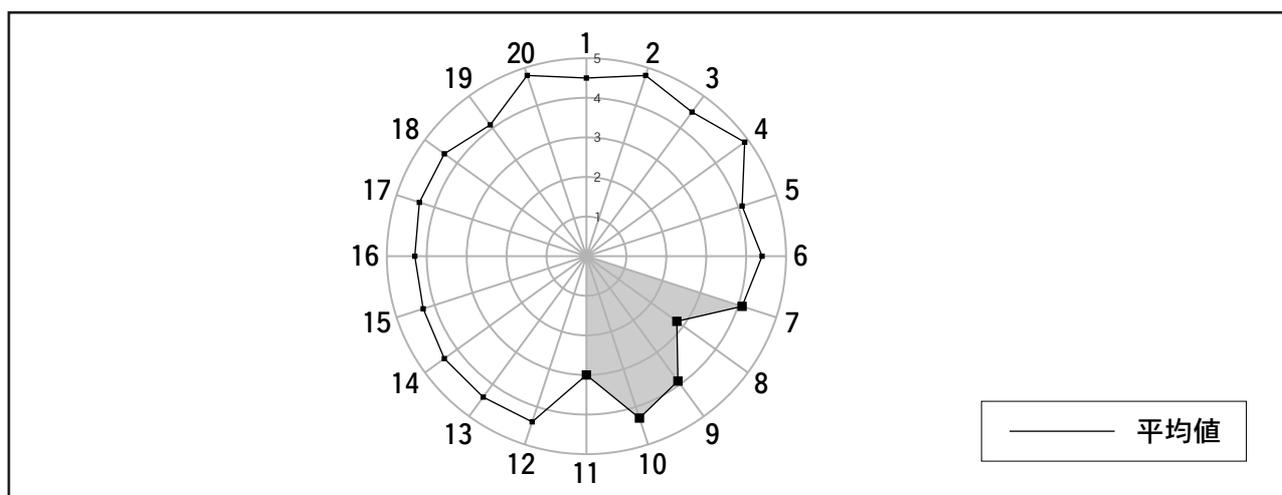
評価得点から判断して、受講生は本授業に概ね満足していると言える。その要因となっているのが、受講生の「地域の保育園に出かけ、人形劇をするなど、受講生の経験の場をつくってもらえた」というコメントからも分かるように、保育園での観察実習である。また、受講生は「保育者の役割が自分の思っていた以上に大きなものであることが分かった」「幼児の行動の意味や思いをつかむことができた」「歴史的なことが学べた」ことなどを本授業のよかった点としてあげている。こうした内容は本授業において目標として掲げたものであり、そうした意味からも授業者のねらいは概ね達成されていると判断できる。

その一方で、受講生の授業への取り組みは大きく落ち込んでいる。本授業は受講生が参加しやすい授業である反面、受講生の自学自習を全く喚起していないと言ってもよい。ところで、受講生たちは授業の一環として、授業外で手作りの人形を作り、保育園の子どもたちに見せる人形劇の練習などを重ねている。こうした時間内で、受講生は互いに幼児の年齢や発達を考えに入れた教材選び、幼児の関心を惹きつけるための工夫などに関する話し合いを進めているのだが、これが自学の場といった認識はないようである。さまざまな方法で自学自習への対策を講じていきたい。さらに、項目(2)(17)(19)は従来からの課題であり、改善の方策を工夫していきたい。

授業科目名 社会福祉論Ⅱ
 評価実施日 平成20年2月13日
 担当教員名 木村 直子

回答者数 8名

質問項目	評価選択人数						平均値 (科目別)	
	5	4	3	2	1	N.A		
1 授業概要について	(1) 目標・授業計画・内容は、明確に示されていた。	4	4	0	0	0	0	4.5
	(2) 成績評価の方法は、明確に示されていた。	6	2	0	0	0	0	4.8
2 授業の内容等について	(3) 授業内容は、授業概要に沿っていた。	4	4	0	0	0	0	4.5
	(4) 授業内容は、教養や専門性を高めるものだった。	7	1	0	0	0	0	4.9
	(5) 授業内容は、教育に対する見方や考え方を学べるものだった。	2	5	1	0	0	0	4.1
	(6) 授業内容は、興味・関心を引くものだった。	3	5	0	0	0	0	4.4
3 あなたの授業への取り組みについて	(7) 授業によく出席した。	4	2	1	1	0	0	4.1
	(8) 授業内容をよく理解するために予習や復習をした。	0	2	3	2	1	0	2.8
	(9) 授業中に積極的に発言や質問をした。	1	5	2	0	0	0	3.9
	(10) 教員の説明をよく聞いた。	3	4	1	0	0	0	4.3
	(11) 分からないことや疑問に思ったことは調べた。	0	1	6	1	0	0	3.0
4 教員の授業の進め方について	(12) 学生の理解状況を確かめながら授業を行った。	3	5	0	0	0	0	4.4
	(13) 学生が参加しやすい授業だった。	3	5	0	0	0	0	4.4
	(14) 熱心に指導した。	4	3	1	0	0	0	4.4
	(15) 授業内容を分かりやすく説明した。	2	6	0	0	0	0	4.3
	(16) 教科書や配布資料等の教材は、内容を理解する上で適切だった。	2	6	0	0	0	0	4.3
	(17) 視聴覚機器及び教育用機器の利用は、適切だった。	3	5	0	0	0	0	4.4
	(18) 教員の声は、聞き取りやすかった。	3	5	0	0	0	0	4.4
	(19) 授業の進む速さは、適切だった。	2	5	1	0	0	0	4.1
5 授業に対する満足度	(20) この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。	6	2	0	0	0	0	4.8



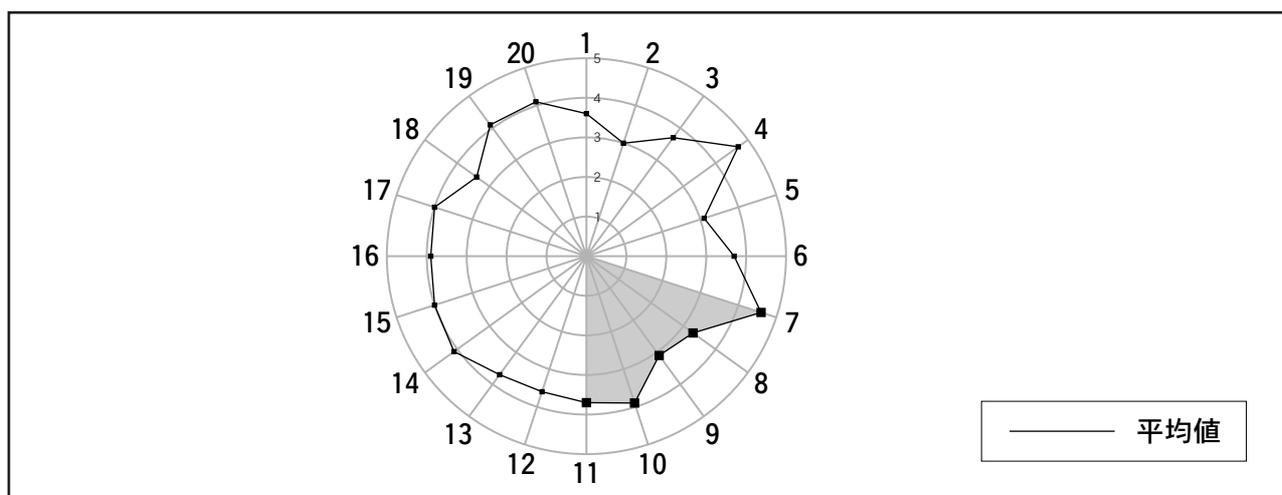
教員のコメント

「1 授業概要について」「2 授業の内容等について」「4 教員の授業の進め方について」と比較して、「3 あなたの授業への取り組みについて」の5項目の評価得点が低い結果となっていた。これは、従前に行った他の授業における評価においても、同じ傾向であった。このことは、学生の知的好奇心を刺激し、さらなる探究心を育むような授業でなかったことを如実に現しており、積極的な授業への参加（発言・自発的予習・復習）を促すことができなかったことは、残念なことである。今後は、「社会福祉」を学ぶことの意義や意味について学生と共有しながら、学生が積極的に自主学習ができるよう努めたい。

授業科目名 小児保健
 評価実施日 平成20年2月21日
 担当教員名 廣瀬 政雄

回答者数 7名

質問項目	評価選択人数						平均値 (科目別)	
	5	4	3	2	1	N.A		
1 授業概要について	(1) 目標・授業計画・内容は、明確に示されていた。	1	2	4	0	0	0	3.6
	(2) 成績評価の方法は、明確に示されていた。	0	1	5	1	0	0	3.0
2 授業の内容等について	(3) 授業内容は、授業概要に沿っていた。	1	3	3	0	0	0	3.7
	(4) 授業内容は、教養や専門性を高めるものだった。	5	2	0	0	0	0	4.7
	(5) 授業内容は、教育に対する見方や考え方を学べるものだった。	0	1	6	0	0	0	3.1
	(6) 授業内容は、興味・関心を引くものだった。	0	5	2	0	0	0	3.7
3 あなたの授業への取り組みについて	(7) 授業によく出席した。	5	1	1	0	0	0	4.6
	(8) 授業内容をよく理解するために予習や復習をした。	1	2	2	2	0	0	3.3
	(9) 積極的に実験、実習、実技等に取り組んだ。	0	1	6	0	0	0	3.1
	(10) 教員の説明をよく聞いた。	2	2	3	0	0	0	3.9
	(11) 分からないことや疑問に思ったことは調べた。	2	2	2	1	0	0	3.7
4 教員の授業の進め方について	(12) 学生の理解状況を確認しながら授業を行った。	0	4	3	0	0	0	3.6
	(13) 熱心に指導した。	0	5	2	0	0	0	3.7
	(14) 授業内容を分かりやすく説明した。	1	6	0	0	0	0	4.1
	(15) 教科書や配布資料等の教材は、内容を理解する上で適切だった。	1	5	1	0	0	0	4.0
	(16) 設備、器材、用具等の利用は、適切だった。	1	4	2	0	0	0	3.9
	(17) 教員の声は、聞き取りやすかった。	2	3	2	0	0	0	4.0
	(18) 与えられた課題のレベルや分量は、適切だった。	0	4	2	1	0	0	3.4
	(19) 安全に対する指導と配慮は、適切だった。	2	4	1	0	0	0	4.1
5 授業に対する満足度	(20) この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。	1	6	0	0	0	0	4.1



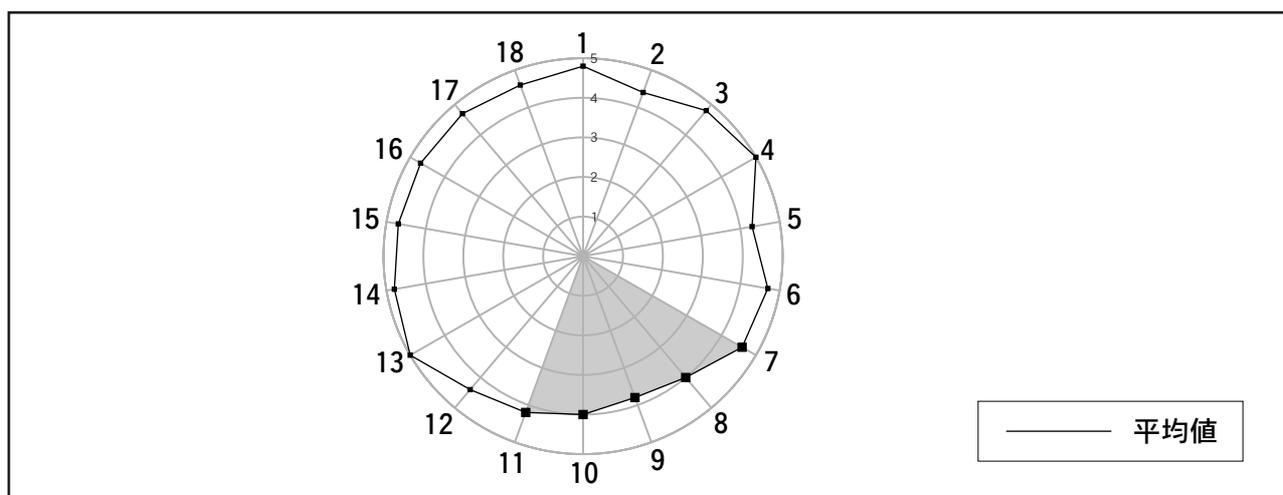
教員のコメント

専門的な内容の講義であるが、将来に向けて有用な授業との感想を記入している。評価の平均値は特に偏ったものはないが、成績評価の方法が明確でなかったことと、授業に対する取り組みに対する評価が少し低くなっている。

授業科目名 国語学特論 I
 評価実施日 平成20年 2月18日
 担当教員名 原 卓志, 茂木 俊伸

回答者数 21名

質問項目	評価選択人数						平均値 (科目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
1 授業概要について	(1) 目標・授業計画・内容は、明確に示されていた。	16	5	0	0	0	4.8
	(2) 成績評価の方法は、明確に示されていた。	12	5	4	0	0	4.4
2 授業の内容等について	(3) 授業内容は、授業概要に沿っていた。	18	1	2	0	0	4.8
	(4) 授業内容は、教養や専門性を高めるものだった。	20	1	0	0	0	5.0
	(5) 授業内容は、教育に対する見方や考え方を学べるものだった。	11	6	3	1	0	4.3
	(6) 授業内容は、興味・関心を引くものだった。	18	1	1	0	1	4.7
3 あなたの授業への取り組みについて	(7) 授業によく出席した。	13	8	0	0	0	4.6
	(8) 授業内容をよく理解するために予習や復習をした。	9	6	3	3	0	4.0
	(9) 授業中に積極的に発言や質問をした。	8	5	4	3	1	3.8
	(10) 積極的に課題に取り組んだ。	10	5	3	2	1	4.0
	(11) 分からないことや疑問に思ったことは調べた。	12	3	4	2	0	4.2
4 教員の授業の進め方について	(12) 学生の理解状況を確認しながら授業を行った。	12	6	3	0	0	4.4
	(13) 学生参加型の授業だった。	21	0	0	0	0	5.0
	(14) 熱心に指導した。	17	3	1	0	0	4.8
	(15) 授業内容を分かりやすく説明した。	13	4	1	0	0	4.7
	(16) 授業の進む速さは、適切だった。	16	4	1	0	0	4.7
	(17) 学生の疑問や質問に適切に答えた。	16	4	1	0	0	4.7
5 授業に対する満足度	(18) この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。	16	4	0	0	1	4.6



教員のコメント

全項目の評価の平均が4.52であったこと、質問項目18項目中11項目で高い評価(平均4.5以上)が得られたことから、好意的な評価がなされたと考えている。

昨年度との比較で言えば、項目2と5の評価が大幅に向上しており、教員側の意識的な授業改善の成果が得られたことは喜ばしい。一方、授業の主旨を説明し、発表前に事前指導の機会を設けているにもかかわらず、項目8～10の評価はなかなか大きくは変化しない。悩ましい問題ではあるが、今後も粘り強く課題として取り組んでいきたい。

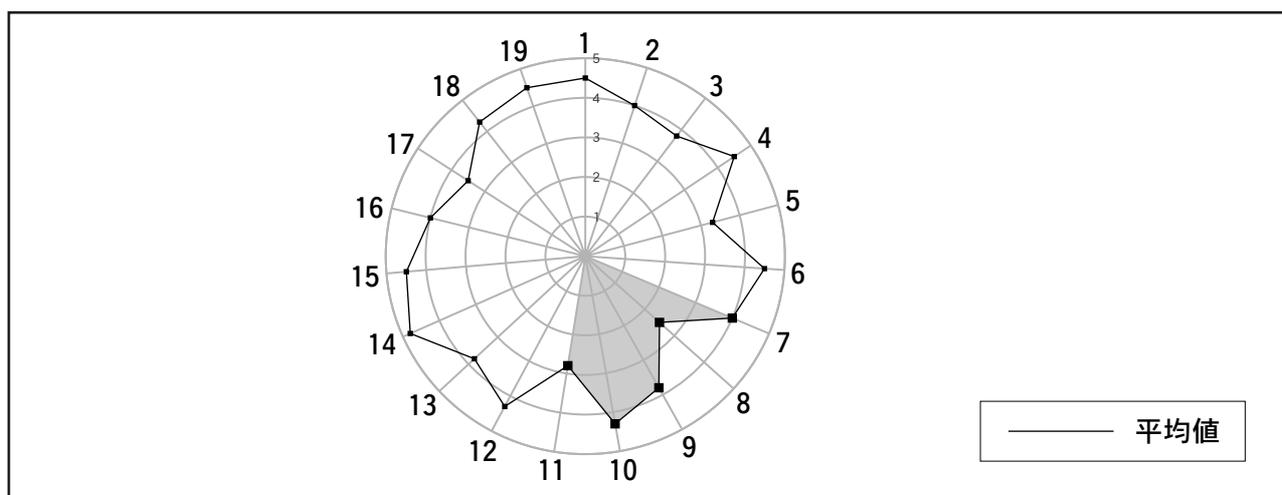
受講生のコメントでは、「よかったこと」として21人中16人から日本語の面白さの再発見あるいは分析や発表のスキルの習得について記述があり、シラバスの到達目標は達成できたと考えられる。一方、運営上の問題点として「前半の発表者と後半の発表者で持ち時間が異なること」が指摘されたため、来年度は改善していきたい。

なお、項目6, 18を含むいくつかの項目で「1」の評価をしながら、自由記述欄に無記入の受講者がいた。不満をぶつけるだけでなく、授業をよりよいものにしていくのが授業評価の目的であることを理解したうえでアンケートに回答してもらいたい。

授業科目名 英語学研究Ⅱ
 評価実施日 平成20年2月21日
 担当教員名 藪下 克彦

回答者数 4名

質問項目	評価選択人数						平均値 (科目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
1 授業概要について	(1) 目標・授業計画・内容は、明確に示されていた。	2	2	0	0	0	4.5
	(2) 成績評価の方法は、明確に示されていた。	2	1	0	1	0	4.0
2 授業の内容等について	(3) 授業内容は、授業概要に沿っていた。	1	1	2	0	0	3.8
	(4) 授業内容は、教養や専門性を高めるものだった。	2	2	0	0	0	4.5
	(5) 授業内容は、教育に対する見方や考え方を学べるものだった。	0	2	1	1	0	3.3
	(6) 授業内容は、興味・関心を引くものだった。	2	2	0	0	0	4.5
3 あなたの授業への取り組みについて	(7) 授業によく出席した。	2	1	0	1	0	4.0
	(8) 授業内容をよく理解するために予習や復習をした。	0	1	0	3	0	2.5
	(9) 授業中に積極的に発言や質問をした。	0	3	1	0	0	3.8
	(10) 教員の説明をよく聞いた。	1	3	0	0	0	4.3
	(11) 分からないことや疑問に思ったことは調べた。	1	0	0	3	0	2.8
4 教員の授業の進め方について	(12) 学生の理解状況を確認しながら授業を行った。	1	3	0	0	0	4.3
	(13) 学生が参加しやすい授業だった。	1	2	0	1	0	3.8
	(14) 熱心に指導した。	3	1	0	0	0	4.8
	(15) 授業内容を分かりやすく説明した。	2	2	0	0	0	4.5
	(16) 教科書や配布資料等の教材は、内容を理解する上で適切だった。	2	0	2	0	0	4.0
	(17) 視聴覚機器及び教育用機器の利用は、適切だった。	2	0	1	0	1	3.5
	(18) 授業の進む速さは、適切だった。	1	3	0	0	0	4.3
	(19) この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。	2	2	0	0	0	4.5



教員のコメント

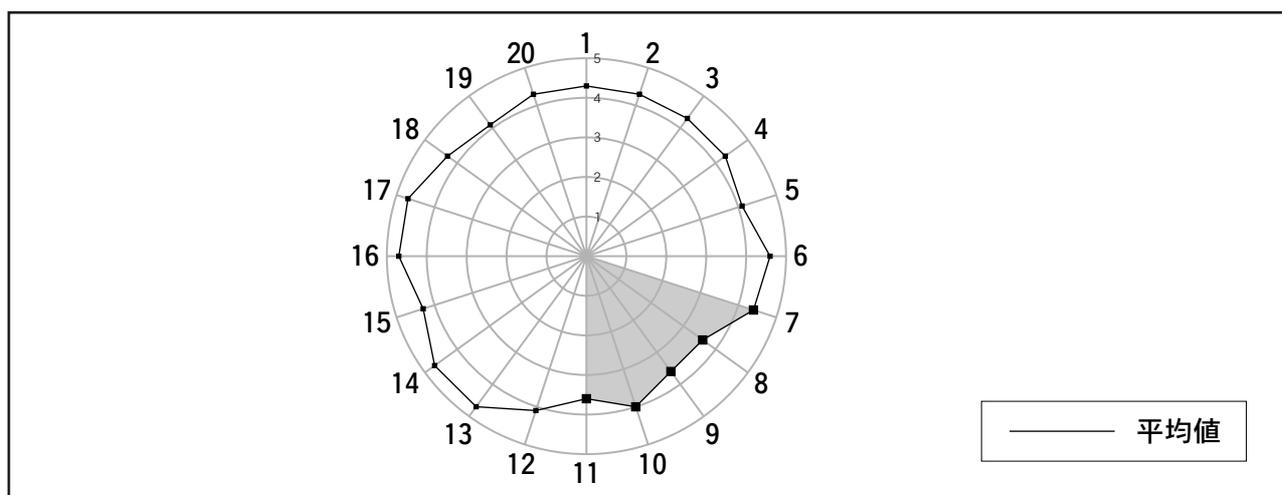
全19質問項目評価の平均値は3.98で、その内、6項目は4.5以上で、全体的に見て、良い評価をもらったと思っている。その一方で、鳴門教育大学の授業は、全般的に「あなたの授業への取り組みについて」に関する質問項目の評価が低いと言われているが、本授業も例外ではなく、質問項目(8)と(11)の評価の平均値が、それぞれ2.5と2.8で低い評価であった。本授業期間中にも、宿題と予習の指示を出したが、さらに、受講生に授業外学習を促す方策を取りたいと思っている。

本授業を評価するコメントに、「英語(文法)について、より専門的に学習できた。」、「英語について、普段考えなかった意味について、考えることができ、いろいろ発見できた。」、「意味論は抽象的でわかりにくく、とっつきにくいと思っていたが、意外とわかりやすかった。」、「英語に関しての専門性を高めることができた。」があった。改善した方がよいと思う点に関しては、「人数が増えればよいと思う」というものがあり、私も同感である。受講生が増えるように、良い意味での宣伝活動を行っていこうと思っている。

授業科目名 英語オーラルコミュニケーションⅠ
 評価実施日 平成20年2月6日
 担当教員名 山森 直人

回答者数 7名

質問項目	評価選択人数						平均値 (科目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
1 授業概要について	(1) 目標・授業計画・内容は、明確に示されていた。	2	5	0	0	0	4.3
	(2) 成績評価の方法は、明確に示されていた。	2	5	0	0	0	4.3
2 授業の内容等について	(3) 授業内容は、授業概要に沿っていた。	2	5	0	0	0	4.3
	(4) 授業内容は、教養や専門性を高めるものだった。	3	3	1	0	0	4.3
	(5) 授業内容は、教育に対する見方や考え方を学べるものだった。	1	6	0	0	0	4.1
	(6) 授業内容は、興味・関心を引くものだった。	5	1	1	0	0	4.6
3 あなたの授業への取り組みについて	(7) 授業によく出席した。	3	4	0	0	0	4.4
	(8) 授業内容をよく理解するために予習や復習をした。	1	2	4	0	0	3.6
	(9) 授業中に積極的に発言や質問をした。	1	2	4	0	0	3.6
	(10) 積極的に課題に取り組んだ。	2	3	2	0	0	4.0
	(11) 分からないことや疑問に思ったことは調べた。	2	1	3	1	0	3.6
4 教員の授業の進め方について	(12) 学生の理解状況を確認しながら授業を行った。	2	4	1	0	0	4.1
	(13) 学生参加型の授業だった。	5	2	0	0	0	4.7
	(14) 熱心に指導した。	5	2	0	0	0	4.7
	(15) 授業内容を分かりやすく説明した。	2	5	0	0	0	4.3
	(16) 教科書や配布資料等の教材は、内容を理解する上で適切だった。	5	2	0	0	0	4.7
	(17) 視聴覚機器及び教育用機器の利用は、適切だった。	5	2	0	0	0	4.7
	(18) 授業の進む速さは、適切だった。	2	5	0	0	0	4.3
	(19) 学生の疑問や質問に適切に答えた。	2	4	1	0	0	4.1
	(20) この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。	2	5	0	0	0	4.3



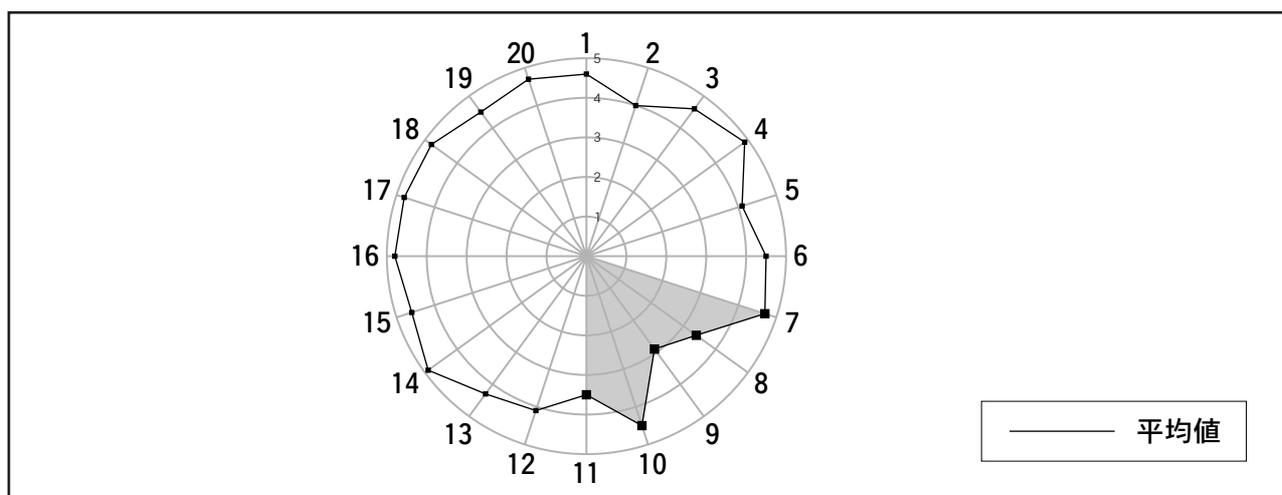
教員のコメント

(8)(9)(11)以外はすべて平均値が4点台であることを考慮すれば、本授業は高評価を得たと思う。授業内容を教育実習と関連づけるとともに、目標、授業内容、評価の一体化をねらい授業改善を継続的に行ってきた成果であると考えたい。しかし、これまで同様、受講生自身の授業への取り組み(8)(9)(11)については課題を残す結果となった。特に英語力の伸長は、授業以外の時間帯を利用した学生個々の日々の取り組みが必要である。本授業と離れたところで、英語科教育コース学生の英語力伸長の場を積極的に提供してきたが、継続的かつ着実に英語力を伸長するための学習姿勢の育成には、さらなる支援が必要と考えている。また、その他授業の予習・復習、部活動・ボランティア活動への参加、アルバイトなどの学外活動のため、本授業の予習・復習を含め、英語力の伸長に十分な時間を持つことができない現状があると推察する。何らかの方策を考案する必要があるが、単発的な動機づけに終わるのではなく、将来の英語指導者としての責任を自己認識させることを主要な方向性として、予習や復習を学生が積極的に行えるような仕組みづくり、および、英語力の伸長に関わる相談時間を設けるなどの工夫を検討したい。

授業科目名 外国史特論
 評価実施日 平成20年2月6日
 担当教員名 原田 昌博

回答者数 17名

質 問 項 目		評価選択人数						平均値 (科目別)
		5	4	3	2	1	N.A	
1 授業概要について	(1) 目標・授業計画・内容は、明確に示されていた。	12	3	2	0	0	0	4.6
	(2) 成績評価の方法は、明確に示されていた。	5	8	3	1	0	0	4.0
2 授業の内容等について	(3) 授業内容は、授業概要に沿っていた。	11	6	0	0	0	0	4.6
	(4) 授業内容は、教養や専門性を高めるものだった。	15	2	0	0	0	0	4.9
	(5) 授業内容は、教育に対する見方や考え方を学べるものだった。	7	6	2	2	0	0	4.1
	(6) 授業内容は、興味・関心を引くものだった。	12	3	1	1	0	0	4.5
3 あなたの授業への取り組みについて	(7) 授業によく出席した。	12	5	0	0	0	0	4.7
	(8) 授業内容をよく理解するために予習や復習をした。	2	5	7	3	0	0	3.4
	(9) 授業中に積極的に発言や質問をした。	1	4	7	3	2	0	2.9
	(10) 教員の説明をよく聞いた。	9	7	1	0	0	0	4.5
	(11) 分からないことや疑問に思ったことは調べた。	4	5	3	5	0	0	3.5
4 教員の授業の進め方について	(12) 学生の理解状況を確かめながら授業を行った。	7	6	3	1	0	0	4.1
	(13) 学生が参加しやすい授業だった。	8	6	3	0	0	0	4.3
	(14) 熱心に指導した。	15	2	0	0	0	0	4.9
	(15) 授業内容を分かりやすく説明した。	12	4	1	0	0	0	4.6
	(16) 教科書や配布資料等の教材は、内容を理解する上で適切だった。	14	2	1	0	0	0	4.8
	(17) 視聴覚機器及び教育用機器の利用は、適切だった。	13	4	0	0	0	0	4.8
	(18) 教員の声は、聞き取りやすかった。	14	3	0	0	0	0	4.8
	(19) 授業の進む速さは、適切だった。	10	6	1	0	0	0	4.5
5 授業に対する満足度	(20) この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。	12	5	0	0	0	0	4.7



教員のコメント

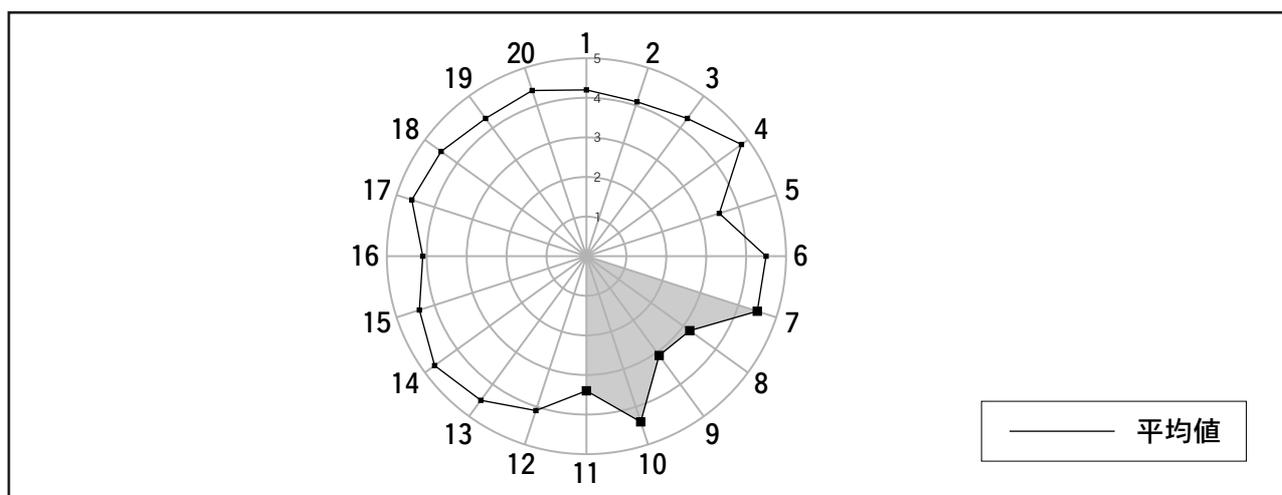
「外国史特論」は2年次生を対象とした専門科目である。今回は1930年代から第2次世界大戦期までのヨーロッパの状況を、ナチス・ドイツの動向を中心に取り上げ、終盤にはナチズムの過去を背負った戦後(西)ドイツの「過去の克服」にも言及した。

この講義の満足度を問う項目(20)では、アンケート回答者17人全員が「5」または「4」の評価を下しており、学生は概ねこの講義に満足したといえる。項目(6)・(7)の結果が示すように、学生は講義内容に興味・関心を示し、ほとんど欠席者はいなかった。また、授業の進め方に関する8つの質問についてもすべての質問でほぼ90%が「5」または「4」の評価を下しており、この点についても概ね目標は達成されたものとみなすことができる。学生のコメントも概ね好意的なものが多かった。講義レジュメをB4判で10枚、資料を同じくB4判で20枚以上配布したが、これらは学生の講義理解の一助となり、また学生は興味を持って資料に接したようである。また、ビデオや現地で授業者自身が撮影した写真などを盛り込んだことも受講者には好評で印象に残ったようで、この点は来年度も継続したい。ただし、「少し内容を減らしじっくりやったほうがよい」というコメントがあり、この点については今後配慮する必要がある。

授業科目名 考古学
 評価実施日 平成20年2月21日
 担当教員名 木原 克司

回答者数 20名

質問項目	評価選択人数	評価選択人数						平均値 (科目別)
		5	4	3	2	1	N.A	
1 授業概要について	(1) 目標・授業計画・内容は、明確に示されていた。	5	13	2	0	0	0	4.2
	(2) 成績評価の方法は、明確に示されていた。	7	7	6	0	0	0	4.1
2 授業の内容等について	(3) 授業内容は、授業概要に沿っていた。	8	9	3	0	0	0	4.3
	(4) 授業内容は、教養や専門性を高めるものだった。	15	5	0	0	0	0	4.8
	(5) 授業内容は、教育に対する見方や考え方を学べるものだった。	3	8	6	2	1	0	3.5
	(6) 授業内容は、興味・関心を引くものだった。	11	7	2	0	0	0	4.5
3 あなたの授業への取り組みについて	(7) 授業によく出席した。	11	7	2	0	0	0	4.5
	(8) 授業内容をよく理解するために予習や復習をした。	2	5	7	6	0	0	3.2
	(9) 授業中に積極的に発言や質問をした。	1	6	7	5	1	0	3.1
	(10) 教員の説明をよく聞いた。	9	10	1	0	0	0	4.4
	(11) 分からないことや疑問に思ったことは調べた。	2	6	9	3	0	0	3.4
4 教員の授業の進め方について	(12) 学生の理解状況を確認しながら授業を行った。	6	10	3	1	0	0	4.1
	(13) 学生が参加しやすい授業だった。	12	6	2	0	0	0	4.5
	(14) 熱心に指導した。	15	4	1	0	0	0	4.7
	(15) 授業内容を分かりやすく説明した。	10	7	3	0	0	0	4.4
	(16) 教科書や配布資料等の教材は、内容を理解する上で適切だった。	6	11	2	1	0	0	4.1
	(17) 視聴覚機器及び教育用機器の利用は、適切だった。	13	6	1	0	0	0	4.6
	(18) 教員の声は、聞き取りやすかった。	11	8	1	0	0	0	4.5
	(19) 授業の進む速さは、適切だった。	8	9	3	0	0	0	4.3
5 授業に対する満足度	(20) この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。	8	11	1	0	0	0	4.4



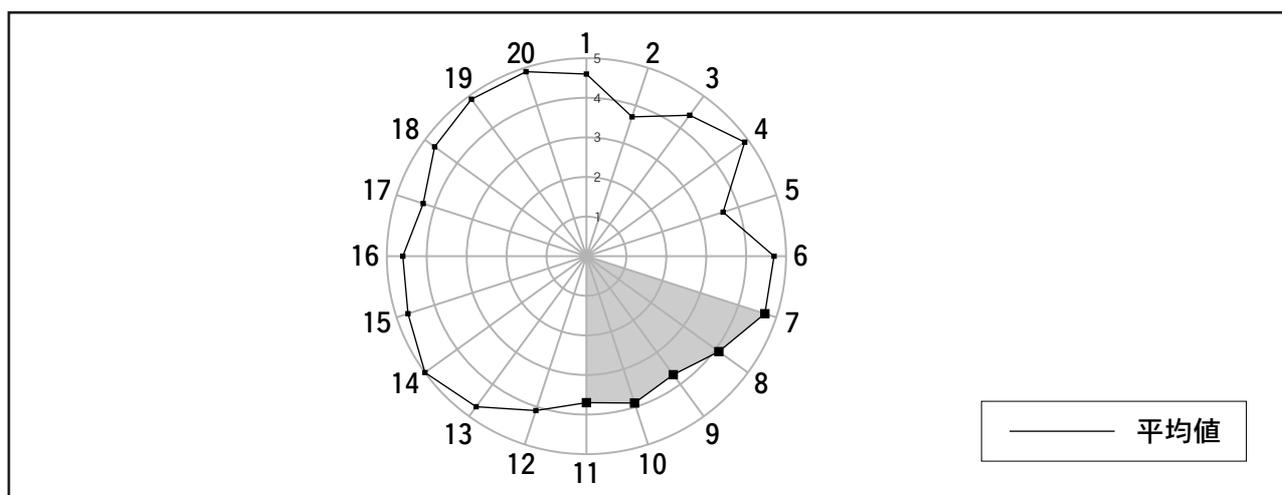
教員のコメント

20項目全体の平均値は4.2であり、授業そのものの評価はおおむね高く評価されていると判断できる。しかしながら、全体の評価を下げている要因は、例年どおり3の学生の授業への取り組みの中の特に8, 9, 11の質問項目であり、その平均値は3.2である。授業にはよく出席するが、予習復習をせず、質問もなく疑問点も調べることもしない本学学生の特徴が明確に出ている。こうした点を改善するには、適宜全員に宿題を課すか、グループごとに課題を出し、授業時間の中で発表させるというような方法を採用する必要がある。その場合、授業時間の不足をどのように補うかが問題となろう。なお、当該授業では、授業内容をより深く理解させるために、土曜日を活用して博物館や発掘調査現場に案内し、現地での授業を実施した。20名中実際に参加した17名が、博物館や発掘現場での現地講義を教室では味わえない授業として高く評価し、中でも博物館での勾玉製作体験は、すべての学生が貴重な体験として評価していた。

授業科目名 史料講読
 評価実施日 平成20年2月13日
 担当教員名 大石 雅章, 原田 昌博, 町田 哲

回答者数 7名

質問項目	評価選択人数						平均値 (科目別)	
	5	4	3	2	1	N.A		
1 授業概要について	(1) 目標・授業計画・内容は、明確に示されていた。	5	1	1	0	0	0	4.6
	(2) 成績評価の方法は、明確に示されていた。	2	2	2	1	0	0	3.7
2 授業の内容等について	(3) 授業内容は、授業概要に沿っていた。	4	2	1	0	0	0	4.4
	(4) 授業内容は、教養や専門性を高めるものだった。	6	1	0	0	0	0	4.9
	(5) 授業内容は、教育に対する見方や考え方を学べるものだった。	3	1	0	3	0	0	3.6
	(6) 授業内容は、興味・関心を引くものだった。	5	2	0	0	0	0	4.7
3 あなたの授業への取り組みについて	(7) 授業によく出席した。	6	0	1	0	0	0	4.7
	(8) 授業内容をよく理解するために予習や復習をした。	3	3	0	1	0	0	4.1
	(9) 授業中に積極的に発言や質問をした。	2	2	2	1	0	0	3.7
	(10) 積極的に課題に取り組んだ。	2	3	1	1	0	0	3.9
	(11) 分からないことや疑問に思ったことは調べた。	2	1	4	0	0	0	3.7
4 教員の授業の進め方について	(12) 学生の理解状況を確認しながら授業を行った。	2	4	1	0	0	0	4.1
	(13) 学生参加型の授業だった。	5	2	0	0	0	0	4.7
	(14) 熱心に指導した。	7	0	0	0	0	0	5.0
	(15) 授業内容を分かりやすく説明した。	5	2	0	0	0	0	4.7
	(16) 教科書や配布資料等の教材は、内容を理解する上で適切だった。	5	1	1	0	0	0	4.6
	(17) 視聴覚機器及び教育用機器の利用は、適切だった。	4	1	2	0	0	0	4.3
	(18) 授業の進む速さは、適切だった。	5	2	0	0	0	0	4.7
	(19) 学生の疑問や質問に適切に答えた。	6	1	0	0	0	0	4.9
5 授業に対する満足度	(20) この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。	6	1	0	0	0	0	4.9



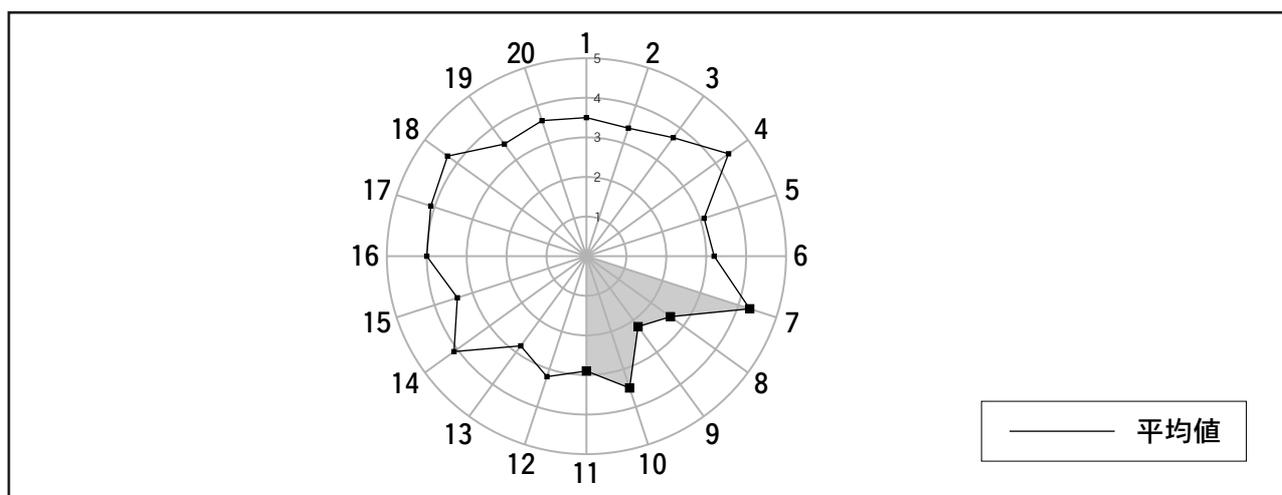
教員のコメント

史料講読という専門的能力を高める授業であるため、自由記述の6あなたの提言「この授業でよかったこと」の項では「文献を読むことで高度な知識を得ることができた」「文書を読むことは難しかったが面白かった」などの評価を得た。授業内容についても2-(4)の教養や専門性を高める点では高い評価を得たが、2-(5)の教育に対する見方や考え方を学ぶ点では平均値が3.6となっている。その点については「いろいろ史料にふれることで歴史教育を指導する上でその事象・名称の由来が分かる内容だったので将来生かしたい」という受講生の自由記述にも現れているが、専門性を高めることが教育のみかたなどを豊かにすることを、もっと積極的に受講生に伝えていく必要がある。学生の取り組みに対する項目の評価が4を下回っている。この点については学生の授業への取り組み方法を改善していく必要があろう。

授業科目名 地誌学概論
 評価実施日 平成20年2月20日
 担当教員名 立岡 裕士

回答者数 20名

質問項目	評価選択人数	評価選択人数						平均値 (科目別)
		5	4	3	2	1	N.A	
1 授業概要について	(1) 目標・授業計画・内容は、明確に示されていた。	2	7	10	1	0	0	3.5
	(2) 成績評価の方法は、明確に示されていた。	3	4	10	3	0	0	3.4
2 授業の内容等について	(3) 授業内容は、授業概要に沿っていた。	2	11	6	1	0	0	3.7
	(4) 授業内容は、教養や専門性を高めるものだった。	9	9	2	0	0	0	4.4
	(5) 授業内容は、教育に対する見方や考え方を学べるものだった。	1	6	6	7	0	0	3.1
	(6) 授業内容は、興味・関心を引くものだった。	3	3	9	5	0	0	3.2
3 あなたの授業への取り組みについて	(7) 授業によく出席した。	10	7	1	2	0	0	4.3
	(8) 授業内容をよく理解するために予習や復習をした。	0	5	5	7	3	0	2.6
	(9) 授業中に積極的に発言や質問をした。	0	2	5	7	6	0	2.2
	(10) 教員の説明をよく聞いた。	3	8	5	4	0	0	3.5
	(11) 分からないことや疑問に思ったことは調べた。	3	1	8	6	2	0	2.9
4 教員の授業の進め方について	(12) 学生の理解状況を確認しながら授業を行った。	1	6	10	1	2	0	3.2
	(13) 学生が参加しやすい授業だった。	1	2	9	7	1	0	2.8
	(14) 熱心に指導した。	5	12	2	1	0	0	4.1
	(15) 授業内容を分かりやすく説明した。	2	6	10	2	0	0	3.4
	(16) 教科書や配布資料等の教材は、内容を理解する上で適切だった。	6	8	5	1	0	0	4.0
	(17) 視聴覚機器及び教育用機器の利用は、適切だった。	7	10	2	0	1	0	4.1
	(18) 教員の声は、聞き取りやすかった。	10	7	2	0	1	0	4.3
	(19) 授業の進む速さは、適切だった。	2	9	5	4	0	0	3.5
5 授業に対する満足度	(20) この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。	5	4	8	3	0	0	3.6



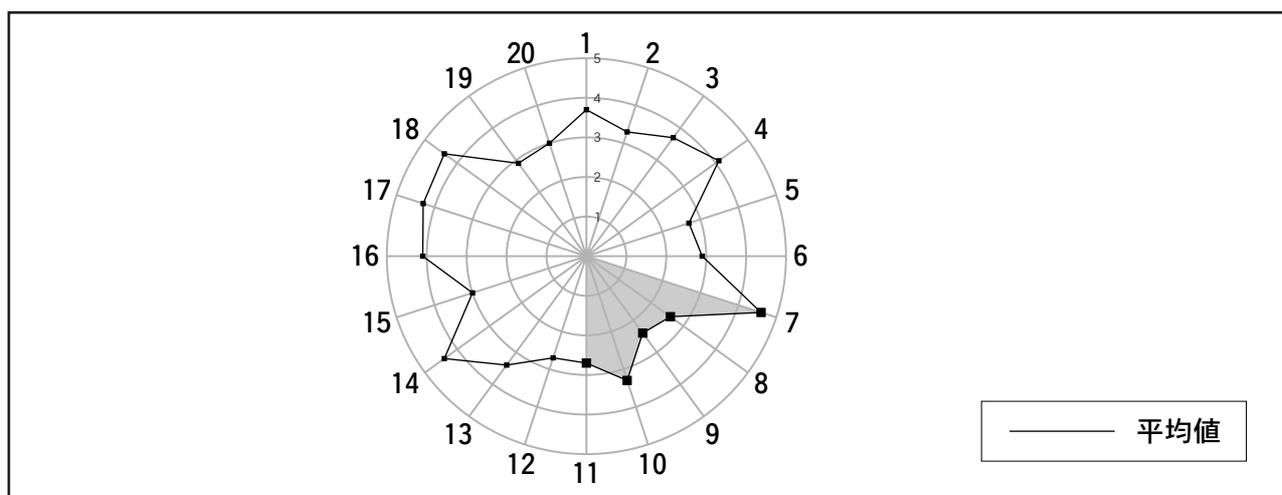
教員のコメント

- ・機器の使用や教材などが適切であったと評価する受講生が多い一方、授業がわかりやすくなかったと考える受講生も多少おり、さらに工夫する必要がある。
- ・毎回講義の最後において質問を求めたが、それでも「学生の理解状況を確認しながら授業を行った」と考えていない受講生が多少いるようである。
- ・受講生はおおむね「授業にはよく出た」ようであるが、予習・復習あるいは授業中の質問や疑問をはらすために自ら調べることは必ずしも行わなかったようである。
- ・自由記述欄の⑵には「プリントの内容が難しかった」「毎時間話が終わるようにしたらよいと思う」「もう少し内容を明確にしてほしいです」「地理学・地誌学を1つにまとめて担当教員を1人にしてほしい」「テストの出来が不安です。レポートがあったらいい」などがあつた。

授業科目名 地図学概論
 評価実施日 平成20年2月12日
 担当教員名 立岡 裕士

回答者数 7名

質問項目	評価選択人数						平均値 (科目別)	
	5	4	3	2	1	N.A		
1 授業概要について	(1) 目標・授業計画・内容は、明確に示されていた。	0	5	2	0	0	0	3.7
	(2) 成績評価の方法は、明確に示されていた。	0	2	5	0	0	0	3.3
2 授業の内容等について	(3) 授業内容は、授業概要に沿っていた。	0	5	2	0	0	0	3.7
	(4) 授業内容は、教養や専門性を高めるものだった。	1	6	0	0	0	0	4.1
	(5) 授業内容は、教育に対する見方や考え方を学べるものだった。	0	0	5	2	0	0	2.7
	(6) 授業内容は、興味・関心を引くものだった。	0	0	6	1	0	0	2.9
3 あなたの授業への取り組みについて	(7) 授業によく出席した。	4	3	0	0	0	0	4.6
	(8) 授業内容をよく理解するために予習や復習をした。	0	1	3	2	1	0	2.6
	(9) 授業中に積極的に発言や質問をした。	0	1	3	1	2	0	2.4
	(10) 教員の説明をよく聞いた。	0	3	3	1	0	0	3.3
	(11) 分からないことや疑問に思ったことは調べた。	1	0	3	2	1	0	2.7
4 教員の授業の進め方について	(12) 学生の理解状況を確認しながら授業を行った。	0	0	5	2	0	0	2.7
	(13) 学生が参加しやすい授業だった。	1	1	5	0	0	0	3.4
	(14) 熱心に指導した。	4	2	1	0	0	0	4.4
	(15) 授業内容を分かりやすく説明した。	0	2	3	2	0	0	3.0
	(16) 教科書や配布資料等の教材は、内容を理解する上で適切だった。	2	4	1	0	0	0	4.1
	(17) 視聴覚機器及び教育用機器の利用は、適切だった。	3	3	1	0	0	0	4.3
	(18) 教員の声は、聞き取りやすかった。	4	2	1	0	0	0	4.4
	(19) 授業の進む速さは、適切だった。	0	1	4	2	0	0	2.9
5 授業に対する満足度	(20) この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。	1	0	4	2	0	0	3.0



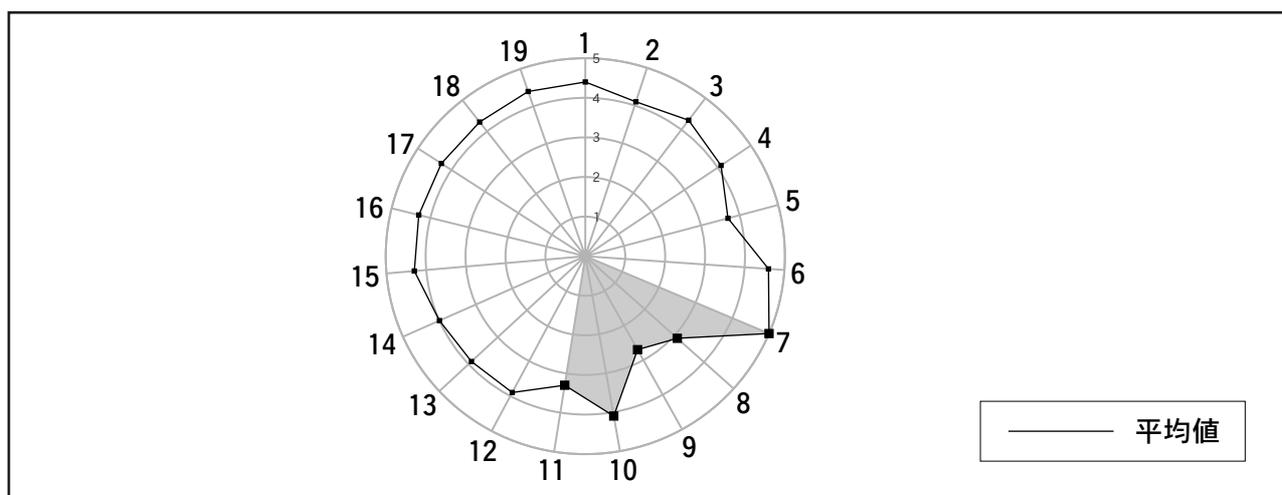
教員のコメント

- ・機器の使用や教材などが適切であったと評価する受講生が多い一方、授業がわかりやすくなかったと考える受講生も多少おり、さらに工夫する必要がある。
- ・毎回講義の最後において質問を求め、また講義内容の定着を計るために5回の課題を課したが、それでも「学生の理解状況を確認しながら授業を行った」と考えていない受講生が多少いるようである。
- ・受講生はおおむね「授業にはよく出た」ようであるが、予習・復習あるいは授業中の質問や疑問をはらすために自ら調べることは必ずしも行わなかったようである。
- ・自由記述欄の(2)には回答がなかった。

授業科目名 博物館概論
 評価実施日 平成20年2月8日
 担当教員名 町田 哲

回答者数 7名

質問項目	評価選択人数						平均値 (科目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
1 授業概要について	(1) 目標・授業計画・内容は、明確に示されていた。	3	4	0	0	0	4.4
	(2) 成績評価の方法は、明確に示されていた。	3	2	2	0	0	4.1
2 授業の内容等について	(3) 授業内容は、授業概要に沿っていた。	4	1	2	0	0	4.3
	(4) 授業内容は、教養や専門性を高めるものだった。	3	3	0	1	0	4.1
	(5) 授業内容は、教育に対する見方や考え方を学べるものだった。	1	3	3	0	0	3.7
	(6) 授業内容は、興味・関心を引くものだった。	4	3	0	0	0	4.6
3 あなたの授業への取り組みについて	(7) 授業によく出席した。	7	0	0	0	0	5.0
	(8) 授業内容をよく理解するために予習や復習をした。	0	4	1	1	1	3.1
	(9) 授業中に積極的に発言や質問をした。	0	1	4	1	1	2.7
	(10) 教員の説明をよく聞いた。	2	4	1	0	0	4.1
	(11) 分からないことや疑問に思ったことは調べた。	2	2	0	2	1	3.3
4 教員の授業の進め方について	(12) 学生の理解状況を確認しながら授業を行った。	1	4	2	0	0	3.9
	(13) 学生が参加しやすい授業だった。	2	3	1	1	0	3.9
	(14) 熱心に指導した。	2	4	0	1	0	4.0
	(15) 授業内容を分かりやすく説明した。	3	3	1	0	0	4.3
	(16) 教科書や配布資料等の教材は、内容を理解する上で適切だった。	3	3	1	0	0	4.3
	(17) 教員の声は、聞き取りやすかった。	2	4	0	0	0	4.3
	(18) 授業の進む速さは、適切だった。	2	4	0	0	0	4.3
	(19) この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。	4	2	1	0	0	4.4
5 授業に対する満足度	(19) この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。	4	2	1	0	0	4.4



教員のコメント

博物館概論では、学芸員としての基本的な資質の育成と、教員としての博物館利用の教育力向上を目標とし、開かれた学習の場としての博物館のあるべき方向・課題を検討している。

アンケートによれば、授業内容や配布教材については、相当程度の評価を得ることができた。博物館学の理論的な側面だけでなく、博物館の実際の活動、また社会の中での博物館の意義を歴史と現状から、具体的に提示したことを反映したものと考える。

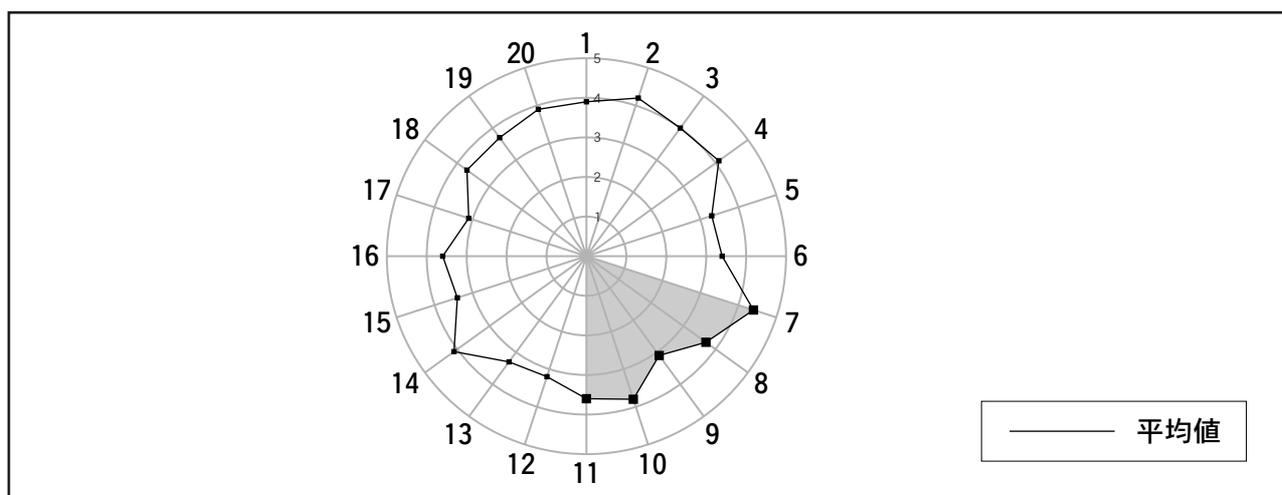
昨年度の講義では、ともすれば一方的な講義形式に終始した面が強く、本年度はこの点を改善するべく、博物館ミニ報告会などを行った。受講生が秋の特別展や冬休み等を利用して、博物館を取材し、全体で発表しようというものである。これについては好評で、学生自身もこれに主体的に参加し、また他分野の博物館の実態、博物館の多様性について多くの関心を持つことができたようである。

しかし、全般的に授業中の発言・質問等については少なく、これを促すような授業者の努力と、受講生の姿勢が必要であると感じる。今後も受講生の意欲を引き出せるような授業に取り組むよう努力したい。

授業科目名 代数学 I
 評価実施日 平成20年 2 月 7 日
 担当教員名 平野 康之

回答者数 25名

質問項目	評価選択人数	評価選択人数						平均値 (科目別)
		5	4	3	2	1	N.A	
1 授業概要について	(1) 目標・授業計画・内容は、明確に示されていた。	7	9	8	1	0	0	3.9
	(2) 成績評価の方法は、明確に示されていた。	11	8	6	0	0	0	4.2
2 授業の内容等について	(3) 授業内容は、授業概要に沿っていた。	7	11	7	0	0	0	4.0
	(4) 授業内容は、教養や専門性を高めるものだった。	11	7	5	2	0	0	4.1
	(5) 授業内容は、教育に対する見方や考え方を学べるものだった。	2	9	8	6	0	0	3.3
	(6) 授業内容は、興味・関心を引くものだった。	3	10	7	4	1	0	3.4
3 あなたの授業への取り組みについて	(7) 授業によく出席した。	13	9	3	0	0	0	4.4
	(8) 授業内容をよく理解するために予習や復習をした。	5	9	10	1	0	0	3.7
	(9) 授業中に積極的に発言や質問をした。	3	5	10	6	1	0	3.1
	(10) 教員の説明をよく聞いた。	8	5	11	1	0	0	3.8
	(11) 分からないことや疑問に思ったことは調べた。	2	13	7	3	0	0	3.6
4 教員の授業の進め方について	(12) 学生の理解状況を確認しながら授業を行った。	5	6	6	6	2	0	3.2
	(13) 学生が参加しやすい授業だった。	5	7	5	7	1	0	3.3
	(14) 熱心に指導した。	10	9	5	1	0	0	4.1
	(15) 授業内容を分かりやすく説明した。	5	8	4	7	1	0	3.4
	(16) 教科書や配布資料等の教材は、内容を理解する上で適切だった。	6	8	7	4	0	0	3.6
	(17) 視聴覚機器及び教育用機器の利用は、適切だった。	1	7	10	3	2	2	3.1
	(18) 教員の声は、聞き取りやすかった。	8	5	9	2	1	0	3.7
	(19) 授業の進む速さは、適切だった。	5	9	9	2	0	0	3.7
5 授業に対する満足度	(20) この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。	8	9	6	2	0	0	3.9



教員のコメント

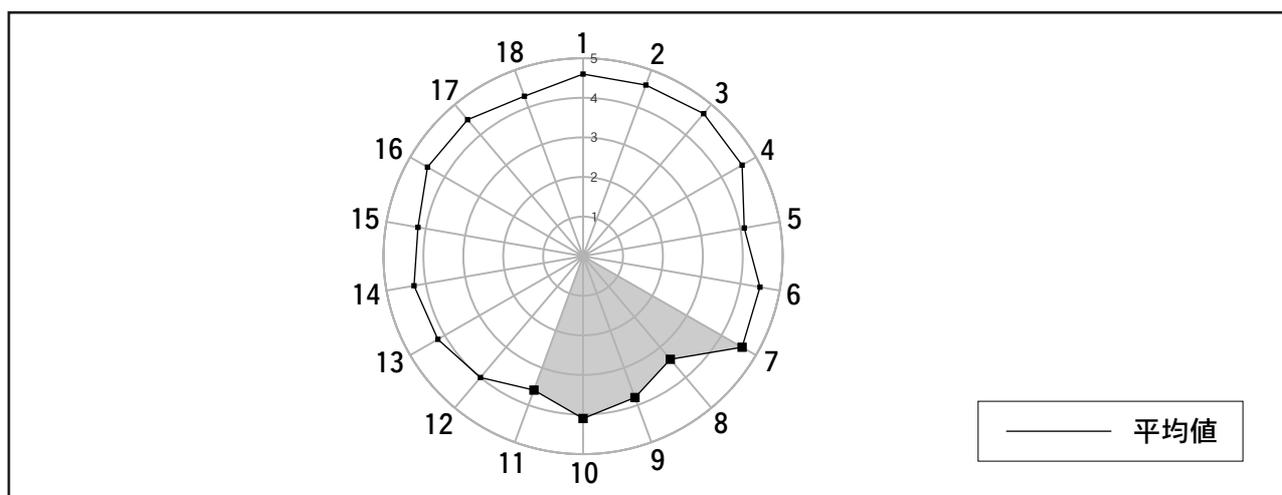
全般的に値が3～5に集中しており、「この授業は自分自身にとって満足できるものであった」という質問項目に対する項目分析(20)では3～5が92%以上を占めており、評価平均値3.9であったので、受講者が概ね、この授業に満足しているものと思われる。

授業概要の評価平均値は目標等の明確さ3.9、成績評価の明確さ4.2といいものであった。授業の内容等については「教養や専門性を高めるものだった」、「興味・関心を引くものだった」の評価平均値がそれぞれ4.1、3.4であったことから、受講生にとって、内容が少しだけ難しいと感じられたのかも知れないが、彼らの能力にある程度あったものが選択できたと思う。受講生の授業への取り組みについては「熱心に指導したこと」に対する評価の平均値が4.1と良かったこと、授業内容を分かりやすく説明したことに対する評価平均値が3.4また「授業によく出席した」、「…予習や復習をした」、「教員の説明をよく聞いた」の評価平均値がそれぞれ4.4、3.7、3.8であり、このように学生が熱心に授業に取り組んでくれたことに対しては感謝したい。授業の進め方については、「熱心に指導した」の評価平均値が4.1であり、他の項目の評価平均もすべて3.1以上であった。視聴覚機器や教育用機器をあまり利用しなかったことは反省すべきかも知れない。受講生が自ら問題を解くことが理解する上で大切であるので、小テストを度々行い、「学生の理解を確認しながら授業を行った」つもりであったが、この項目に対する評価平均値が3.2と意外に低かったことも反省すべきであろう。

授業科目名 幾何学特論
 評価実施日 平成20年2月12日
 担当教員名 松岡 隆

回答者数 14名

質問項目	評価選択人数						平均値 (科目別)	
	5	4	3	2	1	N.A		
1 授業概要について	(1) 目標・授業計画・内容は、明確に示されていた。	10	3	1	0	0	0	4.6
	(2) 成績評価の方法は、明確に示されていた。	9	4	1	0	0	0	4.6
2 授業の内容等について	(3) 授業内容は、授業概要に沿っていた。	10	4	0	0	0	0	4.7
	(4) 授業内容は、教養や専門性を高めるものだった。	9	5	0	0	0	0	4.6
	(5) 授業内容は、教育に対する見方や考え方を学べるものだった。	7	4	1	2	0	0	4.1
	(6) 授業内容は、興味・関心を引くものだった。	9	3	2	0	0	0	4.5
3 あなたの授業への取り組みについて	(7) 授業によく出席した。	9	4	1	0	0	0	4.6
	(8) 授業内容をよく理解するために予習や復習をした。	3	2	7	2	0	0	3.4
	(9) 授業中に積極的に発言や質問をした。	5	3	4	2	0	0	3.8
	(10) 教員の説明をよく聞いた。	6	3	5	0	0	0	4.1
	(11) 分からないことや疑問に思ったことは調べた。	4	3	5	2	0	0	3.6
4 教員の授業の進め方について	(12) 学生の理解状況を確認しながら授業を行った。	6	4	2	2	0	0	4.0
	(13) 学生が参加しやすい授業だった。	7	4	2	1	0	0	4.2
	(14) 熱心に指導した。	9	2	1	2	0	0	4.3
	(15) 授業内容を分かりやすく説明した。	7	3	2	1	0	1	4.2
	(16) 教員の声は、聞き取りやすかった。	8	5	1	0	0	0	4.5
	(17) 授業の進む速さは、適切だった。	9	3	2	0	0	0	4.5
5 授業に対する満足度	(18) この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。	9	1	3	1	0	0	4.3



教員のコメント

平均値が低い(4.0未満)の項目は8, 9, 11であった。これらは、いずれも受講生自身の取り組みに関するものであり、さらなる自学自習が必要となるよう課題を増やすなどの工夫が必要であると考え。

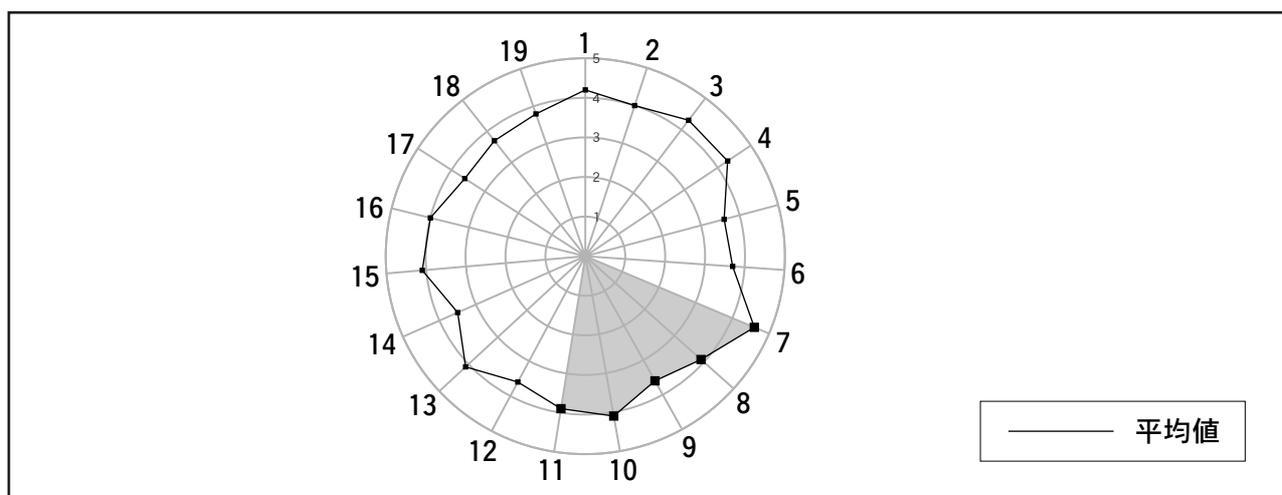
よかったことの欄には以下の記述があった。「身近な自然現象や物理現象についての授業だったので、特に興味をかき立てられました」、「今まで疑問にも感じていなかった現象を数学的に考えることの意義を学ぶことができた」、「太陽の動きを幾何学的に捉える事ができた」、「専門性がたかまった」、「生徒の自主性を尊重するものでよかった」。

改善点欄には以下の記述があった。「問いが明確でなく、何を発問しているのかよく分からなかった。板書をもっと工夫してほしい」、「分からないところは分からなかった」、「専門的ですが、数学的内容が少なかったように思います」。発問がよく分からなかったとのコメントについては、各個人の理解状況をより丁寧に把握する必要があると考える。数学的内容が少なかったとのコメントについては、授業目的が、数学が如何に身近な現象を説明することに役立つかを示すことであるため仕方の無い面もあるが、授業で扱った具体例が示す範囲に止まらないより大きな数学的な枠組みを示すことの検討も必要であると考え。

授業科目名 解析学 I
 評価実施日 平成20年 2 月27日
 担当教員名 成川 公昭

回答者数 22名

質問項目	評価選択人数						平均値 (科目別)	
	5	4	3	2	1	N.A		
1 授業概要について	(1) 目標・授業計画・内容は、明確に示されていた。	7	12	3	0	0	0	4.2
	(2) 成績評価の方法は、明確に示されていた。	6	11	4	0	1	0	4.0
2 授業の内容等について	(3) 授業内容は、授業概要に沿っていた。	10	8	4	0	0	0	4.3
	(4) 授業内容は、教養や専門性を高めるものだった。	11	8	2	1	0	0	4.3
	(5) 授業内容は、教育に対する見方や考え方を学べるものだった。	4	9	7	0	2	0	3.6
	(6) 授業内容は、興味・関心を引くものだった。	7	6	5	3	1	0	3.7
3 あなたの授業への取り組みについて	(7) 授業によく出席した。	14	8	0	0	0	0	4.6
	(8) 授業内容をよく理解するために予習や復習をした。	7	9	4	1	1	0	3.9
	(9) 積極的に実験、実習、実技等に取り組んだ。	5	9	5	0	3	0	3.6
	(10) 教員の説明をよく聞いた。	10	8	1	2	1	0	4.1
	(11) 分からないことや疑問に思ったことは調べた。	6	12	2	0	2	0	3.9
4 教員の授業の進め方について	(12) 学生の理解状況を確かめながら授業を行った。	5	8	6	1	2	0	3.6
	(13) 熱心に指導した。	8	10	3	0	1	0	4.1
	(14) 授業内容を分かりやすく説明した。	5	9	4	1	3	0	3.5
	(15) 教科書や配布資料等の教材は、内容を理解する上で適切だった。	6	11	4	0	0	1	4.1
	(16) 教員の声は、聞き取りやすかった。	8	6	7	1	0	0	4.0
	(17) 与えられた課題のレベルや分量は、適切だった。	6	7	6	1	2	0	3.6
	(18) 安全に対する指導と配慮は、適切だった。	7	6	7	0	2	0	3.7
	(19) この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。	7	7	5	2	1	0	3.8



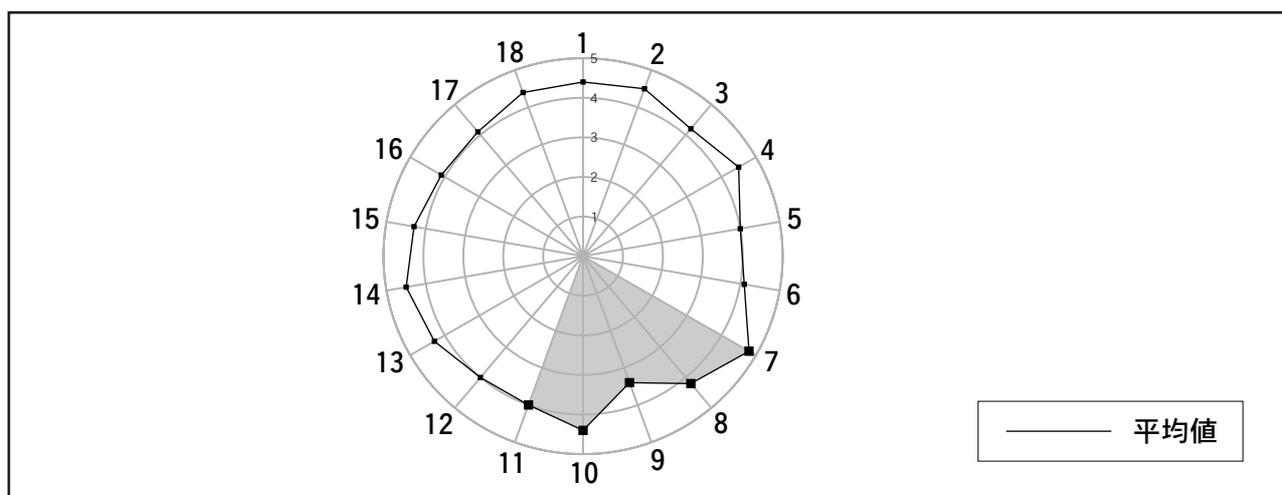
教員のコメント

アンケート結果は全体から見て、評価平均値がすべての項目に亘って3の後半から4点台と一応満足と思われる結果であった。しかし、(14)の「授業内容をわかりやすく説明した」の項目が3.5、(17)の「与えられた課題のレベルや分量は適切だった」の項目が3.6であったのが気にかかる。まだ学部1年生ということで、高校までの授業の進め方から脱却できておらず、より高いレベルを目指して自ら学ぶのが大学生であるとの自覚が未だ形成されていないと思われ非常に残念と感じると共に、今後あらゆる機会に於いてそのような自覚を育てていかなければならないと思っている。これは例年感じられることであるが、そういった中で、本年の場合「授業内容をよく理解するために予習や復習をした」が3.9と例年に比べやや向上しているのは評価に値する。学生の自主性や勉強の不足が取り上げられ、全学を上げてこれを克服しようとしているところであるが、一教科だけではなく、すべてにわたって学内の雰囲気がそのような方向に向くことこそが問題解決への道であり、今後とも地道な努力を続けていかなければならない。アンケート項目6の記述欄に於いては、高度な数学を学べ、詳しく勉強できてよかった、授業をきっかけに勉強するようになった、専門性を高めるものであった、という反面で、授業内容が難しすぎた、もっとわかりやすく教えて欲しかった等の記述があった。限られた時間ではあるが、今後の課題である。

授業科目名 基礎数学Ⅱ
 評価実施日 平成20年2月19日
 担当教員名 齋藤 昇

回答者数 16名

質問項目	評価選択人数						平均値 (科目別)	
	5	4	3	2	1	N.A		
1 授業概要について	(1) 目標・授業計画・内容は、明確に示されていた。	6	10	0	0	0	0	4.4
	(2) 成績評価の方法は、明確に示されていた。	8	8	0	0	0	0	4.5
2 授業の内容等について	(3) 授業内容は、授業概要に沿っていた。	6	7	3	0	0	0	4.2
	(4) 授業内容は、教養や専門性を高めるものだった。	9	6	1	0	0	0	4.5
	(5) 授業内容は、教育に対する見方や考え方を学べるものだった。	6	6	2	2	0	0	4.0
	(6) 授業内容は、興味・関心を引くものだった。	7	6	1	2	0	0	4.1
3 あなたの授業への取り組みについて	(7) 授業によく出席した。	13	2	1	0	0	0	4.8
	(8) 授業内容をよく理解するために予習や復習をした。	7	5	4	0	0	0	4.2
	(9) 授業中に積極的に発言や質問をした。	5	2	5	3	1	0	3.4
	(10) 教員の説明をよく聞いた。	8	6	2	0	0	0	4.4
	(11) 分からないことや疑問に思ったことは調べた。	5	6	3	1	0	1	4.0
4 教員の授業の進め方について	(12) 学生の理解状況を確認しながら授業を行った。	7	4	3	2	0	0	4.0
	(13) 学生が参加しやすい授業だった。	7	7	2	0	0	0	4.3
	(14) 熱心に指導した。	9	6	1	0	0	0	4.5
	(15) 授業内容を分かりやすく説明した。	7	6	2	0	0	1	4.3
	(16) 教員の声は、聞き取りやすかった。	7	5	3	1	0	0	4.1
	(17) 授業の進む速さは、適切だった。	8	4	2	2	0	0	4.1
5 授業に対する満足度	(18) この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。	8	6	2	0	0	0	4.4



教員のコメント

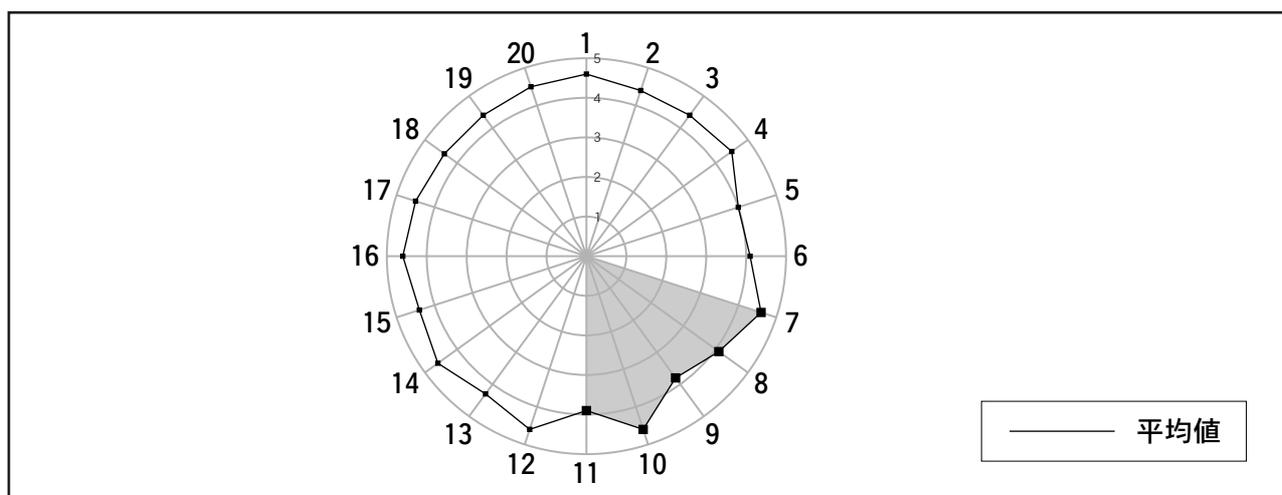
本授業では、高等学校数学と大学数学のつなぎとして、微分・積分学を実施し、高等数学へのスムーズな移行をねらいとした。

授業に対して、「非常にそうである」「かなりそうである」という反応を合わせると、受講生の約80%以上が、授業内容について「教養や専門性を高めるものだった」「興味・関心を引くものだった」、授業の進め方について「学生が参加しやすい授業だった」「熱心に指導した」「授業内容を分かりやすく説明した」、授業に対する満足度について「満足できるものであった」と回答していた。また、教員の指導に対する評定平均値は4.3であった。これらの数値から学生は、授業内容に対して興味・関心を抱き理解を深めた様子がうかがわれた。授業の目標はおおむね達成できたと思われる。

授業科目名 化学Ⅱ
 評価実施日 平成20年2月21日
 担当教員名 今倉 康宏

回答者数 10名

質問項目	評価選択人数						平均値 (科目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
1 授業概要について	(1) 目標・授業計画・内容は、明確に示されていた。	6	4	0	0	0	4.6
	(2) 成績評価の方法は、明確に示されていた。	5	4	1	0	0	4.4
2 授業の内容等について	(3) 授業内容は、授業概要に沿っていた。	5	4	1	0	0	4.4
	(4) 授業内容は、教養や専門性を高めるものだった。	5	5	0	0	0	4.5
	(5) 授業内容は、教育に対する見方や考え方を学べるものだった。	3	4	3	0	0	4.0
	(6) 授業内容は、興味・関心を引くものだった。	4	3	3	0	0	4.1
3 あなたの授業への取り組みについて	(7) 授業によく出席した。	6	4	0	0	0	4.6
	(8) 授業内容をよく理解するために予習や復習をした。	3	6	0	1	0	4.1
	(9) 授業中に積極的に発言や質問をした。	2	5	2	1	0	3.8
	(10) 教員の説明をよく聞いた。	6	4	0	0	0	4.6
	(11) 分からないことや疑問に思ったことは調べた。	3	4	2	1	0	3.9
4 教員の授業の進め方について	(12) 学生の理解状況を確認しながら授業を行った。	6	4	0	0	0	4.6
	(13) 学生が参加しやすい授業だった。	4	5	1	0	0	4.3
	(14) 熱心に指導した。	7	2	1	0	0	4.6
	(15) 授業内容を分かりやすく説明した。	5	4	1	0	0	4.4
	(16) 教科書や配布資料等の教材は、内容を理解する上で適切だった。	6	4	0	0	0	4.6
	(17) 視聴覚機器及び教育用機器の利用は、適切だった。	6	3	1	0	0	4.5
	(18) 教員の声は、聞き取りやすかった。	5	4	1	0	0	4.4
	(19) 授業の進む速さは、適切だった。	5	4	1	0	0	4.4
5 授業に対する満足度	(20) この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。	5	5	0	0	0	4.5



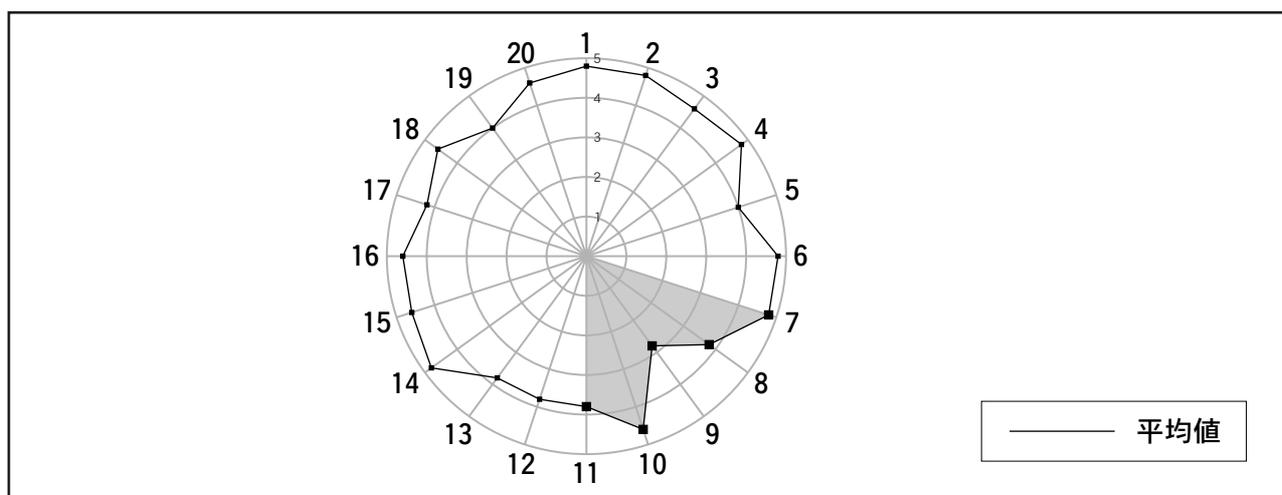
教員のコメント

授業概要：2項目の評価は、平均4.5と高い評価であり、今後とも高い評価を得る努力をする。
 授業内容：4項目の評価は、平均4.3と高い評価を得ているが、教育に対する見方や考え方を学べるという項目に関して4.0であり、4.5の評価を目指して更なる工夫をする。
 学生の授業への取組：5項目の平均評価は、平均4.3と高い評価を得ているが、積極的に発言や質問したという項目に関して3.8、わからない、疑問に思ったことを調べるという項目に関して3.9である。4.5の評価を目指して、これらの項目に関して学生が発言できるような授業を展開し、学生の意識を高めるように努力をする。
 授業の進め方：8項目の評価は、平均4.5と高い評価であり、今後とも高い評価を得る努力をする。
 授業に対する満足度：4.5の評価を得た。今後とも高い評価を得る努力をする。

授業科目名 生物学Ⅱ
 評価実施日 平成20年2月18日
 担当教員名 工藤 慎一

回答者数 5名

質問項目	評価選択人数						平均値 (科目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
1 授業概要について	(1) 目標・授業計画・内容は、明確に示されていた。	4	1	0	0	0	4.8
	(2) 成績評価の方法は、明確に示されていた。	4	1	0	0	0	4.8
2 授業の内容等について	(3) 授業内容は、授業概要に沿っていた。	3	2	0	0	0	4.6
	(4) 授業内容は、教養や専門性を高めるものだった。	4	1	0	0	0	4.8
	(5) 授業内容は、教育に対する見方や考え方を学べるものだった。	1	3	1	0	0	4.0
	(6) 授業内容は、興味・関心を引くものだった。	3	1	0	0	0	4.8
3 あなたの授業への取り組みについて	(7) 授業によく出席した。	4	1	0	0	0	4.8
	(8) 授業内容をよく理解するために予習や復習をした。	1	2	2	0	0	3.8
	(9) 授業中に積極的に発言や質問をした。	1	0	2	1	1	2.8
	(10) 教員の説明をよく聞いた。	3	2	0	0	0	4.6
	(11) 分からないことや疑問に思ったことは調べた。	1	2	2	0	0	3.8
4 教員の授業の進め方について	(12) 学生の理解状況を確かめながら授業を行った。	2	0	3	0	0	3.8
	(13) 学生が参加しやすい授業だった。	2	1	1	1	0	3.8
	(14) 熱心に指導した。	4	1	0	0	0	4.8
	(15) 授業内容を分かりやすく説明した。	3	2	0	0	0	4.6
	(16) 教科書や配布資料等の教材は、内容を理解する上で適切だった。	3	2	0	0	0	4.6
	(17) 視聴覚機器及び教育用機器の利用は、適切だった。	2	2	1	0	0	4.2
	(18) 教員の声は、聞き取りやすかった。	3	2	0	0	0	4.6
	(19) 授業の進む速さは、適切だった。	2	2	0	1	0	4.0
5 授業に対する満足度	(20) この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。	3	2	0	0	0	4.6



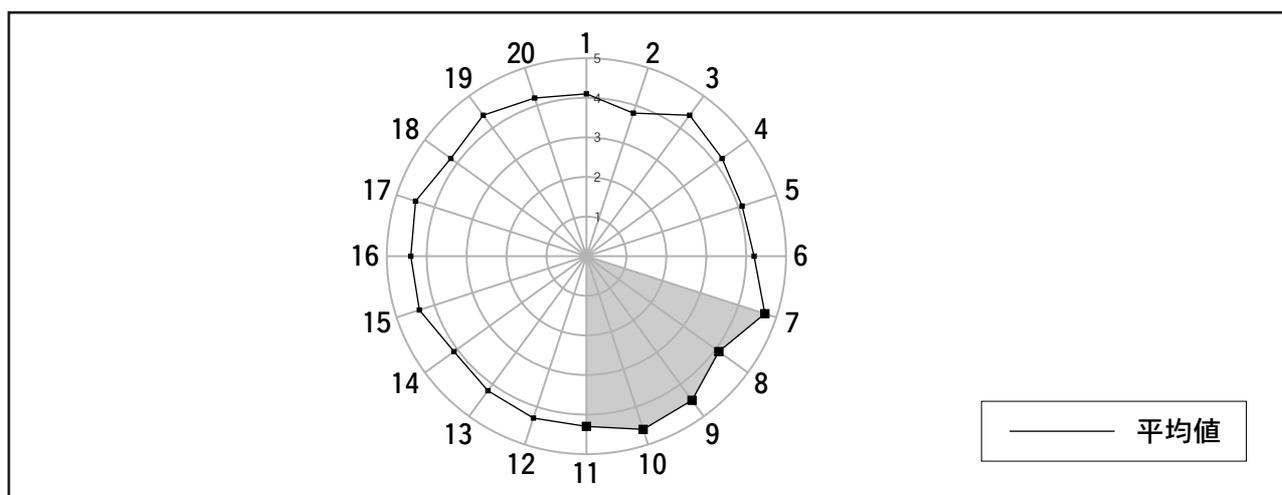
教員のコメント

(受講者自身の取り組みに関する一部項目を除き) 各項目の評点は低くなく、授業内容や方法に大きな問題は無いと考えている。

授業科目名 地学実験Ⅱ
 評価実施日 平成20年2月14日
 担当教員名 小澤 大成

回答者数 14名

質問項目	評価選択人数						平均値 (科目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
1 授業概要について	(1) 目標・授業計画・内容は、明確に示されていた。	3	10	1	0	0	4.1
	(2) 成績評価の方法は、明確に示されていた。	3	5	6	0	0	3.8
2 授業の内容等について	(3) 授業内容は、授業概要に沿っていた。	6	8	0	0	0	4.4
	(4) 授業内容は、教養や専門性を高めるものだった。	5	7	2	0	0	4.2
	(5) 授業内容は、教育に対する見方や考え方を学べるものだった。	5	6	2	1	0	4.1
	(6) 授業内容は、興味・関心を引くものだった。	5	7	2	0	0	4.2
3 あなたの授業への取り組みについて	(7) 授業によく出席した。	12	1	0	1	0	4.7
	(8) 授業内容をよく理解するために予習や復習をした。	5	6	3	0	0	4.1
	(9) 積極的に実験、実習、実技等に取り組んだ。	10	2	1	1	0	4.5
	(10) 教員の説明をよく聞いた。	10	3	1	0	0	4.6
	(11) 分からないことや疑問に思ったことは調べた。	6	6	2	0	0	4.3
4 教員の授業の進め方について	(12) 学生の理解状況を確かめながら授業を行った。	6	6	2	0	0	4.3
	(13) 熱心に指導した。	5	7	2	0	0	4.2
	(14) 授業内容を分かりやすく説明した。	5	6	2	1	0	4.1
	(15) 教科書や配布資料等の教材は、内容を理解する上で適切だった。	7	6	1	0	0	4.4
	(16) 設備、器材、用具等の利用は、適切だった。	6	7	1	0	0	4.4
	(17) 教員の声は、聞き取りやすかった。	8	5	1	0	0	4.5
	(18) 与えられた課題のレベルや分量は、適切だった。	6	6	1	1	0	4.2
	(19) 安全に対する指導と配慮は、適切だった。	7	6	1	0	0	4.4
5 授業に対する満足度	(20) この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。	4	9	1	0	0	4.2



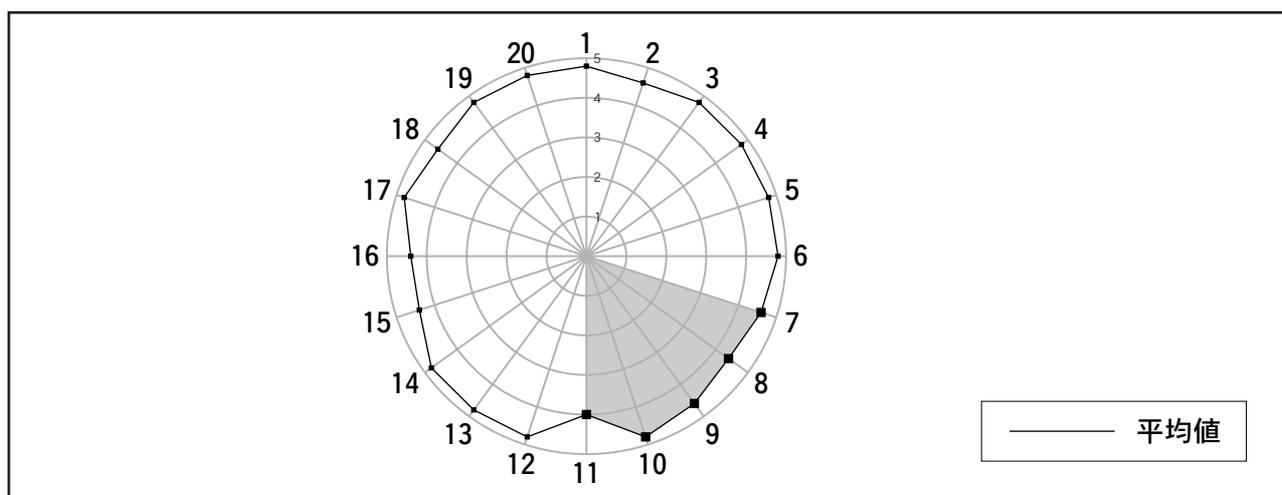
教員のコメント

1. 授業概要については、「成績評価の方法が明確に示されていた」に対し、平均3.8と若干低い評価であった。
 2. 授業の内容等については、概ね4以上の評価であったが、「授業内容は、教育に対する見方や考え方を学べるものだった」が4.1と若干低い評価であった。
 3. 「あなたの授業の取り組みについて」は、概ね4以上であるが、「授業内容を良く理解するために予習や復習をした」が4.1と若干低い評価であった。
 4. 教員の授業の進め方については、概ね4以上であるが、「授業内容をわかりやすく説明した」が4.1と若干低い評価であった。
 5. 授業に対する満足度は4.2でまずまずの水準である。
- 受講生からのコメントは、良かった点として「光学顕微鏡の使い方が学べた」「岩石・鉱物の判別が科学的にできるようになった」「専門的な知識が増えた」等であった。改善すべき点として「薄片作りでの指導を密に」「指示をもう少し多く」という指摘があった。
- 本年度は、評価調査を反映し、「開始時に成績評価の方法を具体的に示す」「学生に対する支援をより多く行う」等の改善を行い、授業をよりものにしていきたい。

授業科目名 絵画材料研究
 評価実施日 平成20年2月14日
 担当教員名 鈴木 久人

回答者数 5名

質問項目	評価選択人数	評価選択人数						平均値 (科目別)
		5	4	3	2	1	N.A	
1 授業概要について	(1) 目標・授業計画・内容は、明確に示されていた。	4	1	0	0	0	0	4.8
	(2) 成績評価の方法は、明確に示されていた。	3	2	0	0	0	0	4.6
2 授業の内容等について	(3) 授業内容は、授業概要に沿っていた。	4	1	0	0	0	0	4.8
	(4) 授業内容は、教養や専門性を高めるものだった。	4	1	0	0	0	0	4.8
	(5) 授業内容は、教育に対する見方や考え方を学べるものだった。	4	1	0	0	0	0	4.8
	(6) 授業内容は、興味・関心を引くものだった。	4	1	0	0	0	0	4.8
3 あなたの授業への取り組みについて	(7) 授業によく出席した。	4	0	1	0	0	0	4.6
	(8) 授業内容をよく理解するために予習や復習をした。	2	3	0	0	0	0	4.4
	(9) 積極的に実験、実習、実技等に取り組んだ。	3	2	0	0	0	0	4.6
	(10) 教員の説明をよく聞いた。	4	1	0	0	0	0	4.8
	(11) 分からないことや疑問に思ったことは調べた。	2	1	2	0	0	0	4.0
4 教員の授業の進め方について	(12) 学生の理解状況を確認しながら授業を行った。	4	1	0	0	0	0	4.8
	(13) 熱心に指導した。	4	1	0	0	0	0	4.8
	(14) 授業内容を分かりやすく説明した。	4	1	0	0	0	0	4.8
	(15) 教科書や配布資料等の教材は、内容を理解する上で適切だった。	3	1	1	0	0	0	4.4
	(16) 設備、器材、用具等の利用は、適切だった。	3	1	1	0	0	0	4.4
	(17) 教員の声は、聞き取りやすかった。	4	1	0	0	0	0	4.8
	(18) 与えられた課題のレベルや分量は、適切だった。	3	2	0	0	0	0	4.6
	(19) 安全に対する指導と配慮は、適切だった。	4	1	0	0	0	0	4.8
5 授業に対する満足度	(20) この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。	4	1	0	0	0	0	4.8



教員のコメント

本授業は支持体や絵画材料となる様々な素材を実際に扱い、研究し絵画の表現の幅を広げ、また教育現場での教材開発能力の向上を目的とした。

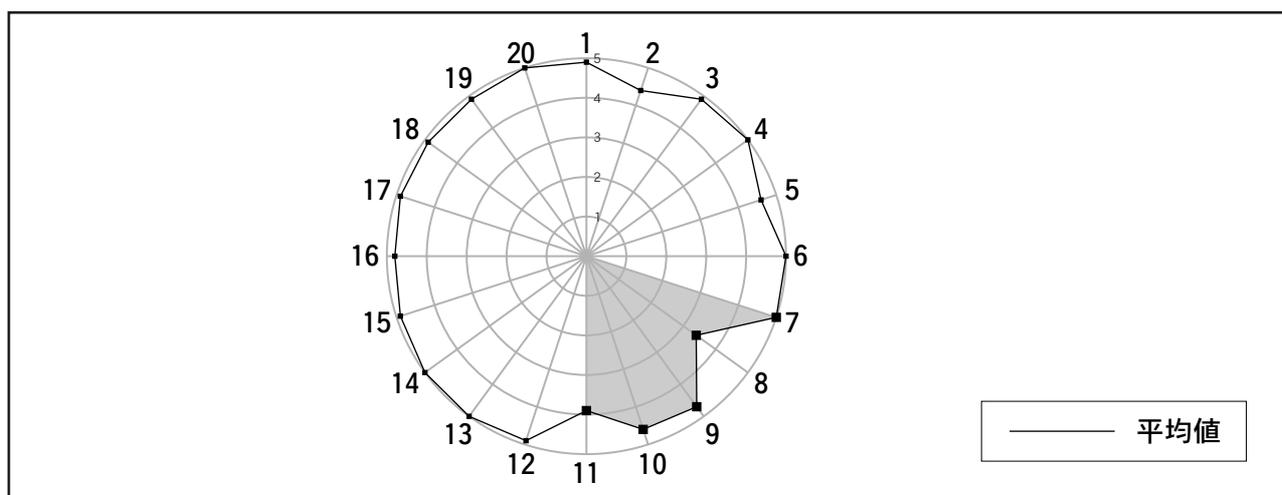
概ね、高い評価と言っていいただろう。特にこの授業の懸案であったテンペラ制作には授業時間数が少ないというこれまでの学生の反応が改善された点は授業担当者としては満足できる結果である。テンペラ制作という実習内容はそのまま、ただし制作重視とせず材料に対する理解という点に重点を置いた内容にしたため改善が見られたと考えられる。今後、よりこの点の改善を図り、絵画材料に対する知識の獲得とあわせて短時間でも制作の達成感が得られるテンペラ技法の開発も目指したい。

問21、問22でもテンペラ制作実習を好意的に記述している。ただ5人中2人が無記入だった点が気になる。

授業科目名 彫刻 I
 評価実施日 平成20年 2 月18日
 担当教員名 長岡 強

回答者数 9 名

質問項目	評価選択人数						平均値 (科目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
1 授業概要について	(1) 目標・授業計画・内容は、明確に示されていた。	8	1	0	0	0	4.9
	(2) 成績評価の方法は、明確に示されていた。	4	5	0	0	0	4.4
2 授業の内容等について	(3) 授業内容は、授業概要に沿っていた。	8	1	0	0	0	4.9
	(4) 授業内容は、教養や専門性を高めるものだった。	9	0	0	0	0	5.0
	(5) 授業内容は、教育に対する見方や考え方を学べるものだった。	6	2	1	0	0	4.6
	(6) 授業内容は、興味・関心を引くものだった。	9	0	0	0	0	5.0
3 あなたの授業への取り組みについて	(7) 授業によく出席した。	9	0	0	0	0	5.0
	(8) 授業内容をよく理解するために予習や復習をした。	1	2	6	0	0	3.4
	(9) 積極的に実験、実習、実技等に取り組んだ。	6	3	0	0	0	4.7
	(10) 教員の説明をよく聞いた。	5	4	0	0	0	4.6
	(11) 分からないことや疑問に思ったことは調べた。	3	3	2	1	0	3.9
4 教員の授業の進め方について	(12) 学生の理解状況を確かめながら授業を行った。	8	1	0	0	0	4.9
	(13) 熱心に指導した。	9	0	0	0	0	5.0
	(14) 授業内容を分かりやすく説明した。	9	0	0	0	0	5.0
	(15) 教科書や配布資料等の教材は、内容を理解する上で適切だった。	8	1	0	0	0	4.9
	(16) 設備、器材、用具等の利用は、適切だった。	7	2	0	0	0	4.8
	(17) 教員の声は、聞き取りやすかった。	8	1	0	0	0	4.9
	(18) 与えられた課題のレベルや分量は、適切だった。	8	1	0	0	0	4.9
	(19) 安全に対する指導と配慮は、適切だった。	8	1	0	0	0	4.9
5 授業に対する満足度	(20) この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。	9	0	0	0	0	5.0



教員のコメント

受講生は、わずか9名のため、指導が徹底し、どの評価項目も肯定的な評価を得た。全員、石膏やプラスチックの材料を扱うのが初めての体験であり、大変意欲的な取り組みがみられた。受講生にとって十分満足のいく授業であったようだ。

この授業では、粘土による原型制作に加えてプラスチックの成型過程に長時間を要し、正規の授業時間だけでは作品は完成しない。

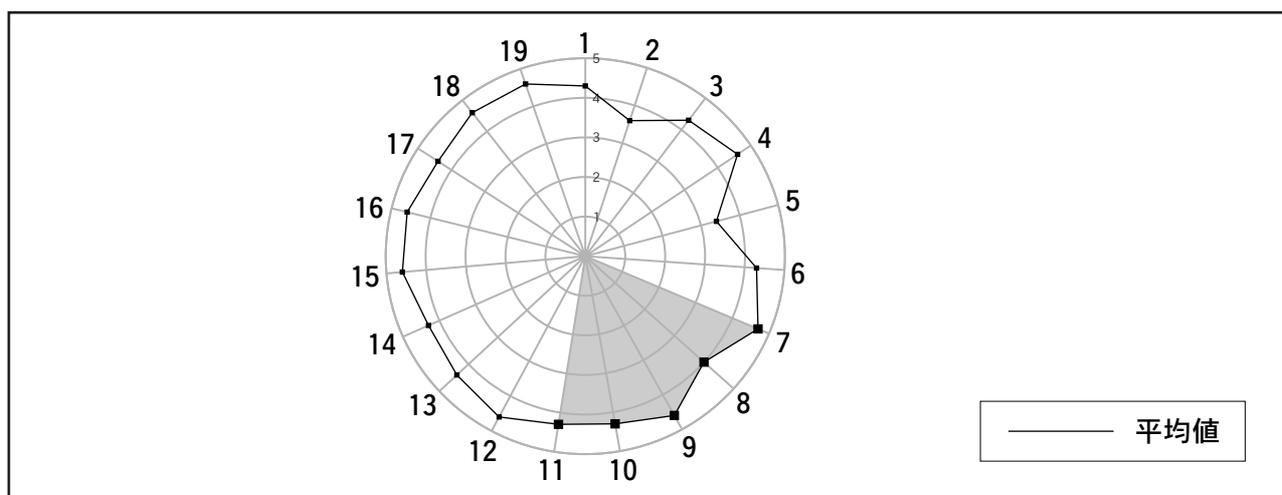
受講生にとっては、かなりのオーバーワークを強いるけれども、塑造制作の基幹授業として定着させていきたい。

今後さらに充実した授業となるように授業改善を図っていきたいと考える。

授業科目名 構成・デザインⅡ
 評価実施日 平成20年2月7日
 担当教員名 松島 正矩

回答者数 7名

質問項目	評価選択人数						平均値 (科目別)	
	5	4	3	2	1	N.A		
1 授業概要について	(1) 目標・授業計画・内容は、明確に示されていた。	3	3	1	0	0	0	4.3
	(2) 成績評価の方法は、明確に示されていた。	1	3	2	1	0	0	3.6
2 授業の内容等について	(3) 授業内容は、授業概要に沿っていた。	3	3	1	0	0	0	4.3
	(4) 授業内容は、教養や専門性を高めるものだった。	5	1	1	0	0	0	4.6
	(5) 授業内容は、教育に対する見方や考え方を学べるものだった。	2	0	4	1	0	0	3.4
	(6) 授業内容は、興味・関心を引くものだった。	4	1	2	0	0	0	4.3
3 あなたの授業への取り組みについて	(7) 授業によく出席した。	6	0	1	0	0	0	4.7
	(8) 授業内容をよく理解するために予習や復習をした。	3	1	3	0	0	0	4.0
	(9) 積極的に実験、実習、実技等に取り組んだ。	5	1	1	0	0	0	4.6
	(10) 教員の説明をよく聞いた。	3	3	1	0	0	0	4.3
	(11) 分からないことや疑問に思ったことは調べた。	4	1	2	0	0	0	4.3
4 教員の授業の進め方について	(12) 学生の理解状況を確かめながら授業を行った。	5	1	1	0	0	0	4.6
	(13) 熱心に指導した。	4	2	1	0	0	0	4.4
	(14) 授業内容を分かりやすく説明した。	3	3	1	0	0	0	4.3
	(15) 設備、器材、用具等の利用は、適切だった。	5	1	1	0	0	0	4.6
	(16) 教員の声は、聞き取りやすかった。	5	1	1	0	0	0	4.6
	(17) 与えられた課題のレベルや分量は、適切だった。	4	2	1	0	0	0	4.4
	(18) 安全に対する指導と配慮は、適切だった。	5	1	1	0	0	0	4.6
5 授業に対する満足度	(19) この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。	5	1	1	0	0	0	4.6



教員のコメント

この授業は、美術の2年次の学生全員と留学生1名が受講してくれた。この学年は必修科目の出席の悪い学生が複数名いて、全員が順調に卒業できるかどうか危ぶまれているような状態なのであるが、この授業に関しては、全員が予定どおりの授業内容をこなすことができ、順調に成果をあげることができたと感じている。

アンケート集計結果で気になるのは、点数の悪い2番、5番の項目である。5番に関しては、この授業は制作に重点を置いているため仕方ないと考えているのであるが、2番の成績評価の方法に関しては授業中に何度か触れる必要があると思い知らされた。

19番の項目からは、大部分の学生がこの授業に満足してくれたことがうかがえるので、何とかよい評価をもらえたと思っている。

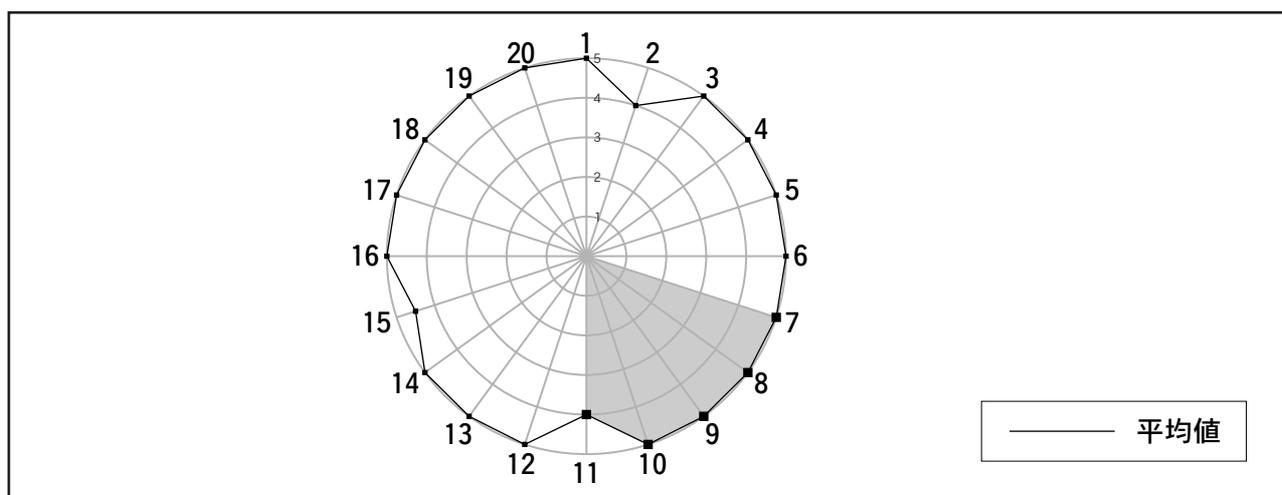
学生のコメント3例を以下に付記する。

- ・実践的に習いながら、自分の作品を制作できたのがよかった。
- ・わからないことがあると、すぐに先生が教えてくれたり、調べてくれたりした。
- ・アプリケーションの使い方がとてもよく理解でき、おもしろかった。

授業科目名 構成・デザイン特別演習
 評価実施日 平成20年3月3日
 担当教員名 内藤 隆

回答者数 2名

質問項目	評価選択人数	評価選択人数						平均値 (科目別)
		5	4	3	2	1	N.A	
1 授業概要について	(1) 目標・授業計画・内容は、明確に示されていた。	2	0	0	0	0	0	5.0
	(2) 成績評価の方法は、明確に示されていた。	0	2	0	0	0	0	4.0
2 授業の内容等について	(3) 授業内容は、授業概要に沿っていた。	2	0	0	0	0	0	5.0
	(4) 授業内容は、教養や専門性を高めるものだった。	2	0	0	0	0	0	5.0
	(5) 授業内容は、教育に対する見方や考え方を学べるものだった。	2	0	0	0	0	0	5.0
	(6) 授業内容は、興味・関心を引くものだった。	2	0	0	0	0	0	5.0
3 あなたの授業への取り組みについて	(7) 授業によく出席した。	2	0	0	0	0	0	5.0
	(8) 授業内容をよく理解するために予習や復習をした。	2	0	0	0	0	0	5.0
	(9) 積極的に実験、実習、実技等に取り組んだ。	2	0	0	0	0	0	5.0
	(10) 教員の説明をよく聞いた。	2	0	0	0	0	0	5.0
	(11) 分からないことや疑問に思ったことは調べた。	1	0	1	0	0	0	4.0
4 教員の授業の進め方について	(12) 学生の理解状況を確認しながら授業を行った。	2	0	0	0	0	0	5.0
	(13) 熱心に指導した。	2	0	0	0	0	0	5.0
	(14) 授業内容を分かりやすく説明した。	2	0	0	0	0	0	5.0
	(15) 教科書や配布資料等の教材は、内容を理解する上で適切だった。	1	1	0	0	0	0	4.5
	(16) 設備、器材、用具等の利用は、適切だった。	2	0	0	0	0	0	5.0
	(17) 教員の声は、聞き取りやすかった。	2	0	0	0	0	0	5.0
	(18) 与えられた課題のレベルや分量は、適切だった。	2	0	0	0	0	0	5.0
	(19) 安全に対する指導と配慮は、適切だった。	2	0	0	0	0	0	5.0
5 授業に対する満足度	(20) この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。	2	0	0	0	0	0	5.0



教員のコメント

本授業は技術講座の尾崎教授との協働により運営される授業で、内容は木材を素材とした小型家具のデザインとその制作である。条件として、加湿熱によって加工された曲げ材を使用する事となっており、この曲げ加工も各自で行っている。

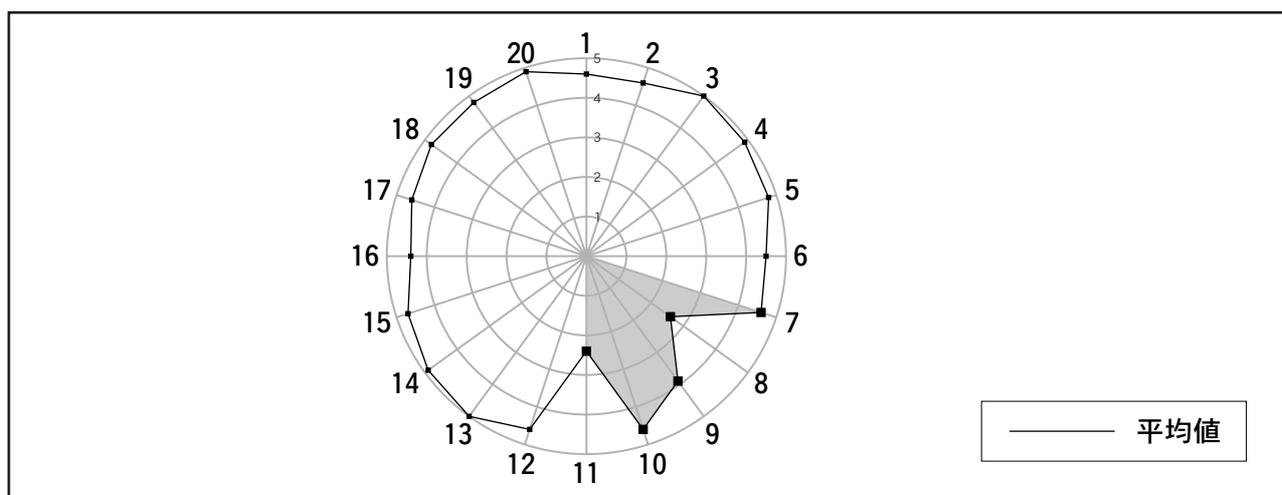
本年度の評価アンケートでは概ね良い点数を頂いているが、「成績評価の方法明示」「資料配布物が理解に適切だった」「判らないところは調べた」の3項目が若干低い。成績評価方法については、出席、制作状況及び作品による採点と明記してあるが、基本的に美術、特に作品制作を主な内容とする授業には「判りやすい評価基準」は示しにくいと考える。

「資料配布物」については、基本的に課題票のみを配布し、他は素材や機材を前に実演する方法で伝えている。図法などについては1年次で履修済みのはずの「構成・デザインI」でプリントを配布しているため特に用意しなかった。今回、珍しく大学院からの履修があったため、この要望があったものと考えられる。履修者の顔ぶれを見て、プリントの準備を考えたい。「判らないところは・・・」という部分は、受講者自身の自己評価であるが、これについては概ね厳しい傾向がある。当方から見てると、各自良く工夫し知恵を絞って作業に臨んでくれており、何も問題は無い。自由記述としては「良かった事」が1件述べられていたが、「改善点の要望」が残念ながら無かった。

授業科目名 体育経営管理学Ⅰ・Ⅱ
 評価実施日 平成20年2月18日
 担当教員名 藤田 雅文

回答者数 8名

質問項目	評価選択人数						平均値 (科目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
1 授業概要について	(1) 目標・授業計画・内容は、明確に示されていた。	5	3	0	0	0	4.6
	(2) 成績評価の方法は、明確に示されていた。	5	3	0	0	0	4.6
2 授業の内容等について	(3) 授業内容は、授業概要に沿っていた。	8	0	0	0	0	5.0
	(4) 授業内容は、教養や専門性を高めるものだった。	7	1	0	0	0	4.9
	(5) 授業内容は、教育に対する見方や考え方を学べるものだった。	6	2	0	0	0	4.8
	(6) 授業内容は、興味・関心を引くものだった。	5	2	1	0	0	4.5
3 あなたの授業への取り組みについて	(7) 授業によく出席した。	5	3	0	0	0	4.6
	(8) 授業内容をよく理解するために予習や復習をした。	0	1	4	2	1	2.6
	(9) 授業中に積極的に発言や質問をした。	2	4	1	1	0	3.9
	(10) 教員の説明をよく聞いた。	5	3	0	0	0	4.6
	(11) 分からないことや疑問に思ったことは調べた。	0	0	4	3	1	2.4
4 教員の授業の進め方について	(12) 学生の理解状況を確かめながら授業を行った。	5	3	0	0	0	4.6
	(13) 学生が参加しやすい授業だった。	8	0	0	0	0	5.0
	(14) 熱心に指導した。	7	1	0	0	0	4.9
	(15) 授業内容を分かりやすく説明した。	6	0	1	0	0	4.7
	(16) 教科書や配布資料等の教材は、内容を理解する上で適切だった。	4	2	1	0	0	4.4
	(17) 視聴覚機器及び教育用機器の利用は、適切だった。	5	3	0	0	0	4.6
	(18) 教員の声は、聞き取りやすかった。	6	2	0	0	0	4.8
	(19) 授業の進む速さは、適切だった。	6	2	0	0	0	4.8
5 授業に対する満足度	(20) この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。	7	1	0	0	0	4.9



教員のコメント

項目ごとの平均値は、以下の通りである。授業に対する満足度が4.88であることから、総合的には高い評価を得たと考えている。

- | | |
|---------------------------|------------------------|
| 1 授業概要について (4.63) | 4 教員の授業の進め方について (4.73) |
| 2 授業の内容等について (4.78) | 5 授業に対する満足度 (4.88) |
| 3 あなたの授業への取り組みについて (3.63) | |

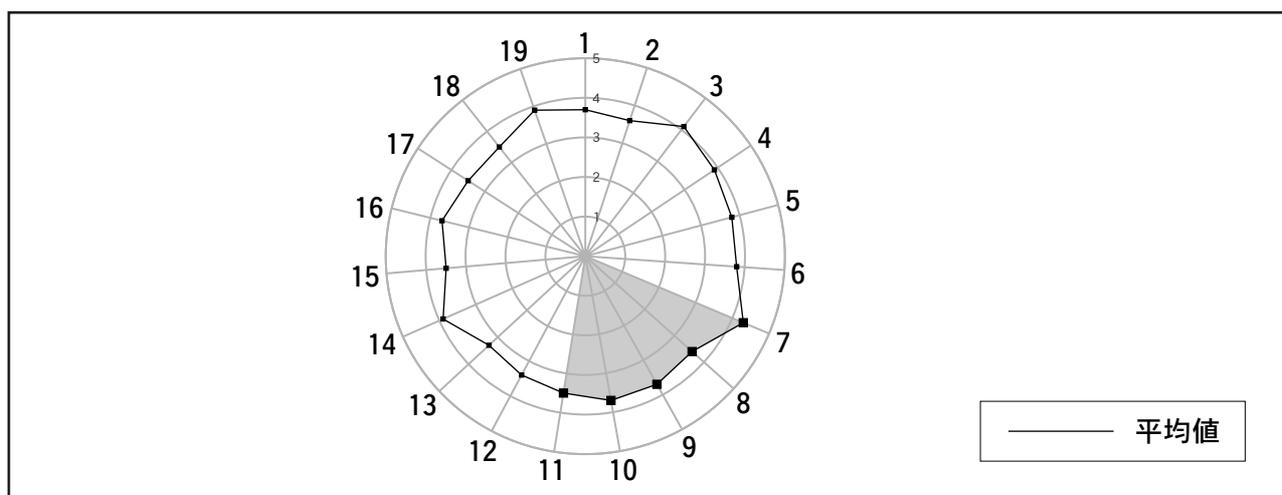
「この授業でよかったこと」について、8名中7名が回答しており、その内容は以下の通りである。
 「将来のためになった。」「幅広い教養を身につけられた。」「分かりやすく実践的だった。」「運動部活動の運営について詳しく知ることができた。」「教員としてのスポーツの関わり方を学べた。」「専門性が高まる授業で分かりやすかった。」「クラブ・運動部活動について多くの知識を得ることができた。」

今後は、予習・復習を促すような小テストやレポートの課題提示などに取り組みたい。

授業科目名 運動学Ⅰ・Ⅱ
 評価実施日 平成20年3月6日
 担当教員名 乾 信之

回答者数 10名

質問項目	評価選択人数						平均値 (科目別)	
	5	4	3	2	1	N.A		
1 授業概要について	(1) 目標・授業計画・内容は、明確に示されていた。	2	5	1	2	0	0	3.7
	(2) 成績評価の方法は、明確に示されていた。	1	6	2	0	1	0	3.6
2 授業の内容等について	(3) 授業内容は、授業概要に沿っていた。	5	3	0	2	0	0	4.1
	(4) 授業内容は、教養や専門性を高めるものだった。	3	5	0	2	0	0	3.9
	(5) 授業内容は、教育に対する見方や考え方を学べるものだった。	3	4	2	0	1	0	3.8
	(6) 授業内容は、興味・関心を引くものだった。	3	5	0	1	1	0	3.8
3 あなたの授業への取り組みについて	(7) 授業によく出席した。	4	5	1	0	0	0	4.3
	(8) 授業内容をよく理解するために予習や復習をした。	2	4	2	2	0	0	3.6
	(9) 授業中に積極的に発言や質問をした。	2	3	5	0	0	0	3.7
	(10) 教員の説明をよく聞いた。	2	6	0	1	1	0	3.7
	(11) 分からないことや疑問に思ったことは調べた。	3	3	2	0	2	0	3.5
4 教員の授業の進め方について	(12) 学生の理解状況を確認しながら授業を行った。	0	6	2	2	0	0	3.4
	(13) 学生が参加しやすい授業だった。	1	5	2	0	2	0	3.3
	(14) 熱心に指導した。	2	6	1	1	0	0	3.9
	(15) 授業内容を分かりやすく説明した。	2	4	2	1	1	0	3.5
	(16) 教科書や配布資料等の教材は、内容を理解する上で適切だった。	2	5	2	0	1	0	3.7
	(17) 教員の声は、聞き取りやすかった。	1	4	4	1	0	0	3.5
	(18) 授業の進む速さは、適切だった。	0	7	1	2	0	0	3.5
	(19) この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。	2	6	1	1	0	0	3.9
5 授業に対する満足度	(19) この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。	2	6	1	1	0	0	3.9



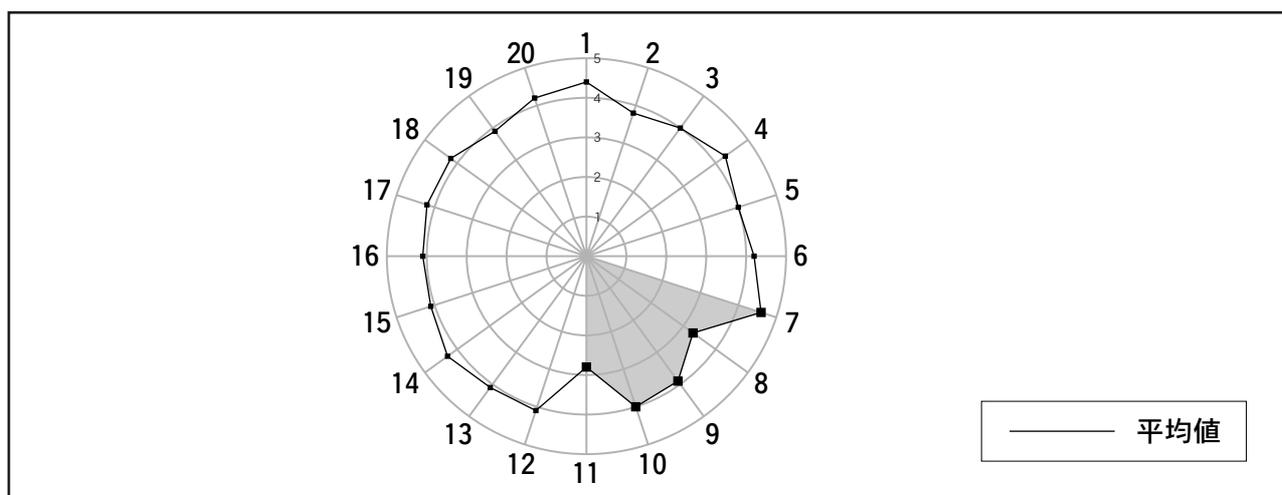
教員のコメント

例年入試時期には講義間隔がしばしば2週間開くことになるが、海外先進研究によって、運動学Ⅱは集中講義になり、例年よりも効率よく講義することができた。しかしながら、4日間の集中講義に対して集中力を持続できない受講生も存在し、かつてなかった低い評価が授業内容と授業の進め方にみられた。おそらく、低い評価は低い得点の受講生によってもたらされたと思われる（テスト結果：Ⅰが200点満点中52－188点であり、Ⅱが53－131点であった）。したがって、講義者には集中講義は効率的であったが、受講生には必ずしも好ましい結果をもたらさなかった。

授業科目名 バイオメカニクス
 評価実施日 平成20年2月20日
 担当教員名 松井 敦典

回答者数 10名

質問項目	評価選択人数	評価選択人数						平均値 (科目別)
		5	4	3	2	1	N.A	
1 授業概要について	(1) 目標・授業計画・内容は、明確に示されていた。	4	6	0	0	0	0	4.4
	(2) 成績評価の方法は、明確に示されていた。	1	6	3	0	0	0	3.8
2 授業の内容等について	(3) 授業内容は、授業概要に沿っていた。	3	4	3	0	0	0	4.0
	(4) 授業内容は、教養や専門性を高めるものだった。	4	5	1	0	0	0	4.3
	(5) 授業内容は、教育に対する見方や考え方を学べるものだった。	3	4	3	0	0	0	4.0
	(6) 授業内容は、興味・関心を引くものだった。	4	4	2	0	0	0	4.2
3 あなたの授業への取り組みについて	(7) 授業によく出席した。	7	2	1	0	0	0	4.6
	(8) 授業内容をよく理解するために予習や復習をした。	0	4	5	1	0	0	3.3
	(9) 授業中に積極的に発言や質問をした。	2	5	3	0	0	0	3.9
	(10) 教員の説明をよく聞いた。	2	6	2	0	0	0	4.0
	(11) 分からないことや疑問に思ったことは調べた。	0	1	7	1	1	0	2.8
4 教員の授業の進め方について	(12) 学生の理解状況を確かめながら授業を行った。	3	5	2	0	0	0	4.1
	(13) 学生が参加しやすい授業だった。	3	5	2	0	0	0	4.1
	(14) 熱心に指導した。	4	5	1	0	0	0	4.3
	(15) 授業内容を分かりやすく説明した。	2	7	1	0	0	0	4.1
	(16) 教科書や配布資料等の教材は、内容を理解する上で適切だった。	4	3	3	0	0	0	4.1
	(17) 視聴覚機器及び教育用機器の利用は、適切だった。	4	4	2	0	0	0	4.2
	(18) 教員の声は、聞き取りやすかった。	3	6	1	0	0	0	4.2
	(19) 授業の進む速さは、適切だった。	3	3	4	0	0	0	3.9
5 授業に対する満足度	(20) この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。	4	4	2	0	0	0	4.2



教員のコメント

本授業は、体育科専修・保健体育科専攻の専門科目として開講されている選択授業である。対象学部生10名のうち6名が選択履修し、専攻外学部生2名、大学院長期履修生2名を加えて計10名が受講した。アンケートの回答によると、授業の目的や価値を理解し、内容を概ねよく把握していると思われるものの、受講生の自発的な授業参加や自学自習に関する回答に若干不十分な点が認められた。また、授業の良かった点として回答のあったものは次のとおりである。

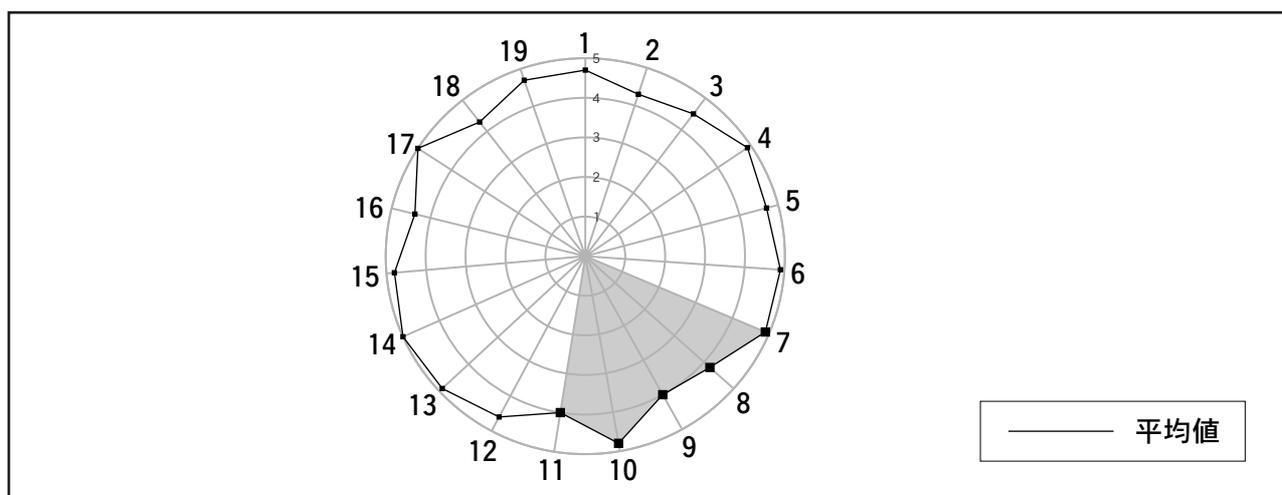
- 専門的な知識が身についた。
- 今までと違った視点からスポーツを見ることができた。
- 今まで知らなかったことを知ることができてよかった。
- 力学的にスポーツの動きについて研究できたこと。
- 過去の実験の様子などを見ることが参考になった。
- 卒論や修論の内容を紹介していたので、参考になると思った。
- 重心の計算が大変だったけど、楽しかった。

また、反省点としてはホワイトボードの板書が薄くて見難いことなどが指摘された。受講生の自発的な学習を促す対策を講じつつ、さらに内容を深めていきたい。

授業科目名 生理学 I・II
 評価実施日 平成20年2月21日
 担当教員名 田中 弘之

回答者数 15名

質問項目	評価選択人数						平均値 (科目別)	
	5	4	3	2	1	N.A		
1 授業概要について	(1) 目標・授業計画・内容は、明確に示されていた。	12	2	1	0	0	0	4.7
	(2) 成績評価の方法は、明確に示されていた。	6	7	2	0	0	0	4.3
2 授業の内容等について	(3) 授業内容は、授業概要に沿っていた。	9	5	1	0	0	0	4.5
	(4) 授業内容は、教養や専門性を高めるものだった。	14	1	0	0	0	0	4.9
	(5) 授業内容は、教育に対する見方や考え方を学べるものだった。	11	4	0	0	0	0	4.7
	(6) 授業内容は、興味・関心を引くものだった。	13	2	0	0	0	0	4.9
3 あなたの授業への取り組みについて	(7) 授業によく出席した。	13	2	0	0	0	0	4.9
	(8) 授業内容をよく理解するために予習や復習をした。	7	4	4	0	0	0	4.2
	(9) 授業中に積極的に発言や質問をした。	7	4	2	1	1	0	4.0
	(10) 教員の説明をよく聞いた。	12	3	0	0	0	0	4.8
4 教員の授業の進め方について	(11) 分からないことや疑問に思ったことは調べた。	5	5	5	0	0	0	4.0
	(12) 学生の理解状況を確かめながら授業を行った。	9	6	0	0	0	0	4.6
	(13) 学生が参加しやすい授業だった。	13	2	0	0	0	0	4.9
	(14) 熱心に指導した。	15	0	0	0	0	0	5.0
	(15) 授業内容を分かりやすく説明した。	12	3	0	0	0	0	4.8
	(16) 視聴覚機器及び教育用機器の利用は、適切だった。	10	2	2	1	0	0	4.4
	(17) 教員の声は、聞き取りやすかった。	15	0	0	0	0	0	5.0
	(18) 授業の進む速さは、適切だった。	6	7	2	0	0	0	4.3
5 授業に対する満足度	(19) この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。	11	4	0	0	0	0	4.7



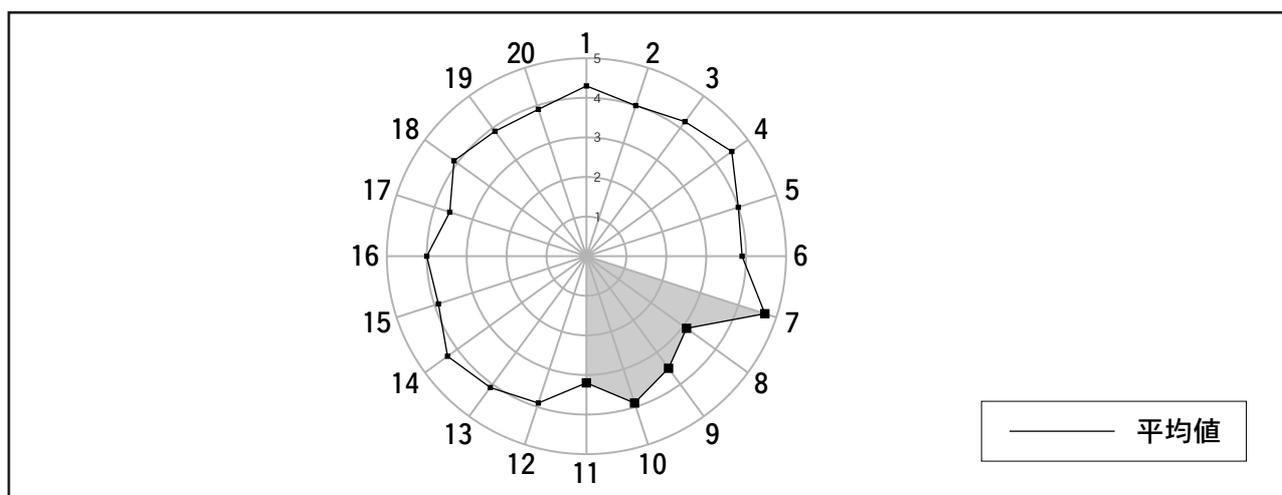
教員のコメント

全体の集計結果における平均値は、4.61であり、概ね良い評価が得られたものと推察される。
 学生による自由記述の概略では『専門的な知識を学ぶことができた』『分かりやすくとても有益だった』『丁寧に指導した』『学生に発言する機会をよく与えた』『今までの授業の中で一番おもしろかった』『自身の競技成績向上に有用な情報だった』『ふだんの生活で為になることが多かった』などを【よかったこと】と評価し、『スライド原稿が欲しい』『授業の進行が少し速い』『スライド原稿の文字の大きさと色を改善して欲しい』『難しい』などを【改善したほうがよいと思うこと】と評価していた。
 これらの意見を参考にして、さらなる授業内容の厳選等を今後の改善課題としたい。

授業科目名 学校保健Ⅱ
 評価実施日 平成20年2月14日
 担当教員名 吉本佐雅子

回答者数 14名

質問項目	評価選択人数						平均値 (科目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
1 授業概要について	(1) 目標・授業計画・内容は、明確に示されていた。	5	8	1	0	0	4.3
	(2) 成績評価の方法は、明確に示されていた。	3	8	3	0	0	4.0
2 授業の内容等について	(3) 授業内容は、授業概要に沿っていた。	4	9	1	0	0	4.2
	(4) 授業内容は、教養や専門性を高めるものだった。	7	7	0	0	0	4.5
	(5) 授業内容は、教育に対する見方や考え方を学べるものだった。	2	10	2	0	0	4.0
	(6) 授業内容は、興味・関心を引くものだった。	2	9	3	0	0	3.9
3 あなたの授業への取り組みについて	(7) 授業によく出席した。	10	4	0	0	0	4.7
	(8) 授業内容をよく理解するために予習や復習をした。	0	4	9	0	1	3.1
	(9) 授業中に積極的に発言や質問をした。	2	4	7	1	0	3.5
	(10) 教員の説明をよく聞いた。	1	10	3	0	0	3.9
	(11) 分からないことや疑問に思ったことは調べた。	0	6	6	1	1	3.2
4 教員の授業の進め方について	(12) 学生の理解状況を確かめながら授業を行った。	3	7	3	1	0	3.9
	(13) 学生が参加しやすい授業だった。	4	7	3	0	0	4.1
	(14) 熱心に指導した。	5	8	1	0	0	4.3
	(15) 授業内容を分かりやすく説明した。	3	6	5	0	0	3.9
	(16) 教科書や配布資料等の教材は、内容を理解する上で適切だった。	4	6	4	0	0	4.0
	(17) 視聴覚機器及び教育用機器の利用は、適切だった。	2	5	6	1	0	3.6
	(18) 教員の声は、聞き取りやすかった。	3	9	2	0	0	4.1
	(19) 授業の進む速さは、適切だった。	2	9	2	1	0	3.9
5 授業に対する満足度	(20) この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。	2	9	3	0	0	3.9



教員のコメント

今回の評価は全体として、昨年度と比べ、低い傾向があったが、「授業内容は教養や専門性を高めるものだった」に関しては高い評価が示された。また、授業の良かったこととして「保健に関する専門的な事が学べた」、「学校保健の現状がよく分かった」等の好評が見られたが、一方で「用語がむずかしかった」「学生参加型にして欲しかった」などの苦言もあった。本年度この授業では、保健の理論、体系的な理解に関する内容を意図的に例年より多くした。そのため、専門性を高める一方で、全体的な満足度は若干を低くなっていたものと考えられる。この授業形態を来年度も継続する予定であるが、全体的な満足度を高めるよう、また、学生が参加しやすい授業に改善して行くつもりである。

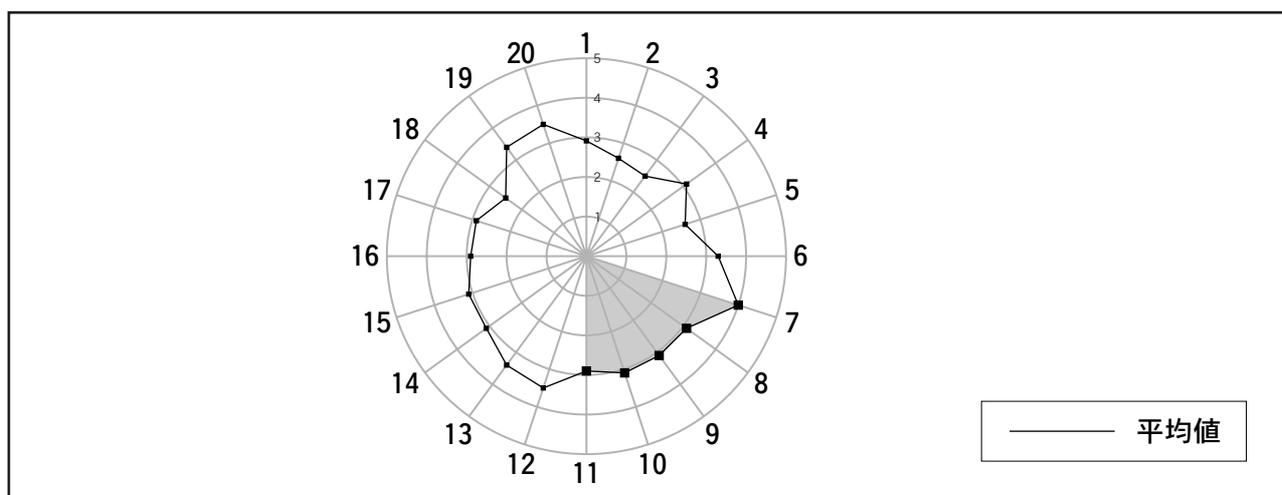
授業科目名 機械基礎（実習を含む。）

評価実施日 平成20年2月22日

担当教員名 宮下 晃一

回答者数 8名

質問項目	評価選択人数	評価選択人数						平均値 (科目別)
		5	4	3	2	1	N.A	
1 授業概要について	(1) 目標・授業計画・内容は、明確に示されていた。	0	3	2	2	1	0	2.9
	(2) 成績評価の方法は、明確に示されていた。	1	0	4	1	2	0	2.6
2 授業の内容等について	(3) 授業内容は、授業概要に沿っていた。	1	0	3	2	2	0	2.5
	(4) 授業内容は、教養や専門性を高めるものだった。	2	2	0	3	1	0	3.1
	(5) 授業内容は、教育に対する見方や考え方を学べるものだった。	0	3	1	2	2	0	2.6
	(6) 授業内容は、興味・関心を引くものだった。	1	2	3	2	0	0	3.3
3 あなたの授業への取り組みについて	(7) 授業によく出席した。	5	0	2	0	1	0	4.0
	(8) 授業内容をよく理解するために予習や復習をした。	1	3	2	0	2	0	3.1
	(9) 積極的に実験、実習、実技等に取り組んだ。	1	3	1	2	1	0	3.1
	(10) 教員の説明をよく聞いた。	1	4	0	1	2	0	3.1
	(11) 分からないことや疑問に思ったことは調べた。	0	3	2	2	1	0	2.9
4 教員の授業の進め方について	(12) 学生の理解状況を確かめながら授業を行った。	1	4	1	2	0	0	3.5
	(13) 熱心に指導した。	2	2	2	1	1	0	3.4
	(14) 授業内容を分かりやすく説明した。	1	2	3	1	1	0	3.1
	(15) 教科書や配布資料等の教材は、内容を理解する上で適切だった。	2	1	1	4	0	0	3.1
	(16) 設備、器材、用具等の利用は、適切だった。	1	3	0	2	2	0	2.9
	(17) 教員の声は、聞き取りやすかった。	0	1	5	2	0	0	2.9
	(18) 与えられた課題のレベルや分量は、適切だった。	0	2	2	2	2	0	2.5
	(19) 安全に対する指導と配慮は、適切だった。	1	3	2	2	0	0	3.4
5 授業に対する満足度	(20) この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。	1	4	1	2	0	0	3.5



教員のコメント

例年になく、評価が良くないので驚いている。

中でも一番平均値が低かった項目「授業内容は、授業概要に沿っていた。」について、その原因を考える。考えられる1点目は、講義の前半6回で計画してあった実習を、後半の5回に変更したことである。基本的事項を講義してから実習を行う方が効果的であると考えてのことであったが、講義よりもむしろ実習に興味を持つ学生には評判が良くなかったのかも知れない。2点目は講義の進行が遅れたために15週目に予定していたエンジンの内容を省略したことである。

これらを踏まえて、次にシラバスを書く際には実際の講義の進み方に合った内容へ修正を行いたい。

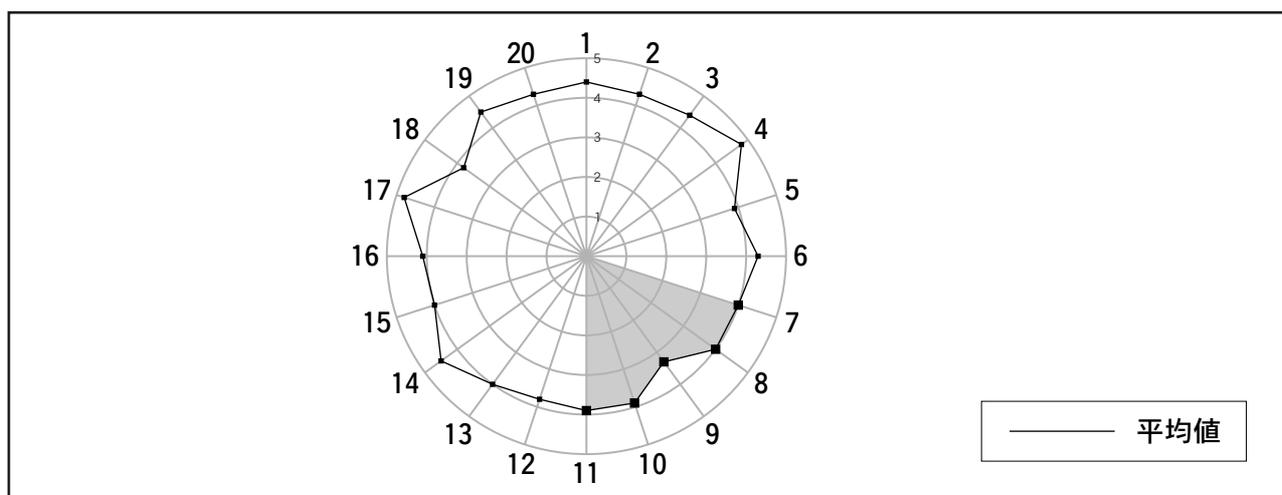
授業科目名 ソフトウェア演習 (実習を含む。)

評価実施日 平成20年2月29日

担当教員名 伊藤 陽介, 菊地 章

回答者数 8名

質問項目	評価選択人数	評価選択人数						平均値 (科目別)
		5	4	3	2	1	N.A	
1 授業概要について	(1) 目標・授業計画・内容は、明確に示されていた。	4	3	1	0	0	0	4.4
	(2) 成績評価の方法は、明確に示されていた。	3	4	1	0	0	0	4.3
2 授業の内容等について	(3) 授業内容は、授業概要に沿っていた。	3	5	0	0	0	0	4.4
	(4) 授業内容は、教養や専門性を高めるものだった。	6	2	0	0	0	0	4.8
	(5) 授業内容は、教育に対する見方や考え方を学べるものだった。	1	5	2	0	0	0	3.9
	(6) 授業内容は、興味・関心を引くものだった。	2	6	0	0	0	0	4.3
3 あなたの授業への取り組みについて	(7) 授業によく出席した。	2	4	2	0	0	0	4.0
	(8) 授業内容をよく理解するために予習や復習をした。	2	4	2	0	0	0	4.0
	(9) 授業中に積極的に発言や質問をした。	0	4	2	2	0	0	3.3
	(10) 積極的に課題に取り組んだ。	3	2	2	1	0	0	3.9
	(11) 分からないことや疑問に思ったことは調べた。	3	2	2	1	0	0	3.9
4 教員の授業の進め方について	(12) 学生の理解状況を確かめながら授業を行った。	1	4	3	0	0	0	3.8
	(13) 学生参加型の授業だった。	2	4	2	0	0	0	4.0
	(14) 熱心に指導した。	5	2	1	0	0	0	4.5
	(15) 授業内容を分かりやすく説明した。	2	4	2	0	0	0	4.0
	(16) 教科書や配布資料等の教材は、内容を理解する上で適切だった。	2	5	1	0	0	0	4.1
	(17) 視聴覚機器及び教育用機器の利用は、適切だった。	6	2	0	0	0	0	4.8
	(18) 授業の進む速さは、適切だった。	3	1	3	1	0	0	3.8
	(19) 学生の疑問や質問に適切に答えた。	5	2	1	0	0	0	4.5
5 授業に対する満足度	(20) この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。	3	4	1	0	0	0	4.3



教員のコメント

授業全般については、授業計画と成績評価方法を明示することで高い評価を得ている。「個別に課題を設定し、その課題に基づくソフトウェアを制作する」という本授業の取り組みにおいて、予備知識の異なる受講生に対してきめ細かく個別指導した結果、専門性を高める授業や熱心に指導を受けたこと、学生の疑問や質問への適切な回答などの点で評価が高くなっていると考えられる。一方、授業中の積極的な発言や質問の項目ではやや低い3.3という評価となっているが、予習や復習を行ったことについては、4.0となり、自主的な学習態度を誘発するような授業方法であったことがうかがえる。ソフトウェアを技術的な側面から取り扱う授業は専門性が高いため、やや授業の進度を速く感じる受講生もいたが、個別課題の実習時にフォローアップできたと推測される。

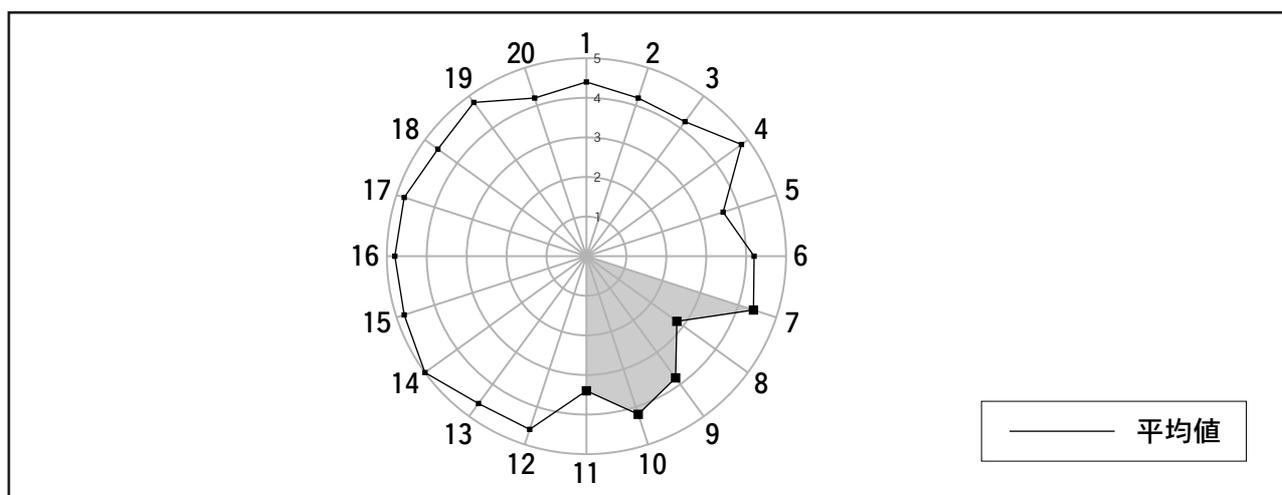
授業科目名 制御情報処理（実習を含む。）

評価実施日 平成20年2月22日

担当教員名 菊地 章

回答者数 5名

質問項目	評価選択人数						平均値 (科目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
1 授業概要について	(1) 目標・授業計画・内容は、明確に示されていた。	2	3	0	0	0	4.4
	(2) 成績評価の方法は、明確に示されていた。	2	2	1	0	0	4.2
2 授業の内容等について	(3) 授業内容は、授業概要に沿っていた。	2	2	1	0	0	4.2
	(4) 授業内容は、教養や専門性を高めるものだった。	4	1	0	0	0	4.8
	(5) 授業内容は、教育に対する見方や考え方を学べるものだった。	1	1	3	0	0	3.6
	(6) 授業内容は、興味・関心を引くものだった。	2	2	1	0	0	4.2
3 あなたの授業への取り組みについて	(7) 授業によく出席した。	3	1	1	0	0	4.4
	(8) 授業内容をよく理解するために予習や復習をした。	0	1	2	2	0	2.8
	(9) 授業中に積極的に発言や質問をした。	1	2	2	0	0	3.8
	(10) 積極的に課題に取り組んだ。	2	2	1	0	0	4.2
	(11) 分からないことや疑問に思ったことは調べた。	2	1	0	1	1	3.4
4 教員の授業の進め方について	(12) 学生の理解状況を確かめながら授業を行った。	3	2	0	0	0	4.6
	(13) 学生参加型の授業だった。	4	0	1	0	0	4.6
	(14) 熱心に指導した。	5	0	0	0	0	5.0
	(15) 授業内容を分かりやすく説明した。	4	1	0	0	0	4.8
	(16) 教科書や配布資料等の教材は、内容を理解する上で適切だった。	4	1	0	0	0	4.8
	(17) 視聴覚機器及び教育用機器の利用は、適切だった。	4	1	0	0	0	4.8
	(18) 授業の進む速さは、適切だった。	3	2	0	0	0	4.6
	(19) 学生の疑問や質問に適切に答えた。	4	1	0	0	0	4.8
5 授業に対する満足度	(20) この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。	1	4	0	0	0	4.2



教員のコメント

本授業は、高校情報免許科目であり、情報免許を希望する学生が主として受講する科目となっている。そのため、全体的に受講学生の意欲は高く、授業進行が楽な授業であった。また、授業担当者への評価は概ね良好であった。反面、予習・復習等の受講者自身の学習意欲が低かったのが残念である。本授業は講義内容と実習内容を連続して理解できるように配慮しており、講義内容が実習の中で理解できたことは学生にとって有意義であったようである。

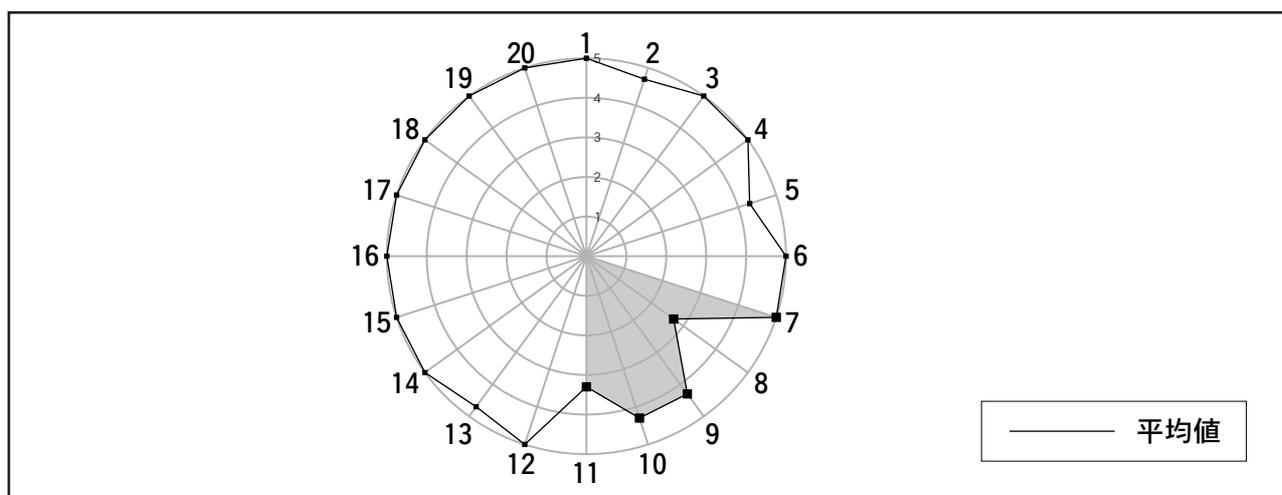
授業科目名 情報ネットワーク演習（実習を含む。）

評価実施日 平成20年2月18日

担当教員名 曾根 直人

回答者数 3名

質問項目	評価選択人数						平均値 (科目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
1 授業概要について	(1) 目標・授業計画・内容は、明確に示されていた。	3	0	0	0	0	5.0
	(2) 成績評価の方法は、明確に示されていた。	2	1	0	0	0	4.7
2 授業の内容等について	(3) 授業内容は、授業概要に沿っていた。	3	0	0	0	0	5.0
	(4) 授業内容は、教養や専門性を高めるものだった。	3	0	0	0	0	5.0
	(5) 授業内容は、教育に対する見方や考え方を学べるものだった。	1	2	0	0	0	4.3
	(6) 授業内容は、興味・関心を引くものだった。	3	0	0	0	0	5.0
3 あなたの授業への取り組みについて	(7) 授業によく出席した。	3	0	0	0	0	5.0
	(8) 授業内容をよく理解するために予習や復習をした。	0	0	2	1	0	2.7
	(9) 授業中に積極的に発言や質問をした。	1	2	0	0	0	4.3
	(10) 積極的に課題に取り組んだ。	2	0	1	0	0	4.3
	(11) 分からないことや疑問に思ったことは調べた。	1	0	1	1	0	3.3
4 教員の授業の進め方について	(12) 学生の理解状況を確認しながら授業を行った。	3	0	0	0	0	5.0
	(13) 学生参加型の授業だった。	2	1	0	0	0	4.7
	(14) 熱心に指導した。	3	0	0	0	0	5.0
	(15) 授業内容を分かりやすく説明した。	3	0	0	0	0	5.0
	(16) 教科書や配布資料等の教材は、内容を理解する上で適切だった。	3	0	0	0	0	5.0
	(17) 視聴覚機器及び教育用機器の利用は、適切だった。	3	0	0	0	0	5.0
	(18) 授業の進む速さは、適切だった。	3	0	0	0	0	5.0
	(19) 学生の疑問や質問に適切に答えた。	3	0	0	0	0	5.0
5 授業に対する満足度	(20) この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。	3	0	0	0	0	5.0



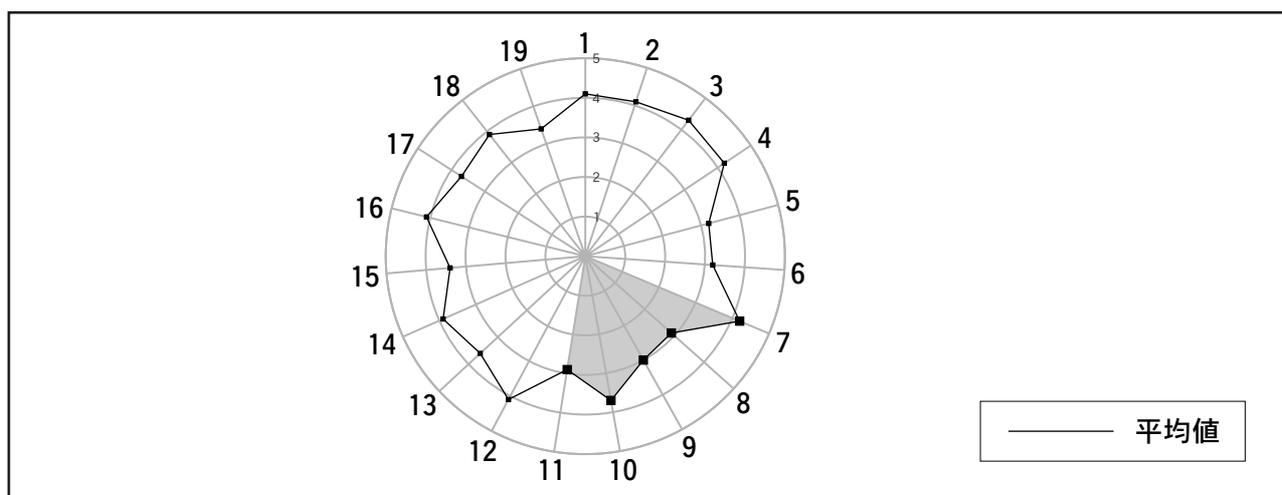
教員のコメント

回答数が少ないことを考慮する必要があるが、授業概要、授業の内容、授業の進め方については高い評価となった。本年度は受講者が少なかったこともあり、個々の受講者の理解度を演習問題などで確認し、理解が不足していると感じた項目に対しては再度説明を行うなどきめ細かい指導ができたためと考える。学生自身の授業の取り組みでは特に予習、復習の項目が低い評価となっていた。これは学生自身が他の授業で忙しく時間がとれないということもあると思うが、資料やテキストの指示、課題などを工夫することで改善できる可能性があると考え。また学生自身が自習学習できるような学習環境の整備も必要ではないかと思う。これらは今後の課題としてとらえ、学生自身が積極的に授業へ取り組める環境作りに努めたい。

授業科目名 消費者経済学
 評価実施日 平成20年1月31日
 担当教員名 渡邊 廣二

回答者数 9名

質 問 項 目		評価選択人数						平均値 (科目別)
		5	4	3	2	1	N.A	
1 授業概要について	(1) 目標・授業計画・内容は、明確に示されていた。	3	4	2	0	0	0	4.1
	(2) 成績評価の方法は、明確に示されていた。	3	4	2	0	0	0	4.1
2 授業の内容等について	(3) 授業内容は、授業概要に沿っていた。	5	2	2	0	0	0	4.3
	(4) 授業内容は、教養や専門性を高めるものだった。	4	4	0	1	0	0	4.2
	(5) 授業内容は、教育に対する見方や考え方を学べるものだった。	0	4	3	2	0	0	3.2
	(6) 授業内容は、興味・関心を引くものだった。	1	3	3	1	1	0	3.2
3 あなたの授業への取り組みについて	(7) 授業によく出席した。	5	2	1	1	0	0	4.2
	(8) 授業内容をよく理解するために予習や復習をした。	0	2	5	1	1	0	2.9
	(9) 授業中に積極的に発言や質問をした。	1	1	4	3	0	0	3.0
	(10) 教員の説明をよく聞いた。	0	6	3	0	0	0	3.7
	(11) 分からないことや疑問に思ったことは調べた。	1	1	4	2	1	0	2.9
4 教員の授業の進め方について	(12) 学生の理解状況を確かめながら授業を行った。	3	4	2	0	0	0	4.1
	(13) 学生が参加しやすい授業だった。	2	2	4	1	0	0	3.6
	(14) 熱心に指導した。	2	4	3	0	0	0	3.9
	(15) 授業内容を分かりやすく説明した。	0	5	3	1	0	0	3.4
	(16) 教科書や配布資料等の教材は、内容を理解する上で適切だった。	4	2	3	0	0	0	4.1
	(17) 教員の声は、聞き取りやすかった。	2	3	3	1	0	0	3.7
	(18) 授業の進む速さは、適切だった。	3	3	2	1	0	0	3.9
	(19) この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。	0	5	3	1	0	0	3.4



教員のコメント

消費者経済学の授業では、市場経済の特徴、販売方法や支払い方法、消費者問題や要注意商法、消費者信用、契約、家計と貯蓄など、現代の消費生活を理解し、中学校・高等学校において家庭科の授業を行う上で必要な内容を取り扱った。

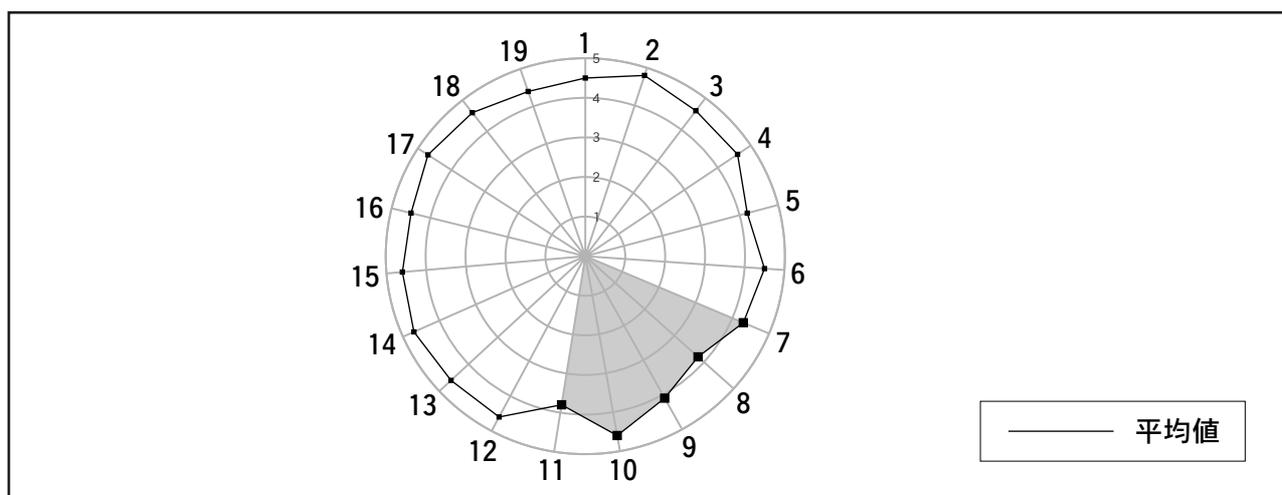
学生による授業評価においてとくに気になったことは、「授業内容をよく理解するために予習や復習をした」および「分からないことや疑問に思ったことは調べた」という質問項目に対する評価が低いことである。

この点については、教員の授業の進め方により対応する必要があると思う。すなわち、毎回の授業において、その授業のまとめを行い、それを通して、その授業の内容理解を確認するだけでなく、疑問をも明らかにする。そして、疑問については次の授業までの課題として調べてくるように指示する。予想される疑問はあらかじめ教員が用意しておいてもよいと思う。授業の進め方をこのように工夫すれば、学生の授業への取り組み方がより主体的になるのではないかと期待される。

授業科目名 衣生活学
 評価実施日 平成20年2月18日
 担当教員名 福井 典代

回答者数 10名

質問項目	評価選択人数						平均値 (科目別)	
	5	4	3	2	1	N.A		
1 授業概要について	(1) 目標・授業計画・内容は、明確に示されていた。	5	5	0	0	0	0	4.5
	(2) 成績評価の方法は、明確に示されていた。	8	2	0	0	0	0	4.8
2 授業の内容等について	(3) 授業内容は、授業概要に沿っていた。	7	2	1	0	0	0	4.6
	(4) 授業内容は、教養や専門性を高めるものだった。	6	4	0	0	0	0	4.6
	(5) 授業内容は、教育に対する見方や考え方を学べるものだった。	4	4	2	0	0	0	4.2
	(6) 授業内容は、興味・関心を引くものだった。	5	5	0	0	0	0	4.5
3 あなたの授業への取り組みについて	(7) 授業によく出席した。	6	2	1	1	0	0	4.3
	(8) 授業内容をよく理解するために予習や復習をした。	2	5	2	1	0	0	3.8
	(9) 授業中に積極的に発言や質問をした。	3	5	2	0	0	0	4.1
	(10) 教員の説明をよく聞いた。	7	2	1	0	0	0	4.6
	(11) 分からないことや疑問に思ったことは調べた。	1	7	1	1	0	0	3.8
4 教員の授業の進め方について	(12) 学生の理解状況を確認しながら授業を行った。	7	2	1	0	0	0	4.6
	(13) 学生が参加しやすい授業だった。	7	2	1	0	0	0	4.6
	(14) 熱心に指導した。	8	1	1	0	0	0	4.7
	(15) 授業内容を分かりやすく説明した。	7	2	1	0	0	0	4.6
	(16) 教科書や配布資料等の教材は、内容を理解する上で適切だった。	6	3	1	0	0	0	4.5
	(17) 教員の声は、聞き取りやすかった。	7	3	0	0	0	0	4.7
	(18) 授業の進む速さは、適切だった。	7	2	1	0	0	0	4.6
	(19) この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。	5	4	1	0	0	0	4.4



教員のコメント

「衣生活学」は講義を中心とした授業形態であるが、内容を理解するために講義内容に関連した実験を実施している。また、課題を与えて授業中に個人で発表する機会があることを授業の最初に説明している。

その結果、受け身になりやすい講義の中で積極的に授業に取り組んでいる様子が、授業評価の結果から得られた（授業中に積極的に発言や質問をした＝4.1）。しかし、「授業内容をよく理解するために予習や復習をした」と「分からないことや疑問に思ったことは調べた」では、3.8の評定平均値となり、授業前後の自主的な学習が深まっているとは言い難い。授業に関連した課題を宿題として与えるなど、授業内容をさらに工夫する必要性を感じた。

自由記述では、「専門的な知識が増やせた」、「日常生活にも役立つ」2名、「私たちにあったペースで興味のあることができた」、「実験があって楽しかった」2名、「学生が参加しやすく、かといってだらけてしまうこともない緊張感や安定感があったので充実した一時間だった」、「学生の意見をよく聞いてくれた」、「知識を学び、さらに演習ができた」という肯定的な意見であった。実験を取り入れることによって、授業内容についての興味や関心が深まっていると感じた。

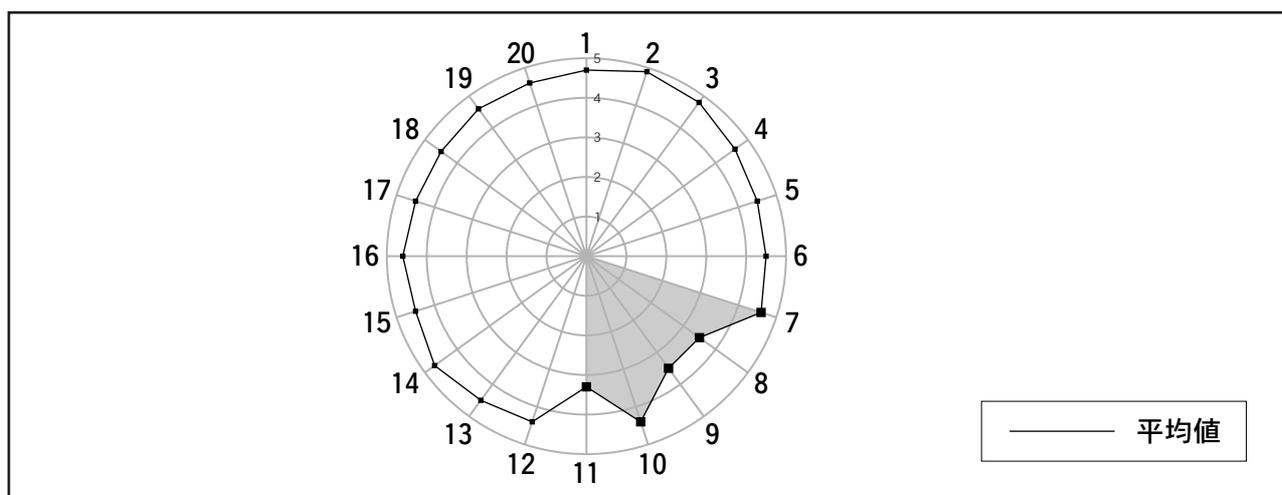
授業科目名 住居学概論（製図を含む。）

評価実施日 平成20年2月14日

担当教員名 金 貞均

回答者数 11名

質問項目	評価選択人数	評価選択人数						平均値 (科目別)
		5	4	3	2	1	N.A	
1 授業概要について	(1) 目標・授業計画・内容は、明確に示されていた。	8	3	0	0	0	0	4.7
	(2) 成績評価の方法は、明確に示されていた。	10	1	0	0	0	0	4.9
2 授業の内容等について	(3) 授業内容は、授業概要に沿っていた。	9	2	0	0	0	0	4.8
	(4) 授業内容は、教養や専門性を高めるものだった。	7	4	0	0	0	0	4.6
	(5) 授業内容は、教育に対する見方や考え方を学べるものだった。	5	6	0	0	0	0	4.5
	(6) 授業内容は、興味・関心を引くものだった。	6	4	1	0	0	0	4.5
3 あなたの授業への取り組みについて	(7) 授業によく出席した。	7	4	0	0	0	0	4.6
	(8) 授業内容をよく理解するために予習や復習をした。	2	3	5	1	0	0	3.5
	(9) 授業中に積極的に発言や質問をした。	2	4	4	0	1	0	3.5
	(10) 教員の説明をよく聞いた。	5	5	1	0	0	0	4.4
	(11) 分からないことや疑問に思ったことは調べた。	0	5	5	0	1	0	3.3
4 教員の授業の進め方について	(12) 学生の理解状況を確かめながら授業を行った。	5	5	1	0	0	0	4.4
	(13) 学生が参加しやすい授業だった。	7	3	1	0	0	0	4.5
	(14) 熱心に指導した。	8	3	0	0	0	0	4.7
	(15) 授業内容を分かりやすく説明した。	5	6	0	0	0	0	4.5
	(16) 配布資料等の教材は、内容を理解する上で適切だった。	7	4	0	0	0	0	4.6
	(17) 視聴覚機器及び教育用機器の利用は、適切だった。	5	6	0	0	0	0	4.5
	(18) 教員の声は、聞き取りやすかった。	7	3	1	0	0	0	4.5
	(19) 授業の進む速さは、適切だった。	7	4	0	0	0	0	4.6
5 授業に対する満足度	(20) この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。	8	2	1	0	0	0	4.6



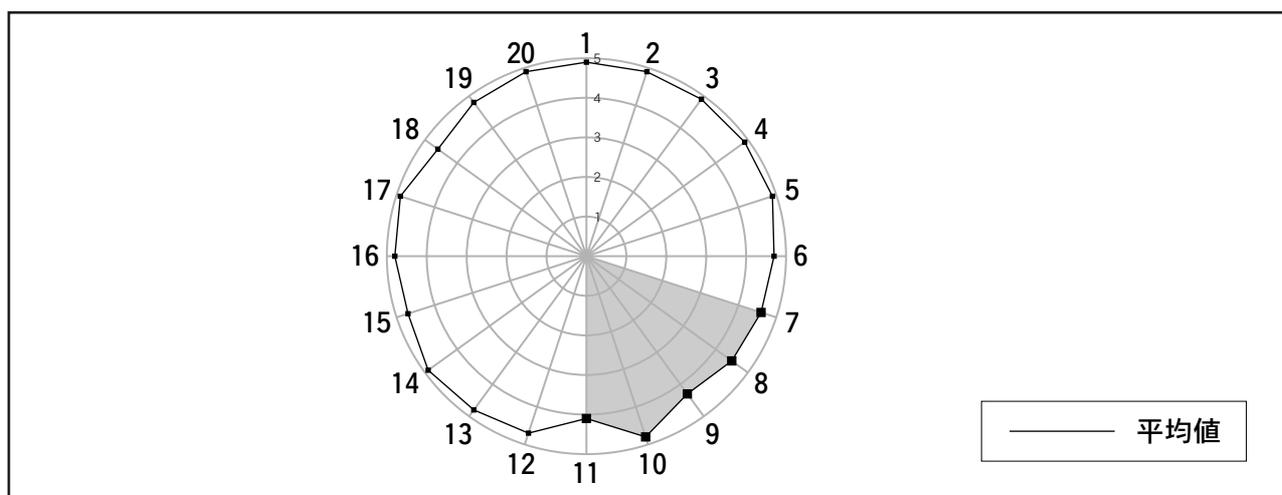
教員のコメント

問21「この授業でよかったこと」についての自由記述欄に、「シラバスの学習計画に沿って、系統的に授業が展開された。課題等は考えながら取り組まなければならないものが多く、勉強になった。」「実践を通じた授業内容や課題が多く取り入れていたので、積極的に取り組むことができた。」「専門知識や子どもへの住教育に関することの両方が学べたこと。」「自らの地域や住宅に目を向けて調査に取り組むことができたことがよかった。専門性を高める授業だった。」「専門的知識を学ぶことができてよかった。」「調べた内容を発表し、互いに交流し合えたので有意義だった。」「今まで当りまえだと思っていたことも考えるべきところがあり、たくさん気付かされた。住居分野は苦手だったけれど面白いし、教育の意義がよく分かった。」「ただ課題を出すのではなく、その課題を全員の前で発表させることでプレゼンテーション能力も高めようとしていたのがよかった。」「他の地域のことを知ることができた。」「住居の問題点や課題が学べたこと。住まいの歴史などから考え、現在の住まいとの違いも考えられた。」「住居のことを広く知れてよかった。レポートや調べもの、制作が多く、興味を引くものが多かった。」といった意見が書かれ、概ね本授業の到達目標に達したと評価できる。問22「本授業の改善点」に関する意見はなかった。学生の授業への取り組みに関する自己評価（問8, 9, 11）は高いとはいえないが、各課題に概ね熱心に取り組んだことは評価したい。学生がより積極的に参加できる授業を一層目指して行きたい。

授業科目名 障害児教育概説Ⅱ
 評価実施日 平成20年2月7日
 担当教員名 大谷 博俊

回答者数 19名

質問項目	評価選択人数						平均値 (科目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
1 授業概要について	(1) 目標・授業計画・内容は、明確に示されていた。	17	2	0	0	0	4.9
	(2) 成績評価の方法は、明確に示されていた。	18	1	0	0	0	4.9
2 授業の内容等について	(3) 授業内容は、授業概要に沿っていた。	17	2	0	0	0	4.9
	(4) 授業内容は、教養や専門性を高めるものだった。	18	1	0	0	0	4.9
	(5) 授業内容は、教育に対する見方や考え方を学べるものだった。	18	1	0	0	0	4.9
	(6) 授業内容は、興味・関心を引くものだった。	12	6	0	0	0	4.7
3 あなたの授業への取り組みについて	(7) 授業によく出席した。	13	5	1	0	0	4.6
	(8) 授業内容をよく理解するために予習や復習をした。	12	6	0	0	1	4.5
	(9) 授業中に積極的に発言や質問をした。	9	7	3	0	0	4.3
	(10) 積極的に課題に取り組んだ。	15	4	0	0	0	4.8
	(11) 分からないことや疑問に思ったことは調べた。	5	11	3	0	0	4.1
4 教員の授業の進め方について	(12) 学生の理解状況を確かめながら授業を行った。	13	6	0	0	0	4.7
	(13) 学生参加型の授業だった。	16	3	0	0	0	4.8
	(14) 熱心に指導した。	17	2	0	0	0	4.9
	(15) 授業内容を分かりやすく説明した。	14	5	0	0	0	4.7
	(16) 教科書や配布資料等の教材は、内容を理解する上で適切だった。	15	4	0	0	0	4.8
	(17) 視聴覚機器及び教育用機器の利用は、適切だった。	17	2	0	0	0	4.9
	(18) 授業の進む速さは、適切だった。	13	4	2	0	0	4.6
	(19) 学生の疑問や質問に適切に答えた。	16	2	1	0	0	4.8
5 授業に対する満足度	(20) この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。	17	2	0	0	0	4.9



教員のコメント

受講生は授業内容等について、授業概要に沿っており、障害児教育の考え方、専門性を身につけるために役立ったと評価しており、障害のある子どもの「理解」を中心とした本講義の内容構成は適切であったと考える。

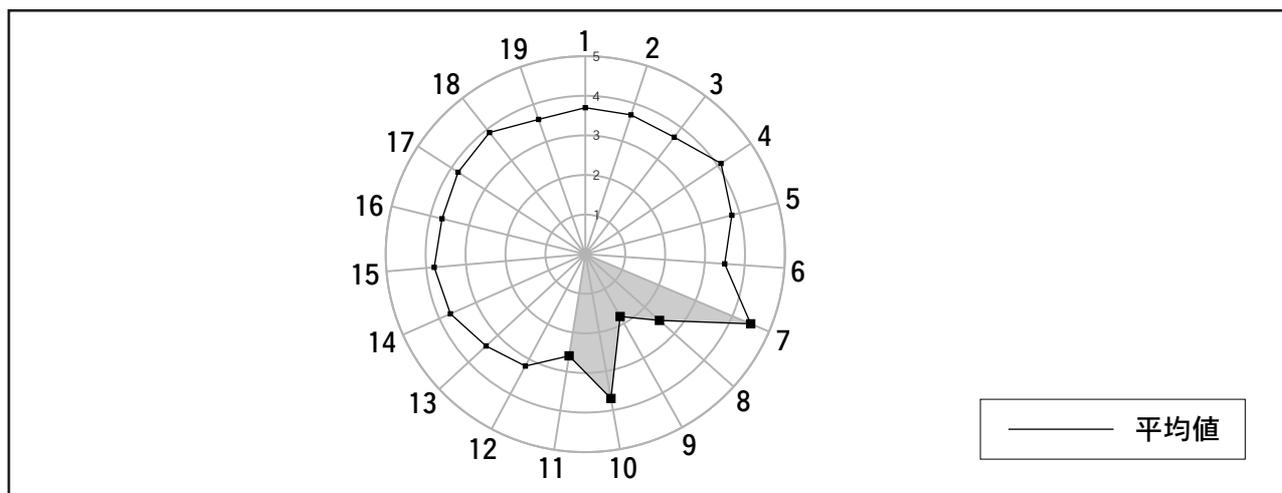
授業の進め方については、学生の授業への参加を促し、理解状況の確認、説明なども適宜行われたと受講生は評価しており、教員の教授行動は適切であったと考える。

また配付した資料、視聴覚機器等の教育用機器の使用の適切性についても評価が高かった。今後も十分な準備を行い、よりよい授業を提供していきたい。

授業科目名 障害児心理学Ⅱ
 評価実施日 平成20年2月15日
 担当教員名 島田 恭仁

回答者数 23名

質問項目	評価選択人数						平均値 (科目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
1 授業概要について	(1) 目標・授業計画・内容は、明確に示されていた。	2	12	9	0	0	3.7
	(2) 成績評価の方法は、明確に示されていた。	4	8	10	1	0	3.7
2 授業の内容等について	(3) 授業内容は、授業概要に沿っていた。	7	6	7	3	0	3.7
	(4) 授業内容は、教養や専門性を高めるものだった。	7	13	2	1	0	4.1
	(5) 授業内容は、教育に対する見方や考え方を学べるものだった。	5	12	2	4	0	3.8
	(6) 授業内容は、興味・関心を引くものだった。	3	10	6	4	0	3.5
3 あなたの授業への取り組みについて	(7) 授業によく出席した。	14	7	1	1	0	4.5
	(8) 授業内容をよく理解するために予習や復習をした。	0	3	9	7	4	2.5
	(9) 授業中に積極的に発言や質問をした。	0	1	5	6	11	1.8
	(10) 教員の説明をよく聞いた。	4	10	7	2	0	3.7
	(11) 分からないことや疑問に思ったことは調べた。	0	6	7	5	5	2.6
4 教員の授業の進め方について	(12) 学生の理解状況を確かめながら授業を行った。	2	8	7	5	1	3.2
	(13) 学生が参加しやすい授業だった。	3	11	4	3	2	3.4
	(14) 熱心に指導した。	5	11	3	4	0	3.7
	(15) 授業内容を分かりやすく説明した。	7	9	4	2	1	3.8
	(16) 教科書や配布資料等の教材は、内容を理解する上で適切だった。	8	6	5	3	1	3.7
	(17) 教員の声は、聞き取りやすかった。	6	10	4	2	1	3.8
	(18) 授業の進む速さは、適切だった。	10	5	5	1	2	3.9
	(19) この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。	4	8	8	3	0	3.6



教員のコメント

今年度の障害児心理学Ⅱの授業では、知能の発達と構造についてアセスメントする方法を詳述した上で、知的障害の背景に存する記憶の障害について、様々な研究例を紹介した。さらに関係処理を促す精緻化方略のトレーニングの可能性について論及した。

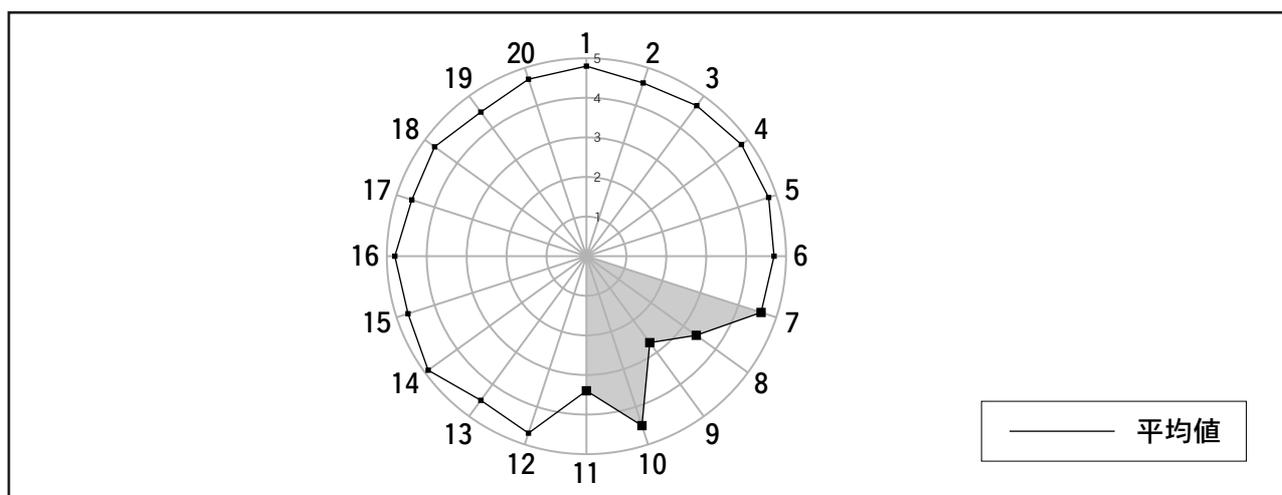
授業評価アンケートの結果、問4「授業内容は教養や専門性を高めるものだった」、問7「授業によく出席した」で評定値が全般に高く、問18「授業の進む速さは適切だった」では5の評定を行った学生が多かった。従って、授業を通じて障害児心理学に関する教養と専門的な知識を浸透させることに、成功したと思われる。

一方、問8「授業をよく理解するために予習や復習をした」、問9「授業中に積極的に発言や質問をした」、問11「分からないことや疑問に思ったことは調べた」では評定値が全般に低かったことより、学生は受身的な姿勢であったことが示唆された。授業中に知的障害児の記憶に関する具体的な研究例を紹介したが、心理学の研究方法が十分に理解できないまま、聞いていたためだと思われる。研究方法に関する簡単な実習を含める等の改善を加え、自発的に学習に取り組む姿勢を涵養したい。

授業科目名 障害児教育課程論
 評価実施日 平成20年2月14日
 担当教員名 八幡ゆかり

回答者数 45名

質問項目	評価選択人数						平均値 (科目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
1 授業概要について	(1) 目標・授業計画・内容は、明確に示されていた。	35	10	0	0	0	4.8
	(2) 成績評価の方法は、明確に示されていた。	33	9	2	1	0	4.6
2 授業の内容等について	(3) 授業内容は、授業概要に沿っていた。	32	13	0	0	0	4.7
	(4) 授業内容は、教養や専門性を高めるものだった。	38	7	0	0	0	4.8
	(5) 授業内容は、教育に対する見方や考え方を学べるものだった。	37	8	0	0	0	4.8
	(6) 授業内容は、興味・関心を引くものだった。	34	10	1	0	0	4.7
3 あなたの授業への取り組みについて	(7) 授業によく出席した。	33	9	2	1	0	4.6
	(8) 授業内容をよく理解するために予習や復習をした。	8	15	12	6	4	3.4
	(9) 授業中に積極的に発言や質問をした。	4	4	20	9	8	2.7
	(10) 教員の説明をよく聞いた。	27	15	2	0	1	4.5
	(11) 分からないことや疑問に思ったことは調べた。	10	15	11	3	6	3.4
4 教員の授業の進め方について	(12) 学生の理解状況を確かめながら授業を行った。	32	12	1	0	0	4.7
	(13) 学生が参加しやすい授業だった。	25	17	3	0	0	4.5
	(14) 熱心に指導した。	40	5	0	0	0	4.9
	(15) 授業内容を分かりやすく説明した。	33	10	2	0	0	4.7
	(16) 教科書や配布資料等の教材は、内容を理解する上で適切だった。	35	9	1	0	0	4.8
	(17) 視聴覚機器及び教育用機器の利用は、適切だった。	29	13	2	1	0	4.6
	(18) 教員の声は、聞き取りやすかった。	34	10	0	1	0	4.7
	(19) 授業の進む速さは、適切だった。	29	12	2	2	0	4.5
5 授業に対する満足度	(20) この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。	33	10	2	0	0	4.7



教員のコメント

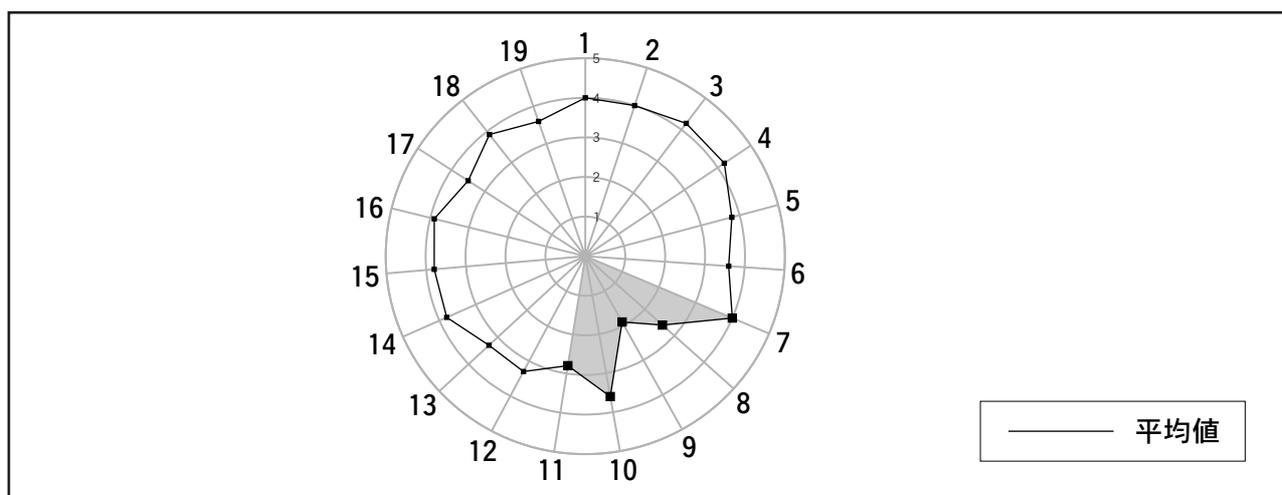
全体の評価を見ると、教員に対する評価は、5の評価が最も多く占めていた。そのうち、高い評価を得たのは、設問14「熱心に指導した」で平均値4.9であった。また、授業の内容については、設問4「教養や専門性を高めるものであった」、設問5「教育に対する見方や考え方を学べるものだった」がいずれも平均値4.8と高かった。これらの設問は、本授業の目的と合致していた。そして、学生の授業に対する満足度は、平均値4.7と高かった。したがって、本授業の進め方は、概ね、適切であったと言える。

学生自身の本授業への取り組みについて見ると、設問9「授業中に積極的に発言や質問をした」は、全項目中、最も低い平均値の2.7であった。一方、設問10「教員の説明をよく聞いた」は、平均値4.5と高かった。これらのことから、真面目な受講態度ではあるが、積極性に欠けているという課題が見えた。この点について、より一層の工夫をする必要があると考えられた。

授業科目名 障害児指導法 I
 評価実施日 平成20年 2 月15日
 担当教員名 島田 恭仁

回答者数 38名

質問項目	評価選択人数						平均値 (科目別)	
	5	4	3	2	1	N.A		
1 授業概要について	(1) 目標・授業計画・内容は、明確に示されていた。	10	19	7	2	0	0	4.0
	(2) 成績評価の方法は、明確に示されていた。	10	19	7	2	0	0	4.0
2 授業の内容等について	(3) 授業内容は、授業概要に沿っていた。	14	16	8	0	0	0	4.2
	(4) 授業内容は、教養や専門性を高めるものだった。	18	8	11	0	0	1	4.2
	(5) 授業内容は、教育に対する見方や考え方を学べるものだった。	10	14	11	3	0	0	3.8
	(6) 授業内容は、興味・関心を引くものだった。	8	11	15	3	1	0	3.6
3 あなたの授業への取り組みについて	(7) 授業によく出席した。	16	13	5	2	2	0	4.0
	(8) 授業内容をよく理解するために予習や復習をした。	0	5	20	6	7	0	2.6
	(9) 授業中に積極的に発言や質問をした。	0	1	12	9	16	0	1.9
	(10) 教員の説明をよく聞いた。	7	15	10	5	1	0	3.6
	(11) 分からないことや疑問に思ったことは調べた。	2	9	14	5	8	0	2.8
4 教員の授業の進め方について	(12) 学生の理解状況を確かめながら授業を行った。	7	9	16	2	4	0	3.3
	(13) 学生が参加しやすい授業だった。	5	11	14	6	2	0	3.3
	(14) 熱心に指導した。	9	15	11	2	1	0	3.8
	(15) 授業内容を分かりやすく説明した。	10	14	10	3	1	0	3.8
	(16) 教科書や配布資料等の教材は、内容を理解する上で適切だった。	10	18	7	2	1	0	3.9
	(17) 教員の声は、聞き取りやすかった。	5	17	10	5	1	0	3.5
	(18) 授業の進む速さは、適切だった。	11	16	9	1	1	0	3.9
	(19) この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。	6	16	10	5	0	1	3.6



教員のコメント

今年度の障害児指導法 I の授業では、A AMR の障害理解モデルの紹介をした上で、知的障害児の知能と適応行動を査定する方法を詳述した。さらに、ソーシャルストーリーの指導について、原因帰属、リハーサル、精緻化の理論に基づいて論じ、また、言葉と読み書きの指導について、適性処遇交互作用、継次処理、同時処理のモデルに依拠して論及し、認知心理学的観点の重要性を強調した。

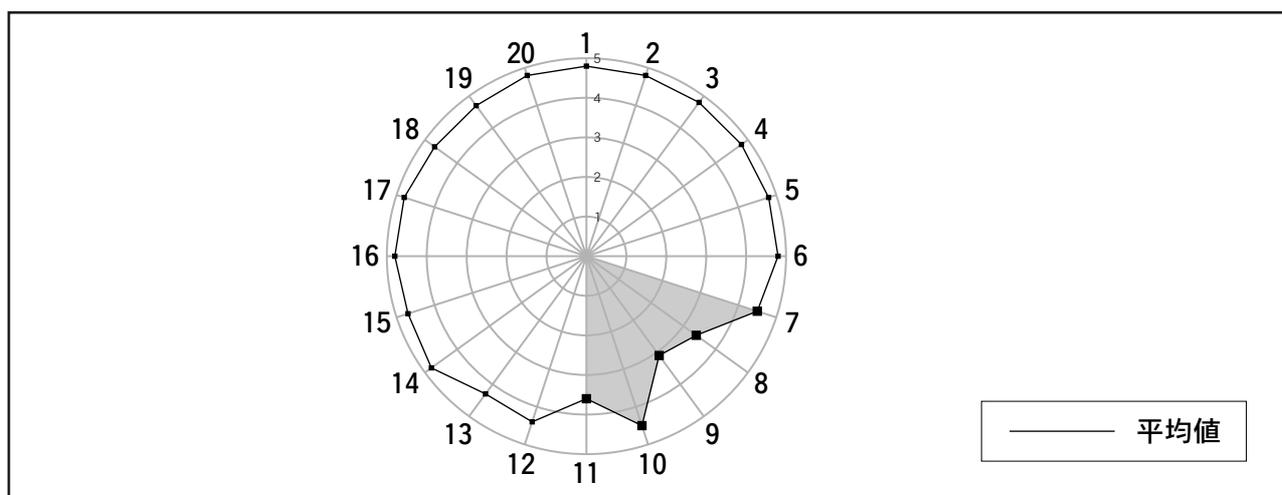
授業評価アンケートでは、問 4 「授業内容は教養や専門性を高めるものだった」において評定値が高かったことから、認知的な理論と指導法との関連について、知識の習得を促すことができたと思われる。また、授業概要に関する項目（問 1・問 2）と、問 3 「授業内容は授業概要に沿っていた」、問 7 「授業によく出席した」でも評定値が高かったことから、授業内容についての理解を深めることはできたと言える。

一方、問 8 「授業内容をよく理解するために予習や復習をした」、問 9 「授業中に積極的に発言や質問をした」、問 11 「分からないことや疑問に思ったことは調べた」では評定値が低かったため、自発的な学習意欲の喚起は十分でなかった。授業中に紹介した方法に基づいて、学生自身が教材と指導法を考案する等の機会をもたせたい。

授業科目名 障害児教育概説 I
 評価実施日 平成20年 2 月14日
 担当教員名 八幡ゆかり

回答者数 24名

質問項目	評価選択人数	評価選択人数						平均値 (科目別)
		5	4	3	2	1	N.A	
1 授業概要について	(1) 目標・授業計画・内容は、明確に示されていた。	19	5	0	0	0	0	4.8
	(2) 成績評価の方法は、明確に示されていた。	19	5	0	0	0	0	4.8
2 授業の内容等について	(3) 授業内容は、授業概要に沿っていた。	18	6	0	0	0	0	4.8
	(4) 授業内容は、教養や専門性を高めるものだった。	20	4	0	0	0	0	4.8
	(5) 授業内容は、教育に対する見方や考え方を学べるものだった。	19	5	0	0	0	0	4.8
	(6) 授業内容は、興味・関心を引くものだった。	18	6	0	0	0	0	4.8
3 あなたの授業への取り組みについて	(7) 授業によく出席した。	14	8	2	0	0	0	4.5
	(8) 授業内容をよく理解するために予習や復習をした。	0	12	9	3	0	0	3.4
	(9) 授業中に積極的に発言や質問をした。	1	9	9	2	3	0	3.1
	(10) 教員の説明をよく聞いた。	13	8	2	0	0	1	4.5
	(11) 分からないことや疑問に思ったことは調べた。	4	9	8	3	0	0	3.6
4 教員の授業の進め方について	(12) 学生の理解状況を確かめながら授業を行った。	12	10	2	0	0	0	4.4
	(13) 学生が参加しやすい授業だった。	12	8	4	0	0	0	4.3
	(14) 熱心に指導した。	20	4	0	0	0	0	4.8
	(15) 授業内容を分かりやすく説明した。	17	7	0	0	0	0	4.7
	(16) 教科書や配布資料等の教材は、内容を理解する上で適切だった。	19	5	0	0	0	0	4.8
	(17) 視聴覚機器及び教育用機器の利用は、適切だった。	19	5	0	0	0	0	4.8
	(18) 教員の声は、聞き取りやすかった。	17	7	0	0	0	0	4.7
	(19) 授業の進む速さは、適切だった。	16	8	0	0	0	0	4.7
5 授業に対する満足度	(20) この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。	19	5	0	0	0	0	4.8



教員のコメント

全体の評価を見ると、教員に対する評価は、5の評価が最も多く占めていた。そのうち、授業内容について、設問4「教養や専門性を高める」、設問5「教育に対する見方や考え方を学べる」、が平均値4.8と高い評価であった。これらの設問は、授業者が意図していた目的と合致していた。そして、学生の授業に対する満足度は、平均値4.8と高かった。したがって、本授業は学生にとって概ね、適切であったと言える。

学生自身の本授業への取り組みについて見ると、設問9「授業中に積極的に発言や質問をした」は、全項目中、最も低い平均値3.1であった。この点について、より一層、学生の発言を促す工夫をする必要があると考えられた。

あ と が き

本学では、平成12(2000)年度より「学生による授業評価」が全学規模で実施されている。その後、授業評価の結果を受けて、授業改善の努力が続けられている。「はしがき」で、田中委員長が述べているように、教育実践コア科目と専修専門科目の平均が4点以上になったのは、各教員の授業改善の努力の成果であるといえる。しかし、教養基礎科目、教職科目では平均4点をわずかに下回っている。教養基礎科目は、平成17年度に学部における新カリキュラムが導入されたとき、特に講義形態の授業で内容が一新された。教養基礎科目は、新カリの履修規定では「現代社会の諸問題」「身体運動・表現コミュニケーション」の二つの領域から構成され、旧カリ26科目から新カリ12科目と半数以下になり、多くの科目で複数教員が担当している。そのために、アンケートの実施が難しくなっていると思われる。アンケート実施数は11科目と少ないので、アンケート結果が偏っている可能性があり、単純に平均だけで判断するのは難しいかもしれない。しかし、新カリにおける「現代社会の諸問題」は、学生が現代社会の諸問題を認識し、個々の問題を自分の問題として考え、解決していこうとするという、積極的に社会に働きかけていく人材の育成を目的としている。そのために、様々な研究領域から複数の教員が担当して、より広い情報が取得できるようになっている。今後、教養基礎科目の担当教員がその教育理念を理解し、授業評価を実施し、授業改善していくように働きかけが必要であろう。教職科目については、アンケート実施数が52科目であるので、アンケート結果を厳粛に受けとめて、今後、さらなる授業改善を行う必要があると思われる。

本年度より、各授業科目におけるアンケート結果をレーダーグラフで表示するように改め、「学生の授業への取り組み」を教員の授業の進め方等と区別して見られるようにした。同時に、レーダーグラフの特徴より、各授業について、不十分であると感じられる項目が一見して判断できるようになった。これらの結果から、演習、実験などの科目では授業準備等、学生の自主的、主体的な授業への取り組みが見られるのに対して、講義科目においては、授業に出て、講義を受けるだけという、極めて消極的な授業態度になっていることが明らかになった。今後、講義科目において、教員が「自発的に学習する姿勢」を促す努力を行うとともに、学生もまた、積極的に学ぶ意思を持って授業に臨んでいただくかどうか内省し、今後の授業態度を改める機会にして欲しい。

最後に、本報告書の作成にご尽力、ご協力いただいた学部教務委員会、学生による授業評価専門部会、学部授業担当教員および学生諸君、関係の事務職員の方々に心より感謝の意を表したい。

平成20年10月

平成19年度学校教育学部教務委員会
学生による授業評価専門部会主査

青 葉 暢 子

鳴門教育大学学校教育学部教務委員会 委員名簿

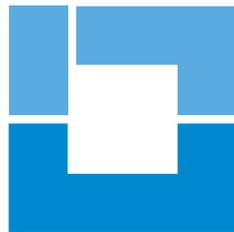
(平成19年度)

委員長	田中雄三	理事
副委員長	菊地章	第5部(教授)
委員	橋川喜美代	第1部(教授)
"	皆川直凡	第1部(准教授)(学生による授業評価専門部会委員)
"	近森憲助	第2部(教授)
"	夫明美	第2部(講師)
"	松岡隆	第3部(教授)(学生による授業評価専門部会委員)
"	栗田高明	第3部(准教授)
"	松島正矩	第4部(教授)
"	森正	第4部(准教授)(学生による授業評価専門部会委員)
"	金貞均	第5部(准教授)(学生による授業評価専門部会委員)
"	西村宏	地域連携センター所長
"	清水茂	地域連携センター(准教授)
"	井上とも子	学長指名(准教授)
"	青葉暢子	学長指名(准教授)(学生による授業評価専門部会主査)
"	茂木俊伸	学長指名(講師)
"	綿引勝美	学長指名(准教授)

平成19年度 学生による授業評価実施報告書

平成20年10月発行

編集 鳴門教育大学学校教育学部教務委員会
発行 鳴門教育大学
〒772-8502 鳴門市鳴門町高島字中島748
電話 088-687-6093
FAX 088-687-6107



国立大学法人
鳴門教育大学

〒772-8502 鳴門市鳴門町高島字中島748番地
<http://www.naruto-u.ac.jp/>